

玉名市文化財調査報告 第 36 集

塚原遺跡 I

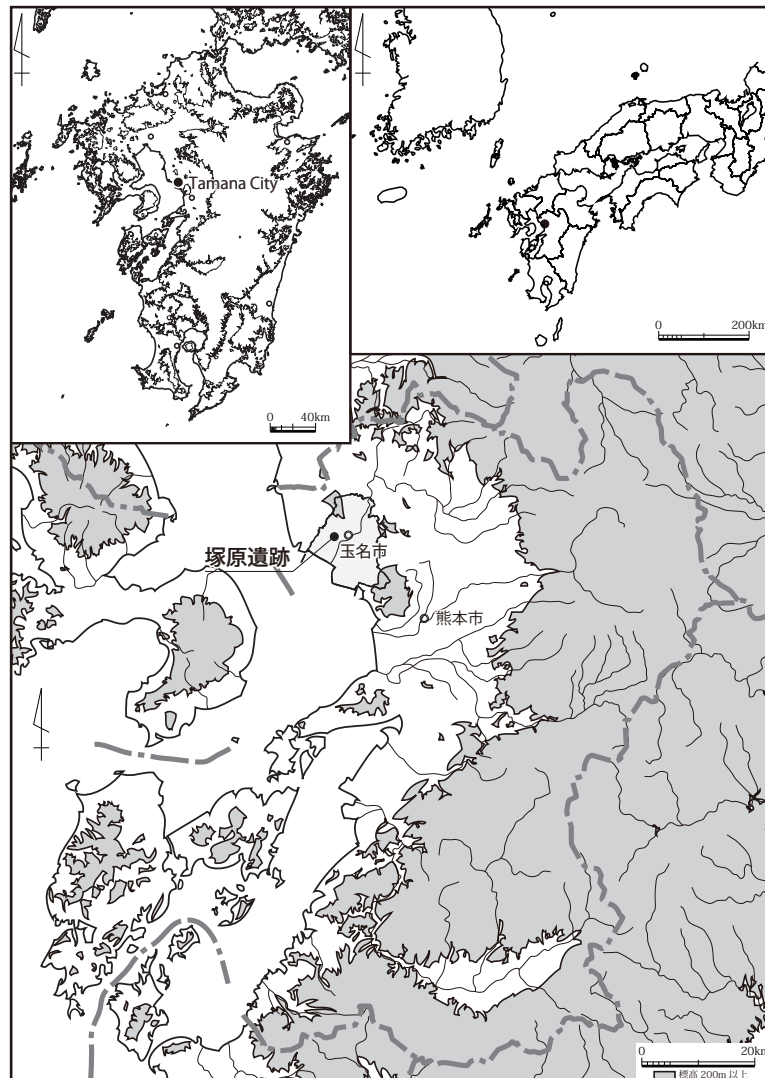
市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成 29 年（2017）3 月

玉名市教育委員会

塚原遺跡 I

市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書



平成29年(2017)3月

玉名市教育委員会



塚原遺跡調査 1 区全景



塚原遺跡遠景（北から）

巻頭図版 2



調査区北側



調査区南側



S141 遺物出土状況（南東から）



S192 遺物出土状況（東から）



S176 土製品・鉄器

卷頭図版 4



S191 土製品・石器・鉄器



S197 石器・鉄器



S225 石器・鉄器



S360 勾玉・ガラス玉



S121 石室 (西から)



S121 副葬品

巻頭図版6



S167 石室（南東から）



S167 副葬品



S252 石室 (南から)



S308 石室 1 (西から)



308 石室 2 (西から)

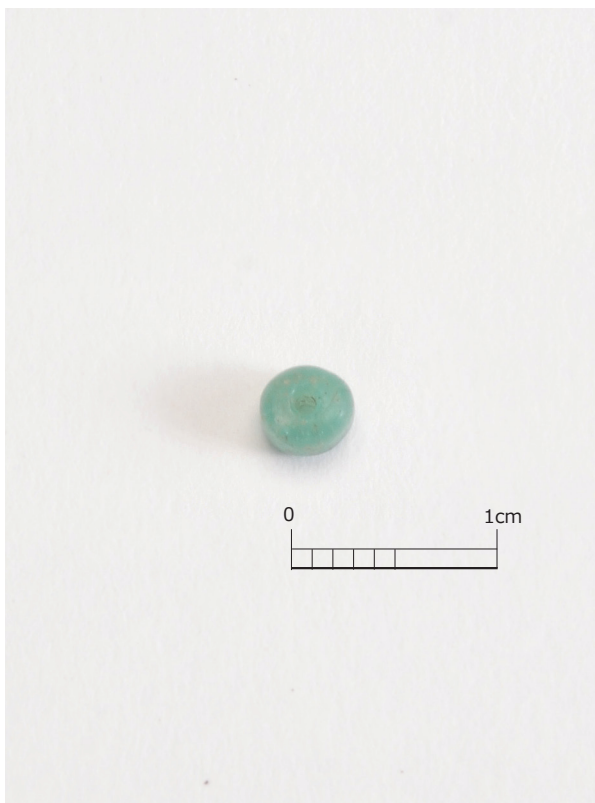
卷頭図版 8



S168 周溝土器



S168 周溝鉄器



S168 周溝ガラス玉

序文

玉名市は、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線の開業後、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を続けています。

このような中、玉名市教育委員会では、さまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行に努めております。公共及び民間のさまざまな事業に対応するため、常に玉名市内に所在する文化財の状況把握に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、市道岱明玉名線道路改良工事に先立ち、玉名市教育委員会が平成 22 年度及び平成 23 年度に実施した、塚原遺跡の発掘調査報告書です。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月 27 日

玉名市教育委員会
教育長 池田 誠一

例言

1. 本書は、市道岱明玉名線道路改良事業に先立ち、平成 22 年度及び平成 23 年度に玉名市岱明町野口字塚原にて実施した塚原遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 調査は、平成 22 年 6 月 1 日から平成 23 年 12 月 28 日（一部中断期間あり）にかけて実施し、田中康雄、末永 崇、蜷父雅史が担当した。
3. 調査に伴う基準点・水準点の測量は、有限会社古家測量設計、株式会社有明測量開発社玉名支社に委託した。
4. 調査に伴う遺構の実測は、現場作業員の協力のもと田中、末永、蜷父、古閑敬士、大倉千寿が行い、一部を株式会社イビソク九州支店に委託した。
5. 現地での写真撮影は、田中、末永、蜷父、古閑、大倉が行った。
6. 調査地の空中写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託した。
7. 遺物の整理及び報告書作成作業は、平成 24 年度から平成 28 年度にかけて実施した。
8. 遺物の実測は、古閑が行い、一部を株式会社有明測量開発社玉名支社、国際文化財株式会社熊本営業所、株式会社九州文化財研究所、株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
9. 遺構図の製図は、江見恵留が行った。
10. 遺物実測図の製図は、江見が行い、一部を国際文化財株式会社熊本営業所、株式会社九州文化財研究所、株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
11. 遺物の写真撮影は、田中、末永が行った。
12. 挿図に使用している座標値は、世界測地系の第 2 座標系に基づいており、方位は座標北を示す。
13. 土層及び遺物の色調は、「新版標準土色帖」（日本色研事業株式会社発行）に基づいている。
14. 本書の執筆・編集は、田中、古閑、江見が行った。
15. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯と組織	1
(1) 調査経緯	1
(2) 調査組織	1
第2節 地理的環境・歴史的環境	3
(1) 地理的環境	3
(2) 歴史的環境	3

第Ⅱ章 調査方法

第1節 調査区の設定	7
第2節 調査の方法	7

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査概要	8	
第2節 層序	8	
第3節 縄文時代の遺物	9	
第4節 弥生時代の遺構・遺物		
(1) 弥生時代中期	12	
1. 大型建物	2. 竪穴住居・竪穴遺構	3. 土坑
4. 溝・溝状遺構	5. 甕棺墓・石蓋土坑墓	
(2) 弥生時代後期	39	
1. 竪穴住居・竪穴遺構	2. 土坑	3. 溝
第5節 古墳時代の遺構・遺物		
(1) 古墳時代前期	200	
1. 竪穴住居	2. 土坑	
(2) 古墳時代中期	255	
第6節 その他の遺構・遺物		
(1) 中世期	276	
1. 土坑	2. 溝	3. 掘立柱建物
(2) 時期不明の遺構	295	
1. 土坑	2. 溝	

第Ⅳ章 自然科学分析

玉名市塚原遺跡出土の弥生人	299
---------------	-----

第Ⅴ章 まとめ	324
---------	-----

插图目次

第1図	玉名市全図 S=1/100,000……………	4	第39図	S87 実測図・出土遺物実測図……………	53
第2図	塚原遺跡周辺遺跡分布図 1/25,000…	6	第40図	S103 実測図・出土遺物実測図 ……	54
第3図	塚原遺跡調査区位置図 S=1/2,500…	7	第41図	S105 実測図 ……	55
第4図	基本土層図……………	9	第42図	S105 出土遺物実測図 ……	56
第5図	縄文時代の出土遺物 1 ……	10	第43図	S152 実測図 ……	57
第6図	縄文時代の出土遺物 2 ……	11	第44図	S152 出土遺物実測図 ……	58
第7図	弥生時代遺構配置図 S=1/700(折込み) ……………	13,14	第45図	S153 実測図・出土遺物実測図 ……	59
第8図	S111 実測図 1 (折込み)……………	15,16	第46図	S201 実測図・出土遺物実測図 ……	61
第9図	S111 実測図 2 ……	17,18	第47図	S368 実測図・出土遺物実測図 ……	62
第10図	S111 出土遺物実測図 1 ……	19	第48図	S369 実測図・出土遺物実測図 ……	63
第11図	S111 出土遺物実測図 2 ……	20	第49図	S13 実測図・出土遺物実測図……………	64
第12図	S111 出土遺物実測図 3 ……	21	第50図	S15 実測図・出土遺物実測図……………	64
第13図	S172 実測図 1 (折込み)……………	23,24	第51図	S16 実測図・出土遺物実測図……………	65
第14図	S172 実測図 2 (折込み)……………	25,26	第52図	S19 実測図・出土遺物実測図……………	66
第15図	S172 出土遺物実測図 1 ……	27	第53図	S23 実測図・出土遺物実測図……………	66
第16図	S172 出土遺物実測図 2 ……	28	第54図	S30 実測図・出土遺物実測図……………	67
第17図	S172 出土遺物実測図 3 ……	29	第55図	S31 実測図・出土遺物実測図……………	67
第18図	S202 実測図 1 (折込み)……………	31,32	第56図	S35 実測図・出土遺物実測図……………	67
第19図	S202 実測図 2 ……	33	第57図	S36 実測図・出土遺物実測図……………	69
第20図	S202 出土遺物実測図 1 ……	34	第58図	S37 実測図・出土遺物実測図……………	70
第21図	S202 出土遺物実測図 2 ……	35	第59図	S38 実測図・出土遺物実測図 1 ……	71
第22図	S202 出土遺物実測図 3 ……	36	第60図	S38 出土遺物実測図 2 ……	72
第23図	S202 出土遺物実測図 4 ……	37	第61図	S39 実測図・出土遺物実測図……………	73
第24図	S245 実測図・出土遺物実測図 ……	38	第62図	S40 実測図・出土遺物実測図……………	74
第25図	S17 実測図……………	39	第63図	S41 実測図・出土遺物実測図……………	75
第26図	S17 出土遺物実測図……………	40	第64図	S43 実測図・出土遺物実測図……………	76
第27図	S104 実測図 1・出土遺物実測図 ……	41	第65図	S45 実測図・出土遺物実測図……………	77
第28図	S104 実測図 2 ……	42	第66図	S47 実測図・出土遺物実測図……………	77
第29図	S130 実測図 1 ……	43	第67図	S48 実測図・出土遺物実測図……………	78
第30図	S130 実測図 2・出土遺物実測図 1 ……	44	第68図	S49 実測図・出土遺物実測図……………	79
第31図	S130 出土遺物実測図 2 ……	45	第69図	S52 実測図・出土遺物実測図……………	80
第32図	S147 実測図 1 ……	46	第70図	S55 実測図・出土遺物実測図……………	81
第33図	S147 実測図 2 ……	47	第71図	S57 実測図・出土遺物実測図……………	82
第34図	S147 出土遺物実測図 1 ……	48	第72図	S61 実測図・出土遺物実測図……………	83
第35図	S147 出土遺物実測図 2 ……	49	第73図	S62 実測図・出土遺物実測図……………	84
第36図	S171 実測図 ……	50	第74図	S64 実測図・出土遺物実測図……………	85
第37図	S171 出土遺物実測図 ……	51	第75図	S78 実測図・出土遺物実測図……………	86
第38図	S82 実測図・出土遺物実測図……………	52	第76図	S81 実測図・出土遺物実測図……………	87
			第77図	S83 実測図・出土遺物実測図……………	88

第 78 図	S84 実測図・出土遺物実測図……………	88	第 120 図	S249 実測図・出土遺物実測図 ……	121
第 79 図	S86 実測図・出土遺物実測図……………	89	第 121 図	S250 実測図 ……	122
第 80 図	S88 実測図・出土遺物実測図……………	90	第 122 図	S250 出土遺物実測図 ……	123
第 81 図	S89 実測図・出土遺物実測図……………	91	第 123 図	S254 実測図・出土遺物実測図 ……	124
第 82 図	S90 実測図・出土遺物実測図……………	92	第 124 図	S255 実測図・出土遺物実測図 ……	125
第 83 図	S91 実測図・出土遺物実測図……………	93	第 125 図	S256 実測図・出土遺物実測図 ……	125
第 84 図	S92 実測図・出土遺物実測図……………	93	第 126 図	S257 実測図 ……	126
第 85 図	S95 実測図・出土遺物実測図……………	94	第 127 図	S259 実測図 ……	127
第 86 図	S97 実測図……………	94	第 128 図	S260 実測図・出土遺物実測図 ……	127
第 87 図	S97 出土遺物実測図……………	95	第 129 図	S261 実測図 ……	128
第 88 図	S99 実測図・出土遺物実測図……………	95	第 130 図	S262 実測図・出土遺物実測図 ……	129
第 89 図	S100 実測図・出土遺物実測図 1 ……	96	第 131 図	S263 実測図 ……	130
第 90 図	S100 出土遺物実測図 2 ……	97	第 132 図	S265～267 実測図・出土遺物実測図 ……	131
第 91 図	S101 実測図・出土遺物実測図 ……	98	第 133 図	S272 実測図・出土遺物実測図 ……	131
第 92 図	S106 実測図・出土遺物実測図 ……	99	第 134 図	S273 実測図・出土遺物実測図 ……	131
第 93 図	S109 実測図 ……	100	第 135 図	S274 実測図・出土遺物実測図 ……	132
第 94 図	S109 出土遺物実測図 ……	101	第 136 図	S275 実測図・出土遺物実測図 ……	133
第 95 図	S110 実測図 ……	102	第 137 図	S288 実測図・出土遺物実測図 ……	134
第 96 図	S110 出土遺物実測図 ……	103	第 138 図	S293 実測図・出土遺物実測図 ……	135
第 97 図	S112 実測図・出土遺物実測図 ……	104	第 139 図	S294 実測図・出土遺物実測図 ……	135
第 98 図	S113 実測図・出土遺物実測図 ……	105	第 140 図	S297 実測図・出土遺物実測図 ……	136
第 99 図	S115 実測図・出土遺物実測図 ……	106	第 141 図	S299 実測図・出土遺物実測図 ……	137
第 100 図	S116 実測図・出土遺物実測図 ……	107	第 142 図	S303 実測図・出土遺物実測図 ……	137
第 101 図	S117 実測図・出土遺物実測図 ……	108	第 143 図	S304 実測図・出土遺物実測図 ……	137
第 102 図	S118 実測図・出土遺物実測図 ……	109	第 144 図	S309 実測図 ……	138
第 103 図	S126 実測図 ……	110	第 145 図	S311 実測図・出土遺物実測図 ……	138
第 104 図	S131 実測図 ……	110	第 146 図	S313 実測図・出土遺物実測図 ……	138
第 105 図	S132 実測図 ……	111	第 147 図	S362 実測図・出土遺物実測図 ……	140
第 106 図	S133 実測図 ……	111	第 148 図	S315 実測図 ……	141
第 107 図	S170 実測図・出土遺物実測図 ……	112	第 149 図	S80 実測図 1 ……	142
第 108 図	S179 実測図・出土遺物実測図 ……	113	第 150 図	S80 実測図 2 ……	143
第 109 図	S186 実測図・出土遺物実測図 ……	113	第 151 図	S80 出土遺物実測図 1 ……	144
第 110 図	S195 実測図・出土遺物実測図 ……	114	第 152 図	S80 出土遺物実測図 2 ……	145
第 111 図	S203 実測図・出土遺物実測図 ……	115	第 153 図	S251 実測図 ……	146
第 112 図	S204 実測図・出土遺物実測図 ……	116	第 154 図	S316 実測図 ……	147
第 113 図	S218 実測図 ……	117	第 155 図	S251・316 出土遺物実測図 ……	148
第 114 図	S218 出土遺物実測図 1 ……	118	第 156 図	S317 実測図 ……	149
第 115 図	S218 出土遺物実測図 2 ……	119	第 157 図	S317 出土遺物実測図 ……	150
第 116 図	S220 実測図・出土遺物実測図 ……	119	第 158 図	S320 実測図 ……	151
第 117 図	S241 実測図・出土遺物実測図 ……	120	第 159 図	S344～347・353・354 実測図 ……	152
第 118 図	S242 実測図 ……	120	第 160 図	S347 実測図	
第 119 図	S246 実測図・出土遺物実測図 ……	121		・S345～347 出土遺物実測図 ……	153

第 161 図	S349 実測図・出土遺物実測図	155	第 203 図	S94 実測図・出土遺物実測図	193
第 162 図	S351 実測図	156	第 204 図	S219 実測図・出土遺物実測図	194
第 163 図	S351 出土遺物実測図	157	第 205 図	S358 実測図・出土遺物実測図	195
第 164 図	S363 実測図	158	第 206 図	S136 実測図	197
第 165 図	S363 出土遺物実測図	159	第 207 図	S136 出土遺物実測図	198
第 166 図	S364 実測図・出土遺物実測図	160	第 208 図	S148 実測図	199
第 167 図	S365 実測図・出土遺物実測図	160	第 209 図	古墳時代遺構配置図(折込み)	201,202
第 168 図	S366 実測図・出土遺物実測図	161	第 210 図	S166 実測図・出土遺物実測図 1	203
第 169 図	S370 実測図	161	第 211 図	S166 出土遺物実測図 2	204
第 170 図	S371・出土遺物実測図	162	第 212 図	S166 出土遺物実測図 3	205
第 171 図	S372 実測図	163	第 213 図	S166 実測図・出土遺物実測図 4	206
第 172 図	S372 出土遺物実測図	164	第 214 図	S166 出土遺物実測図 5	207
第 173 図	S373 実測図	165	第 215 図	S169 実測図	208
第 174 図	S373 出土遺物実測図	166	第 216 図	S169 出土遺物実測図 1	209
第 175 図	S374 実測図・出土遺物実測図	167	第 217 図	S169 出土遺物実測図 2	210
第 176 図	S367 実測図	167	第 218 図	S169 出土遺物実測図 3	211
第 177 図	S42 実測図	168	第 219 図	S174 実測図・出土遺物実測図 1	212
第 178 図	S42 出土遺物実測図	169	第 220 図	S174 出土遺物実測図 2	213
第 179 図	S46 実測図・出土遺物実測図	170	第 221 図	S176 実測図	214
第 180 図	S66 実測図	171	第 222 図	S176 出土遺物実測図 1	215
第 181 図	S66 出土遺物実測図	172	第 223 図	S176 出土遺物実測図 2	216
第 182 図	S107 実測図	173	第 224 図	S177 実測図 1	217
第 183 図	S107 出土遺物実測図	174	第 225 図	S177 実測図 2・出土遺物実測図	218
第 184 図	S134 実測図	175	第 226 図	S185 実測図・出土遺物実測図 1	219
第 185 図	S134 出土遺物実測図 1	176	第 227 図	S185 出土遺物実測図 2	220
第 186 図	S134 出土遺物実測図 2	177	第 228 図	S189 実測図	221
第 187 図	S140 実測図	178	第 229 図	S189 出土遺物実測図	222
第 188 図	S140 出土遺物実測図 1	179	第 230 図	S191 実測図	223
第 189 図	S140 出土遺物実測図 2	180	第 231 図	S191 出土遺物実測図 1	224
第 190 図	S194 実測図・出土遺物実測	182	第 232 図	S191 出土遺物実測図 2	225
第 191 図	S221 実測図・出土遺物実測図	183	第 233 図	S191 出土遺物実測図 3	226
第 192 図	S141 実測図	184	第 234 図	SS191 出土遺物実測図 4	227
第 193 図	S141 出土遺物実測図 1	185	第 235 図	S191 出土遺物実測図 5	228
第 194 図	S141 出土遺物実測図 2	186	第 236 図	S192 実測図	229
第 195 図	S141 出土遺物実測図 3	187	第 237 図	S192 出土遺物実測図 1	230
第 196 図	S141 出土遺物実測図 4	188	第 238 図	S192 出土遺物実測図 2	231
第 197 図	S141 出土遺物実測図 5	189	第 239 図	S192 出土遺物実測図 3	232
第 198 図	S300 実測図・出土遺物実測図	190	第 240 図	S192 出土遺物実測図 4	233
第 199 図	S361 実測図・出土遺物実測図	191	第 241 図	S192 出土遺物実測図 5	234
第 200 図	S34 実測図・出土遺物実測図	192	第 242 図	S197 実測図	236
第 201 図	S58 実測図・出土遺物実測図	192	第 243 図	S197 実測図・出土遺物実測図 1	237
第 202 図	S76 実測図・出土遺物実測図	193	第 244 図	S197 出土遺物実測図 2	238

第 245 図 S225 実測図 ……………239	第 276 図 S252 実測図 1 ……………271
第 246 図 S225 出土遺物実測図 1 ……………240	第 277 図 S252 実測図 2 ……………272
第 247 図 S225 出土遺物実測図 2 ……………241	第 278 図 S308 実測図 1・出土遺物実測図 ……273
第 248 図 S247 実測図・出土遺物実測図 1 ……242	第 279 図 S308 実測図 2 ……………274
第 249 図 S247 出土遺物実測図 2 ……………243	第 280 図 S308 実測図 3 ……………275
第 250 図 S291 実測図・出土遺物実測図 ……244	第 281 図 S1 実測図・出土遺物実測図 ……276
第 251 図 S360 実測図・出土遺物実測図 ……245	第 282 図 中世期・その他遺構配置図 S=1/700 (折込み) ……………277,278
第 252 図 S178 実測図・出土遺物実測図 ……246	第 283 図 S175 実測図・出土遺物実測図 ……279
第 253 図 S180 実測図・出土遺物実測図 ……247	第 284 図 S276 実測図・出土遺物実測図 ……279
第 254 図 S226 実測図・出土遺物実測図 ……248	第 285 図 S4・S5 実測図 ……………280
第 255 図 S227 実測図・出土遺物実測図 ……248	第 286 図 S4・S5 実測図・出土遺物実測図 ……281
第 256 図 S228 実測図・出土遺物実測図 ……249	第 287 図 S4 出土遺物実測図 2 ……………282
第 257 図 S243 実測図・出土遺物実測図 ……250	第 288 図 S79 実測図 1 ……………284
第 258 図 S248 実測図・出土遺物実測図 ……251	第 289 図 S79 実測図 2 ……………285
第 259 図 S253 実測図・出土遺物実測図 ……252	第 290 図 S79 出土遺物実測図 1 ……………286
第 260 図 S258 実測図・出土遺物実測図 ……253	第 291 図 S79 出土遺物実測図 2 ……………287
第 261 図 S264 実測図・出土遺物実測図 ……253	第 292 図 S79 出土遺物実測図 3 ……………288
第 262 図 S352 実測図・出土遺物実測図 ……254	第 293 図 S138 実測図・出土遺物実測図 ……289
第 263 図 S355 実測図・出土遺物実測図 ……254	第 294 図 S145 実測図・出土遺物実測図 ……290
第 264 図 S121 実測図 1・出土遺物実測図 1 ……256	第 295 図 S146 実測図 ……………292
第 265 図 S121 実測図 2 (折込み) ……257,258	第 296 図 S146 出土遺物実測図 ……………293
第 266 図 S121 出土遺物実測図 2 ……………259	第 297 図 S350 実測図・出土遺物実測図 ……294
第 267 図 S121 出土遺物実測図 3 ……………260	第 298 図 S120 実測図 ……………295
第 268 図 S121 出土遺物実測図 4 ……………261	第 299 図 S12 実測図 ……………296
第 269 図 S167 実測図 1 ……………263	第 300 図 S51 実測図 ……………296
第 270 図 S167 実測図 2 ……………264	第 301 図 S208 実測図 ……………296
第 271 図 S167 実測図 3 ……………265	第 302 図 S217 実測図 ……………296
第 272 図 S167 出土遺物実測図 1 ……………266	第 303 図 S375 実測図 ……………296
第 273 図 S168 実測図 ……………267	第 304 図 S165 実測図・出土遺物実測 ……297
第 274 図 S168 出土遺物実測図 ……………268	
第 275 図 S244 実測図 ……………270	

表目次

第 1 表 周辺遺跡一覧…………… 6	第 4 表 出土遺物観察表 〔鉄器・鉄製品〕……………374
第 2 表 出土遺物観察表 〔土器・土製品〕…………… 328～369	第 5 表 出土遺物観察表 〔玉類〕…………… 374～378
第 3 表 出土遺物観察表 〔石器・石製品〕…………… 370～373	

図版目次

巻頭図版 1	塚原遺跡調査 1 区全景 塚原遺跡遠景（北から）	S61（北東から） S106（北東から）
巻頭図版 2	調査区北側 調査区南側	S195（南東から） S218（東から）
巻頭図版 3	S141 遺物出土状況（南東から） S192 遺物出土状況（東から） S176 土製品・石器・鉄器	S250（西から） S262（西から）
巻頭図版 4	S191 土製品・石器・鉄器 S197 石器・鉄器 S225 石器・鉄器 S360 勾玉・ガラス玉	図版 8 S80（南から） S80（北から） S80 内部（北から）
巻頭図版 5	S121 石室（西から） S121 副葬品	図版 9 S251（北東から） S316（南から） S317（北から）
巻頭図版 6	S167 石室（南東から） S167 副葬品	図版 10 S320（北から） S344～347・353・354（北から） S347（北から）
巻頭図版 7	S252 石室（南から） S308 石室 1（西から） 308 石室 2（西から）	S317（奥）・370（手前）（南西から） 図版 11 S351（北から） S351 人骨（北から）
巻頭図版 8	S168 周溝土器 S168 周溝鉄器 S168 周溝ガラス玉	図版 12 S363（手前）・364（奥）検出（南から） S363 人骨（南から） 図版 13 S365（奥）・366（手前）検出（東から） S371（奥は S372）（北から） S372（北から）
図版 1	S111（北東から） S172（南東から）	図版 14 S373（手前）、S372（奥）（南から） S373 人骨（西から）
図版 2	S202（北から） S245（西から）	図版 15 S374（北東から） S367 検出（奥は S351）（南から） S367 完掘（奥は S351）（南から）
図版 3	S17（西から） S130（北東から） S147（北東から）	図版 16 S42（南東から） S66（西から） S107（北から）
図版 4	S171（北東から） S82（西から） S87（東から）	図版 17 S134（東から） S140（東から） S194（南から）
図版 5	S103（東から） S105（西から） S152（北西から）	図版 18 S136（南東から） S166・177・291（北から） S169（南から）
図版 6	S153（西から） S201（西から） S368（北西から）	図版 19 S174（北東から） S176（南東から） S177（西から）
図版 7	S16（北東から） S40（西から）	

図版 20	S185 (北東から) S191 (南東から) S192 (南東から)	S369 遺物 S78 遺物 S195 遺物
図版 21	S197 (南から) S225 (北西から) S247 (東から)	図版 39 S80 遺物 1 (下層) S80 遺物 2 (上中層)
図版 22	S121 (南から) S167 (北から)	図版 40 S80 遺物 3 (上中層) S42 遺物
図版 23	S168 全景 (南西から) S168 周溝内遺物 (北から)	図版 41 S46 遺物 1 S46 遺物 2
図版 24	S244 全景 (北東から) S252 (北西から)	S66 遺物 1 S66 遺物 2
図版 25	S308 (西から) S1 (東から)	図版 42 S107 遺物 1 S107 遺物 2
図版 26	S79 北側 (北から) S79 中央部 (南から)	図版 43 S134 遺物 1 S134 遺物 2
図版 27	S79 南側 (北から) S79 獣骨 (南から) S165 (北から)	図版 44 S134 遺物 3 S140 遺物 1
図版 28	S111 遺物 1 S111 遺物 2 S111 遺物 3	図版 45 S140 遺物 2 S140 遺物 3
図版 29	S172 遺物 1 S172 遺物 2	図版 46 S140 遺物 4 S140 遺物 5
図版 30	S202 遺物 1 S202 遺物 2 S245 遺物	図版 47 S194 遺物 S221 遺物
図版 31	S17 遺物 1 S17 遺物 2	S141 遺物 1
図版 32	S104 遺物 S130 遺物	図版 48 S141 遺物 2 S141 遺物 3
図版 33	S147 遺物 1 S147 遺物 2	図版 49 S141 遺物 4 S141 遺物 5
図版 34	S147 遺物 3 S171 遺物	図版 50 S141 遺物 6 S141 遺物 7
図版 35	S82 土器 S87・103 遺物	図版 51 S141 遺物 8 S141 遺物 9
図版 36	S105 遺物 S152 遺物	図版 52 S141 遺物 10 S136 遺物 1
図版 37	S153 遺物 S201 遺物	図版 53 S136 遺物 2 S136 遺物 3
図版 38	S368 遺物	図版 54 S166 遺物 1 S166 遺物 2
		図版 55 S166 遺物 3 S166 遺物 4
		図版 56 S166 遺物 5 S166 遺物 6

函版 57	S166 遺物 7 S166 遺物 8	函版 68	S191 遺物 1 S191 遺物 2
函版 58	S166 遺物 9 S169 遺物 1		S191 遺物 3 S191 遺物 4
函版 59	S169 遺物 2 S169 遺物 3	函版 69	S191 遺物 5 S191 遺物 6
函版 60	S169 遺物 4 S169 遺物 5		S191 遺物 7 S192 遺物 1
函版 61	S169 遺物 6 S169 遺物 7	函版 70	S192 遺物 2 S192 遺物 3
函版 62	S174 遺物 1 S174 遺物 2		S192 遺物 4 S192 遺物 5
函版 63	S174 遺物 3 S176 遺物 1	函版 71	S192 遺物 6 S192 遺物 7
函版 64	S176 遺物 2 S176 遺物 3		S192 遺物 8
函版 65	S177 遺物 1 S177 遺物 2	函版 72	S197 遺物 1 S197 遺物 2
函版 66	S185 遺物 1 S185 遺物 2		S225 遺物 1
函版 67	S185 遺物 3 S185 遺物 4 S189 遺物	函版 73	S225 遺物 2 S247 遺物 1 S247 遺物 2
		函版 74	S360 遺物 S1 遺物

第I章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯と組織

(1) 調査経緯

市道岱明玉名線は、国道501号と国道208号を南北に結ぶ幹線道路として計画された。平成17年10月の1市3町（旧玉名市・岱明町・横島町・天水町）による合併前に、旧岱明町により、国道501号から県道長洲玉名線までは供用が開始されており、残りの区間につき合併後の玉名市により事業化されることとなった。平成17年10月21日に、当時の事業主体であった玉名市役所土木課及び玉名市岱明総合支所建設課と文化課の3課による協議を行い、計画路線内の広範囲に周知の埋蔵文化財包蔵地（塚原遺跡・木船西遺跡・大原遺跡）が所在していることを確認し、事前に計画路線内の試掘・確認調査を実施することとなった。塚原遺跡及びその周辺部については、用地買収終了後の平成21年度に実施し、計画路線内の大部分で埋蔵文化財を確認した。この結果から、埋蔵文化財が確認された範囲につき、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。調査経費については、道路事業の財源である、国土交通省の社会資本整備総合交付金及び合併特例債を活用することとなった。

(2) 調査組織

発掘調査体制及び整理・報告書作成作業に関わる組織は次のとおりである。

事業主体	玉名市役所土木課（平成22～25年度） 玉名市役所建設課（平成26～28年度）
調査主体	玉名市教育委員会
調査責任者	教育長 森 義臣（平成22～24年度） 〃 池田誠一（平成25～28年度）
調査総括	文化課長 赤木 隆（平成22年度） 〃 小山正義（平成23～25年度） 〃 中山富雄（平成26・27年度） 〃 竹田宏司（平成28年度）
調査庶務	文化財係長 安田信孝（平成22年度） 〃 植原孝信（平成23・24年度） 課長補佐兼文化財係長 境 順一（平成25年度） 文化財係長 小山 博（平成26年度） 課長補佐兼文化財係長 竹田宏司（平成27年度） 文化財係長 田中康雄（平成28年度） 主事 永野摩美子（平成22・23年度）

主事 西田言道（平成24・25年度）

主任 伊藤登志也（平成26年度）

参事 西寫涼子（平成26～28年度）

調査担当 主任 田中康雄（平成22・23年度）

主任 末永 崇（平成23年度）

主任 藪父雅史（平成22・23年度）

調査員 古閑敬士（平成22・23年度）

〃 大倉千寿（平成22・23年度）

整理・報告書作成担当

主査 田中康雄（平成24～26年度）

参事 田中康雄（平成27年度）

文化財係長 田中康雄（平成28年度）

調査員 古閑敬士（平成24～28年度）

調査員 江見恵留（平成27・28年度）

調査指導・協力者（順不同・敬称略、所属は当時）

杉井 健（熊本大学文学部）、宮崎敬士（熊本県教育庁文化課）、池田朋生（熊本県立装飾古墳館）、杉村彰一、西田道吉、高木正文、荒木隆宏（玉名市役所総合福祉課）、永見秀徳（筑後市教育委員会）、中野 充（佐賀市教育委員会）、壇 佳克（八女市教育委員会）、米田敏次、村上彰夫、九州日紅株式会社発掘調査作業員（順不同・敬称略）

古賀武子、池田智光、浦田幸一、上川敦彦、北原靖治、小柳京子、坂口國廣、坂本淳子、高津千尋、田代 正、田添康雄、田上由美子、築地浩昭、中林静代、中牟田琴美、中山英治、西川勝則、西嶋ヨシエ、西田京子、福島年春、船津 浩、古江正臣、堀田祐子、本田秋信、本田研二、本田雅子、宮本善治、森 辰興、吉川ゆかり、吉田成文、岩井 由、大石育美、大石イツ子、大石賢司、大仁田ソヨ子、川本章子、川本孝廣、北嶋百合子、城戸義次、清田栄子、坂田利雄、坂本 昇、嶋村美津留、高西正也、竹内ムツ子、竹志田美奈子、田尻宗之、塚本廣二、土山千代恵、出口加代子、中尾弘明、中川幸一、西川秀人、西田光明、浜崎圭一郎、増田一生、松村芳子、南本勝則、森 智子、森川眞男、麻生良友、石本真弓、牛島崇寛、尾浦公治、緒方 勝、城戸益敏、鹿井正剛、主地本敦、高崎良和、高谷健也、竹内伴英、田中孝行、谷口洋介、田上 正、田上行男、津国元恵、中島明子、西 由紀子、西村真由美、野中明美、浜田久美子、濱地和代、藤井めい子、前川直美、前原正純、松本えり子、松本純一、三森敏子、吉川本一、吉見雄二、西村テルヨ、仲山ツヨ子、津村憲子、吉田ムツ子、徳永幸代、松山美穂子、尾崎延枝、福田まき、嶋村ひとみ、谷川春美、古城明憲、笹木秀利、西 敏宏、松村利男、岩村光憲、植田トミヨ、大森ツヤ子、岡本博子、杉本美智子

整理作業員（順不同・敬称略）

五野富美子、坂崎郷子、早川イツエ、尾崎延枝、古賀武子、嶋村ひとみ、福田まき、高津千尋、吉川ゆかり、北嶋百合子、藤井めい子、前川直美、松本えり子

第2節 地理的環境・歴史的環境

(1) 地理的環境

玉名市は、熊本県の北部に位置する面積 152 平方キロメートル、人口約 6 万 7 千人の地方都市である。市域は、阿蘇外輪山の深葉山地（阿蘇市）に発し、熊本県北部を有明海に向かって流れる菊池川下流域を占めている。その菊池川が市中央部を南に向かって貫流し、その周辺には、菊池川とその支流繁根木川による堆積層で形成された玉名平野が広がっている。玉名平野の現在の標高は 4.8 ～ 6 m 程度で、大部分が水田等の耕作地として利用されている。玉名平野は、その北西部で筒ヶ岳（標高 501 m）を主峰とする小代山地・丘陵地及びこれに続く台地・段丘と接し、北部では繁根木川を挟んで小代山地に面した白間山地と接している。また平野東部では、木葉川を境として北側で国見山（標高 383 m 山鹿市鹿央町）を主峰とする国見山地の丘陵及びその南端部に位置する木葉山（標高 286 m）と接し、南部で金峰火山群の熊野岳（二ノ岳 標高 685 m）、三ノ岳（標高 681 m）を主峰とする金峰山地とこれに続く丘陵性台地に接している。このように、平野の三方を山地・丘陵地等に囲まれ、平野と接する丘陵末端部の多くに集落が形成されるが、現在の中心地は、玉名平野の西部に接する玉名台地上に営まれている。平野前縁部は、江戸時代以降から現代にいたる広大な干拓地が広がり、有明海と接している。

塚原遺跡は、小代山地南側の丘陵から南に広がる玉名台地上に立地する。この台地は 4 段の段丘により構成され、当遺跡はその第三段丘南東側末端部（標高 14 ～ 15 m）に位置している。当遺跡北側の谷底平野には現在二級河川行末川の支流友田川が流れているが、更新世中期頃までは、周辺部も含めこの一帯が菊池川の流路であったとされ、その後更新世末期における小代山の隆起に伴い菊池川は東よりに流路を変え、現在の位置に達したとされる。このため、玉名台地の各段丘は旧菊池川の河川堆積層とされる岱明層により構成され、当遺跡においては後述する基本土層 V 層がそれにあたる。遺跡南側には平野部（標高 3 ～ 4 m）が広がり、その南端部には、砂丘堆積層上に形成された集落（玉名市滑石・小浜・岱明町上）が所在する。さらにその南側（主に国道 501 号以南）は、江戸時代以降の干拓地が広がる。これらのことから、当遺跡の形成期（特に弥生期から古墳期）には、かなり海岸線に近い立地であったと考えられる。

(2) 歴史的環境

塚原遺跡周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡が濃密に分布しているが、その大半は現地踏査等での確認であり、その内容が明確に把握されているものは少ない。

縄文時代の遺跡としては、台地末端部に尾崎貝塚（3）、浜田貝塚（5）、庄司貝塚（8）、古閑原貝塚（9）といった小規模な貝塚が点在している。このことから、縄文海進期には当該台地末端線が海岸線であり、その近辺に集落が営まれたと考えられる。

弥生時代においては、現在のところ前期の遺構・遺物は確認されていないが、中期以降の遺跡は濃密に分布している。年の神遺跡（18）においては、弥生時代中期の支石墓（ゴホウラ製貝輪出土）及び多数の甕棺墓等が確認されており、東南大門遺跡（19）でも 42 基の甕棺墓及び弥生時代終末



熊本県玉名市役所

第1図 玉名市全図 S=1/100,000

期から古墳時代初頭と考えられる周溝墓（主体部木棺墓2基）が確認されている。同道路事業に伴い発掘調査を実施した大原遺跡（23）、木船西遺跡（24）においては、弥生時代中期から後期にかけての大規模な集落跡が確認されている。これらについては、別途報告書刊行予定である。なお、大原遺跡の別地点においては、箱式石棺群や大型の木棺墓も確認されている。また、前述した木船西遺跡の西に隣接する下前原遺跡（21）においては、弥生時代後期の集落跡が確認されており、年の神遺跡南側の山下木佐貫遺跡（31）においても弥生時代中期の甕棺墓1基及び、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡が確認されている。今回調査を実施した塚原遺跡も含め、これらの遺跡はそれぞれが隣接して所在しており、一体的な集落であるとも考えられる。

古墳時代においては、古墳時代初頭の集落跡及び、今回の塚原遺跡の調査により確認した前期の集落跡以外に明確な集落跡は確認されていない。ただし、当遺跡周辺には、首長墓と考えられる古墳や、当該期の遺物が確認されている遺跡も所在していることから、他の集落跡の存在が想定される。首長墓とされる古墳としては、前方後円墳とされる籐光寺古墳（39）、弁財天古墳（40）、その他にも塚原古墳（36）、浜田吹上古墳（38）、浜田西原古墳参考地（37）があるが、これらの多くは発掘調査が行われておらず、その内容は明確でない。なお、平成28年度に、開発行為に伴い実施した籐光寺古墳における確認調査では、周溝の一部と考えられる溝を確認している。

古代期においては、遺物の出土は認められるが明確な遺構は確認されていない。塚原遺跡が所在する玉名市岱明町（旧玉名郡岱明町）一帯は、律令制のもと成立した玉名郡の一部にあたるが、11世紀初頭に玉名郡は東郷と西郷に分割されたと考えられており、その後さらに幾つかの荘園に再編されることになる。当該地一帯及び現玉名市北西部（旧玉名市西部）は、玉名西郷にあたり、その後当該地には宮崎八幡宮領の「大野別符」が成立する。

中世期においては、当該地一帯に、多くの城館跡、寺院跡、石造物等が所在するが、これらは当該地の地頭職であった大野氏一族の影響によるものと考えられる。大野氏は、古代期玉名西郷の郡司であり、その後「大野別符」を成立させたとされる紀氏の流れをくむ在地勢力とされ、地頭職として当該地一帯を支配したが、14世紀以降、隣接する野原荘（現荒尾市一帯）の地頭職であった小代氏と対立するようになり、16世紀末に滅亡することとなる。大野氏の滅亡と共に、その城館を中核とし、寺院群によって形成されていた当該地一帯の景観は失われ、近世・近代期を経て現在にいたっている。

参考文献

1. 高橋俊正 1993「第三章 地形」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
2. 規工川宏輔 1993「第四章 水系・谷密度」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
3. 長谷義隆 1993「第五章 地質」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
4. 門岡 久 1969「明治百年記念 岱明町地方史」岱明町
5. 小川弘和 2005「古代・中世編」『岱明町史』岱明町
6. 兵谷有利・中村安宏 2011「玉名市遺跡地図」玉名市文化財調査報告第26集 玉名市教育委員会



第2図 塚原遺跡周辺遺跡分布図 1/25,000

第1表 周辺遺跡一覧

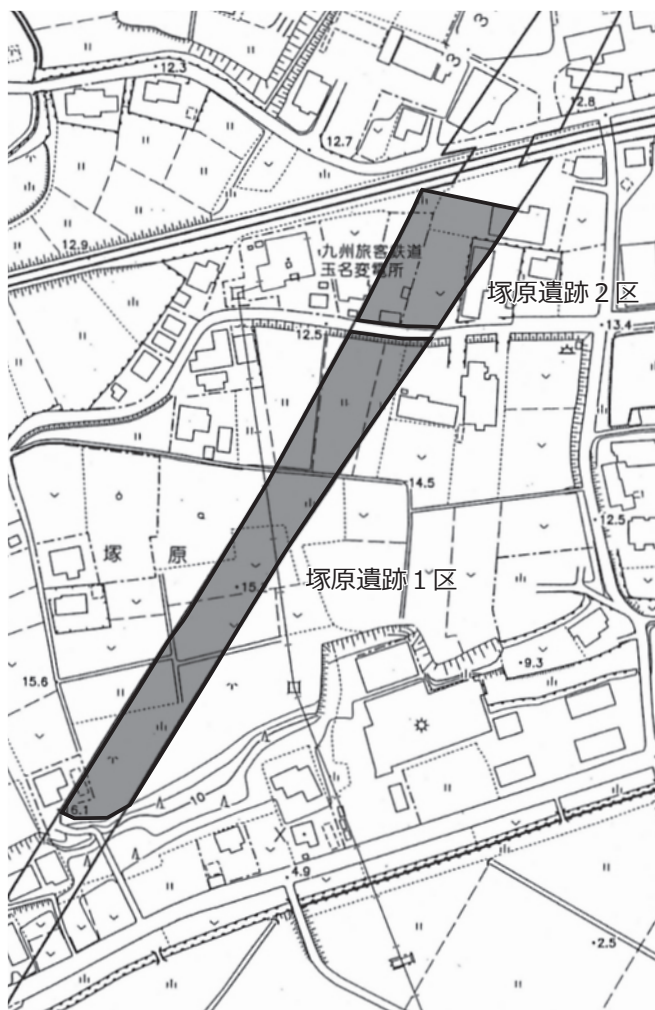
No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	西松手遺跡	縄文	28	中土貝塚	弥生	56	満福禅寺跡	中世
2	中土橋ノ尾遺跡	縄文～弥生	29	山下前畑遺跡	弥生・古墳	57	万福寺跡	中世
3	尾崎貝塚	縄文	30	中道遺跡	弥生	58	吉宝寺跡	中世
4	目倉尾遺跡	縄文	31	山下木佐貫遺跡	弥生・古墳	59	岩倉山平等寺跡	中世～近世
5	浜田貝塚	縄文	32	幸長寺遺跡	弥生・古墳	60	上村城跡	中世
6	中土遺跡	縄文	33	石橋遺跡	弥生	61	中土屋敷跡	中世
7	山下西遺跡	縄文	34	イッチャンサン遺跡	弥生	62	西中土五輪塔群	中世
8	庄司貝塚	縄文	35	野口前遺跡	弥生	63	願正寺跡	中世
9	古閑原貝塚	縄文	36	塚原古墳	古墳	64	浄幸寺跡	中世
10	中尾崎遺跡	弥生	37	浜田西原古墳参考地	古墳	65	築地次郎国秀館跡	中世
11	今泉遺跡	弥生	38	浜田吹上古墳	古墳	66	前原宗因の墓	中世
12	今ノ本遺跡	弥生	39	藤光寺古墳	古墳	67	慶専寺古塔碑群	中世
13	東旗布遺跡	弥生	40	弁財天古墳	古墳	68	正覚寺跡	中世
14	天神木遺跡	弥生	41	東中土遺跡	古墳・古代	69	木船遺跡	中世
15	下野口遺跡	弥生	42	下前原遺跡	古墳	70	木船五輪塔	中世
16	塚原石蓋土坑墓群	弥生	43	大跡遺跡	古墳	71	森崎直次郎藤原定孝の墓	中世
17	菊ノ尾天神木遺跡	弥生～古代	44	浜田西原遺跡	古墳	72	森崎伊勢守貞長の墓	中世
18	年の神遺跡	弥生	45	大悟山平等寺跡	古代・中世	73	内野城跡	中世
19	東南大門遺跡	弥生～古墳	46	大悟山平等寺毘沙門堂	古代・中世	74	中土館跡	中世
20	春出遺跡	弥生・古代 ・中世	47	旗布遺跡	古代	75	中土の六地藏石幢	中世
21	下前原遺跡	弥生	48	下河原条里跡	古代	76	荒野尾五輪塔	中世
22	東原遺跡	弥生	49	西徳王丸五輪塔	中世	77	仏教寺跡	中世
23	大原遺跡	弥生～中世	50	徳王丸屋敷跡	中世	78	無量山寿福寺跡	中世
24	木船西遺跡	弥生	51	伊勢守紀光隆の墓	中世	79	幸長寺跡	中世
25	木船東遺跡	弥生	52	上の六地藏石幢	中世	80	藤光寺跡	中世
26	尾崎遺跡	弥生・古墳	53	北清寺跡	中世	81	高道城跡	中世
27	塚原遺跡	弥生～中世	54	陣館跡	中世	82	二仏庵跡	中世
			55	陣の五輪塔	中世			

第Ⅱ章 調査方法

第1節 調査区の設定

今回の調査は、市道岱明玉名線道路改良工事に先立つ調査である。確認調査の結果、計画路線のうち、塚原遺跡の範囲内及びその周辺部については、ほぼ全域において埋蔵文化財が確認され、発掘調査対象面積は約 11,000㎡に及んだ。本道路事業は合併特例債対象事業であるが、当時その期限が平成 27 年度末（その後 5 年間延長）であり、当該遺跡北側の木船西遺跡、大原遺跡においても広範囲にわたる発掘調査が想定されたため、早急に調査を完了させる必要に迫られた。このため、調査対象地のうち、県道長洲玉名線側から対象地を横断する市道塚原専大玉高線間を調査 1 区（約 8,600㎡）、市道塚原専大玉高線と JR 鹿児島本線間を調査 2 区（約 2,300㎡）とし、調査 1 区を平成 22・23 年度の直営事業、調査 2 区を平成 24 年度の業務委託事業として発掘調査を実施することとした。

調査区内には、世界測地系の公共座標に基づき 10m × 10m のグリッドを設定した。グリッドの名称は、X 軸方向に数字、Y 軸方向に英字を付し、その起点は X: - 8530、Y: - 43900 に設定した。



第3図 塚原遺跡調査区位置図 S=1/2,500

第2節 調査の方法

調査着手に際し解決すべき課題が排土場の確保であった。当調査においては相当量の排土（最終排土量：約 9,000㎡）が想定されたが、立地上これらの搬出先は調査区南側の県道長洲玉名線との交差点設置予定地のみであった。しかし、調査着手時に調査区南側に接する民家の移転が完了しておらず、また排土搬出可能な道路もない状況であった。このため、当面は調査区北側半分に着手し、調査区南側を排土場とすることとした。その後、民家の移転完了に伴い、民家進入路付替え、排土搬出用仮設道設置を行い、調査区南側の調査に着手した。また全域での調査着手時には、作業効率化のため、調査区北側の排土は調査 2 区へ搬出することとした。

掘削については、確認調査の結果から、後述する基本土層Ⅲ層以下を調査対象と

し、その上位はバックホーにより行った。遺物包含層及び遺構は、移植ゴテによる掘削を基本とし、遺物の出土状況や遺構種別に応じてスコップや竹べらを用いた。

検出した遺構(小穴:P それ以外:S)については、検出順に番号を付し、1/20 もしくは 1/10 スケールで調査員及び作業員(一部業務委託による)が実測した。しかし、最終的に遺構ではないと判断したものもあり、それらは欠番となっている。

記録写真は、中判サイズのカラーリバーサルフィルム、モノクロフィルムでの撮影を主とし、一部大判(4×5インチ)カメラによる撮影も行った。メモ写真としてデジタルカメラによる撮影も行ったが、調査員の不手際によりデジタルのみの撮影となっている遺構が多数ある。

包含層出土遺物は各グリッド毎に層位・出土日を記録し一括して取り上げた。遺構内遺物も遺構毎に同様に取り上げたが、出土状況を実測したものについては、個別に番号を付し、出土レベルを計測・記録した。また古墳石室内埋土及び一部の住居跡埋土については、水洗選別が必要と判断したため、土嚢袋にて持ち帰ることとした。

第三章 調査成果

第1節 調査概要

今回の調査は、市道の改良工事に伴うものであり、路線内のみの調査であったため、遺跡の全容を把握するにはいたっていない。しかし、調査区延長約 250 m、幅約 35m の広範囲にわたり調査を行ったことから、ある程度遺跡の性格を想定するに足る結果が得られたと考えている。

調査の結果、縄文時代の遺物、弥生時代中期から古墳時代中期にかけての遺構・遺物、古代期の遺物、中世期の遺構・遺物が確認されたが、各時代でその量や分布に隔たりが認められる。

縄文時代については、少量の土器片が包含層及び他時代遺構内に混入した状況で確認された。

弥生時代中期については、調査区ほぼ中央部に大型溝(S80)が所在し、その北側に建物跡・住居跡・土坑といった集落跡、南側に甕棺墓を主とした墓域を確認した。

弥生時代後期については、中期と同様に S80 北側に住居跡等の集落跡を確認したが、南側においては終末期の遺構をわずかに確認したのみである。

古墳時代前期については、調査区南側で住居跡等の集落跡が確認されたが、中央部から北側にかけては遺構・遺物とも確認されていない。

古墳時代中期については、前期と同様に、調査区南側において古墳 6 基が確認された。

古代期については、極少量の遺物小片が包含層及び他時代遺構に混入した状況で確認された。

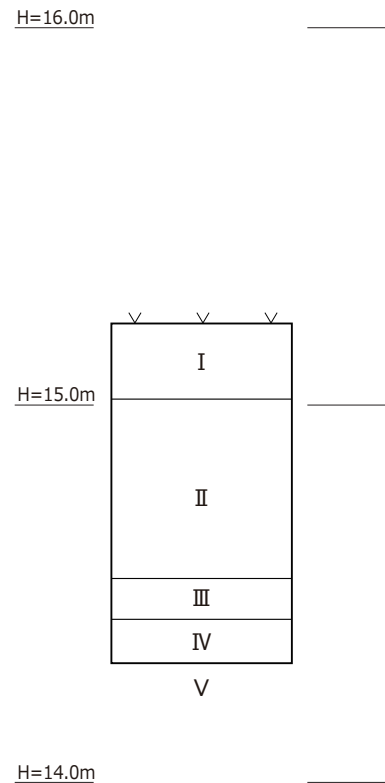
中世期については、溝を主とした遺構が確認された。

第2節 層序

調査対象地は、北から南に緩やかに傾斜する台地南端部に位置し、調査区ほぼ中央部で多少の高

低差があるものの、標高 14～15m 程の平坦地であった。ほぼ全域が耕作地及び耕作放棄地であり、一部は竹林化していた。土層の堆積状況及び遺物の混入状況から、弥生時代及び古墳時代の遺構検出面である基本土層Ⅳ層の上層（Ⅰ～Ⅲ層）は、耕作による影響を受けていると考えられる。Ⅳ層下には、当該台地の形成層である岱明層（Ⅴ層）が認められる。基本土層の詳細は以下のとおりである。

- Ⅰ 現代の耕作土
- Ⅱ 開田時の整地層
- Ⅲ 黒褐色土（7.5YR2/2）しまりがあり、わずかに粘性を有する。砂粒・礫・土器片を含み、旧耕作土と思われる。中世期の遺構検出面か。
- Ⅳ 暗褐色土（7.5YR3/4）しまりがあり、粘性を有する。調査区南側ではやや赤みを帯びる。弥生時代中期～古墳時代中期の遺構検出面。
- Ⅴ 岱明層 調査区内で色調・土質・混入物が大きく変化する。色調は主に黄褐色及び明黄褐色を呈し、土質はシルト質・砂質・砂礫等一定でない。



第4図 基本土層図

第3節 縄文時代の遺物

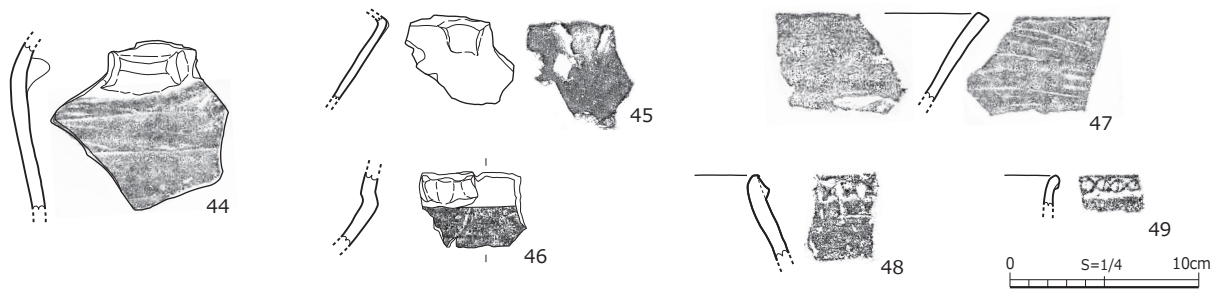
縄文時代の遺物として少量の土器小片が確認された。主に基本土層Ⅲ層からの出土であり、一部他時代遺構内に混入していたものもある。これらのうち、49点を掲載した。

第5・6図は包含層より出土した縄文土器で、全体の器形を復元できるものはなかった。時期としては縄文早期から晩期にかけての土器である。

1～6は押型文土器で、外器面に細かい楕円押型文を施している。内器面まで押型文が及ぶものはなかった。1は口縁部の資料で、口唇部を平坦に作り、口縁内側と外側約2cmを無文としている。また、4～6は0-21グリッドⅣ層上面からの出土で、色調・混入物など似通っており、同一個体と見られる。7はほぼ直立した口縁部で、やや器壁が薄い。口縁外面に貝殻条痕を横走させ、口唇外側は1cm間隔で工具を押し当て、刻目を作る。8は口唇部平坦面に貝殻と見られる施文具で連続して刺突を行う。口縁外面に浅い凹線文を横・斜め方向に施し、さらに凹線文を強調するため凹線の上下に沈線を1条ずつ入れ、輪郭を際立たせている。9～18は、縦方向に短い直線的な凹線文と、その下に列点文或いは横方向の凹線で文様を施している。さらに口唇部も工具で押さえることで凹凸を作り出している。また、19は曲線の凹線文、20～23は斜め方向に凹線を施す。24～30も小片であるが凹線文を持つ土器の一部と見られる。また12、15～22、24、27、28は滑石を含み、特に18は多量に見られ、金属のような光沢を持つ。31は鯨類の脊椎骨を製作台として利用した土



第5図 縄文時代の出土遺物 1



第6図 縄文時代の出土遺物2

器底部である。32は波状口縁で刺突と凹線の組み合わせで文様を描き、磨消縄文を施す。33は波状口縁を持つ浅鉢で、口縁の文様帯に磨消縄文の後2条の沈線を施し、波頂の下は沈線で入組文を刻む。34は胴部で貝殻腹縁により擬似縄文を押圧し、33と同様の沈線と入組文を施す。35は磨消縄文を沈線で区画し、一部をナデ消している。また屈曲部の直下は連点文を施す。36は肥厚口縁の一部と見られるが、不明瞭である。37・38は横方向に沈線が数条施された胴部片である。39は深鉢形土器の口縁部で、頸部より上に4条の沈線が施される。40は鉢形の土器口縁部で、口唇は丸みを帯びる。屈曲部まで幅の広い2条の凹線を施す。41は浅鉢形の土器口縁部で沈線を1条巡らす。調整は貝殻条痕をナデ消している。42は浅鉢の口縁部片で、口縁直下の内器面にはやや深い、外器面には浅い沈線が施される。43は内外器面に強い稜線が出るほど頸部を屈曲させる。復元できなかったが、口径は大きく、口縁から頸部までの幅が広い器形とみられる。44～46は頸部の屈曲した部分に蝶ネクタイ状の突起を持つ土器である。44は深鉢の屈曲部に貼付した資料で、外器面調整後に貼り付けており、残りも良い。指頭でつまむように押さえ接着させている。45・46は浅鉢の屈曲に蝶ネクタイ状を貼付するが、どちらも接着部で外れている。47は深鉢口縁部で、内外器面とも貝殻条痕ののちナデを施すが、外器面には条痕が残る。48は内傾する口縁部の外面直下に突帯を貼り付けている。また、この突帯に刻んだ工具は力強く、工具痕は口縁部中位にまで及んでいる。49は口縁端部でわずかに外反しており、器壁が4mmと薄い。

第4節 弥生時代の遺構・遺物

弥生時代については、中期及び後期の遺構・遺物を検出した。中期の遺構としては、大型建物4基、竪穴住居5基、竪穴遺構9基、土坑93基、溝2本、甕棺墓21基（内墓坑のみ8基）、石蓋土坑墓1基を検出した。後期の遺構としては、竪穴住居8基、竪穴遺構3基、土坑6基、溝2本を検出した。各遺構及び出土遺物の詳細は以下のとおりである。

(1) 弥生時代中期の遺構・遺物

1. 大型建物

【S111】（第8～12図、図版1・28）

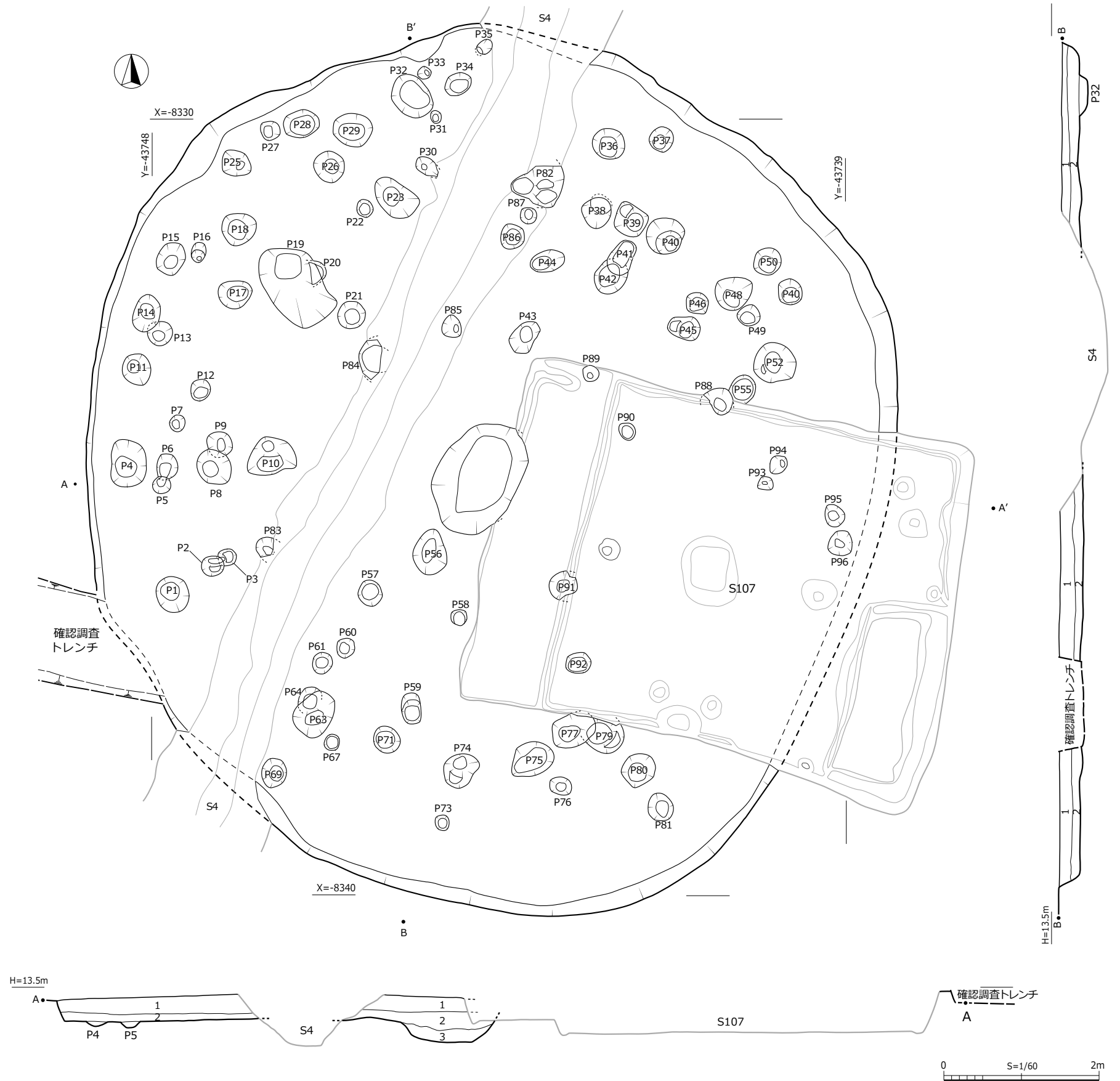
番号	種別	平面形	規模 直径 (m)	グリッド	切り合い	付帯施設				備考
						柱穴	中央土坑 (m)	溝	その他	
S111	大型建物	円形	11.0	P-20	S111→S107	約96基	1.5×1.0	×	—	柱穴が環状に3列

S111は円形を呈す建物跡で、今回の調査で確認した同様の遺構中最大となる直径11.0mを測る。他の遺構による削平等で失われた分を考えると、100基を越えるピットが掘られていたとみられる。このピット群から同心円状に、ピットの間隔や規模で3列を抽出した。外側から、A列は中心からの距離がおよそ3.9mで直径7.8m、以下B列は直径6m、C列は直径3.8～4.0mである。いずれも柱穴の配列と見られるが、A列内の複数の柱穴同士で切り合いが確認されたり、A列-B列間の距離が非常に近い位置にあることから、建て替えを想定できる。また、中心には大きな楕円形の土坑を有する。長軸方向で1基しかピットは確認できていないが、松菊里[ソングンニ]型住居としての特徴を指摘できる。

遺物は弥生時代中期土器（甕・蓋）や土製品（土製紡錘車・高坏形ミニチュア土器・円板）、多くの石器などが出土した。甕は口縁断面を肥厚させ、胴部突帯を貼り付けている。蓋は天井部に厚みがある。石器では磨石・敲石・台石といった重みのある石器が検出された。安山岩または黒曜石製の小型の製品・未製品・剥片が大量に出土している。ここで切り合いを整理すると、東側を竪穴住居S107、中央を南北方向に溝状遺構S4が切っている。そしてS111周辺の遺構や包含層からも同様の石器等が出土している。他の遺構掘削や後世の耕作によってS111埋土が掘り返され、一定量のS111由来と言える小型の石器などが周辺の遺構埋土や包含層にもたらされたと考えられる。

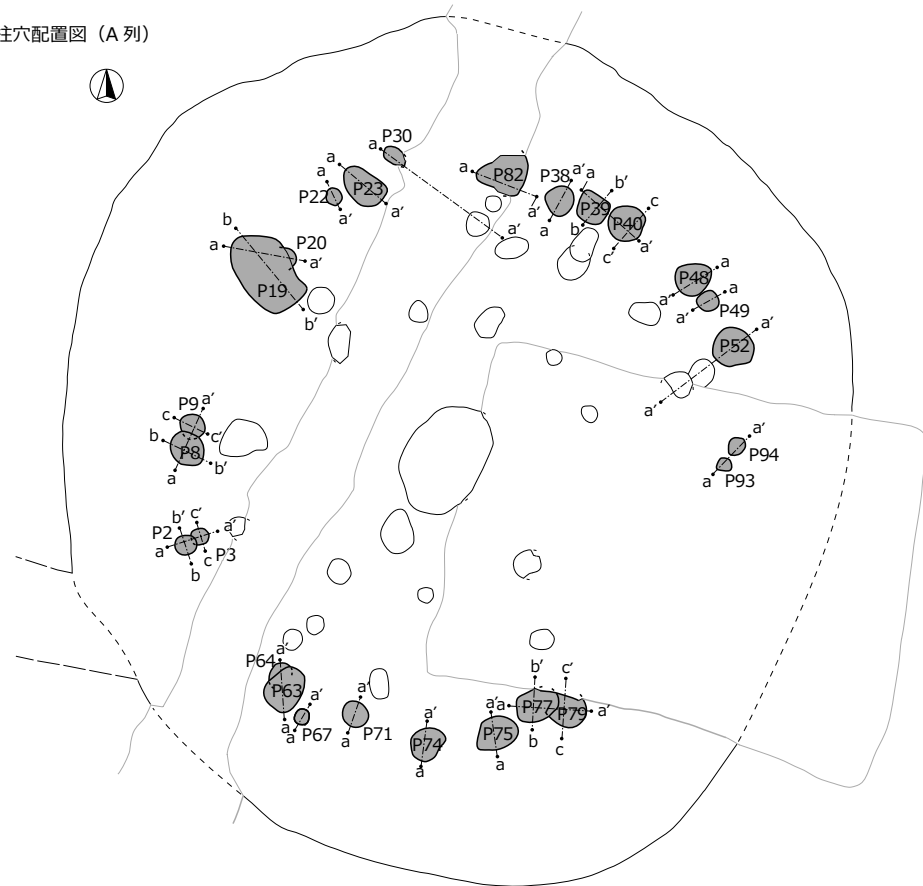
- 1 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物をまばらに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。炭化物及び橙色（7.5YR6/8）の粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。明黄褐色（10YR6/6）の粒を含む。

- P1 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をやや多く含む。
- P2 暗赤灰色土 2.5YR3/1 しまりは弱く、粘性を有す。炭化物・黄色土塊をわずかに含む。
- P3 黒褐色土 2.5Y 3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P4 黒褐色土 10YR3/1 しまりなし。粘性なし。黄色土塊（地山ブロック土など）をまばらに含む。
- P5 黒褐色土 2.5Y 3/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P6 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。炭化物・黄色土塊をわずかに含む。
- P7 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P8 黒褐色土 10YR2/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。大きめの黄色土塊をわずかに含む。
- P9 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P10 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P11 オリーブ黒色土 10Y 3/1 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P12 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。目立つ混入物は見当たらない。
- P13 暗褐色土 7.5YR3/3 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P14 黒褐色土 2.5Y 3/1 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P15 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P16 暗赤灰色土 10YR 4/1 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P17 オリーブ褐色土 2.5Y 4/6 しまりがあり、粘性なし。白色砂粒・黄色土塊をまばらに含む。
- P18 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P19 黒褐色土 10YR2/3 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物・黄色土塊をわずかに含む。
- P20 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をやや多く含む。
- P21 極暗褐色土 7.5YR2/3 しまりがあり、粘性なし。白色・黄色砂粒をわずかに含む。
- P22 黒褐色土 10YR3/1 しまりがあり、粘性なし。白色・黄色砂粒をわずかに含む。
- P23 黒褐色土 2.5Y 3/2 しまりがあり、粘性なし。白色・黄色砂粒を多く含む。
- P25 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をわずかに含む。
- P26 黒褐色土 7.5YR2/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をわずかに含む。
- P27 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P28 暗赤灰色土 2.5YR3/1 しまりがあり、粘性なし。白色・黄色砂粒をまばらに含む。
- P29 黒褐色土 7.5YR2/1 しまりがあり、粘性なし。目立つ混入物は見当たらない。
- P30 暗赤灰色土 2.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒をまばらに含む。
- P31 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P32 オリーブ黒色土 5Y 3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物・焼土？をわずかに含む。
- P33 黒褐色土 10Y 2/1 しまりがあり、粘性なし。黄色砂粒をまばらに含む。
- P34 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊やレキ・マンガン粒を多く含む。
- P35 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土をやや多く含む。
- P36 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P37 暗赤褐色土 5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をまばらに含む。
- P38 暗褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P39 暗赤褐色土 5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をまばらに含む。
- P40 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊・炭化物をわずかに含む。
- P41 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をまばらに含む。
- P42 暗赤灰色土 2.5YR3/1 ややしまりがあり、粘性なし。黄色砂粒をわずかに含む。
- P43 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色砂粒を多量に含む。
- P44 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黒色土・黄色砂粒をわずかに含む。
- P45 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色砂粒をわずかに含む。
- P46 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黒色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P48 黒褐色土 2.5Y 3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P49 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P50 暗褐色土 10YR3/4 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土をわずかに含む。
- P51 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P52 黒褐色土 5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土をやや多く含む。
- P55 黒褐色土 2.5Y 3/2 しまりがあり、粘性なし。黄色土・黒色土をまばらに含む。
- P56 黒褐色土 10YR2/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊を多く含む。
- P57 暗褐色土 7.5YR3/3 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土・黒色土の塊をブロック状にまばらに含む。
- P58 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、粘性なし。黄色・白色砂粒をわずかに含む。
- P59 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。上部で炭化物・焼土？をまばらに含む。
- P60 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土をブロック状に、炭化物をわずかに含む。
- P61 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに、焼土？・炭化物をわずかに含む。
- P63 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに、炭化物をわずかに含む。
- P64 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色・白色・黒色（マンガン）砂粒を多く含む。
- P67 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P69 黒褐色土 2.5Y 3/2 しまりがあり、粘性なし。地山由来の黄色土塊やレキ・マンガン粒を多く含む。
- P71 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土をやや多く含む。
- P73 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をわずかに含む。
- P74 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P75 暗赤褐色土 5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をまばらに含む。
- P76 暗オリーブ褐色土 2.5Y 3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をわずかに含む。
- P77 黒褐色土 10YR2/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒をわずかに含む。
- P79 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊・炭化物をまばらに含む。
- P80 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊・炭化物をわずかに含む。
- P81 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊・炭化物をまばらに含む。
- P82 黒褐色土 7.5YR3/2 S04 の掘削と同時に掘ってあったが、S111 内部を巡る一連の柱穴と深さ、大きさ、間隔等同様であるため追加した。
- P83 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。地山の黄褐色土をブロック状にまばらに含む。土器出土。
- P84 暗オリーブ褐色土 2.5Y 3/3 しまりは弱く、粘性を有す。地山の黄褐色土をブロック状にまばらに含む。
- P85 (S04 と同時に掘削、所見等は残っていない)
- P86 (S04 と同時に掘削、所見等は残っていない)
- P87 (S04 と同時に掘削、所見等は残っていない)
- P88 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P13)
- P89 黒褐色土 7.5YR3/2 (S107-P21)
- P90 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P24)
- P91 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P23)
- P92 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P3)
- P93 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P14)
- P94 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P15)
- P95 黒褐色土 10YR3/2 (S107-P17)
- P96 黒褐色土 10YR3/1 (S107-P16)

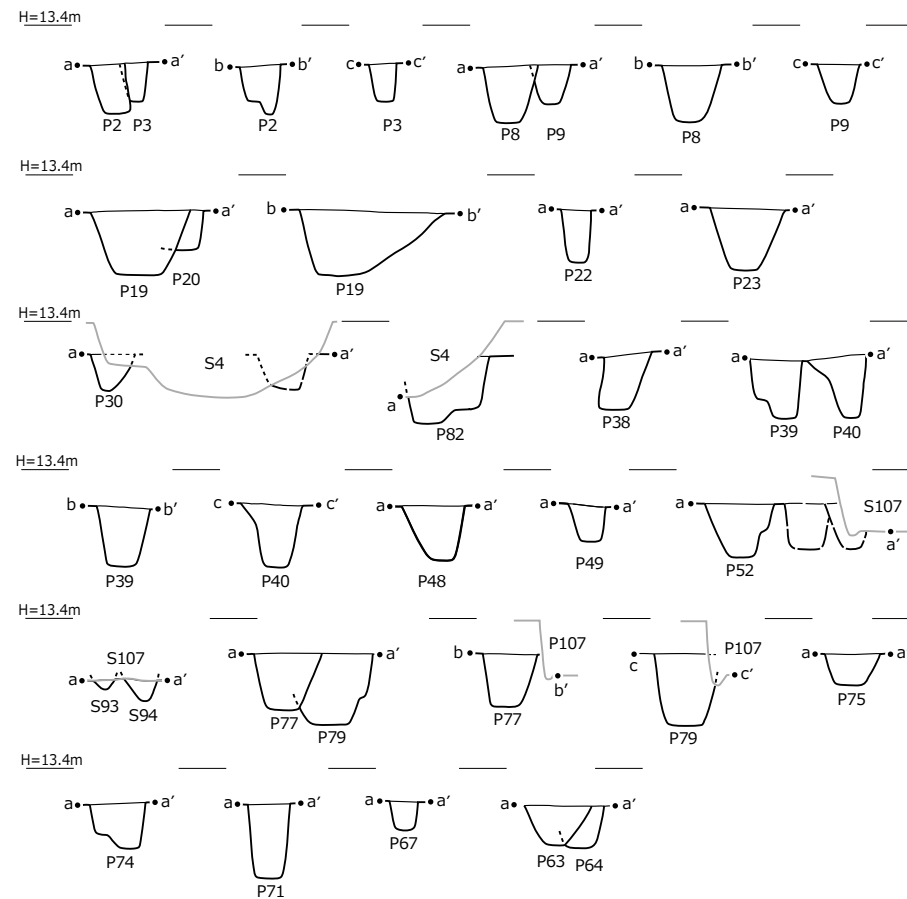
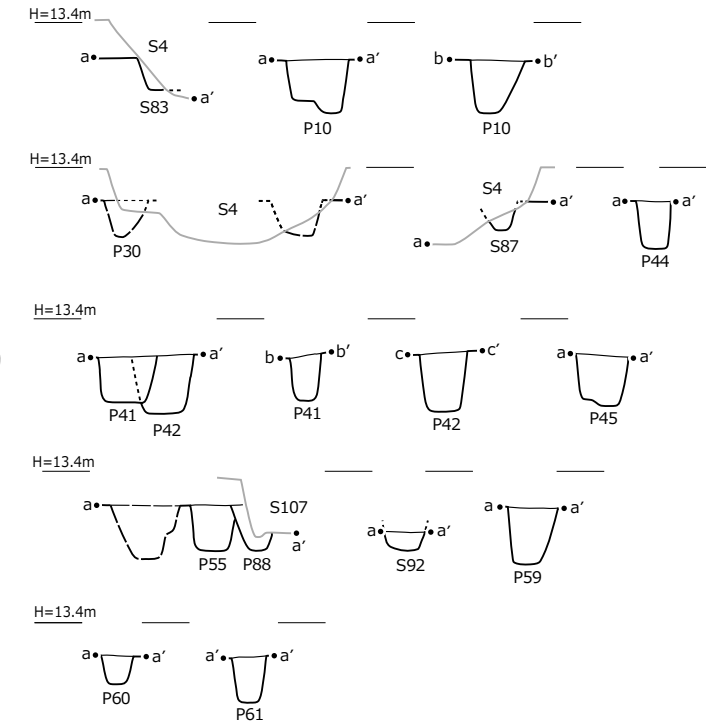
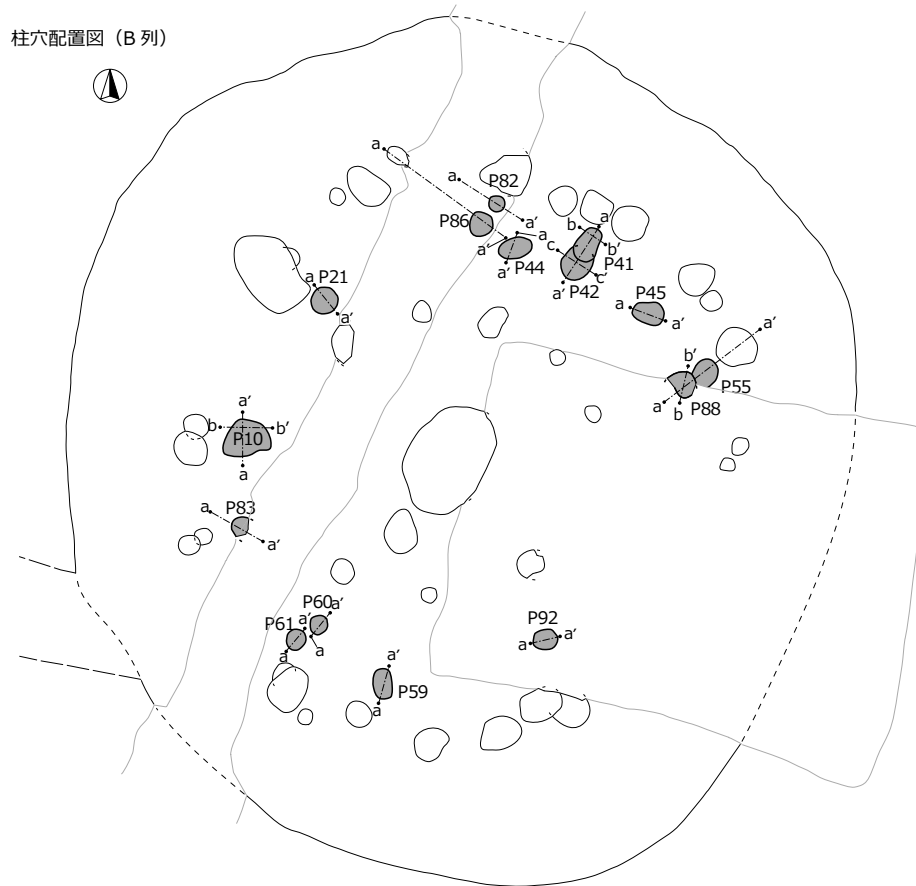


第 8 図 S111 実測図 1

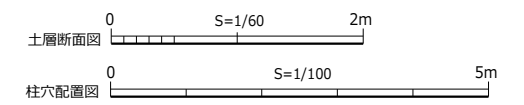
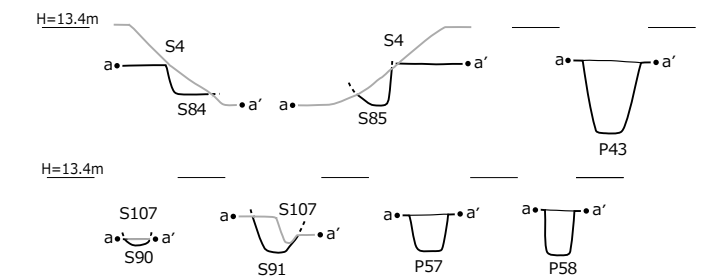
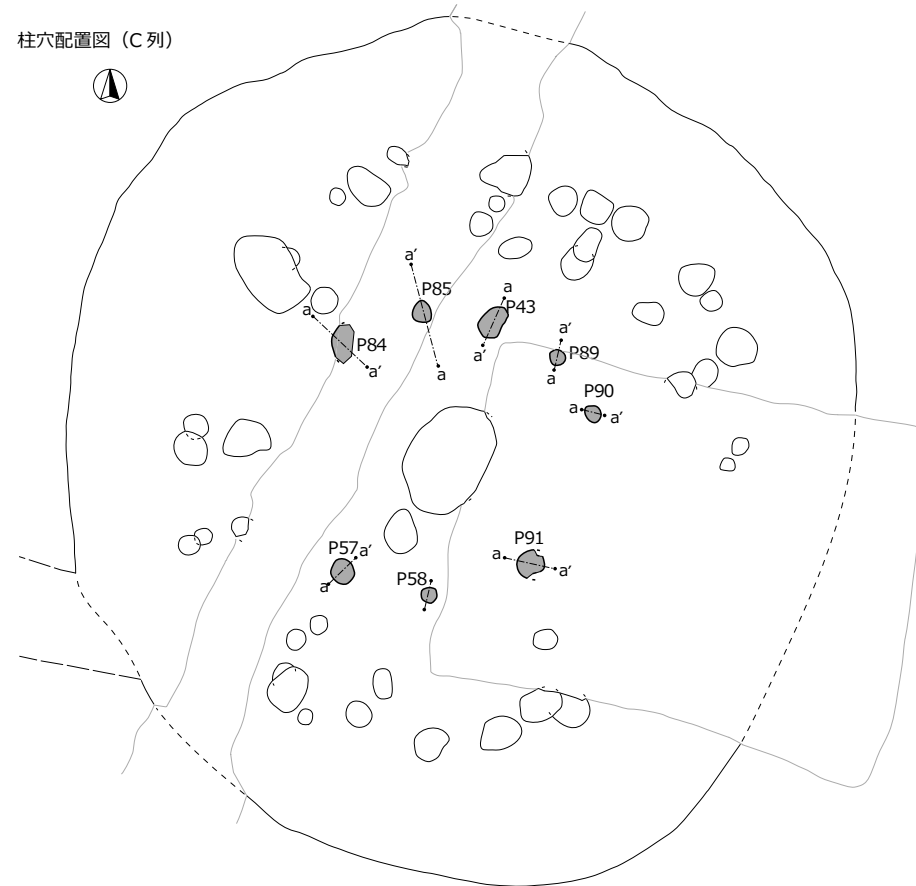
柱穴配置図 (A列)



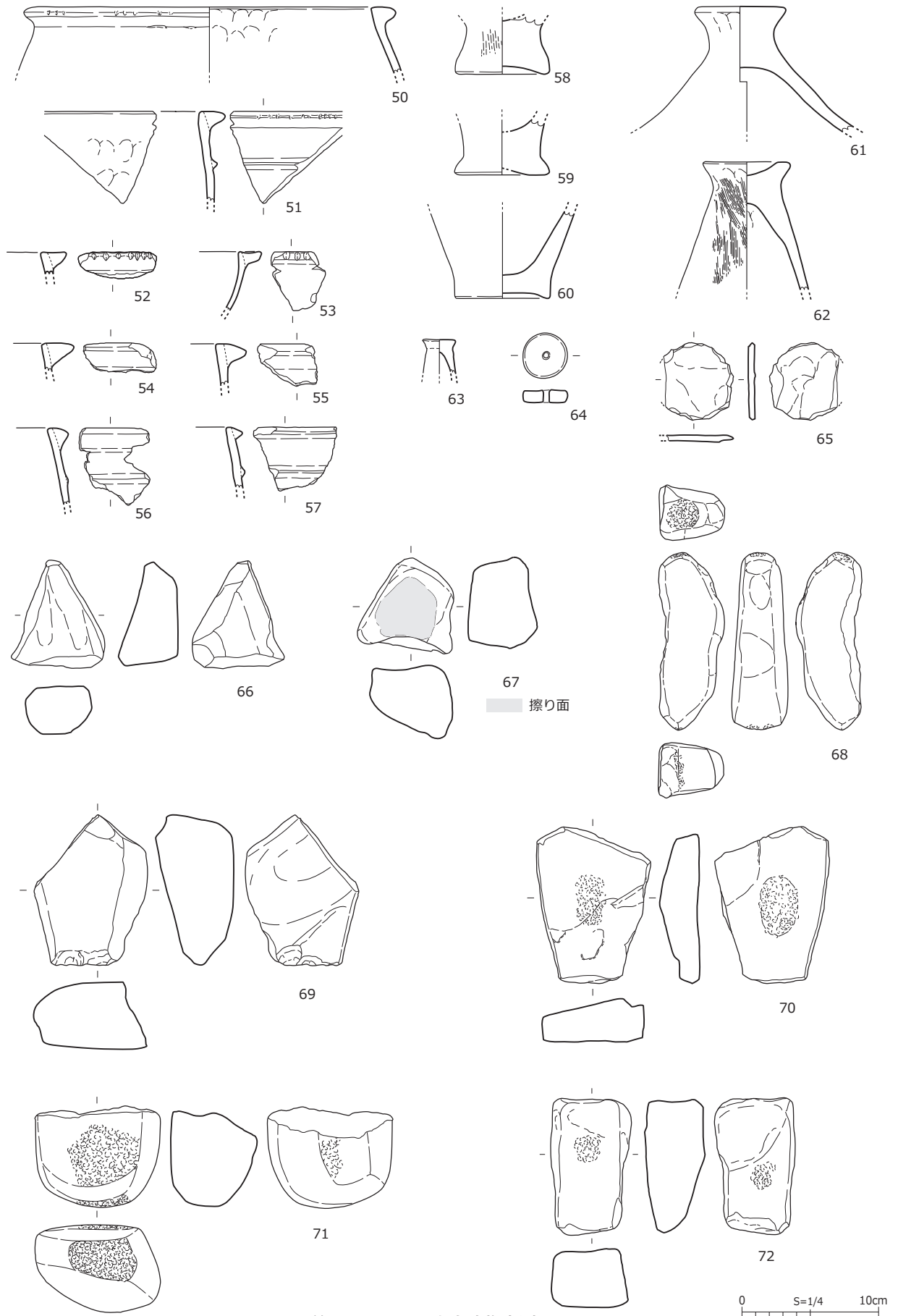
柱穴配置図 (B列)



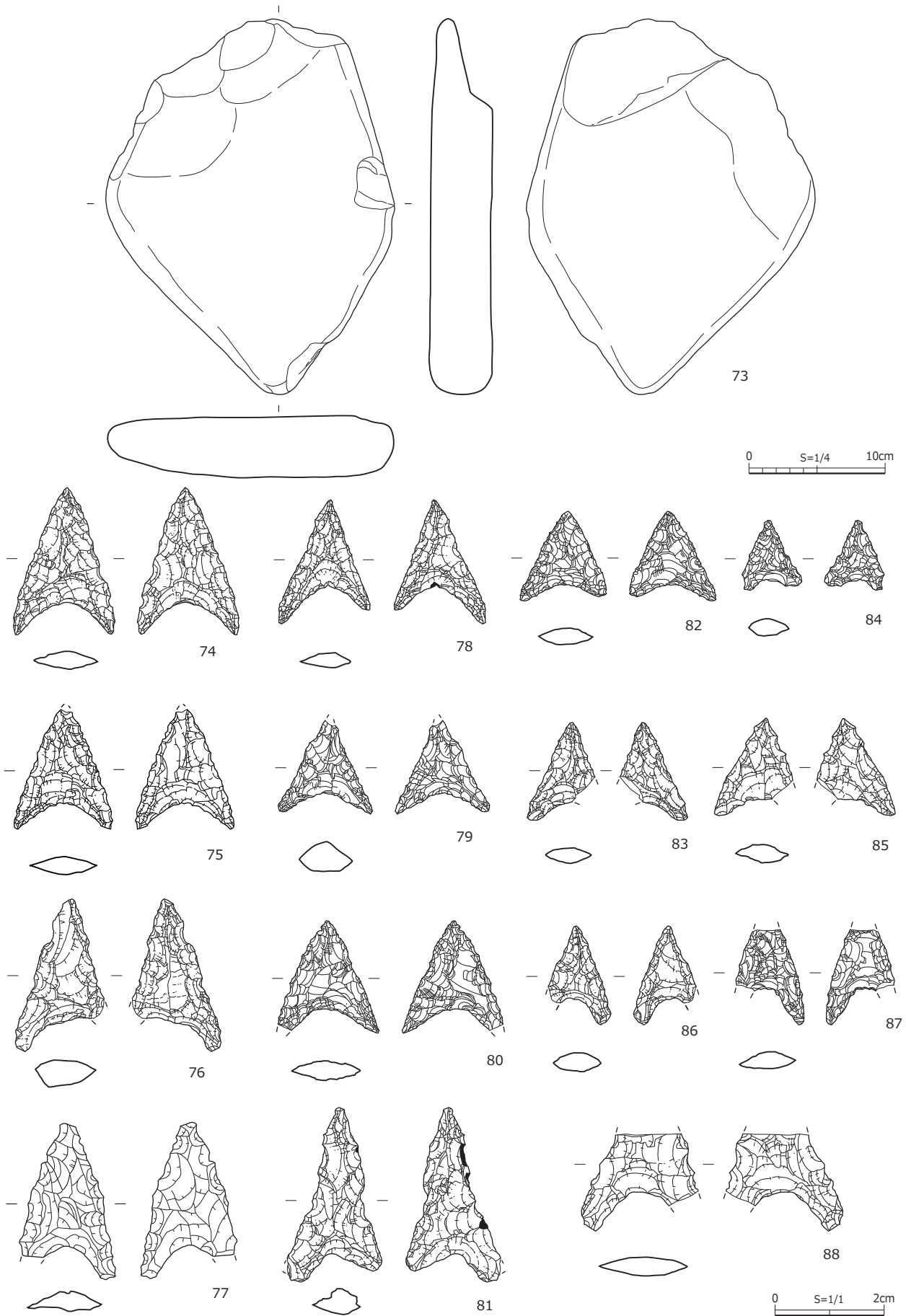
柱穴配置図 (C列)



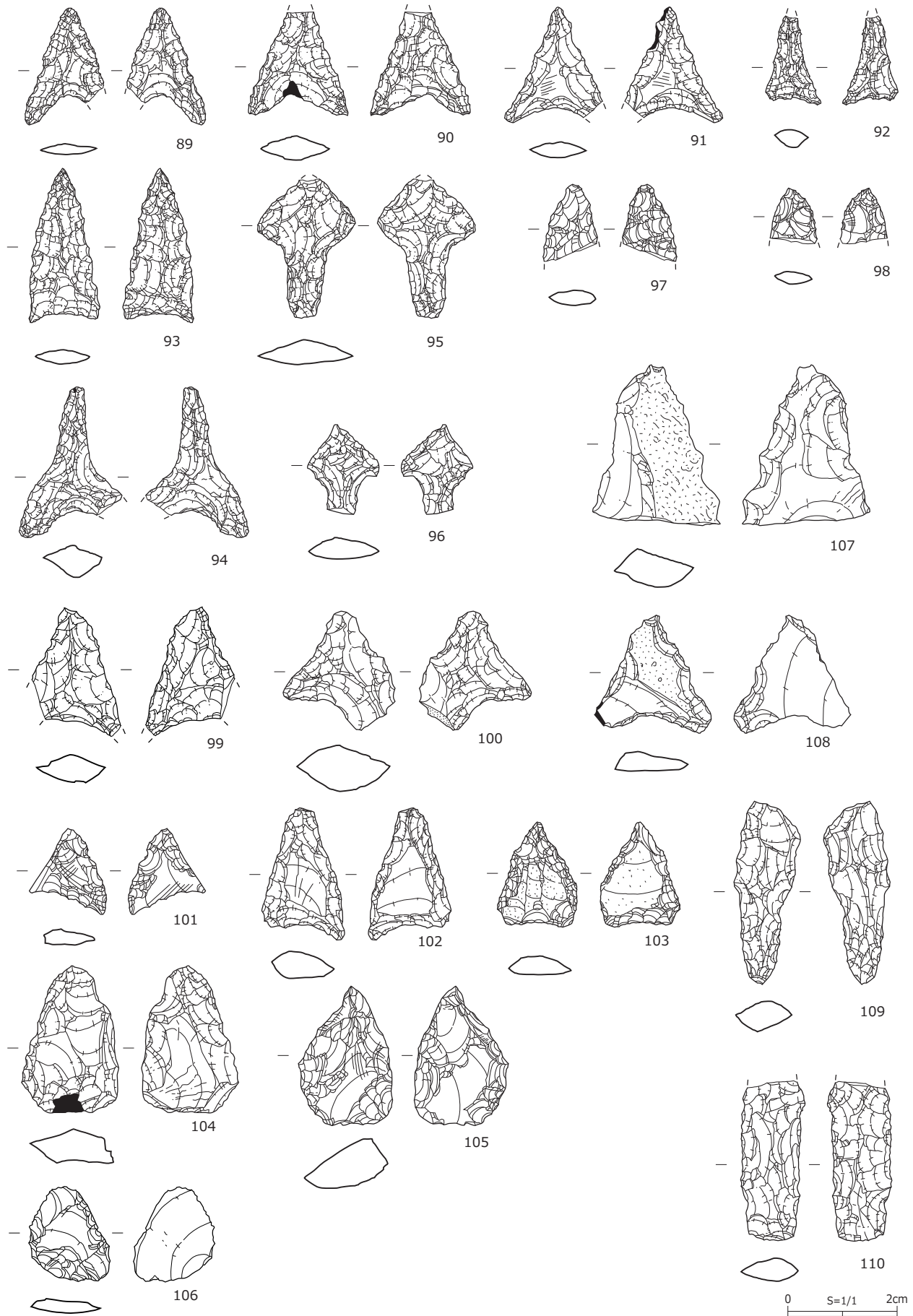
第9図 S111 実測図2



第10図 S111 出土遺物実測図1



第 11 図 S111 出土遺物実測図 2



第12図 S111出土遺物実測図3

【S172】(第 13～17 図、図版 1・29)

番号	種別	平面形	規模 直径 (m)	グリッド	切り合い	付帯施設			備考
						中央土坑	溝	その他	
S172	大型建物	円形	10.0	Q-20	S172→S91、S92、 S170、S368	楕円形	環状	—	柱穴が環状に 3 列

S172 は円形の大型建物で、中央に楕円形の土坑がある。長軸北側にピットがあり南側は攪乱で削られたが、こちらにもピットが存在していた可能性がある。中心から約 3.5 m の距離で環状に配された柱穴を確認している。東西にわずかに軸をずらして建て替えた可能性がある。北側では土坑である S91・S92・S170、また南側でも同じ弥生時代中期の土坑 S368 に切られ、南東壁は調査区外となる。

出土した土器は弥生中期と見られる。甕には口縁部形態に如意形に近いものが複数見られ、壺でも肩部から緩やかに広がりを見せるなど、古い要素が残っている。磨製石鏃は基部を直線的に加工し、鏃身は薄く丸みを帯びた二等辺三角形に作られる。先端部を欠き、表面は広く剥がれが生じている。また、S172 では隣接する S111 と同様に、大量の黒曜石・安山岩製の石器、未製品の他に中小の剥片など石器製作に関連する遺物が出土した。ここでは剥片から完成品まで製作の各段階における石器を図示している。

【S202】(第 18～23 図、図版 2・30)

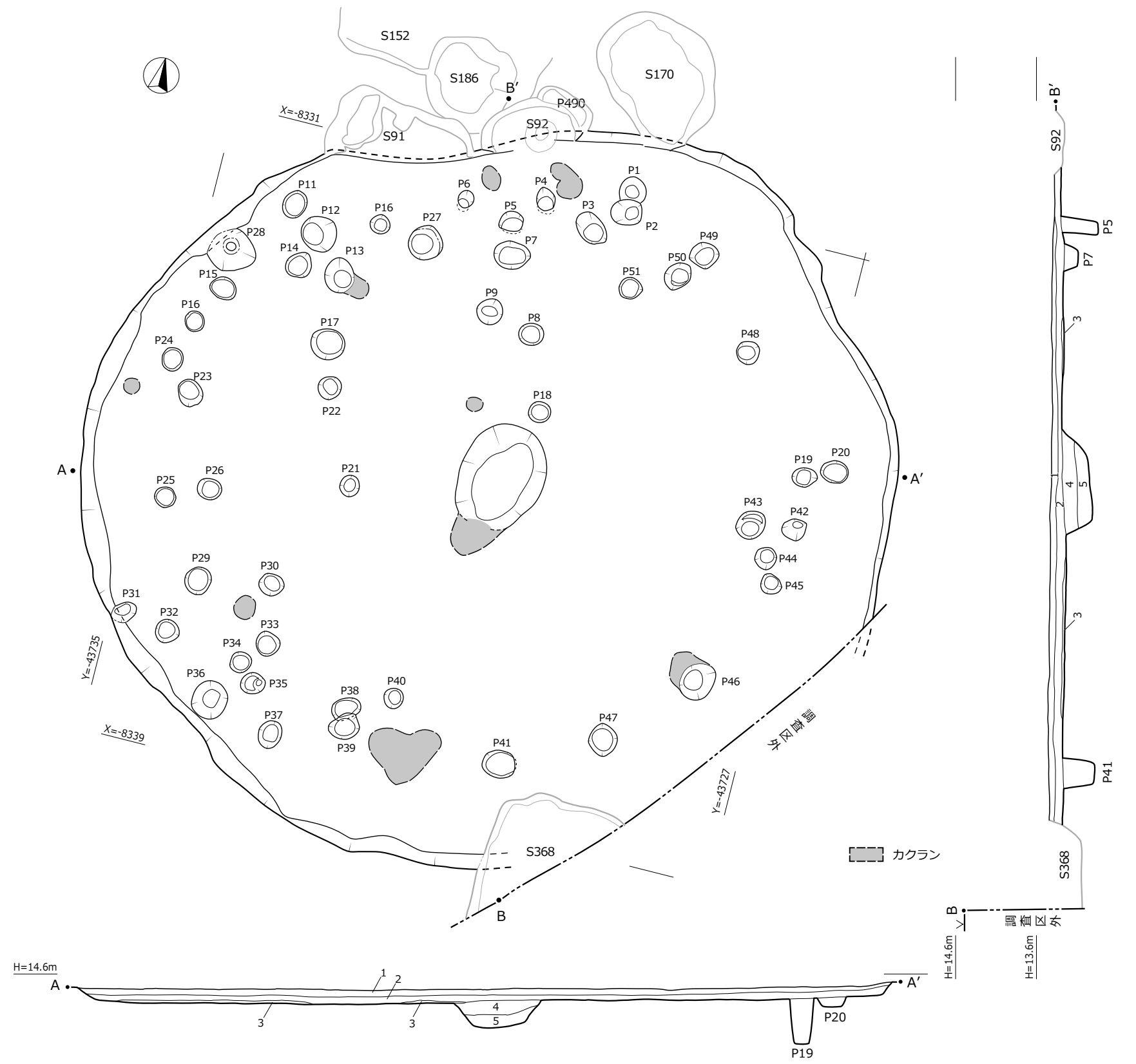
番号	種別	平面形	規模 直径 (m)	グリッド	切り合い	付帯施設			備考
						中央土坑	柱穴	ベッド状	
S202	大型建物	円形	9.60	P-19 他	S202→S194	楕円形	環状	南側	

S202 は円形の大型建物で、最大直径が 9.6 m ある。南東は調査区外、北西の一部は弥生時代後期の住居 S194 に切られている。中央土坑は南北方向に長い楕円形で、これに関連するピット等は見つかっていない。南側はベッド状遺構が配され、この部分だけが外側へ拡張されたようにも見える。柱穴は 15 本が直径 5.7 m の環状に配置され、柱の周囲を V 層（岱明層）由来の粒子が細かい土や砂で突き固めてある。北西には他より間隔が広く取られた部分がある。

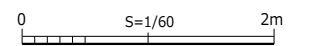
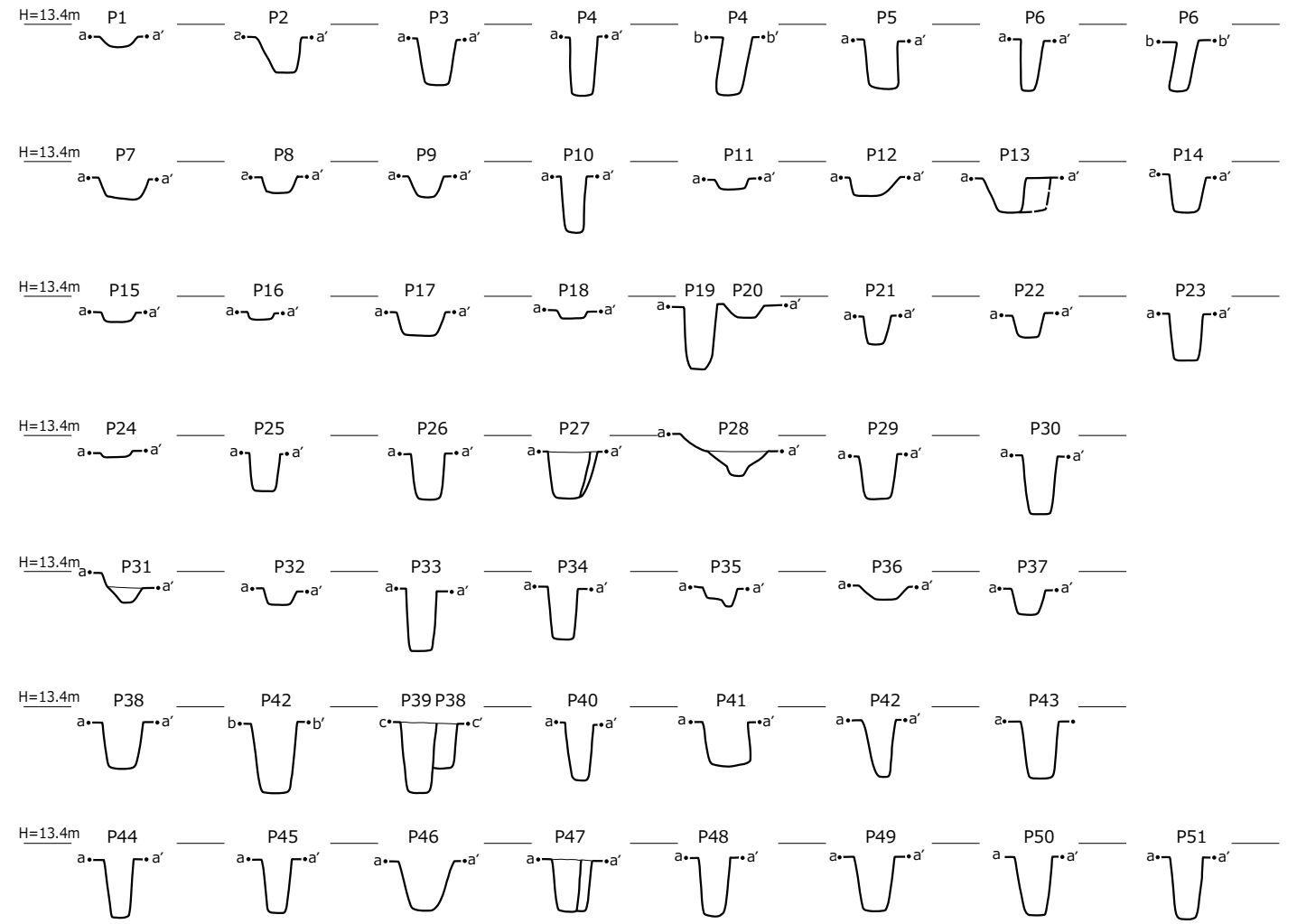
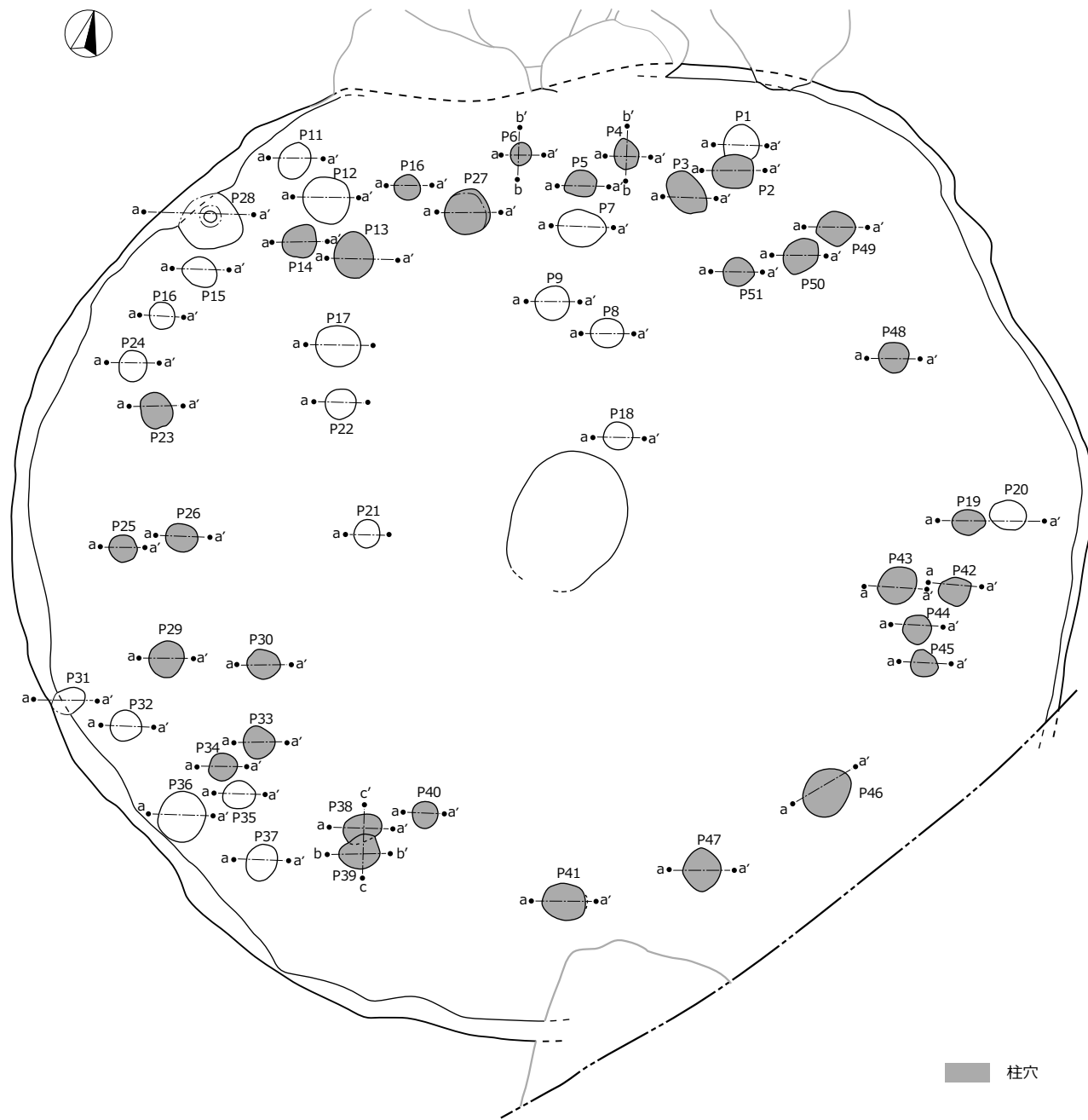
出土遺物は弥生土器、石器・石製品などで、ここで図示した点数としては石器の方が多い。土器及び土製品は弥生時代中期の甕・壺・蓋形土器と土弾である。甕では断面三角形の肥厚口縁が外側へ延びている。また、小ぶりの胴部突帯を 1 条施す。肥厚部及び胴部突帯には刻目を施すことが多い。底部は平底かごくわずかな上げ底となる。壺は口縁から肩部の資料では極小の突帯が 1 条施されている。また、球形の胴部下位から平底の底部資料を 2 点図示している。蓋は小片ながら掴むことに適した天井部である。石器は小型品の鏃や石錐とそれらの未製品がほとんどで、安山岩を利用したものが多く、形態としては縄文時代の鏃・錐と変わらない。砥石は砂岩製で、石器の製作に関わるものか。

- 1 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。1～5mm 大の砂粒を多く、炭化物をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。地山由来の黄褐色土をブロック状にわずかに含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄褐色土をブロック状にまばらに、炭化物をわずかに含む。
- 4 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- 5 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色土塊、炭化物をまばらに含む。

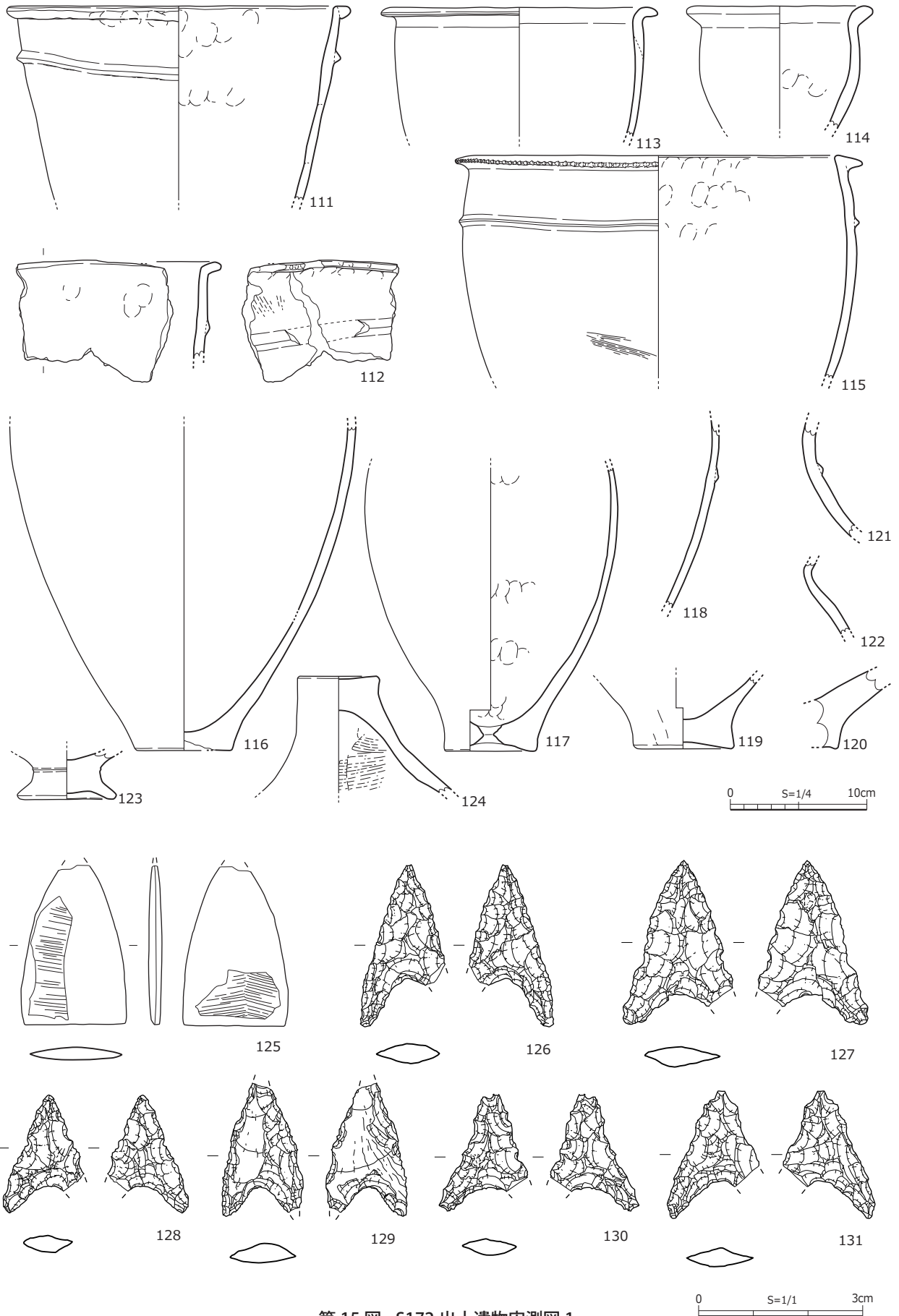
- P1 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色砂粒・土塊をまばらに含む。
- P2 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P3 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P4 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P5 黒褐色土 10YR3/1
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色土塊をブロック状に多く含む。
- P6 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をわずかに含む。
- P7 黒褐色土 10YR3/1
しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P8 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、粘性なし。黄色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- P9 黒褐色土 10YR3/1
しまりは弱く、粘性を有す。黄色・白色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- P10 黒褐色土 10YR3/1
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色・白色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- P11 黒褐色土 10YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土を多く含む。
- P12 黒褐色土 10YR3/1
しまりは弱く、粘性を有す。黄色砂粒、炭化物をまばらに含む。
- P13 黒褐色土 10YR3/1
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色砂粒・土塊をわずかに含む。
- P14 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに、炭化物をわずかに含む。
- P15 黒褐色土 10YR3/2
しまりは弱く、粘性なし。黄色土塊をまばらに含む。
- P16 黒褐色土 10YR3/1
しまりがあり、粘性なし。黄色土をまばらに含む。
- P17 黒褐色土 10YR3/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- P18 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P19 黒褐色土 7.5YR2/2
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P20 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をわずかに含む。
- P21 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P22 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P23 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をまばらに含む。
- P24 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P25 黒褐色土 10YR3/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。焼土をまばらに含む。
- P26 黒褐色土 7.5YR2/2
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P27-1 オリーブ黒色 5Y 3/1
しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- P27-2 暗褐色土 10YR3/3
しまりは強く、粘性を有す。黄色土を多く含む。
- P28 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状に、炭化物をまばらに含む。
- P29 黒褐色土 10YR2/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色砂粒をわずかに含む。
- P30 暗赤褐色土 5YR3/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土、炭化物をわずかに含む。
- P31 黒褐色土 10YR3/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P32 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりがあり、粘性を有す。黄色土塊、炭化物をまばらに含む。
- P33 黒褐色土 10YR2/2
しまりは弱く、粘性を有す。黄色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- P34 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をまばらに含む。
- P35 黒褐色土 5YR3/1
しまりは弱く、粘性なし。黄色土塊をわずかに含む。
- P36 黒褐色土 2.5Y3/1
ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をまばらに含む。
- P37 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物、焼土をやや多く含む。
- P38 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をわずかに含む。
- P39 オリーブ黒色 5Y 2/2
しまりがあり、粘性なし。黄色土をわずかに、炭化物、焼土をやや多く含む。
- P40 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。黄色土・砂粒をまばらに含む。
- P41 黒褐色土 10YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。黄色土、炭化物をやや多く含む。
- P42 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄色土、砂粒をやや多く含む。
- P43 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄色土、砂粒をやや多く含む。
- P44 黒褐色土 10YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。砂粒をやや多く含む。
- P45 黒色土 10YR2/1
しまりがあり、強い粘性を有す。砂粒をやや多く、炭化物、焼土をまばらに含む。
- P46 黒褐色土 10YR2/2
しまりがあり、強い粘性を有す。黄色土、炭化物、焼土をやや多く含む。
- P47-1 黒褐色土 10YR2/2
しまりは強く、粘性を有す。炭化物、焼土をまばらに含む。
- P47-2 暗褐色土 10Y R 3/3
しまりは強く、粘性を有す。炭化物をまばらに、黄色土をやや多く含む。
- P48 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、強い粘性を有す。黄色土をまばらに、砂粒をやや多く含む。
- P49 暗褐色土 10YR3/3
しまりがあり、粘性を有す。黄色土を多く含む。
- P50 暗褐色土 10YR3/3
しまりがあり、粘性を有す。上に黄色土を多く含む。
- P51 黒褐色土 10Y R 2/3
しまりがあり、粘性を有す。炭化物、黄色土をまばらに含む。



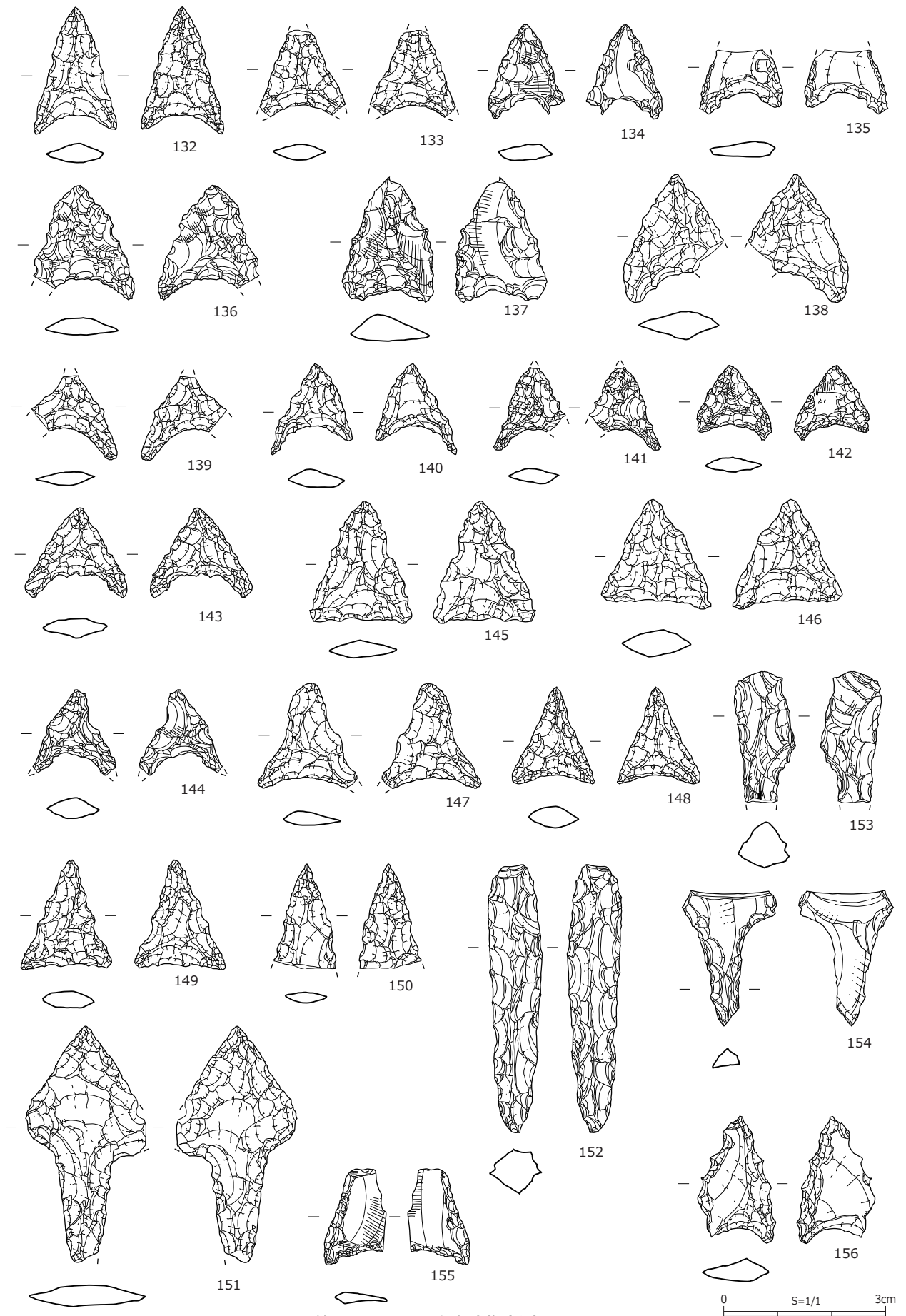
第 13 図 S172 実測図 1



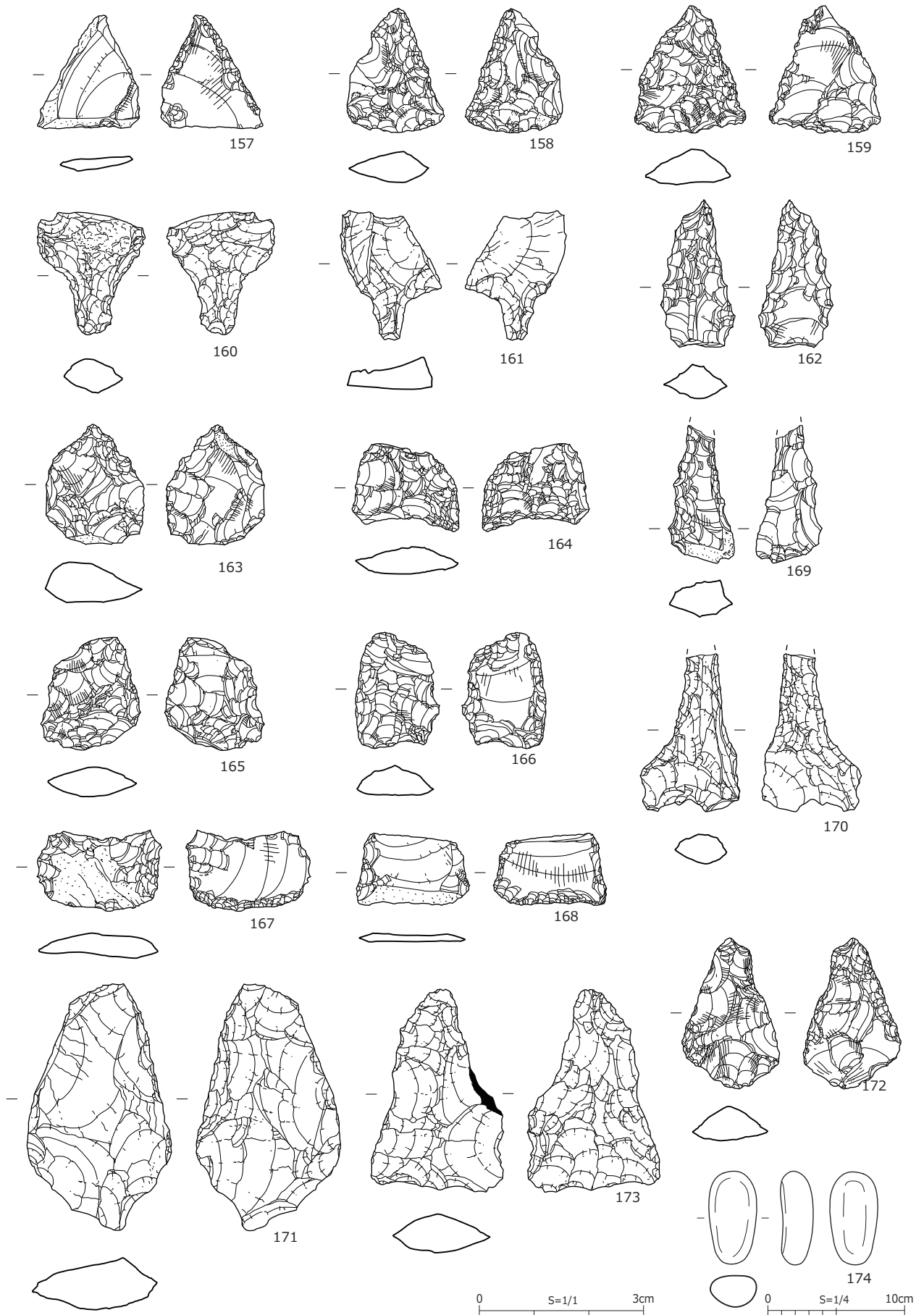
第 14 図 S172 実測図 2



第15図 S172 出土遺物実測図1



第 16 図 S172 出土遺物実測図 2



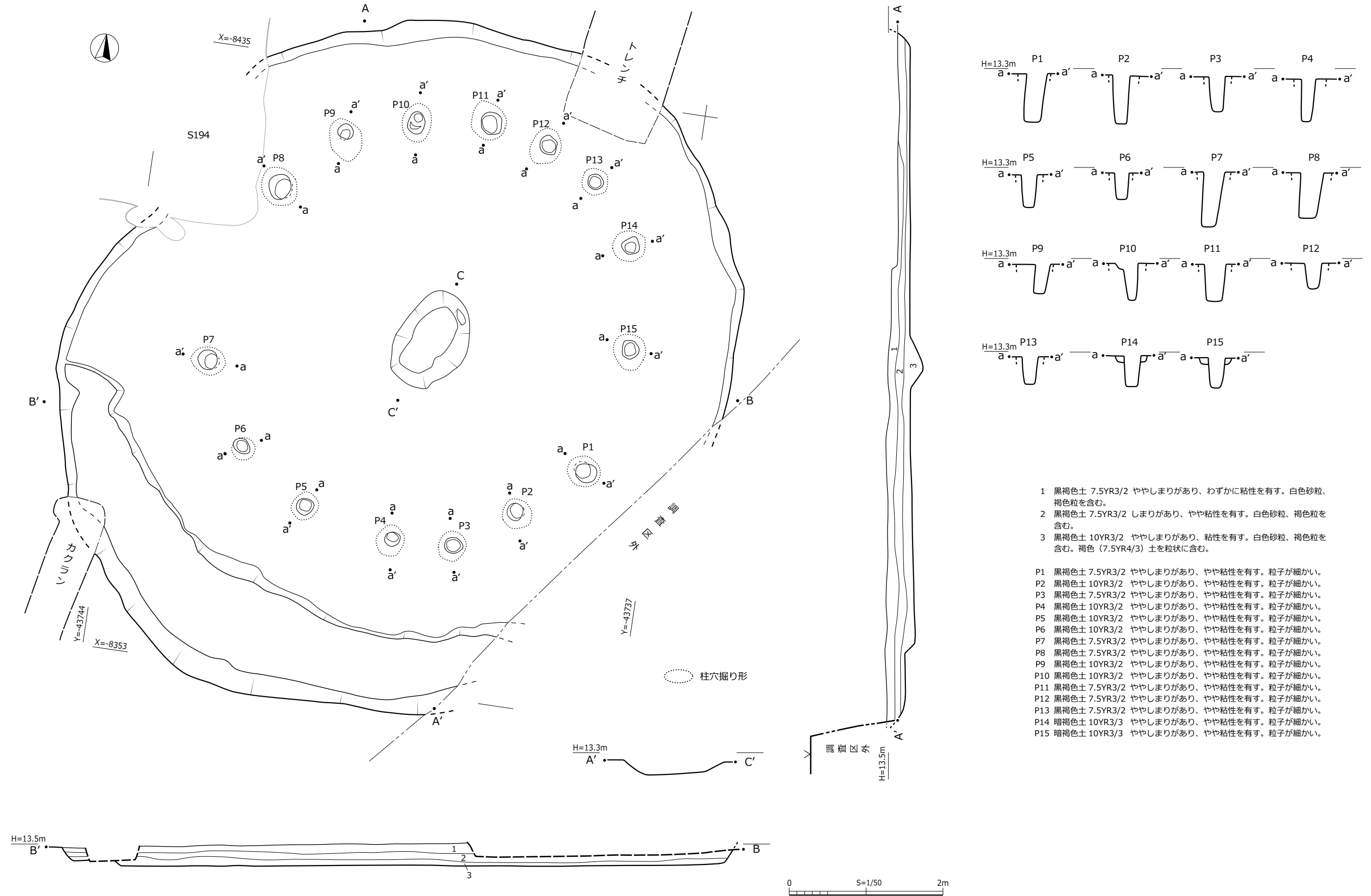
第17図 S172 出土遺物実測図3

【S245】(第 24 図、図版 2・30)

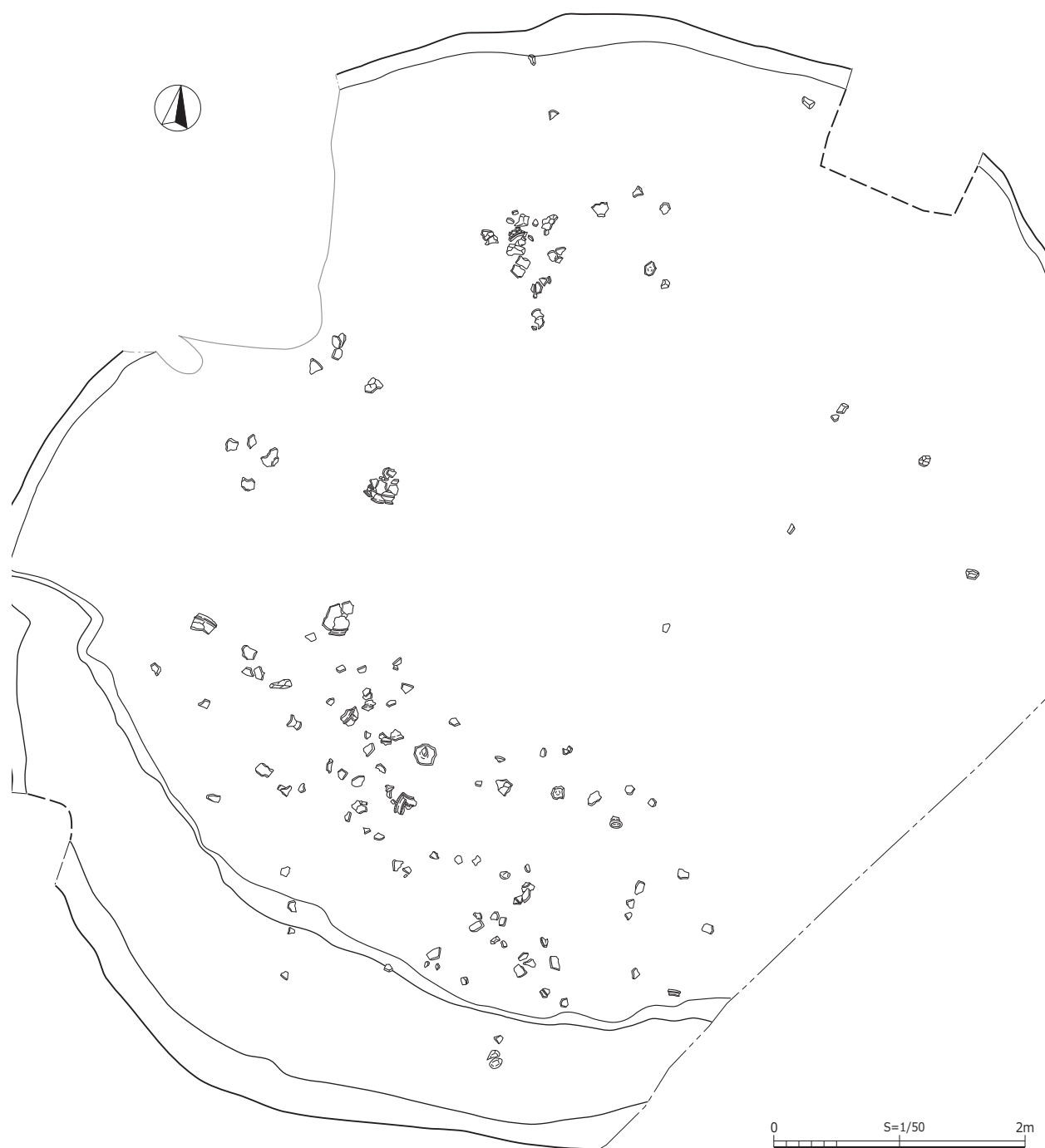
番号	種別	平面形	規模			付帯施設			備考
			直径 (m)	グリッド	切り合い	中央土坑	柱穴	ベッド状	
S245	大型建物	円形	6.94	J-13	—	円形	環状	西側	

S245 は円形の建物跡で、最大直径が 7 m 弱を測る。途中まで方形の竪穴住居跡と認識し調査を行ったため、本来の掘り込みを逸脱し掘削している箇所がある。今回の調査区内で見ついている円形大型建物のうち、溝 (S80) の南側で検出した唯一の例である。中央に土坑 (P14) が掘られるが、隣接して同じような規模の P13 がある。柱穴はやや不揃いだが環状に配されている。西側の壁際には幅 30 cm、深さ 15 cm ほどの溝が掘られている。

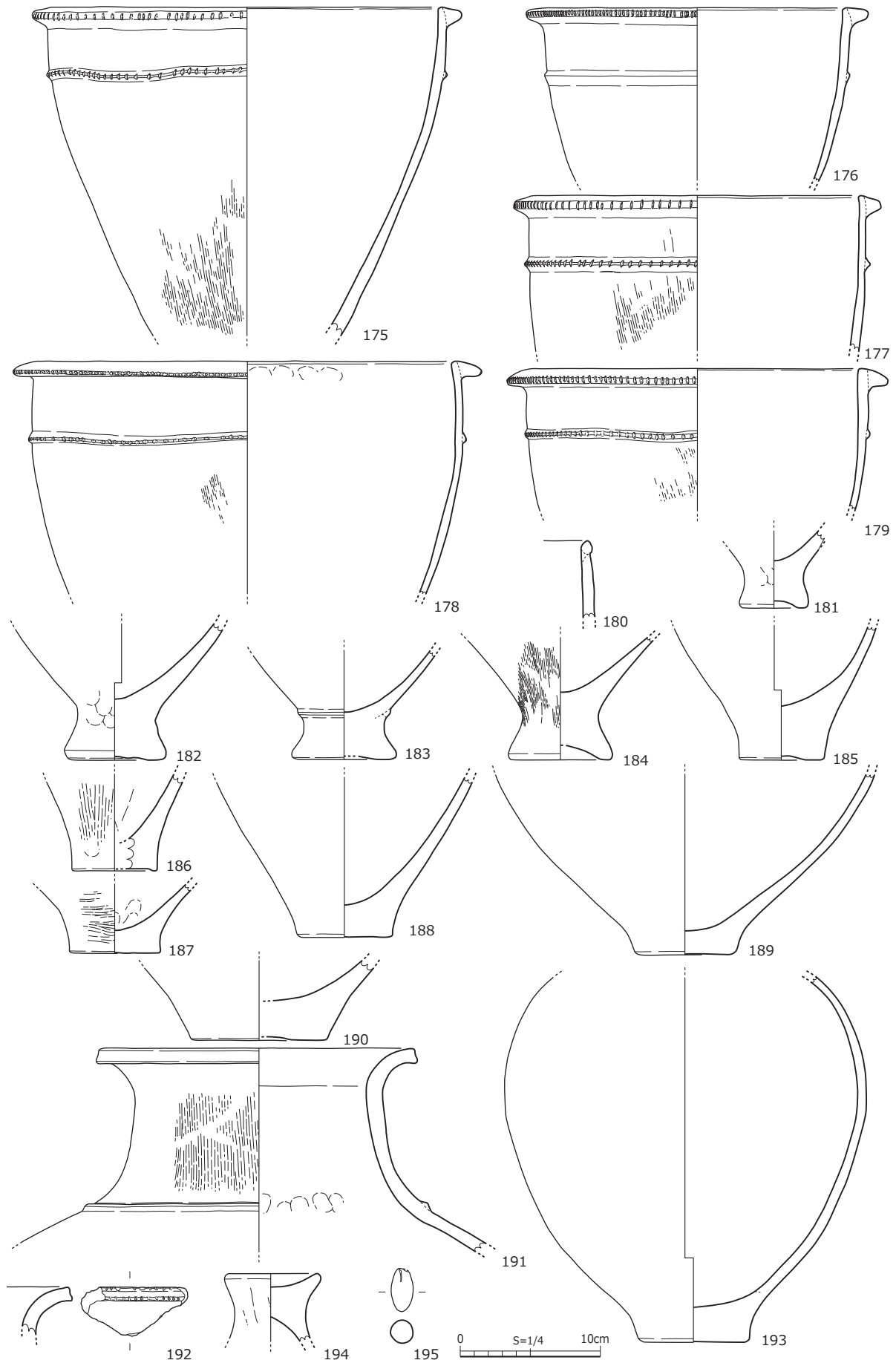
弥生中期の甕形土器 12 点、安山岩製鏃を図示している。甕は口縁部を肥厚させている。底部資料ではわずかに上げ底に作られる。石鏃はどちらも薄い作りで、有茎と凹基無茎の資料が 1 点ずつ出土した。



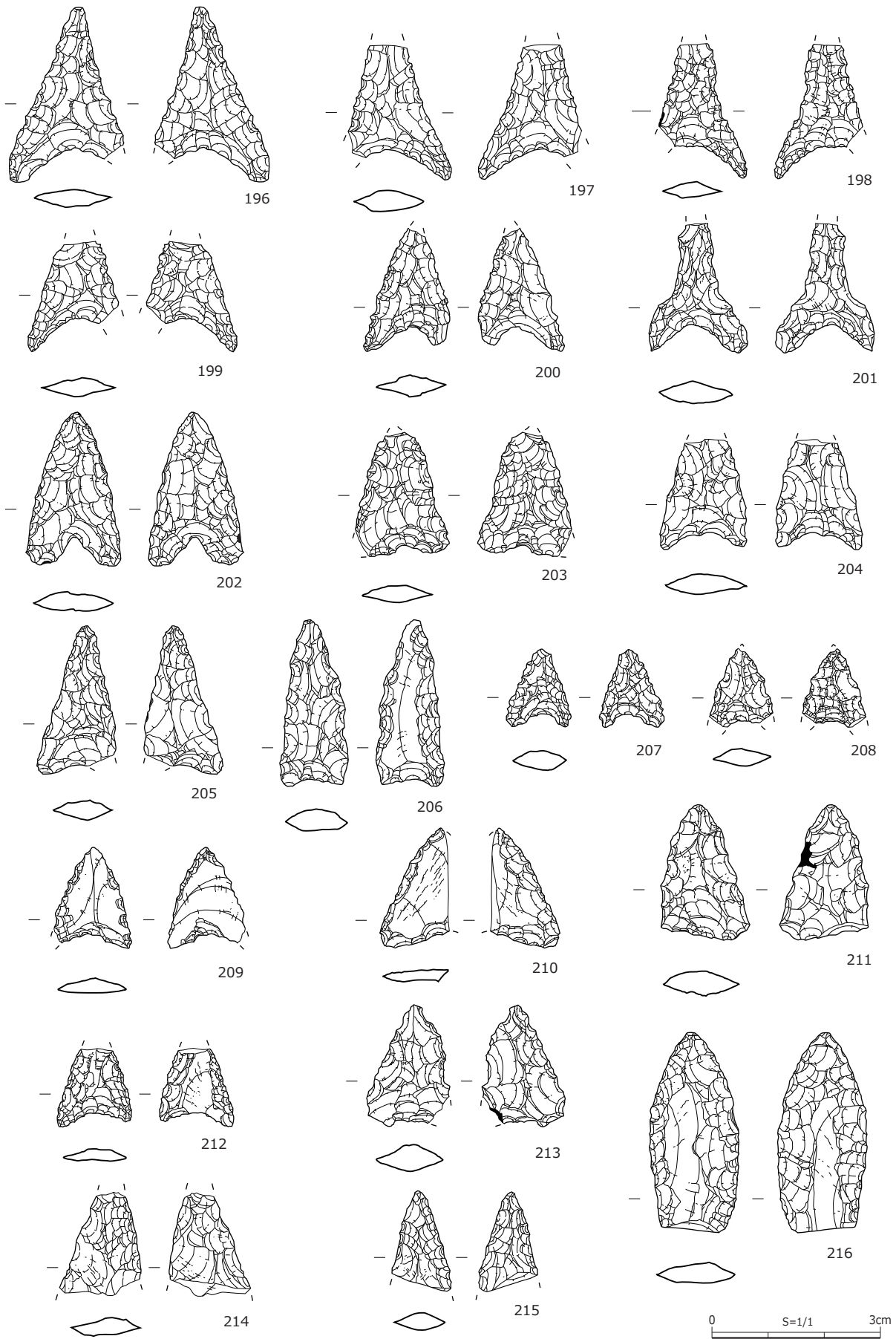
第 18 図 S202 実測図 1



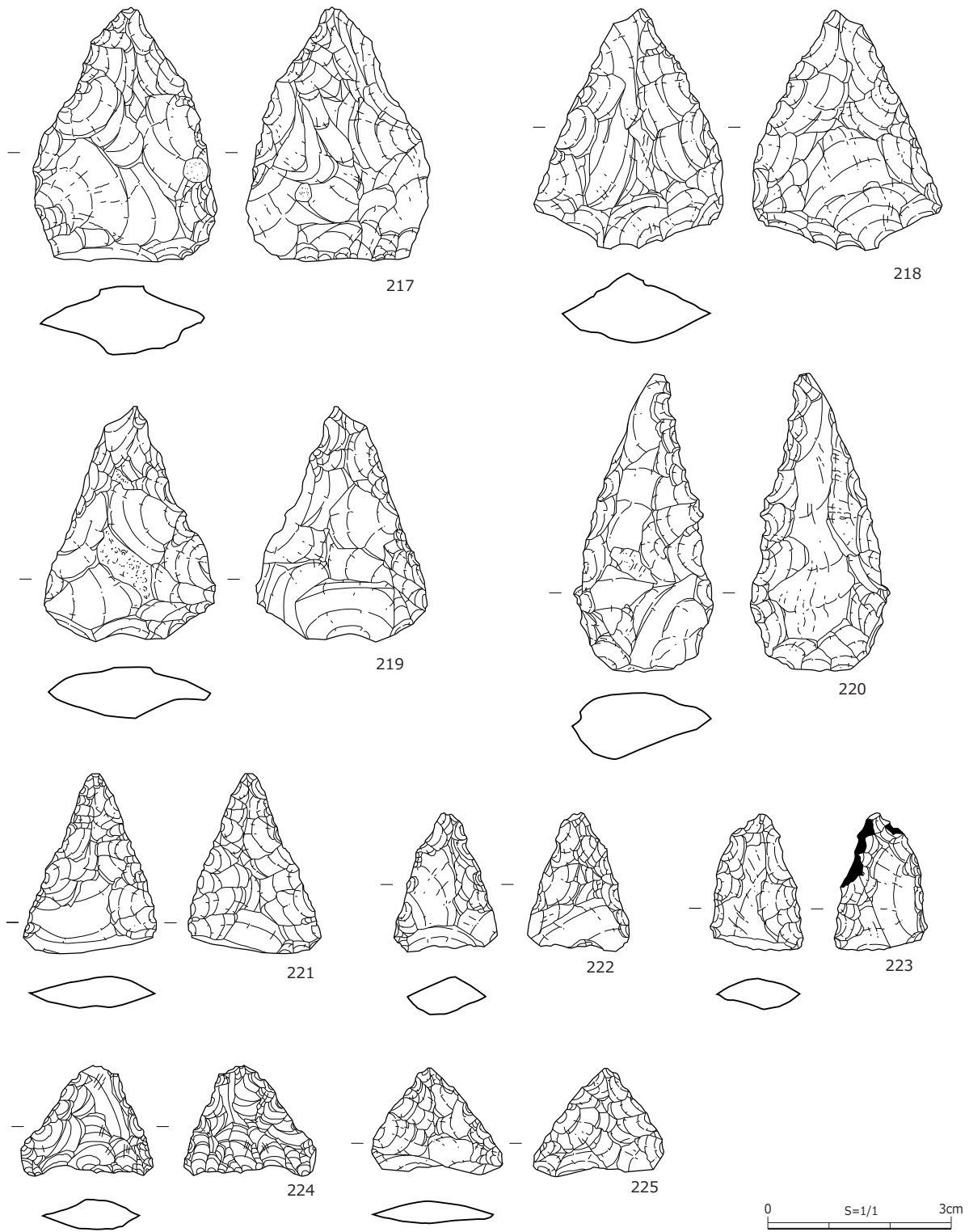
第19図 S202実測図2



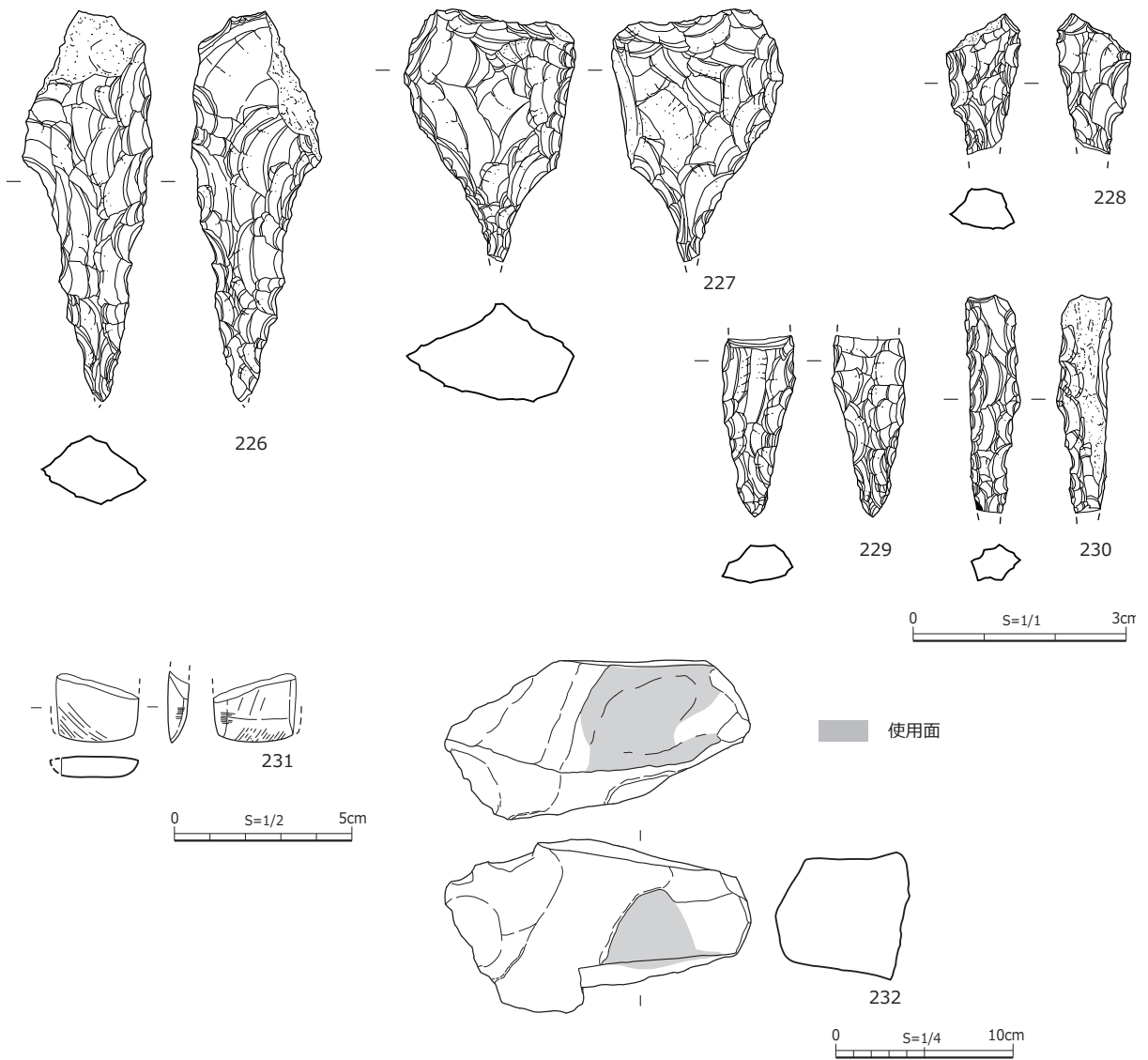
第 20 図 S202 出土遺物実測図 1



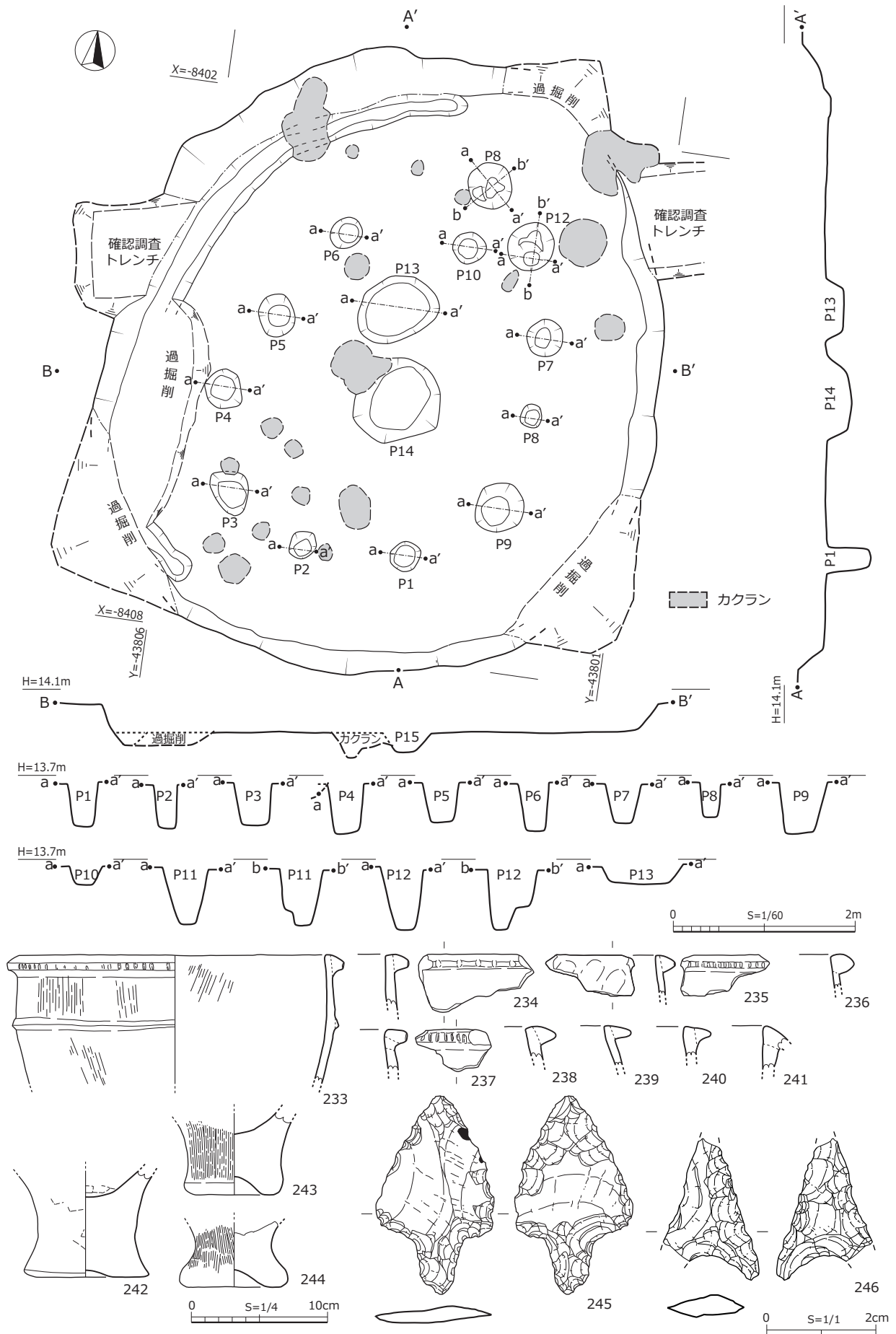
第21図 S202出土遺物実測図2



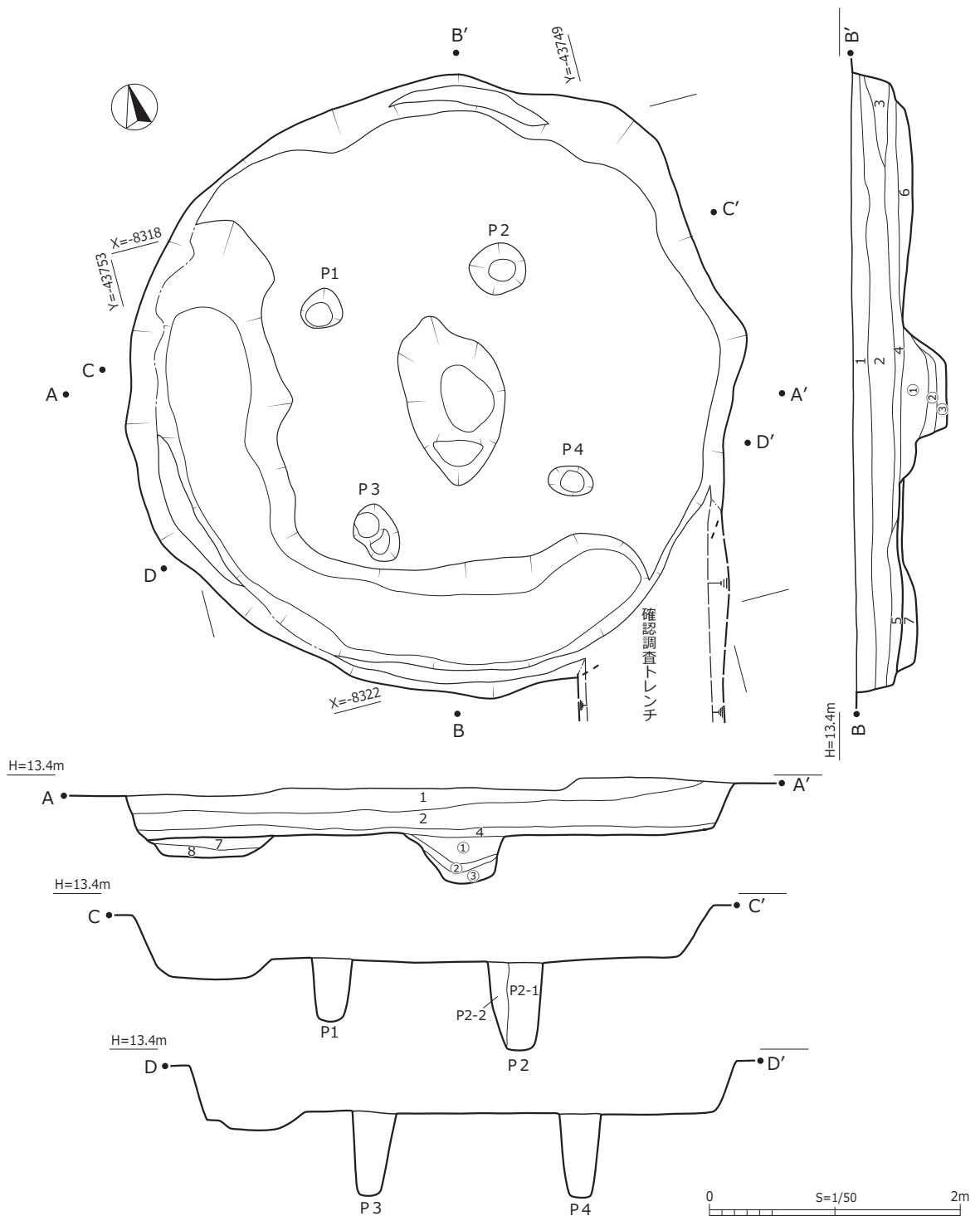
第 22 図 S202 出土遺物実測図 3



第23図 S202 出土遺物実測図4

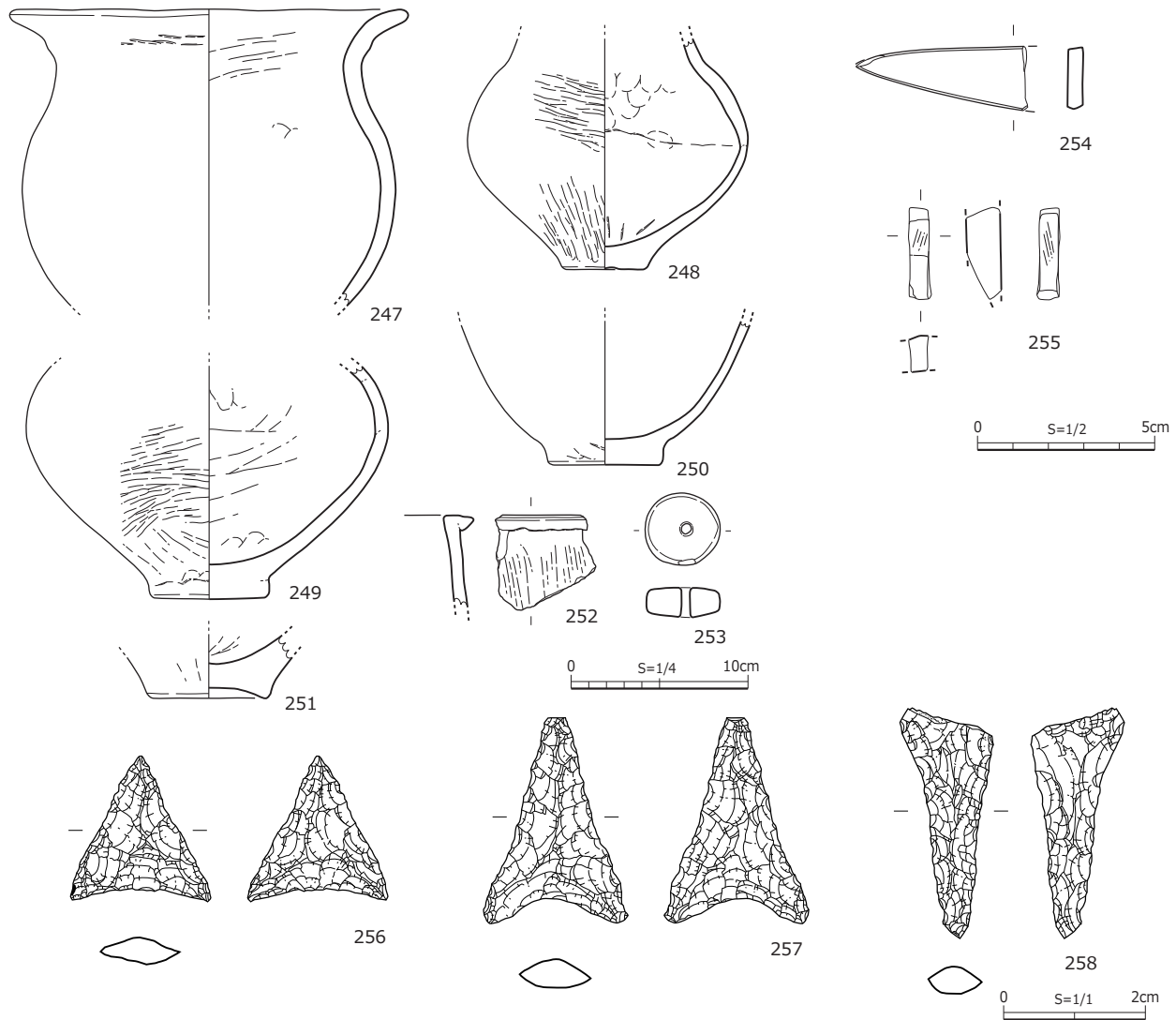


第24図 S245実測図・出土遺物実測図



- | | | |
|---|---|--|
| <p>1 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状にまばらに、白色砂粒をやや多く含む。</p> <p>2 黒褐色土 7.5YR3/2しまりが弱く、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状にわずかに、白色・黄色砂粒をまばらに含む。</p> <p>3 灰黄褐色土 10YR4/2 ややしまりがあり、粘性なし。白色砂粒、黒色土をまばらに含む。</p> <p>4 暗褐色土 10YR3/3 しまりが弱く、弱い粘性を有す。白色砂粒、焼土をまばらに含む。</p> <p>5 黒褐色土 2.5Y3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色・黒色土塊をまばらに含む。</p> <p>6 黒褐色土 7.5YR3/2しまりが弱く、粘性なし。白色砂粒、黒色土塊をまばらに含む。</p> | <p>7 暗褐色土 10YR3/3 しまりが弱く、弱い粘性を有す。上面に薄い黄褐色土層、中位以下に黄褐色土塊をブロック状にまばらに含む。床として造成した土。住居跡としての床面。</p> <p>8 黒褐色土 7.5YR3/2しまりが弱く、弱い粘性を有す。白色・黄色砂粒をまばらに含む。床として造成した土。</p> <p>① 暗褐色土 7.5YR3/3しまりが弱く、粘性なし。黄褐色土をブロック状にまばらに含む。</p> <p>② 黒褐色土 7.5YR2/2しまりが弱く、粘性なし。炭化物、黄褐色土をまばらに含む。</p> <p>③ 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。砂質の地山(岱明層)二次堆積土。</p> | <p>P2-1 暗褐色土 10YR3/3 しまりが弱く、弱い粘性を有す。砂混じりの黄色土をブロック状に多く含む。</p> <p>P2-2 暗褐色土 7.5YR3/4やしまりがあり、粘性なし。柱穴抜き取り痕か。</p> <p>P1 黒褐色土 7.5YR3/2やしまりがあり、粘性なし。黄褐色土の細粒や土塊をまばらに含む。</p> <p>P3 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。黒色・黄褐色土塊をブロック状にまばらに含む。</p> <p>P4 黒褐色土 7.5YR3/2やしまりがあり、弱い粘性を有す。黒色・黄褐色土塊をブロック状にまばらに含む。</p> |
|---|---|--|

第25図 S17 実測図



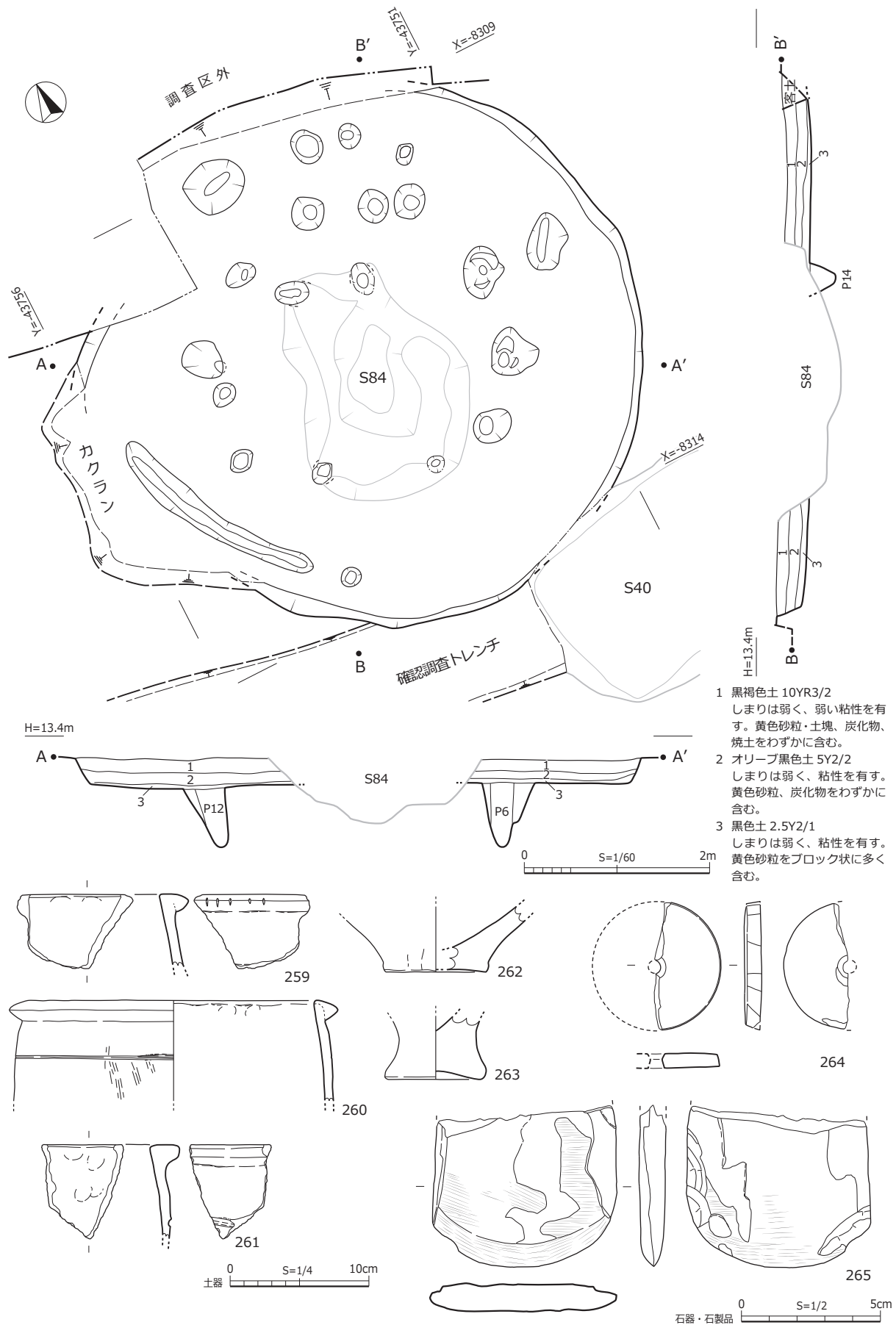
第26図 S17 出土遺物実測図

2. 竪穴住居・竪穴遺構

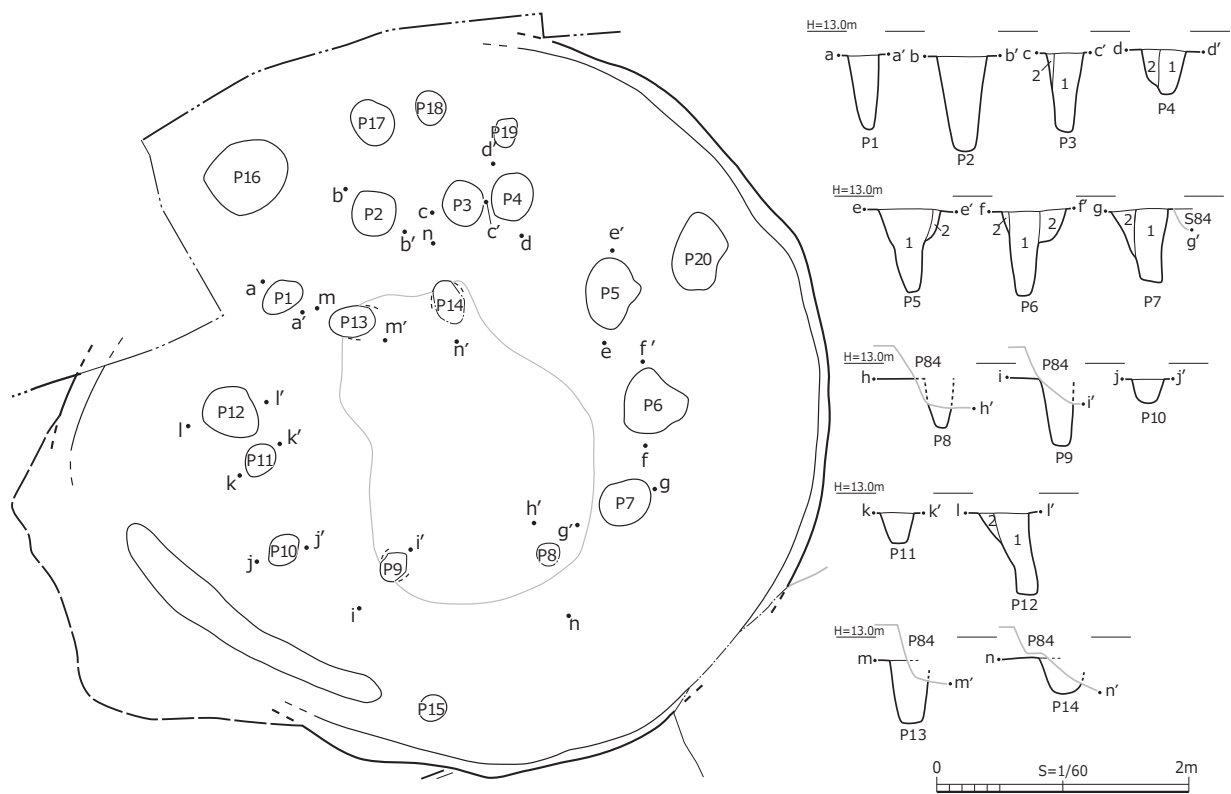
【S17】(第25・26図、図版3・31)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設		備考
			長軸	短軸			主柱穴	中央土坑(m)	
S17	竪穴住居	円形	4.80	5.00	O-22 他	S105→S17	4本柱	1.36×0.78	

S17は調査区北側の弥生時代の竪穴住居や土坑に囲まれるような位置で検出した円形の住居跡で、明確に4本柱となる唯一の例である。南西壁に沿って幅約1mの溝状の掘り込みを持つが、この部分には土を入れて床面としていたようである。S17から出土した土器を見ると壺形が多い。底部も平底で古い要素をもつものが一定量確認できる。



第27図 S104 実測図1・出土遺物実測図



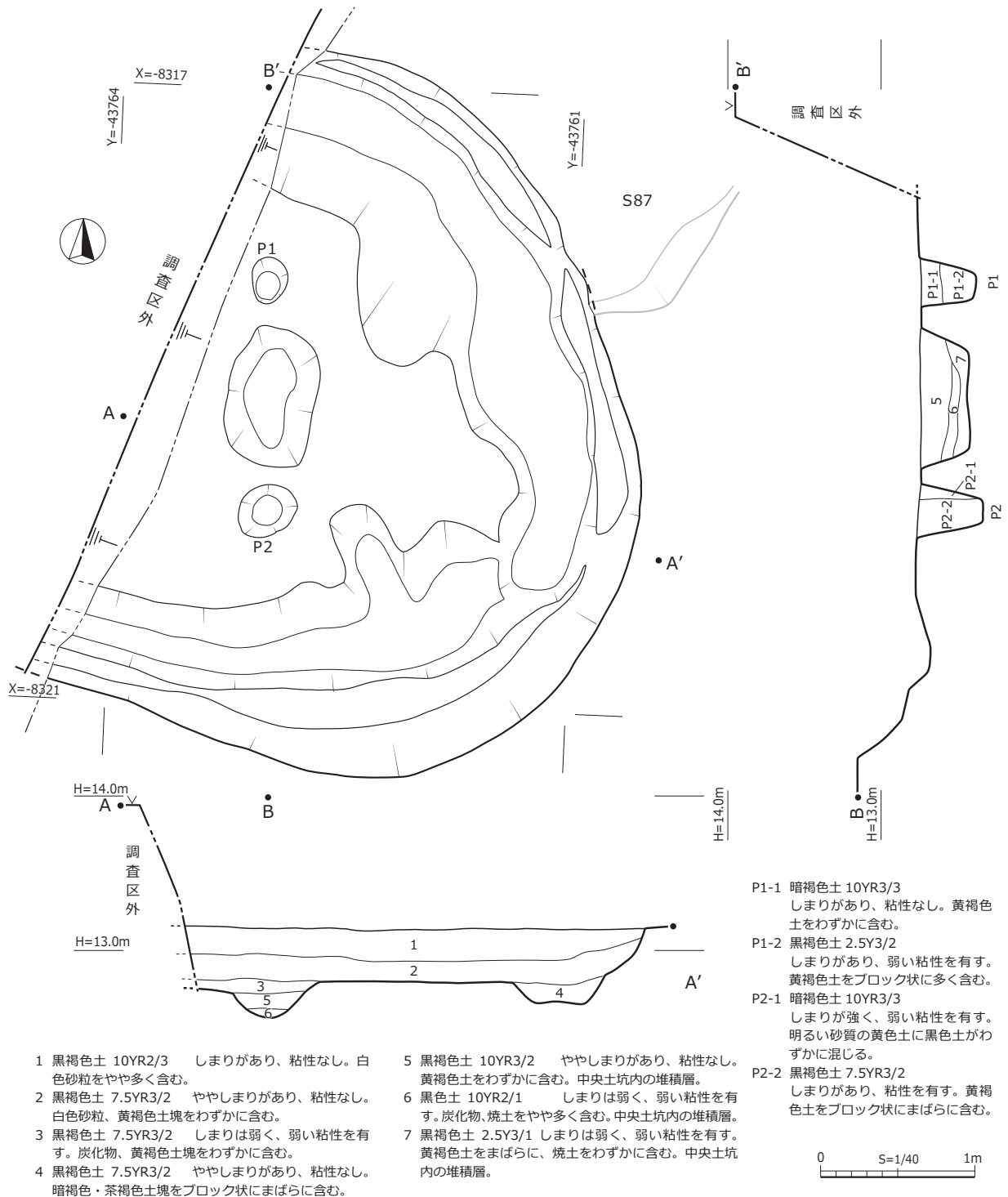
- P1 オリーブ黒色土 10Y3/2 しまりは弱く、粘性なし。黄色土塊をブロック状にわずかに含む。
- P2 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黒色・黄色土塊が大量に混じる。
- P3-1 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、粘性なし。焼土、黄色土塊をわずかに含む。
- P3-2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりがあり、弱い粘性を有す。柱穴の充填土と見られる。周囲の地山を搗き固めたような土。
- P4-1 暗褐色土 10YR3/3 しまりがあり、粘性なし。黄色・黒色土をわずかに含む。
- P4-2 褐色土 7.5YR4/4 しまりがあり、弱い粘性を有す。柱穴の充填土。
- P5-1 暗褐色土 7.5YR3/3 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土をブロック状にわずかに含む。
- P5-2 灰オリーブ色 5Y4/2 しまりがあり、粘性なし。柱穴の充填土、わずかに暗褐色土が混じる。
- P6-1 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。
- P6-2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりがあり、粘性なし。柱穴の充填土。
- P7-1 オリーブ黒色土 10Y3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色土塊をわずかに含む。
- P7-2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりがあり、粘性なし。柱穴の充填土。
- P8 黒褐色土 10YR3/1 ややしまりがあり、粘性を有す。黄色の土塊をブロック状にまばらに含む。(S84-P3)
- P9 黒色土 7.5YR2/1 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄色土塊をわずかに含む。(S84-P4)
- P10 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、粘性なし。黄色土塊をブロック状に、炭化物をわずかに含む。
- P11 黒褐色土 10YR3/1 しまりは弱く、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P12-1 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P12-2 暗褐色土 10 YR3/3 しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。
- P13 黒褐色土 7.5YR3/1 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。周囲の地山の粘性が強い黄色土を多く含む。(S84-P1)
- P14 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。周囲の地山の粘性が強い黄色土を多く含む。(S84-P2)
- P15 黒褐色土 2.5Y3/1 しまりは弱く、粘性なし。黄色土をまばらに含む。
- P16 黒褐色土 10YR3/1 しまりは弱く、粘性なし。暗褐色・黒色・黄褐色の土が斑に入り混じる。
- P17 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、弱い粘性を有す。黒色・黄色土塊をまばらに含む。
- P18 暗赤褐色土 5YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をまばらに含む。
- P19 黒褐色土 7.5YR3/1 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊・砂粒をまばらに含む。
- P20 オリーブ黒色土 5Y3/1 ややしまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。

第 28 図 S104 実測図 2

【S104】(第 27・28 図、図版 32)

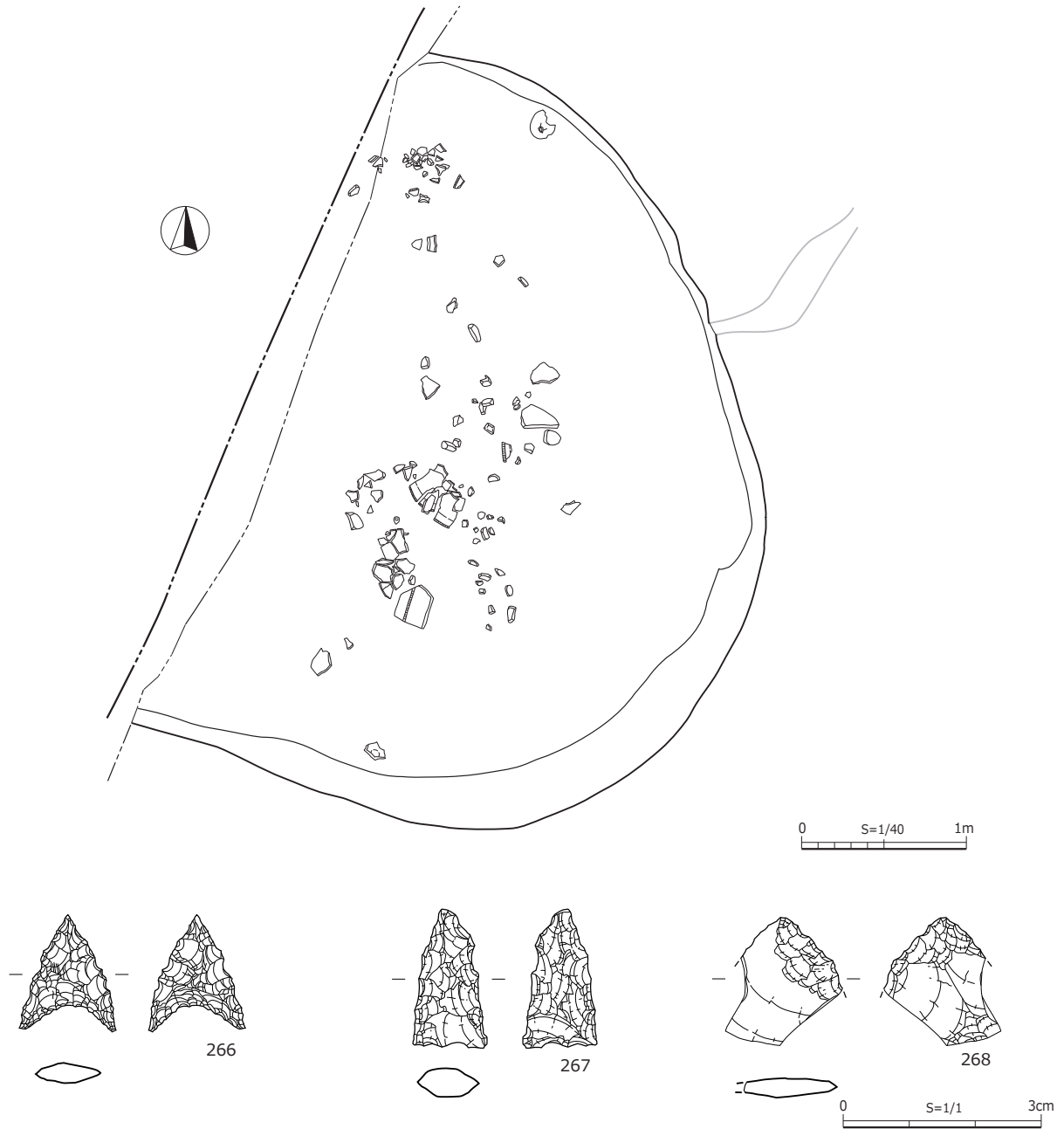
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長軸	短軸			中央土坑	炉	ベッド状	壁周溝	
S104	竪穴住居	円形	6.00	5.84	O-22	S104→S40, S84	?	?	×	南西側 長さ 2.5 m	

S104 は円形を呈す竪穴住居跡で、廃絶から間もなく中央付近には S84 が、南側では S40 が掘削されたと見られる。また北側は調査区外で、南・西側は攪乱及び確認調査のトレンチで一部の壁や床面が削平を受けている。



第29図 S130 実測図1

出土遺物は弥生中期の甕で、口縁部が断面三角形またはカマボコ形に肥厚し、胴部には沈線を1条施す。石器・石製品では石製紡錘車・磨製石斧が得られている。紡錘車はおよそ半分が欠けているものの、中央には両面より穿孔が行われ、全体に丁寧な研磨が施されている。磨製石斧は刃部の資料で、薄い作りで表面の剥落が著しい。石材はともに頁岩などの堆積岩である。

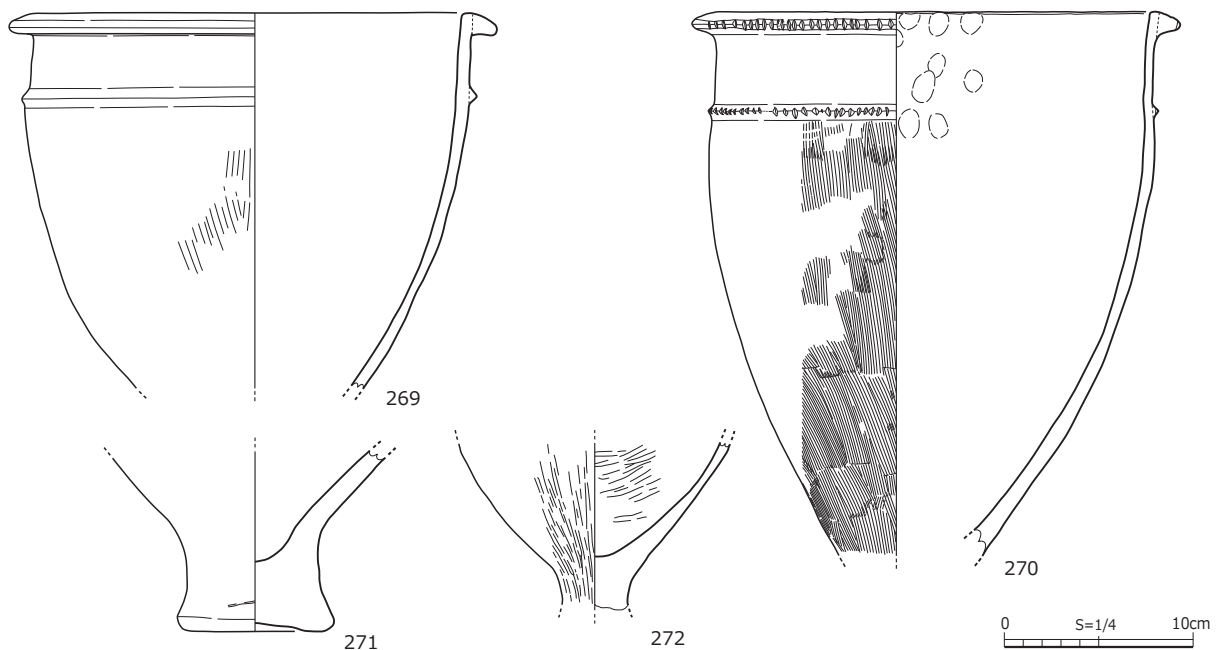


第 30 図 S130 実測図 2・出土遺物実測図 1

【S130】(第 29～31 図、図版 3・32)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長軸	短軸			中央土坑	炉(m)	ベッド状	壁周溝	
S130	竪穴住居	円形	4.5 + α	4.5	N-22	S130→S87	2本?	0.9 × 0.7	—	床面	

S130 はわずかに東西に長い円形の竪穴住居で、北側で S87 に切られ、西側では調査区外へ延びている。中央に楕円形を呈す土坑があり、南北の長軸方向に 1 基ずつピットが掘られている。中央の土坑からは少量ながら炭化物や焼土などが検出されている。床面の壁際に幅 50～70cm の溝が巡り、中央部分は島状の高まりとして残されたように見える。



第31図 S130 出土遺物実測図2

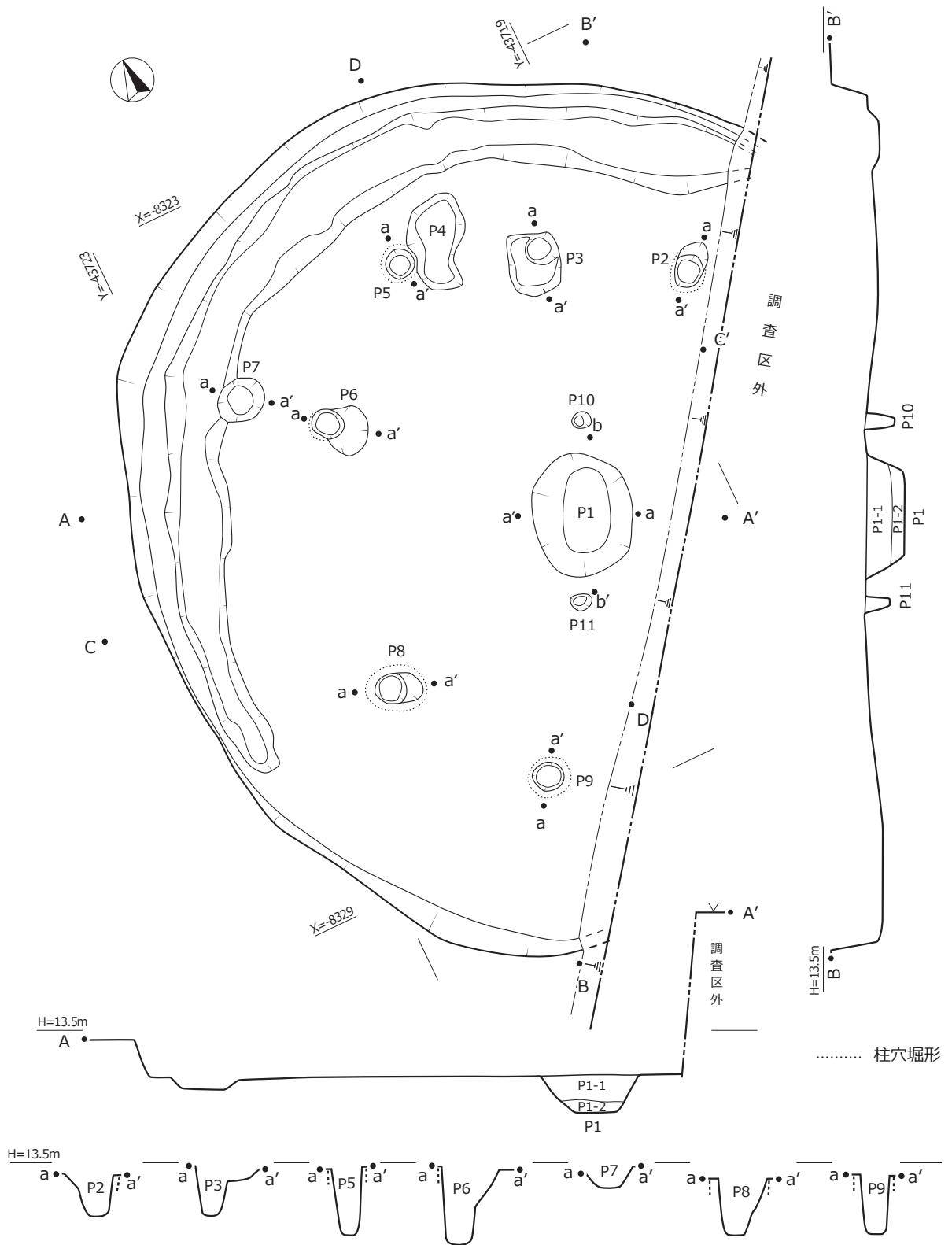
遺構埋土2層を中心に、弥生時代中期の土器や小型の石器及び10cm大の河原石が出土した。弥生土器は口縁を断面三角形に肥厚させ胴部に突帯を施し底部がわずかに上げ底となっている。

【S147】(第32～35図、図版3・33・34)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長軸	短軸			中央土坑	炉(m)	ベッド状	壁周溝	
S147	竪穴住居	円形	7.26	7.00	R-21	S147→S179	環状配列	楕円形	×	北側半分	

S147は円形を呈すと見られる竪穴住居で、南東側の多くが調査区より外にあり、完掘できていない。中央には大きな楕円形のピット(P1)があり、さらに長軸の延長線上に小穴がある。このことより、S147は松菊里[ソングンニ]型住居の系統に繋がると見られる。環状に配された柱穴の一部6本分を確認している。いずれも50cm程度の深さを持ち、柱を立てて固定する際V層を多く含む土で充填し突き固めたとみられ、非常に強く締まっていた。S147の北半壁際には深さ5～10cm、幅60cmほどの溝が巡っている。用途としては不明だが、S17やS202等の同時期の円形竪穴住居においても検出されている。南側ではS147廃絶後に土坑S179が掘られている。

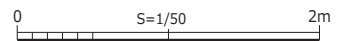
S147より出土した土器は弥生時代中期と見られ、甕形では復元できたものも多く、胴部突帯が沈線に変わっている。底部は明確な上げ底として作られている。壺は球形の胴部にどっしりした安定感のある底部を持っている。石包丁は刃部の角度と双孔の距離から、幅の短い資料と考えられる。頁岩製の紡錘車は節理をうまく利用して作られ、仕上げも丁寧である。砂岩製砥石は台石としても利用できそうな大きさがある。小型の石器(石鏃・石錐)では安山岩の製品が多い。



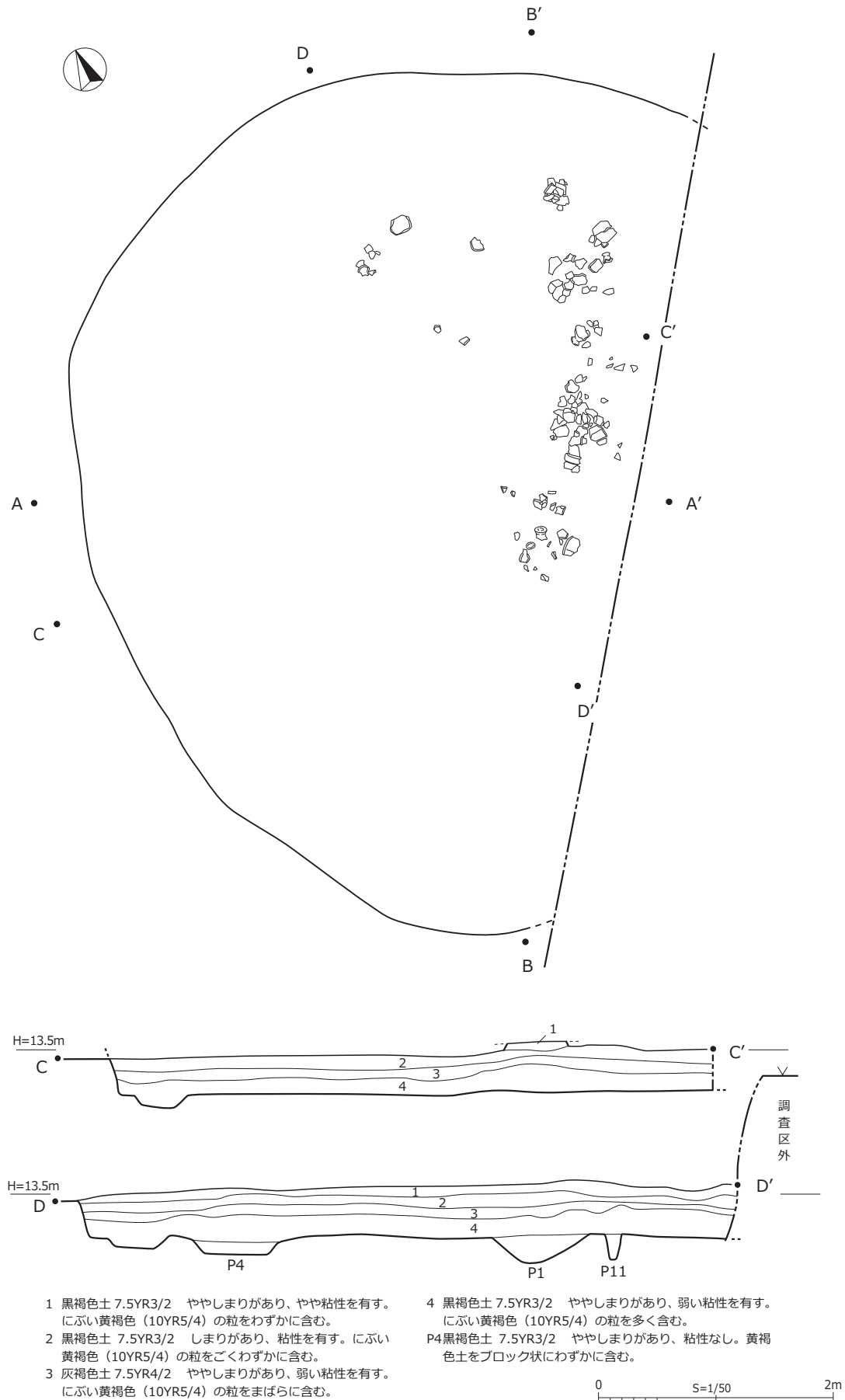
- P1-1 褐灰色土 7.5YR4/1 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土をブロック状にまばらに含む。
- P1-2 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色土をわずかに、炭化物、焼土をまばらに含む。
- P2 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。黄褐色土をブロック状にわずかに含む。
- P3 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土をわずかに含む。

- P5 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。黄褐色土をまばらに含む。
- P6 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色土を上部で多く、下部でまばらに含む。
- P7 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土をわずかに含む。
- P8 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土をブロック状にやや多く含む。

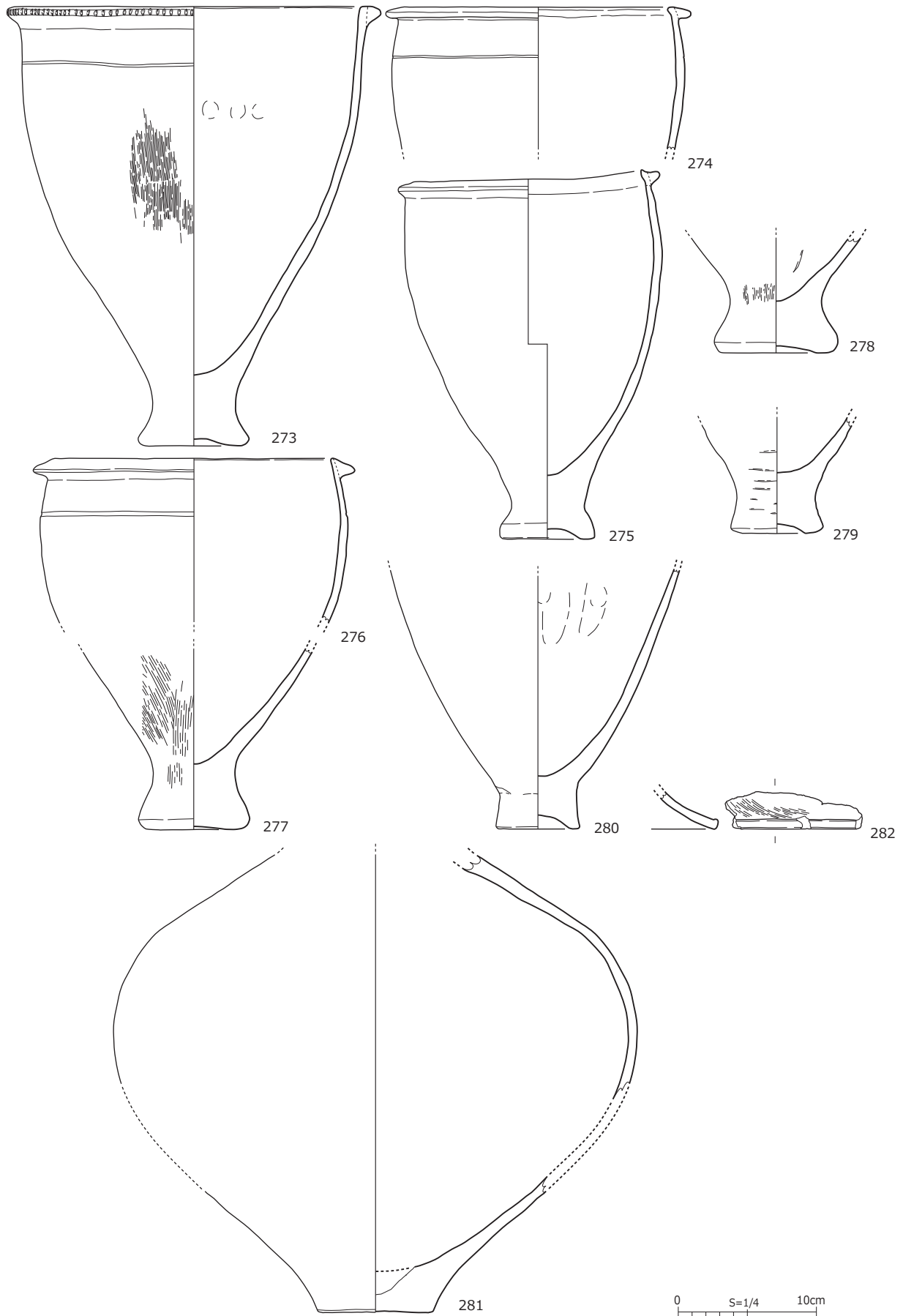
- P9 灰褐色土 7.5YR4/2 ややしまりがあり、粘性を有す。黄褐色土をまばらに含む。
- P10 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色・白色土塊をまばらに含む。
- P11 暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3 ややしまりがあり、やや粘性を有す。黄褐色土塊をやや多く含む。



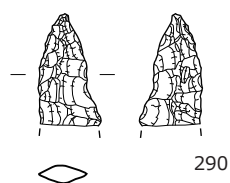
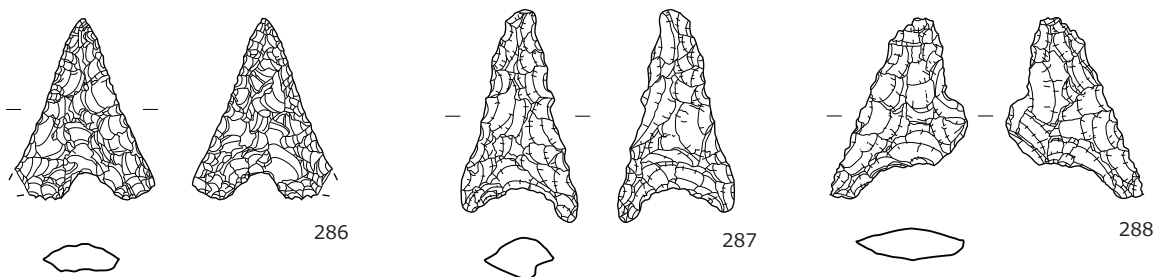
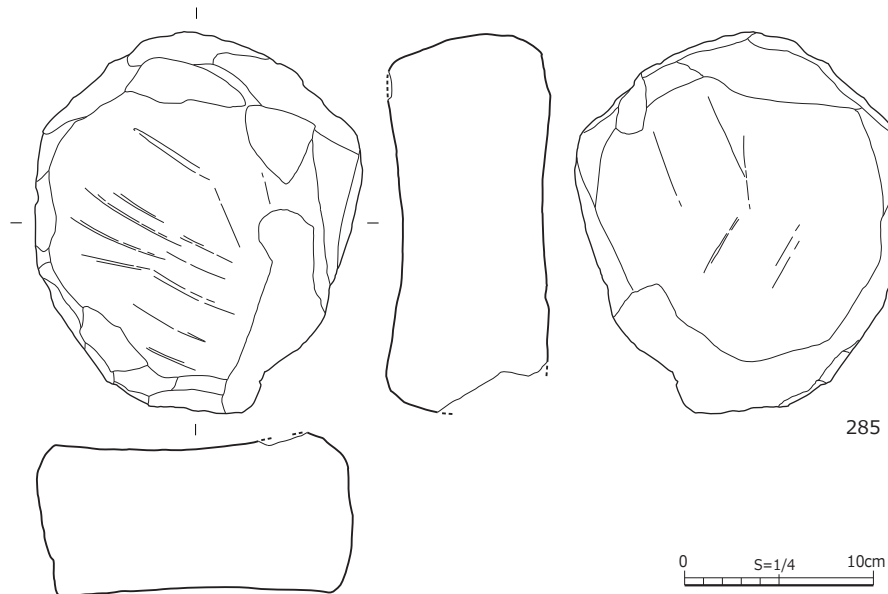
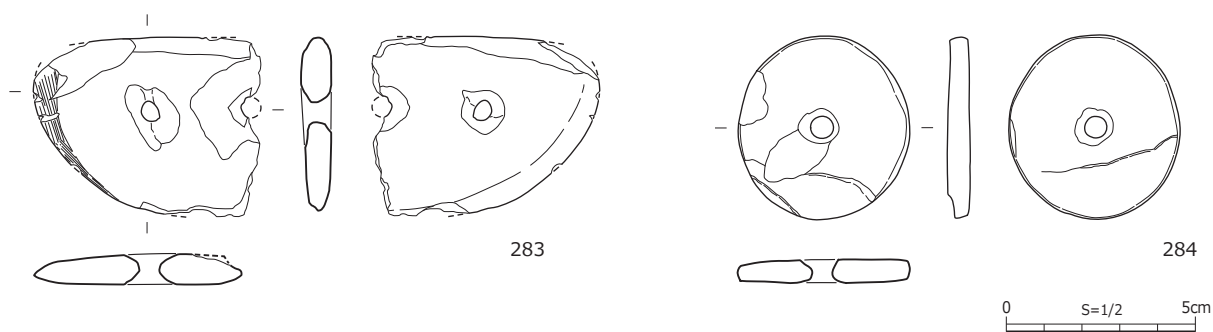
第32図 S147 実測図 1



第33図 S147 実測図2



第34図 S147 出土遺物実測図1



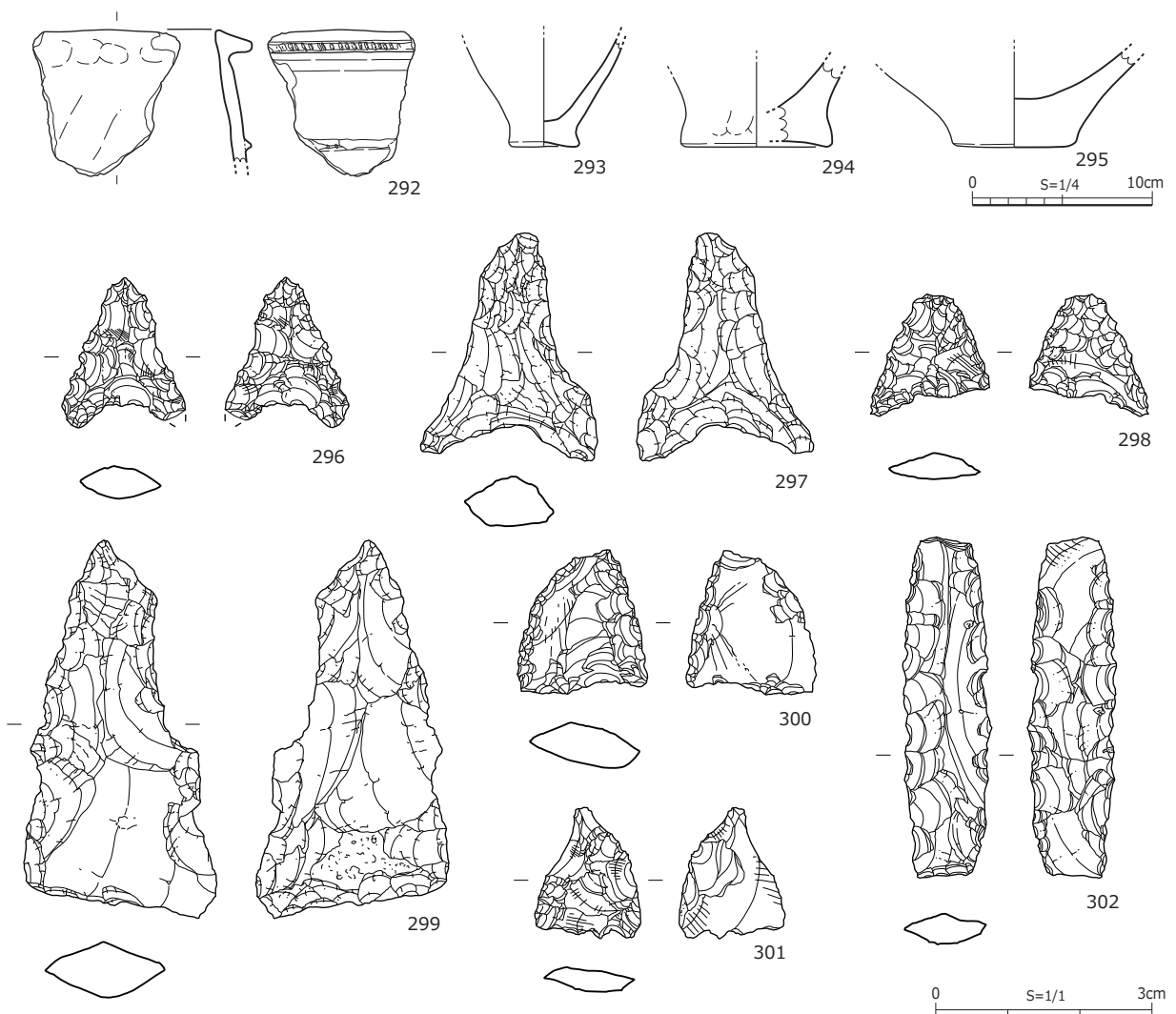
第35図 S147 出土遺物実測図2

【S171】(第36・37図、図版4・34)

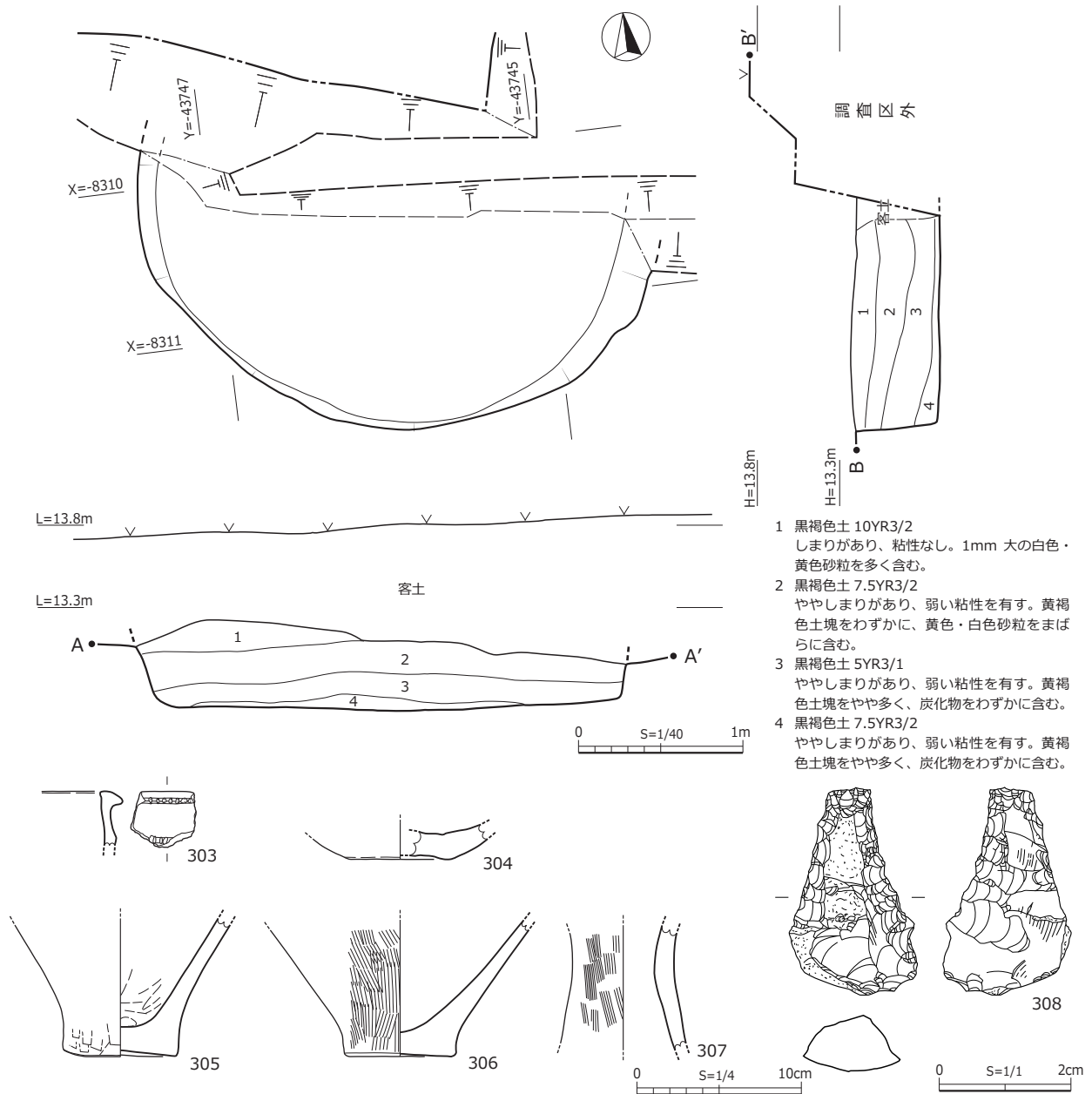
番号	種別	平面形	規模(m) 直径	グリッド	切り合い	付帯施設			備考
						中央土坑	柱穴	溝	
S171	竪穴住居	円形	5.60	R-21	S204→S171→ S153、S170	楕円形	環状	—	

S171 は円形を呈す竪穴住居跡で、楕円形の中央土坑と環状に巡る柱穴がある。西側を S153、南西の一部を S170 に切られ、S204 を切っている。中央土坑に付随するような柱穴や壁際に掘られる溝は確認できていない。

出土遺物は弥生土器と石器を図示している。土器はいずれも弥生時代中期と見られ、口縁部資料は断面三角形の口縁が間延びして下がり、小さな胴部突帯を持っている。底部資料はわずかな上げ底となる甕と平底の壺が見られる。石器は黒曜石や安山岩を利用した小型品で、製作途中の未製品が含まれている。



第37図 S171 出土遺物実測図



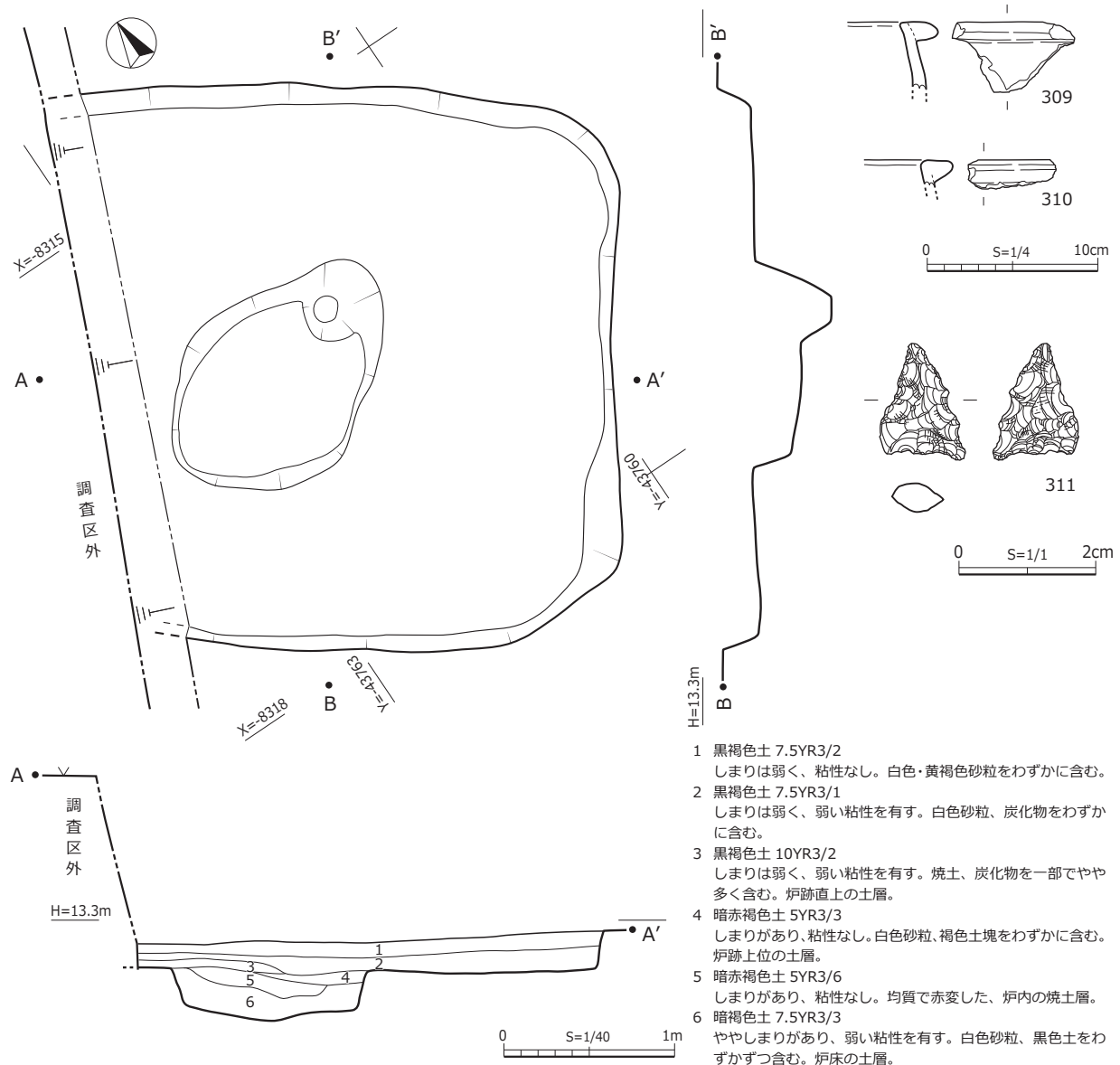
第 38 図 S82 実測図・出土遺物実測図

【S82】（第 38 図、図版 4・35）

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			備考
			長軸	短軸			主柱穴	炉	ベッド状	
S82	竪穴遺構	円形	(3.24)	—	P-22	—	—	—	×	

S82 は円形の竪穴遺構の一部と見られ、北端は後世の道路の切り土や客土で床面よりも深く攪乱を受けた部分までを確認している。直径を復元すると 3.24 m である。壁面はほとんど垂直に掘られ、床面も平坦であった。この大きさから竪穴遺構とした。

S82 から出土した遺物は弥生時代中期の土器（甕・高坏脚部）、黒曜石を素材とした石鏃未製品などである。



- 1 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりは弱く、粘性なし。白色・黄褐色砂粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、弱い粘性を有す。白色砂粒、炭化物をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 10YR3/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。焼土、炭化物を一部でやや多く含む。炉跡直上の土層。
- 4 暗赤褐色土 5YR3/3
しまりがあり、粘性なし。白色砂粒、褐色土塊をわずかに含む。炉跡上位の土層。
- 5 暗赤褐色土 5YR3/6
しまりがあり、粘性なし。均質で赤変した、炉内の焼土層。
- 6 暗褐色土 7.5YR3/3
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒、黒色土をわずかず含む。炉床の土層。

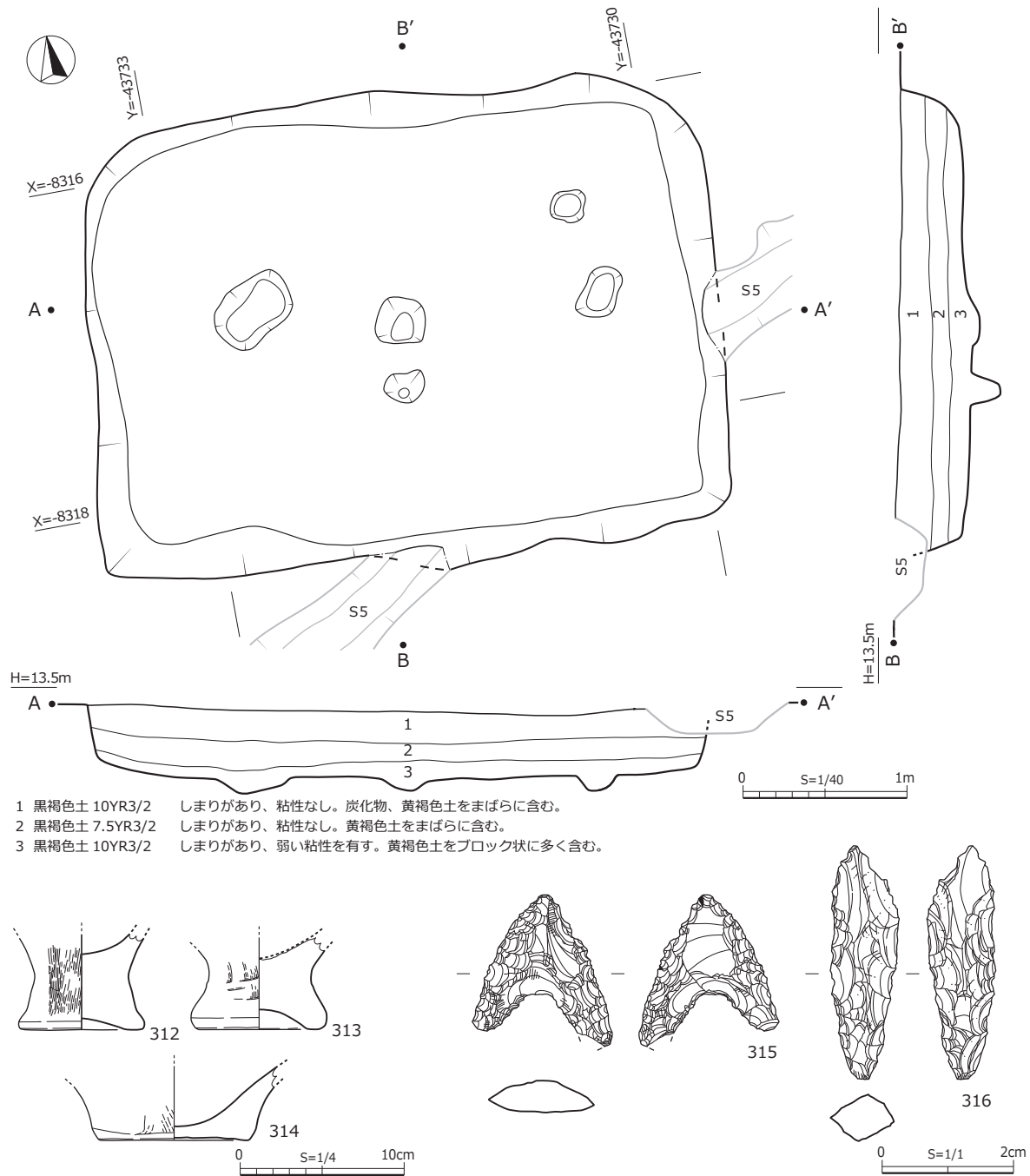
第 39 図 S87 実測図・出土遺物実測図

【S87】(第 39 図、図版 4・35)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉 (m)	ベッド状	
S87	竪穴遺構	方形	3.32	(3.00)	N-22	S130 → S87	×	楕円 1.5 × 1.1	×	×

S87 は西側が調査区外まで広がる方形の竪穴遺構で、S130 を切っており、S87 の方が新しい。床面はほぼ平坦に整えているが、中央に長軸 1.5 m・短軸 1.1 m の楕円形を呈す炉跡と見られる掘り込みを持つ。この炉跡は焼土や炭化物といった混入物をあまり含まず、部分的に赤みの強い土が集中している。

S87 からは弥生時代中期の甕形土器口縁部や黒曜石製鏃が出土した。

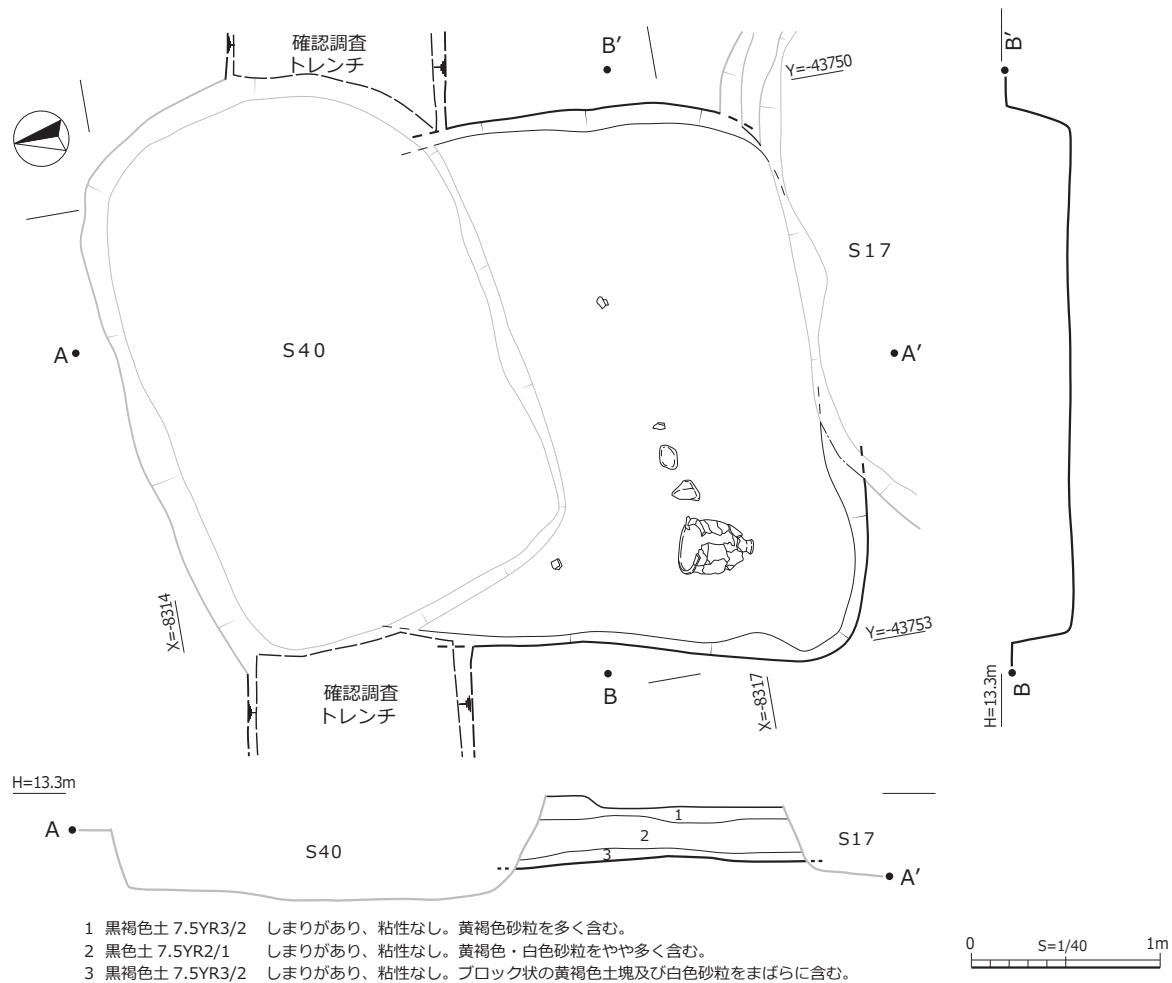


第40図 S103 実測図・出土遺物実測図

【S103】(第40図、図版5・35)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S103	竪穴遺構	長方形	3.86	2.74	Q-22	S103→S5	2本?	?	×	×	貯蔵穴か

S103は調査区北東端で確認した長方形の竪穴遺構で、2本の主柱穴及び炉跡に相当する位置でピットを確認している。ただし、主柱穴とするには掘り込みが約10cmとかなり浅く、炉跡とするには炭化物や焼土など、火熱に関する痕跡があまりに少ない。この遺構と同様の形態や出土



第41図 S105 実測図

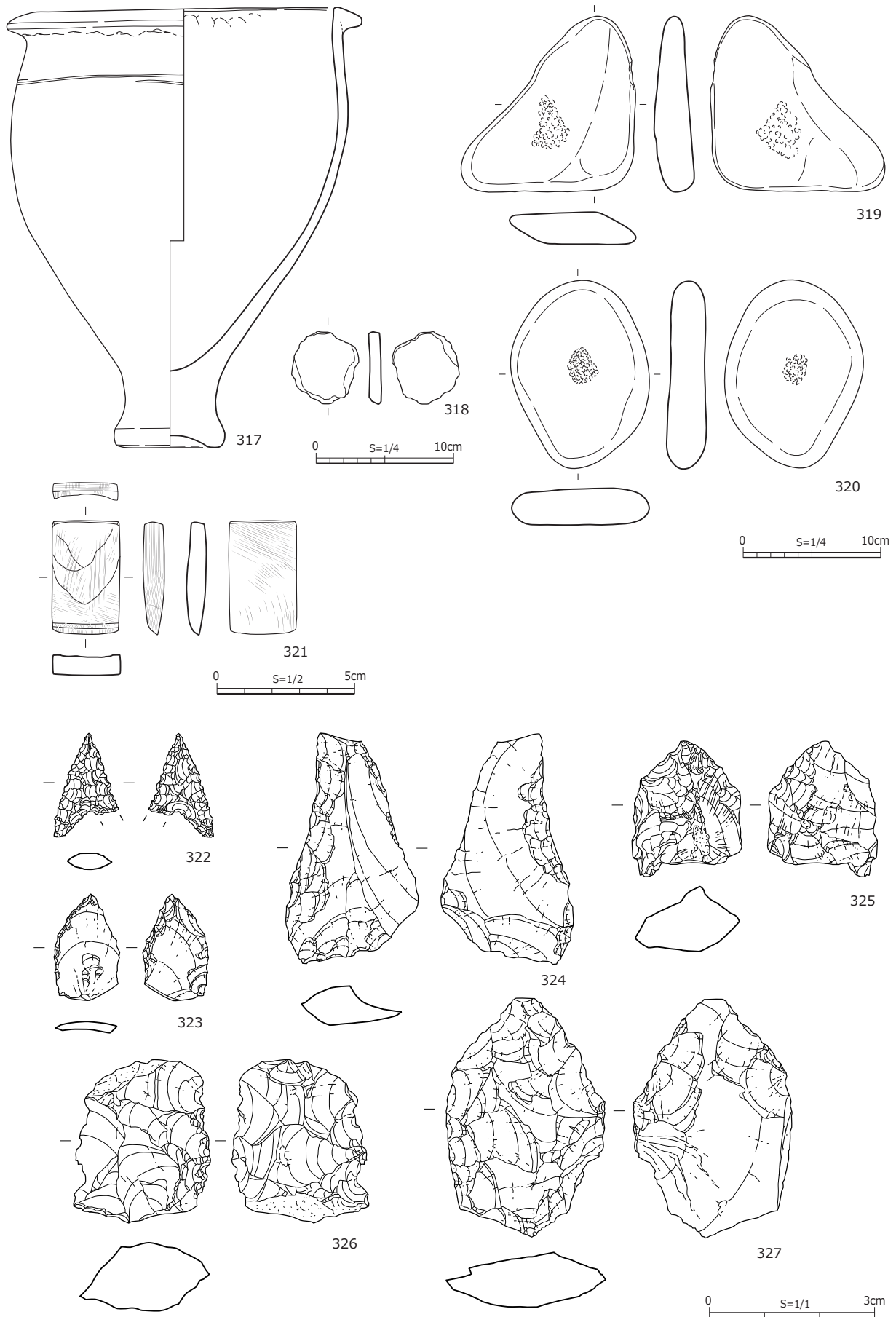
遺物の内容を持つ竪穴遺構が周辺に数基存在する。S103 から出土した遺物は弥生土器・石器などで、甕底部の形状から弥生中期の時期と見られる。

【S105】(第41・42図、図版5・36)

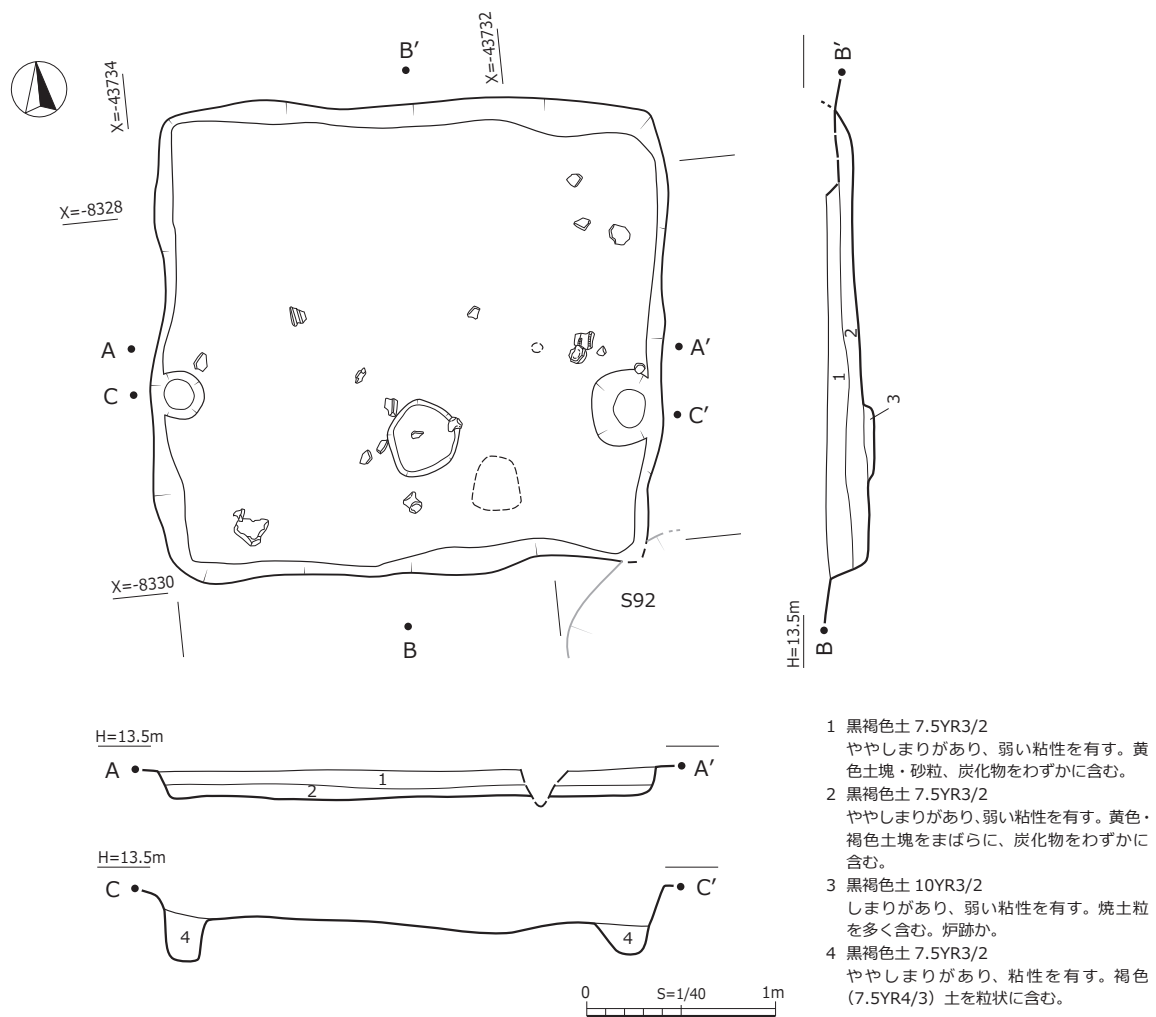
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炬	ベッド状	壁周溝	
S105	竪穴遺構	方形	2.84	(2.40)	0-22	S105→S17、S40	×	×	×	×	

S105は平面方形の竪穴遺構で、底面はほぼ平坦で柱穴などは確認できなかった。北側をS40に、南側をS17にそれぞれ切られている。また、確認調査のトレンチでも北側の一部を削られてしまった。

床面の直上から、完形に近い弥生土器の甕や磨石2点を検出した。甕は口縁部を断面三角形に肥厚させ、胴部上位に沈線を巡らせている。胴部に張りがあり、底部は上げ底である。磨石は2点とも扁平な安山岩礫を利用し、両面の中央付近に細かな敲打痕を残している。また、遺構埋土からはシルト質の泥岩と見られる石材を利用した小型の扁平片刃石斧及び安山岩や黒曜石を利用した小型品の加工途中の未製品が出土した。



第 42 図 S105 出土遺物実測図



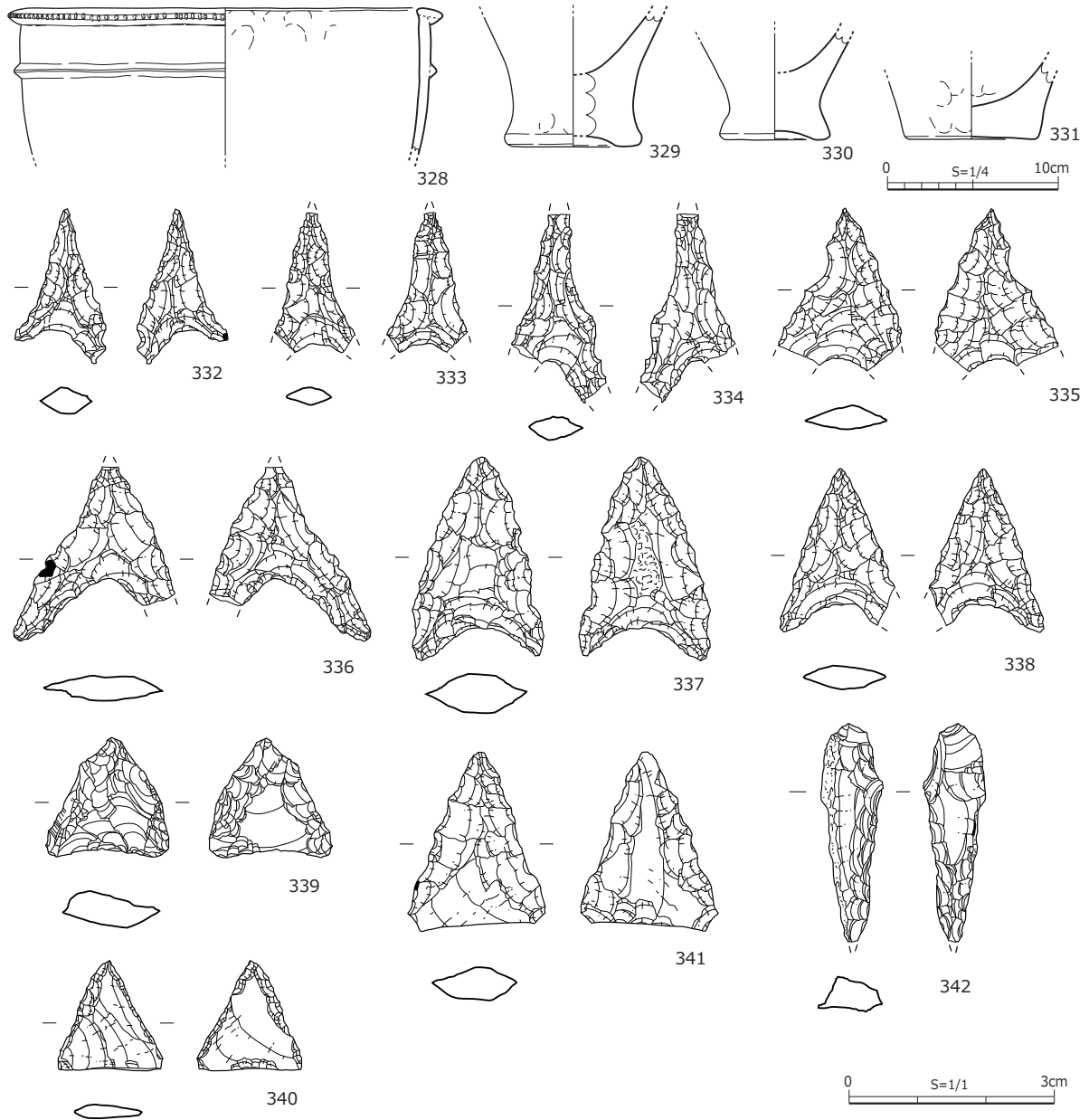
第43図 S152 実測図

【S152】(第43・44図、図版5・36)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	備考			
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝
S152	竪穴遺構	方形	2.68	2.50	Q-21	S186→S152→S92	2本?	円形?	×	×

S152はほぼ方形を呈す竪穴遺構であり、東西方向がわずかに長い。東西壁際のやや南寄りにピットがある。頑丈な屋根を乗せるほどの柱を支えるには深度が不足し、簡易な小屋掛けのような施設が想定できる。また、南側中央には浅い掘り込みがあり、焼土粒を多く含むことから炉跡の可能性はある。南東隅の一部を土坑 S92 に切られる。

S152からは弥生中期の土器や小型の石器(鏃・錐)が出土した。土器は甕形で、刻目のある肥厚口縁と胴部突帯を持つ。底部資料では、平底とわずかに上げ底となるものを図示した。



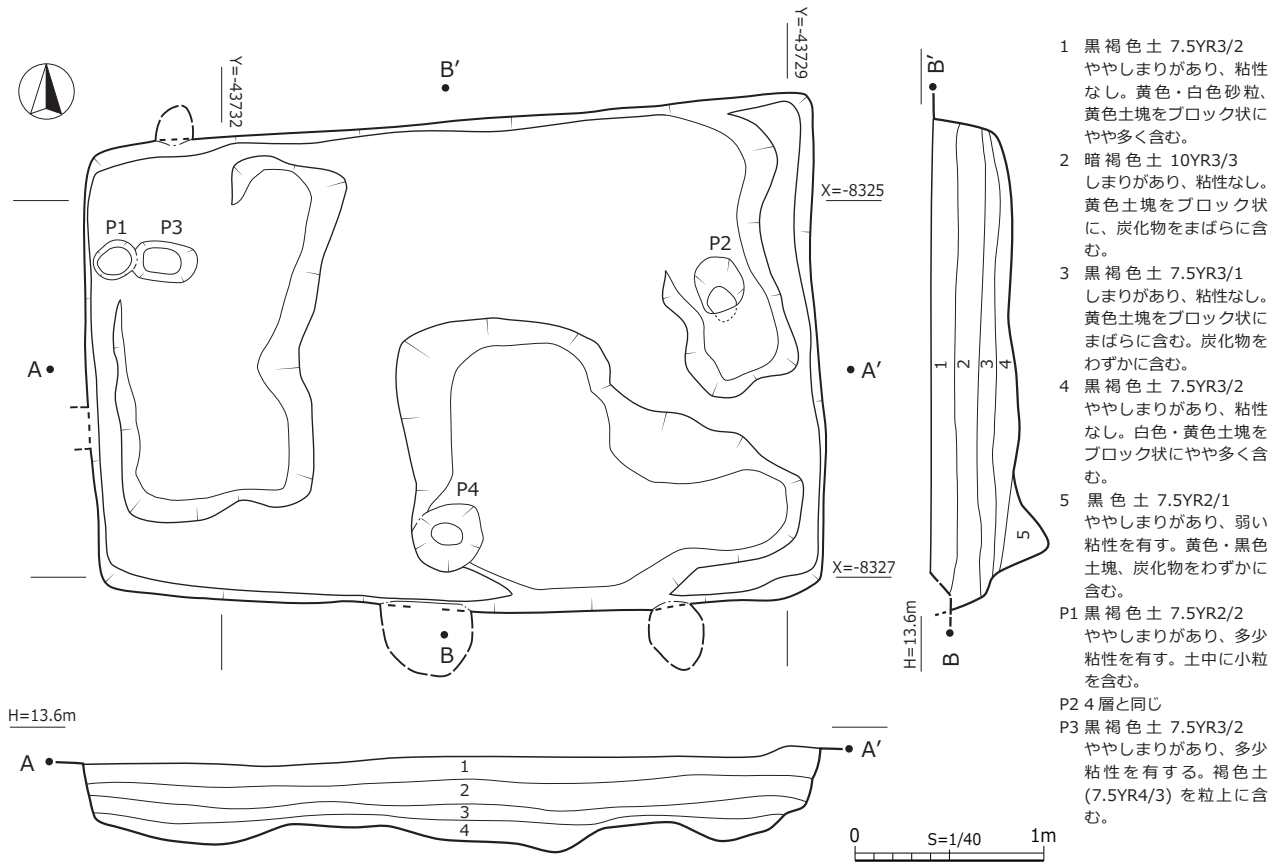
第 44 図 S152 出土遺物実測図

【S153】(第 45 図、図版 6・37)

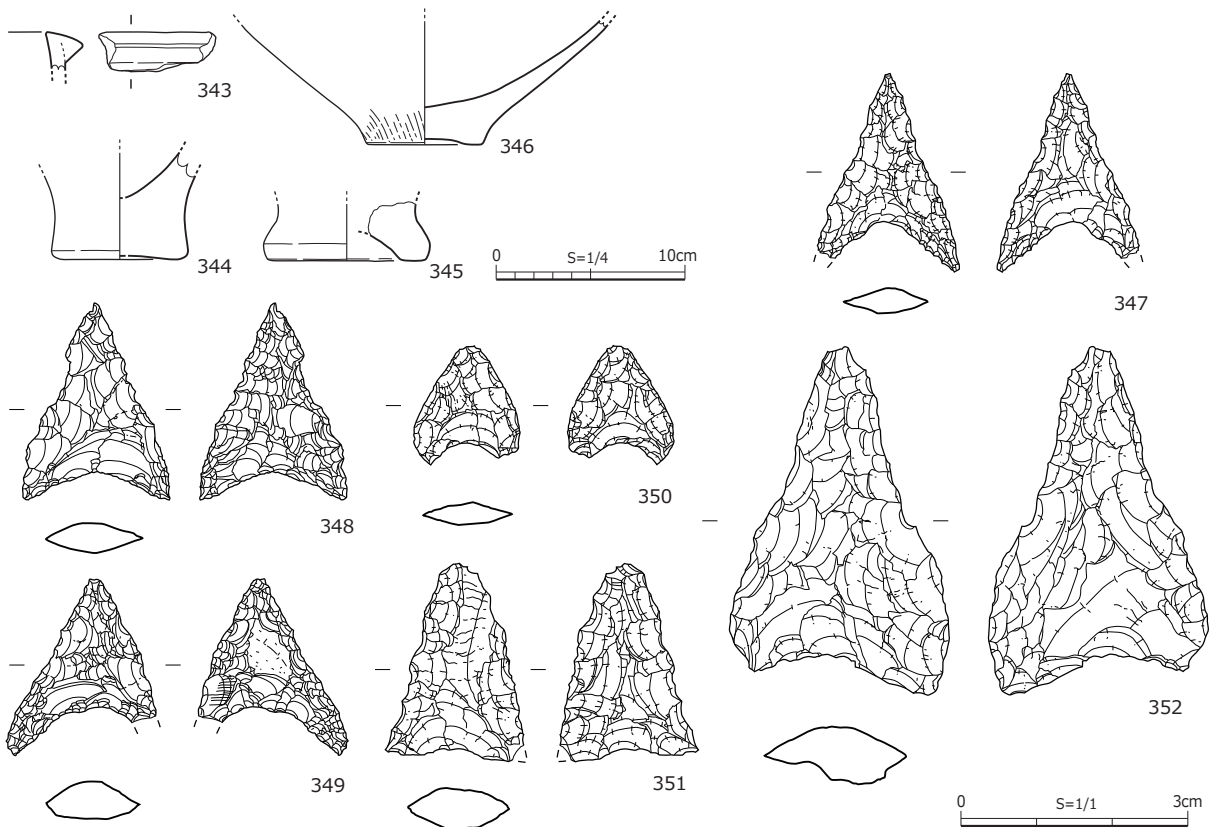
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炬	ベッド状	壁周溝	
S153	竪穴遺構	長方形	3.90	2.66	Q-21	S171→S153	×	×	×	×	

S153 は長方形を呈す竪穴遺構で、床面には 10cm ほどのくぼみが見られる。またこの床面では複数のピットを確認しているが、柱穴となりそうなものはない。東側では円形建物跡 S171 を切っている。

S153 からは弥生中期の土器や石鏃が出土している。土器は甕・壺があり、弥生時代中期のものである。甕形では断面三角形の肥厚口縁部片、平底・上げ底の底部がある。壺形は底部の資料で、



- 1 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、粘性なし。黄色・白色砂粒、黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/3
しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状に、炭化物をまばらに含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、粘性なし。黄色土塊をブロック状にまばらに含む。炭化物をわずかに含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、粘性なし。白色・黄色土塊をブロック状にやや多く含む。
- 5 黒色土 7.5YR2/1
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄色・黒色土塊、炭化物をわずかに含む。
- P1 黒褐色土 7.5YR2/2
ややしまりがあり、多少粘性を有す。土中に小粒を含む。
- P2 4層と同じ
- P3 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、多少粘性を有する。褐色土(7.5YR4/3)を粒上を含む。



第45図 S153 実測図・出土遺物実測図

わずかに上げ底となる。石鏃は未製品もあり、さまざまな形態の鏃が製作・使用されたと見られる。

【S201】(第 46 図、図版 6・37)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長軸	短軸			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S201	竪穴遺構	楕円形	(4.70)	3.89	R-20	S201 → S170、 S171、S172	×	円形	×		南西側

S201 は南北方向に長い楕円形を呈す竪穴遺構で、北側を土坑 S170 と竪穴住居 S171 に、南西側は大型建物 S172 に切られている。特に S172 の掘削は半分以上に及び、遺構埋土ごと床面近くまで切り取っている。中央には掘り込みがあり炭化物を含む堆積も確認出来ることから炉跡と見られるが、約 2 m 北には床面に赤化部がある。また、S201 に属する明確な柱穴は示すことができなかった。

図化した出土遺物は石器で、磨製石斧は刃部を潰して敲石に転用したものか。

【S368】(第 47 図、図版 6・38)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S368	竪穴遺構	方形	1.8 + α	1.7 + α	R-21	S172 → S368	×	×	×	×	

S368 は方形状になると見られる竪穴遺構で、大型建物 S172 を切り、南西側は調査区外へ延びている。北西の一角が検出された状態にすぎず、竪穴遺構に付随する柱穴や壁周溝も確認できていないことから、土坑の可能性もある。

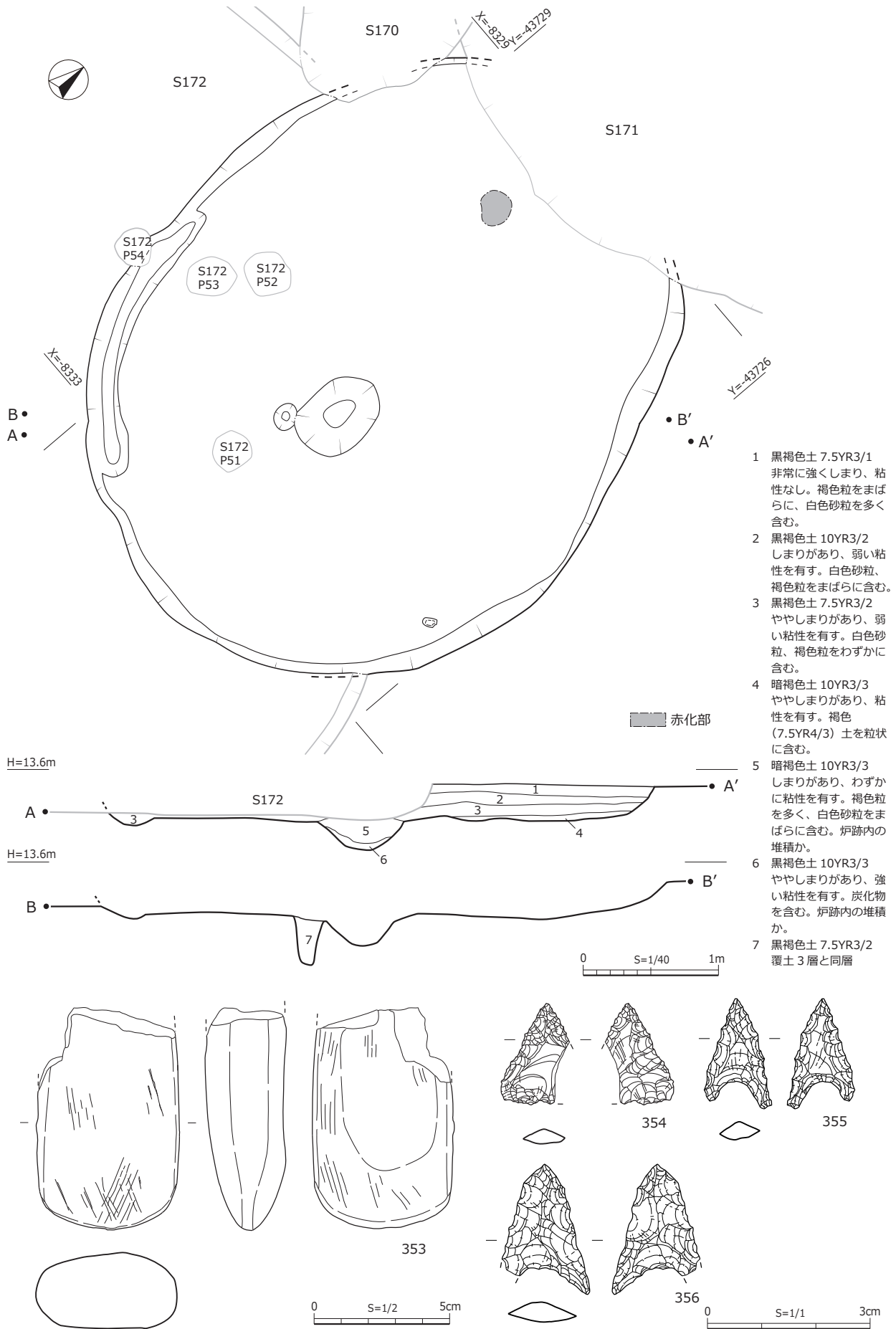
S368 から出土した遺物は弥生中期の甕形土器、石器（石剣・錐）である。甕はいずれも口縁を肥厚させるものだが、やや間延びしており、垂れ下がるものもある。胴部突帯は小さいものが貼り付けられている。磨製石剣は玄武岩質安山岩製と見られ、風化によってほとんど表面が剥離してしまっている。わずかに基部で丁寧な研磨痕が残っていた。刃部は先端から半ばで折れている。安山岩製石錐はつまみ部分がなく、棒状に加工されている。

【S369】(第 48 図、図版 38)

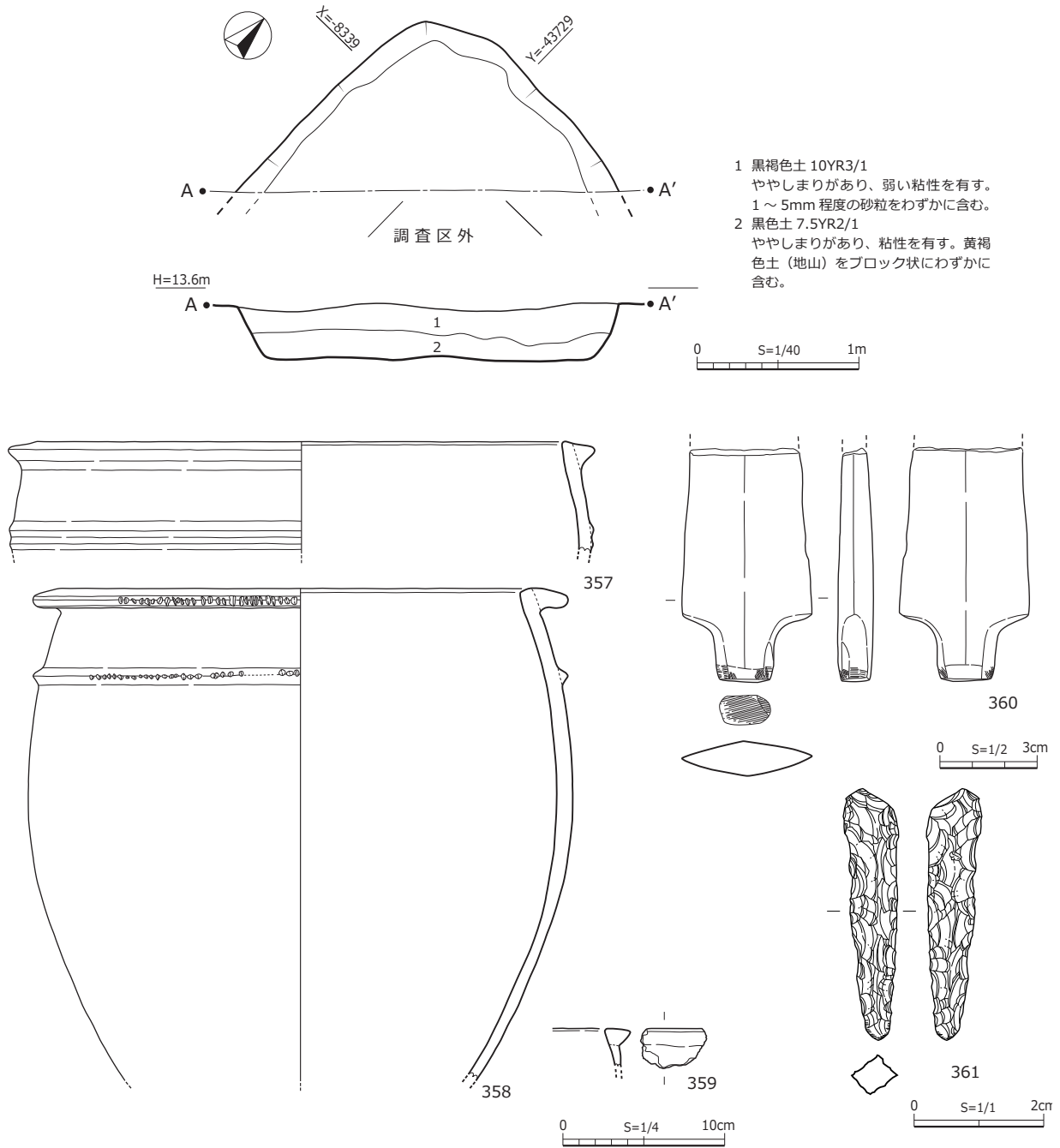
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S369	竪穴遺構	円形	3.38	3.20	O-18	S369 → S4	×	×	×		全周？

S369 は円形を呈す竪穴遺構で、南西側を大きく中世の溝によって削られてしまった。南西隅が溝 S4 の掘り込みの途中で検出できた。床面の壁際に浅い溝が掘られている。

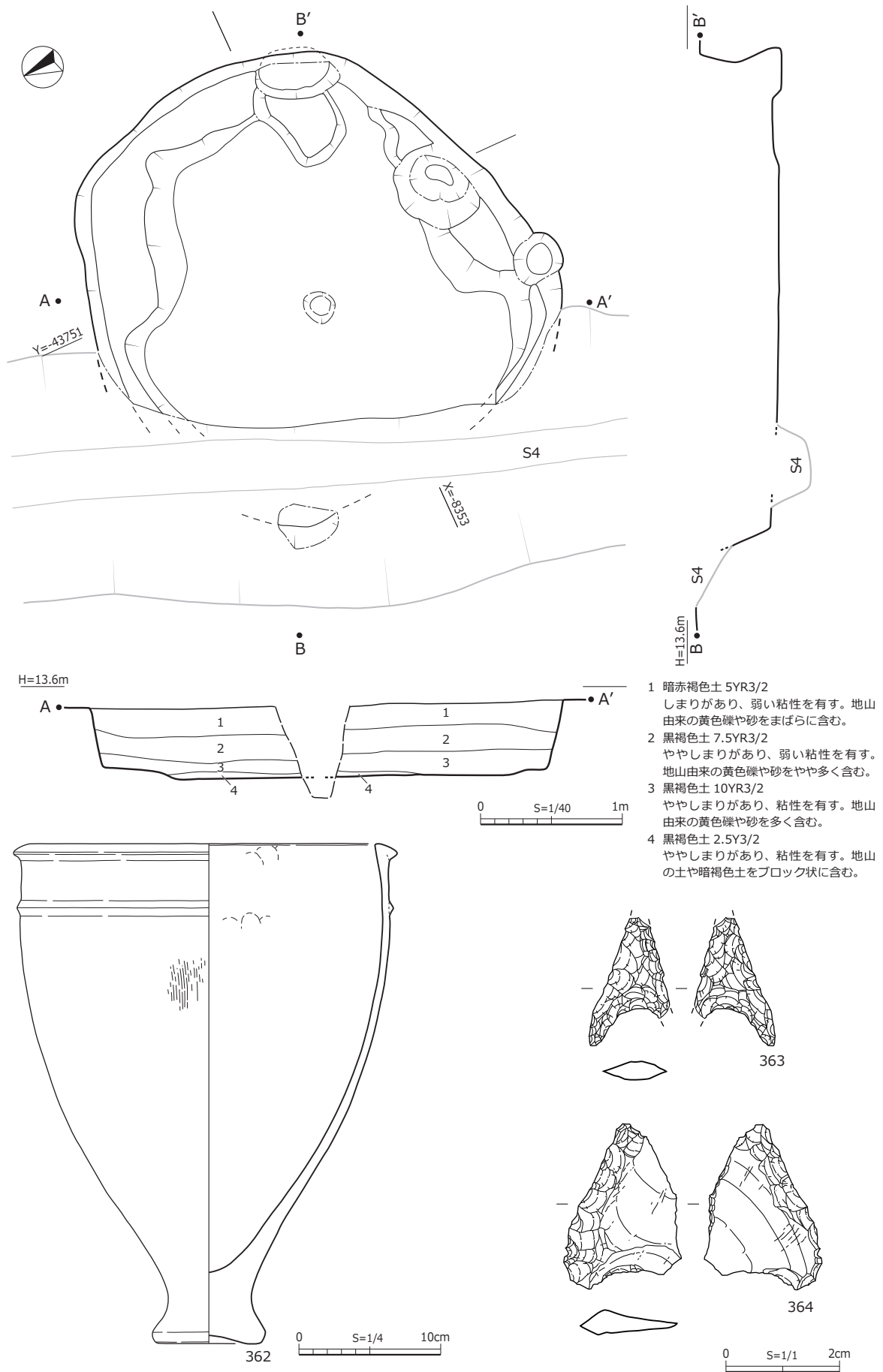
S369 からは弥生時代中期の土器や石器が出土しており、甕形土器や石鏃などを図化した。甕は接合と復元で全形が判明したもので、口縁を肥厚させ、胴部突帯が付けられている。やや胴が張り、底部は厚く、上げ底は低い。石鏃・石鏃未製品はどちらも安山岩製である。



第46図 S201 実測図・出土遺物実測図



第47図 S368 実測図・出土遺物実測図



第48図 S369 実測図・出土遺物実測図

3. 土坑

【S13】(第 49 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S13	土坑	楕円形	1.87	0.80	0.30	N-20	—	

S13 は長楕円形の土坑で、底面は比較的平坦に掘られている。口縁を粘土貼り付けなどによって肥厚させ刻目を施した、弥生時代中期の甕が検出されている。

【S15】(第 50 図)

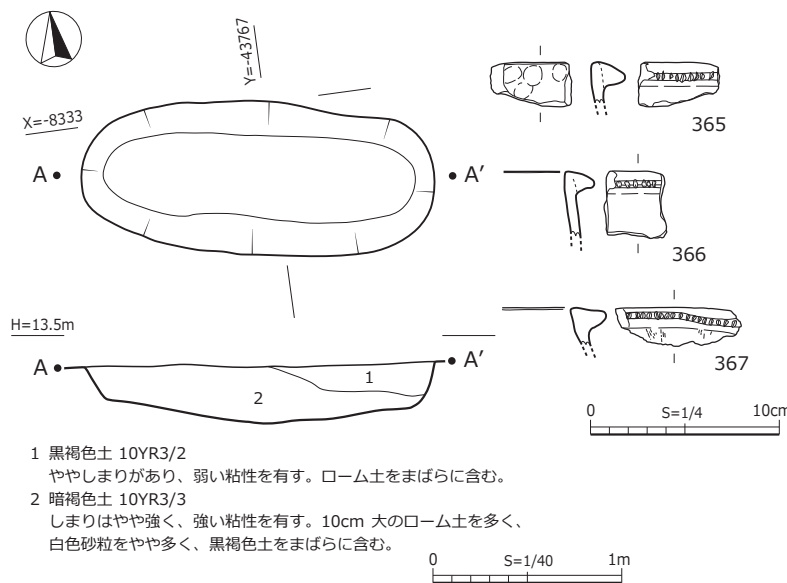
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S13	土坑	楕円形	1.87	0.80	0.30	N-20	—	

S15 は楕円形を呈す小ぶりの土坑で、断面三角形の口縁を持つ甕形土器が出土した。

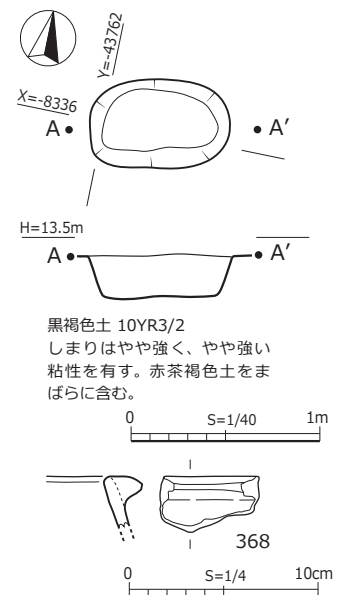
【S16】(第 51 図、図版 17)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S16	貯蔵穴	円形	1.70	1.35	1.56	N-19	—	

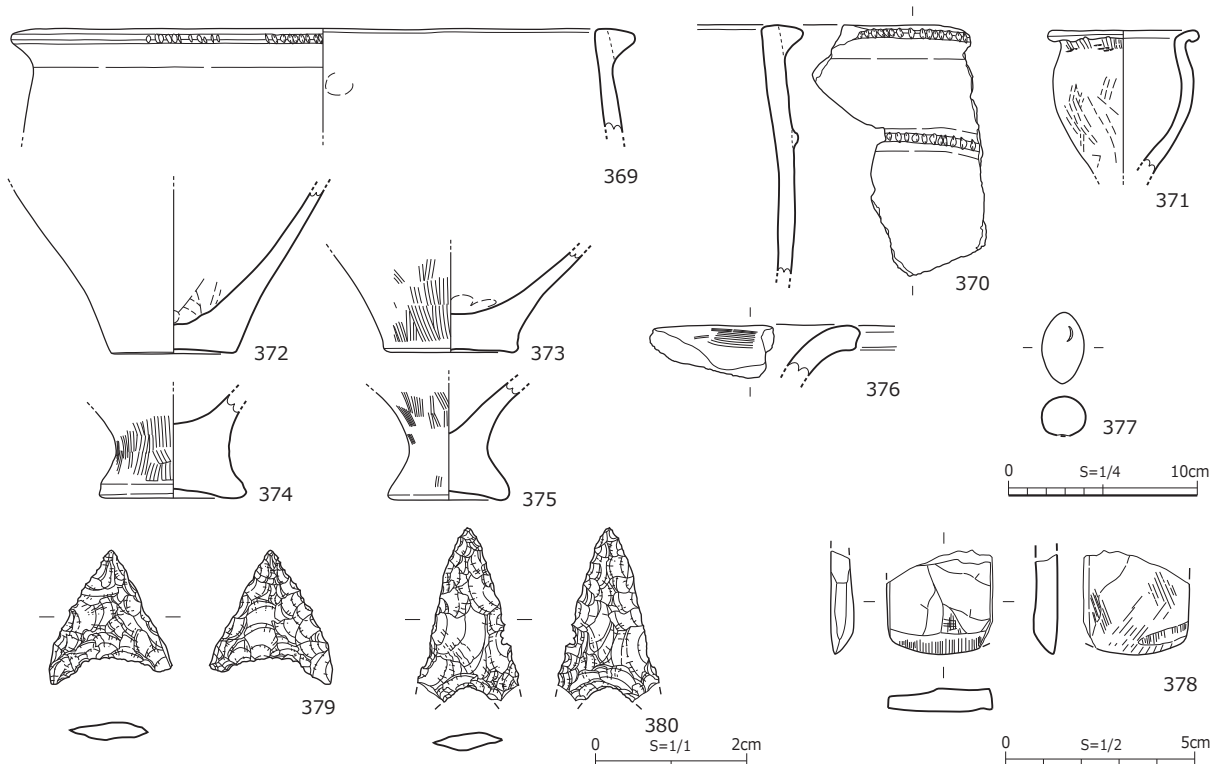
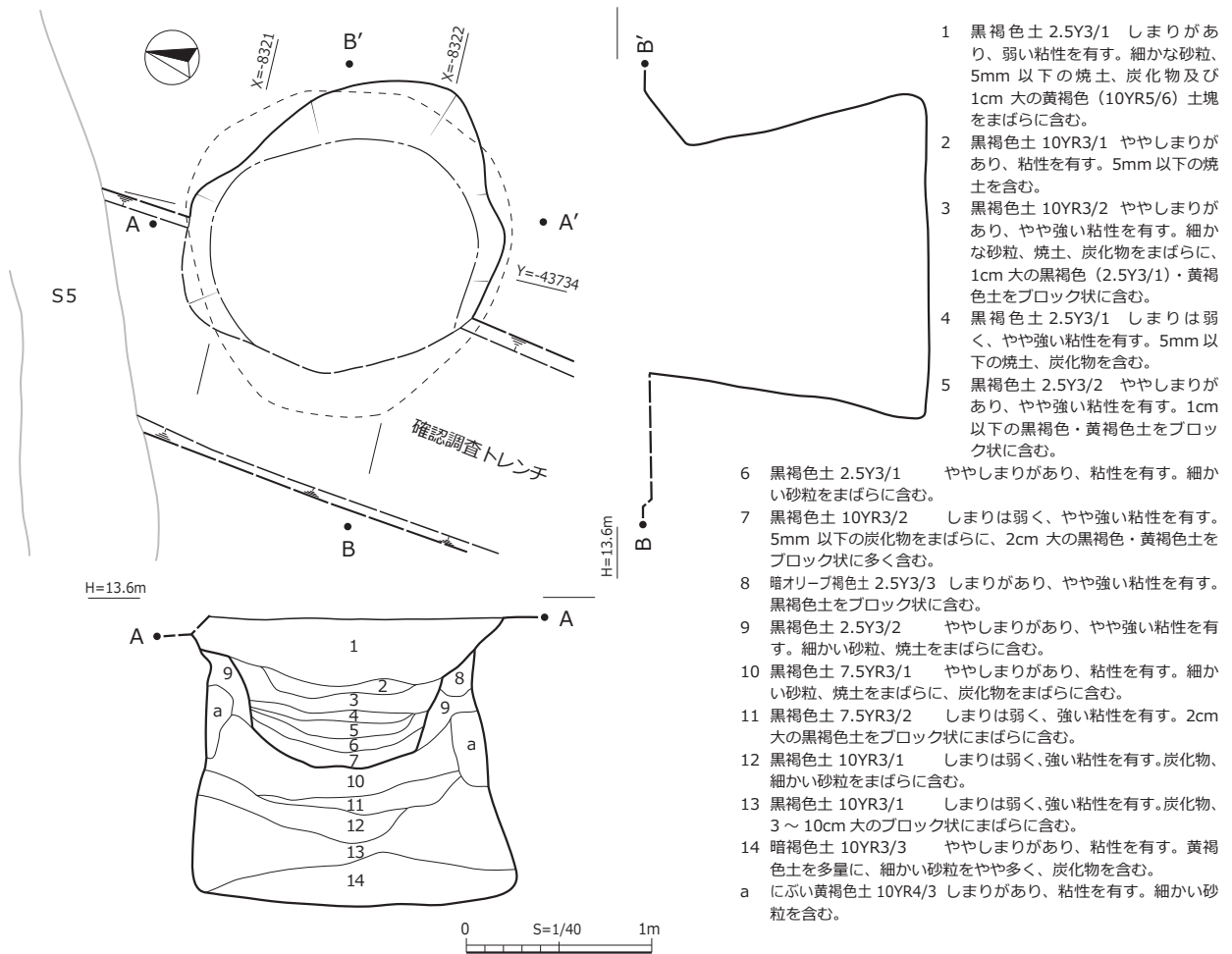
S16 は深さ 1.56 m で断面がフラスコ状を呈することから、貯蔵穴と見られる。検出面では壁面の崩落などにより不整な形状だが、底面近くは直径 1.5 m ほどの円形に掘り込まれている。また、



第 49 図 S13 実測図・出土遺物実測図



第 50 図 S15 実測図・出土遺物実測図



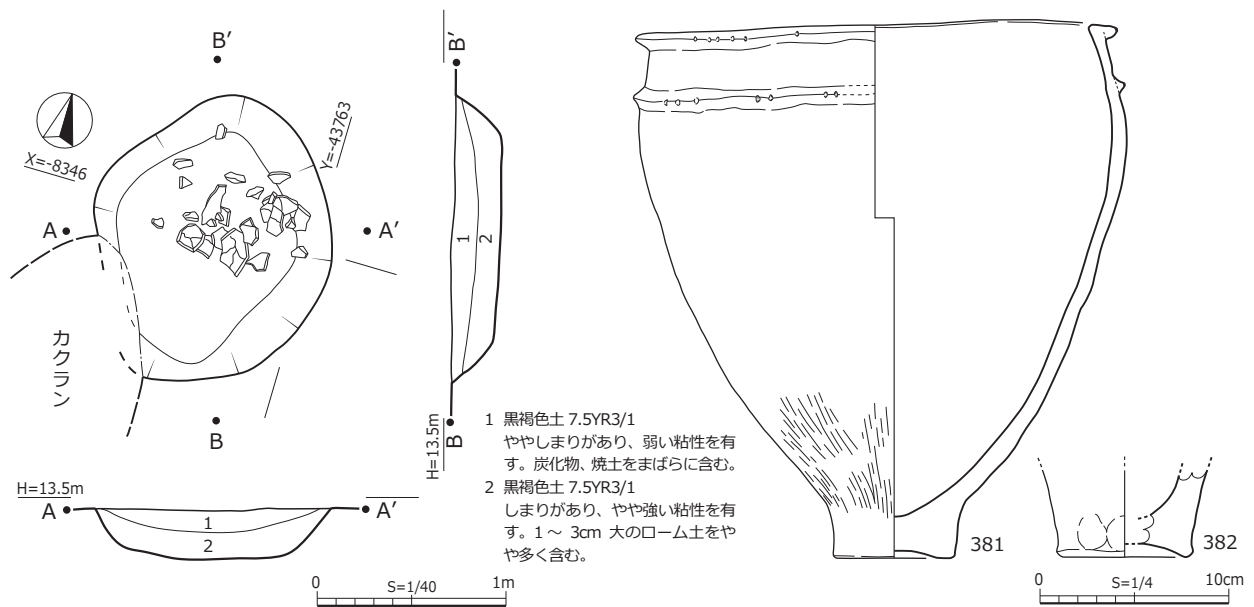
第51図 S16実測図・出土遺物実測図

断面の観察から複数回の掘り直しが推定され、最後はかなり浅くなった状態であったと考えられる。遺物は弥生時代中期の土器、土製品、石器が出土した。

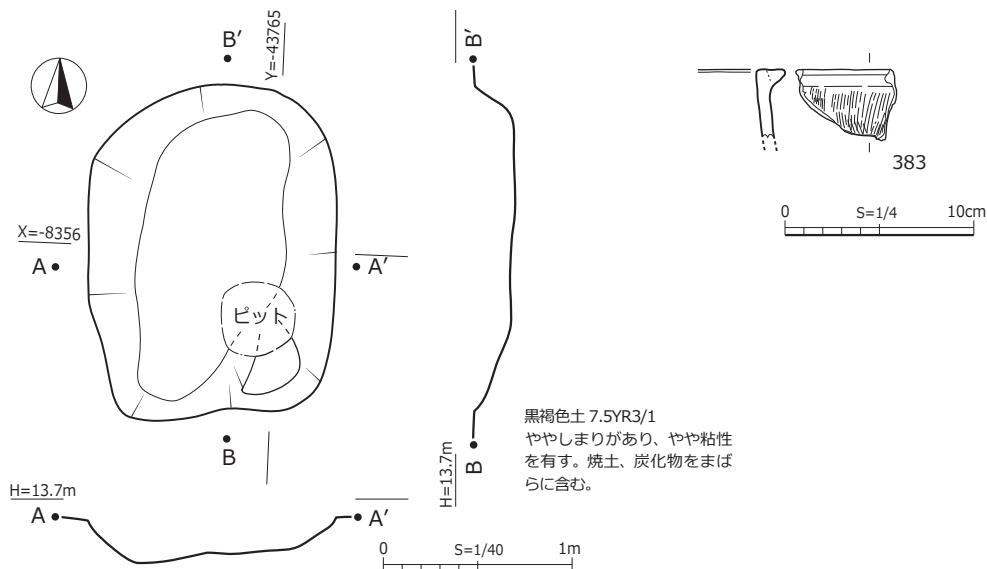
【S19】(第52図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S19	土坑	円形	1.58	1.30	1.30	N-19	—	

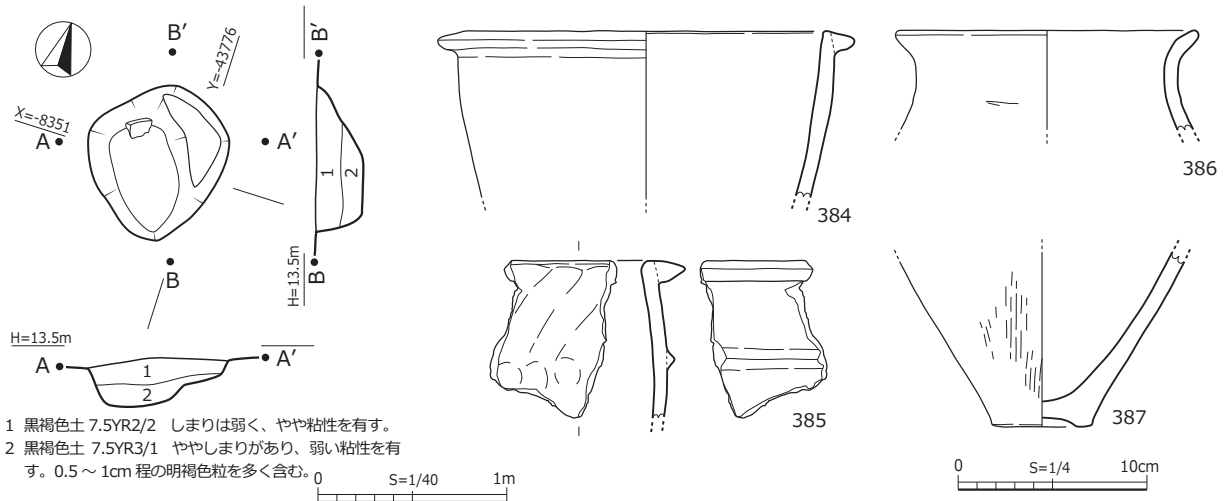
S19は南西を攪乱で削られた円形の土坑である。甕1点が口縁の一部を欠くがほぼ完形にまで復元できた。口縁部と直下の突帯に細かな刻目を施す。底部はわずかに上げ底となる。



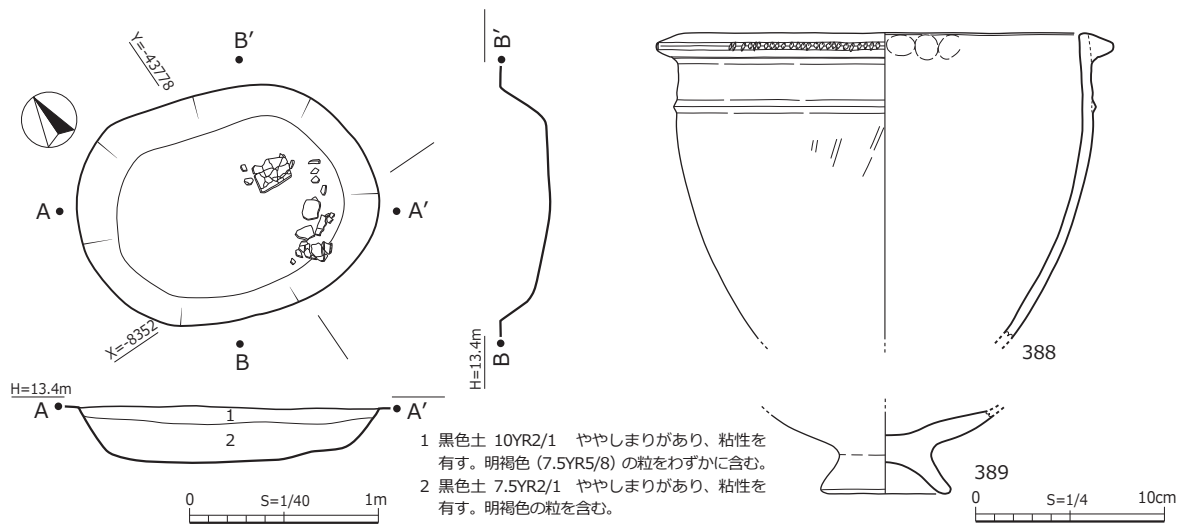
第52図 S19 実測図・出土遺物実測図



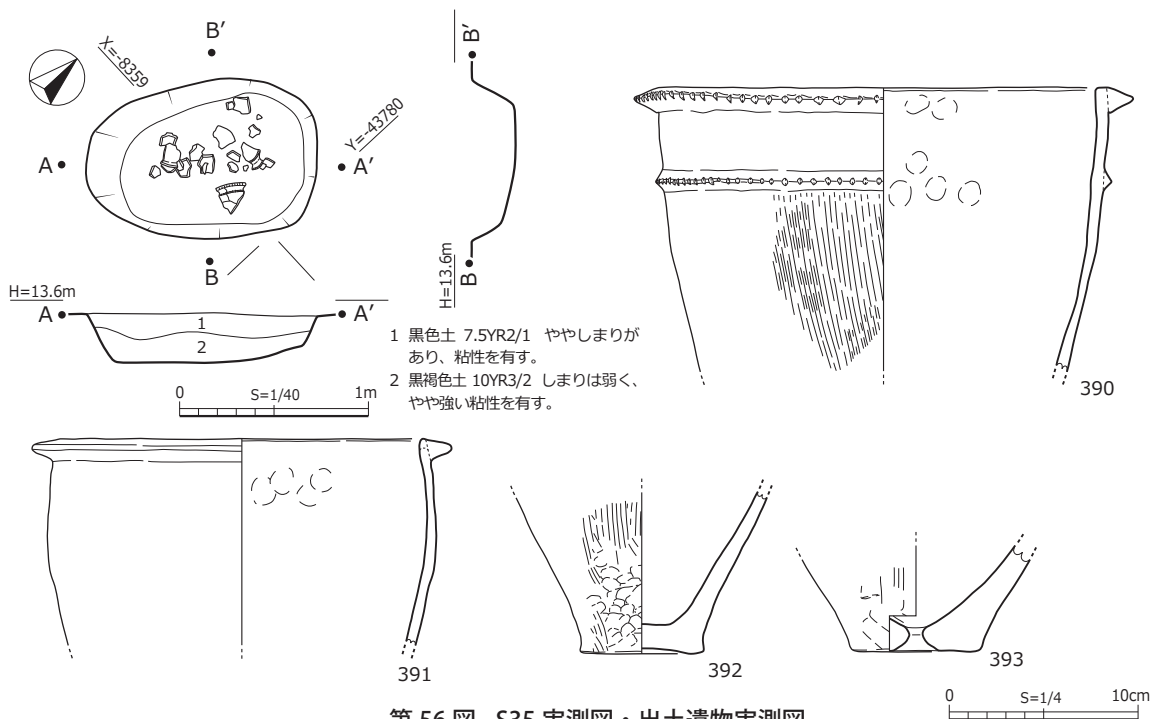
第53図 S23 実測図・出土遺物実測図



第54図 S30 実測図・出土遺物実測図



第55図 S31 実測図・出土遺物実測図



第56図 S35 実測図・出土遺物実測図

【S23】(第 53 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S23	土坑	長方形	1.75	1.32	0.20	N-18	—	

S23 は平面長方形の土坑で、南東に小さな段差がある。破片ではあるが、口縁部の断面が三角形で口唇が平坦となる甕が出土した。

【S30】(第 54 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S30	土坑	円形	0.84	0.74	0.25	M-18	—	

S30 は南西方向に二段目を掘り込んだような土坑で、弥生中期初頭と見られる土器が数点出土した。平面図に示した甕口縁部は口径復元も可能であった。口縁断面は三角形であり胴部は張らない。壺形土器の口縁部も単純に外反しており、古い要素を残している。

【S31】(第 55 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S31	土坑	楕円形	0.76	0.60	0.15	M-18	—	

S31 は東西に長い楕円形を呈す土坑である。出土した甕は弥生中期初頭の特徴を良く残している。脚付鉢は後期に属する可能性もある。

【S35】(第 56 図)

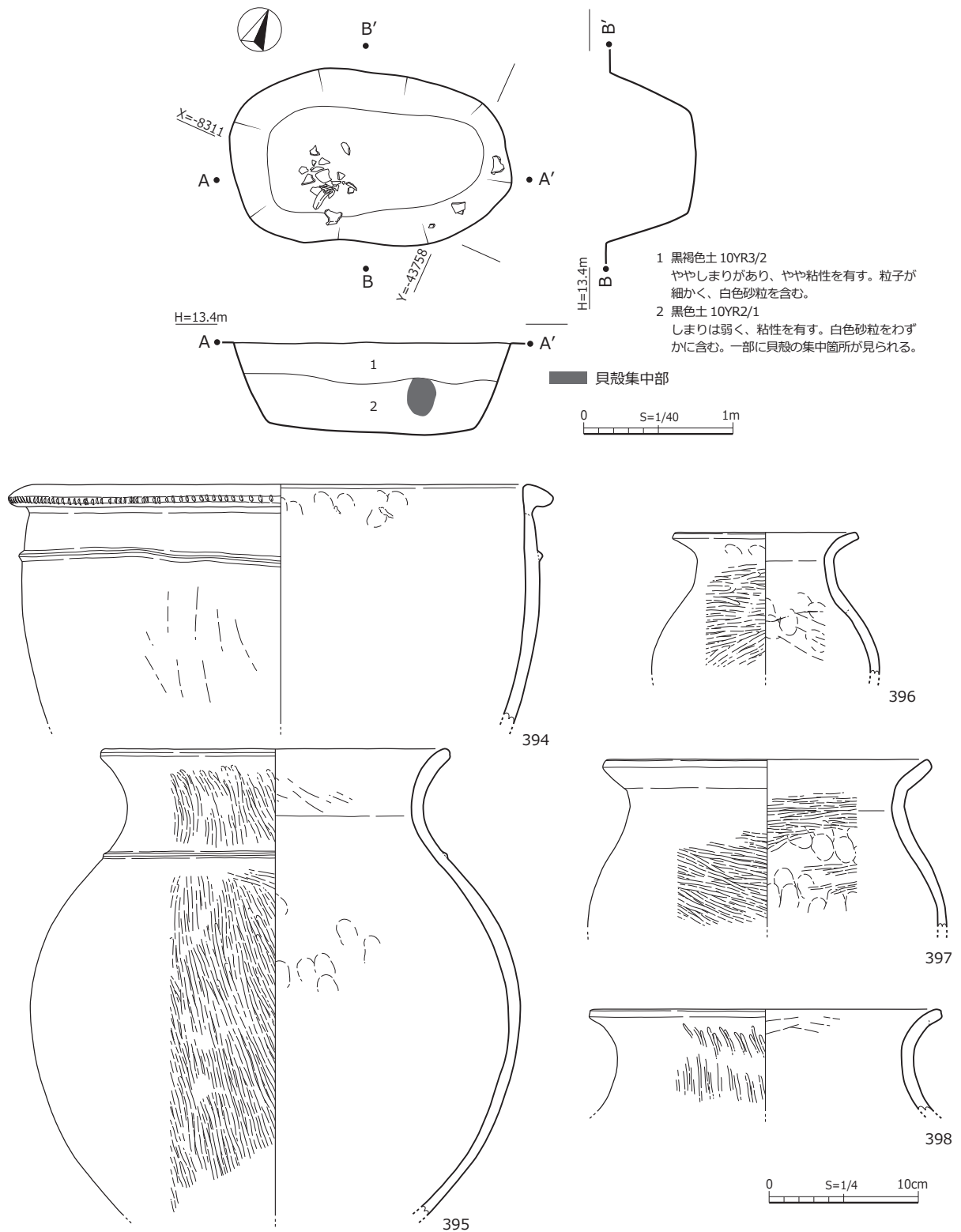
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S35	土坑	楕円形	1.22	0.84	0.27	M-18	—	

S35 は弥生時代中期の土坑で、10cm 大の土器片がまとまって出土した。甕口縁は断面三角形の口縁部や突帯にも刻目を入れている。一方、口縁部形態はよく似ているが突帯を作らず、また刻目も施さないものもあった。また、焼成の前に穿孔が行われている底部資料があった。

【S36】(第 57 図)

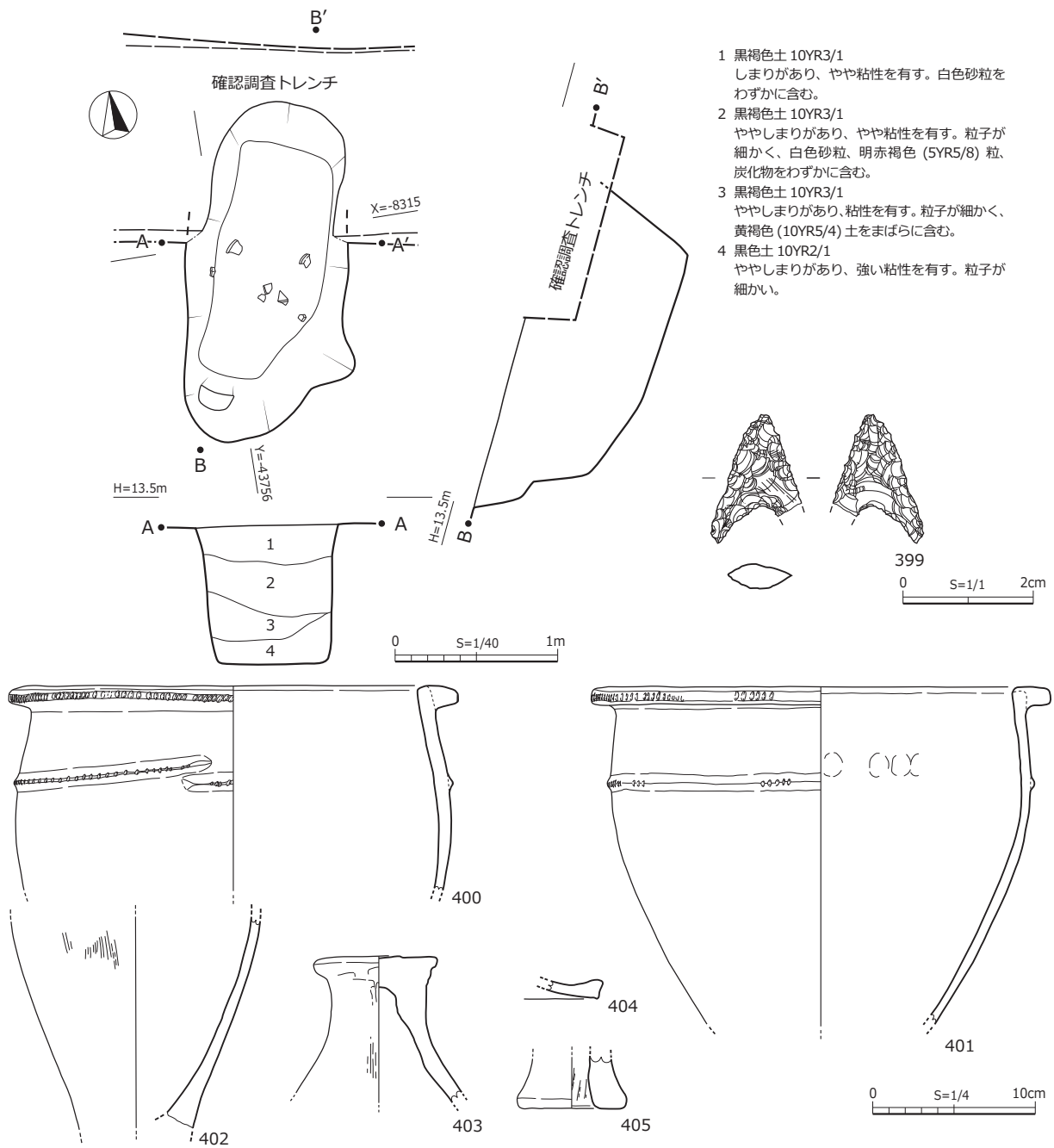
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S36	土坑	楕円形	1.90	1.12	0.62	O-22	S131 → S36	マガキ

S36 は調査区北西端にあり、楕円形を呈する土坑である。検出面から約 30 ～ 50cm の深さで貝



第57図 S36実測図・出土遺物実測図

殻の集中箇所があった。多くは5cm程度の破片で、マガキと見られる。弥生時代中期初頭の甕や中・大型の壺形土器が数点見つかった。中でも大型壺は極小の貼付突帯や外器面の粗く凹凸の残るミガキなど特徴的である。

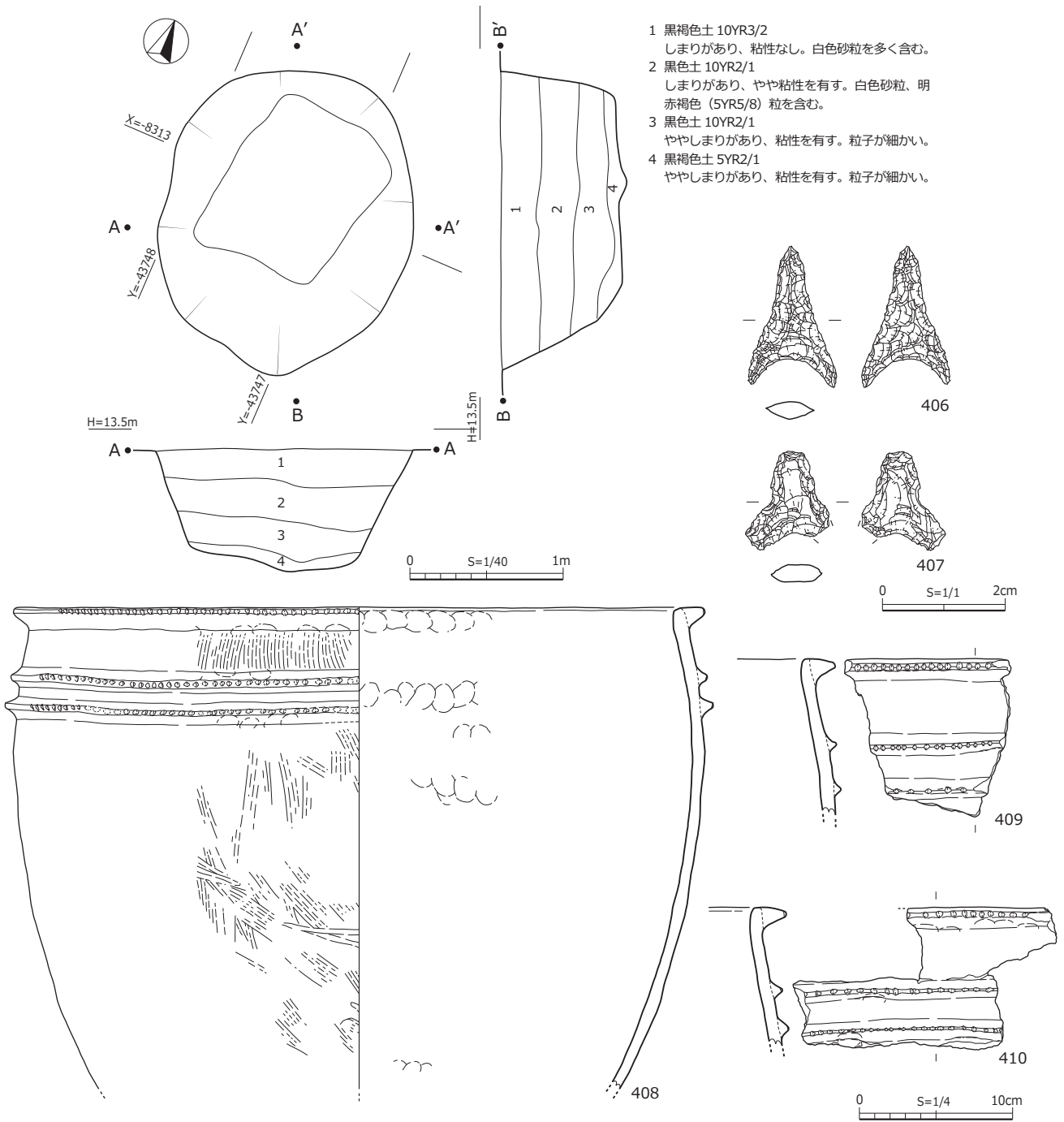


第 58 図 S37 実測図・出土遺物実測図

【S37】 (第 58 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S37	土坑	長方形	(2.14)	1.00	0.88	0-22	—	

S37 は確認調査のトレンチによって北側を深さ 15cm ほど削り取られてしまった。元の形は底面の形状などから、隅丸の長方形であったとみられる。弥生時代中期の土器、石鏃が出土した。甕は 3 点とも同一個体の可能性があるもので、粘土貼り付けで口唇を平坦にして突帯にも刻目を施し、胴部下位の張りが弱い。頸部の突帯は圍繞するが意図的に接着させていない。蓋は小片だが、天井部には厚みがある。

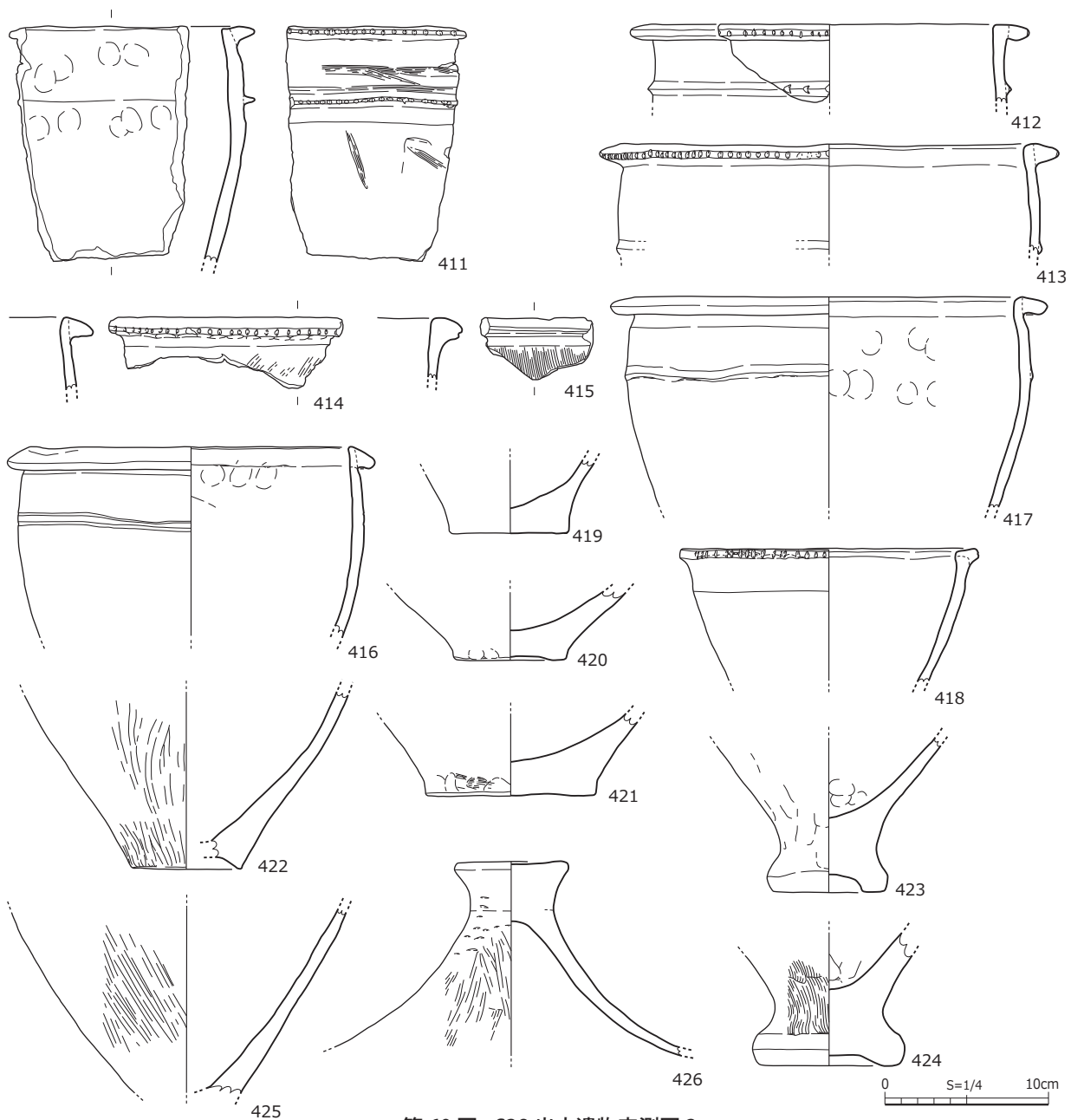


第59図 S38 実測図・出土遺物実測図1

【S38】(第59・60図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S38	土坑	円形	1.90	1.67	0.80	P-22	—	

S38は土器片が大量に廃棄されたような出土状況であり、器形の復元まで至らないが図示できた出土遺物も多い。甕は口縁断面が三角形やカマボコ形を呈し、刻目を施す。胴部は刻目突帯のほかに突帯だけのもの、沈線であらわすものなどが見受けられる。底部はわずかに上げ底になるものが多いようである。

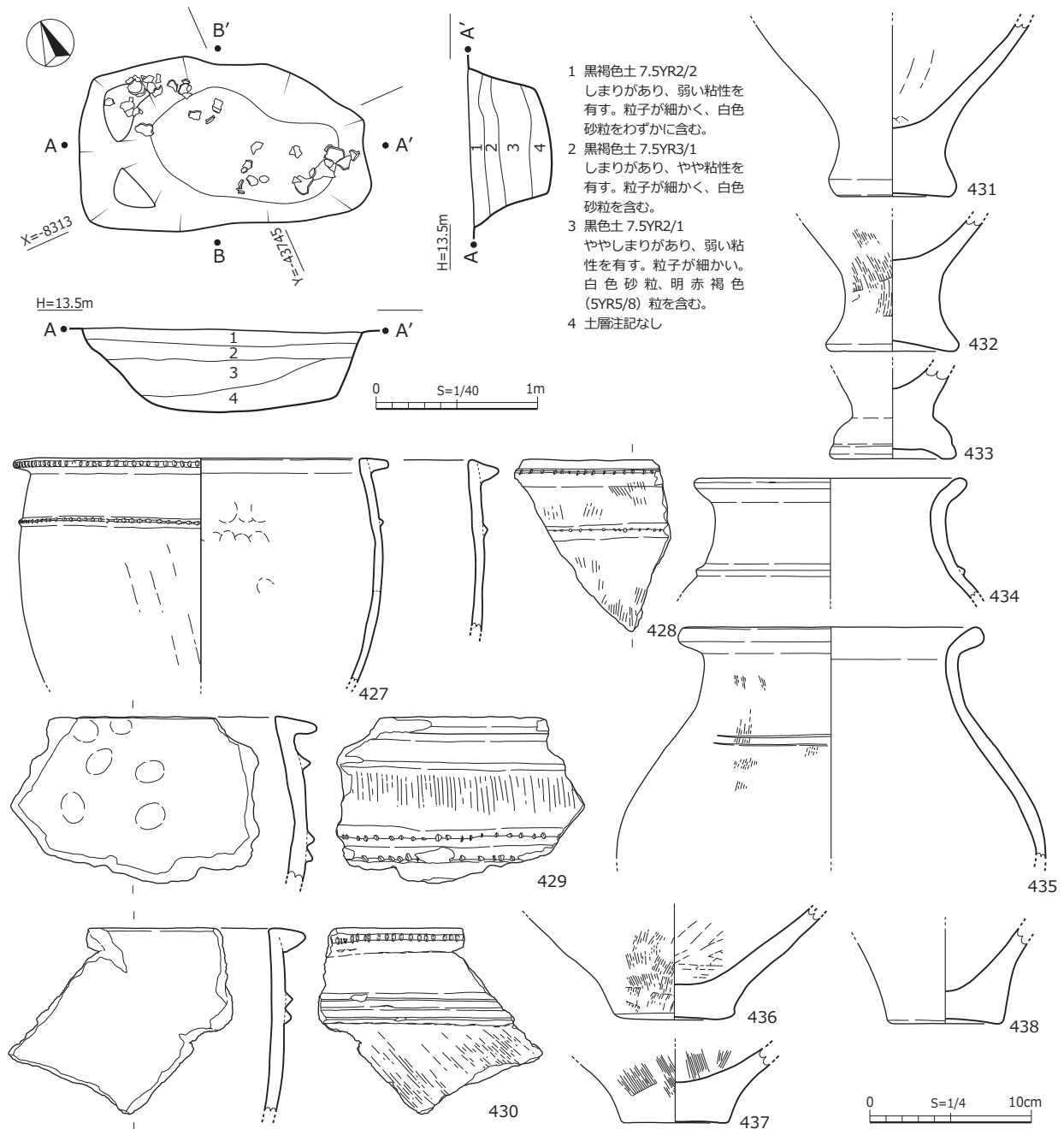


第 60 図 S38 出土遺物実測図 2

【S39】(第 61 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S39	土坑	長方形	1.78	1.02	0.50	P-22	S101 → S39	

S39 は調査区北端付近で検出された土坑である。S101 を切り、廃棄土坑と考えられる S38・S100 にも隣接している。弥生土器が多く出土しており、甕と壺 12 点を図示している。甕は口縁に粘土を貼り付けて肥厚させている。その断面は三角形や間延びして舌状を呈す。いずれも胴部突帯を持ち、刻目を施したりしているが、口縁直下にも突帯を貼る例は珍しい。底部は平底と上げ底にするもののが混在している。壺では口縁から胴部にかけて突帯や 2 条の沈線を入れ、境界としている。



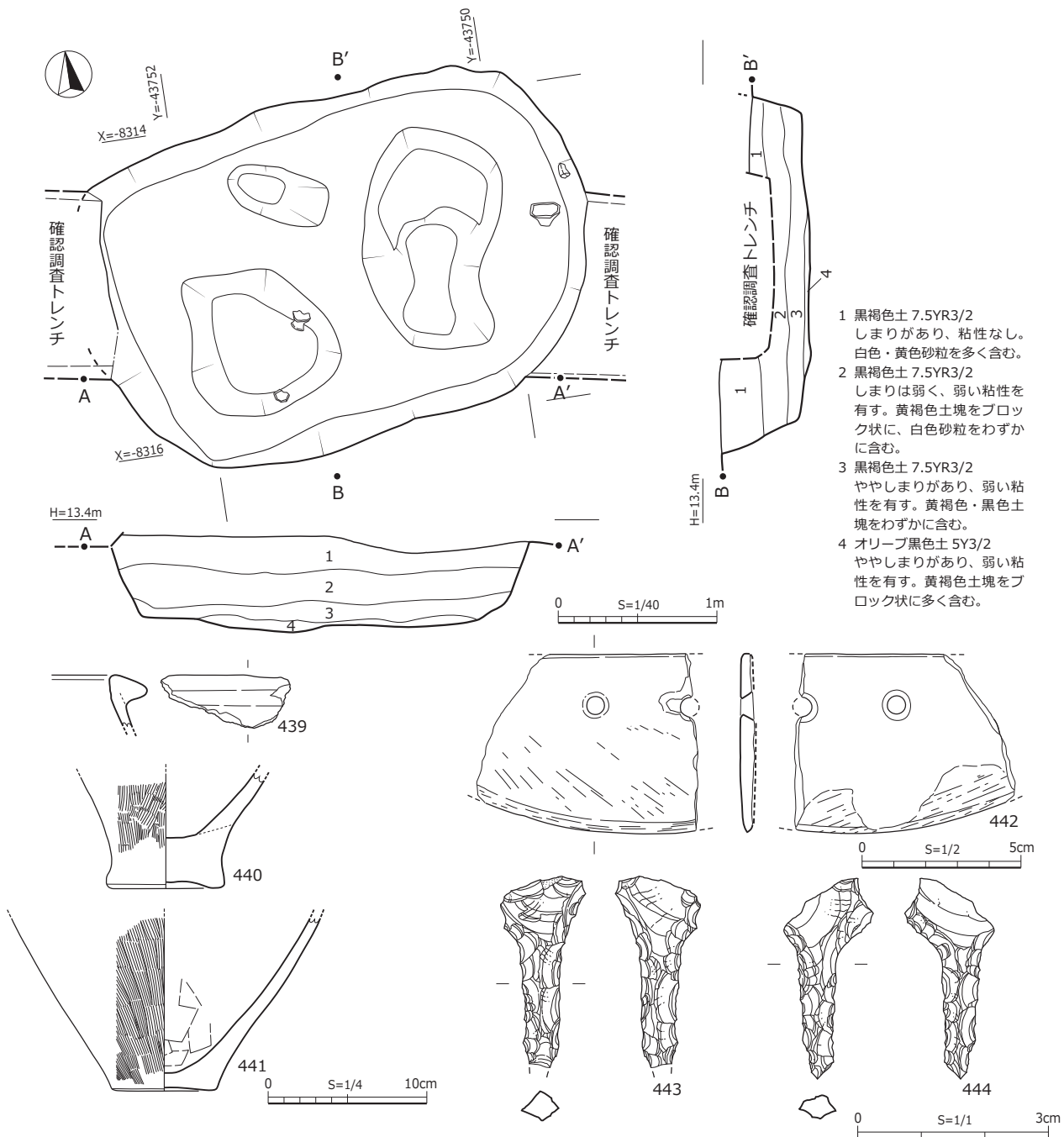
第61図 S39実測図・出土遺物実測図

【S40】(第62図、図版7)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S40	土坑	長方形	3.20	2.18	0.60	0-22	S104、S105→S40	

S40では弥生中期の土器とともに石器(石包丁・石錐)が出土した。遺構形状は長方形で、床面にわずかな凹凸がある。北側でS104を、南側でS105を切っている。

石包丁は頁岩と見られる石材で、石器表面の剥落が著しい。石錐はどちらも安山岩製でつまみ状の頭部を持ち、身から先端部までが長い。

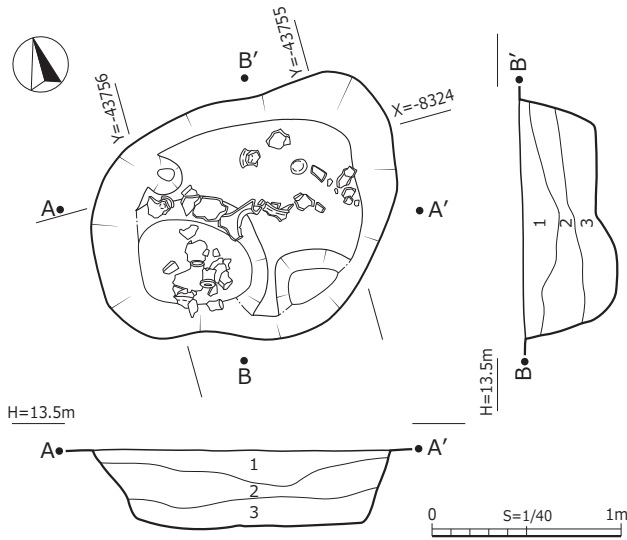


第 62 図 S40 実測図・出土遺物実測図

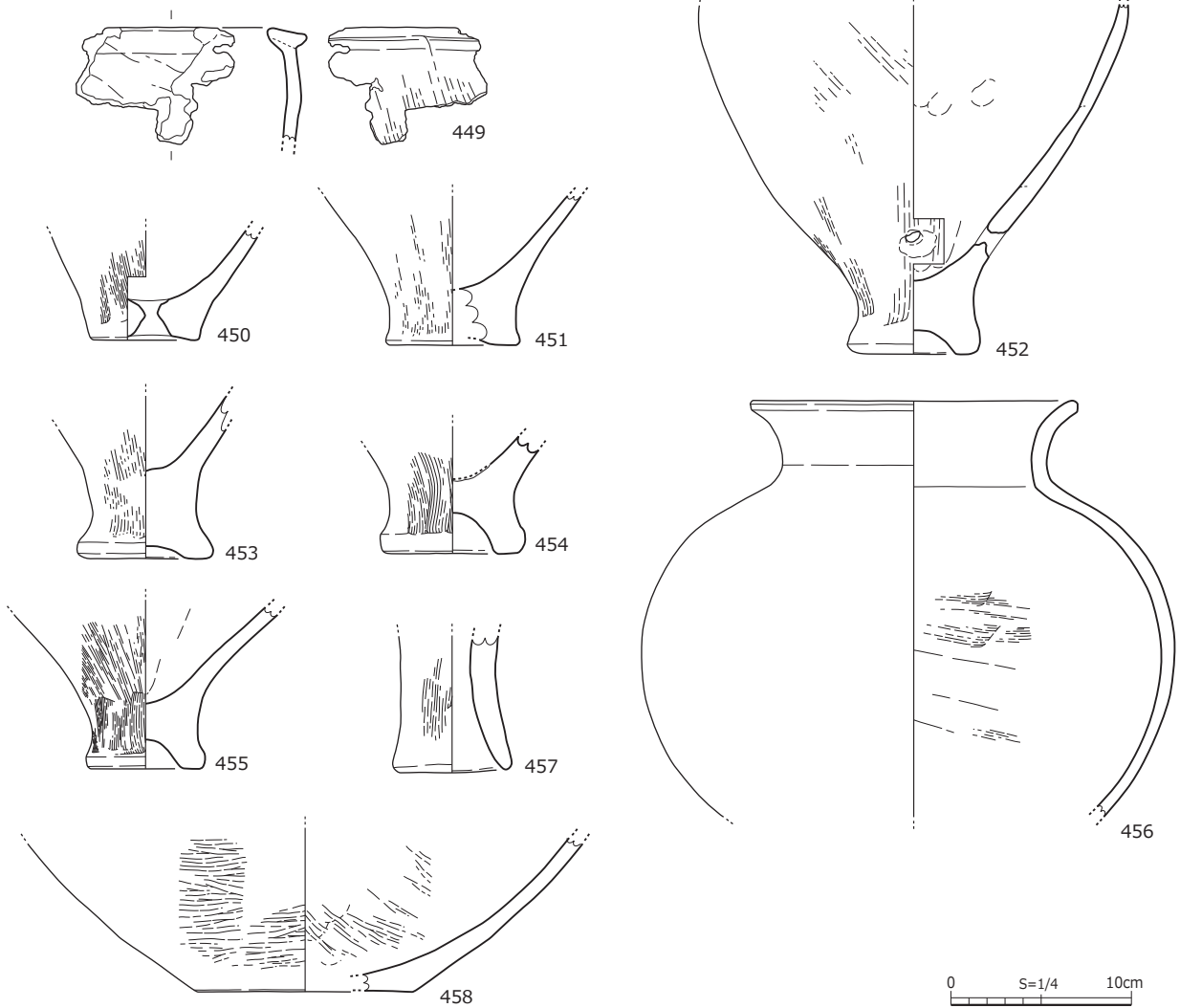
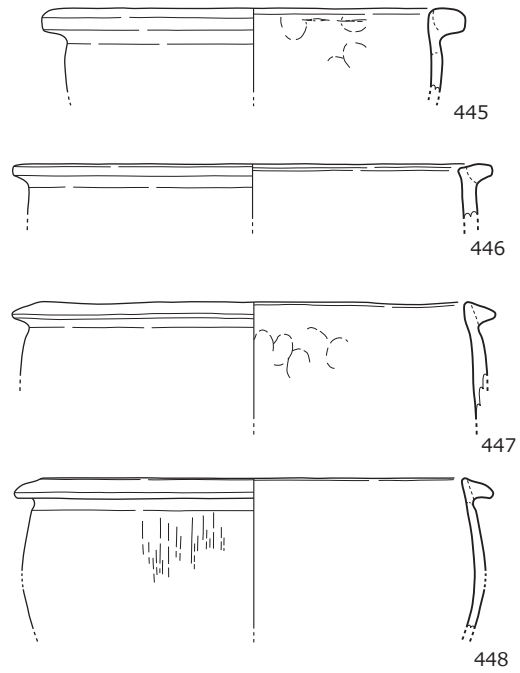
【S41】(第 63 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S41	土坑	楕円形	1.79	1.40	0.49	O-21	S116 → S41 → S42	

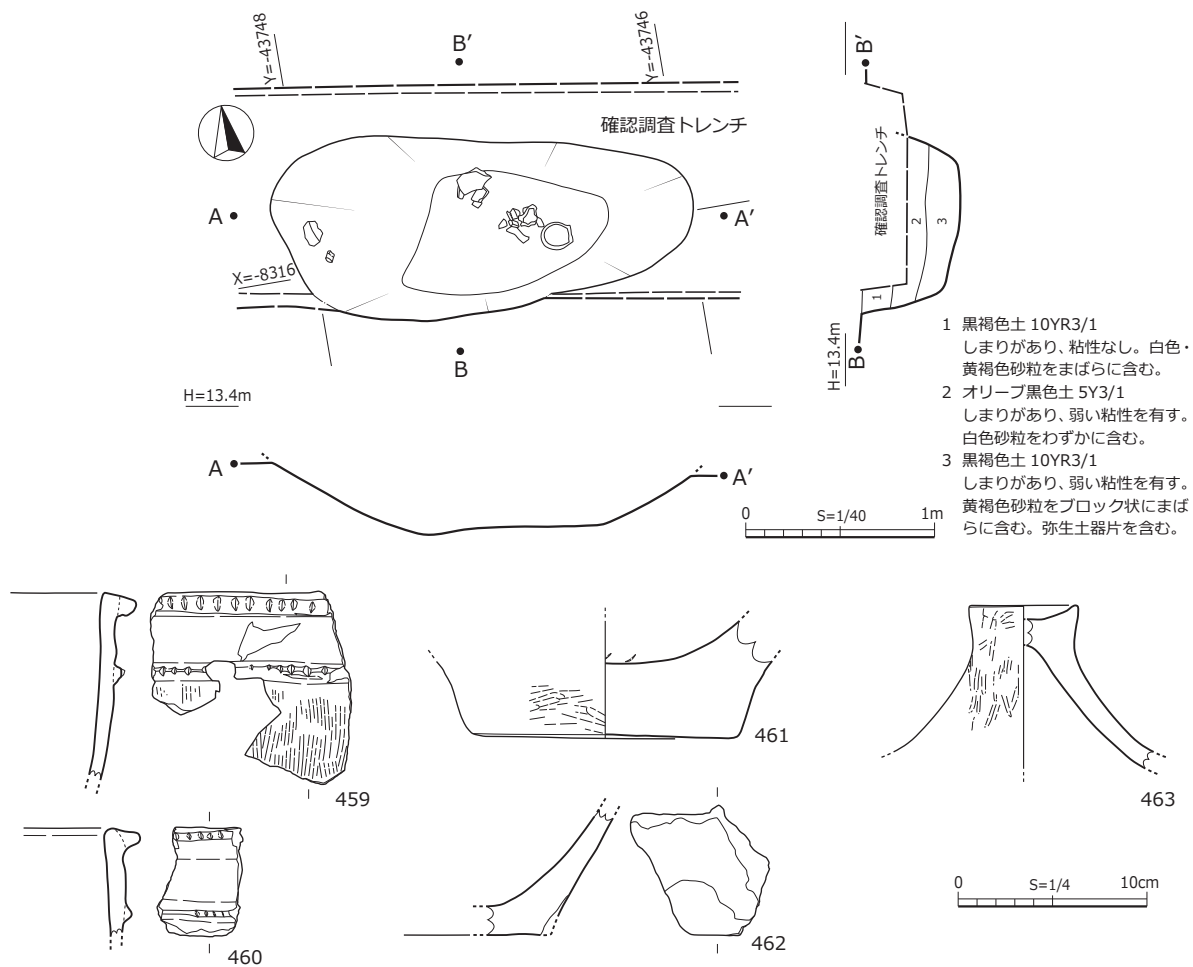
S41 は比較的多くの土器を包含する土坑で、底面西側が一段低い。出土した土器から、弥生時代中期に属する甕や壺、器台を図示している。甕は口縁部断面や底部形態にバリエーションがあり、口縁部断面は三角形や四角に近いカマボコ形、内側へ突出するものがある。底部はわずかな上げ底、脚と言えそうな形状を呈すもの、穿孔があるものなどが出土した。また、胴部下位に穿孔するものも見られた。



- 1 黒色土 10YR2/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒を含む。
- 2 黒色土 7.5YR2/1 しまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒をまばらに含む。
- 3 黒色土 10YR2/1 しまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒をまばらに含む。



第63図 S41 実測図・出土遺物実測図



第 64 図 S43 実測図・出土遺物実測図

【S43】(第 64 図)

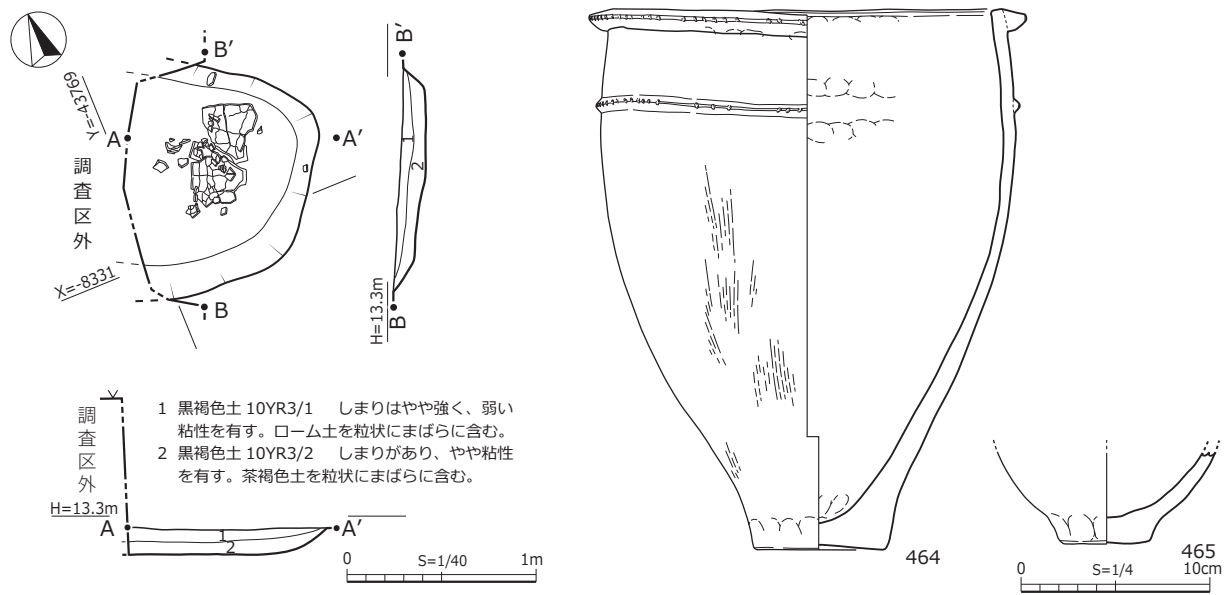
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S43	土坑	楕円形	2.24	0.92	0.53	P-22	—	

S43 は確認調査で遺構上面の大半を削り取られているが、トレンチ底面より下位で弥生時代中期の土器が出土した。底部資料の 1 つは内底面に赤色顔料が付着しており、顔料の容器として利用された可能性がある。

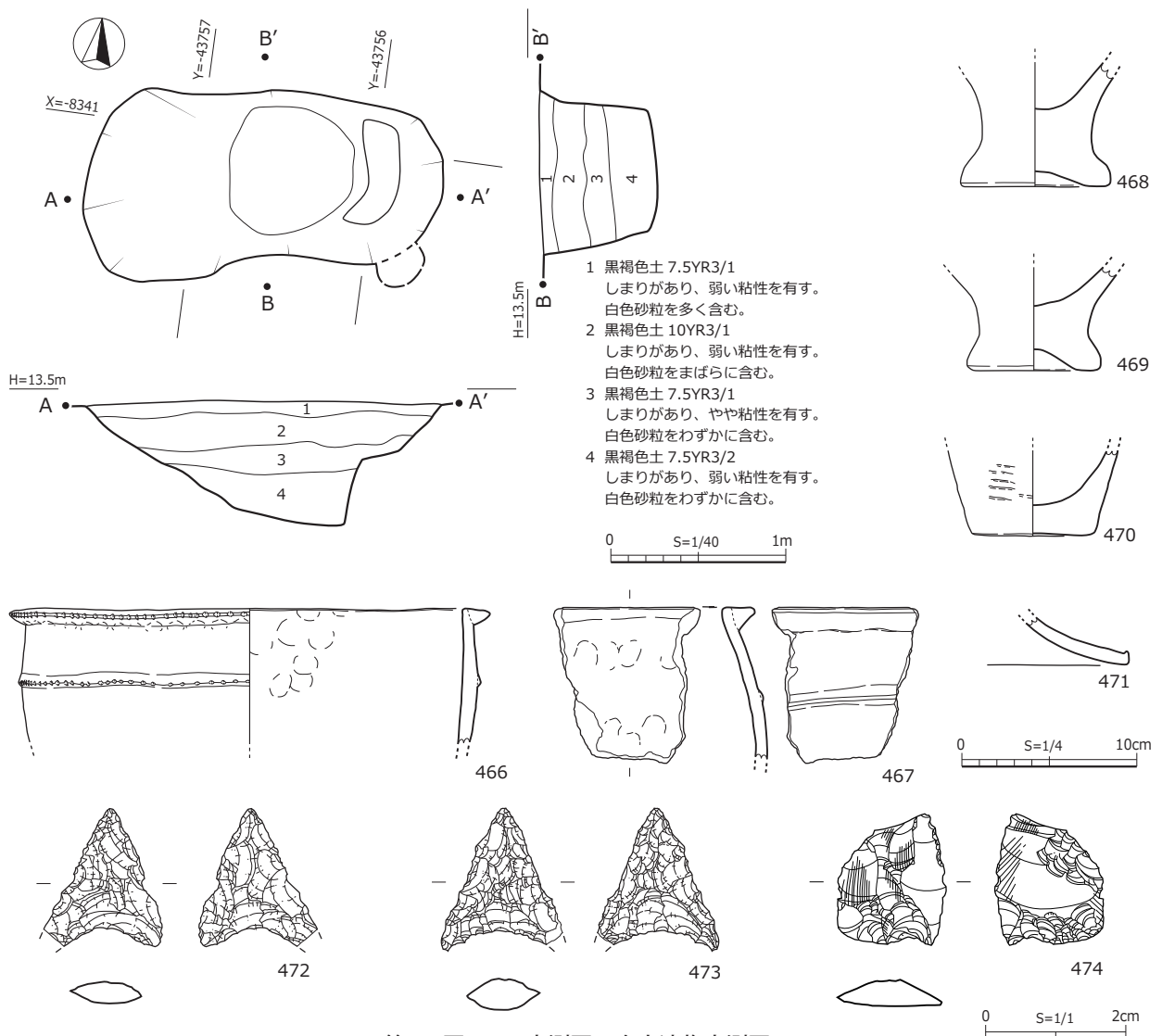
【S45】(第 65 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S45	土坑	楕円形か	2.2 + α	2.40	0.26	N-20	—	

S45 は当初調査区外まで掘り込みが続いていたため一部掘削の範囲を拡張したが、全体の完掘まで至らなかった。甕が 2 つに割れて倒れたような状態で出土した。口縁肥厚部と胴部突帯は刻目を施し、胴部はあまり張らず、平底の底部を持つ器形である。



第65図 S45 実測図・出土遺物実測図



第66図 S47 実測図・出土遺物実測図

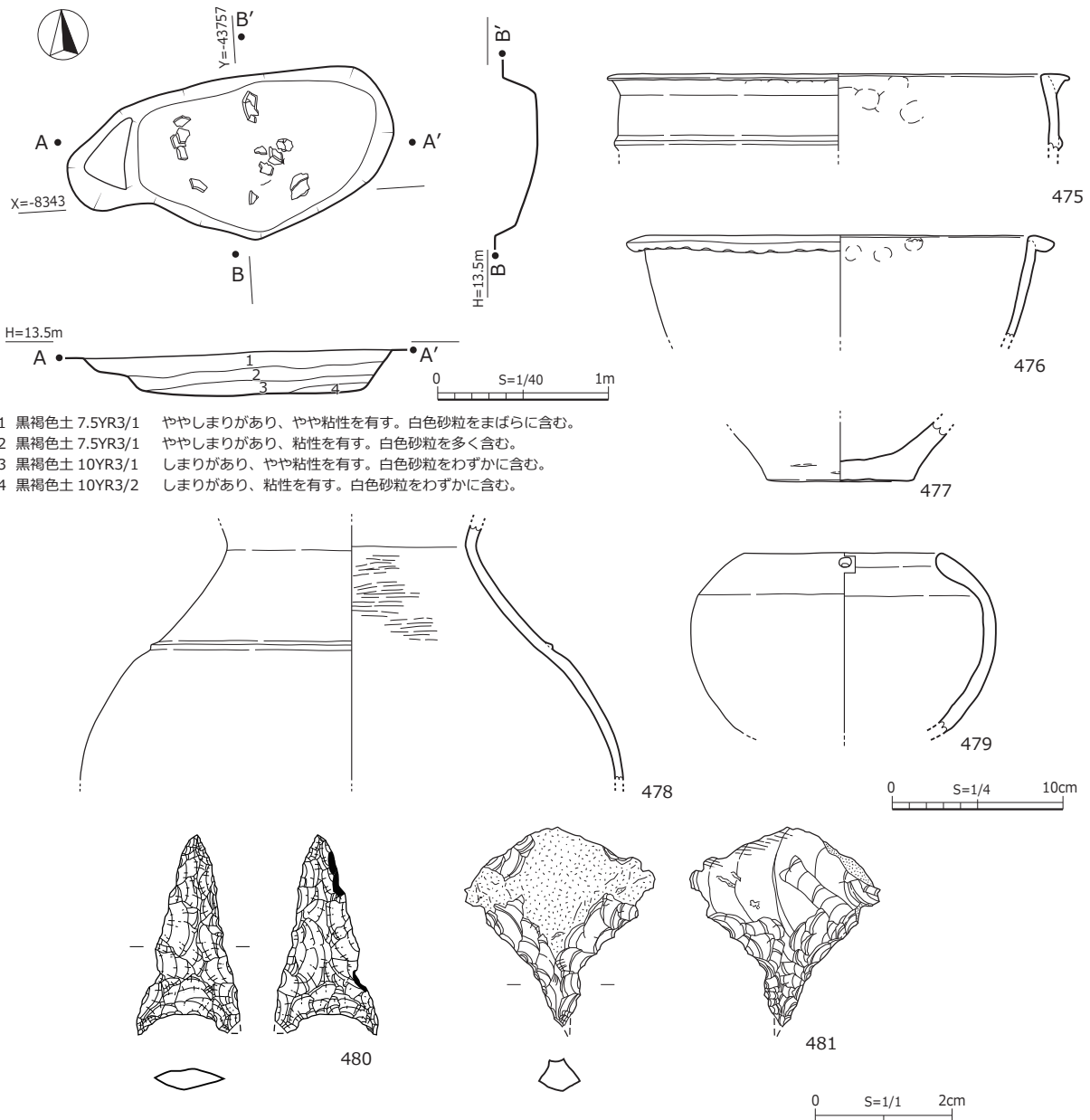
【S47】 (第 66 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S47	土坑	楕円形	2.04	1.07	0.70	O-19	S297 → S255 → S47	

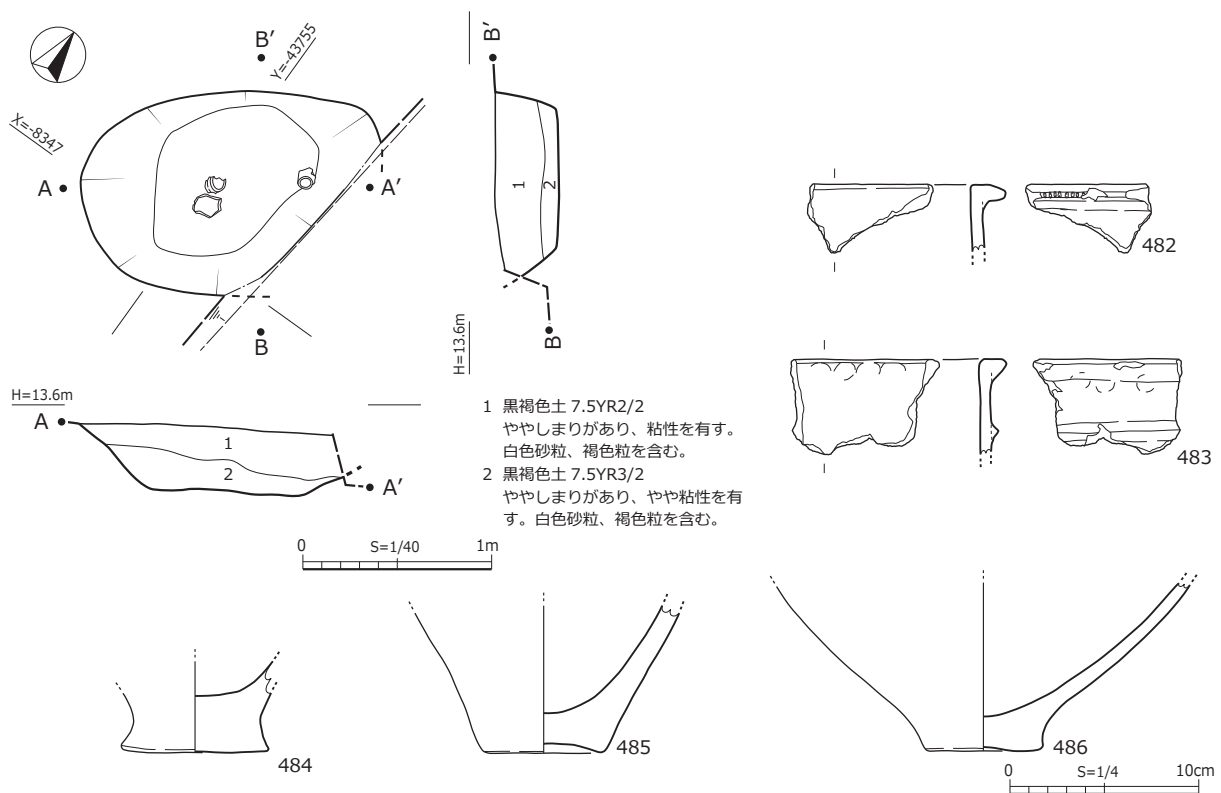
S47 は西側では底面に向かって緩やかに下がる一方、東側にはテラスのような段が作り出されている。弥生時代中期の土器や石鏃が出土した。甕は断面三角形の口縁部に小さな胴部突帯がつき、上げ底を呈する器形で、胴部の張りは弱いと見られる。

【S48】 (第 67 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S48	土坑	楕円形	1.92	0.90	0.25	O-19	—	



第 67 図 S48 実測図・出土遺物実測図



第 68 図 S49 実測図・出土遺物実測図

S48 は楕円形の長軸のうち西側にステップを取り付けたような形状の土坑で、時期は弥生中期と見られる。出土した土器を見ると、甕は口縁部を肥厚させるもので、刻目は施さないようである。壺は弥生前期の器形を継承し、頸部に小さな突帯をつけたもの、無頸で大きく内傾した口縁に穿孔したものがあつた。また、安山岩製石鏃、黒曜石製石鏃が出土した。石鏃はつまみが大きく、刃部に当たる部分は短い。

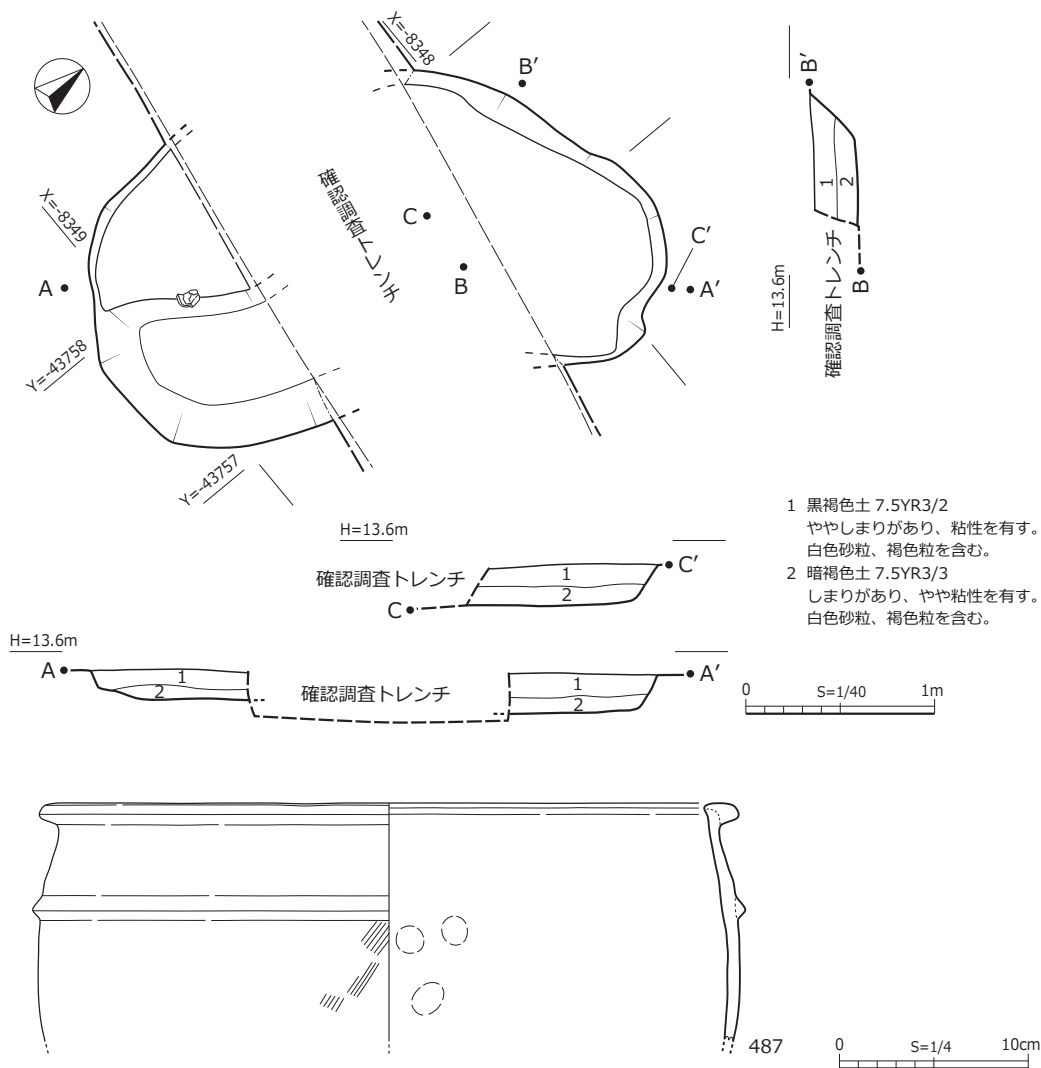
【S49】 (第 68 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S49	土坑	楕円形	1.6 + α	1.09	0.33	O-19	—	

S49 は楕円形の土坑で、東側を確認調査のトレンチで削られてしまった。ほとんど平坦な床面において甕や壺形と見られる底部資料を検出した。わずかに上げ底としていることや、覆土で検出された甕口縁部から弥生時代中期の時期と考えられる。

【S52】 (第 69 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S52	土坑	楕円形	3.12	1.76	0.23	M-14	—	



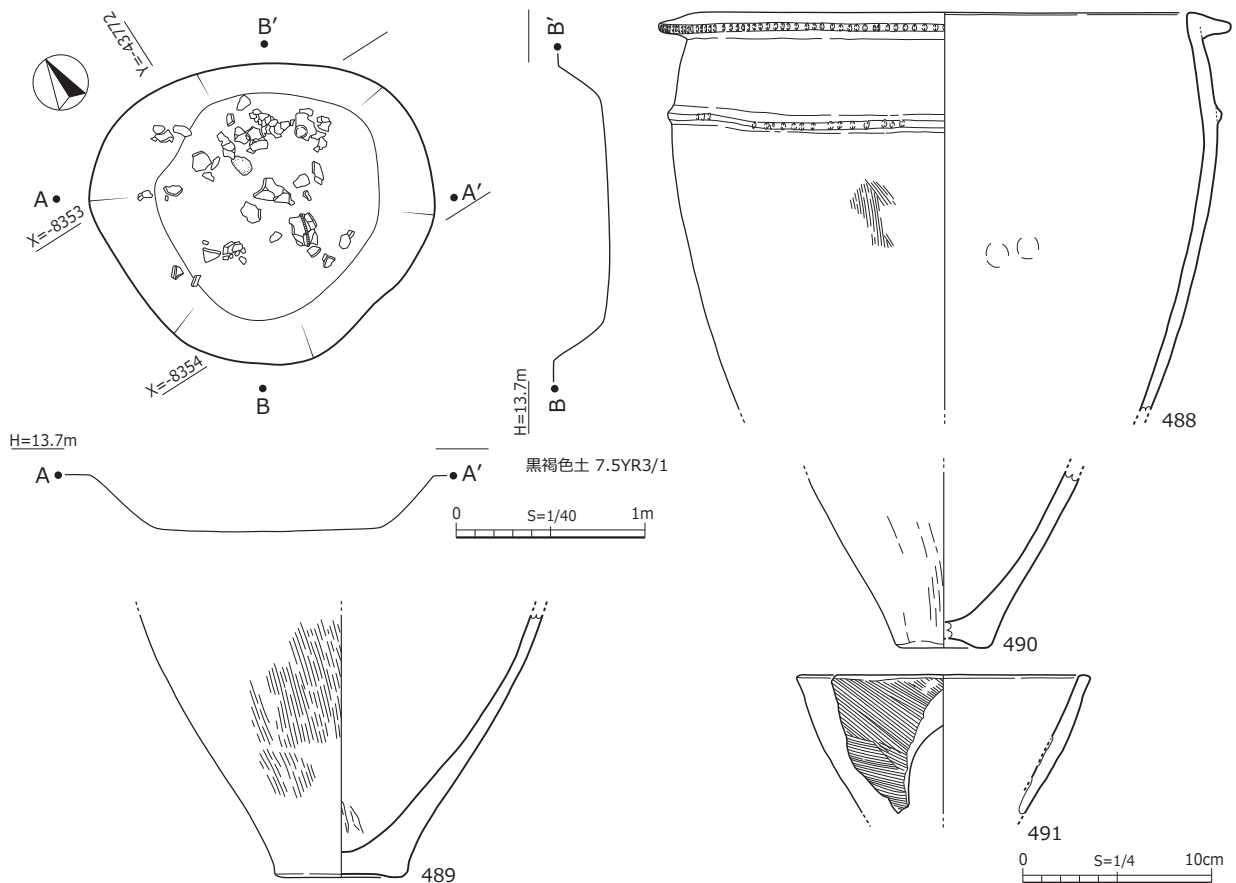
第 69 図 S52 実測図・出土遺物実測図

S52 は確認調査時に深いトレンチを入れたため、中央部分が大きく削り取られ、南北に分断している。双方の掘り込み深度や形状から、元は土坑で1つの遺構であると見て報告する。残った南側を見ると、東西で別れるように段がある一方、北側にはない。この段差が削平部分でどのように解消されるのか不明である。S52 出土土器は口縁上方に粘土紐を乗せ、その粘土を外側へ擦るように貼り付けた甕で、口縁内側には接合の痕跡が残る。

【S55】 (第 70 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S55	土坑	円形	1.73	1.60	0.30	M-18	—	

S55 は円形を呈す土坑で、弥生中期の土器片を多く検出した。甕は肥厚口縁部と小ぶりの胴部突帯に刻目が入る。底部はわずかな上げ底の形状を呈す。また、長頸壺の口縁部も出土しており、内器面が丁寧にナデ調整されている。



第70図 S55 実測図・出土遺物実測図

【S57】(第71図)

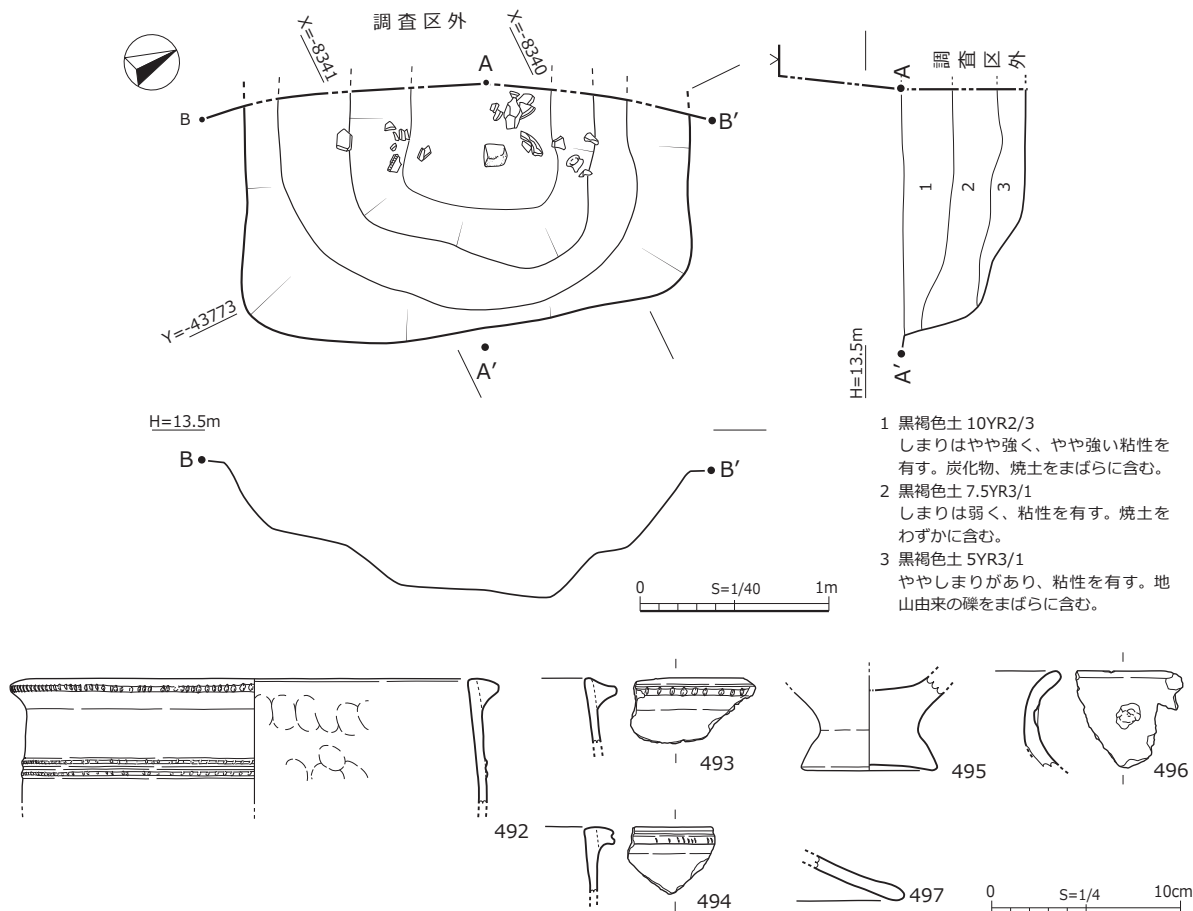
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S57	土坑	方形?	2.34	1.24 + α	0.66	M-19	—	

S57は土坑と見られるが、東側が調査区外まで伸びるため全形・全長など不明である。調査した部分では段掘り状の断面形状であり、埋土上層から弥生時代中期の甕・蓋・壺形の土器が得られた。甕はいずれも肥厚口縁部に刻目があり、断面三角形やカマボコ形を呈し、そのうち1点は胴部に極小の刻目突帯を2条持っている。

【S61】(第72図、図版7)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S61	貯蔵穴	長方形	2.35	1.35	0.66	Q-21	—	

S61は検出面からの深さ約70cmで、この底面まで垂直に近い角度で掘られた遺構で、貯蔵穴と見られる。出土遺物は弥生土器や石器で、甕口縁部形状は如意形に近い。石器は小型品である石鏃及び未製品、石錐が出土している。



第 71 図 S57 実測図・出土遺物実測図

【S62】(第 73 図)

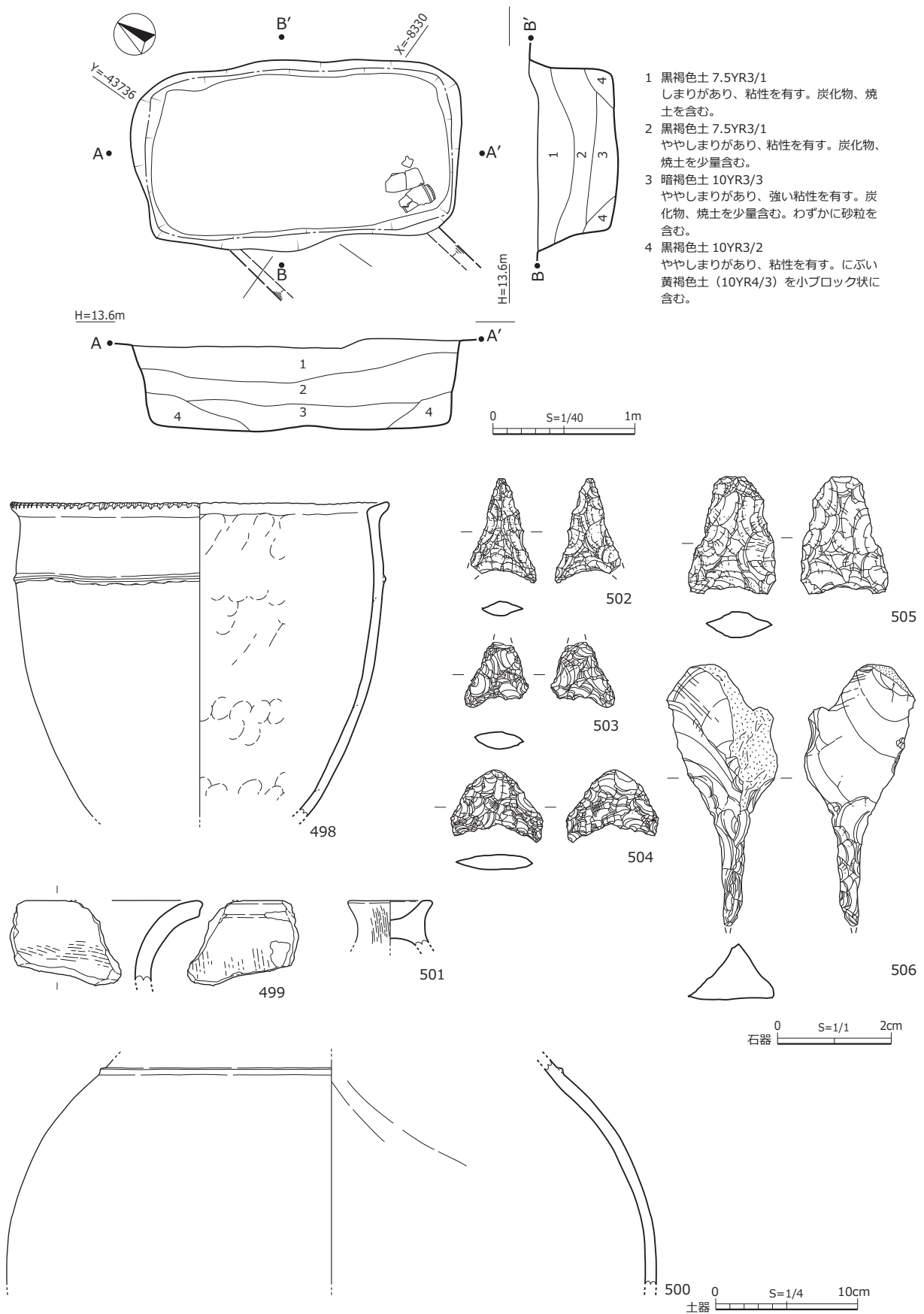
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S62	土坑	円形	2.06	1.78	0.68	Q-21	—	

S62 はやや不整の円形を呈する土坑で、覆土 2・3 層で多くの土器片が出土しており、廃棄土坑と見られる。数量としては多くの土器が得られているが、接合・復元作業等の結果、図化したものは 10 点である。甕形土器は口縁断面が三角形あるいは長形状に肥厚し、胴部には刻目が入らず小さな突帯が付けられている。また、底部はわずかに上げ底となる。石器は黒曜石や安山岩製の石鏃が出土している。

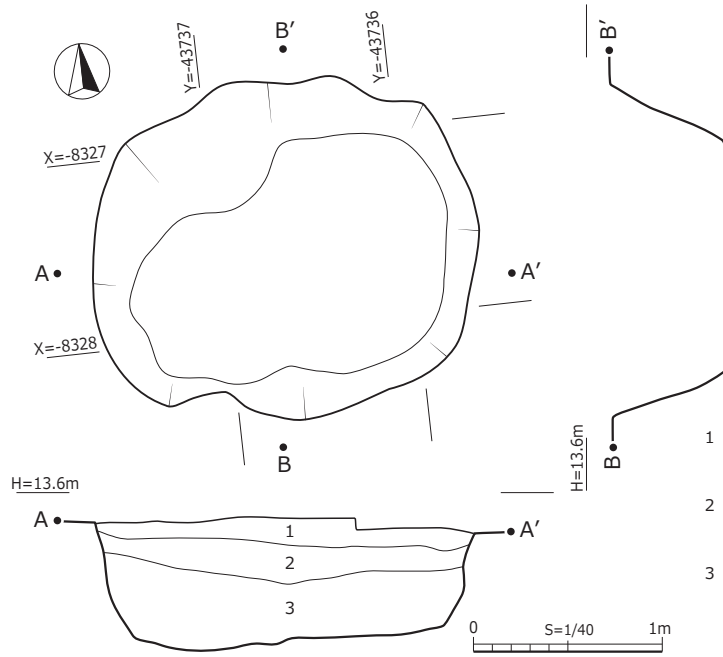
【S64】(第 74 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S64	土坑	楕円形	2.26	1.61	0.23	N-20	—	

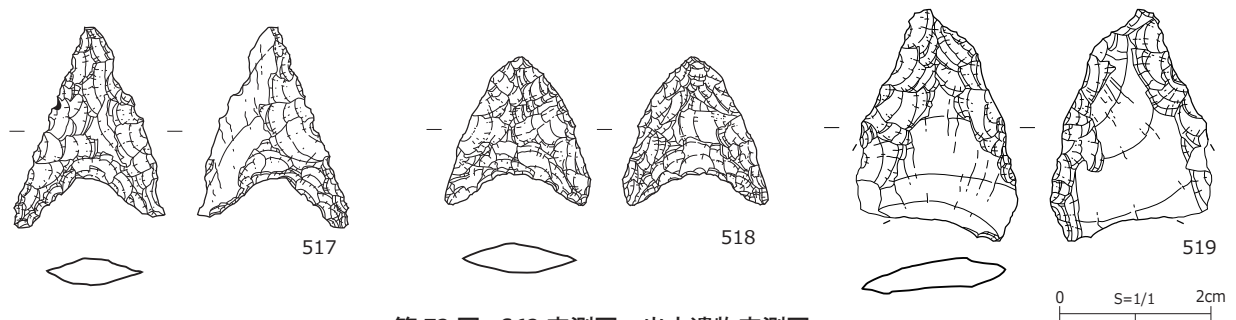
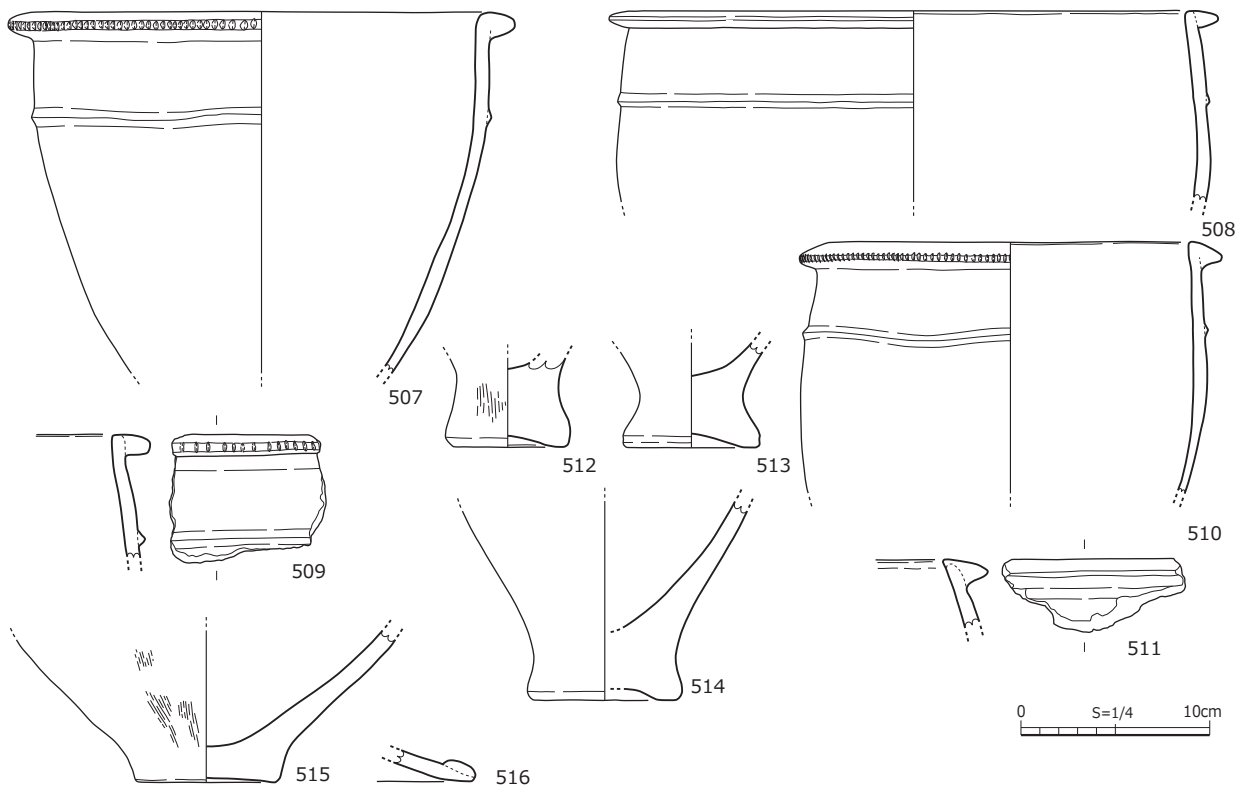
S64 は北西側にステップのような段を持つ、楕円形の土坑である。遺構検出面で 20cm 弱の玄



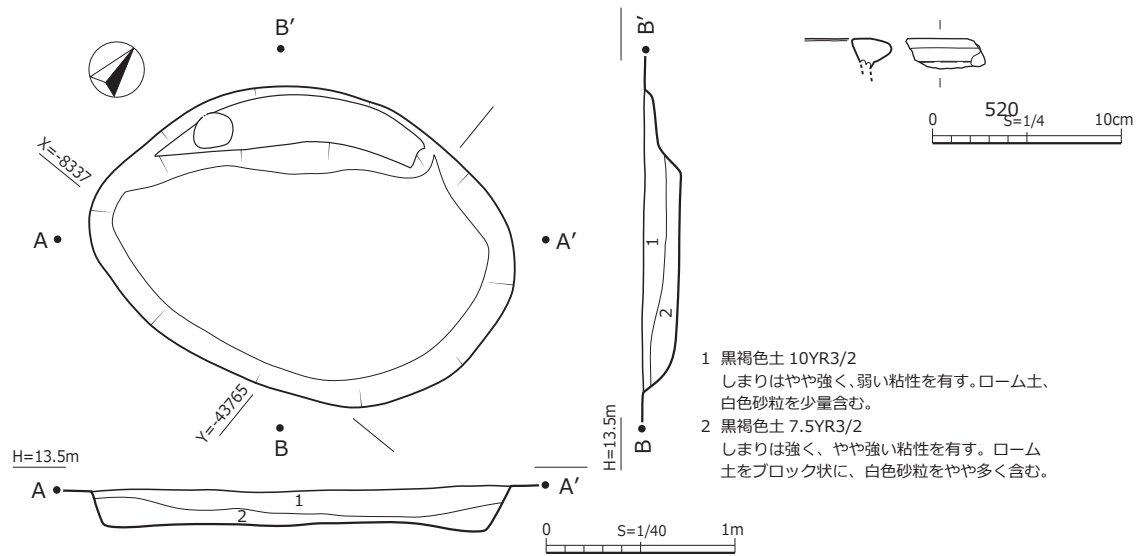
第72図 S61実測図・出土遺物実測図



- 1 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは強く、やや粘性を有す。炭化物、
焼土、細かい砂粒を含む。弥生土器を含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、やや粘性を有す。炭化物、
焼土、細かい砂粒を含む。弥生土器を含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。炭化物、焼土、
細かい砂粒を含む。



第73図 S62 実測図・出土遺物実測図



第74図 S64実測図・出土遺物実測図

武岩と見られる石が10個ほど見ついている。小片ではあるが埋土から出土した甕口縁部1点を図示した。口縁断面が三角形を呈し、刻目は施していない。

【S78】(第75図、図版38)

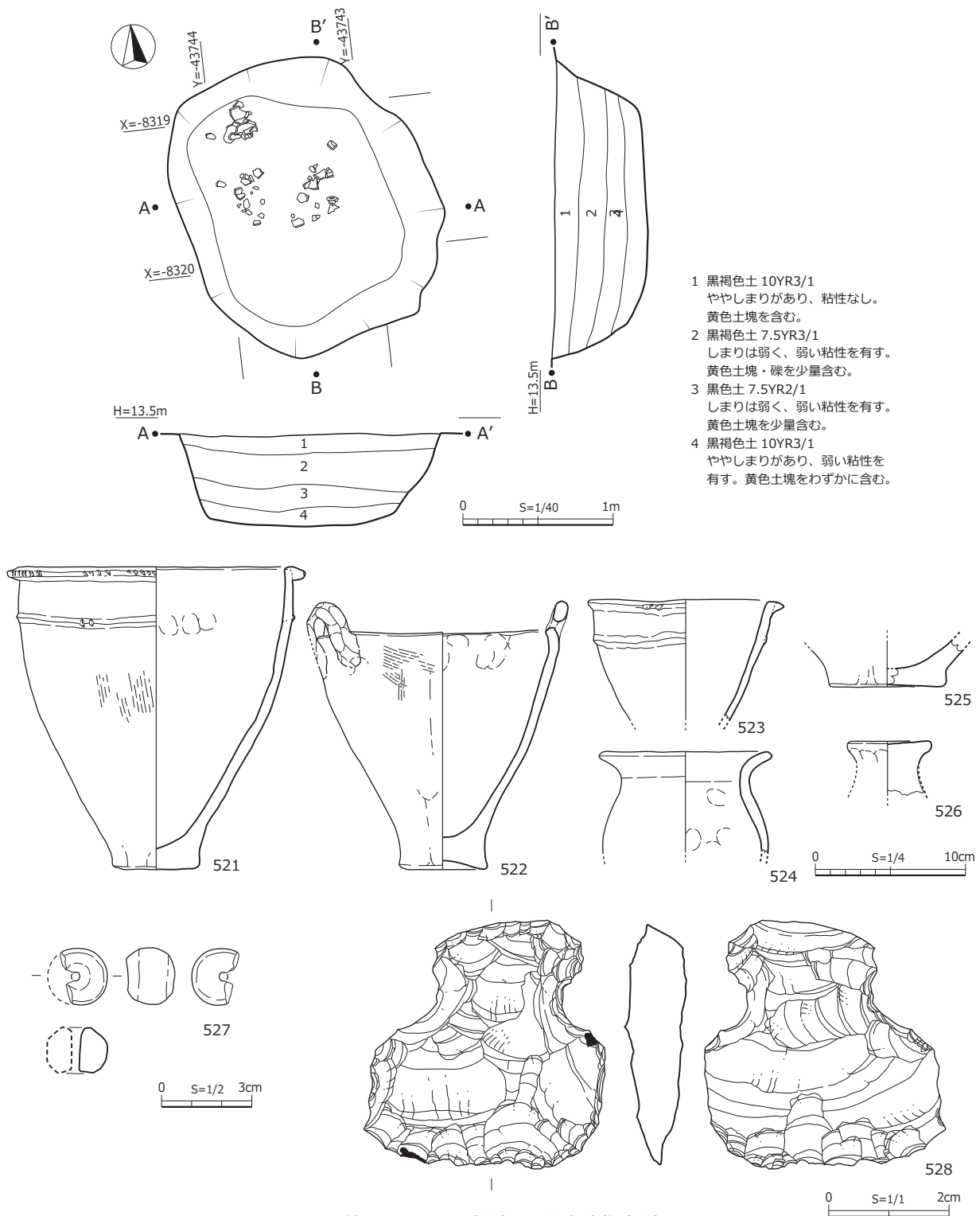
番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S78	土坑	方形	1.92	1.64	0.60	P-22	—	

S78はやや南北方向に長い土坑で、埋土3層下部から4層及び床面にかけて遺物がやや集中的に検出された。

この土坑から出土した遺物は土器に限らず小型品が多いようである。甕は口縁部に刻目、胴部に小さな突帯という弥生時代中期の特徴を良く残すが、器高は20cmにわずかに満たない。もう1点は胴部までの資料だが、推定器高はさらに低い。また、ほぼ完形に接合・復元できたもので、橋状に一对の突起を取り付けている甕が出土した。器形としては深鉢とすべきかもしれない。口唇部の成形は粘土を内器面へ引き込むようにナデ調整している為、その痕跡が所々でわずかな突出として残っている。胴部は張らず、わずかに上げ底としている。全体にハケメ後ナデ調整を行っている。土製丸玉は復元すると直径約2cmになる。表面の仕上げや穿孔も丁寧で実用的な印象がある。

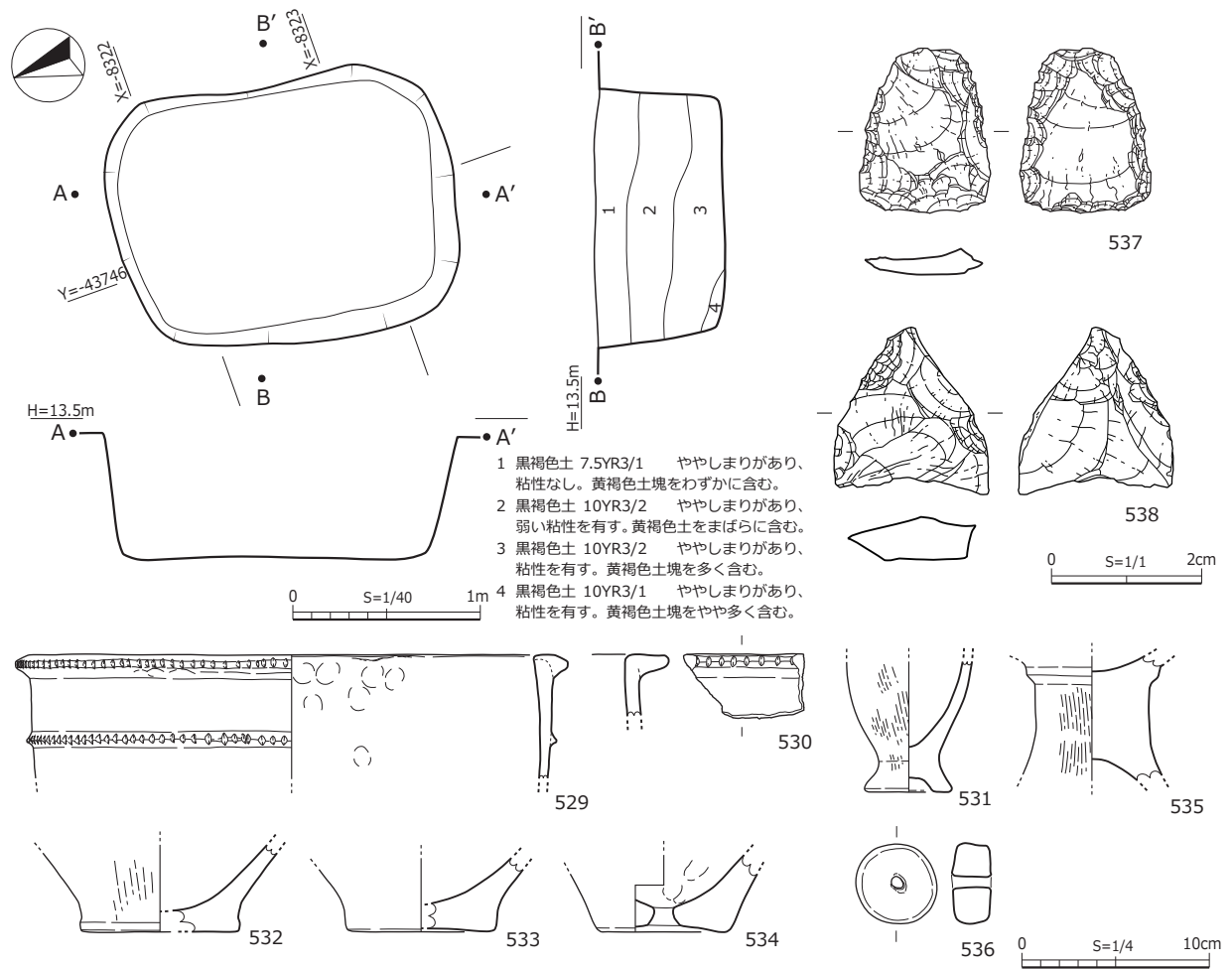
【S81】(第76図)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S81	土坑	方形	1.84	1.40	0.68	P-21	—	



第75図 S78実測図・出土遺物実測図

S81は隅丸方形を呈す土坑で、四辺とも底面までほぼ垂直に掘り込まれ、検出面と変わらない面積を有している。弥生時代中期の遺物が出土した。甕は口縁部を粘土貼り付けによって肥厚させ刻み目を施している。底部資料ではわずかな上げ底とし、底面に焼成後穿孔を行うものがあった。脚台から細長い胴部を持つ鉢形土器があり、直口する口縁へ続く器形と見られる。高坏は脚



第76図 S81 実測図・出土遺物実測図

柱部を図化した。坏部との境に突帯が付けられている。土製紡錘車は全面を丁寧なナデ調整で仕上げられている。石器はどちらも安山岩製で、側縁や先端部は厚みが残っており、加工途中の石鏃未製品である。

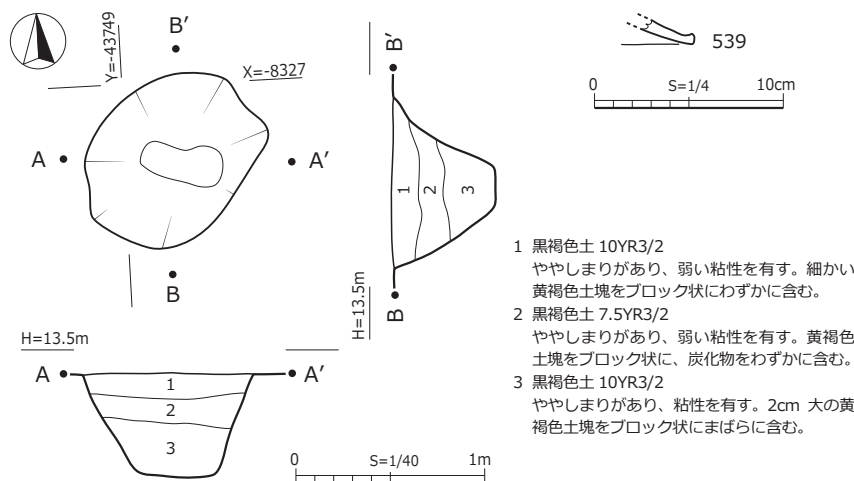
【S83】(第77図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S83	土坑	円形	1.00	0.79	0.55	P-21	—	

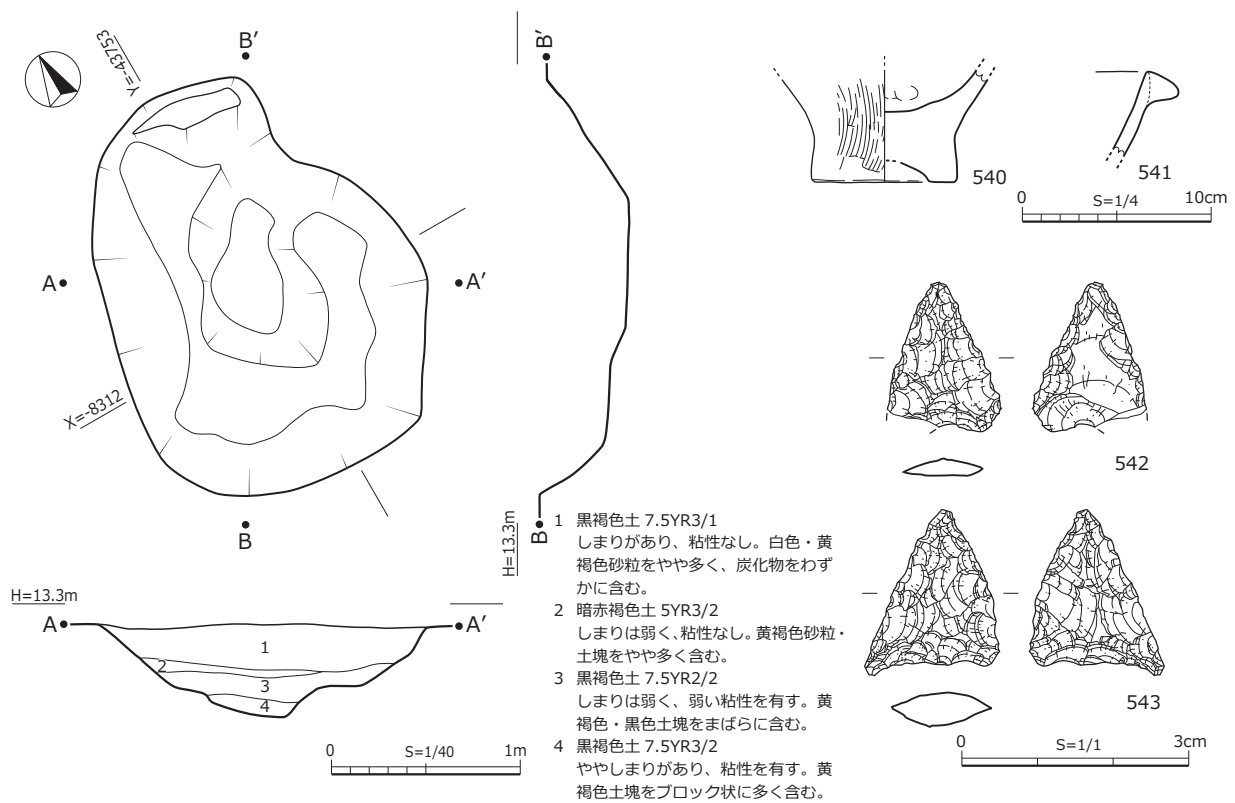
S83は歪な円形の土坑で、出土土器を1点図化した。弥生時代中期と見られる蓋で、端部をわずかに肥厚させる。

【S84】(第78図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S84	土坑	楕円形	2.95	2.25	0.65	O-22	S104 → S84	

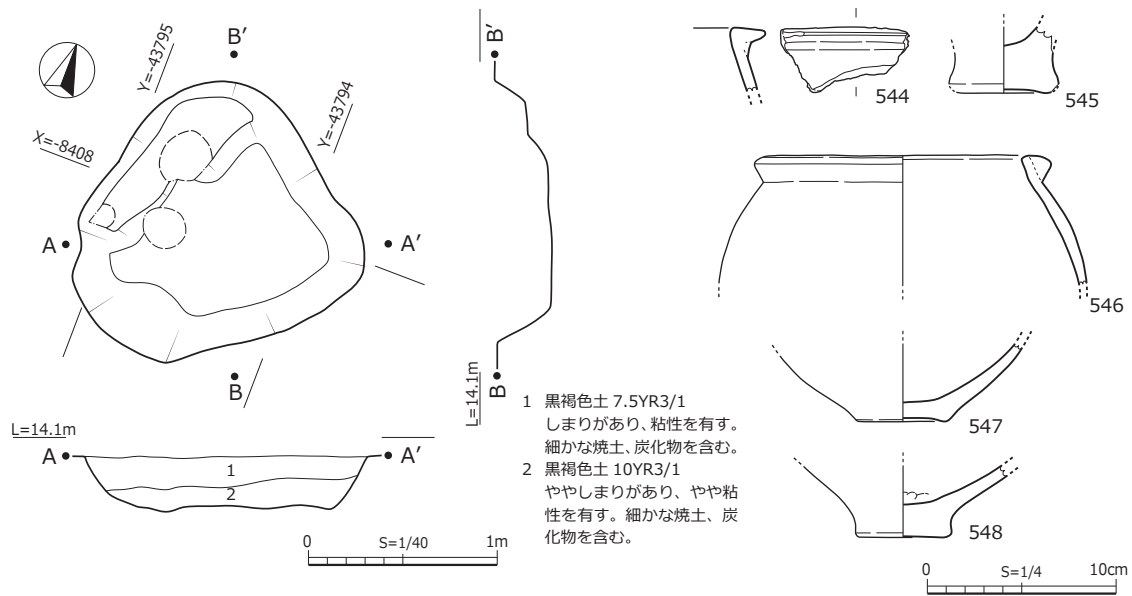


第 77 図 S83 実測図・出土遺物実測図



第 78 図 S84 実測図・出土遺物実測図

S84 は不整な楕円形の土坑で、床面もかなり凹凸が残る。検出時や土層断面の観察の結果、S104 の廃絶後に掘られたとみている。このため、底面は S104 床面や柱穴の掘り込みなどと重複している可能性がある。出土遺物を見ると甕底部は上げ底で、外器面に明瞭なハケメ調整を行っている。口縁部資料は胴部への傾きから鉢形と考えられ、口縁断面はやや間延びした三角形に肥厚する。安山岩製の石鏃も 2 点出土した。



第79図 S86 実測図・出土遺物実測図

【S86】 (第79図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S86	土坑	円形	1.52	1.38	0.28	K-13	—	

S86 はやや不整な円形の土坑で、西側に段がある。床面からこの段までの高さは 15cm 程度である。弥生時代中期と見られる土器を検出した。甕の口縁部は肥厚し、内傾の度合いも強い。底部の2点は壺形と見られる。

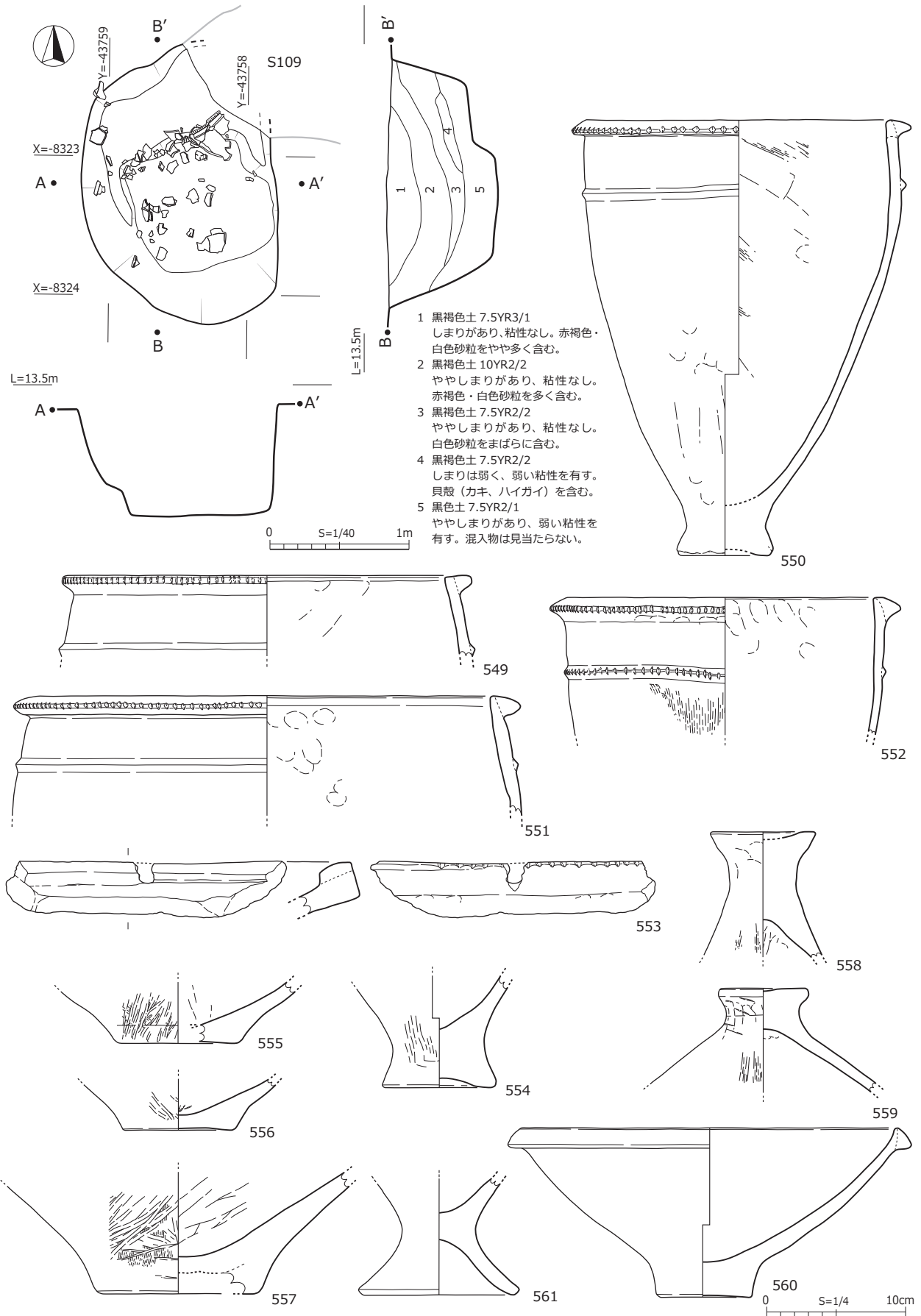
【S88】 (第80図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S88	土坑	楕円形	1.92	1.45	0.80	O-21	S88→S109	

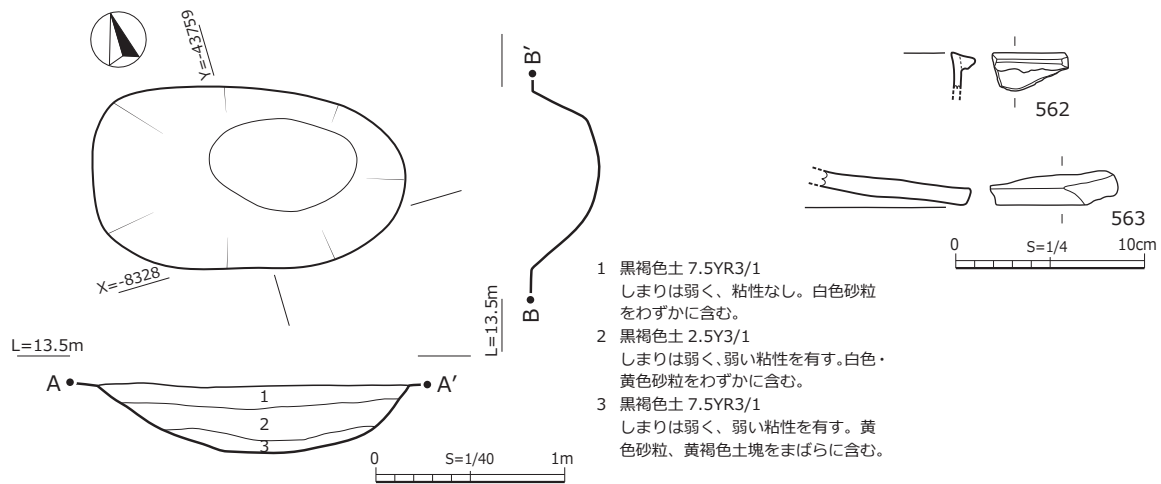
S88 は楕円形を呈す弥生時代中期と見られる土坑で、底面の形状は方形に近い。北側に段を持つ構造で、土器の多くはこれより上位で得られた。北東隅を S109 に切られている。出土した土器は甕・壺・蓋・鉢などがあつた。甕は三角やカマボコ形に肥厚し刻み目を施す。胴部に突帯を付し張りは弱く、底部は上げ底である。大型の壺口縁部も出土している。広口の口唇部に粘土を乗せ、高さで厚みを持たせて複合口縁に見せる効果を意図したものか。また、脚の付いた甕底部を図示している。弥生後期のものであるが、混入と見ている。

【S89】 (第81図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S89	土坑	楕円形	1.65	0.96	0.35	O-21	—	



第80図 S88 実測図・出土遺物実測図



第81図 S89実測図・出土遺物実測図

S89は楕円形を呈す土坑で、西側が緩やかな傾斜で掘り込まれている。遺物は小片だが弥生時代中期土器を2点図示した。甕は器壁が薄く、口縁に貼り付けた断面三角形の肥厚部も小さい。蓋は胴部から直線的に底部へ伸びる器形で、内器面は端部にかけて帯状に煤が付着している。

【S90】(第82図)

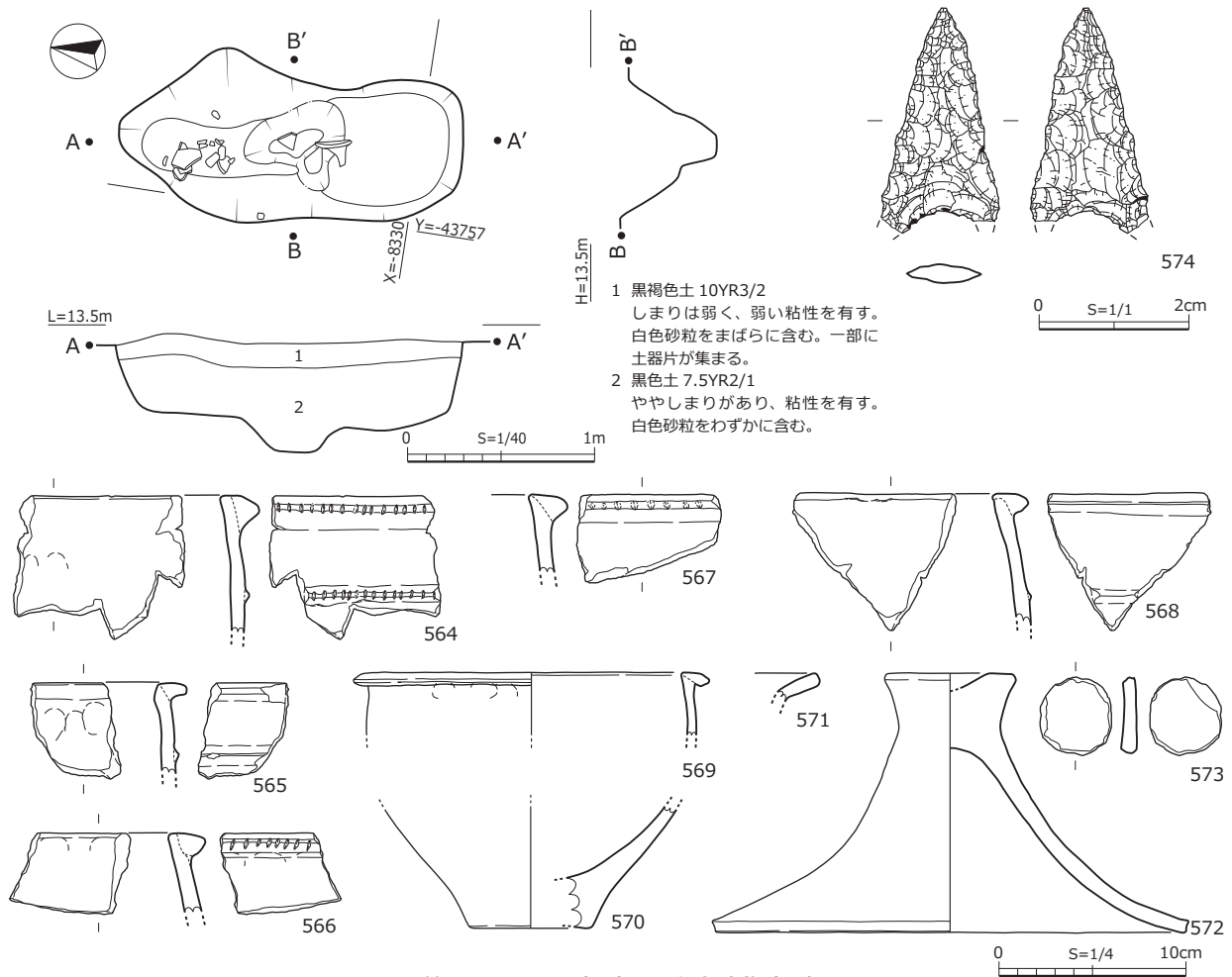
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S90	土坑	不整形	1.86	0.70	0.58	O-21	S116 → S90	

S90は細長い不整形の土坑で、底面は概ね平坦だが中央が深い。この土坑からは弥生時代中期に属する土器のほか、弥生土器を円盤状に加工した土製品や安山岩製鏃が出土している。土器はほとんどが口縁を肥厚させ刻目や胴部突帯を施した甕であるが、ほぼ完形の蓋が遺構覆土2層から検出された。天井部の半分と端部をわずかに欠き、外器面は磨滅・剥落しているが、内器面には丁寧なナデ調整や使用に伴うと見られる煤・黒く変色した部分がよく残っている。

【S91】(第83図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S91	土坑	楕円形	1.86	1.12	0.30	Q-20	S186 → S91	

S91は楕円形で比較的浅い土坑であるが、土器などが多く出土した。西側に段があり、時期は弥生時代中期と見られる。土器は甕・壺・器台があり、甕は胴部突帯の有無はあるものの口縁に断面三角形となる粘土貼り付けを行っている。底部は焼成前に穿孔しようと内外器面から加工しているが、中途となっている資料がある。器台は端部に向かって広がらない円筒形で、器壁が厚い。また、石鏃が2点出土している。



第 82 図 S90 実測図・出土遺物実測図

【S92】(第 84 図)

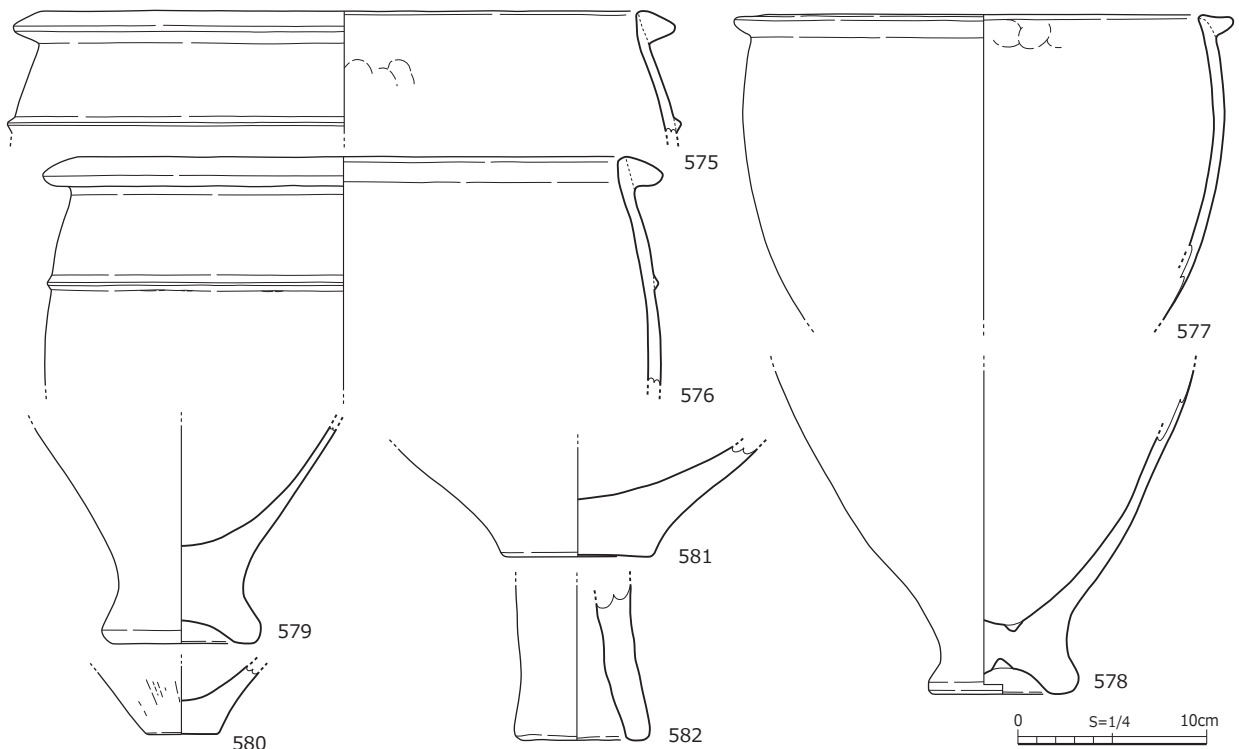
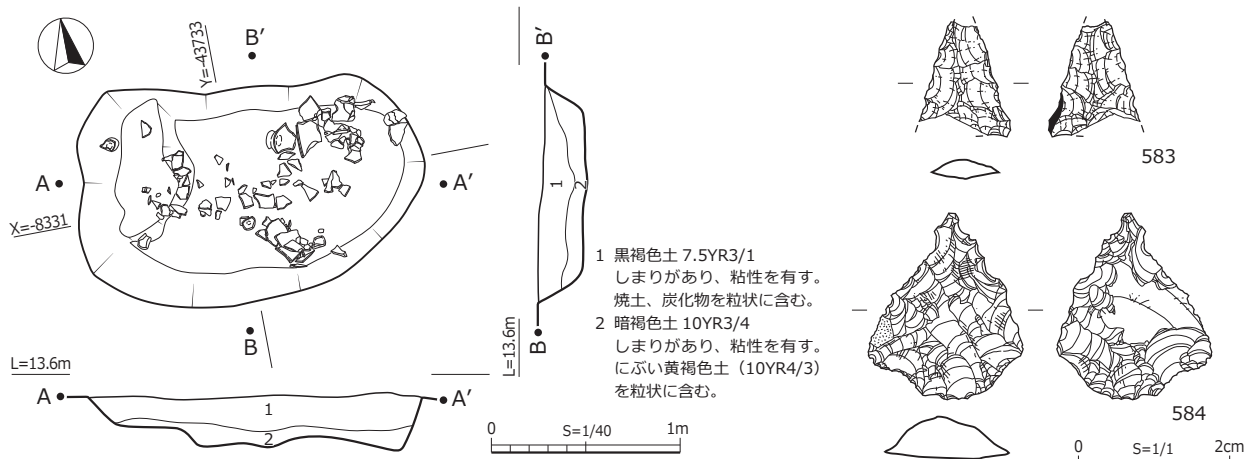
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S92	土坑	楕円形	1.26	1.07	0.25	Q-20	S152、S186 → S92	

S92 は東西に長軸を持つ楕円形の土坑で、ほぼ中央にピット状に低くなっている部分があり、北側をピット (P490) に切られている。土器と黒曜石製鏃を図示している。時期はこの土器から、弥生時代中期と見ている。土器は甕で、口縁は粘土を貼り付けて断面が三角形に肥厚している。小さな胴部突帯が一周するものの、上下に分かれ繋がっていない。

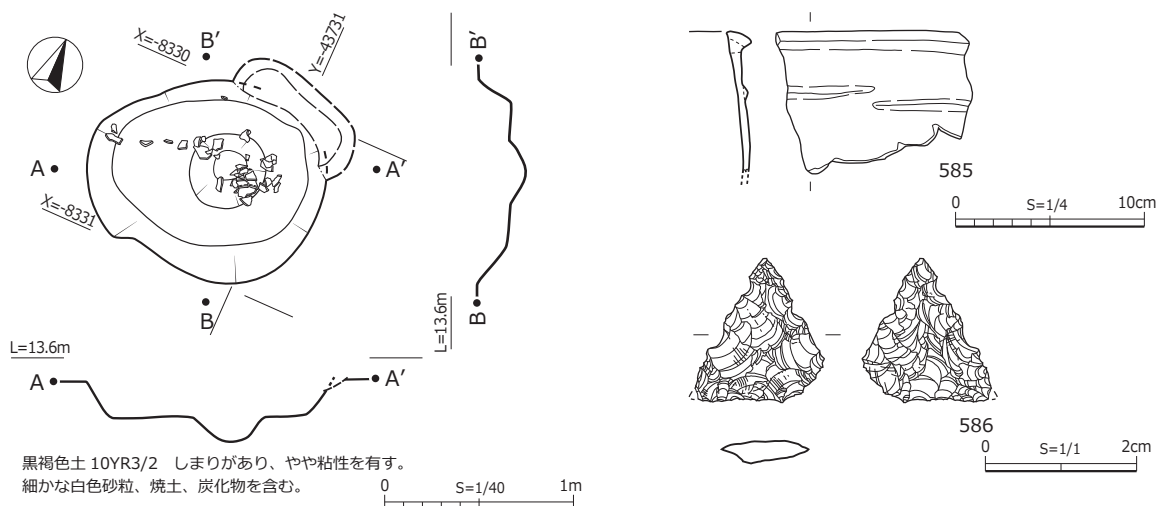
【S95】(第 85 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S95	土坑	楕円形	2.72	1.26	0.50	Q-21	S95 → S5	

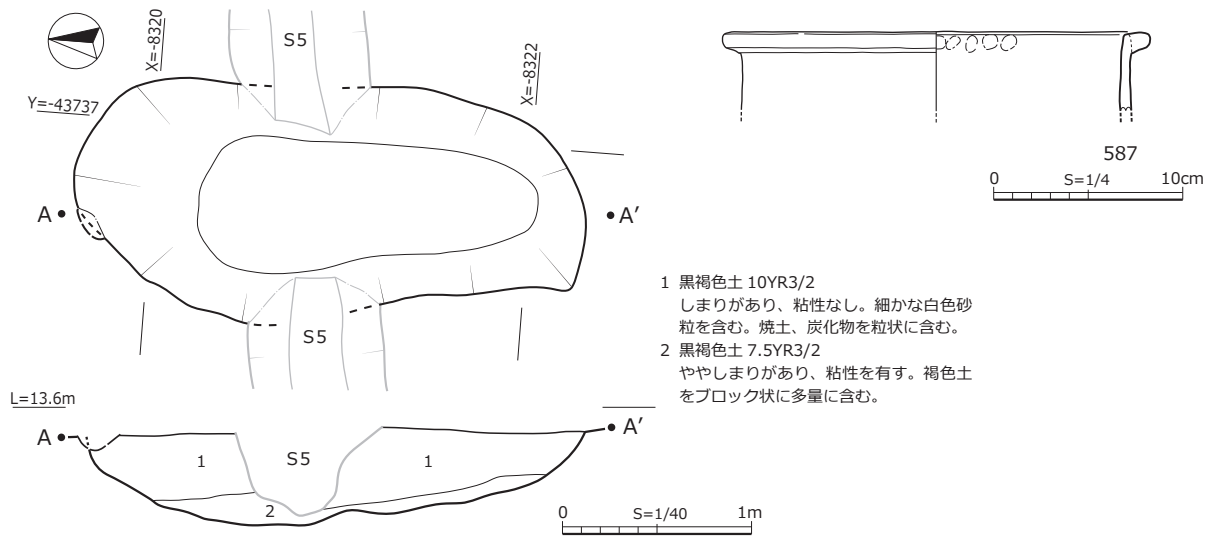
S95 は細長い楕円形を呈する土坑で、中央付近が溝 S5 に切られている。出土した土器は弥生時代中期と見られる甕で、口縁断面は長方形をなしている。



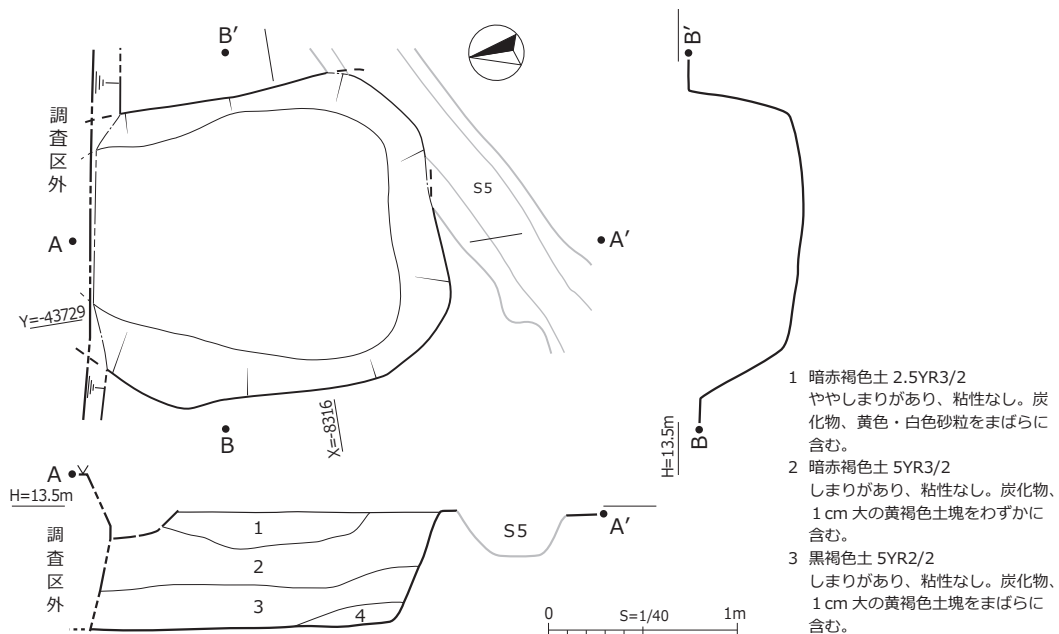
第83図 S91実測図・出土遺物実測図



第84図 S92実測図・出土遺物実測図



第 85 図 S95 実測図・出土遺物実測図



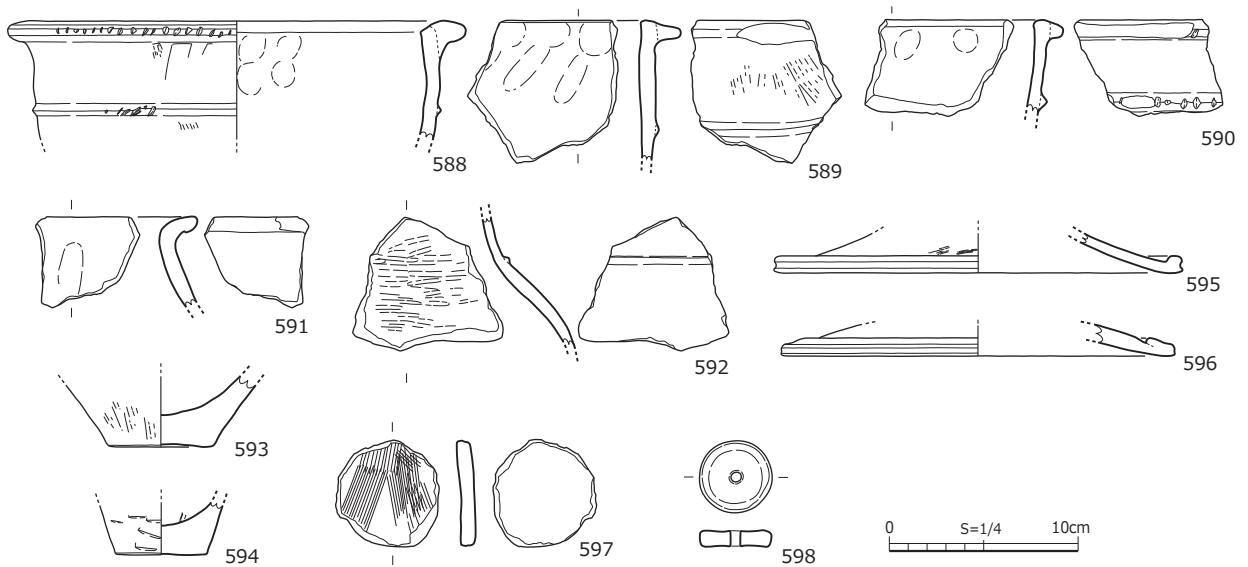
第 86 図 S97 実測図

【S97】(第 86・87 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S97	土坑	長方形	1.8 + α	1.63	0.62	Q-22	S97 → S5	

S97 は土坑で北側が調査区外に伸びており、南東隅の壁も S5 によって削られている。断面は逆台形で床面を平坦に削り、掘り込みの傾斜がやや強い。

S97 からは弥生時代中期に属する土器や土製品が出土した。土器は口縁部を三角形に肥厚させた甕、弥生前期から器形を受け継いだ壺や、端部に粘土で肥厚帯を作る蓋などであった。また土製品として、用途不明の二次加工で縁辺を打ち欠いた円板、外周部をわずかに厚く作る土製紡錘車を図示した。



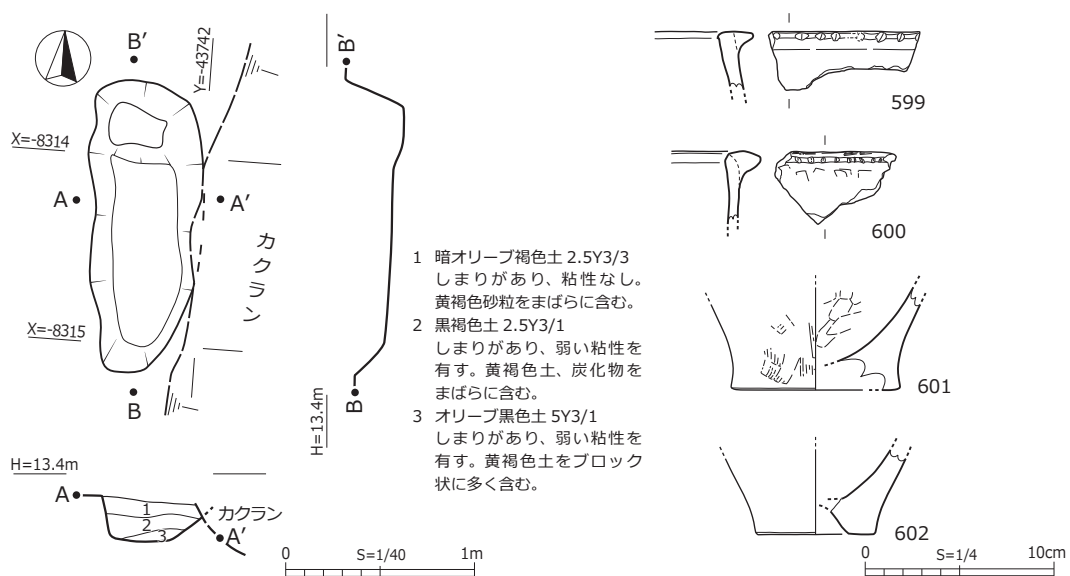
第 87 図 S97 出土遺物実測図

【S99】 (第 88 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S99	土坑	楕円形	1.55	0.58	0.22	P-22	—	

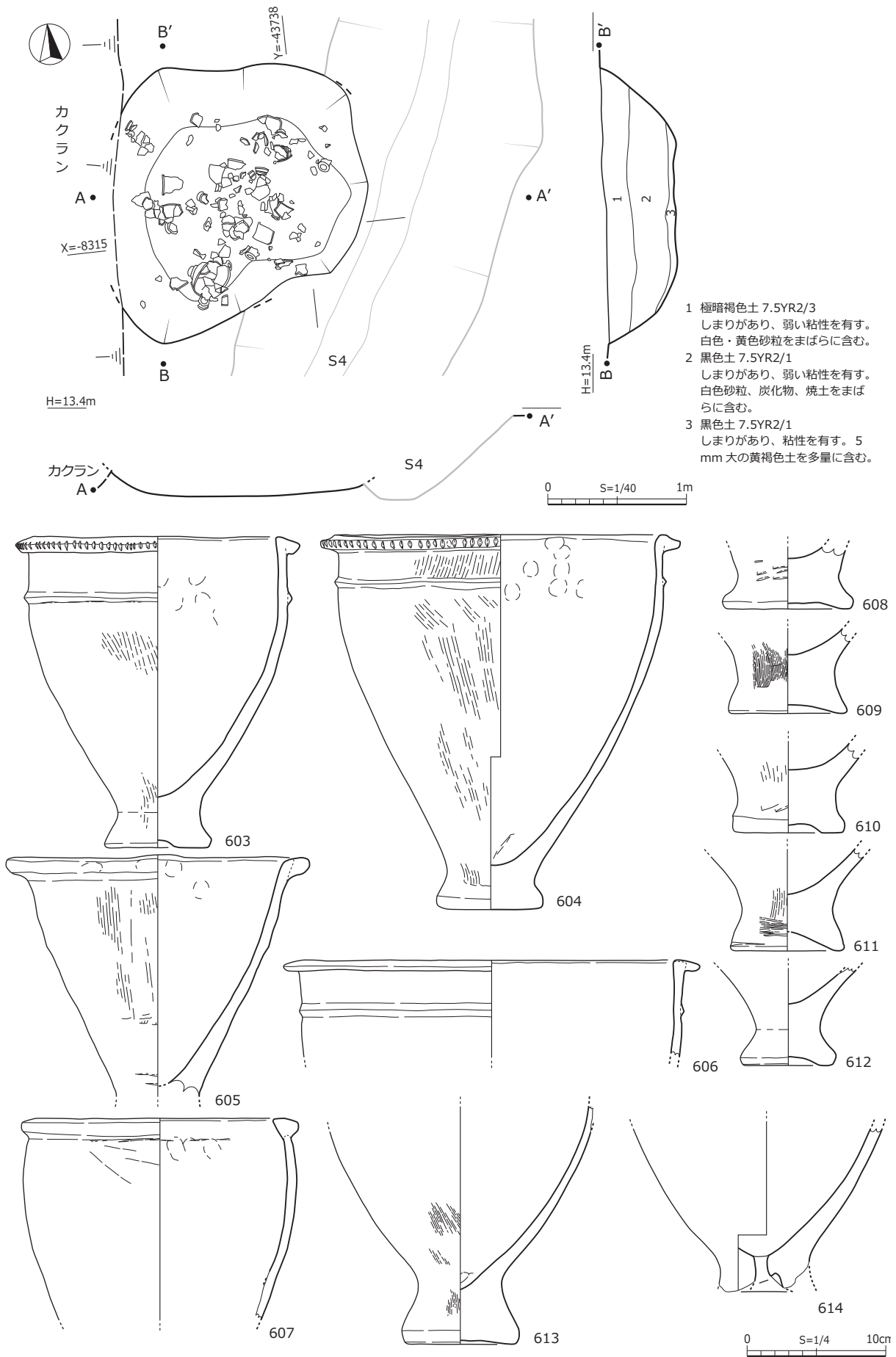
S99 は南北に細長い土坑で、北端部分がわずかに深い。東壁などを現代の溝状攪乱によって削られている。

S99 からは弥生中期の土器が出土した。甕 4 点を図示している。口縁部は口縁を肥厚させ刻み目を入れるもので、粘土を貼り付けた際摘むように成形し、断面は三角形になる。底部は破損で確認できない。

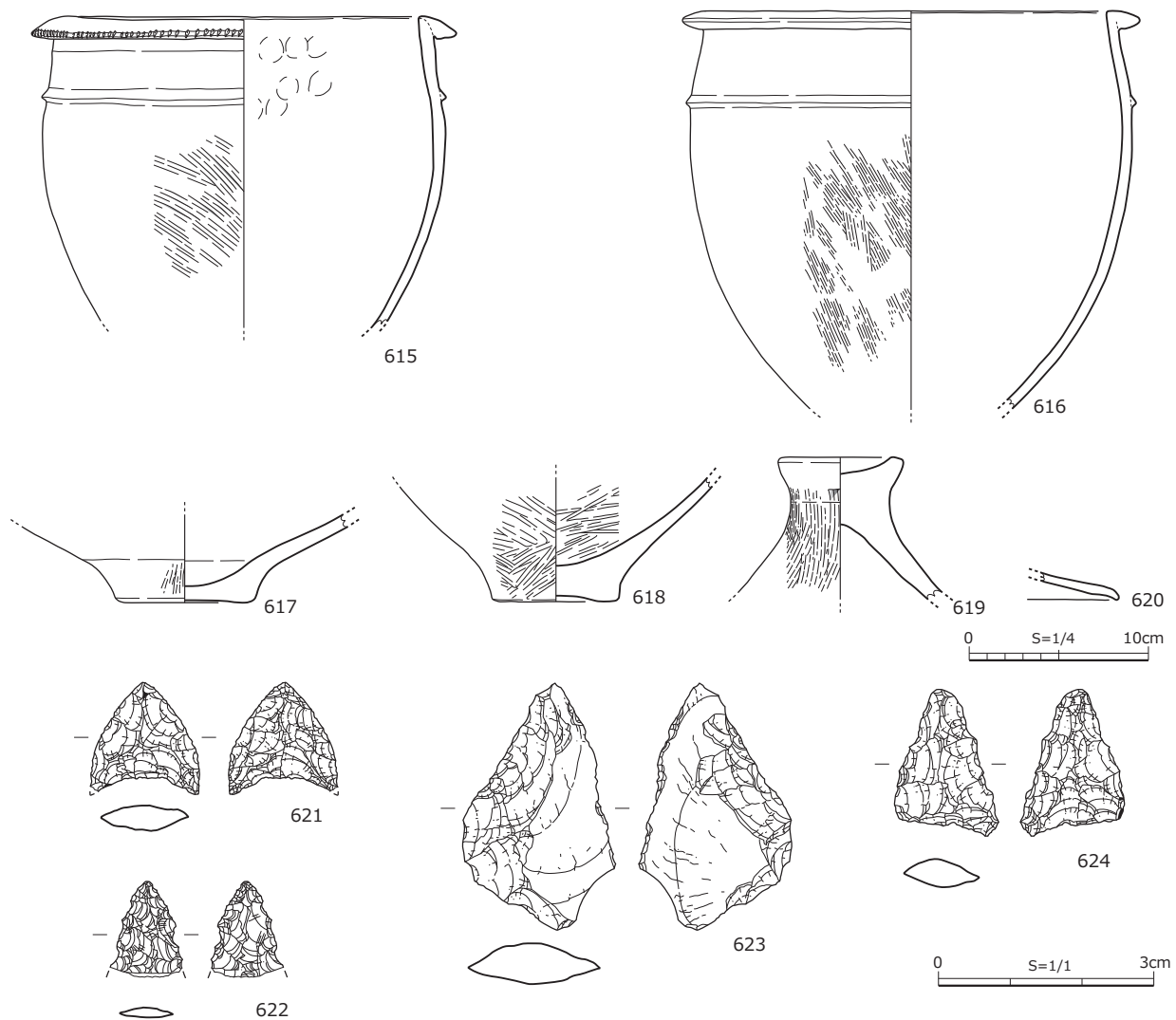


- 1 暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3
しまりがあり、粘性なし。
黄褐色砂粒をまばらに含む。
- 2 黒褐色土 2.5Y3/1
しまりがあり、弱い粘性を
有す。黄褐色土、炭化物を
まばらに含む。
- 3 オリーブ黒色土 5Y3/1
しまりがあり、弱い粘性を
有す。黄褐色土をブロック
状に多く含む。

第 88 図 S99 実測図・出土遺物実測図



第 89 図 S100 実測図・出土遺物実測図 1



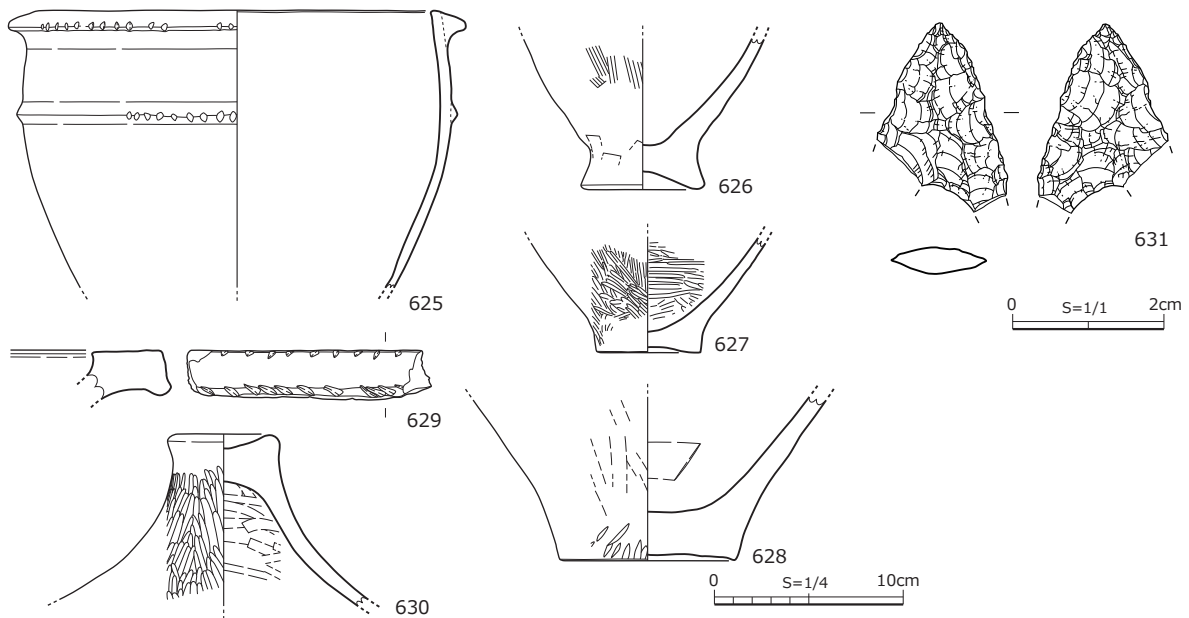
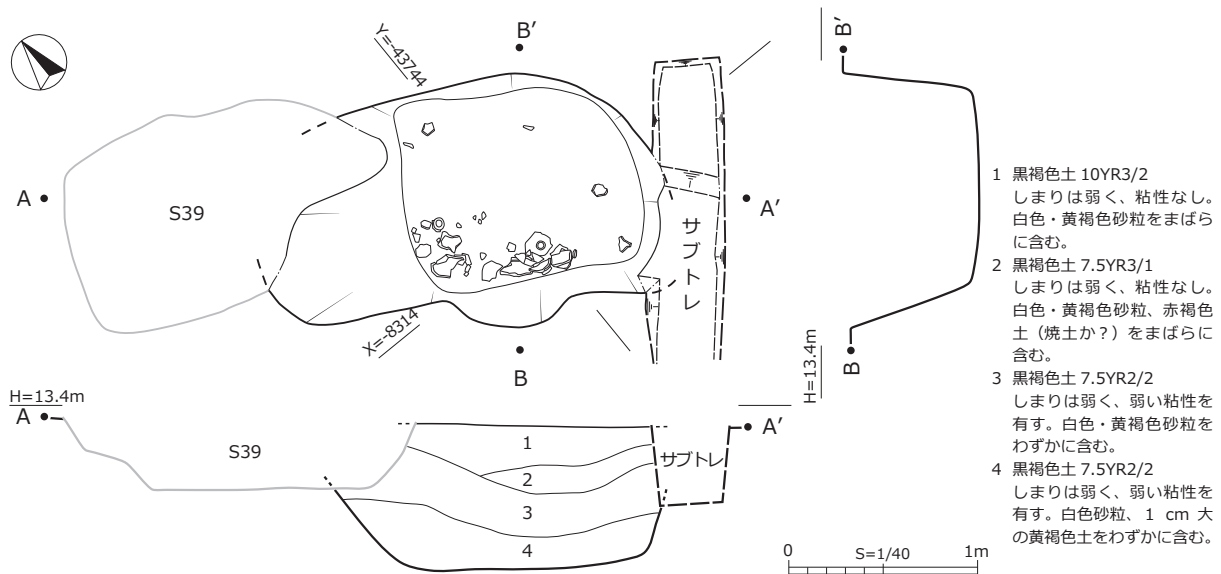
第90図 S100出土遺物実測図2

【S100】(第89・90図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S100	土坑	円形	2.20	1.74 + α	0.52	Q-22	S126 → S100	

S100は円形を呈する土坑で、西側でS126を切る。また、S100自身も東側はS4に切られ、西側は耕作地への進入路によってそれぞれ攪乱を受けている。検出面から埋土1層にかけて多くの土器片や未製品を含む石鏃などを検出した。

土器は甕の割合が高く、他の器種としては壺・蓋各2点ずつの図化にとどまる。器種ごとの特徴でみると、甕では粘土の貼付で肥厚させ、断面は三角形やカマボコ形となる口縁部を持ち、刻目を施すものがある。胴部は張りが弱く、極小の突帯が付くものがある。底部はほとんどが上げ底である。壺は底部のみの資料であるが、わずかに上げ底になる底面と、大きく膨らみ球形の胴部へと至る器形である。蓋は天井部が厚く、つまみ部分だけが黒く変色している。



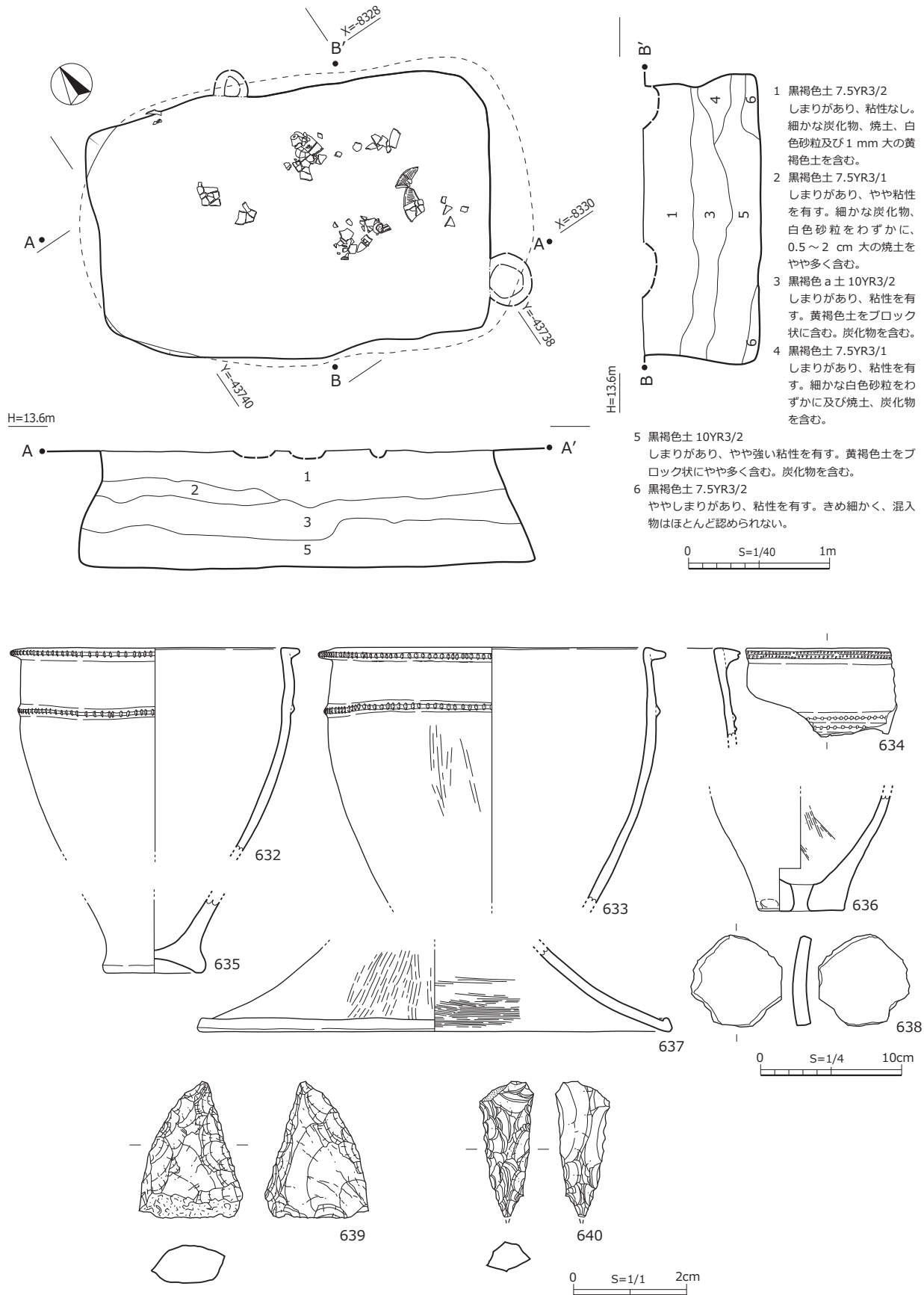
第 91 図 S101 実測図・出土遺物実測図

【S101】 (第 91 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S101	土坑	長方形	2.15 + α	1.12	0.77	P-22	S101 → S39	

S101 は弥生時代中期の土坑で、底面は方形に近い形状だが、西側の傾斜が緩いため検出面では長方形を呈す。北西に S39 が所在し、これにより壁の一部を切られている。

S101 から出土した遺物を概観すると、弥生土器の甕・壺・蓋、安山岩製の鏃などで、このうち甕は胴部中位まで復元できた資料がある。口縁を断面三角形に肥厚させ、胴部突帯にも刻み目を施している。壺口縁部は比較的大型のものと思われる。口唇は分厚く平坦に作られ、外面には上下に向きを違えた斜め方向の刻みを施している。底部資料は 3 点とも上げ底で、甕または壺の底部と見られる。



第92図 S106 実測図・出土遺物実測図

【S106】(第92図、図版7)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S106	貯蔵穴	長方形	3.20	2.06	0.82	Q-21	—	

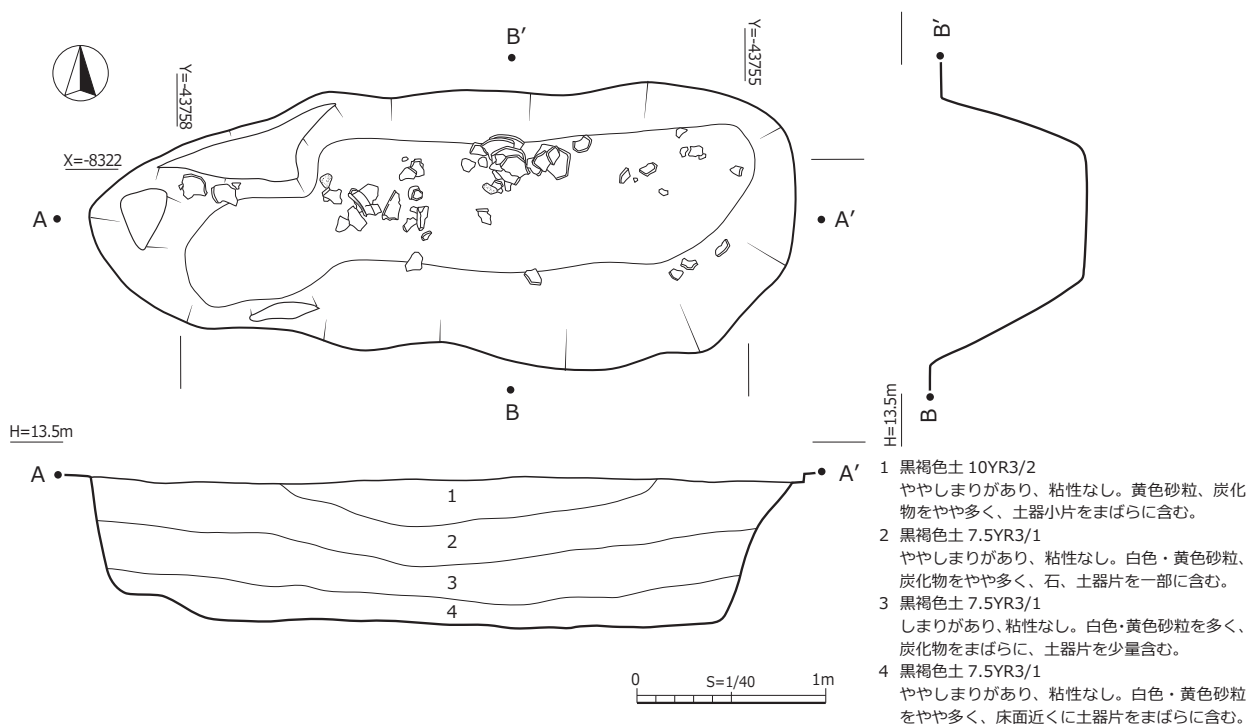
S106は長方形を呈す土坑である。断面形状が袋状で底面が平坦であることから貯蔵穴と見られる。埋土3・5層で弥生土器がまとまりを持って検出された。時期は弥生時代中期で、甕は口縁を断面三角形に肥厚させ、胴部突帯を1または2条巡らせる。肥厚部、突帯ともに刻目が確認できる。底部は焼成後に穿孔したものが出土している。蓋は内器面は横方向、外器面では縦方向のハケメ調整を施す。石器は石鏃と石錐を図化した。どちらも安山岩製で、先端から身部は細かな加工や調整を加えているが、基部には自然面が残る。

【S109】(第93・94図)

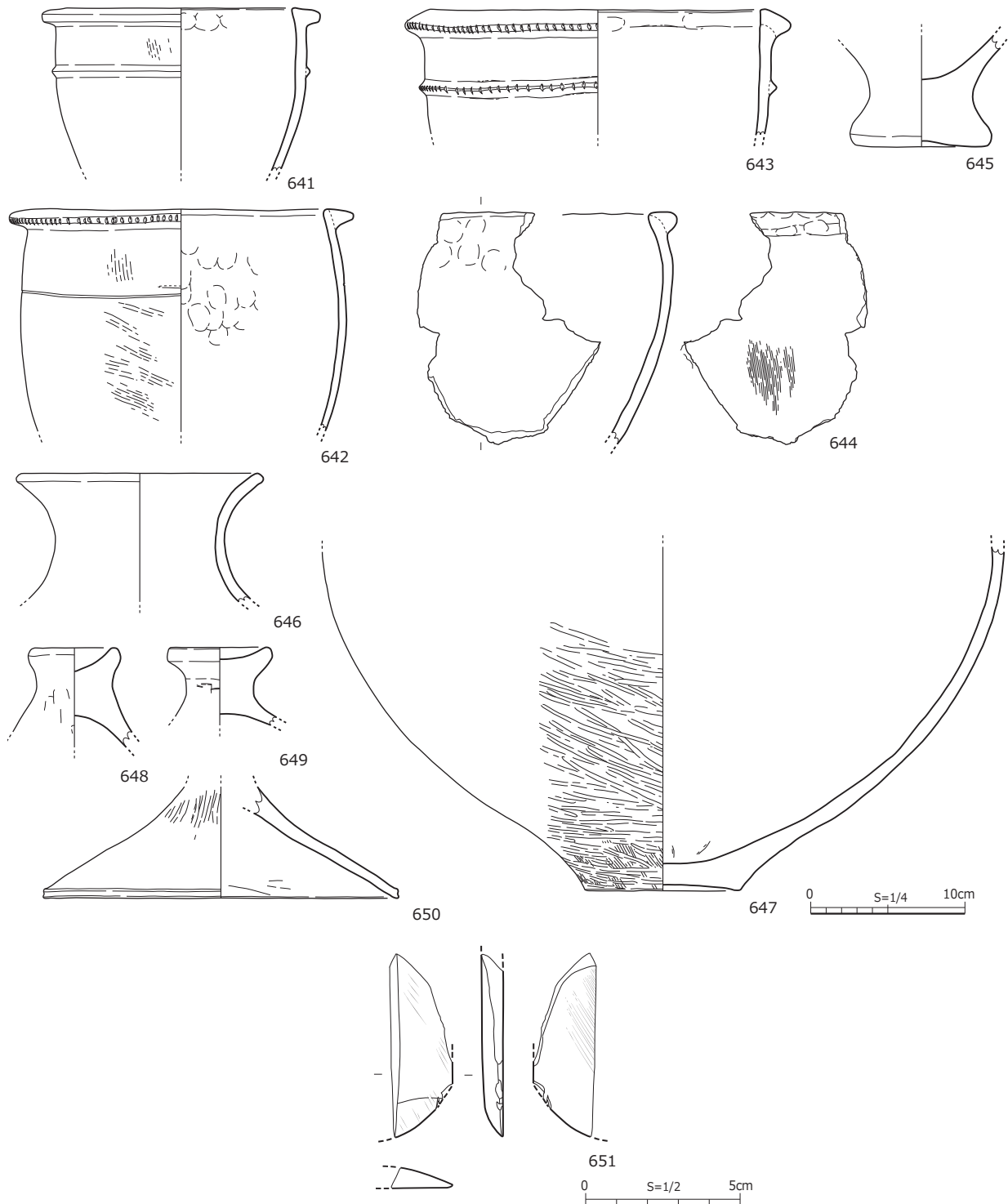
番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S109	土坑	楕円形	3.72	1.48	0.79	O-21	S88→S109	

S109は長楕円形を呈す土坑で、S88との境にあたる西側の立ち上がりでやや形が崩れる。遺構埋土2から3層にかけてやや遺物が集中する出土状況であった。

出土した土器は弥生時代中期のものと考えられ、甕・鉢とともに口縁部を三角形やカマボコ形に肥厚させ、底部はわずかな平底としている。甕では口縁部や胴部突帯に刻目を施すものがある。

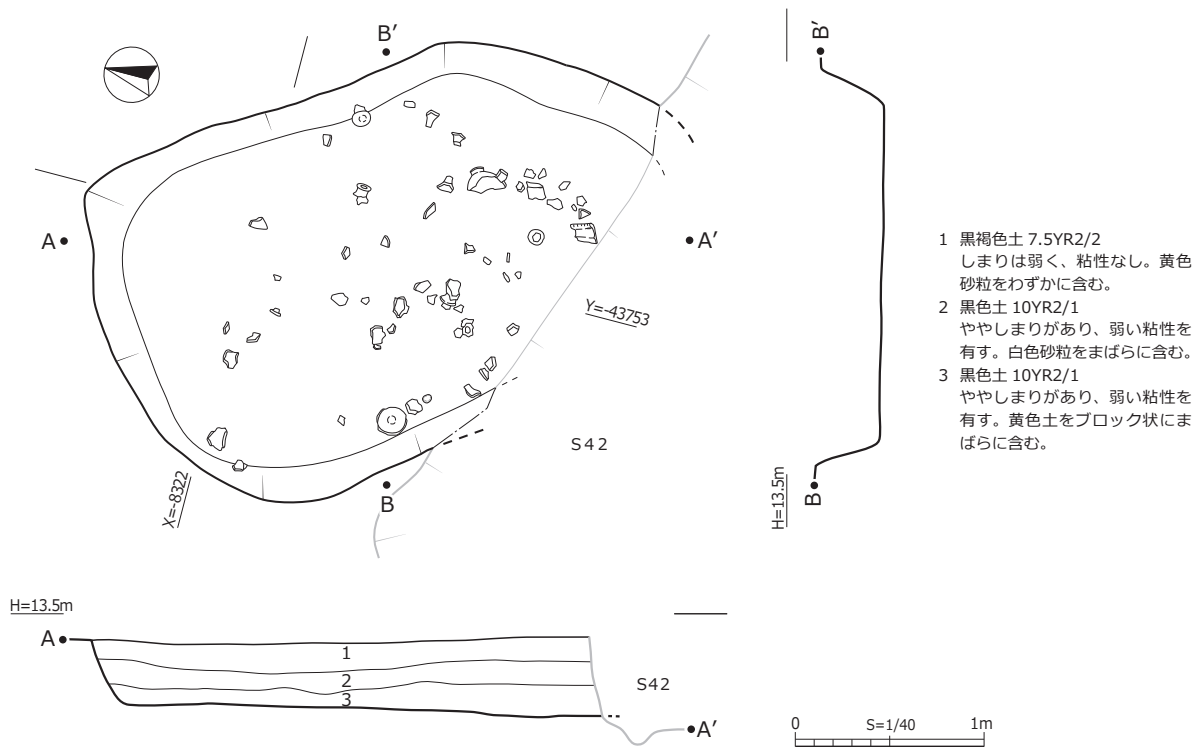


第93図 S109実測図



第94図 S109 出土遺物実測図

また、胴部を無文とするもの、突帯の表現を沈線に置き換えたものもある。壺では胴部中位から底部にかけての資料があり、大型の器形になるものと見られる。石器はシルト質の石材を使った扁平片刃石斧片を図示している。時期は出土した土器から弥生時代中期と見られる。



第 95 図 S110 実測図

【S110】 (第 95・96 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S110	土坑	楕円形	3.18 + α	1.92	0.42	O-21	S133 → S110 → S42	

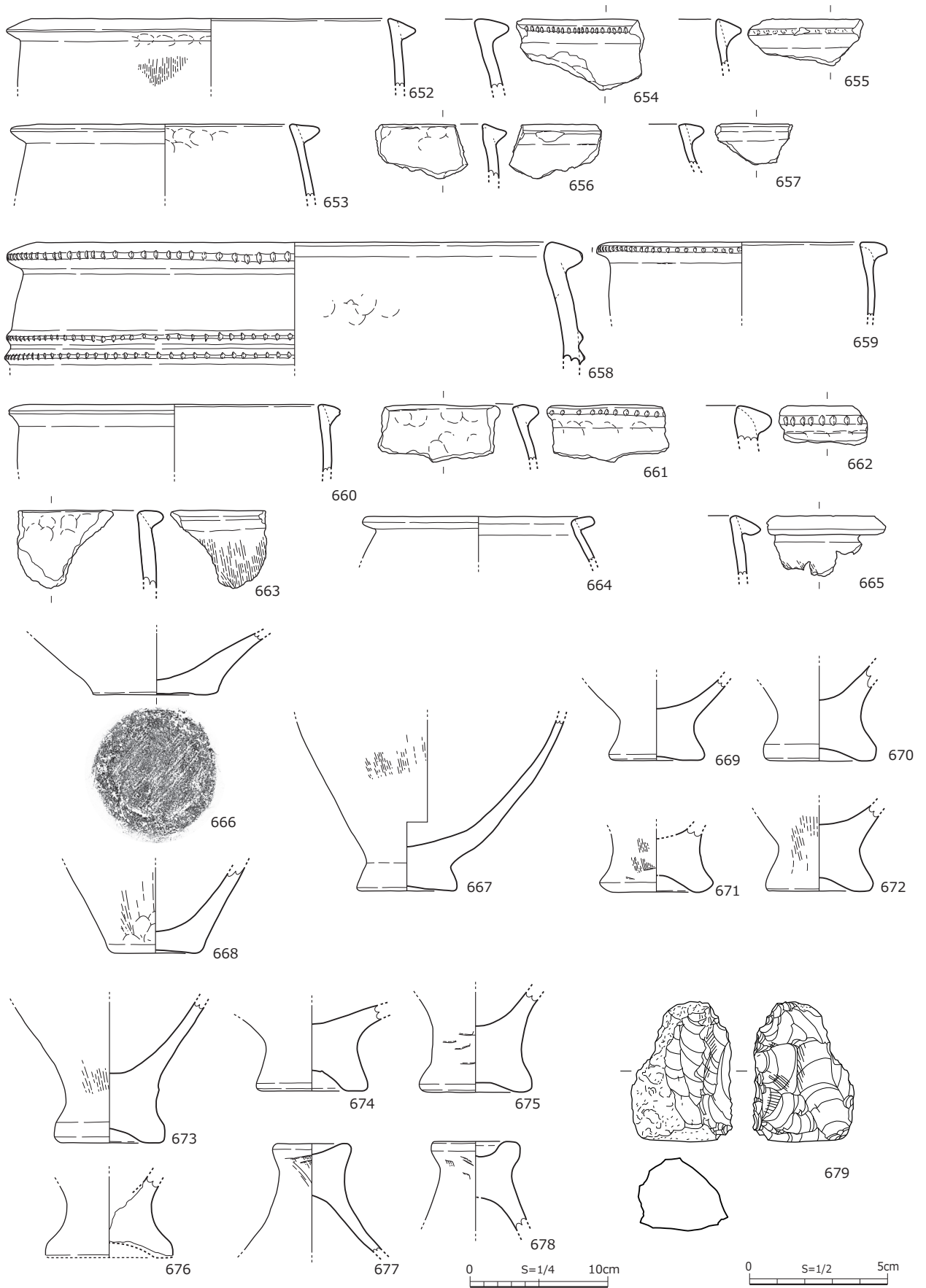
S110 は平面形は楕円状、底面はほぼ平坦な土坑で、検出面から埋土上層にかけて散漫な状況で遺物が出土した。南西側で S133 を切り、南側では S42 に切られている。

土器はほとんどが弥生時代中期の甕で、口縁を断面三角形やカマボコ形に肥厚させ、底部では上げ底にしている。ほかに、底面に条痕に似た調整痕のある壺や蓋の天井部、黒曜石の剥片が出土している。

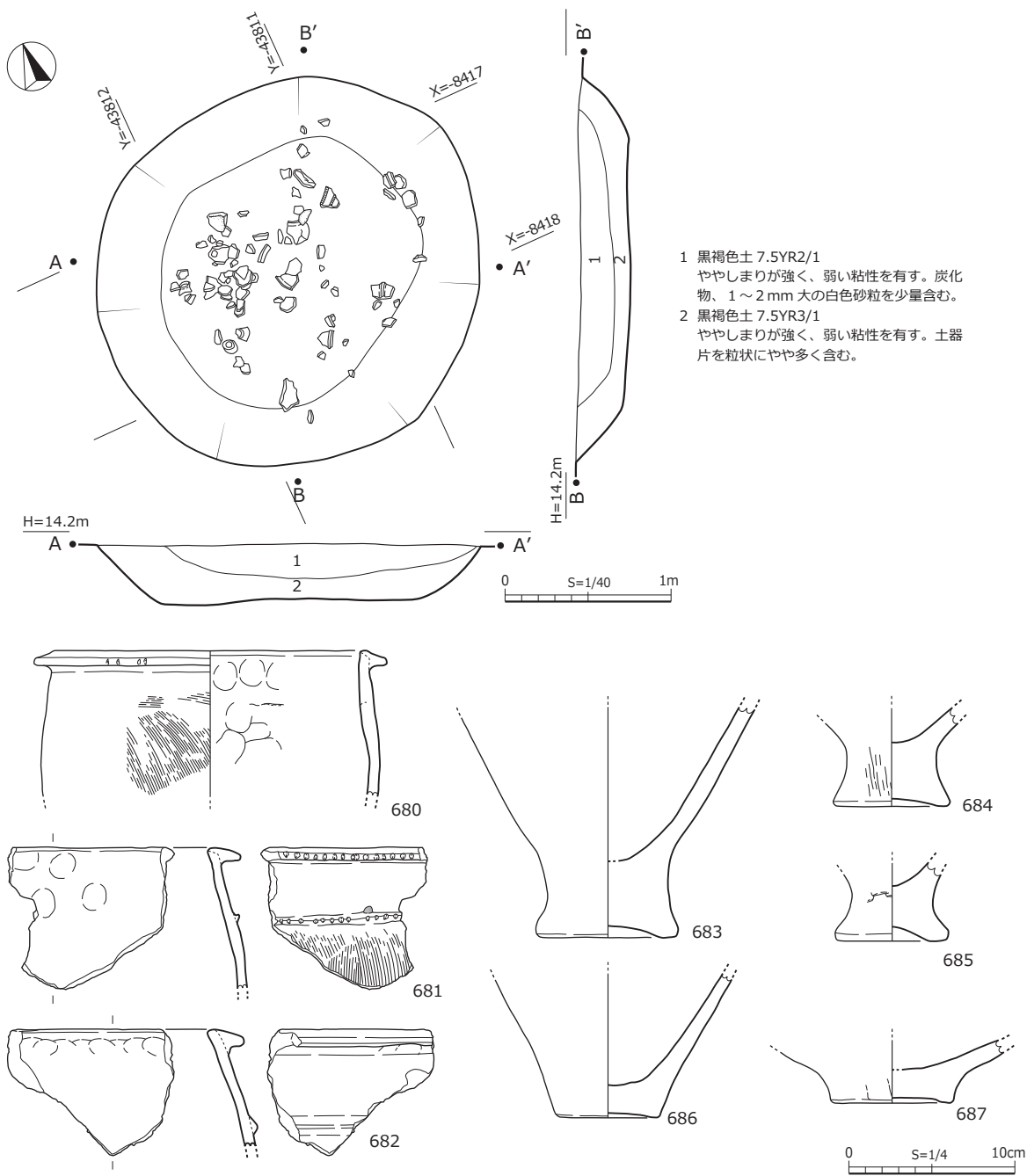
【S112】 (第 97 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S112	土坑	円形	2.45	2.28	0.35	I-12	—	

S112 は平面が円形で断面が皿状を呈する土坑である。出土土器を図示しているが、器種ごとの内訳は甕 7 点、壺は 1 点である。甕は口縁部から底部にかけての各資料で、胴部突帯を貼り付けたたり、口縁断面を三角形に肥厚させるものがある。底部はわずかに上げ底となるものが多い。時期は弥生時代中期と見られる。



第96図 S110 出土遺物実測図

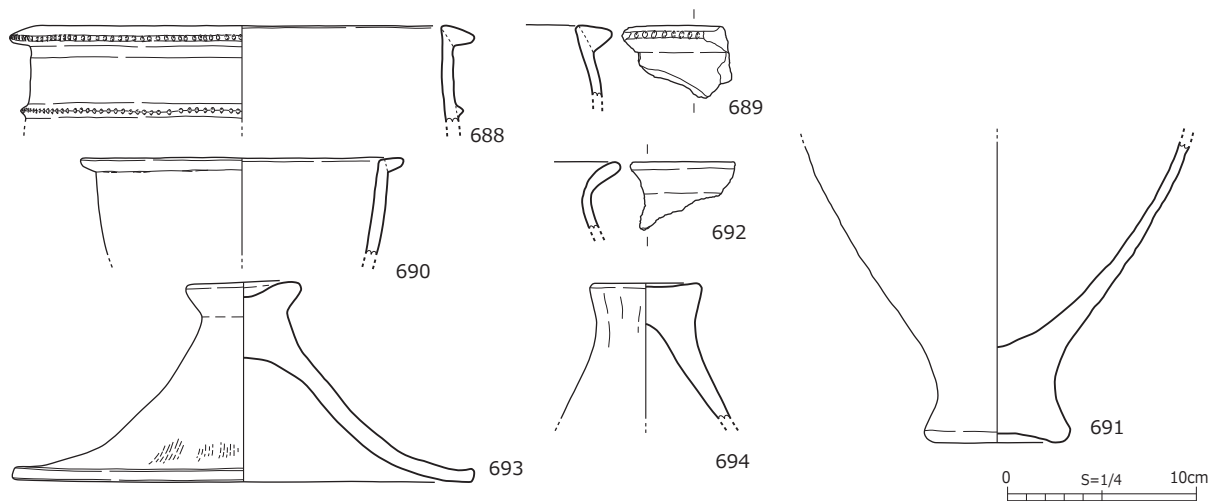
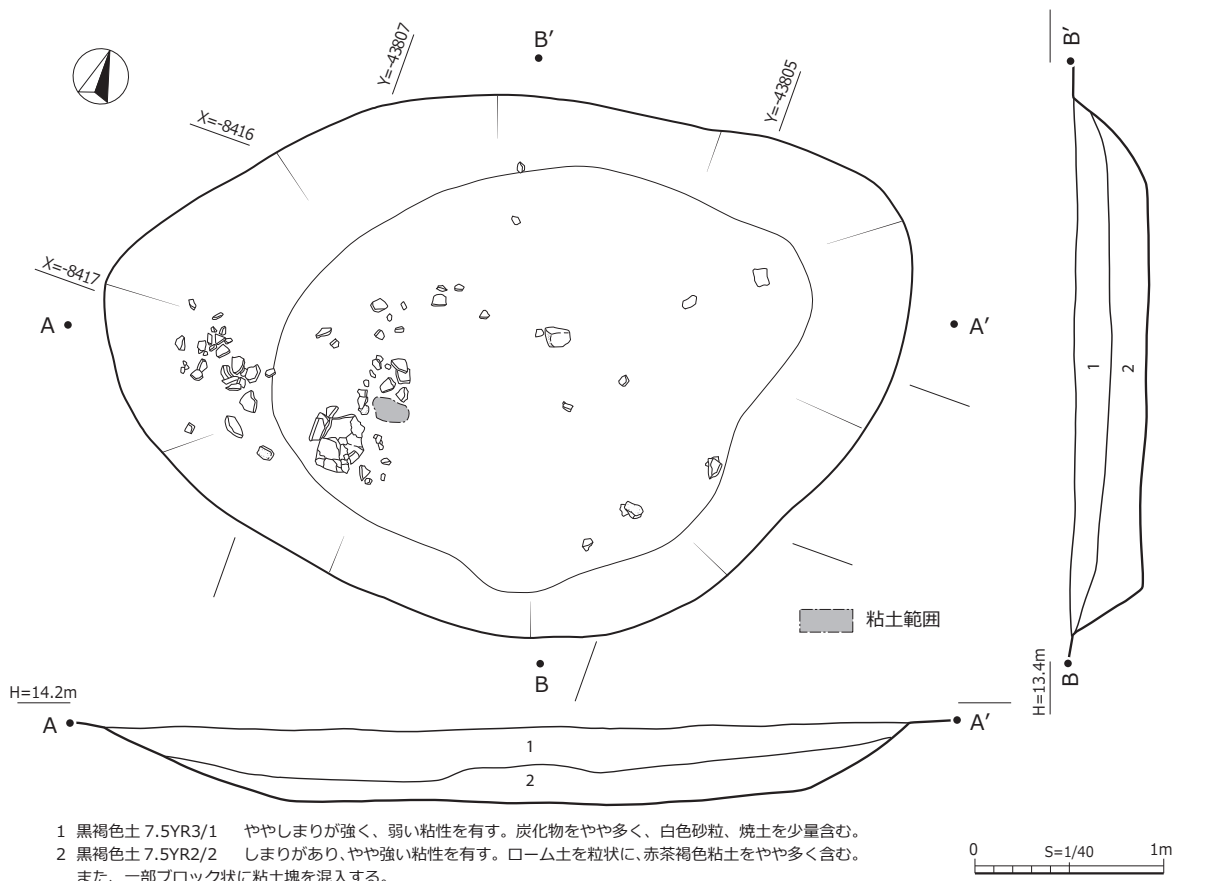


第 97 図 S112 実測図・出土遺物実測図

【S113】 (第 98 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S113	土坑	楕円形	4.28	2.75	0.40	J-12	—	

S113 は楕円形を呈す土坑で、断面形状は皿状である。S112 の東側に隣接しているが、これより一回り大きく、出土遺物も弥生時代中期の土器（甕・壺・蓋）と内容がほぼ同じであることから、同時期に利用されていたものと考えられる。

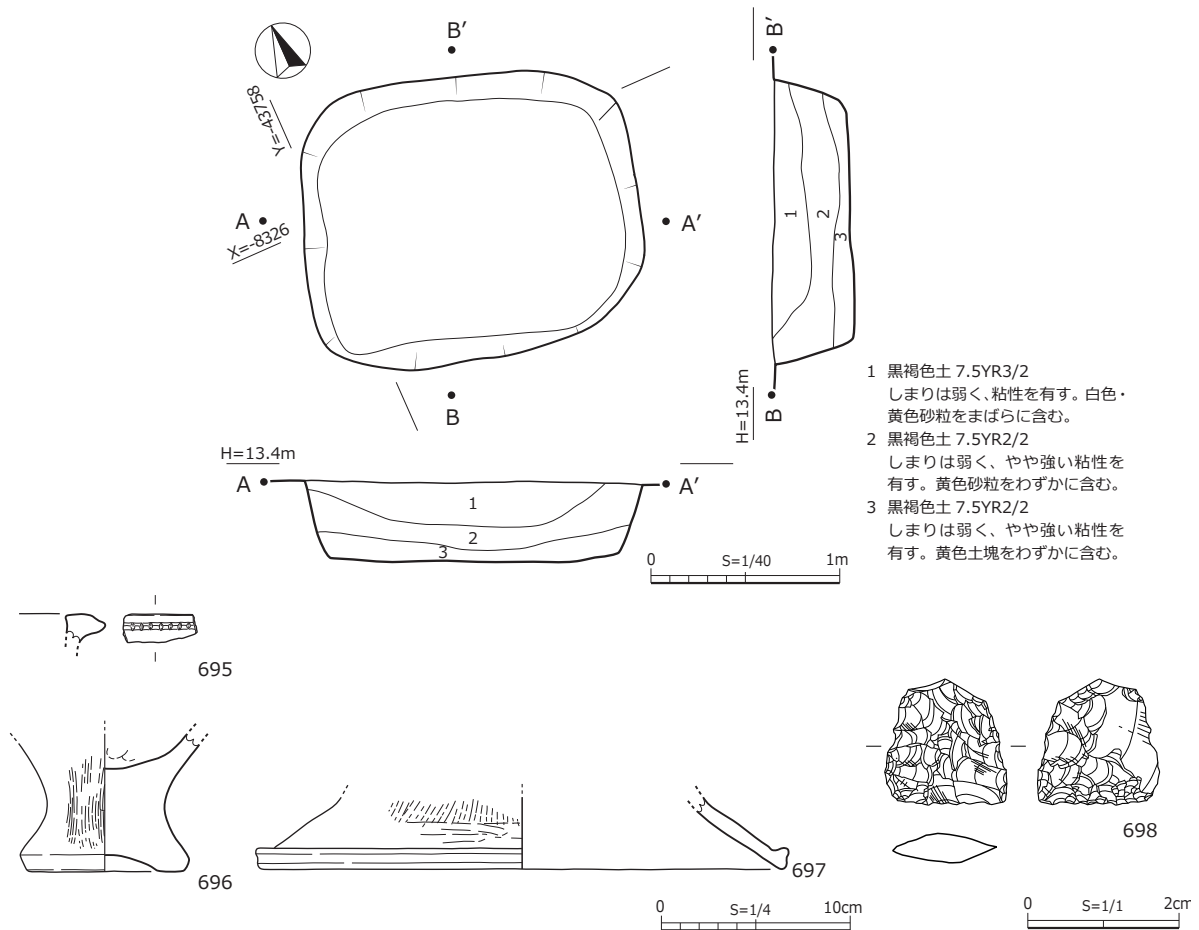


第98図 S113 実測図・出土遺物実測図

【S115】(第99図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S115	土坑	方形	1.78	1.50	0.44	O-21	S116 → S115	

S115 は方形を呈す土坑で、底面はほぼ平坦である。弥生中期と見られる土器（蓋・甕）、黒曜石製の鏃未製品が出土した。蓋は底面端部に粘土を貼り付け三角形に肥厚させている。



第 99 図 S115 実測図・出土遺物実測図

【S116】 (第 100 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S116	土坑	楕円形	4.94	2.9 + α	0.33	O-21	S116 → S41、S42、S90、S115	

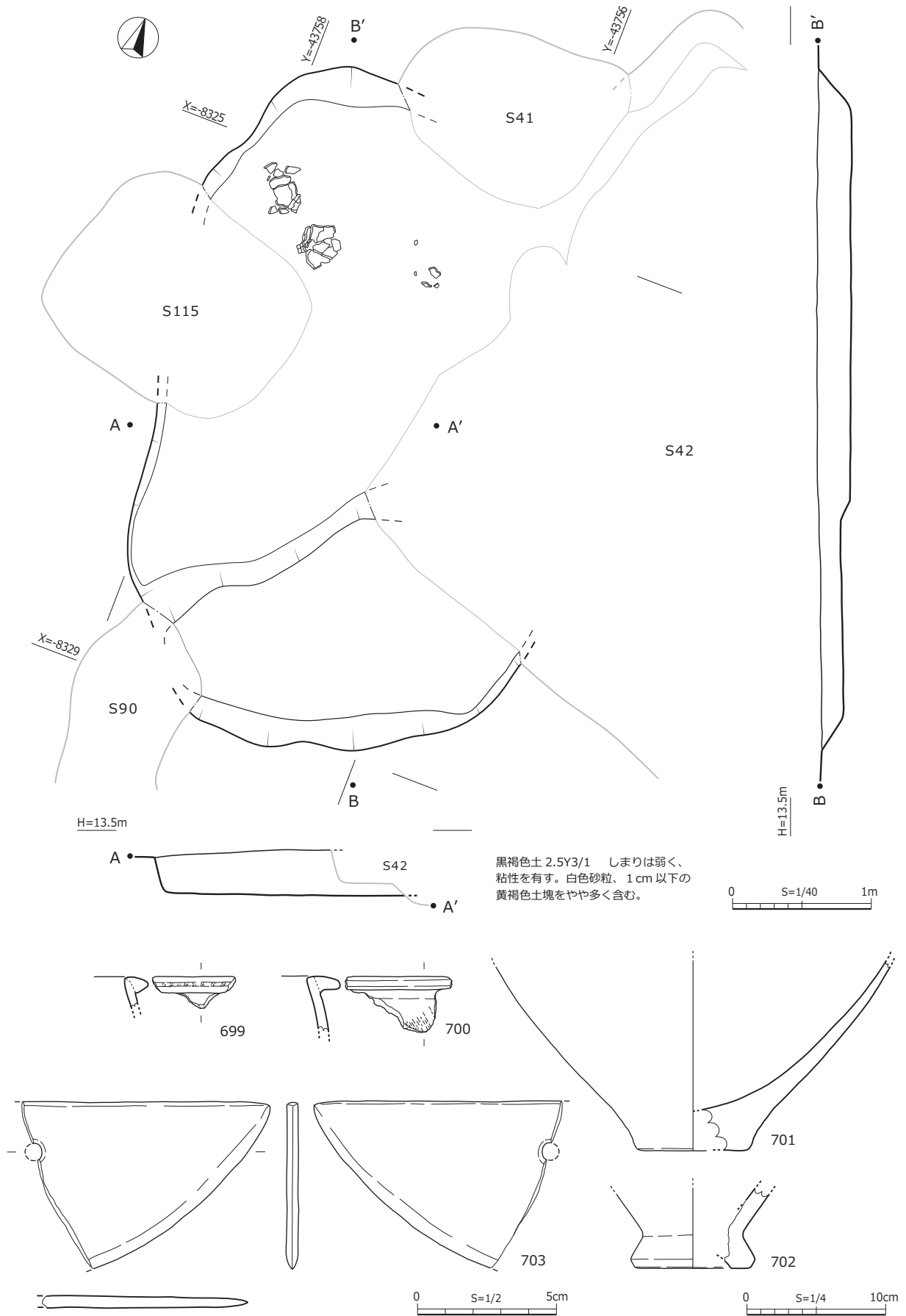
S116 は楕円形の土坑で、南東側が一段高い構造と見られる。複数の弥生中期の遺構に切られ、東側を中心に、元の形状はよくわからない。S116 自体も弥生中期の時期と見られる。甕形土器や玄武岩製と見られる石包丁が出土している。石包丁は半分ほどを欠き、表面に細かい剥落があり、研磨の状態などは確認できなかった。

【S117】 (第 101 図)

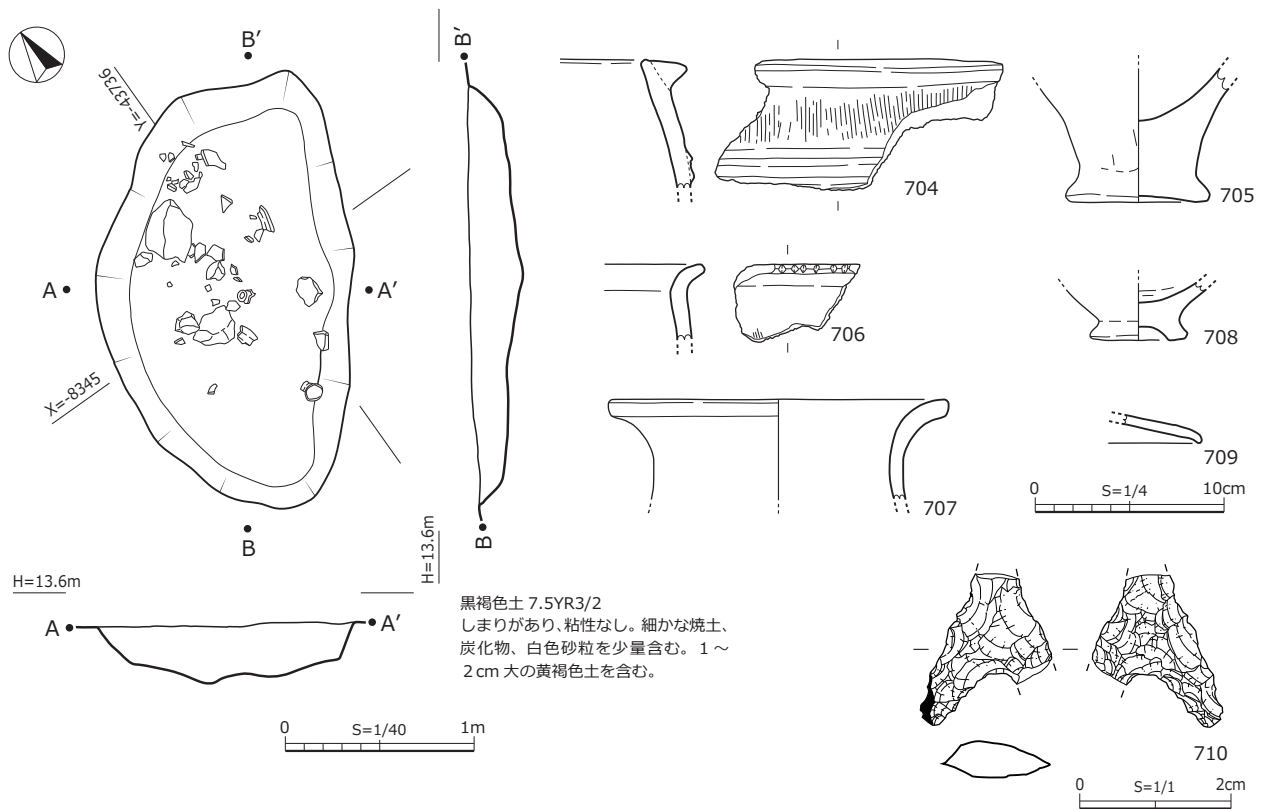
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S117	土坑	楕円形	2.32	1.35	0.30	Q-19	—	

S117 はやや不整な楕円形を呈す土坑で、底面も凹凸がある。検出面から埋土中位にかけて土器や拳大～20cm 大の石が検出された。

出土した土器は弥生時代中期のものと思われ、甕は口縁を肥厚させ、底部をわずかに上げ底としている。壺口縁部は弥生前期の形態を色濃く残している。



第100図 S116 実測図・出土遺物実測図



第 101 図 S117 実測図・出土遺物実測図

【S118】(第 102 図)

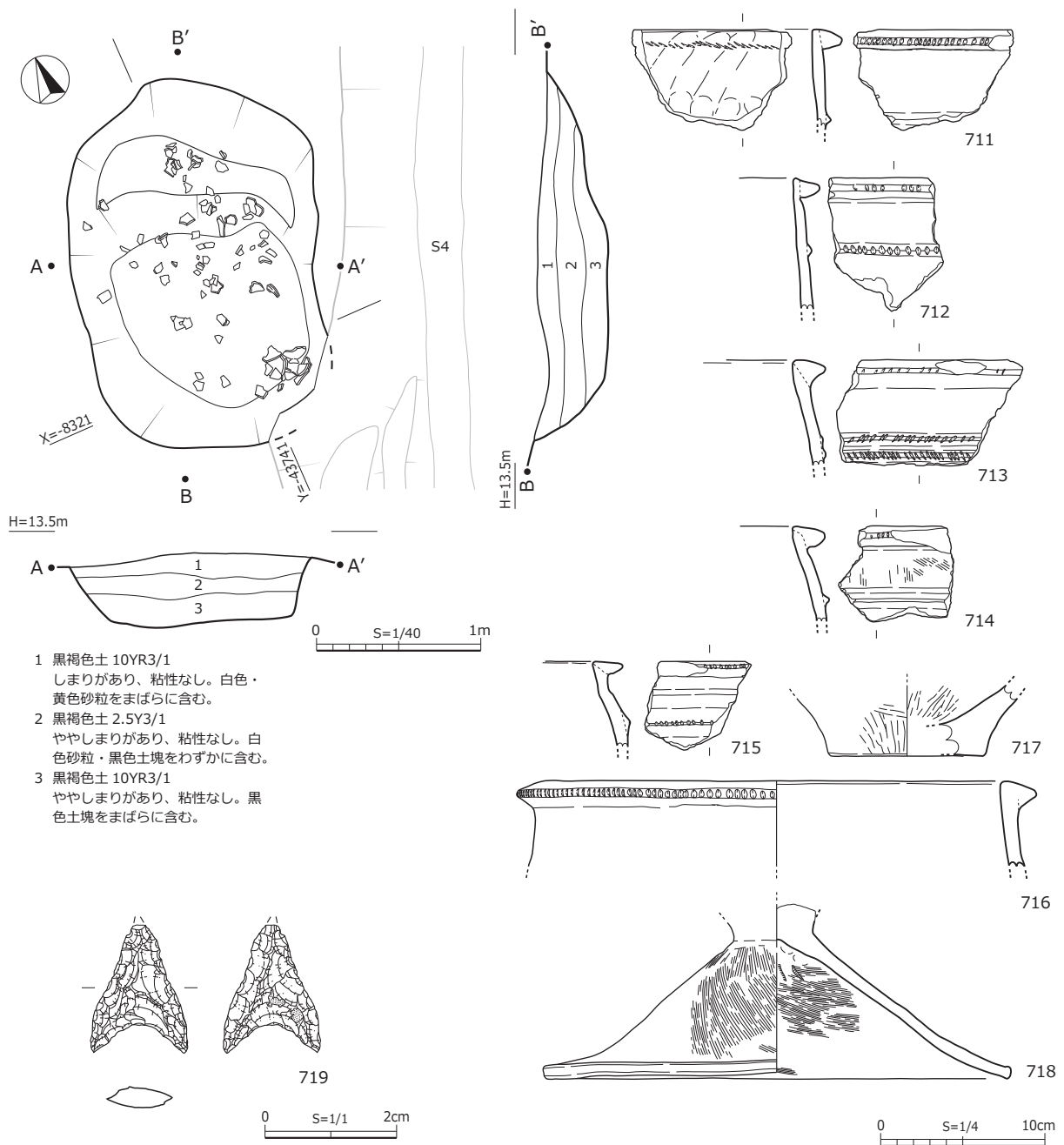
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S118	土坑	隅丸方形	2.20	1.45	0.44	P-21	S118 → S4	

S118 は北側がわずかにステップ状に高く、全体では隅丸方形を呈す土坑である。南東壁の一部を S4 に切られている。土器片が 10cm 程度の大きさと層位的な偏りなく検出されている。時期は弥生時代中期と見られ、甕は口縁断面を三角形に肥厚させ、胴部にも突帯が付くものがある。蓋は天井部と端部が一部欠けるものの全体の形状がわかる資料で、内器面には底部から 5 cm 程度の幅で煤が付着したような黒い変色部分が見られる。

【S126】(第 103 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S126	土坑	円形	2.35	2.30	0.34	P-22	S126 → S100	

S126 は円形を呈す土坑で、東側を S100 に切られている。さらに中央を南北の溝状攪乱で大きく削られている。遺物の出土はなかった。

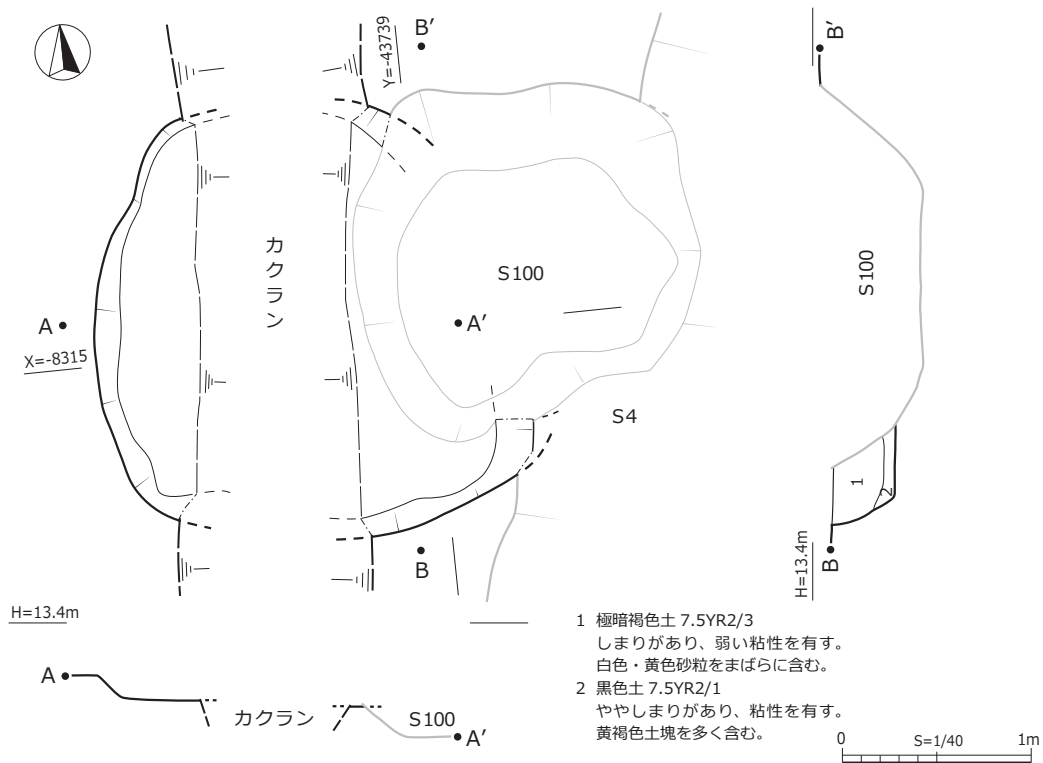


第102図 S118 実測図・出土遺物実測図

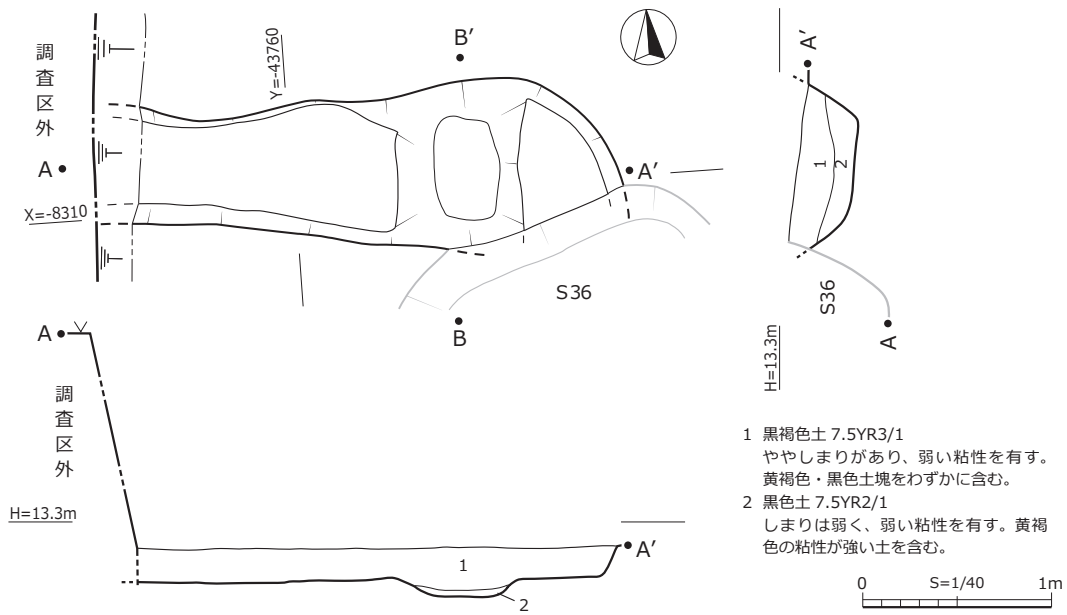
【S131】 (第104図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S131	土坑	長楕円形	2.56 + α	0.89	0.26	O-22	S131 → S36	

S131 は調査区北西隅にある長楕円形の土坑で、南東端で S36 に切られ、西側は調査区外へ延びている。東端近くに浅い掘り込みがある。土器片が少量出土しているが、図化には至らなかった。



第 103 図 S126 実測図

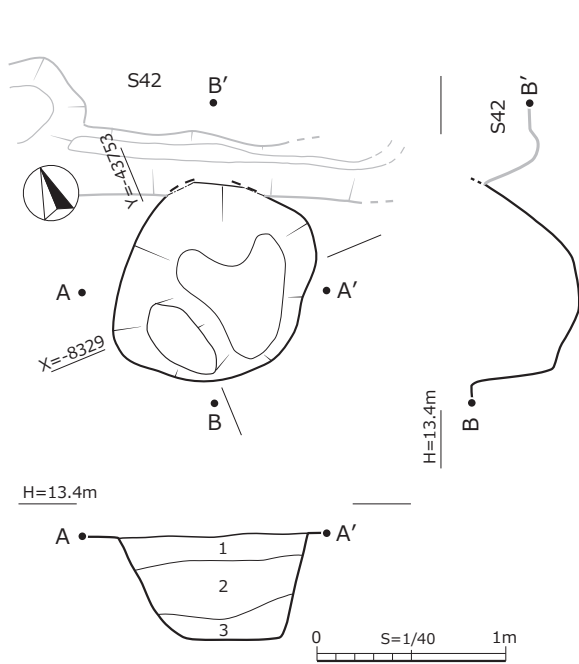


第 104 図 S131 実測図

【S132】 (第 105 図)

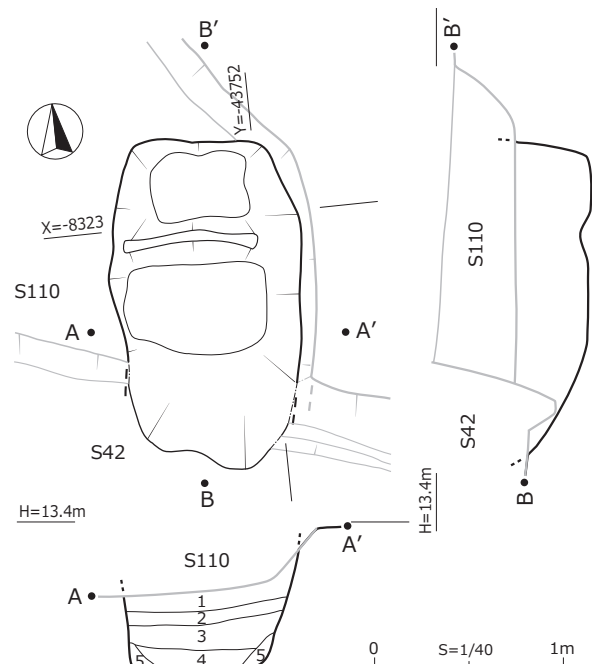
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S132	土坑	円形	1.20	1.04	0.56	O-21	S132 → S42	

S132 は円形を呈す土坑で、西側底面近くに小さな段がある。北側を弥生時代後期の竪穴住居



- 1 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄褐色・黒色土塊をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。黄褐色土塊をわずかに含む。

第 105 図 S132 実測図



- 1 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、粘性なし。白色砂粒をわずかに含む。
- 2 暗赤褐色土 5YR3/2
しまりは弱く、弱い粘性を有す。白色砂粒、黄褐色土塊をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 5YR3/1
しまりは弱く、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状に多く含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、粘性を有す。白色砂粒、黄褐色土塊をごくわずかに含む。
- 5 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土をブロック状にまばらに含む。

第 106 図 S133 実測図

である S42 に切られる。図化可能なほどの遺物は出土しなかった。S42 に切られることから、弥生時代中期の遺構と考えている。

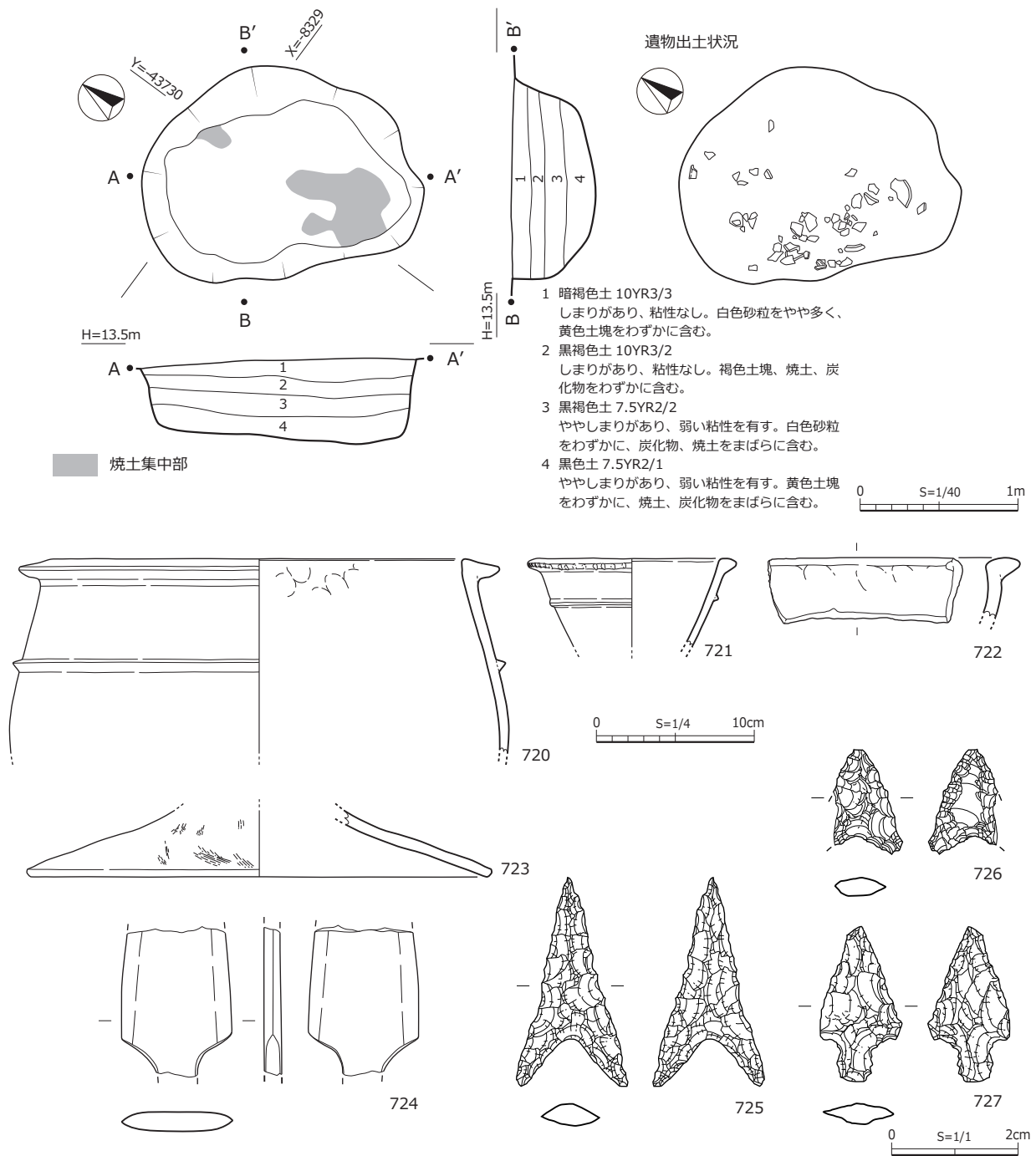
【S133】(第 106 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S133	土坑	長方形	1.75	1.02	0.66	O-21	S133→S110→S42	

S133 は長方形を呈す土坑で、底面は東西方向に仕切りのような高まりがある。遺構上部を S110 に削られ、さらにその後南側を S42 に切られている。時期を示すような遺物は出土していない。

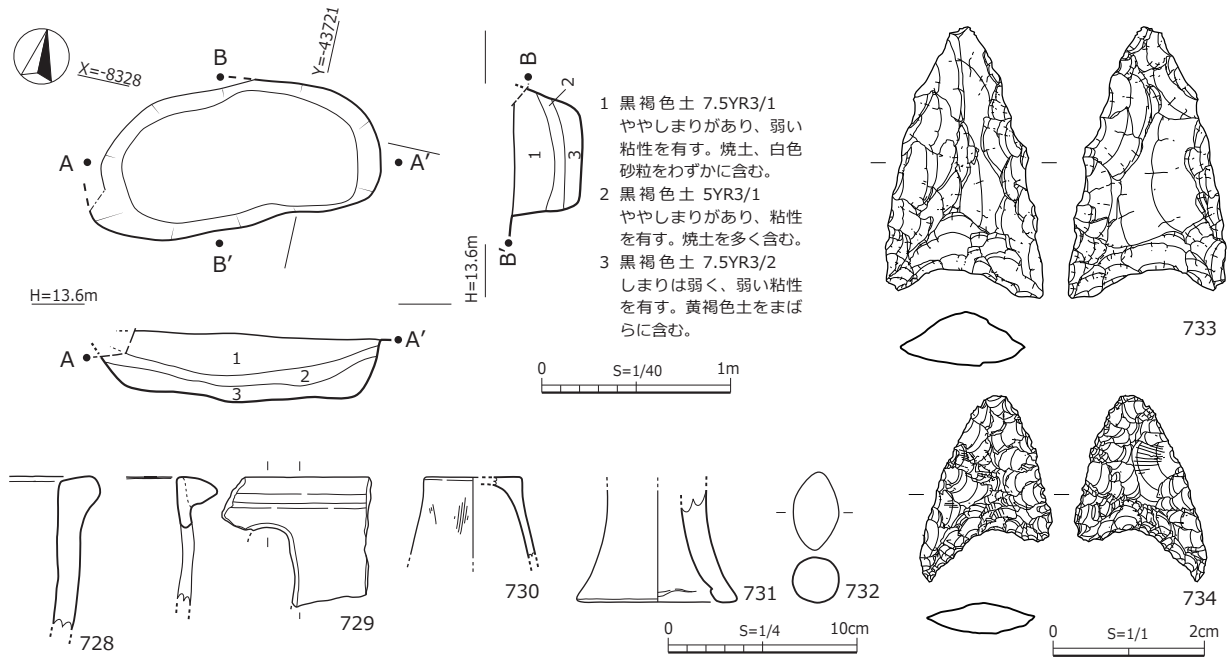
【S170】(第 107 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S170	土坑	楕円形	1.79	1.34	0.55	Q-21 他	S171、S172→S170	

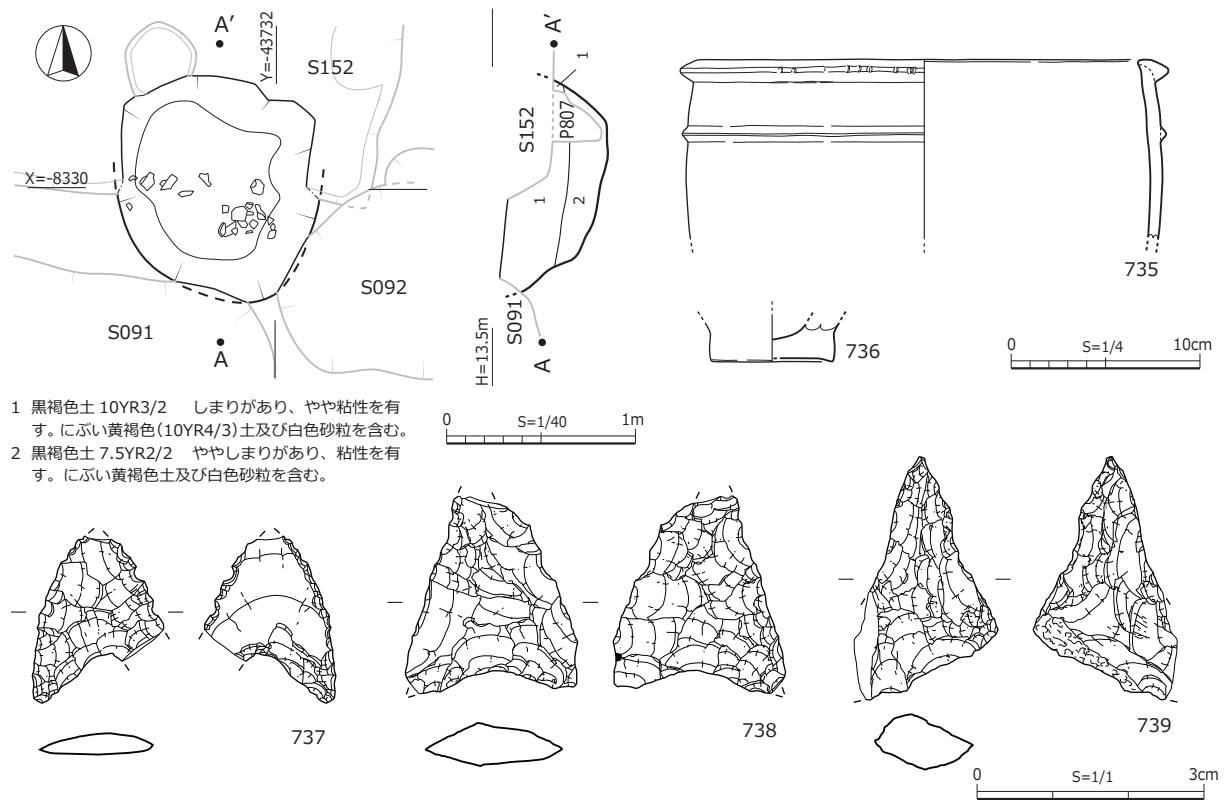


第 107 図 S170 実測図・出土遺物実測図

S170 は楕円形を呈す土坑で、大型建物跡 S171 及び S172 の間にあり、両者を切っている。底面で焼土粒の集中が見られ、埋土下位でも焼土・炭化物をまばらに含んでいるが、性格は不明である。弥生時代中期の土器と磨製・打製石鏃を検出し、図示している。蓋は端部の内器面側に黒変している部分がある。甕は口縁断面を三角形に肥厚させ、胴部突帯がある。小型の甕は胴下部へ直線的にすぼまるような器形で、底部の形態はよくわからない。磨製石鏃は全体に丁寧な研磨を施し、基部及び先端部を欠く。打製石鏃は 3 点を示したが形態は三者三様で、有柄のものや鏃身が長いものなどが出土している。



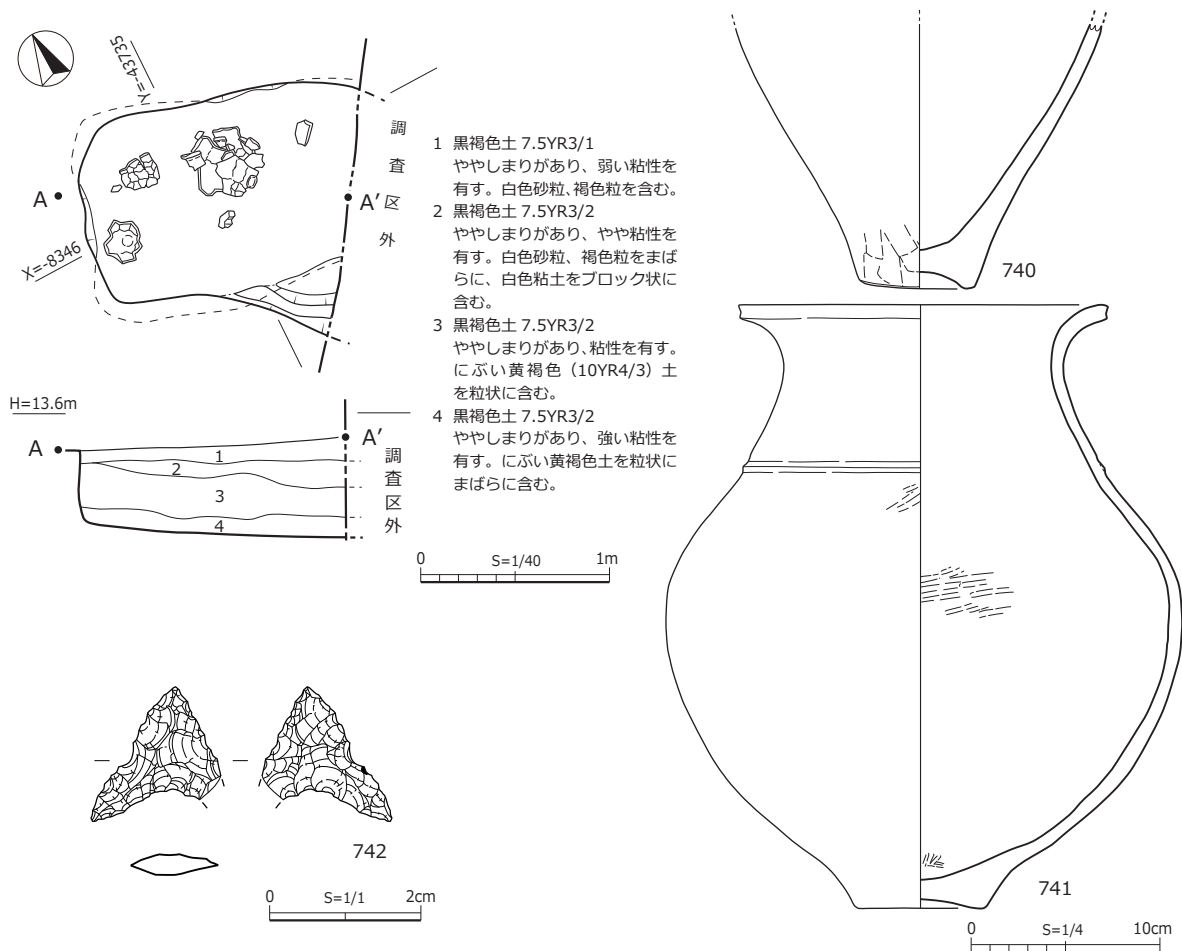
第108図 S179 実測図・出土遺物実測図



第109図 S186 実測図・出土遺物実測図

【S179】(第108図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S179	土坑	楕円形	(1.58)	0.75	0.35	R-21	S147 → S179	



第 110 図 S195 実測図・出土遺物実測図

S179 は楕円形を呈する土坑で、S147 埋土中に掘り込んで作られている。また、底面は S147 床面と同じ深さで、S179 を掘る際に土の硬さや色からこの深さで止めていると見られる。出土遺物は弥生時代中期の土器や土弾がある。

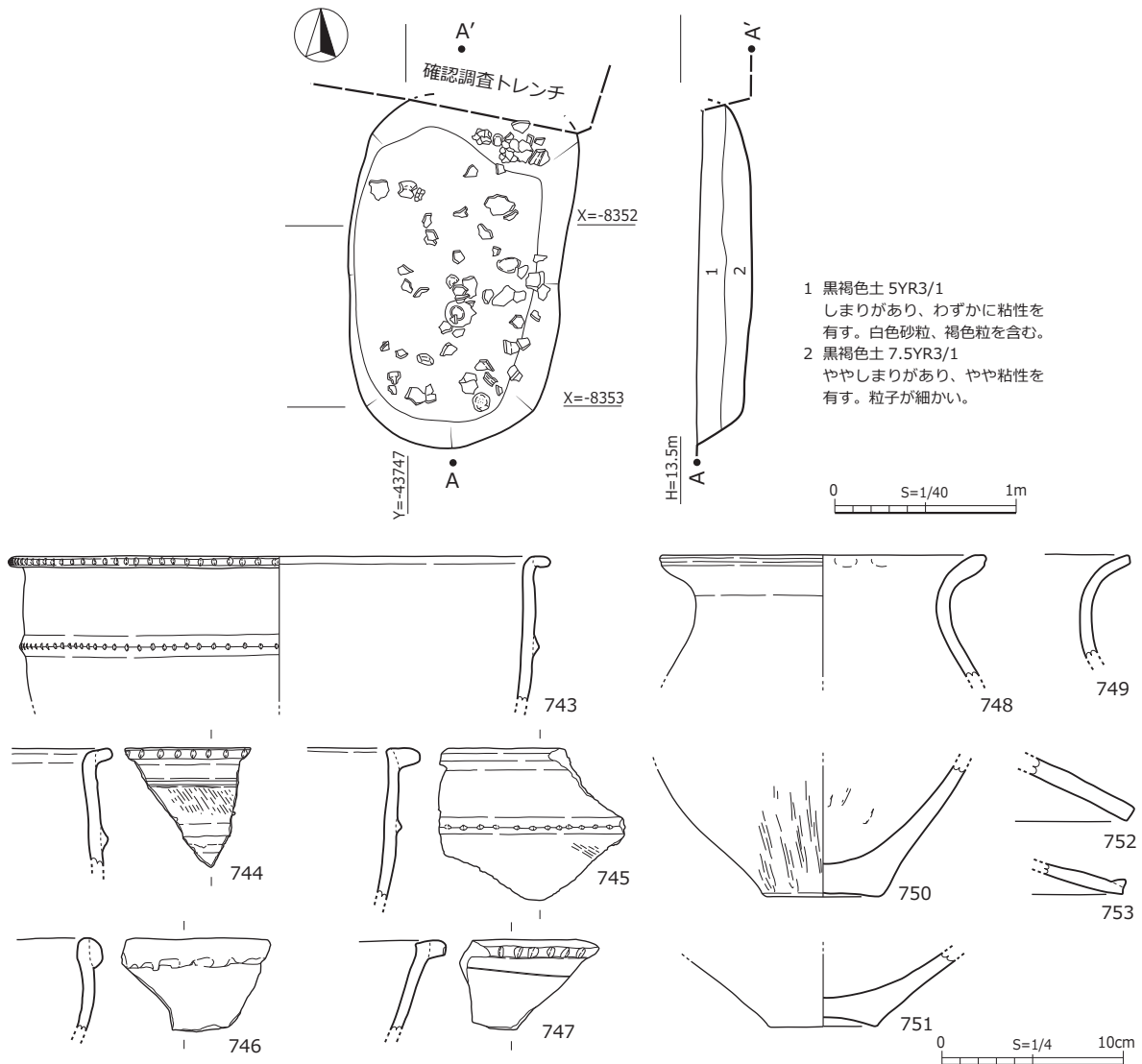
【S186】 (第 109 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S186	土坑	円形	1.2 + α	1.06	0.50	Q-21	S91、S92、S152 → S186	

S186 は円形を呈す土坑で、北側半分を竪穴遺構 S152、南 (S91) と南東 (S92) の一部をそれぞれ弥生時代中期の遺構に切られている。埋土より弥生中期土器の甕 2 点と未製品を含む石鏃 3 点を図示している。

【S195】 (第 110 図、図版 7・38)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S195	貯蔵穴	長方形	1.6 + α	1.35	0.53	Q-19	—	



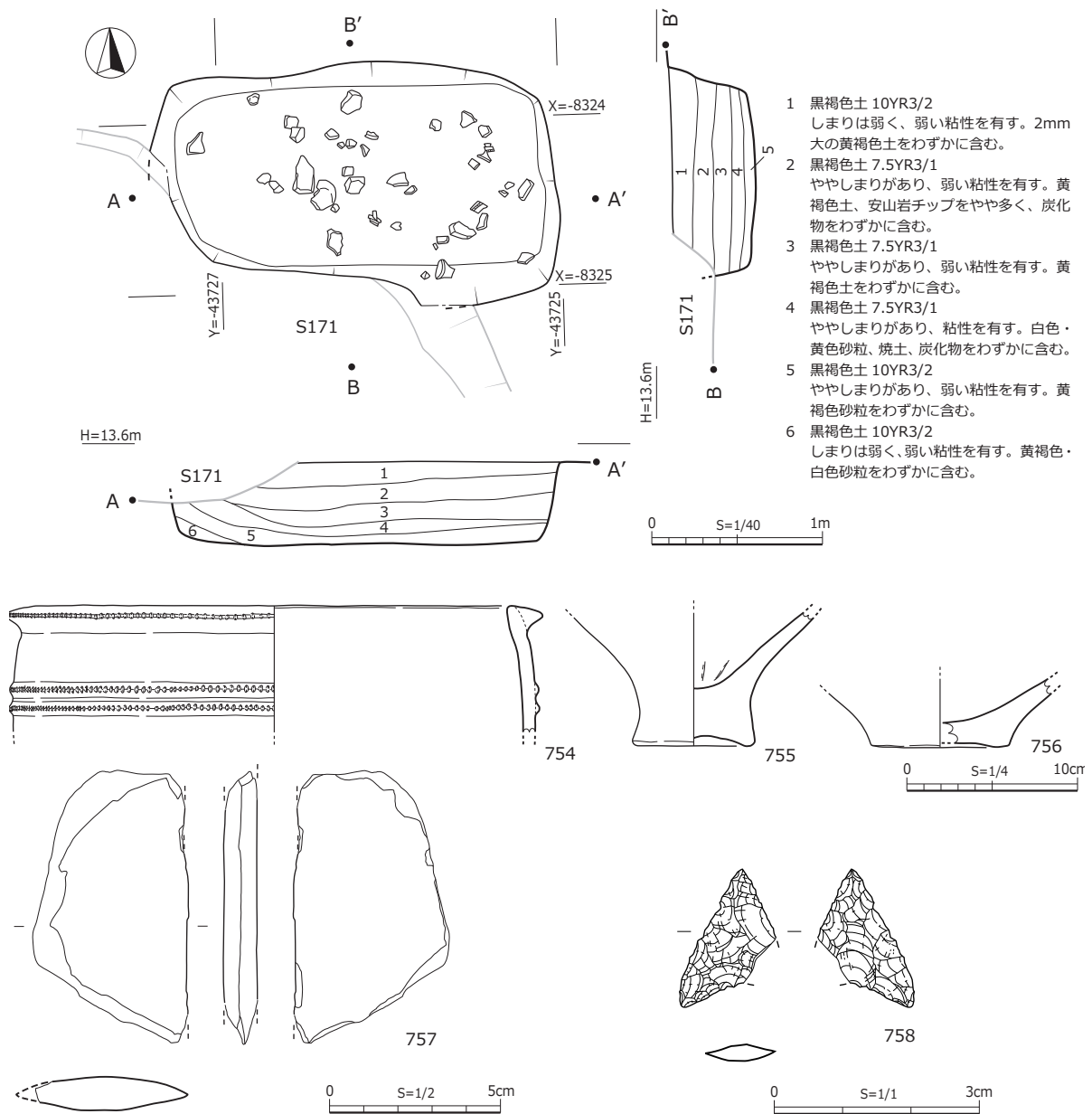
第 111 図 S203 実測図・出土遺物実測図

S195 は東側が調査区外へ延びている、長方形を呈す土坑である。立ち上がりは垂直またはオーバーハング気味で、検出面より底面の方が広い。埋土から安山岩製鏃や弥生中期の甕・壺形土器が出土している。遺構の形状と土器の組成から、貯蔵穴と考えられる。

【S203】 (第 111 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S203	土坑	楕円形	(1.92)	1.18	0.30	P-18	S315 → S203	

S203 は楕円形を呈す土坑で、北端部を確認調査のトレンチによって削られている。土坑の掘り込み内に弥生時代中期の土器片が散らばっていた。器種は甕・壺・蓋で、甕はいずれも口縁部を肥厚させる。胴部には突帯を 1 または 2 条巡らすものがある。2 条の胴部突帯は口縁直下とやや離れた位置に配され、上位は浅く幅が広い沈線を 5mm 程度あけて施し、突帯に見える効果を生んでいる。下部突帯は粘土を貼り付けており、外器面には赤彩が残る。

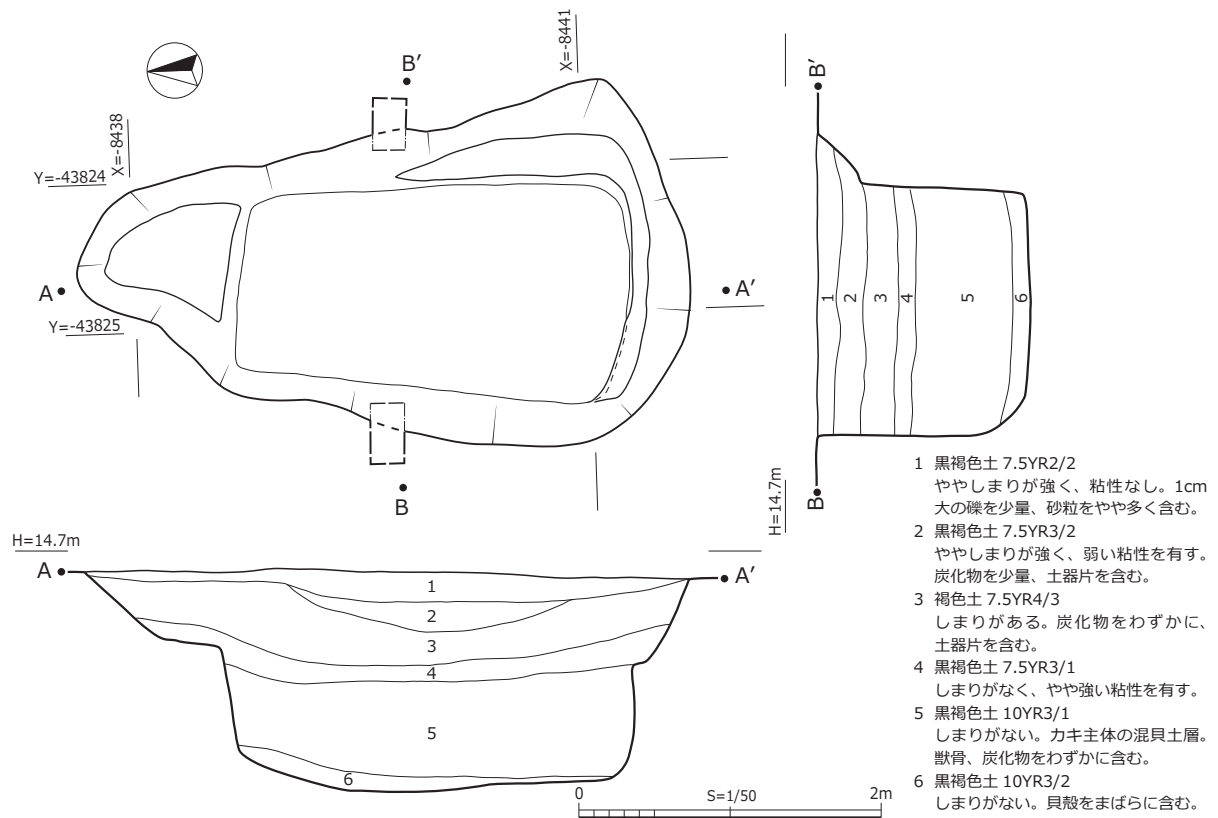


第 112 図 S204 実測図・出土遺物実測図

【S204】 (第 112 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S204	土坑	長方形	(2.40)	(1.48)	0.48	R-21	S204 → S171	

S204 は長方形を呈す土坑で南西隅を S171 に切られている。埋土下位から土器・石器が出土している。土器は弥生中期の甕口縁部と土器底部で、甕には胴部に 2 条の刻目突帯が施される。石器は磨製石剣と安山岩製鎌を図示した。磨製石剣は刃部片で砂岩製と見られ、風化や剥落が著しく、稜線及び研磨痕などの細かな調整は確認できなかった。



第113図 S218 実測図

【S218】(第113~115図、図版7)

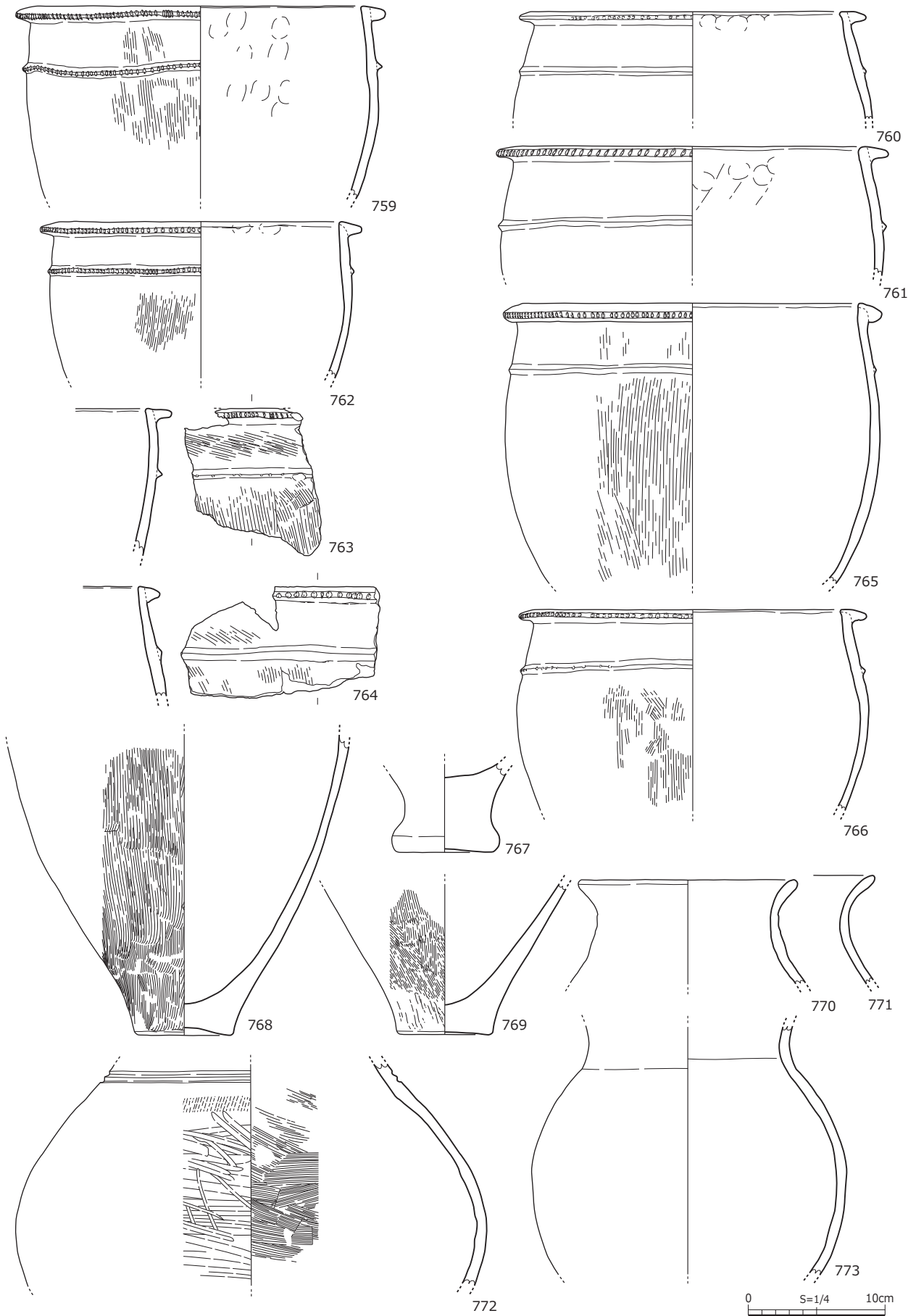
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S218	土坑	長方形	4.06	2.40	1.46	H-9・H-10	—	

S218は検出面では不整形、遺構下部は長方形を呈す土坑である。弥生時代中期土器が埋土4～6層にかけて多く出土し、上層に古墳時代の土師器が混入していた。また、埋土5層は混貝土層で、60cmほどの厚さがあり、コンテナ約6箱分の貝殻が出土した。貝種は11程度あるとみられ、マガキ主体でハイガイなどを少量含んでいる。なお、獣骨2点（椎骨・四肢骨）がこの層から検出されている。弥生土器の甕は口縁部を肥厚させ、胴部上位には突帯を施している。壺は弥生前期の特徴を残す丸い器形である。蓋は天井部が厚くつまみやすい形状をしている。

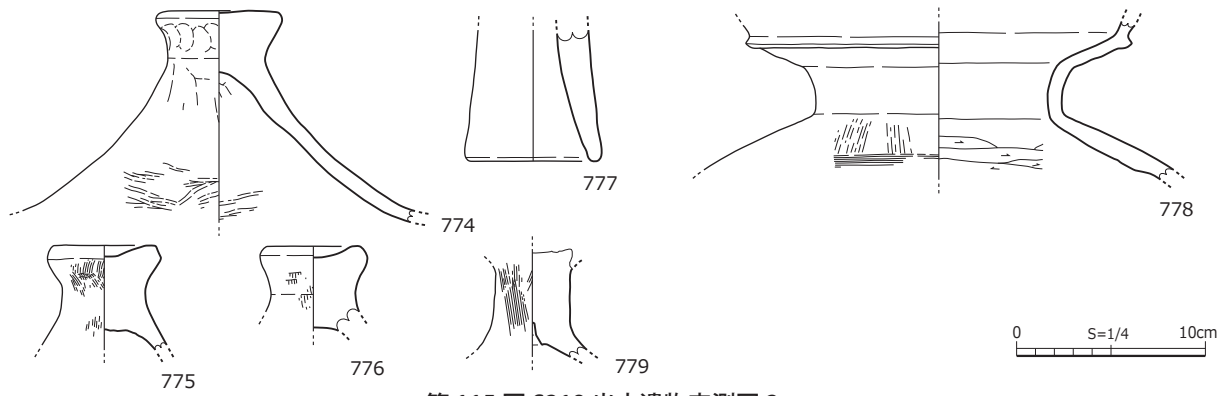
【S220】(第116図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S220	土坑	楕円形	4.40	(2.60)	0.46	H-10	—	

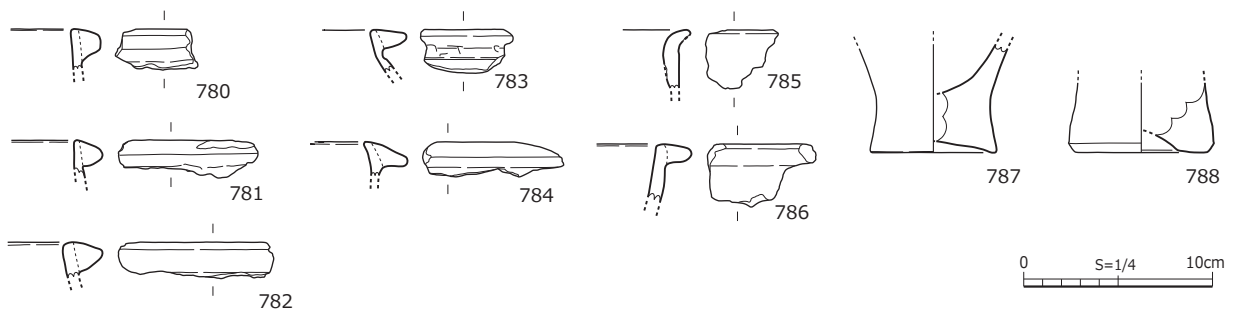
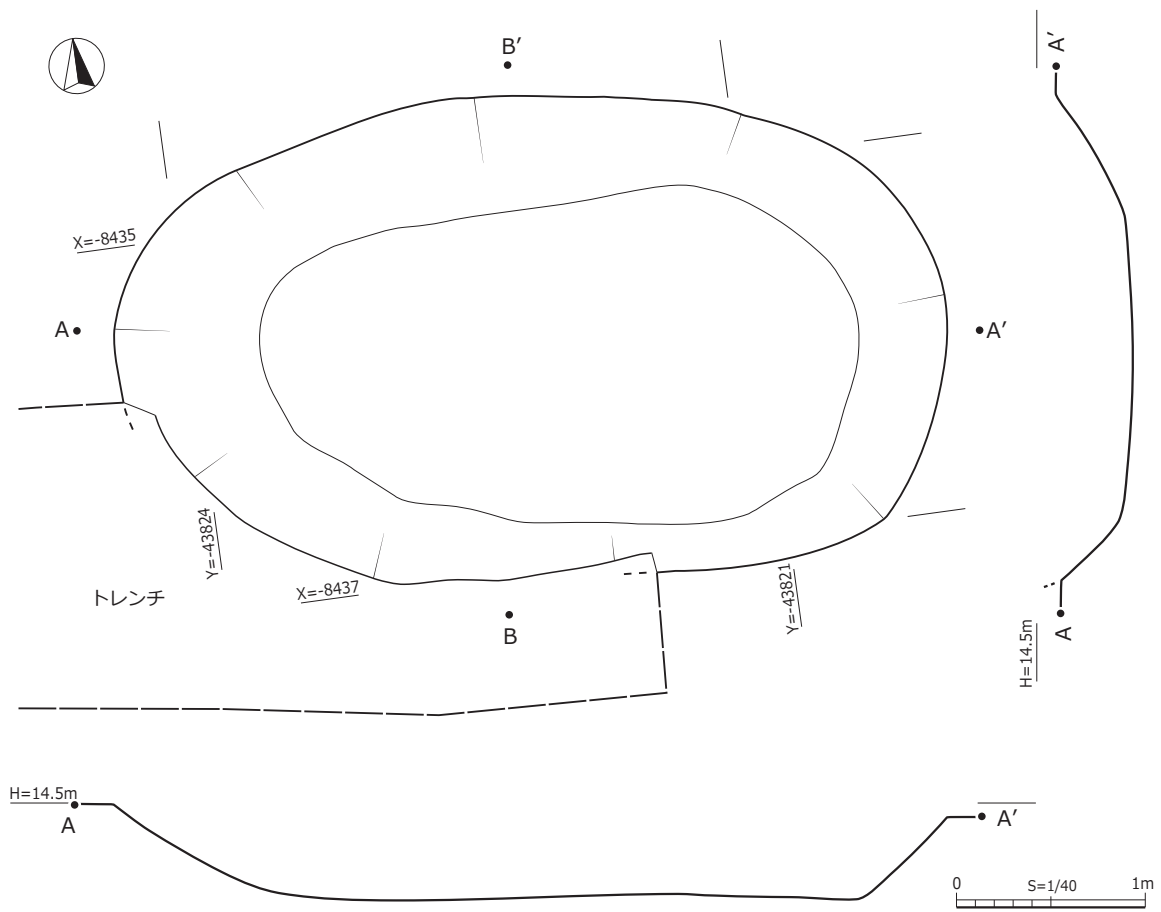
S220は楕円形を呈す浅い土坑で、南西側を確認調査のトレンチにより削られている。埋土から弥生時代中期の土器片が出土した。図示したものはいずれも甕形土器の小片で、口縁に粘土を貼り付けて三角あるいはカマボコ形に肥厚させ、刻目は施していない。弥生前期如意形口縁のように外側へ折り曲げた口縁資料もある。底部は径が小さく、上げ底になる。



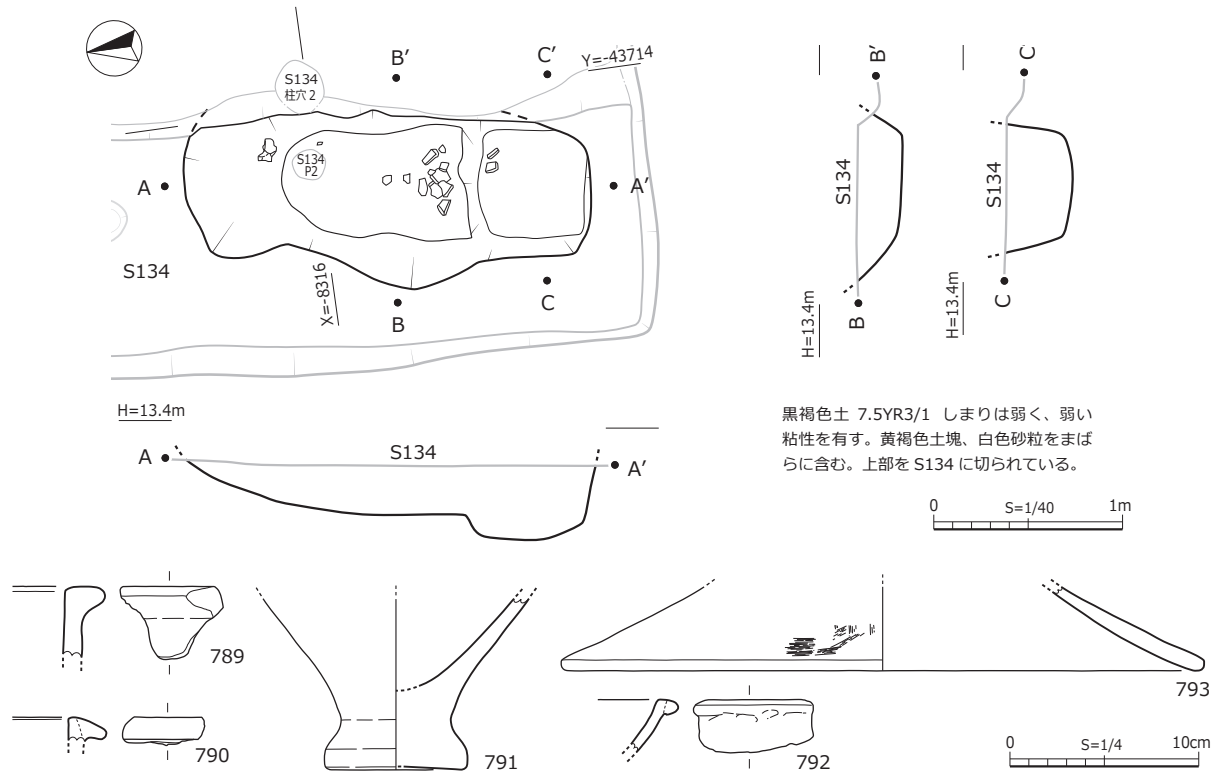
第 114 図 S218 出土遺物実測図 1



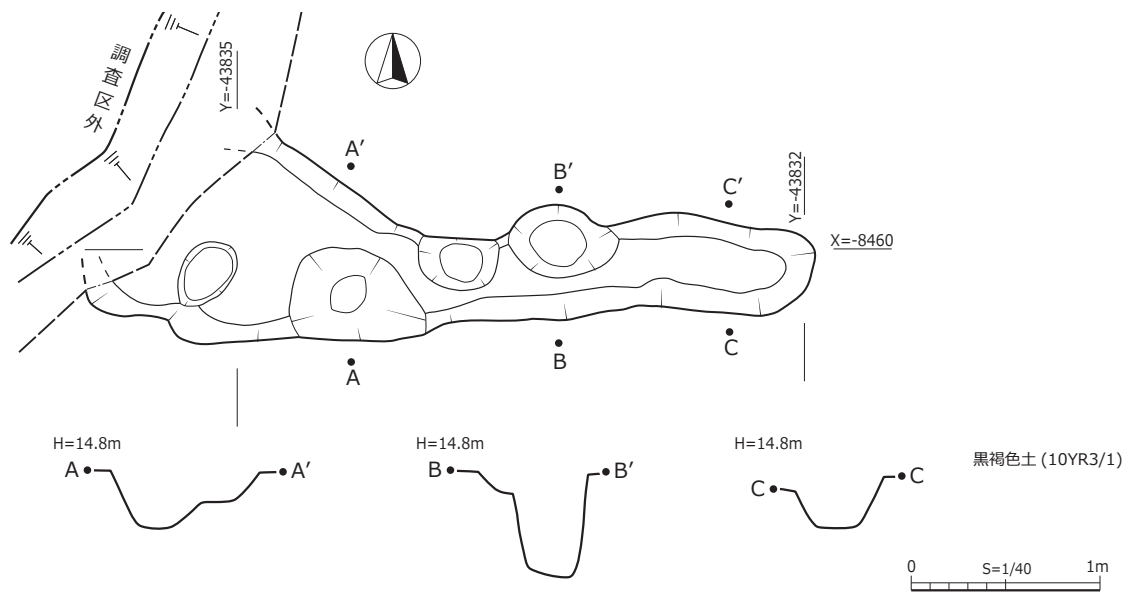
第115図 S218 出土遺物実測図2



第116図 S220 実測図・出土遺物実測図



第 117 図 S241 実測図・出土遺物実測図

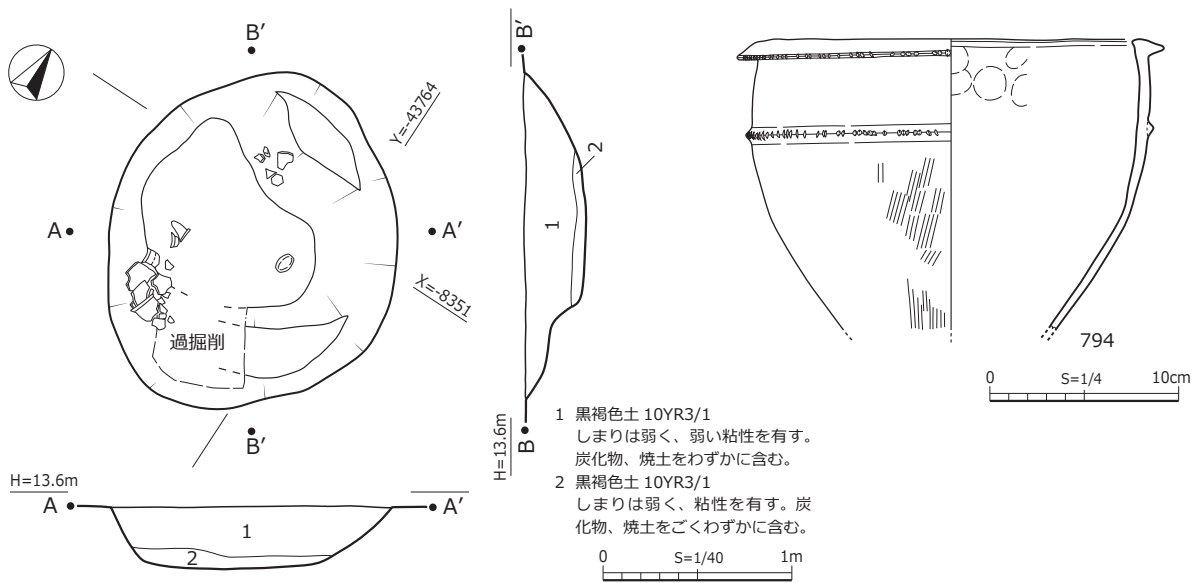


第 118 図 S242 実測図

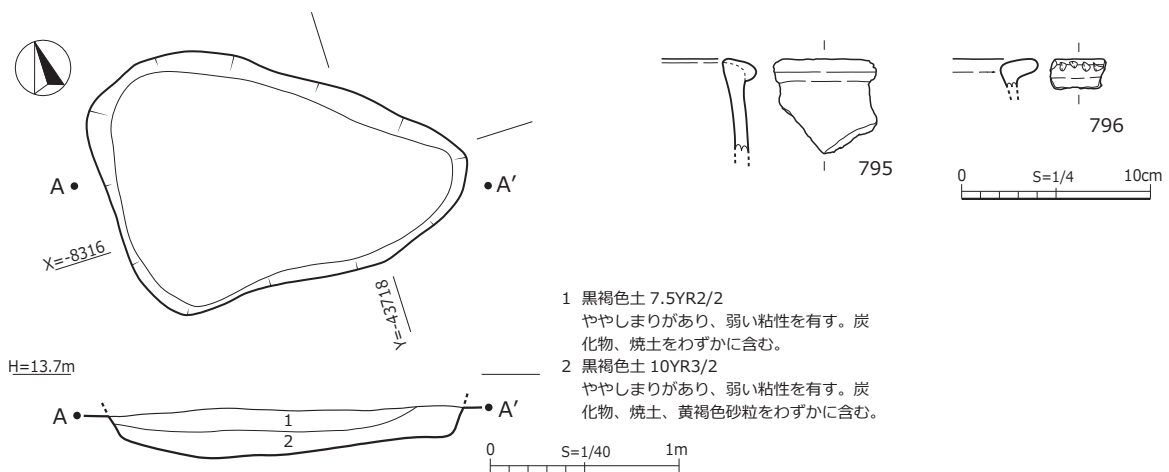
【S241】(第 117 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S241	土坑	長方形	2.15	1.0 + α	1.0 + α	S-22	S241 → S134	

S241 は長方形を呈す土坑で、南側は方形の部分があり、北側に向かって緩やかに浅くなる。またここには弥生時代後期に S134 が造られており、この掘削で上面ごと削られてしまったようである。埋土から弥生時代中期の土器が出土しており、甕・蓋・鉢を図示した。



第 119 図 S246 実測図・出土遺物実測図



第 120 図 S249 実測図・出土遺物実測図

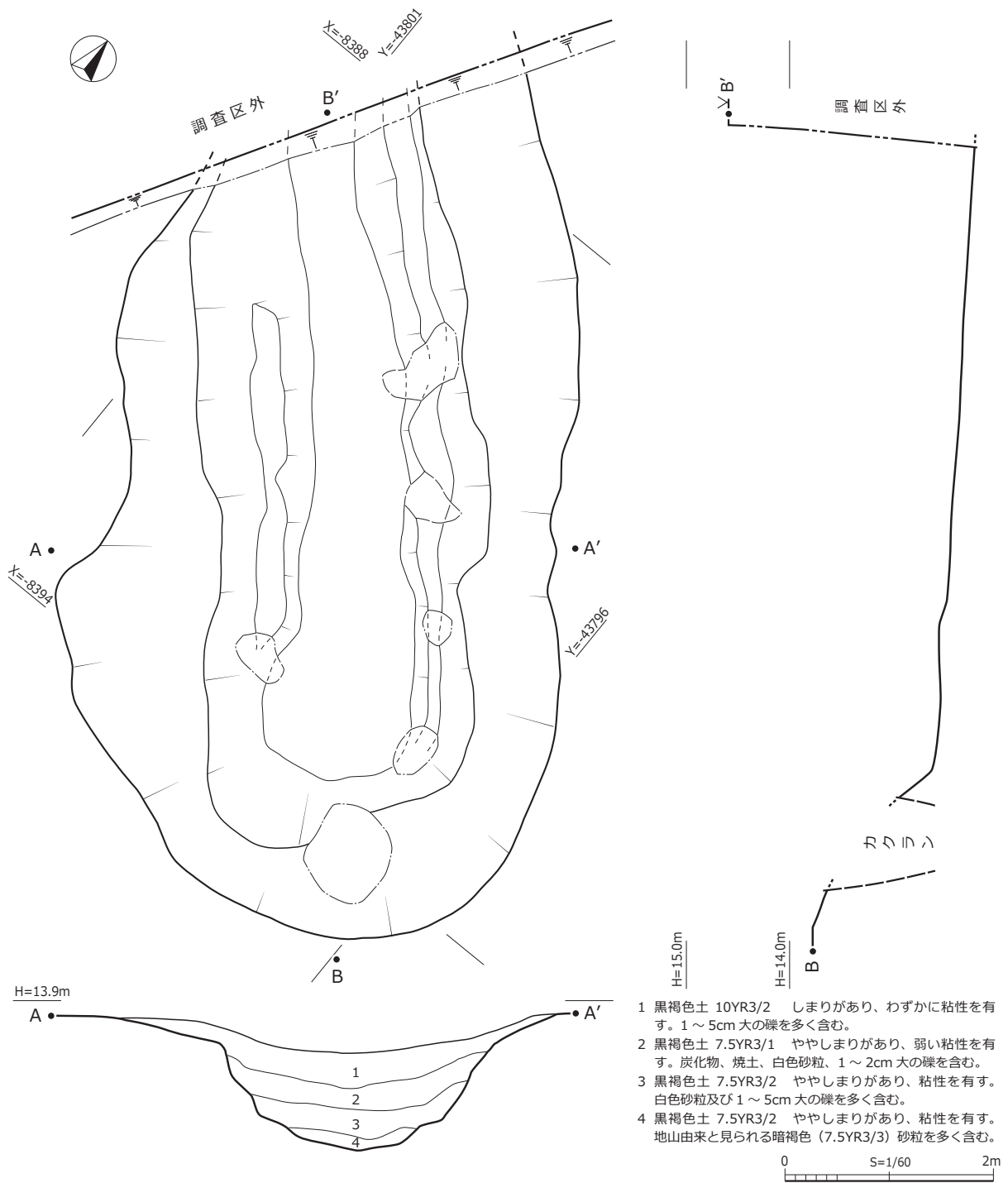
【S242】(第 118 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S242	土坑	不整形	3.8 + α	1.1 + α	0.56	G-7	—	

S242 は不整形の掘り込みで、底面には間隔をあけて小穴が掘られている。西側は調査区外で形状不明である。遺物の出土は見られなかったが、S242 周辺には甕棺墓が点在しており、これらの築造や利用に伴い掘られた可能性がある。

【S246】(第 119 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S246	土坑	円形	1.86	1.56	0.34	N-18	—	

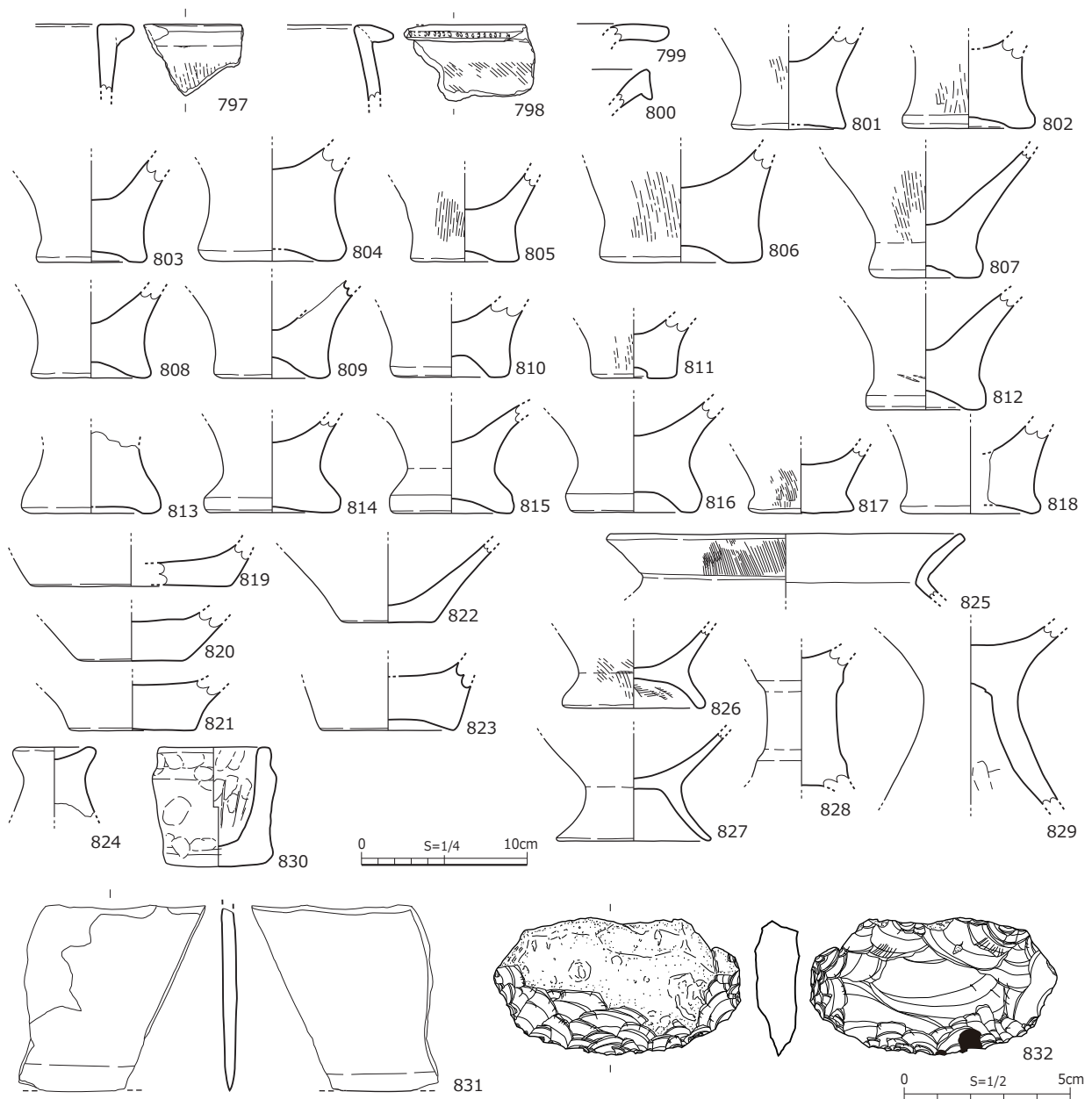


第 121 図 S250 実測図

S246 は円形を呈す土坑で、北側と南東側には段が設けられている。南西端と北側で検出した土器片が口縁部から胴部下位まで復元できた。口縁は肥厚させ、胴部突帯を作り、刻目を施している。胴部は張りを持った器形である。

【S249】 (第 120 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S249	土坑	不整形	2.00	1.40	0.26	S-22	—	



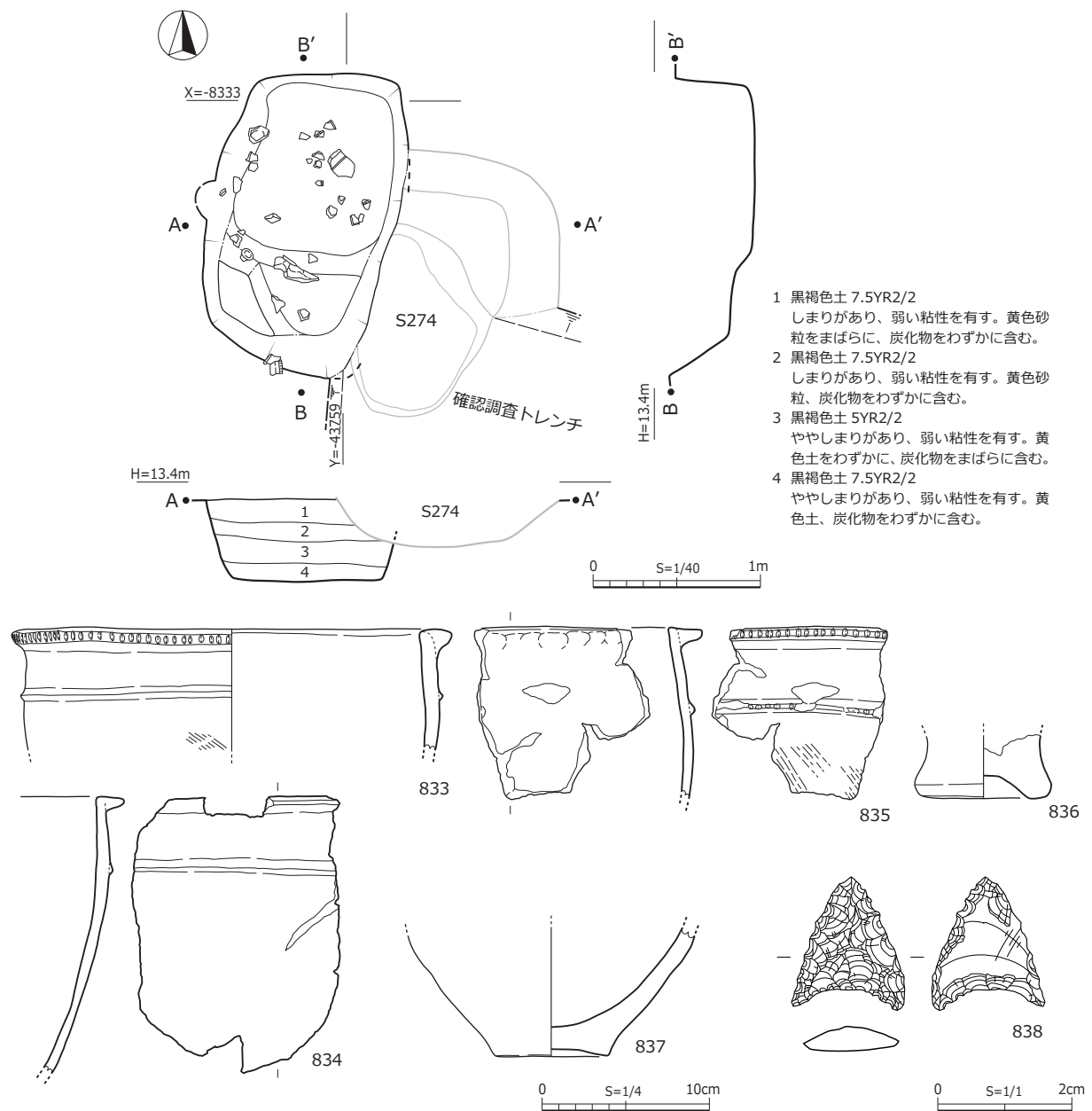
第122図 S250 出土遺物実測図

S249 は不整な三角形を呈す土坑である。弥生中期の甕形土器口縁部が出土した。

【S250】（第121・122図、図版7）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S250	土坑	楕円形	7.6 + α	4.84	1.34	K-14 他	—	

S250 は南東—北西方向に長い土坑で、北西側は調査区外に延びる。底面は 1.2 m 弱の幅を有している。S250 からは図示しただけでも 24 点の甕底部片の出土があり、出土比率に占める割合が高く、意図的に甕底部片を集めていたと言えよう。ほかに弥生土器の壺底部、突帯を巡らせたり赤彩を施した高坏脚部、手捏ねの鉢、石器（石包丁・スクレイパー）が出土した。

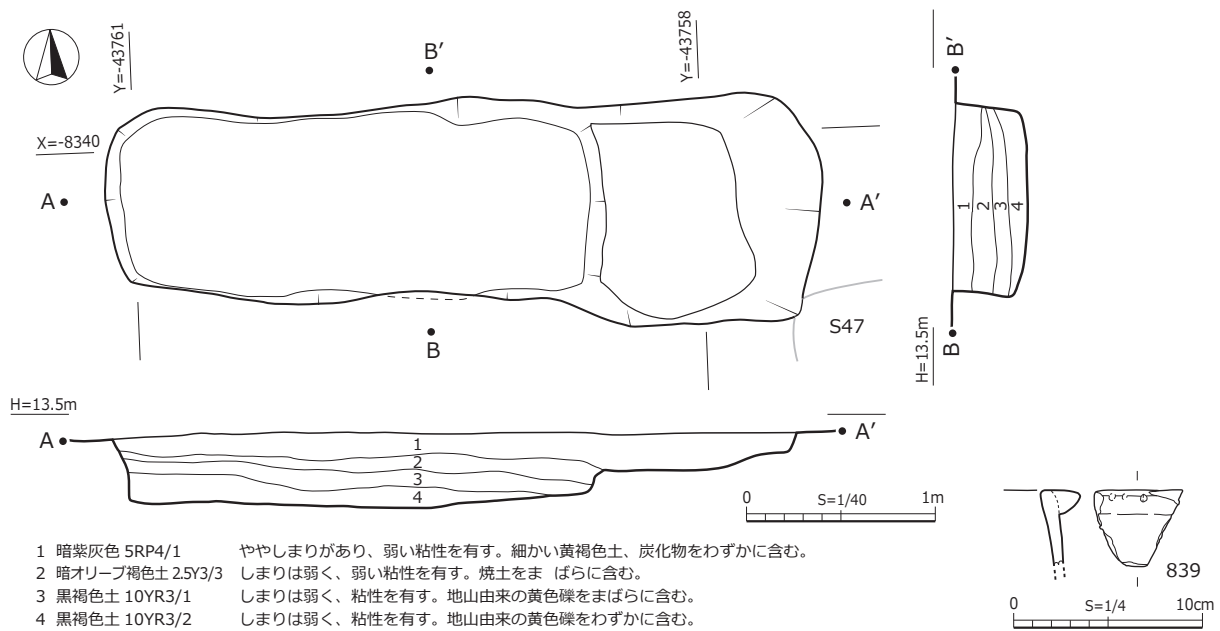


第 123 図 S254 実測図・出土遺物実測図

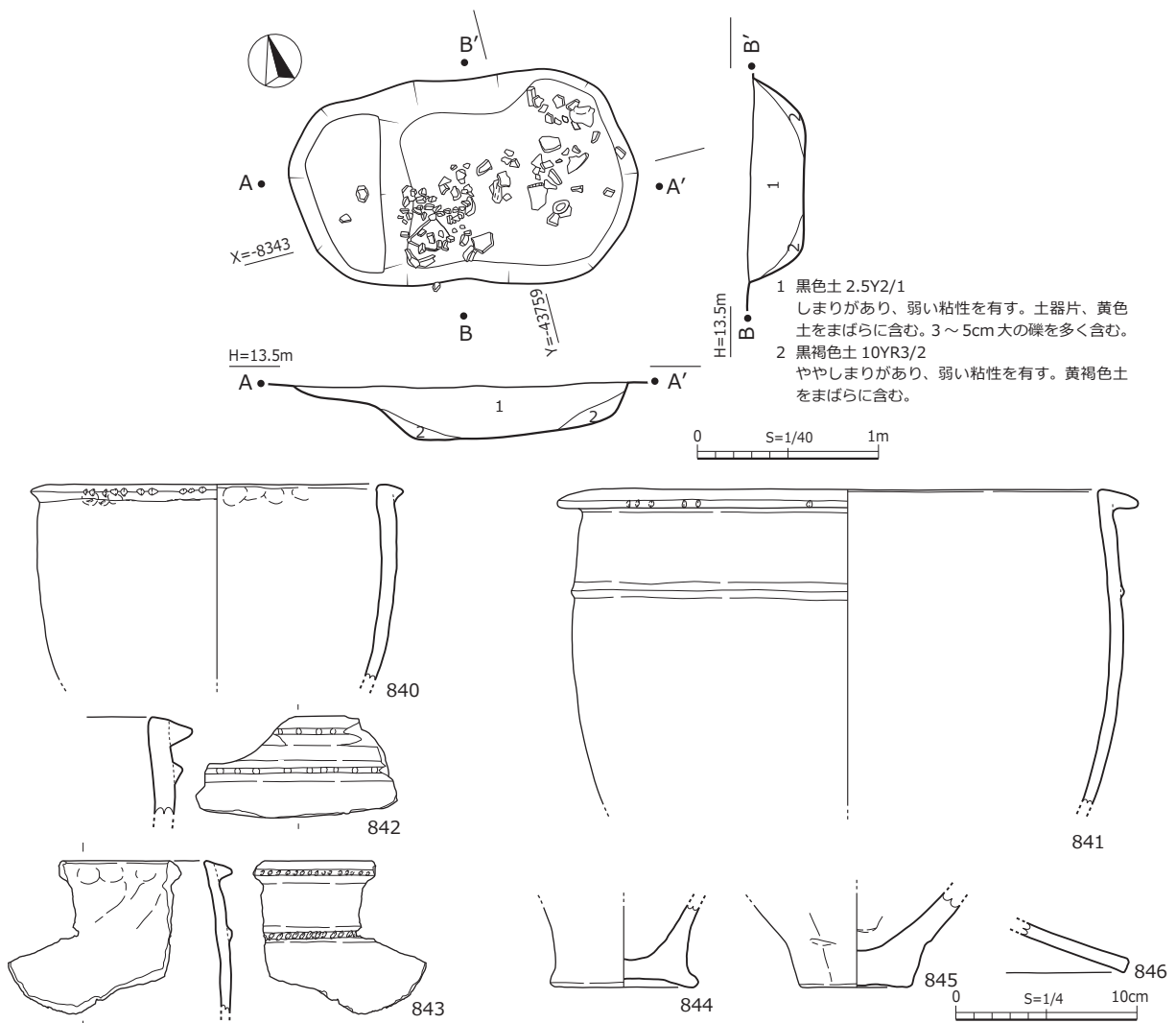
【S254】(第 123 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S254	土坑	長方形	1.82	(1.20)	0.50	0-20	S254 → S274	

S254 は底面が方形で南側に浅い段があり、平面形状は長方形を呈する土坑である。南東側を S274 に切られている。埋土からは弥生時代中期の土器、黒曜石製鏃が出土している。図示した土器は甕・壺で、甕口縁部口縁断面を肥厚させ、胴部に突帯を貼り付けている。口縁・突帯ともに刻目を入れるものがある。甕・壺とも底部は上げ底となる。



第124図 S255 実測図・出土遺物実測図



第125図 S256 実測図・出土遺物実測図

【S255】(第 124 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S255	土坑	長方形	3.78	1.20	0.40	O-19 他	S297 → S255 → S47	

S255 は長方形の掘り込みの東側に浅い張り出しがついたような形状の土坑で、南東端で S 297 を切り、S 47 に切られている。口縁を肥厚させた弥生時代中期の甕口縁部が出土している。

【S256】(第 125 図)

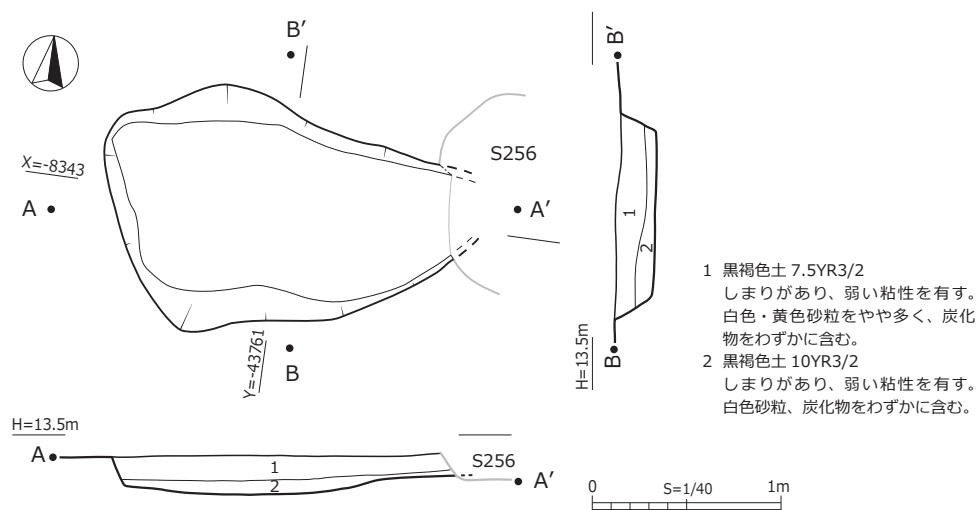
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S256	土坑	長方形	1.90	1.14	0.30	O-19	S257 → S256	

S256 は長方形を呈す土坑で、東西の短辺が丸みを帯びる。西側はステップのように浅い。弥生時代中期の土器片と共に、大きさ 10cm 前後の河原石が中央から西にかけて集中しており、その総数は 50 点を超える。図示した土器は甕・蓋で、甕口縁は断面三角形に肥厚させ、胴部突帯を巡らせている。

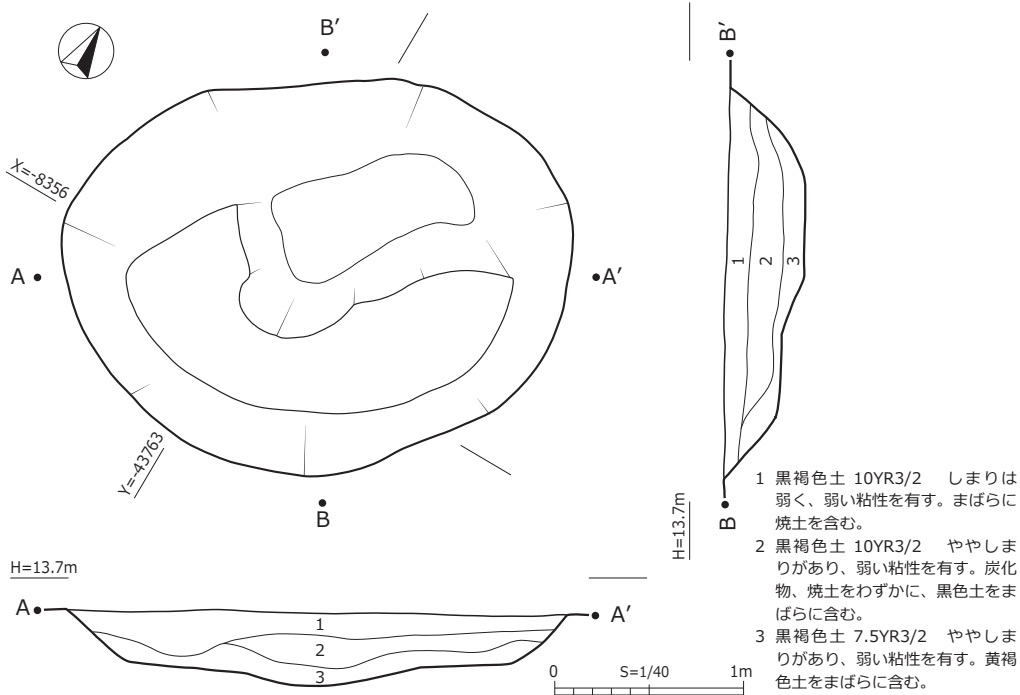
【S257】(第 126 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S257	土坑	不整形	1.8 + α	1.34	0.32	O-19	S257 → S256	

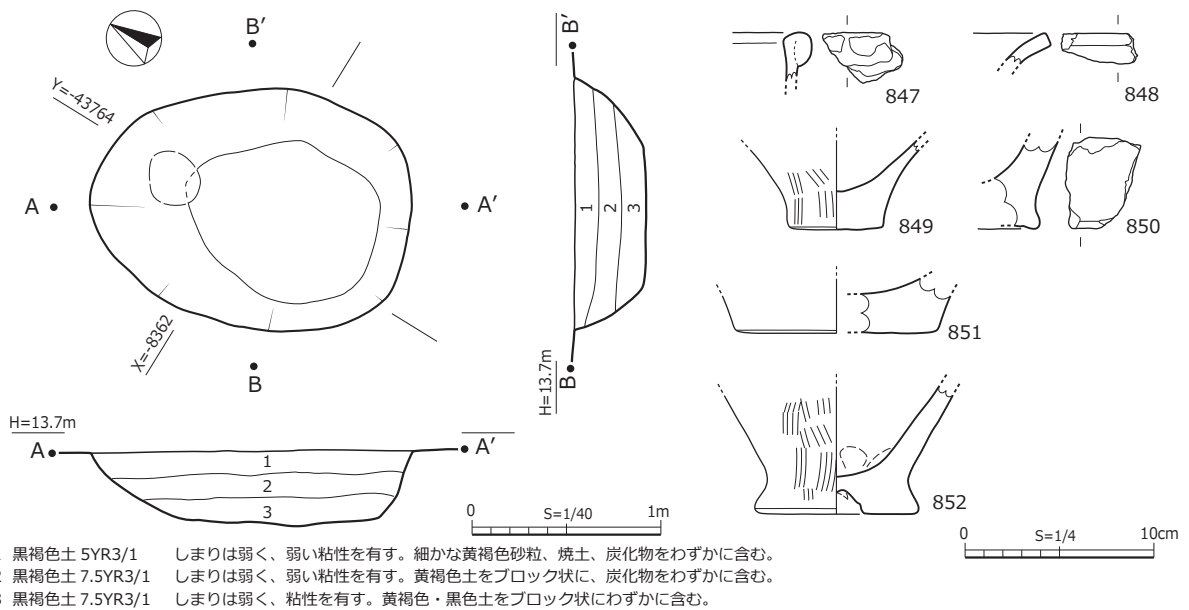
S257 は不整形の土坑で、東側で S256 に切られている。弥生土器が小片で出土しているが、図化に耐えるものはなかった。



第 126 図 S257 実測図



第127図 S259 実測図



第128図 S260 実測図・出土遺物実測図

【S259】(第127図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S259	土坑	楕円形	2.70	2.08	0.41	N-18	—	

S259 は楕円形を呈す土坑で、底面北側がやや深く掘り込まれている。弥生土器の小片が出土したが、図化できなかった。

【S260】 (第 128 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S260	土坑	楕円形	1.70	1.28	0.40	N-17	—	

S260 は楕円形を呈す土坑で、底面は平坦に掘られている。弥生土器が出土し、6 点を図示した。甕口縁部は小片だが、端部をわずかに外反させ、粘土紐を貼り付けて成形している。朝鮮半島系無文土器と考えられる。甕底部は平底と上げ底が見られる。

【S261】 (第 129 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S261	土坑	楕円形	1.30	1.00	0.31	N-17	—	

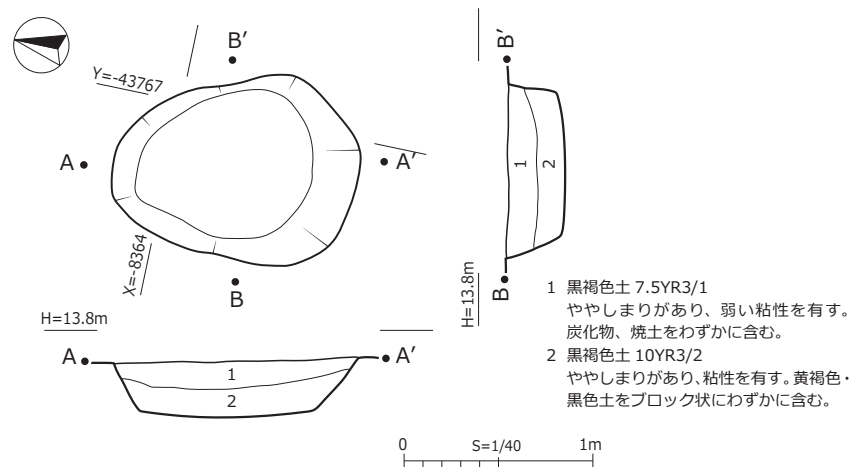
S261 は楕円形を呈す土坑で、底面は平坦に掘られている。弥生土器と見られる小片が出土しているが、図化できなかった。

【S262】 (第 130 図、図版 7)

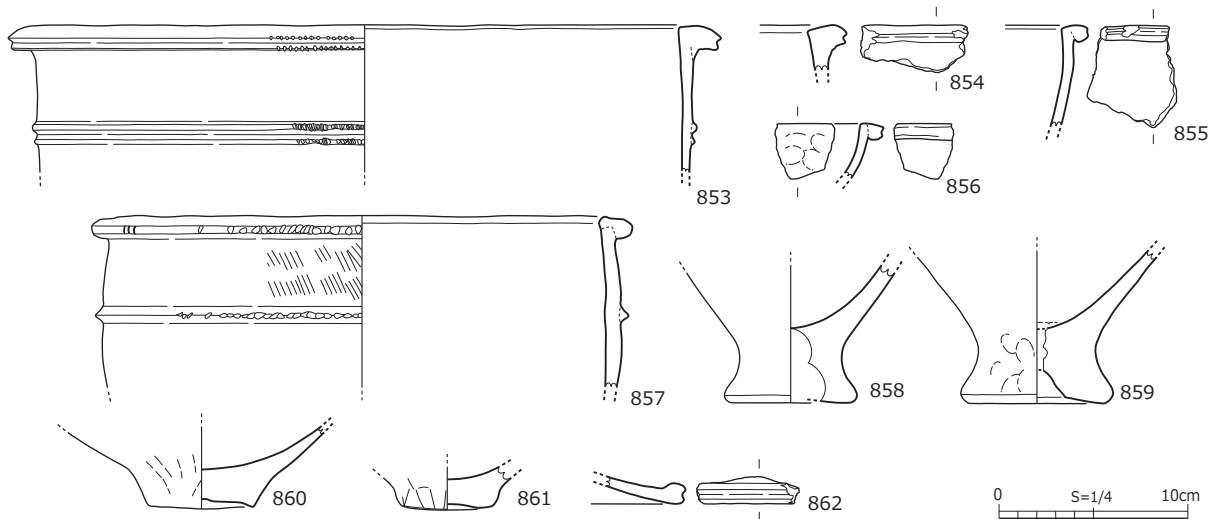
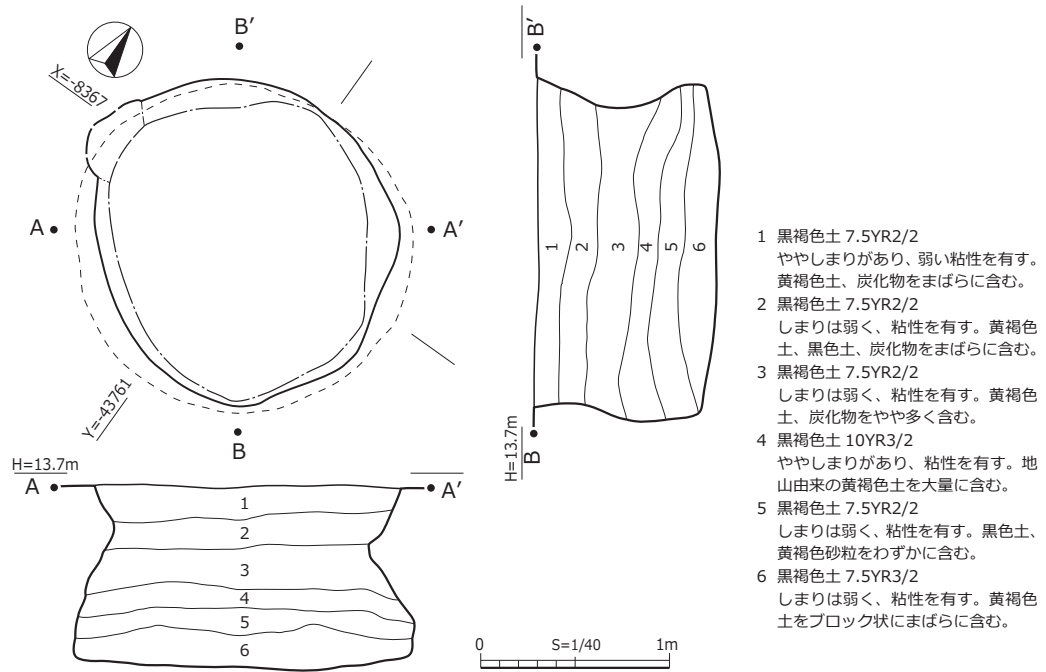
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S262	貯蔵穴	円形	1.80	1.76	0.96	N-17	—	

S262 は円形を呈し、30cm ほどの深さですばまって底近くで広がるフラスコ状の断面形状を示す貯蔵穴である。検出面より床面のほうが面積が広い。

S262 からは、弥生時代中期の土器が出土している。甕は口縁部を断面カマボコ形または方形に肥厚させている。胴部は口径と変わらない大きさで上位に突帯を付け、底部は上げ底に作っている。



第 129 図 S261 実測図

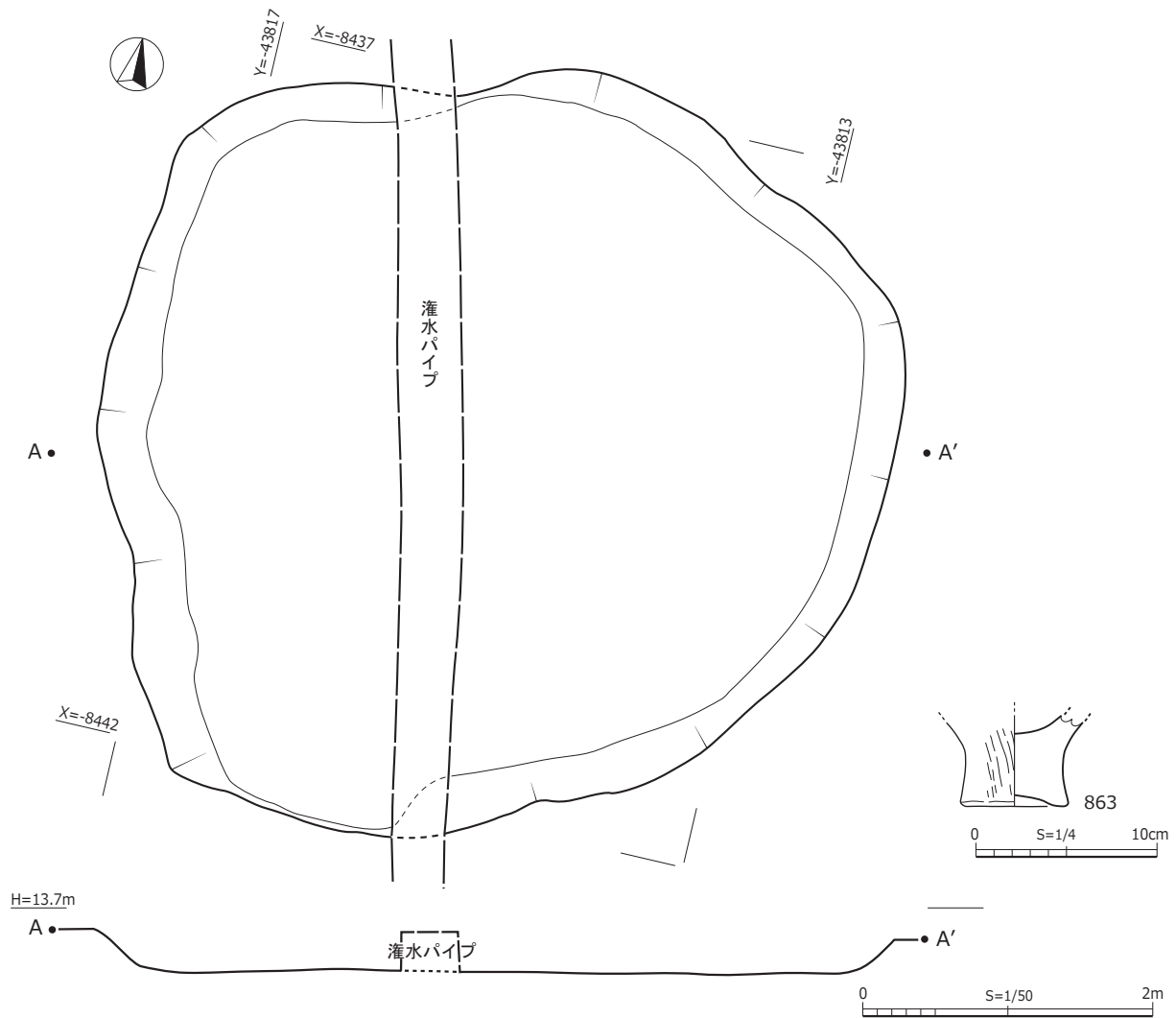


第130図 S262 実測図・出土遺物実測図

【S263】（第131図）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S263	土坑	円形	5.40	5.03	0.22	I-10	—	

S263は直径約5mと広いが、浅い土坑である。底面は平坦で、柱穴などは確認されておらず、用途は不明である。埋土からは少量の弥生土器片が出土しており、上げ底を持つ甕底部を図示した。



第 131 図 S263 実測図

【S265】(第 132 図)

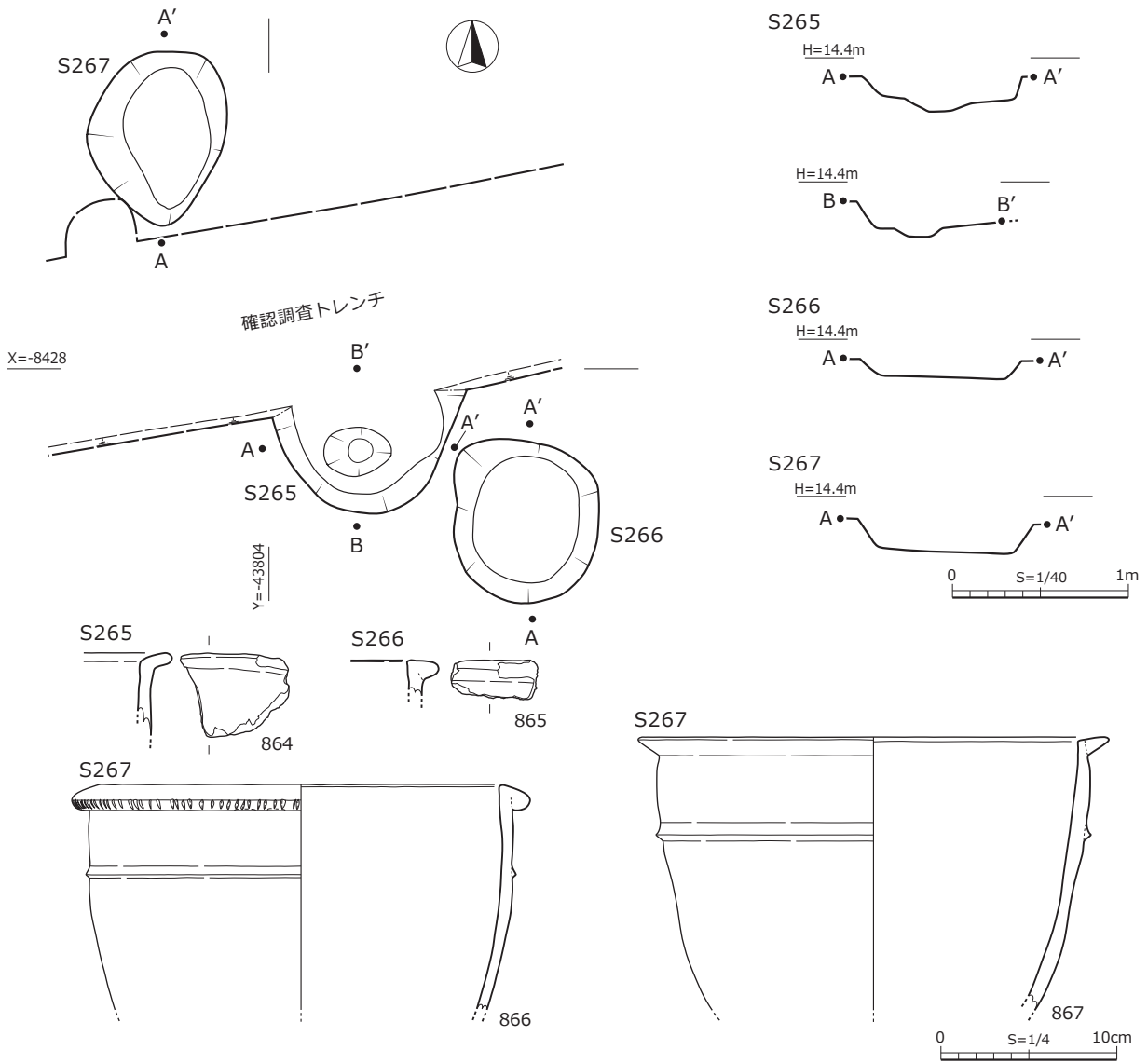
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S265	土坑	円形?	1.1 + α	0.6 + α	0.22	J-11	—	

S265 は円形と見られる形状の土坑で、南端付近に丸く浅い掘り込みがある。北側の半分程度は確認調査のトレンチで削られている。出土土器は甕口縁部で、折り曲げたように外へ開く器形である。

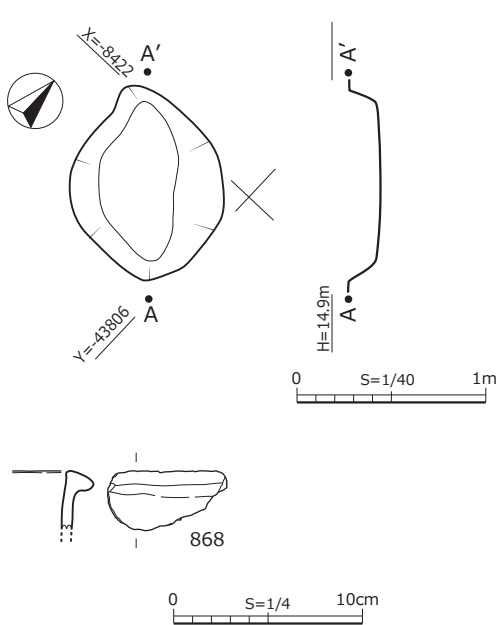
【S266】(第 133 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S266	土坑	円形	0.92	0.81	0.10	J-11	—	

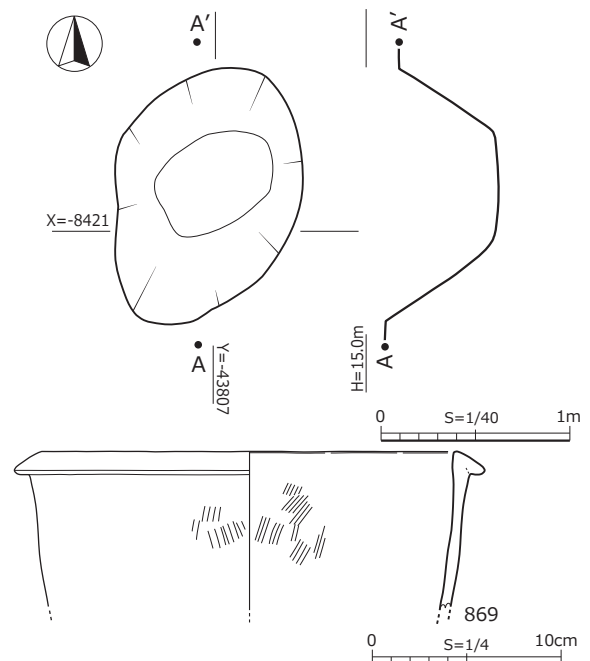
S266 はやや南北に長い円形を呈す土坑である。口縁断面を三角形に肥厚させた弥生中期の甕を図示した。



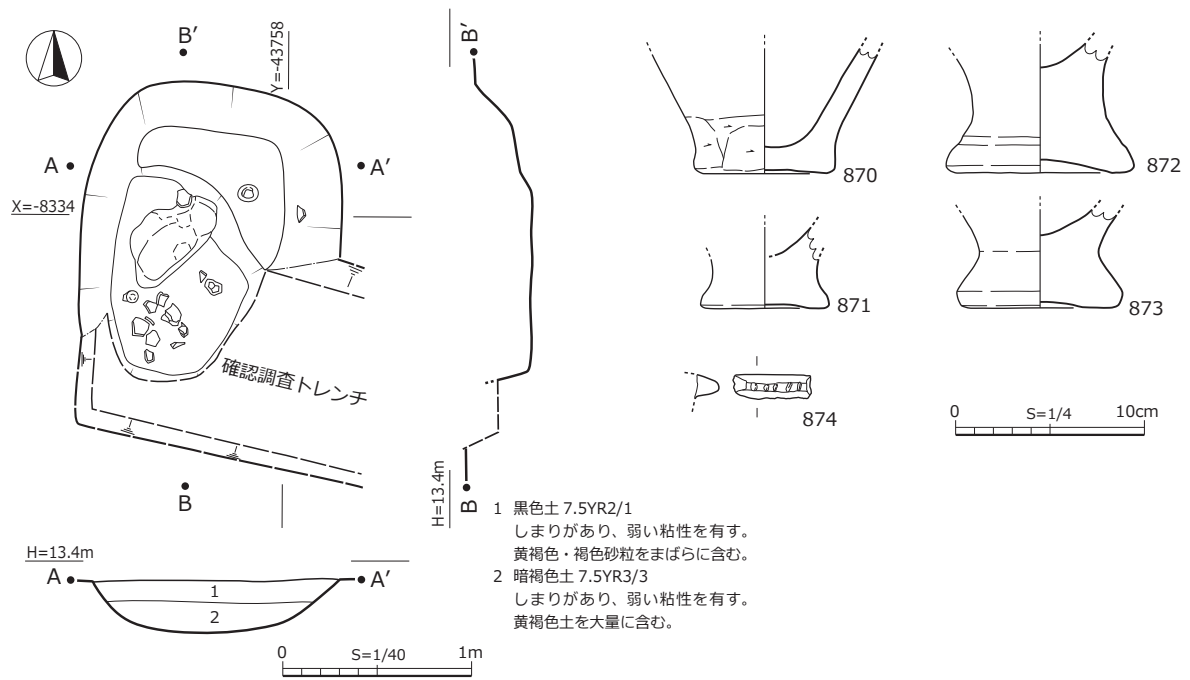
第132図 S265～267 実測図・出土遺物実測図



第133図 S272 実測図・出土遺物実測図



第134図 S273 実測図・出土遺物実測図



第 135 図 S274 実測図・出土遺物実測図

【S267】(第 132 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S267	土坑	楕円形	0.99	0.80	0.17	J-11	—	

S267 は楕円形を呈する土坑である。口唇部外面に粘土を貼り肥厚させる手法は同じだが、形態が対照的な 2 点の甕が出土している。

【S272】(第 133 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S272	土坑	楕円形	1.00	0.83	0.16	J-11	—	

S272 は長軸が尖った楕円形を呈する土坑で、底面は平らで浅い。弥生中期の甕口縁部片を図示している。

【S273】(第 134 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S273	土坑	楕円形	1.43	1.00	0.52	J-11	—	

S273 は楕円形の土坑で、およそ 50cm の深さがある。出土した土器は弥生中期の甕で、口縁の肥厚はやや下位に貼付され、胴部突帯はない。

【S274】(第135図)

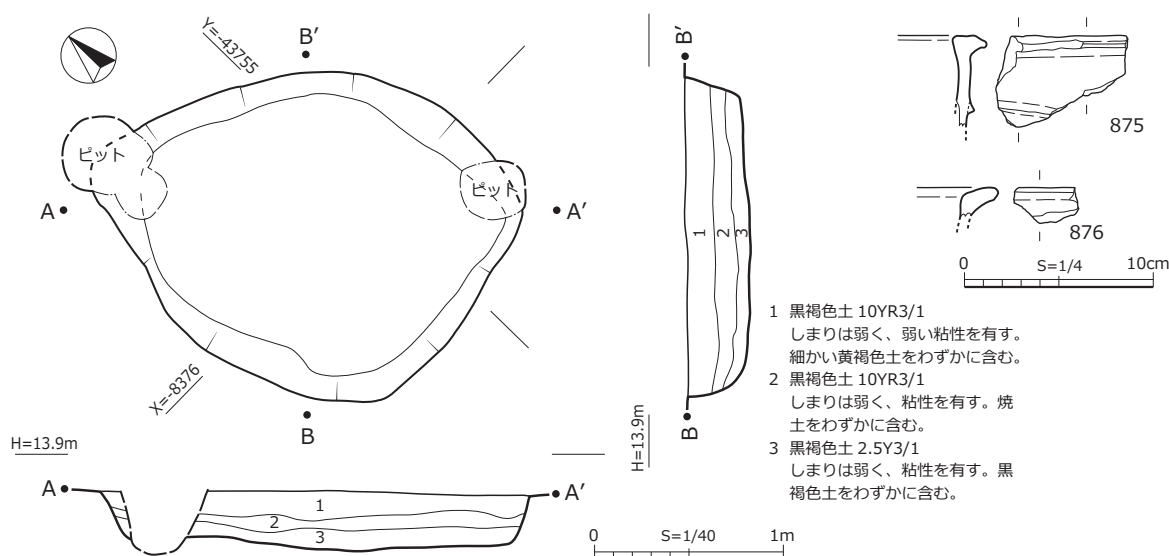
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S274	土坑	長方形	1.6 + α	1.38	0.30	O-20	S254 → S274	

S274 は平面が長方形とみられる土坑で、南西側を確認調査トレンチで削られている。図示した土器とともに長さ約 60cm の玄武岩が埋まっていた。土器は弥生時代中期のわずかに上げ底となった甕底部と肥厚口縁の一部である。埋土からは玄武岩の破片も数点検出したが、加工・調整の痕跡は確認できなかった。

【S275】(第136図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S275	土坑	楕円形	(2.30)	1.75	0.38	O-16	—	

S275 は楕円形の土坑で、床面はほぼ平坦であった。埋土から少量の弥生土器が出土した。口縁を肥厚させる甕や外へ開くものがあり、弥生時代中期の時期が考えられる。

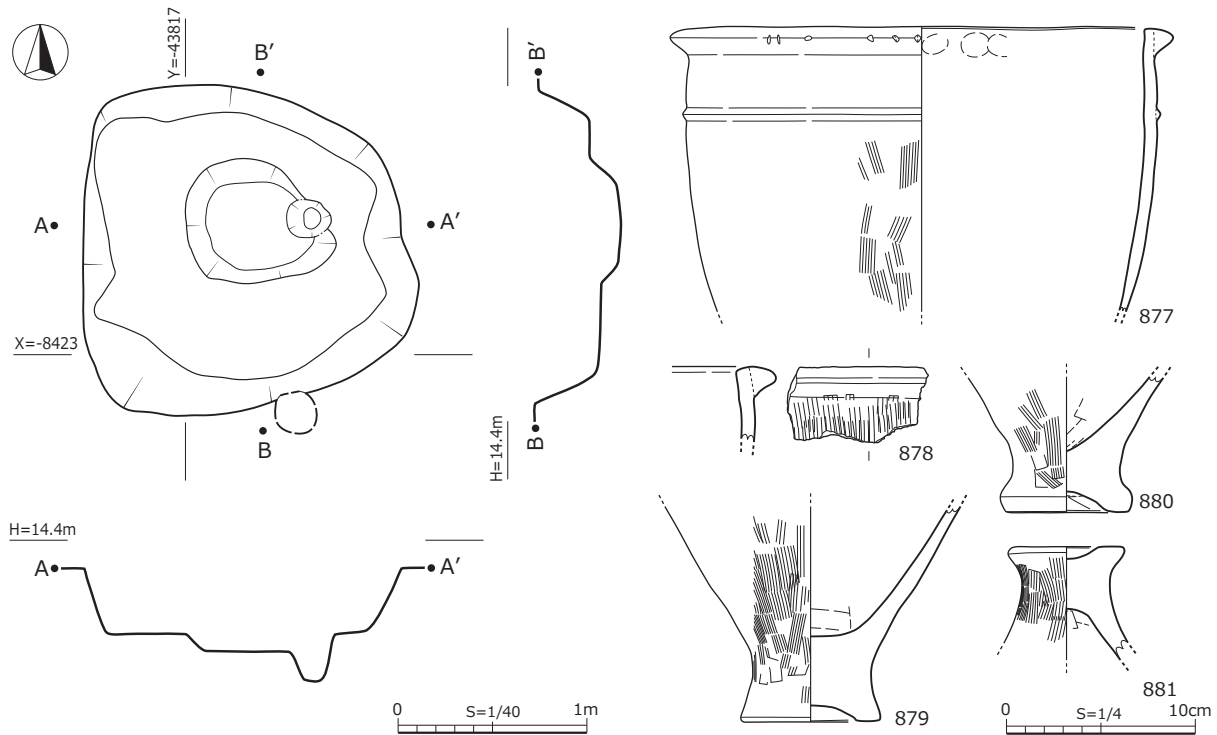


第136図 S275 実測図・出土遺物実測図

【S288】(第137図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S288	土坑	隅丸方形	1.75	1.68	0.61	I-11	—	

S288 は中央にピット状の掘り込みがある隅丸方形の土坑で、弥生中期の土器が出土した。このうち甕・蓋を図示している。甕は口縁部を断面三角形に肥厚させ、胴部突帯を施している。底部ははっきりとした上げ底が作られている。蓋は天井部片で、甕底部より細く、華奢な印象がある。



第 137 図 S288 実測図・出土遺物実測図

【S293】 (第 138 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S293	土坑	楕円形	2.32	1.35	0.21	0-18	—	

S293 は楕円形を呈す土坑で、残存していた部分は 21cm と浅く平坦であった。

埋土より、比較的大型の器形に復元可能な甕・壺が出土した。甕は口縁を肥厚させ、胴部の突帯はなく張りの弱い器形で、同一個体ではないが同様の器形と推定される上げ底の底部資料もある。壺は平底で胴部最大径 30cm を超えると見られる。

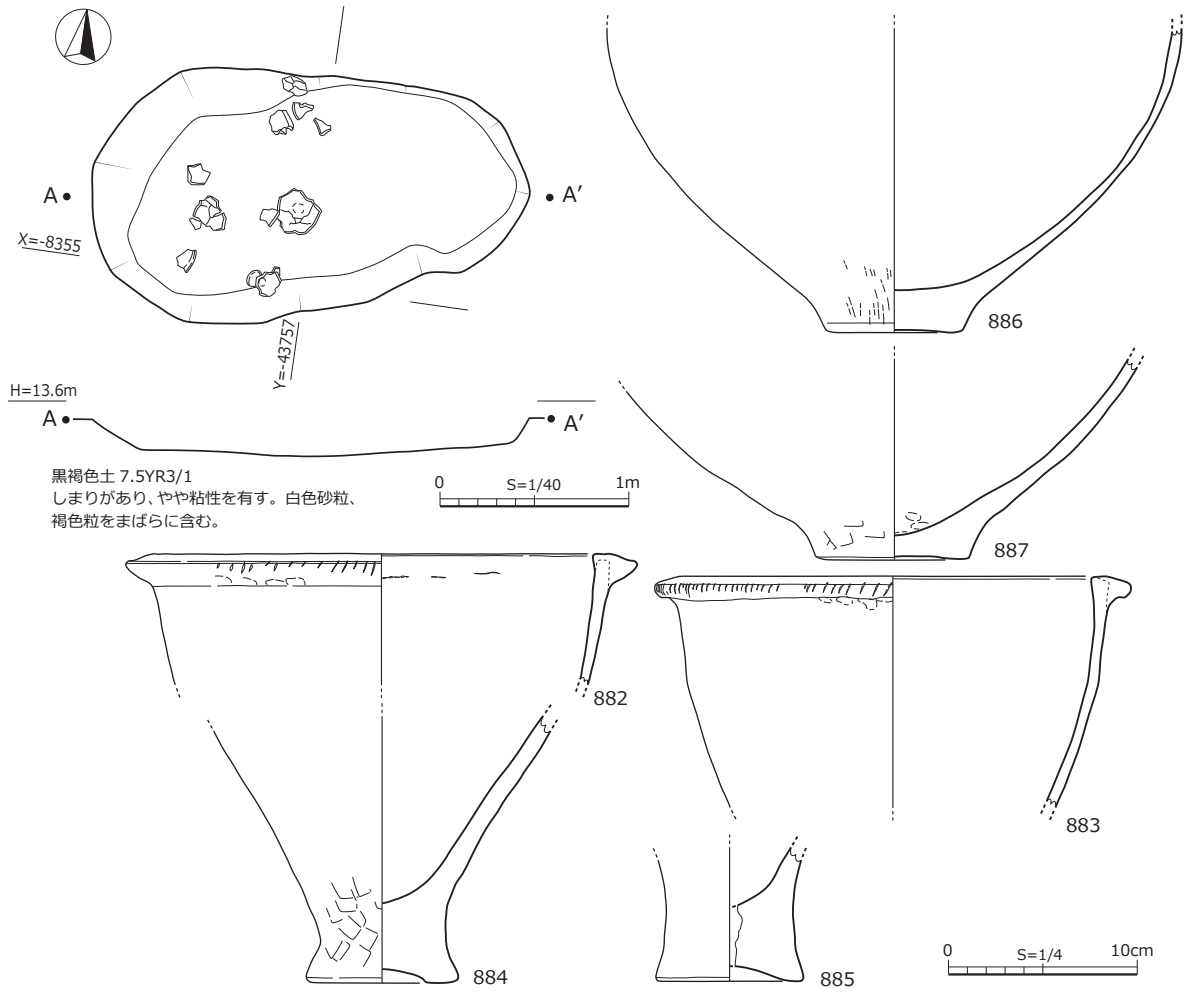
【S294】 (第 139 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S294	土坑	楕円形	1.35	1.03	0.33	0-18	—	

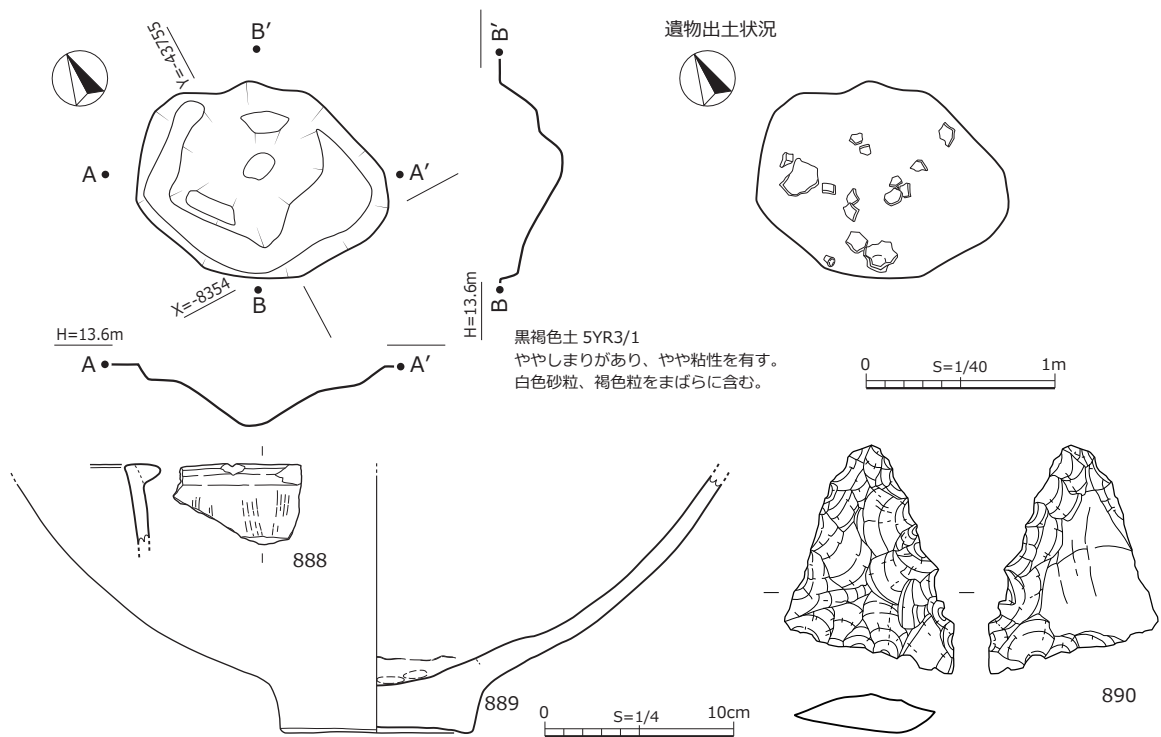
S294 は楕円形を呈す土坑で、中央に不整形の掘り込みを持つ。弥生土器の甕口縁部小片、大型壺の胴部下位～底部、安山岩製鎌を図示している。

【S297】 (第 140 図)

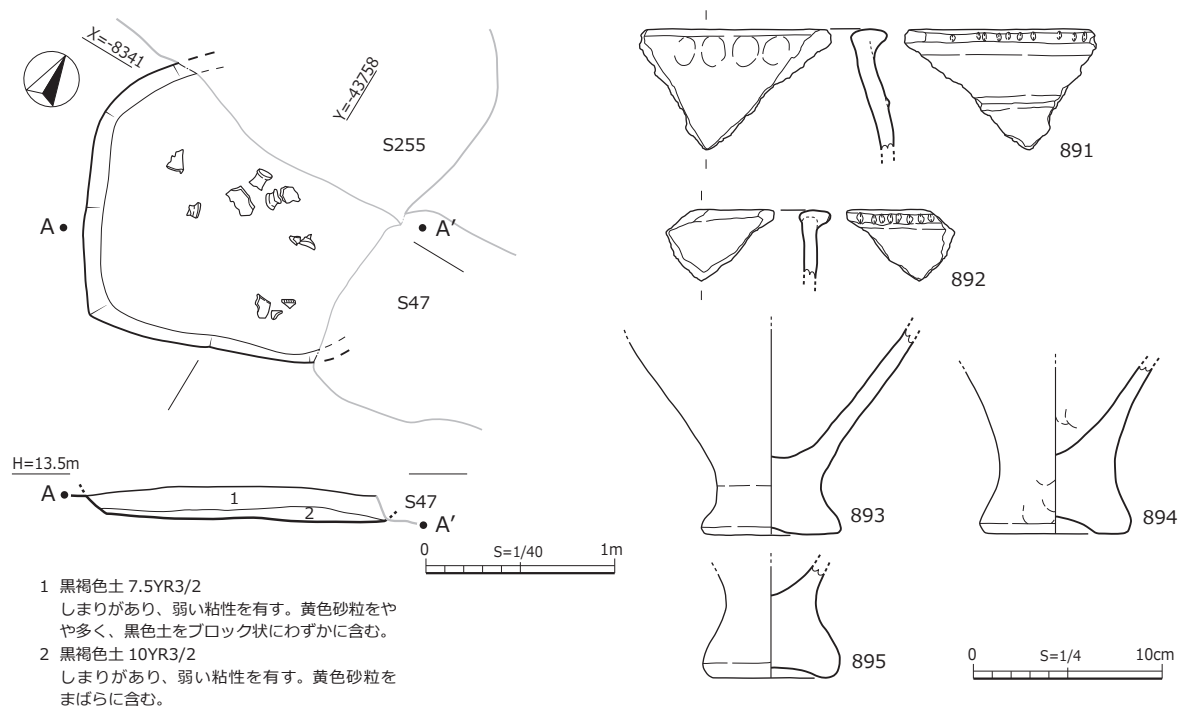
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S297	土坑	方形?	1.68	1.5 + α	0.18	0-19	S297 → S255 → S47	



第138図 S293 実測図・出土遺物実測図



第139図 S294 実測図・出土遺物実測図



第 140 図 S297 実測図・出土遺物実測図

S297 は西側を土坑（S255・S47）に切られる弥生時代中期の土坑である。また、S297 は他の土坑に切られた範囲内で立ち上がるようで、さらに西側では掘り込みは確認されていない。

図示した土器は甕で、口縁部の肥厚はやや小さく、底部もわずかな上げ底で弥生中期でもやや古い特徴が見られる。

【S299】（第 141 図）

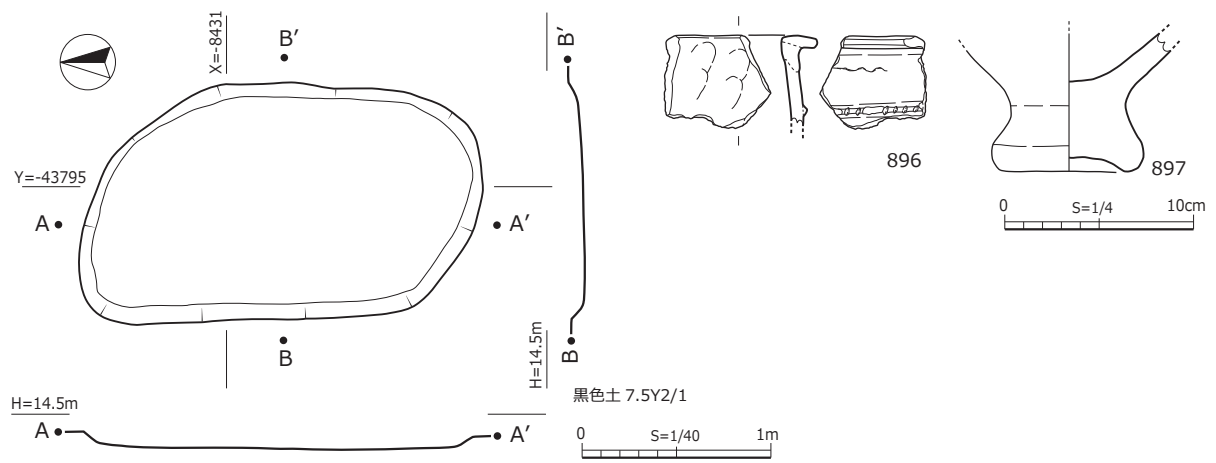
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S299	土坑	楕円形	2.06	1.25	0.09	K-10	—	

S299 は楕円形を呈する浅い土坑で、床面は平坦である。弥生時代中期の甕が出土している。

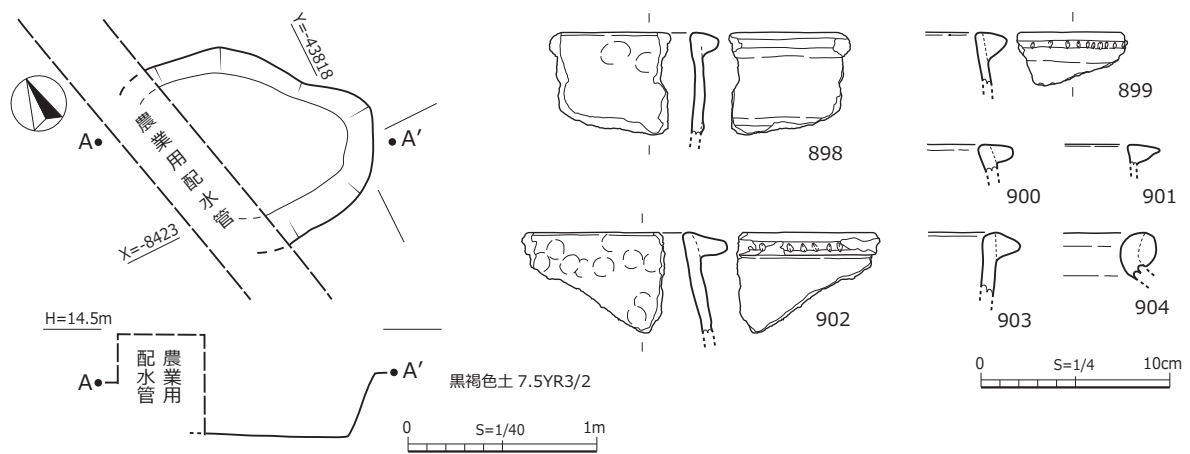
【S303】（第 142 図）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S303	土坑	楕円形	(1.25)	(1.20)	0.35	I-11	—	

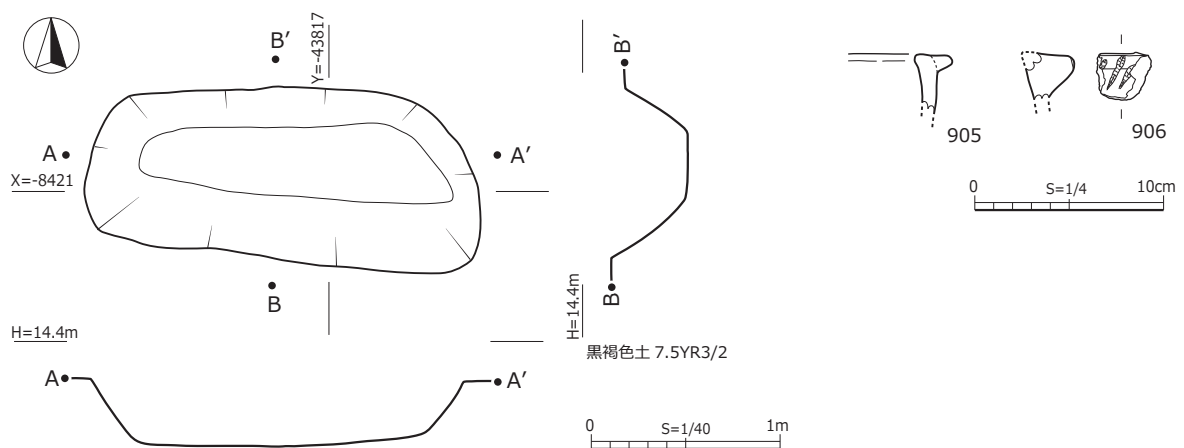
S303 は土坑で、農業用水配管によって西側半分を失っている。弥生土器が出土しており、粘土を貼り付け肥厚口縁部を作る甕を図示している。肥厚は小さめでほとんどが断面三角形であるが、丸いものが1点あった。



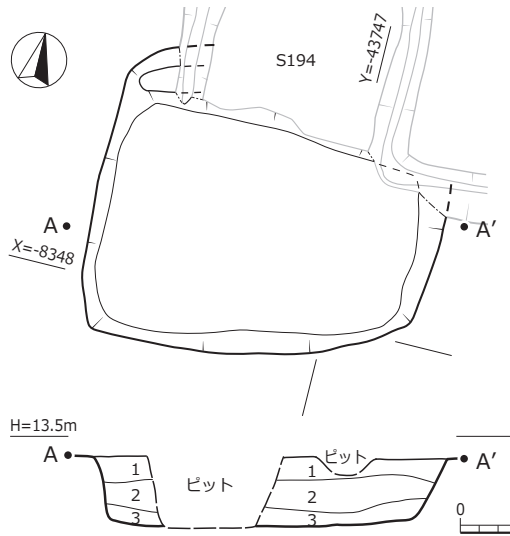
第141図 S299 実測図・出土遺物実測図



第142図 S303 実測図・出土遺物実測図

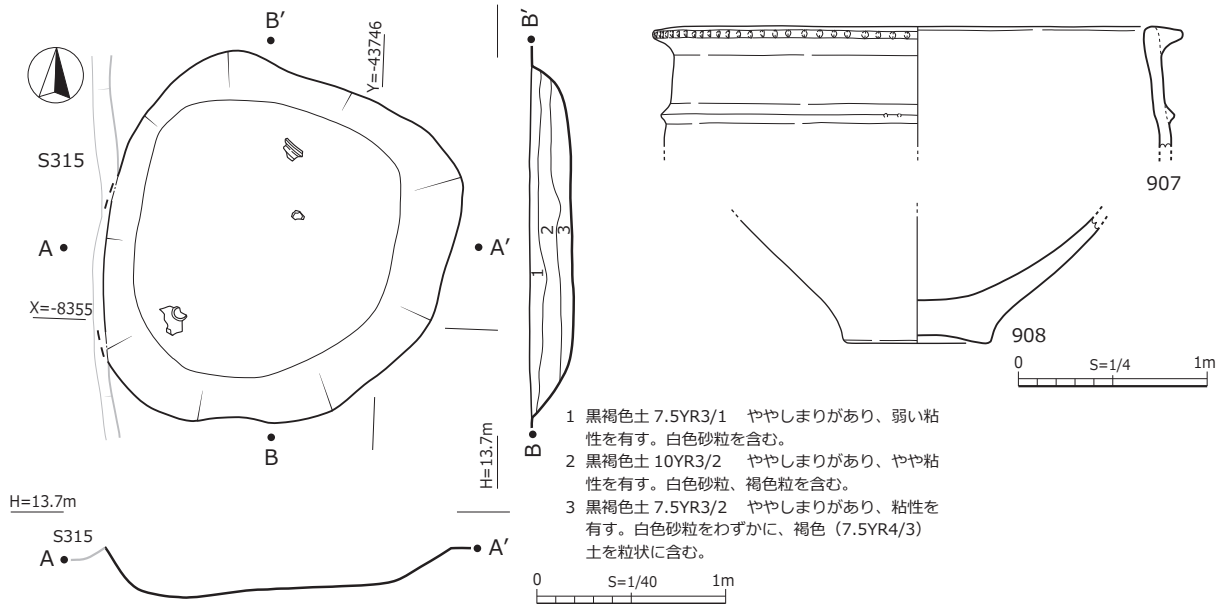


第143図 S304 実測図・出土遺物実測図



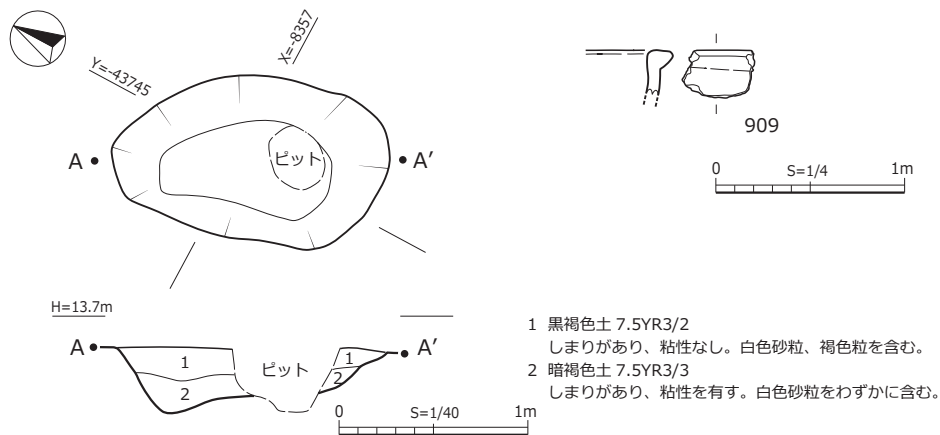
- 1 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒、褐色粒を含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、やや粘性を有す。にぶい黄褐色（10YR4/3）土を粒状に多く含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2
ややしまりがあり、粘性を有す。にぶい黄褐色（10YR4/3）土を粒状にまばらに含む。

第 144 図 S309 実測図



- 1 黒褐色土 7.5YR3/1 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒を含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒、褐色粒を含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒をわずかに、褐色（7.5YR4/3）土を粒状に含む。

第 145 図 S311 実測図・出土遺物実測図



- 1 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性なし。白色砂粒、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3
しまりがあり、粘性を有す。白色砂粒をわずかに含む。

第 146 図 S313 実測図・出土遺物実測図

【S304】(第143図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S304	土坑	楕円形	2.10	0.90	0.40	I-11	—	

S304 は東西方向に長い楕円形を呈する土坑で、底面は平坦である。少量の遺物が出土し、小片だが弥生中期の甕を図化した。どちらも粘土を貼り付け肥厚させる作りで、口縁内側への弱い突出も見られる。

【S309】(第144図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S309	土坑	方形か	1.84	1.5 + α	1.5 + α 0.36	P-19	S309 → S194	

S309 は方形を呈すと見られる土坑で、北側の多くが弥生後期の住居跡 (S194) により削られている。わずかに残った北西隅では、ステップ状に浅い段が設けられている。埋土からは少量の弥生土器が出土した。

【S311】(第145図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S311	土坑	円形	1.90	(1.90)	0.26	P-18	S311 → S315	

S311 は円形を呈す土坑で、西端部を溝状遺構 (S315) に切られている。S311 から出土した弥生土器2点を図示した。甕は口唇を肥厚させ、胴部に突帯を貼り付けどちらも刻目を入れている。壺は上げ底だが器壁は厚く、安定感がある

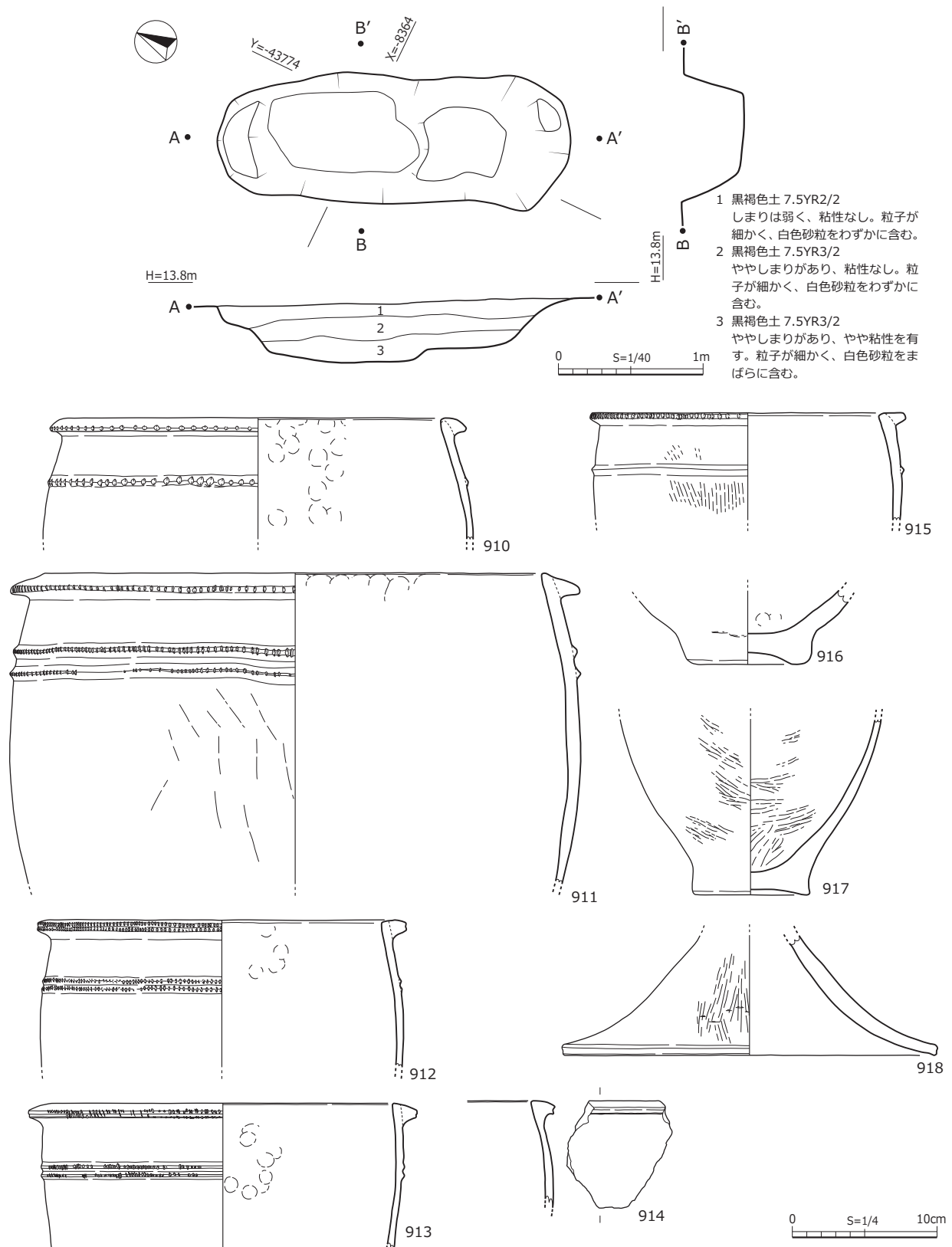
【S313】(第146図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S313	土坑	楕円形	1.47	0.87	0.35	P-18	—	

S313 は楕円形を呈す土坑で、中央にピットの攪乱が入っていた。弥生土器の甕口縁部を図示した。

【S362】(第147図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S362	土坑	長方形	2.44	0.87	0.40	M-17	—	



第 147 図 S362 実測図・出土遺物実測図

S362 は隅丸の長方形を呈する土坑で、中央に長方形の深い部分があり、南北に浅い掘り込みが伴うような形態をとる。弥生時代中期の土器が見つかった。甕は口縁断面を肥厚させ三角形や方形に加工している。胴部に 2 条の突帯を貼るものがある。ほかに壺・蓋があった。

4. 溝・溝状遺構

【S315】(第148図)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長さ	幅				
S315	溝	4.86	0.70	P-18	S311 → S315 → S203	皿形	

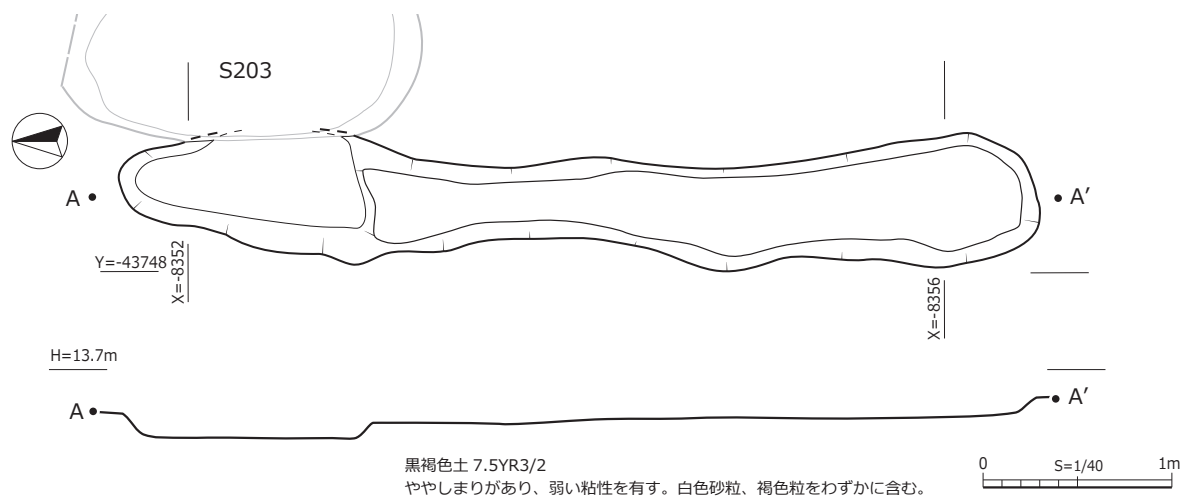
S315は全長4.86mの溝状遺構で、北端から1.2mは一段低く掘られている。主軸はほぼ南北方向に沿っている。東側で土坑(S311)を切り、北東端でS203に切られている。

遺物の出土はなかったが、切り合いの先後関係にあるS203及びS311が弥生中期の時期と見られることから、S315もこの時期とした。

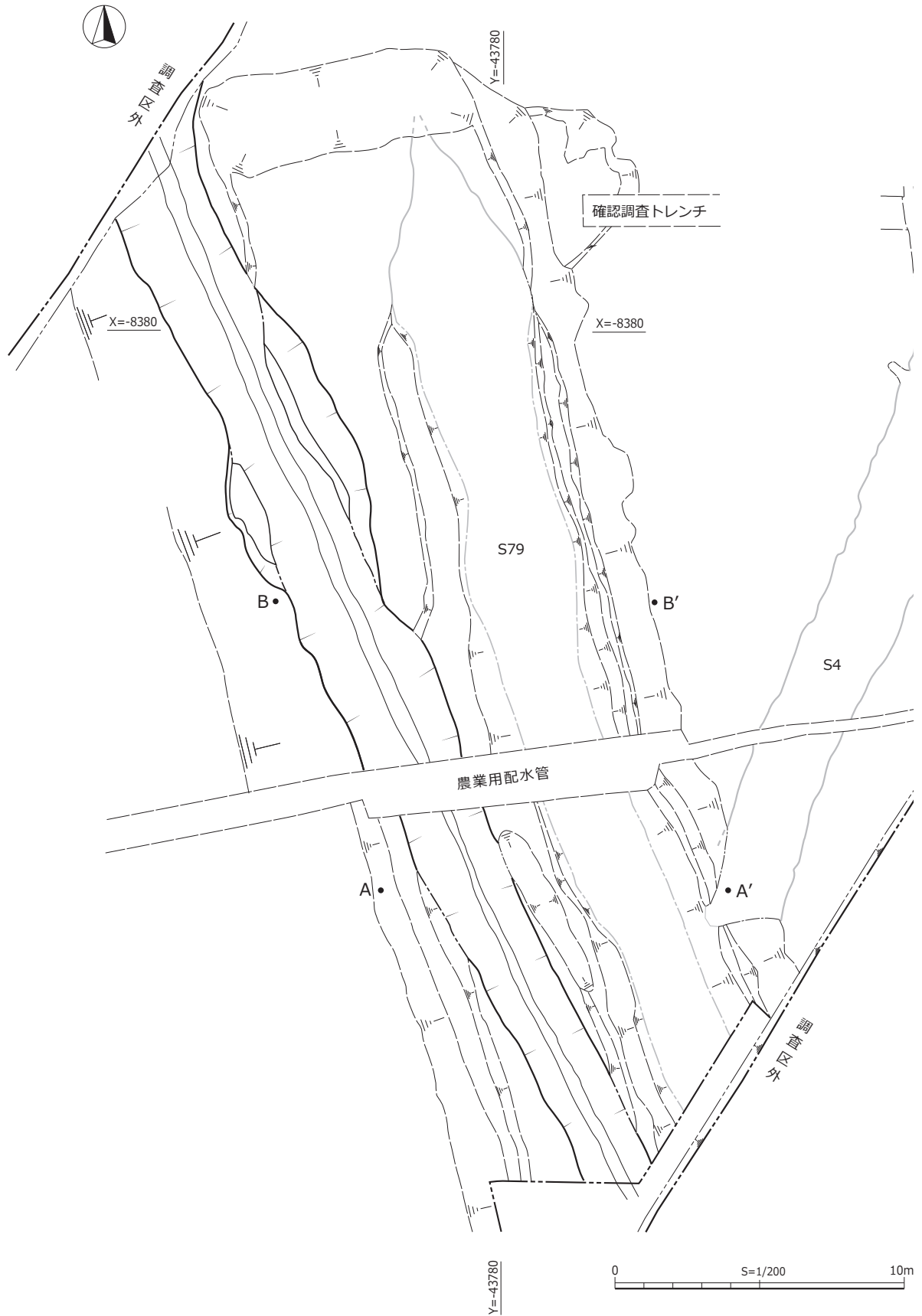
【S80】(第149～152図、図版8・39・40)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長さ	幅				
S80	溝	(40.0)	2.2～5.0	K-16～M-13	—	V字形	

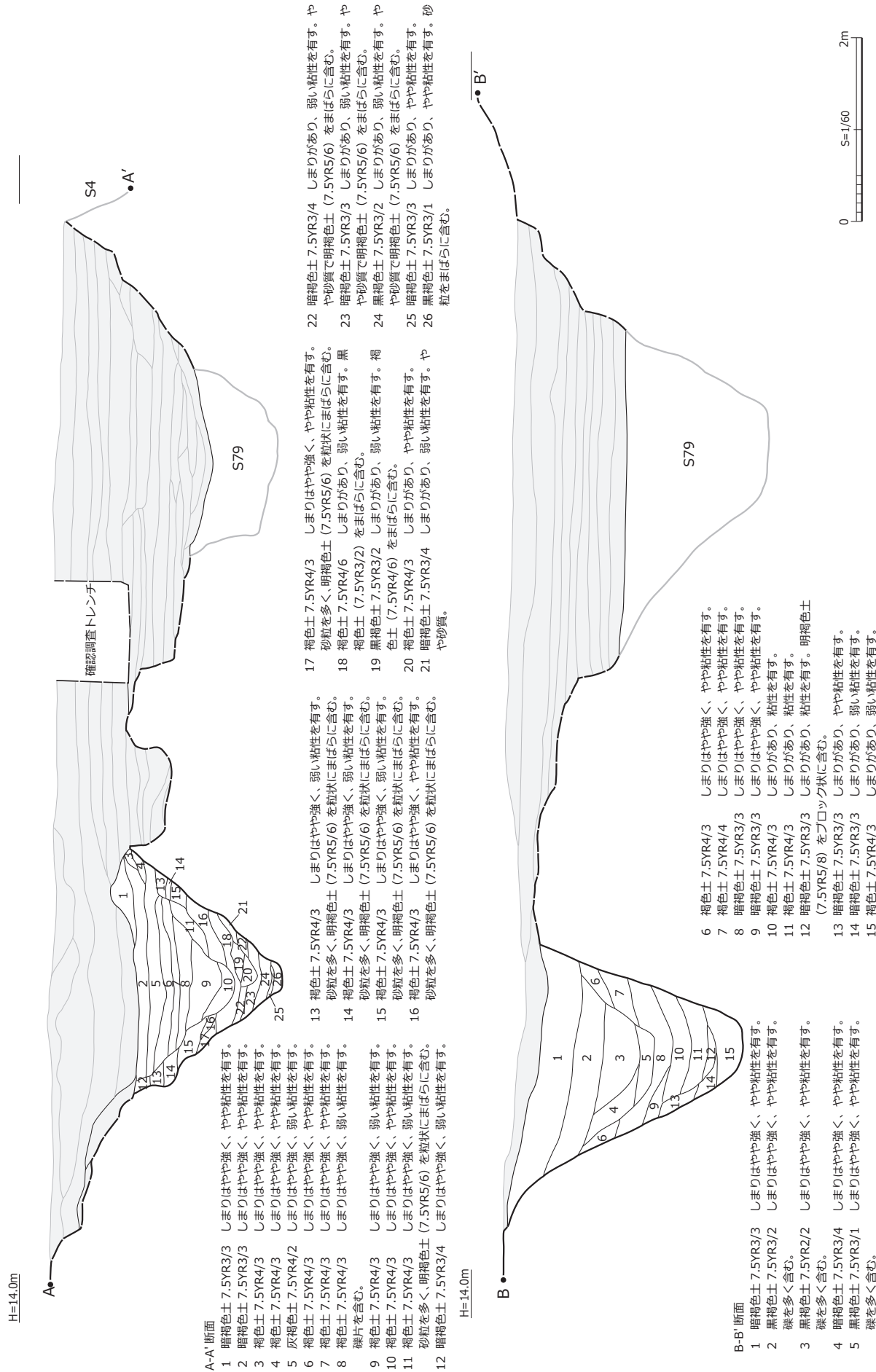
S80は断面V字形を呈す溝で、調査区内で40mを確認している。調査区を越え、南北方向に直線的に伸びている。北側の延長線は現在も宅地の境界線として残り、南側は細長く区切られた地籍図に痕跡を残している。S79と同様に上位は耕作等で攪乱を受けるが、調査以前の耕作面か



第148図 S315実測図



第149図 S80 実測図1



第150図 S80 実測図 2

A-A' 断面

- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 3 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 4 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 5 灰褐色土 7.5YR4/2 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
- 6 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 7 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 8 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
破片を含む。
- 9 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
- 10 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 11 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
- 12 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。

- 13 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
砂粒を多く、明褐色土 (7.5YR5/6) を粒状にまばらに含む。
- 14 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
砂粒を多く、明褐色土 (7.5YR5/6) を粒状にまばらに含む。
- 15 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
砂粒を多く、明褐色土 (7.5YR5/6) を粒状にまばらに含む。
- 16 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
砂粒を多く、明褐色土 (7.5YR5/6) を粒状にまばらに含む。

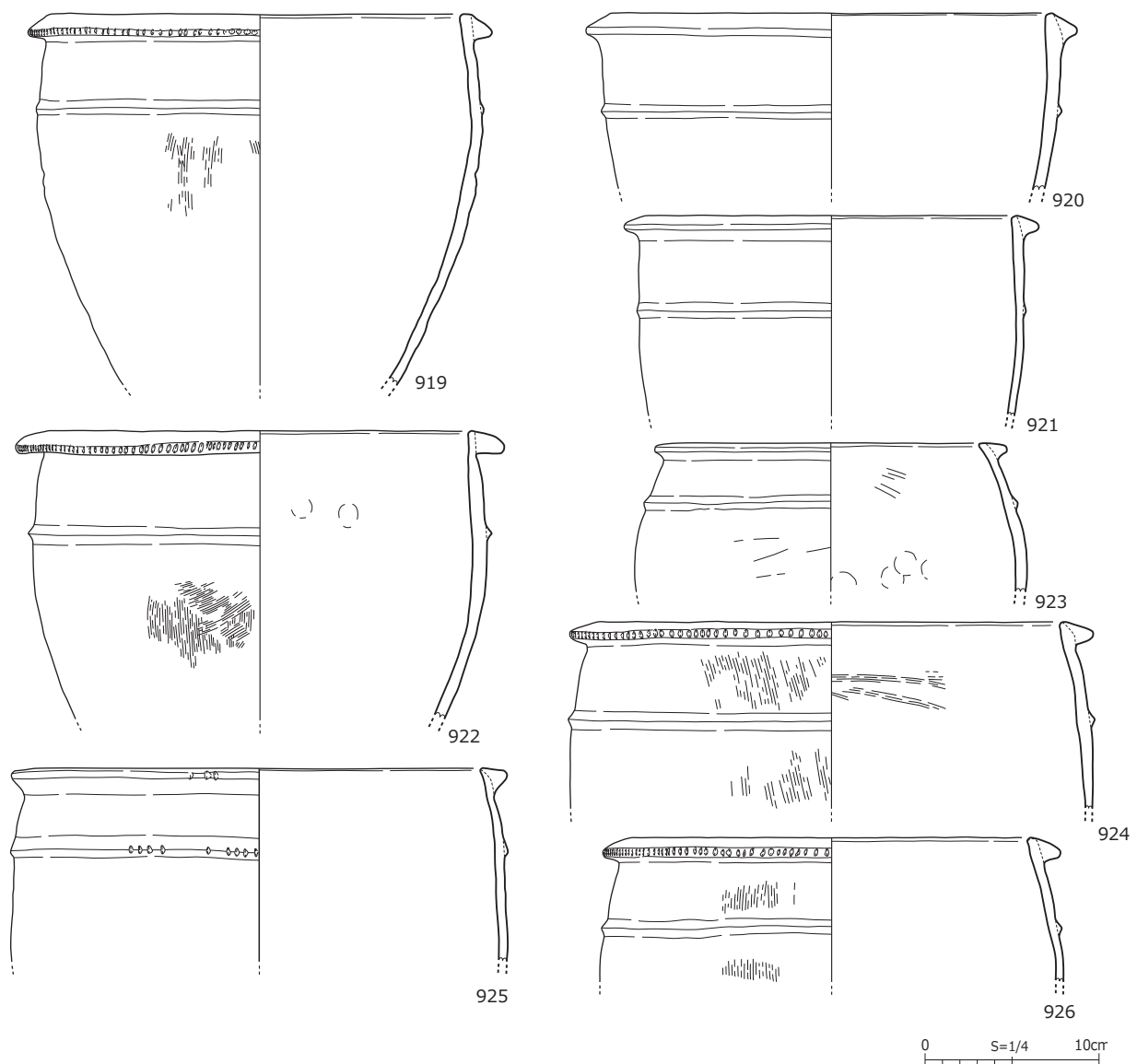
- 17 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
砂粒を多く、明褐色土 (7.5YR5/6) を粒状にまばらに含む。
- 18 褐色土 7.5YR4/6 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。黒褐色土 (7.5YR3/2) をまばらに含む。
- 19 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。褐色土 (7.5YR4/6) をまばらに含む。
- 20 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 21 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。やや砂質。

- 22 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。やや砂質で明褐色土 (7.5YR5/6) をまばらに含む。
- 23 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。やや砂質で明褐色土 (7.5YR5/6) をまばらに含む。
- 24 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。やや砂質で明褐色土 (7.5YR5/6) をまばらに含む。
- 25 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 26 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりはやや強く、やや粘性を有す。砂粒をまばらに含む。

B-B' 断面

- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
破を多く含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
破を多く含む。
- 4 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 5 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
破を多く含む。

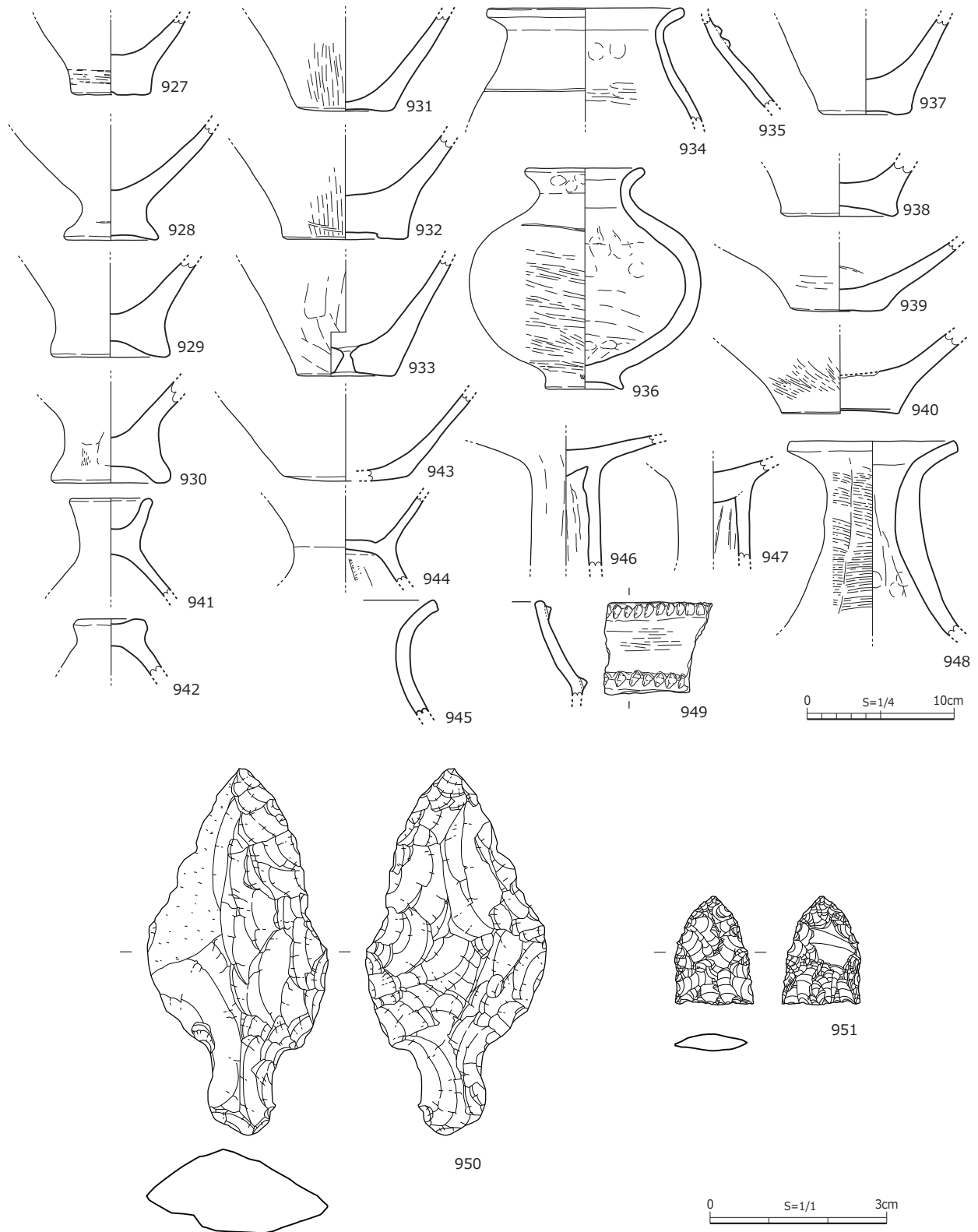
- 6 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 7 褐色土 7.5YR4/4 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 8 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 9 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 10 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、粘性を有す。
- 11 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、粘性を有す。
- 12 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、粘性を有す。明褐色土 (7.5YR5/8) をブロック状に含む。
- 13 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、やや粘性を有す。
- 14 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。
- 15 褐色土 7.5YR4/3 しまりはやや強く、弱い粘性を有す。



第 151 図 S80 出土遺物実測図 1

ら約 2.5 m の深さで床面となり、人が歩ける 40cm ほどの幅がある。土層断面の観察から、複数回の溝浚えを行っているようである。なお、調査時は南側の延長が崖面で途切れること、V 字形の断面形状から環濠と見ていたが、北側の竪穴住居などの生活域と南側の甕棺墓群・墓域とを分ける区画溝としておきたい。

S80 からは弥生中期の土器が多く出土している。甕は肥厚した口縁部で胴部に突帯を持ち、底部が上げ底となる形態が多く、刻目を持たないものもある。壺は弥生前期の形を受け継ぎながら、頸部の屈曲が沈線に置き換わり、底部はわずかに上げ底となっている。この他、蓋・高坏・器台や、混入と見られる弥生時代前期及び後期の土器を図化した。また、石鏃の製作途中の未製品も出土している。



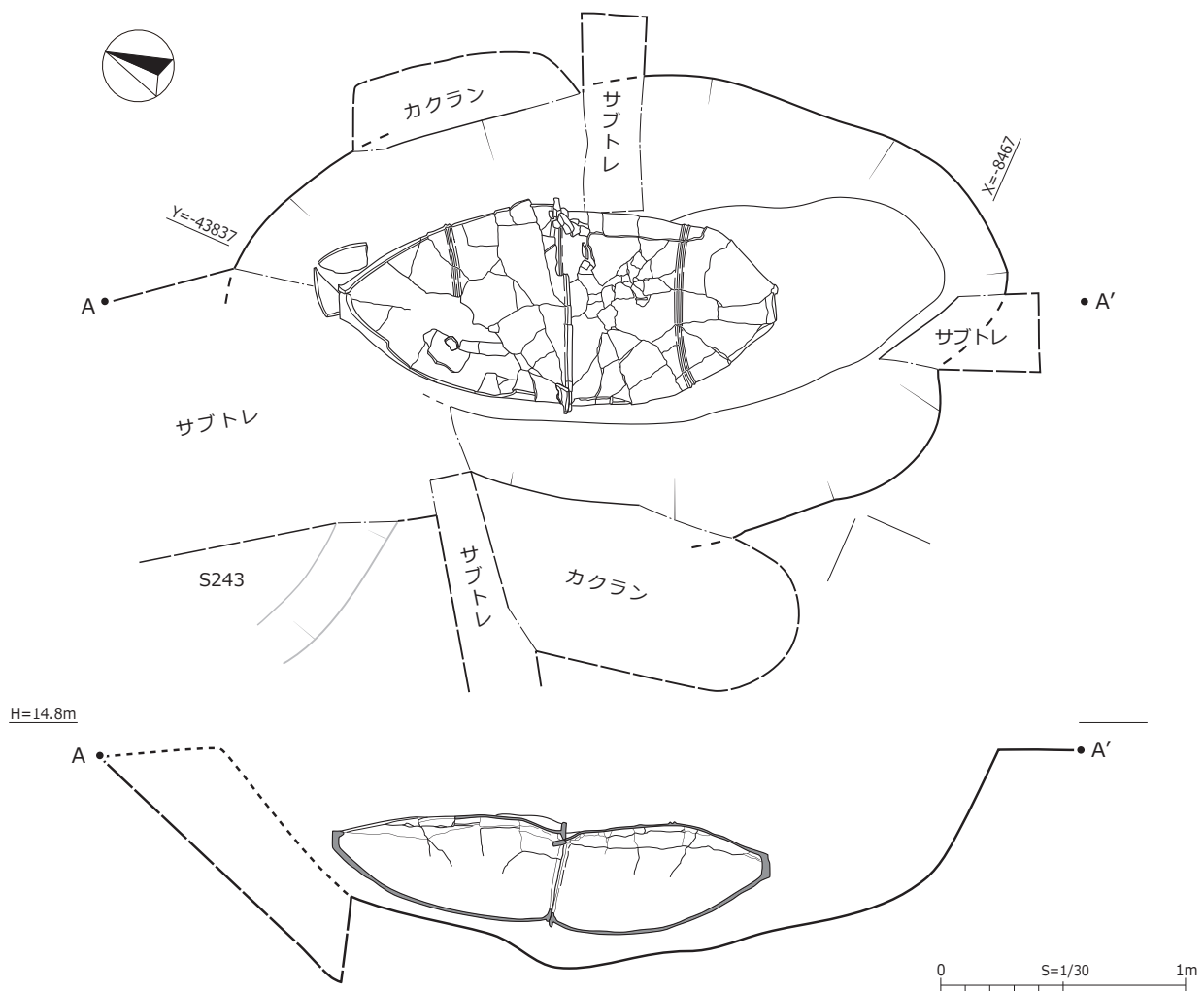
第152図 S80 出土遺物実測図2

5. 甕棺墓・石蓋土坑墓

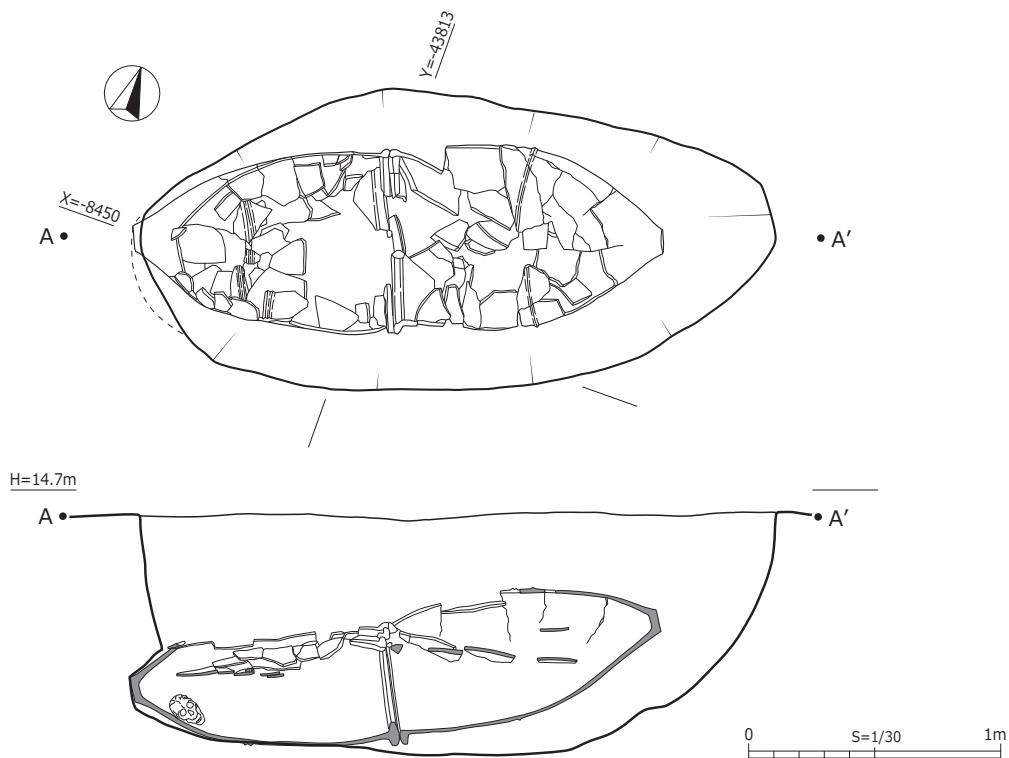
【S251】(第 153・155 図、図版 9)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S251	甕棺墓	楕円形	3.2 + α	1.9 + α	G-7	—	N -23° - W	—	合口

S251 は大型の合口甕棺墓で、楕円形の墓坑内にほとんど水平の位置で置かれていた。上・下棺ともに土圧で上面から押されて割れ、内部は土で埋まっていた。人骨や副葬品の出土はなかった。主軸方位はN -23° - Wで、北側甕を上棺に、南側甕を下棺として図示している。口縁断面はT字形を呈し、内側への張り出しも大きい。胴部上位に最大径があり、胴部中位に見かけ 2 条突帯を巡らせる。底径はやや大きく、平底である。下棺の見かけ 2 条突帯がやや下方に付く点以外は、大きさや色調・胎土などもよく似ており、同時に焼成されたと見られる。



第 153 図 S251 実測図



第154図 S316実測図

【S316】(第154・155図、図版9)

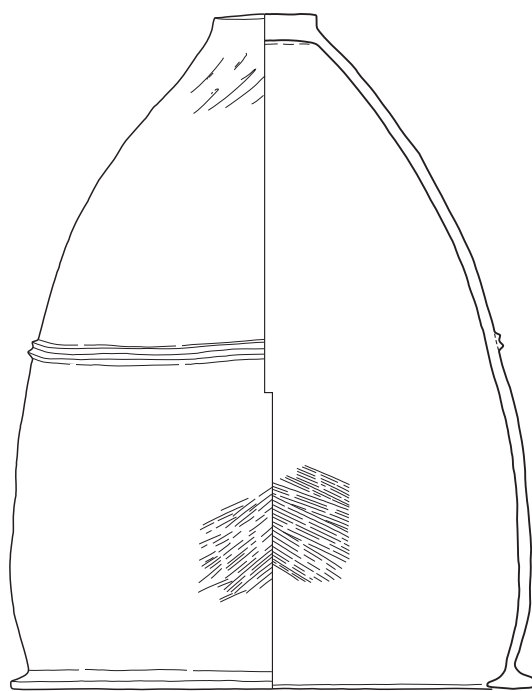
番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S316	甕棺墓	楕円形	2.56	1.20	I-9	—	N-23°-W	—	合口

S316は甕棺墓で、墓坑は上下棺の形状に沿った楕円形を呈している。掘り込みの西端は甕底部分が入るように壁奥まで掘られており、こちらを下棺とした。設置角度は7°である。下顎までの頭骨だけが残り、他の躯幹や四肢骨などは細片となり図化できるほど残っていなかった。頭位はほぼ西南西の方向である。この墓坑は東側で甕棺墓S351の墓坑を切り、S351はまた南側で石蓋土坑墓S367に切られている。これら3基の埋葬遺構は時期が近く主軸方位も揃っており、関連性を持った埋葬が行われたと見られる。

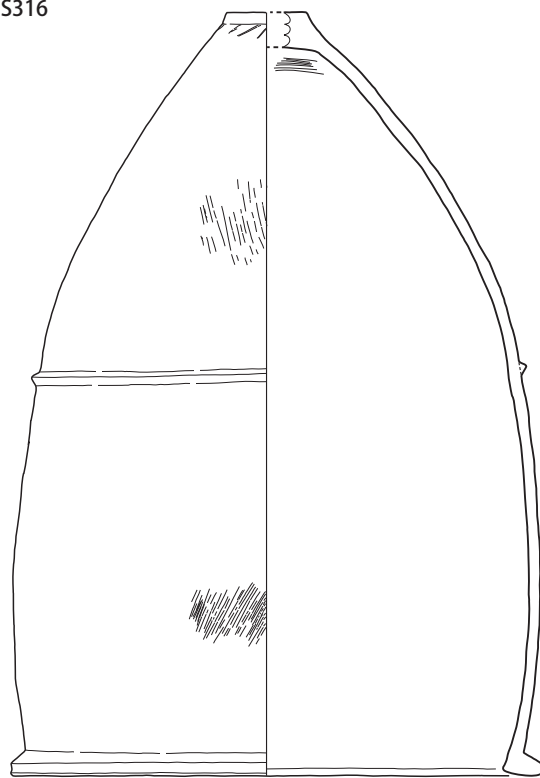
甕は上下棺とも大型で、口径70cm弱で器高は100cmを超えている。特に上棺は今回の報告中、最も背が高い甕棺である。口縁部は断面三角に肥厚させるが内側への突出は小さい。胴部最大径は中位にあり、底部は厚みのある平底である。調整はハケメが所々に施されている。上棺は口縁内外に赤彩の痕跡が残り、三角形突帯が1条貼り付けられる。下棺は見かけ2条の突帯である。

S251

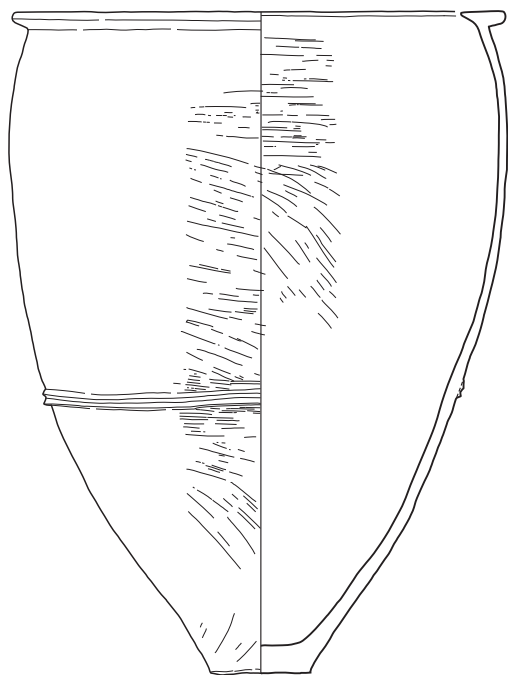
S316



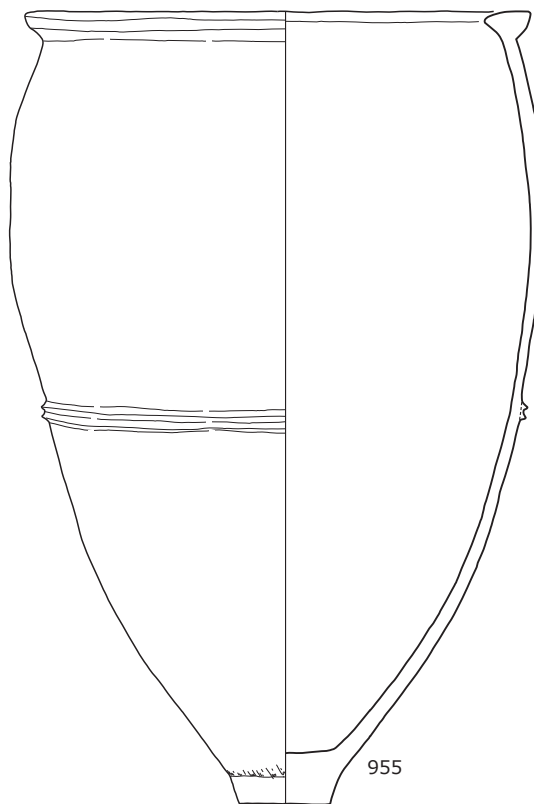
952



954



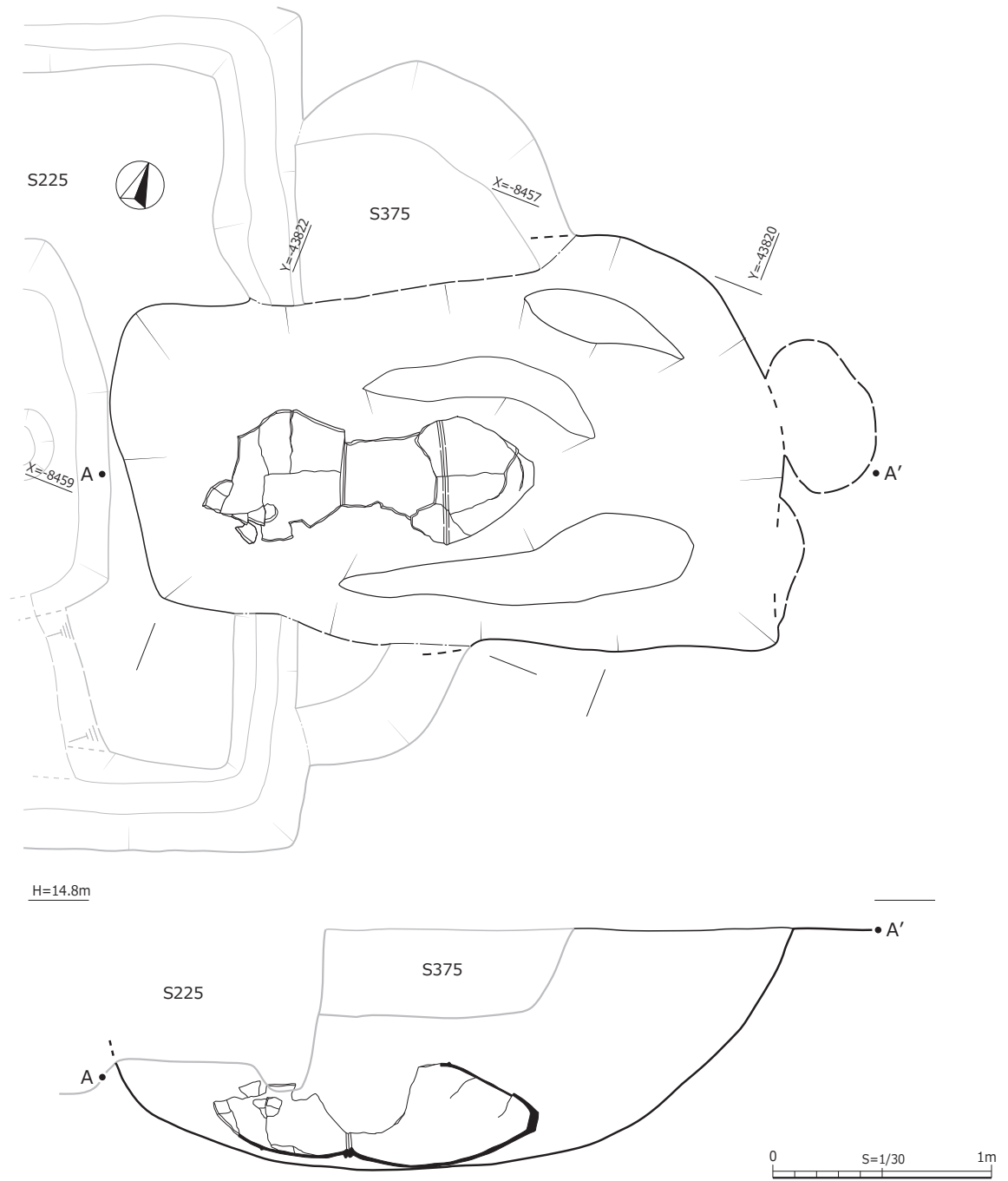
953



955

0 S=1/10 30cm

第 155 図 S251・316 出土遺物実測図

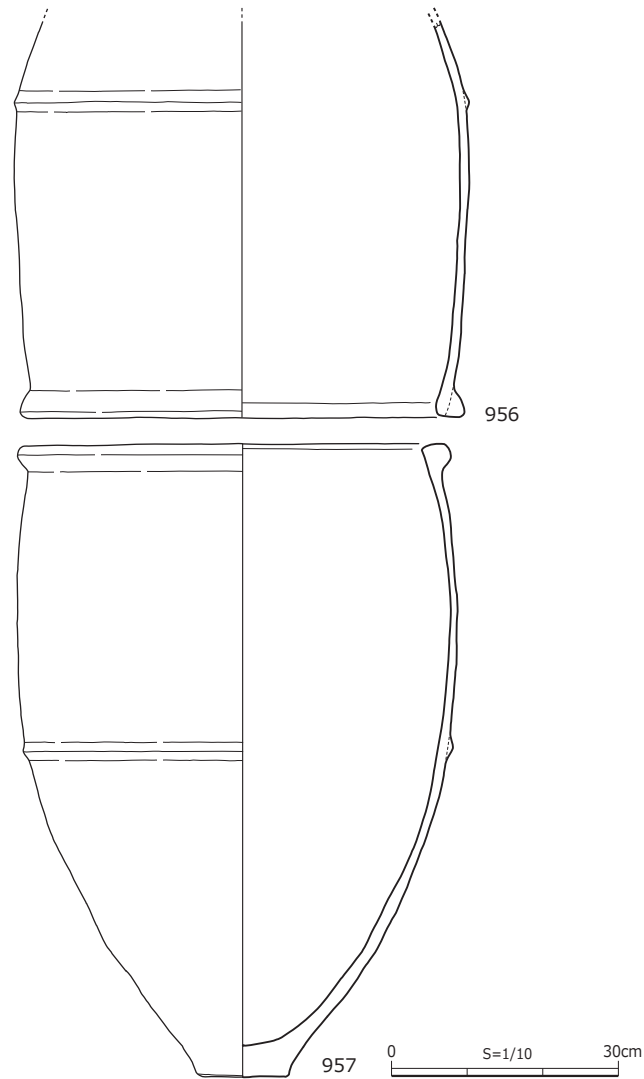


第 156 図 S317 実測図

【S317】(第 156・157 図、図版 9)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S317	甕棺墓	長方形か	3.0 + α	1.90	H-8	S317 → S375 → S225	N-68° -E	—	合口

S317 は残存部分の掘り方から、長方形が想定できる甕棺墓である。土坑 S375 及び古墳時代住居 S225 に切れ、上下棺とも切り合いに近かった部分を多く失っている。設置された角度はほぼ水平であった。上棺は口縁断面が厚くやや丸みのある三角形で、胴部中位に幅広で低い突帯を貼り付けている。突帯下位で径を減じていく器形と見られる。下棺は、口縁断面が厚く外面を押



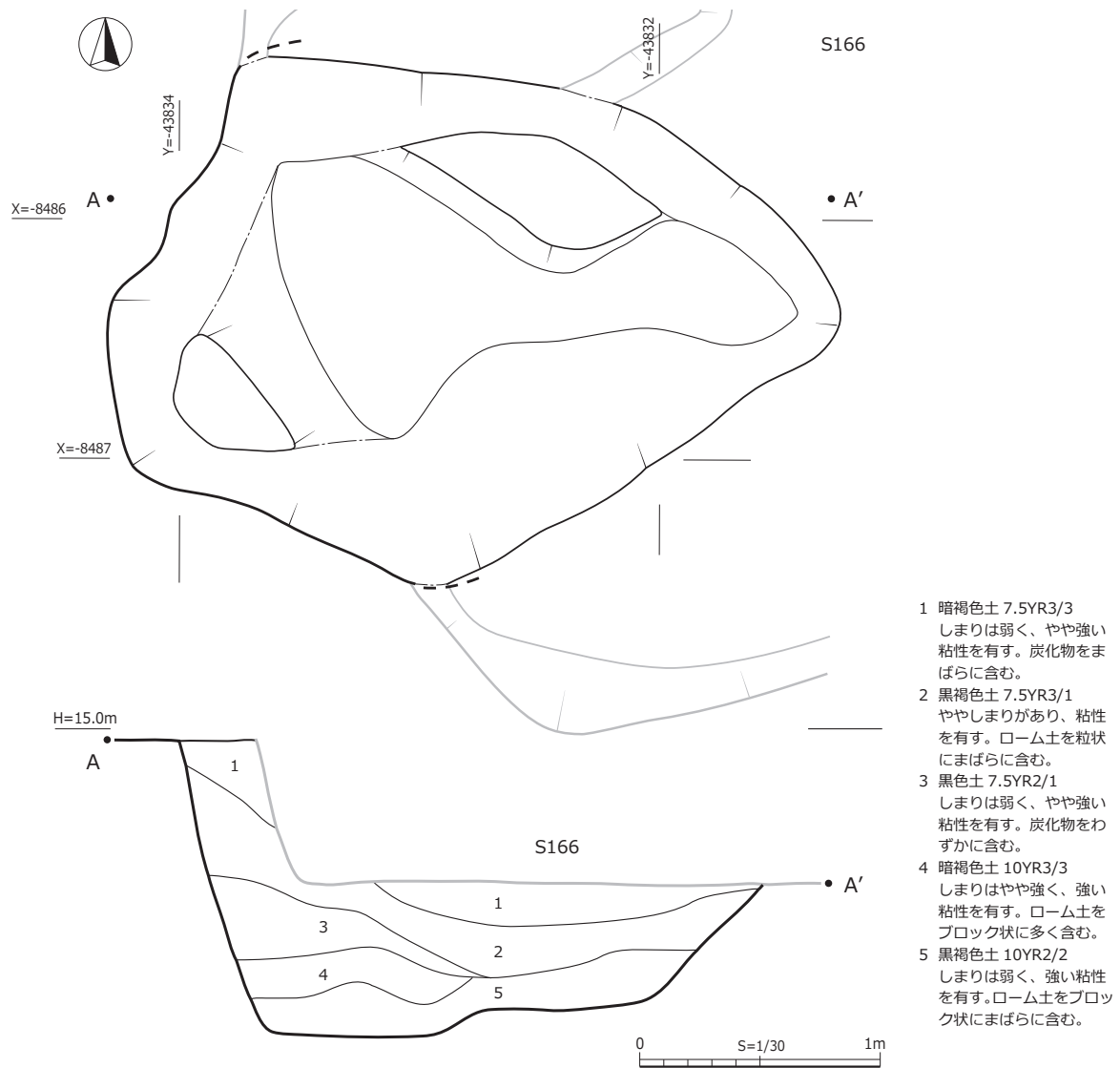
第 157 図 S317 出土遺物実測図

さえたカマボコ形を呈し、胴部中位に幅が広く低い突帯を貼り付けている。突帯下部から緩やかに厚い平底の底部へと至る。

【S320】（第 158 図、図版 10）

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S320	甕棺墓坑	不整形	$3.0 + \alpha$	$2.3 + \alpha$	G-5	S320→S166	N-71°-E	—	

S320 は東側を古墳時代住居によって大きく削られ、棺もすべて引き抜かれてしまった甕棺墓と考えられる。底面はかるうじて残り、主軸方位もこれによって推定が可能であった。埋土からの遺物出土もなかった。



- 1 暗褐色土 7.5YR3/3
しまりは弱く、やや強い粘性を有す。炭化物をまばらに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1
ややしまりがあり、粘性を有す。ローム土を粒状にまばらに含む。
- 3 黒色土 7.5YR2/1
しまりは弱く、やや強い粘性を有す。炭化物をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/3
しまりはやや強く、強い粘性を有す。ローム土をブロック状に多く含む。
- 5 黒褐色土 10YR2/2
しまりは弱く、強い粘性を有す。ローム土をブロック状にまばらに含む。

第 158 図 S320 実測図

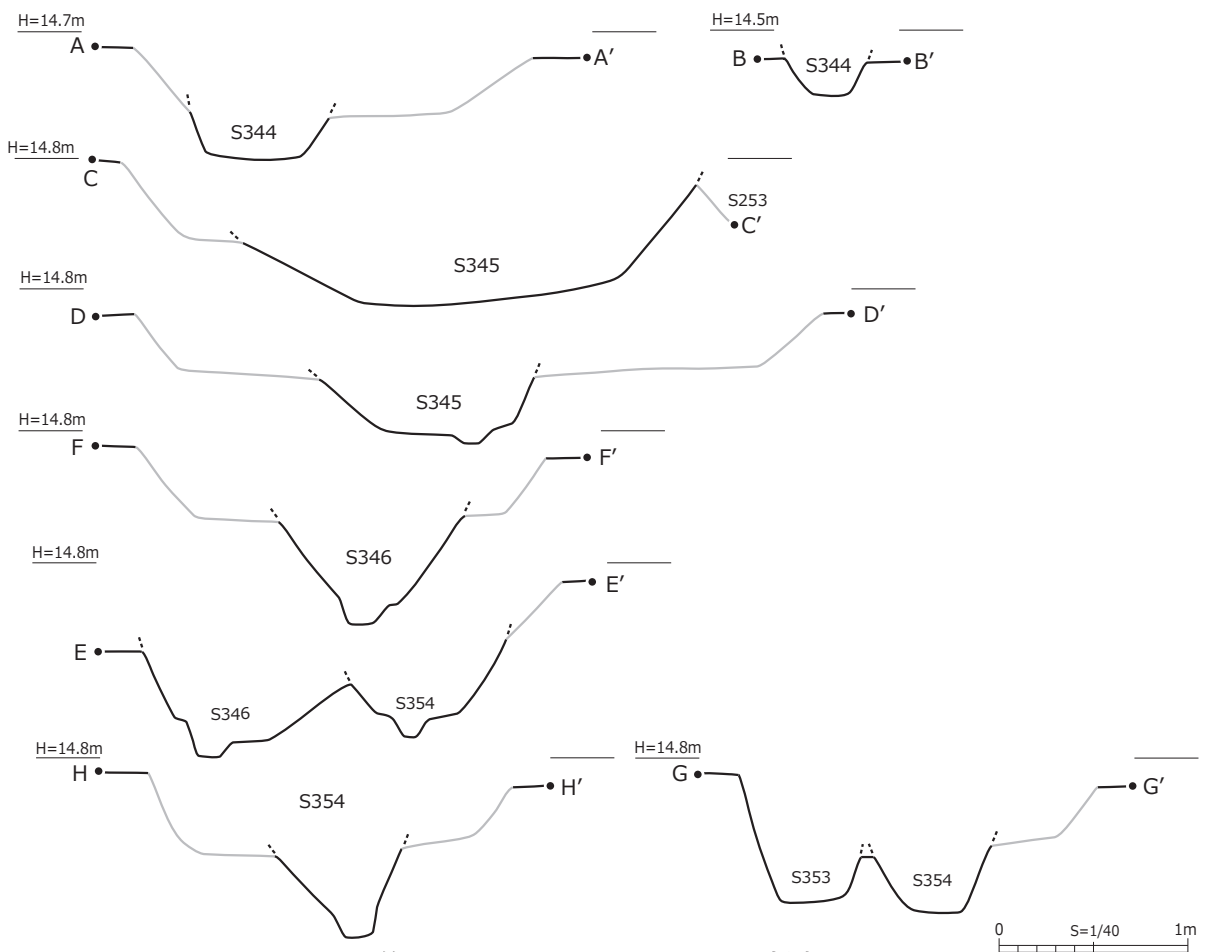
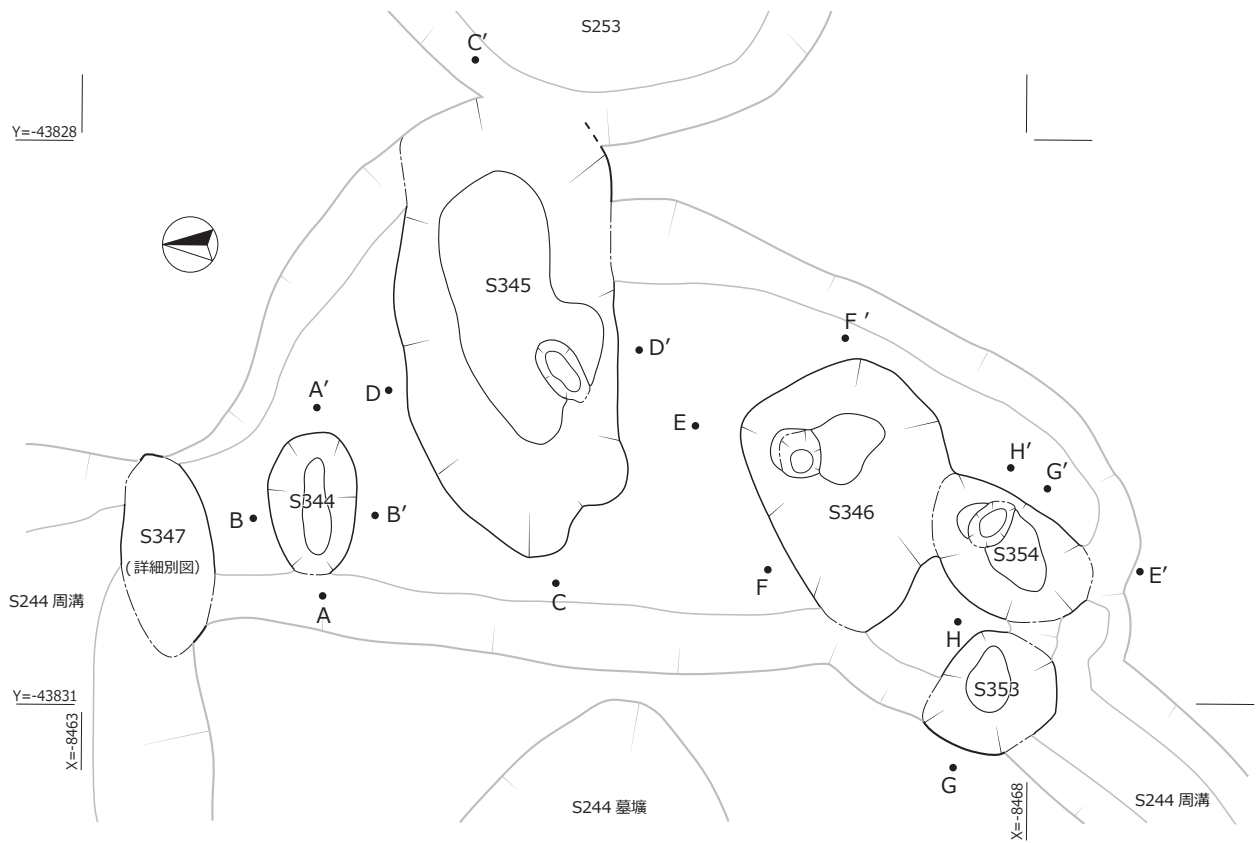
【S344】(第 159、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S344	甕棺墓坑	楕円形	0.76	0.45	G-7	S344 → S244	N-87° -E	—	

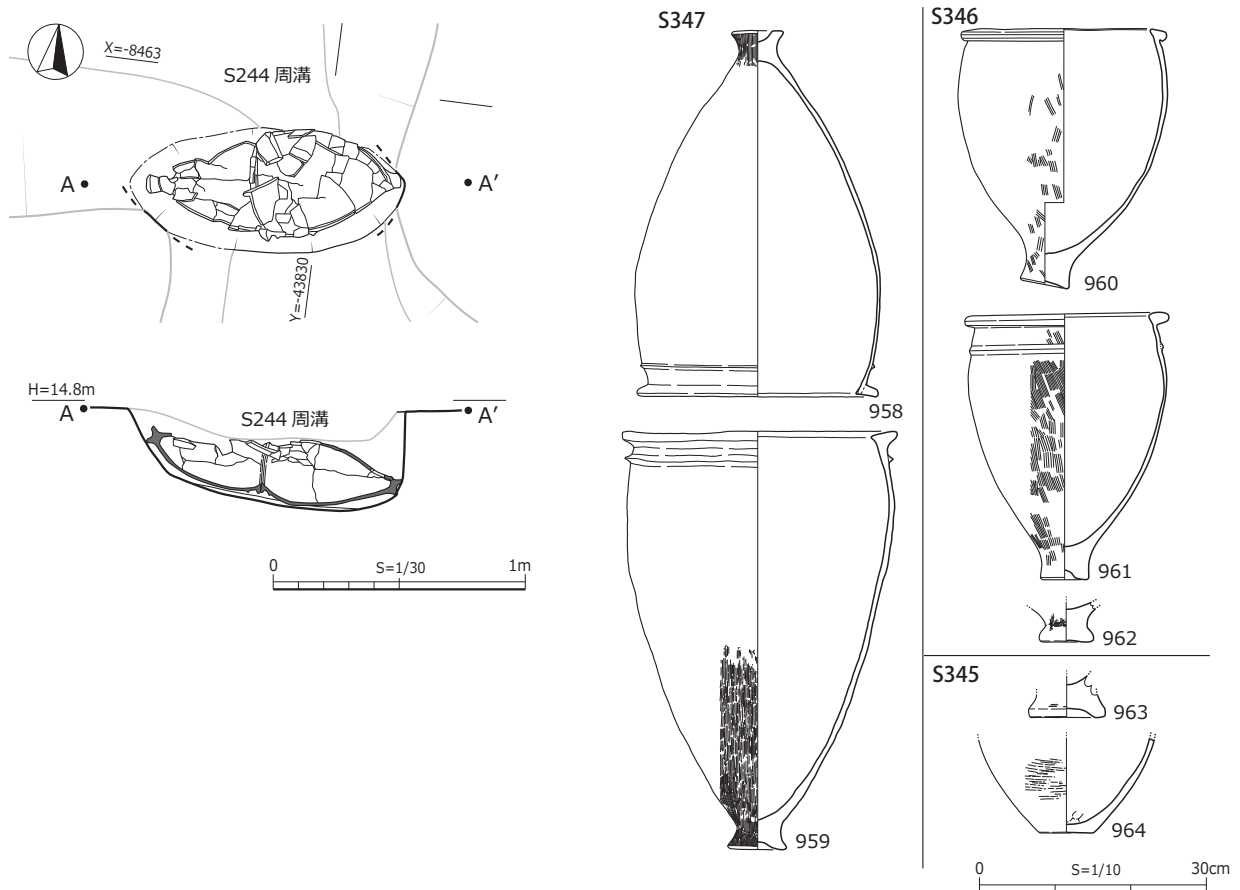
S344 は楕円形を呈し、周辺の状況から甕棺が抜き取られた墓坑の一部であったと見られる。主軸はほぼ東西に沿っている。なお、この周囲の S345 ~ 347、S353、S354 は古墳 S244 の周溝に切られ、さらに耕作地造成時の攪乱で周溝の深い箇所まで上面を削られ、甕棺を失ったりしている。

【S345】(第 159・160 図、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S345	甕棺墓坑	楕円形	2.5 + α	1.17	H-7	S345 → S244、S253	N-81° -E	—	



第 159 図 S344 ~ 347・353・354 実測図



第160図 S347実測図・S345～347出土遺物実測図

S345は楕円形を呈す、甕棺墓坑と見られる遺構である。S244周溝及び土坑S253に切れ、耕作に伴う造成などで上部を削られている。

S345出土遺物として2点を図示している。胴部に張りを持つ平底の壺と、どっしりとして高い上げ底の甕で、どちらも棺として利用された可能性がある。

【S346】(第159・160図、図版10)

番号	種別	平面形	墓坑規模(m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S346	甕棺墓	楕円形	1.34	1.02	H-7	S346→S354→S244	N-69°E	—	合口?

S346は楕円形を呈す遺構で、東側が深い構造をしている。南側で甕棺墓坑S354に切れ、上部はS244周溝及び後世の耕作に伴う攪乱で削られている。S346より出土した遺物のうち3点を図示している。ほぼ完形まで復元できた2点は口縁部を方形に肥厚させ、胴部の張りが強く、上げ底の底部へすぼまる器形である。胴部突帯を施すものがあった。出土状況が不明で上下棺の認定や設置角度等を明らかにできないが、合口の小児用甕棺と見られる。また、わずかに上げ底となる底部のみの資料は流れ込みと考えられる。

【S347】(第 159・160 図、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S347	甕棺墓	楕円形	1.10	0.48	G-7	S347 → S244	N-82° -E	—	合口

S347 は楕円形を呈す合口甕棺で、棺の形に合わせて墓坑の掘削が行われている。設置角度は 13°である。上部は古墳 S244 の周溝に切られ、耕作に伴う攪乱を受けた。

出土した甕は上下棺ともに良く似ている。口縁直下に突帯が施され、胴部は張らず徐々にすぼまり、上げ底となる底部に続いている。

【S353】(第 159 図、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S353	甕棺墓坑	楕円形	0.70	0.60	G-7	S353 → S244	N-71° -W	—	

S353 はやや不整な楕円形を呈した遺構で、古墳 S244 の周溝の下位で検出された。周囲の状況や掘り込みの形状から甕棺墓であったと考えられるが、遺物の出土はなかった。

【S354】(第 159 図、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S354	甕棺墓坑	楕円形	1.44	0.61	G-7	S346 → S354 → S244	N-42° -E	—	

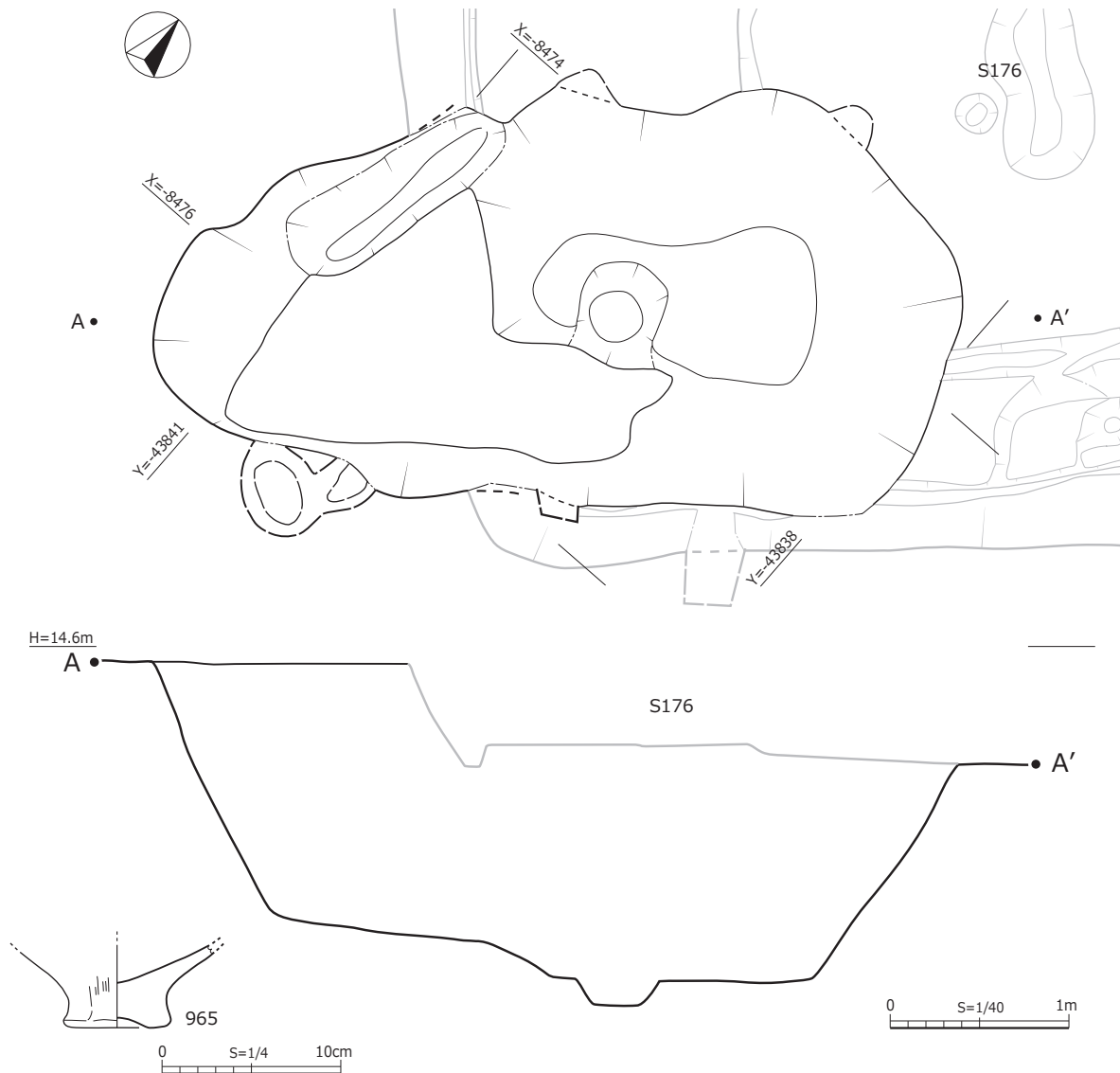
S354 は楕円形を呈す遺構で、周囲の状況などから甕棺墓の墓坑であると考えられる。甕棺墓坑 S346 を切り、S244 周溝や耕作によって上面を削られ、甕棺も抜き取られたと見られる。

【S349】(第 161 図、図版 10)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S349	甕棺墓坑	不整形	4.52	2.47	F-6	S349 → S176	N-49° -E	—	

S349 は不整形の掘り込みで、北東側の多くを古墳時代住居 S176 に切られている。深さや底面の形状から、甕棺が抜き取られた墓坑と考えている。この掘り込みは深い上に広く、大型棺を合口で埋設できる規模である。ただし、調査時の土層の記録が残っておらず、単なる土坑の可能性もある。

S349 からは少量の土器が出土し、時期の参考に 1 点を図示している。弥生時代中期の甕底部で、上げ底になっている。



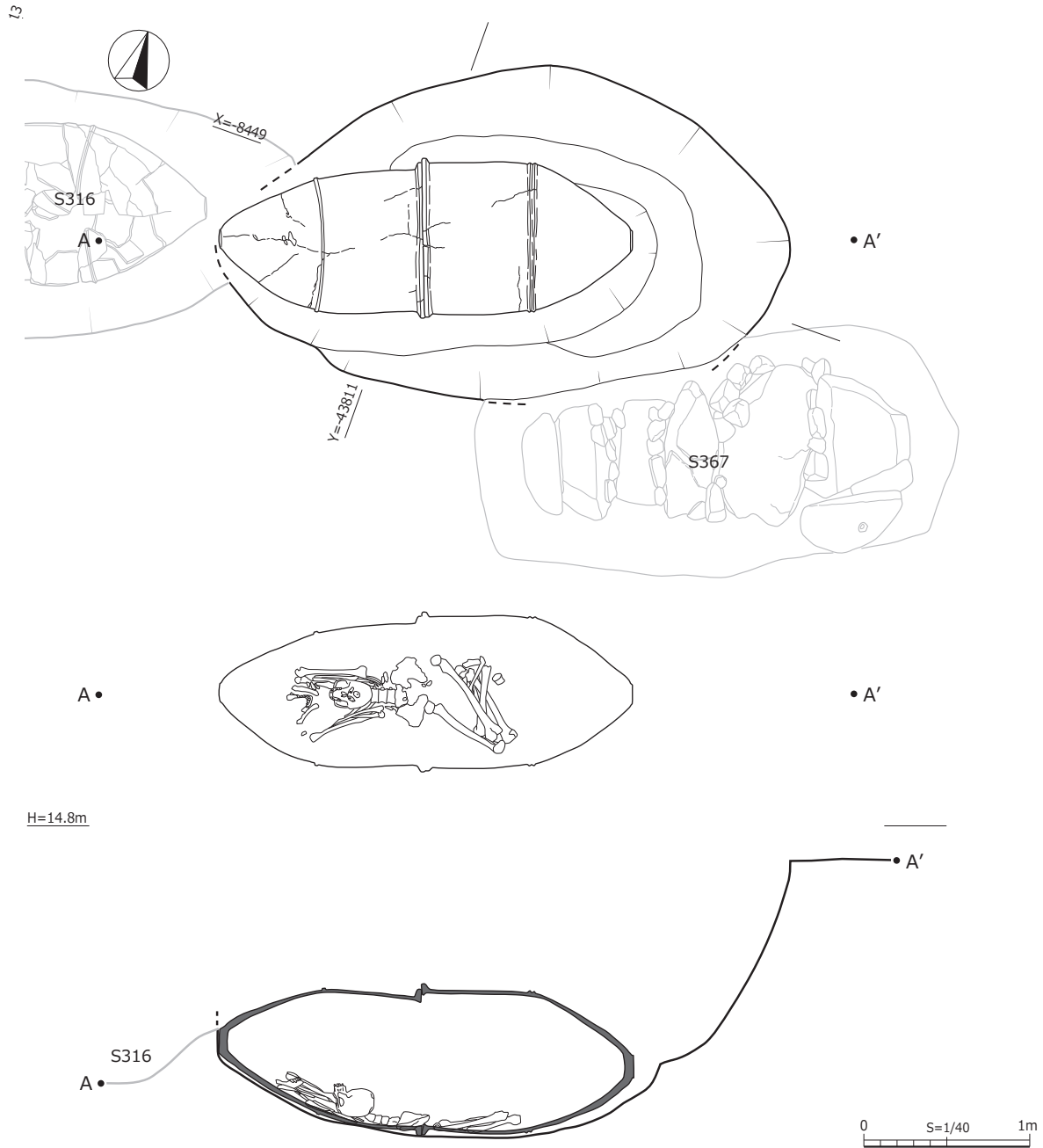
第 161 図 S349 実測図・出土遺物実測図

【S351】（第 162・163 図、図版 11）

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S351	甕棺墓	楕円形	(2.62)	(1.55)	J-8	S316 → S351 → S367	S-71°-W	熟年男性	合口

S351 は墓坑が楕円形を呈し、ほとんど水平の角度で合口の大型甕棺を安置した甕棺墓である。上下棺とも割れることなく土砂の流入を阻止していたため、中からは完全に近い状態で人骨が検出された。頭は坑奥の下棺側にあり、仰向けで膝を曲げた状態でおおよそ西南西に向かって葬られていた。副葬品等は見つかっていない。この人骨については自然科学分析を行っており、その結果については、第IV章を参照されたい。

上棺は全体に器壁が厚く、かなりの重量がある。口縁は厚くシャープに作られ、内側への張り出しが見られる。胴部中位までほぼ直立し、見かけ2条突帯から平底の底部にかけてはやや直線



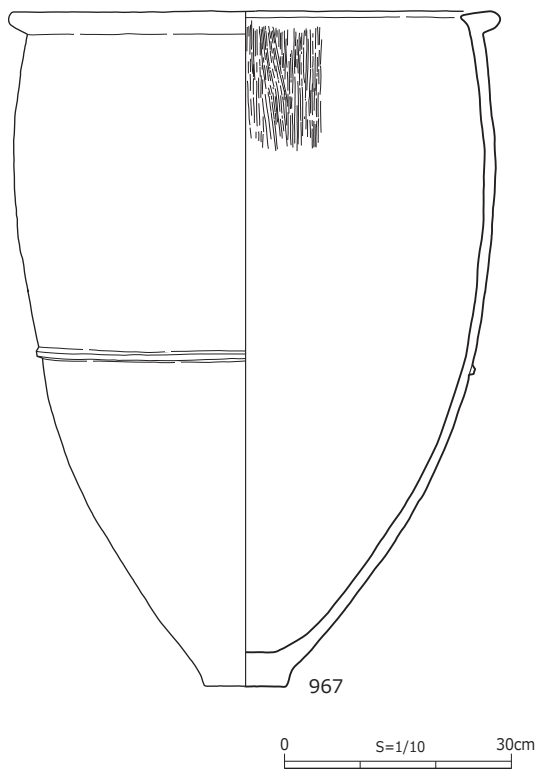
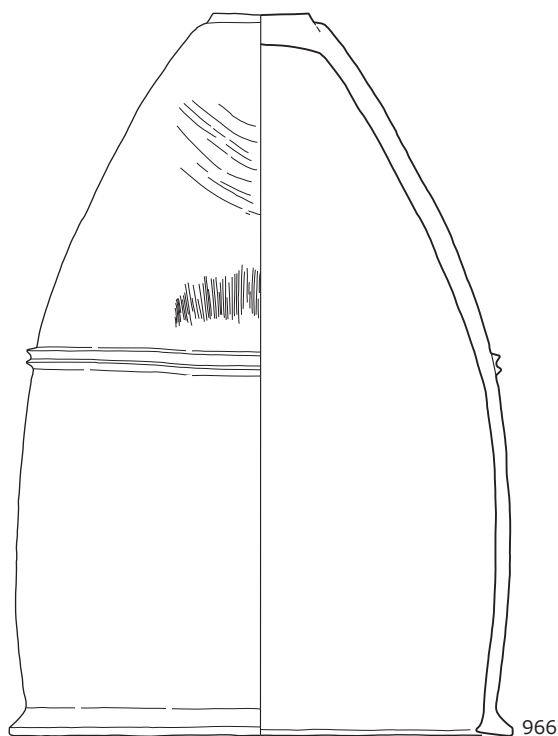
第 162 図 S351 実測図

的にすばまる器形となる。下棺は口縁が厚く丸みを帯び、内側への張り出しがある。胴部中位に断面方形の突帯が 1 条施され、底部は平底である。

【S363】(第 164・165 図、図版 12)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S363	甕棺墓	楕円形	2.70	1.5 + α	I-8	S363 → S364	S-70° -W	熟年男性	合口

S363 は墓坑が楕円形を呈し、北側でやや浅い小型の甕棺墓 S364 に切られる甕棺墓である。甕棺検出時において口縁から突帯までの上面が割れ、内部に 10cm 程度の土が堆積していた。西南



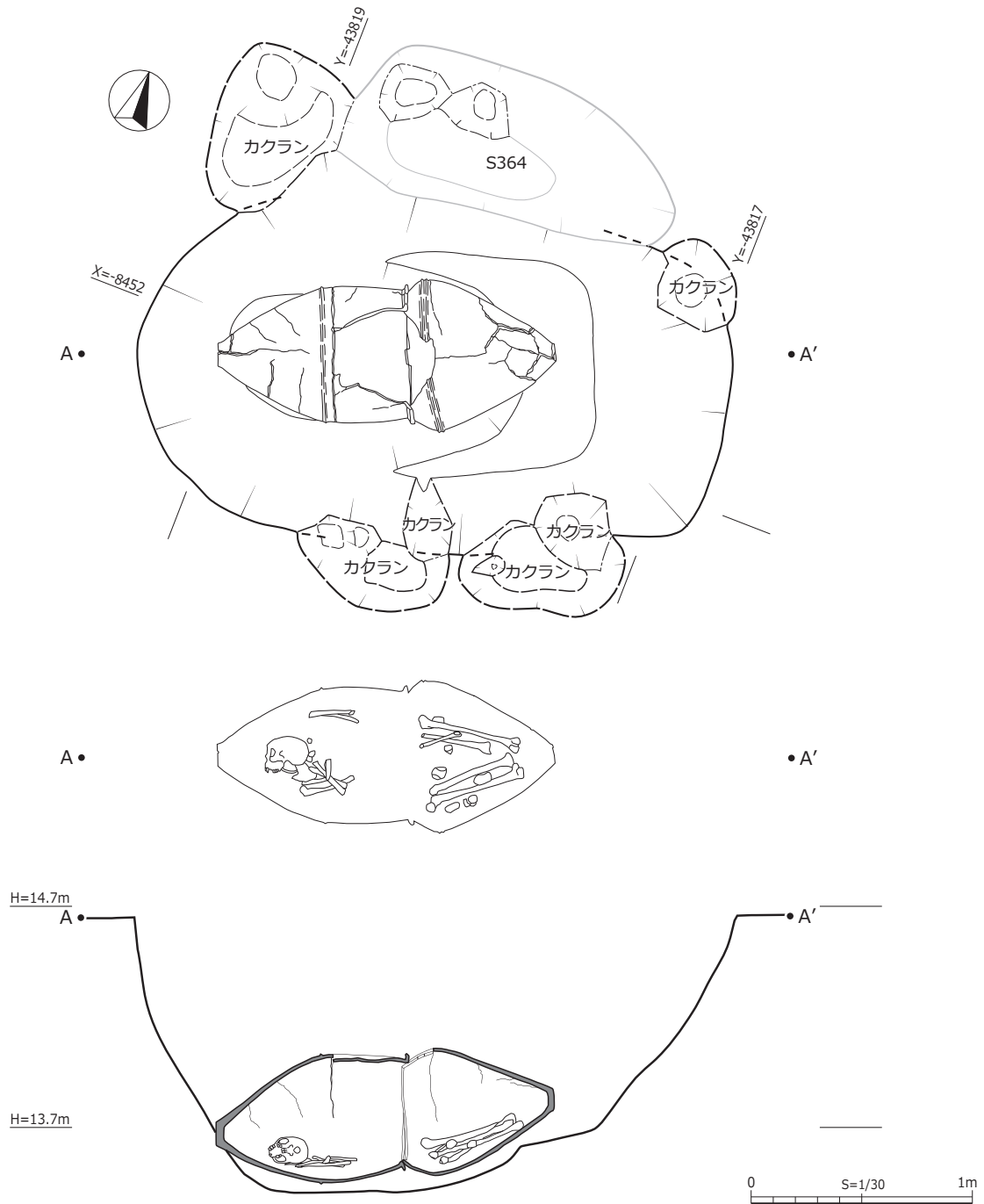
第163図 S351 出土遺物実測図

西を向く頭骨以外は堆積土にまぎれて白色の四肢骨が見えるという状態であった。この人骨については自然科学分析を行っており、その結果については第IV章を参照されたい。設置角度は -5° で、先に設置した下棺に頭部があつて、わずかに低い。上棺は頸部が強くすばまる甕を利用し、下棺の口径に合わせて打ち欠きを行っている。胴部上位に最大径があり、断面三角形の突帯を2条施す。また、頸部と突帯間に直線や斜めの沈線文と空白の部分を組み合わせて装飾している。突帯下の胴部は緩やかに張りながら平底の底部に続いている。下棺は口縁部で外反し、内側への張り出しも見られる。胴部中位に最大径を持ち、底部はわずかだがしっかりとした上げ底に作られる。

【S364】(第166図、図版12)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)	
			長軸	短軸
S344	甕棺墓坑	楕円形	0.76	0.45
グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
G-7	S344 → S244	N-87° -E	—	

S364は楕円形を呈する、小型の甕2個を合口で埋めた甕棺墓である。南側で大型甕棺墓S363を切っている。一部図面の不備で甕棺設置状況が分からなくなってしまった。上棺は口縁断面が三角形を呈し、内側への張り出しが作られる。口縁下に突帯に替わる沈線が引かれている。胴部はあまり張らずにすっきりしている。底部は破損しているが上げ底と見られる。下棺も上棺と同様、口縁部は内外に張り出し口縁下に沈線を施す。下棺が口径がやや大きく、わずかに胴部に張りがあり、底部も上げ底が残っていた。日常容器としての甕を転用したと考えられる。

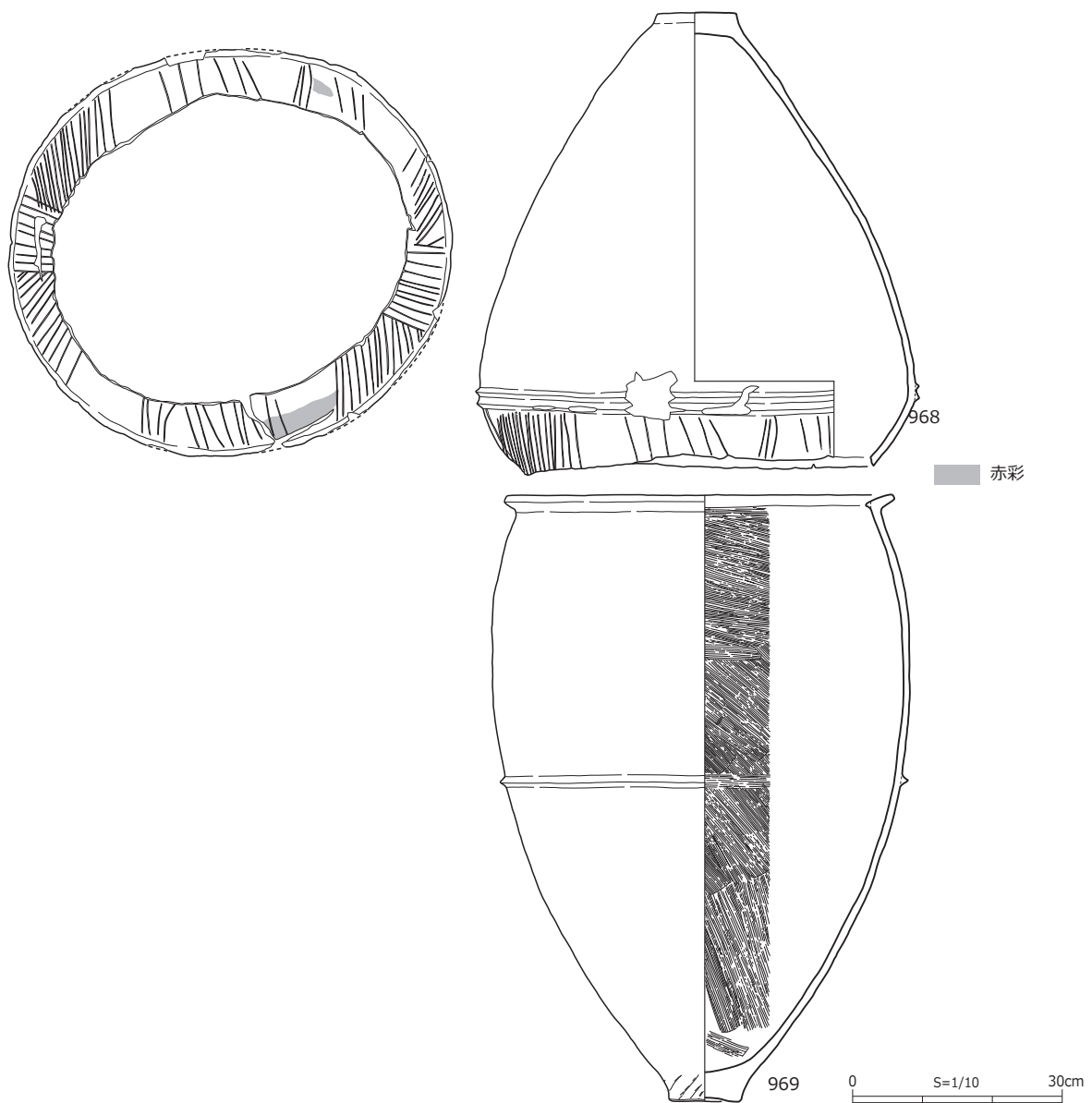


第 164 図 S363 実測図

【S365】 (第 167 図、図版 13)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S365	甕棺墓	楕円形	$1.1 + \alpha$	$0.7 + \alpha$	H-7	—	N-67° E	—	合口

S365 は墓坑が楕円形を呈す甕棺墓で、甕棺はほぼ水平に置かれていたが、図面の不備で甕棺設置状況が掲載できていない。遺構上部では検出できず、確認のトレンチ掘削によって発見されたため、甕棺より上位の状況は把握できなかった。甕は口縁をぴったり合わせて埋納されていた

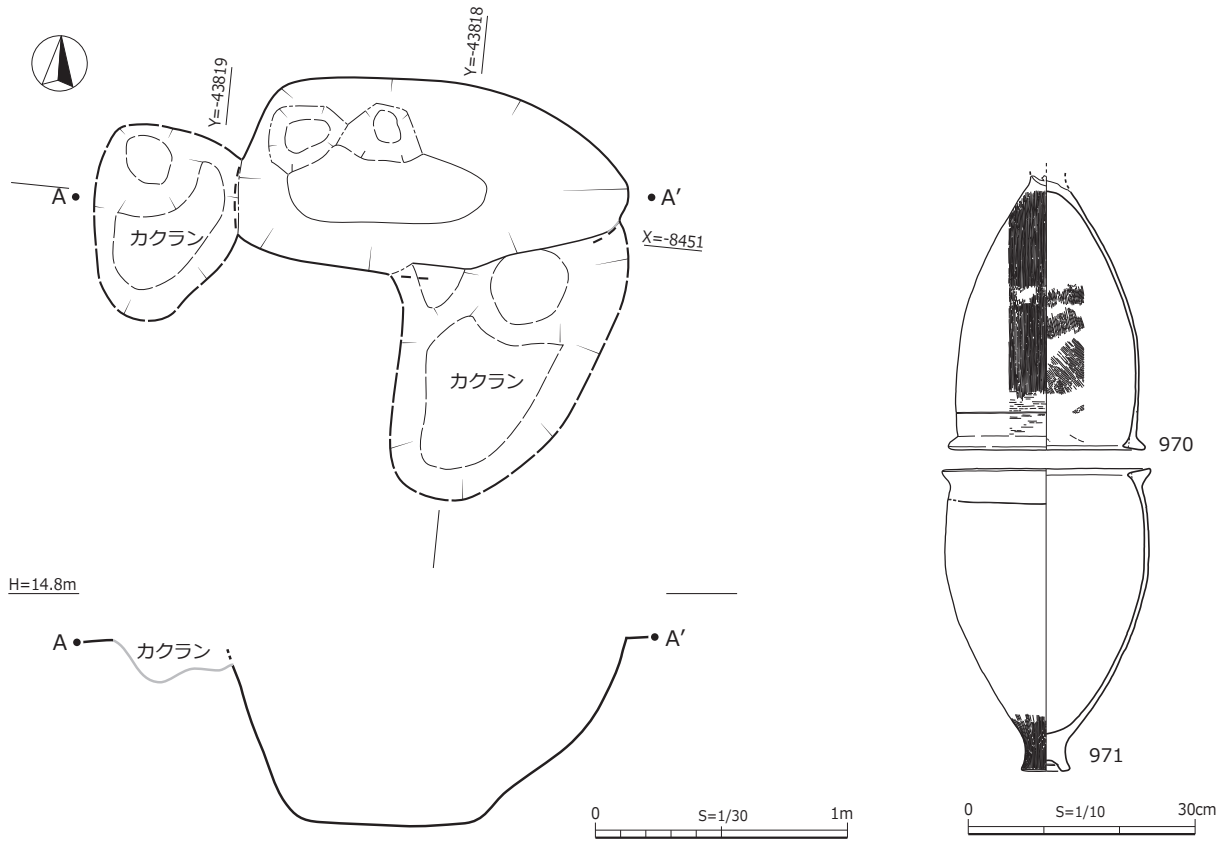


第165図 S363 出土遺物実測図

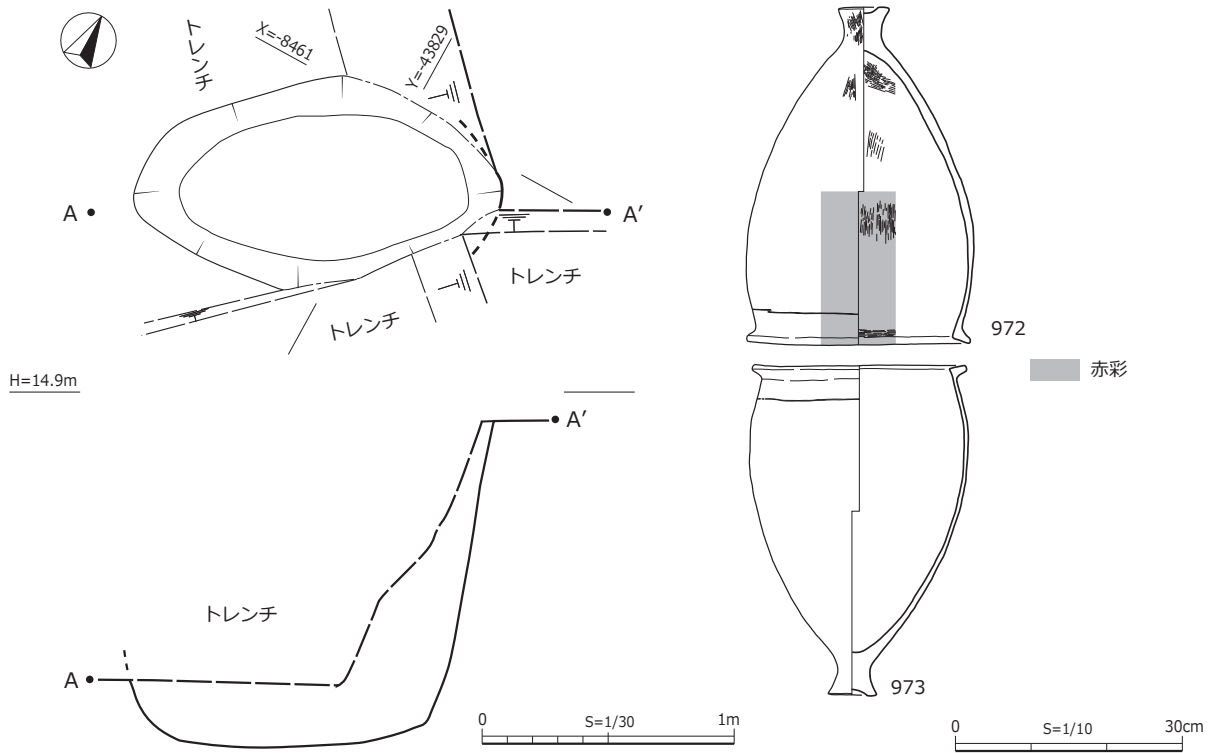
が、どちらも胴部で割れが生じ内部にも土が堆積していた。棺以外には副葬品などの遺物は見つからなかった。上下棺とも色調や胎土、形態などで共通し、同時に焼成されたものと見なすことができる。その形態は口縁を肥厚させ、直下に沈線を1条巡らせている。胴部には張りがあり、胴部中位に最大径があって底部は厚く、上げ底としているものである。なお、上棺には内外器面の胴部上位までわずかに赤彩が残っている。

【S366】(第168図、図版13)

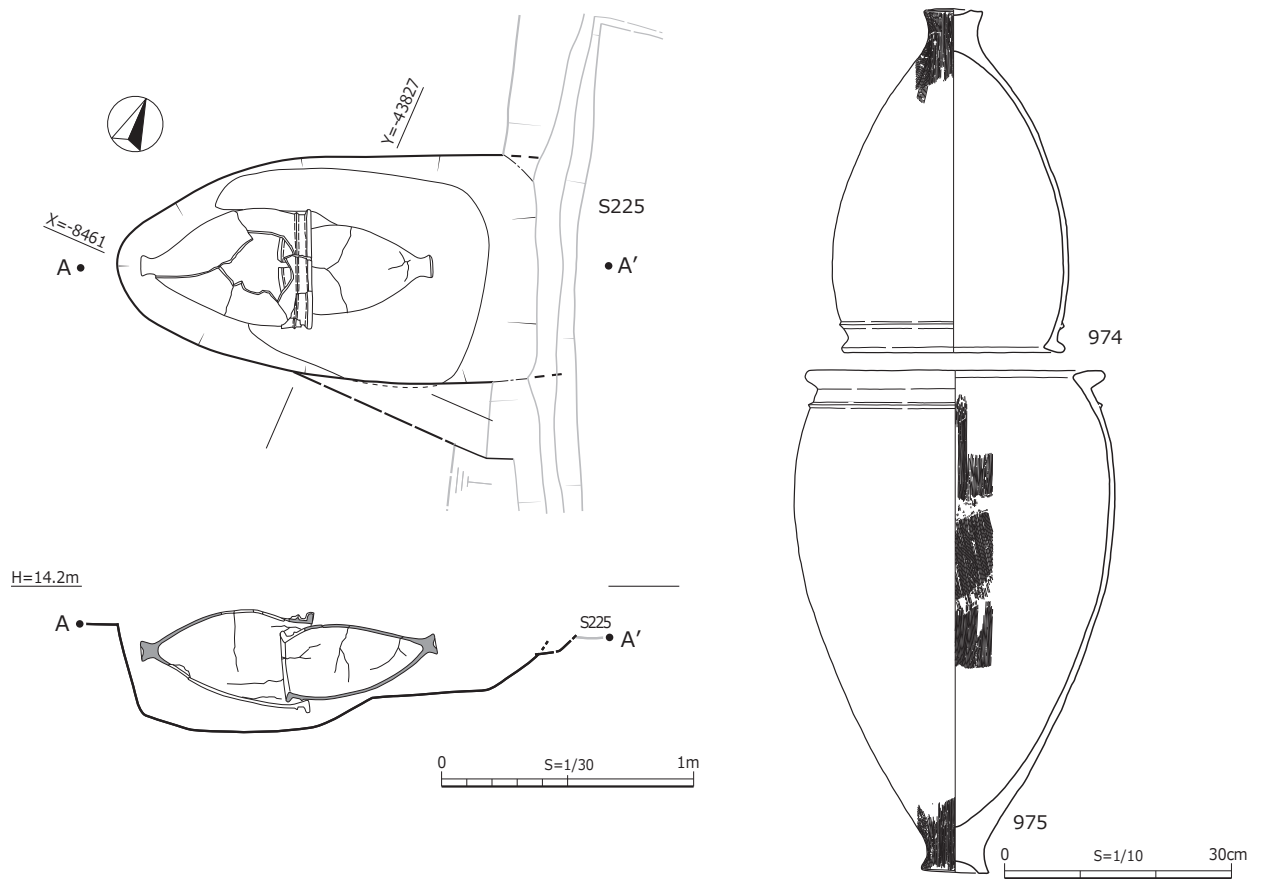
番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S366	甕棺墓	楕円形	1.7 + α	0.9 + α	H-7	S366 → S225	N-62° -E	—	合口



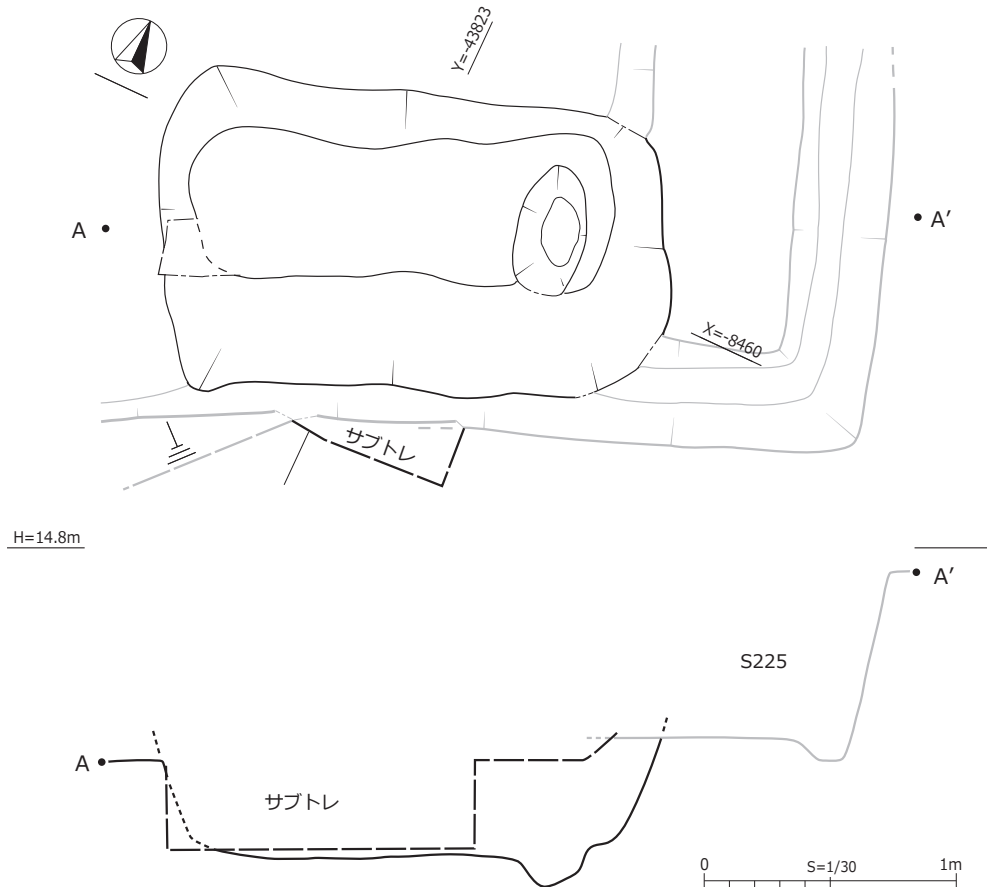
第 166 図 S364 実測図・出土遺物実測図



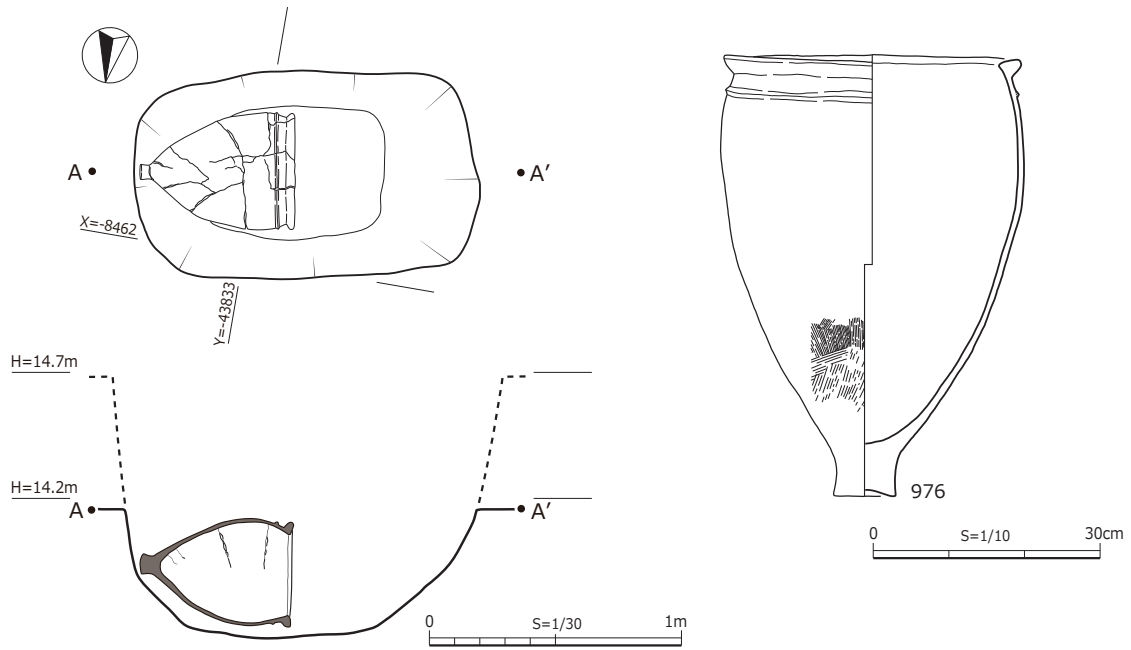
第 167 図 S365 実測図・出土遺物実測図



第168図 S366実測図・出土遺物実測図



第169図 S370実測図



第 170 図 S371 実測図・出土遺物実測図

S366 は楕円形と見られる墓坑に大きさの異なる甕を埋設した甕棺墓である。東側を古墳時代の住居 S225 に切られている。S366 も隣接する S365 と同じく確認のため掘削したトレンチで検出された。甕棺内部には空間が残っていたが、副葬品などは見つかっていない。設置の状態は、下棺より一回り小さい上棺を 10cm 程度差し込んであり、設置角度はほぼ水平であった。また、下棺では胴部下位の底面側に意図的な穿孔が行われていた。上下棺は大きさこそ違いがあるものの、胴部に張りがある形態や口縁内側への張り出し及び底部の小さいがしっかりとした上げ底などの製作技法は共通している。

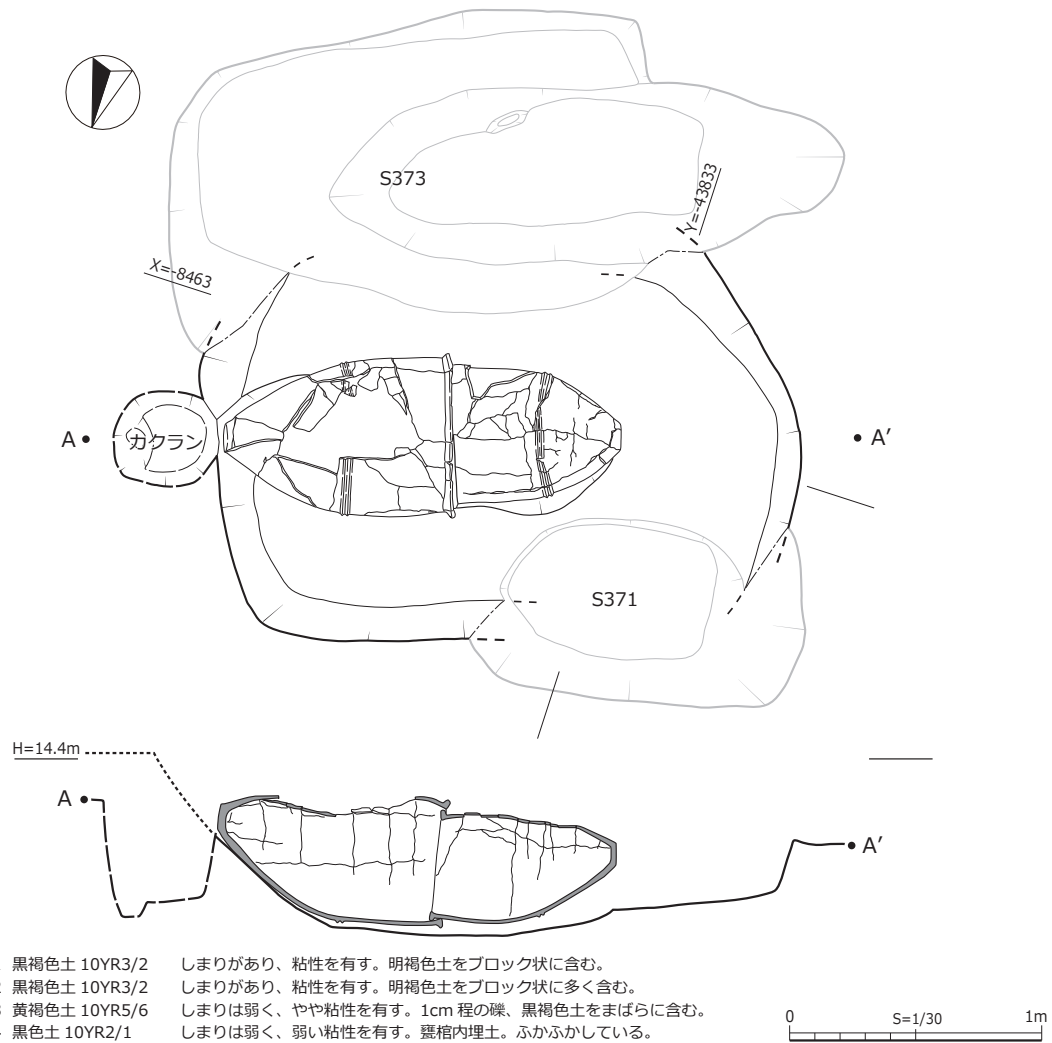
【S370】（第 169 図、図版 10）

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S370	甕棺墓坑	長方形	(2.00)	(1.40)	H-7	S370 → S225	N-66° -E	—	

S370 は長方形の掘り込みで、甕棺墓坑と見られる。遺構の真上に古墳時代の住居 S225 が築造され、上部と甕棺を失ったと考えている。北西には S370 と同じように S225 によって大きな影響を受けた甕棺墓坑 S317 が隣接している。

【S371】（第 170 図、図版 13）

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S371	甕棺墓	長方形	1.35	0.82	G-7	S372 → S371	N-80° -E	—	単棺

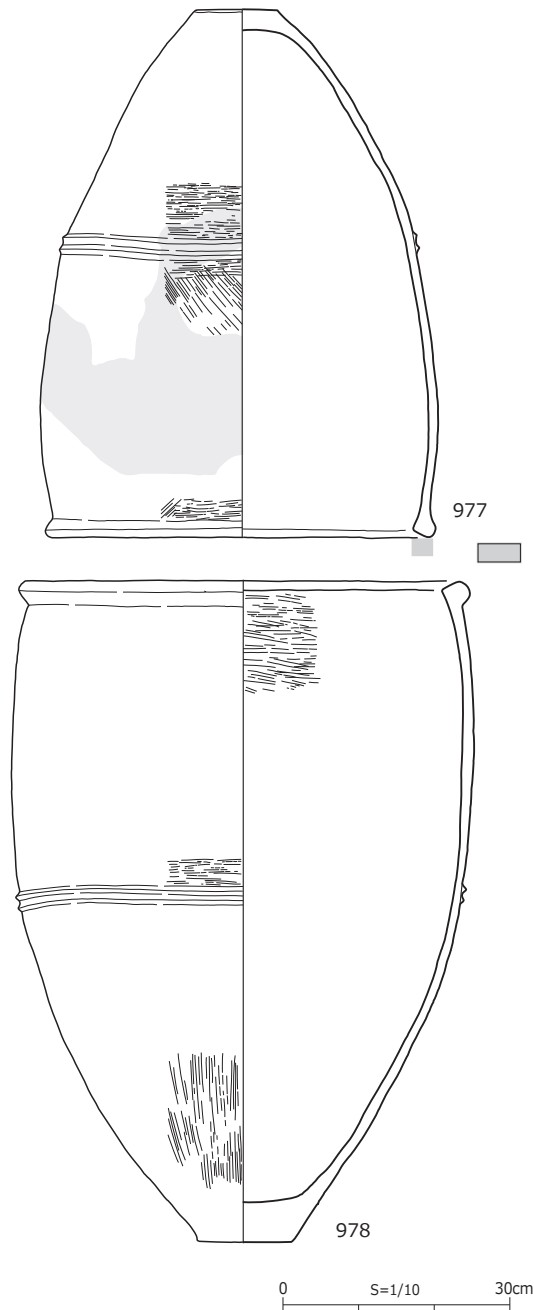


第 171 図 S372 実測図

S371～S374の甕棺墓は基本土層IV層上面では検出できず、確認の為甕棺墓が集中する地点をトレンチ調査し、甕棺本体まで掘り下げた深さで発見された。このため、S371～S374については本来の検出面を把握できていない。S371は長方形の墓坑を持つ甕棺墓である。S372の墓坑を切って作られている。単棺として図示し、土の堆積もあるが西側には幾分隙間が認められる。石や木製の蓋若しくはS374のような鉢形を上棺としていたものが失われた可能性もある。棺は口縁をカマボコ形に肥厚させ、内側へもわずかに張り出している。口縁直下に三角形の突帯を巡らせ、胴部はやや強く張る。底部は厚く、わずかに上げ底としている。

【S372】(第171・172図、図版13)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S372	甕棺墓	長方形	2.30	1.5 + α	G-7	S372 → S371・S373	N-72°-E	—	合口



第 172 図 S372 出土遺物実測図

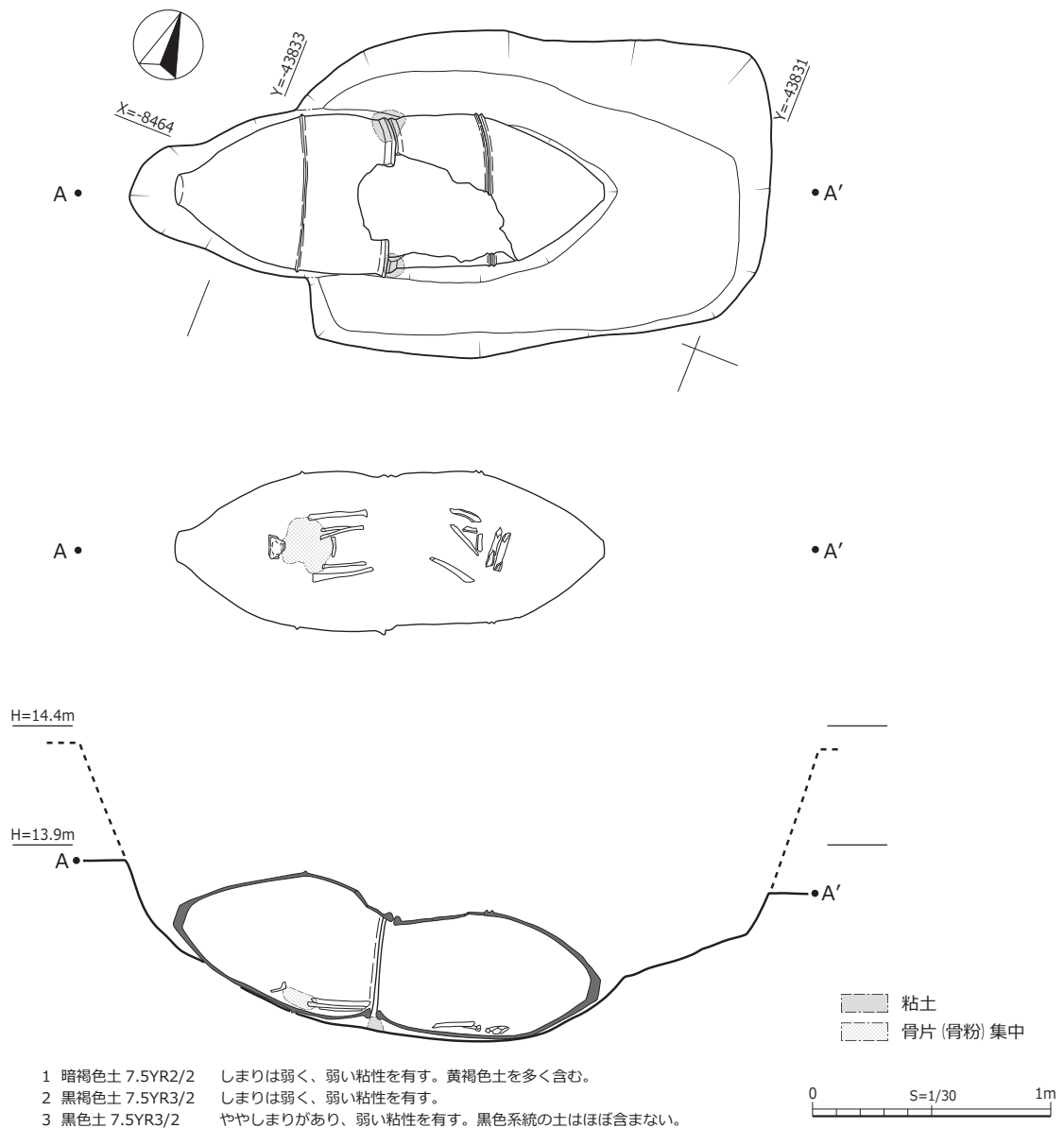
S372 は墓坑が楕円形を呈す甕棺墓である。甕はほぼ水平の位置に置かれ、上棺が下棺に差し込まれた状態で検出された。粘性の強い白色土が口縁を囲むように固めてあった。北東部分で S371 に切れ、南側を S373 に切られている。甕棺を見ると、上棺が一回り小さいものの、ほぼ同じ器形で、口縁断面は分厚いカマボコ形を呈し、内傾して内側へわずかに張り出している。口縁部から見かけ 2 条突帯が施される胴部中位までは口径と変わらない大きさである。体部下位からは平底で厚めの底部へと張りを持ったまま至る。また、上棺には外器面に赤彩の痕跡が残っている。

【S373】(第 173・174 図、図版 14)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)	
			長軸	短軸
S373	甕棺墓	長方形	2.70	1.38
グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
G-7	S372 → S373	S-67° -W	○	合口

S373 は長さ 2 m・幅 1.4 m 弱の長方形の墓坑とそれを 0.7 m 西へ飛び出た甕棺及び掘り方からなる甕棺墓である。甕棺 S372 の墓坑を切って埋葬されている。墓坑に先に入れた方を下棺としているが、この S373 では下棺の方が高く、設置角度は -10° であった。合口には白色の粘土帯が見られた。中からは人骨 1 体が検出され、頭骨の一部と四肢骨が残っていたが、他は細かな骨片となっていた。頭を西南西に向けて仰向けで葬られていた。

なお、甕棺は調査時まで割れてはおらず、甕棺内部には土の堆積もほとんど見られなかった。棺内から副葬品などは見つかっていない。上棺は口縁を分厚く肥厚させ、上面（口唇部）には左右に斜行して沈線を引き、×字あるいは鋸歯状に見える文様を施している。さらに外側は等間隔に刻みを入れている。口縁から胴部下位までほとんど同じ大きさで、容積が大きい。胴部中位に見かけ 2 条突帯を貼り付ける。下棺は口縁部を肥厚させ、張りのある胴部と厚い平底を持つ。胴部中位に三角形の突帯を 1 条巡らせている。



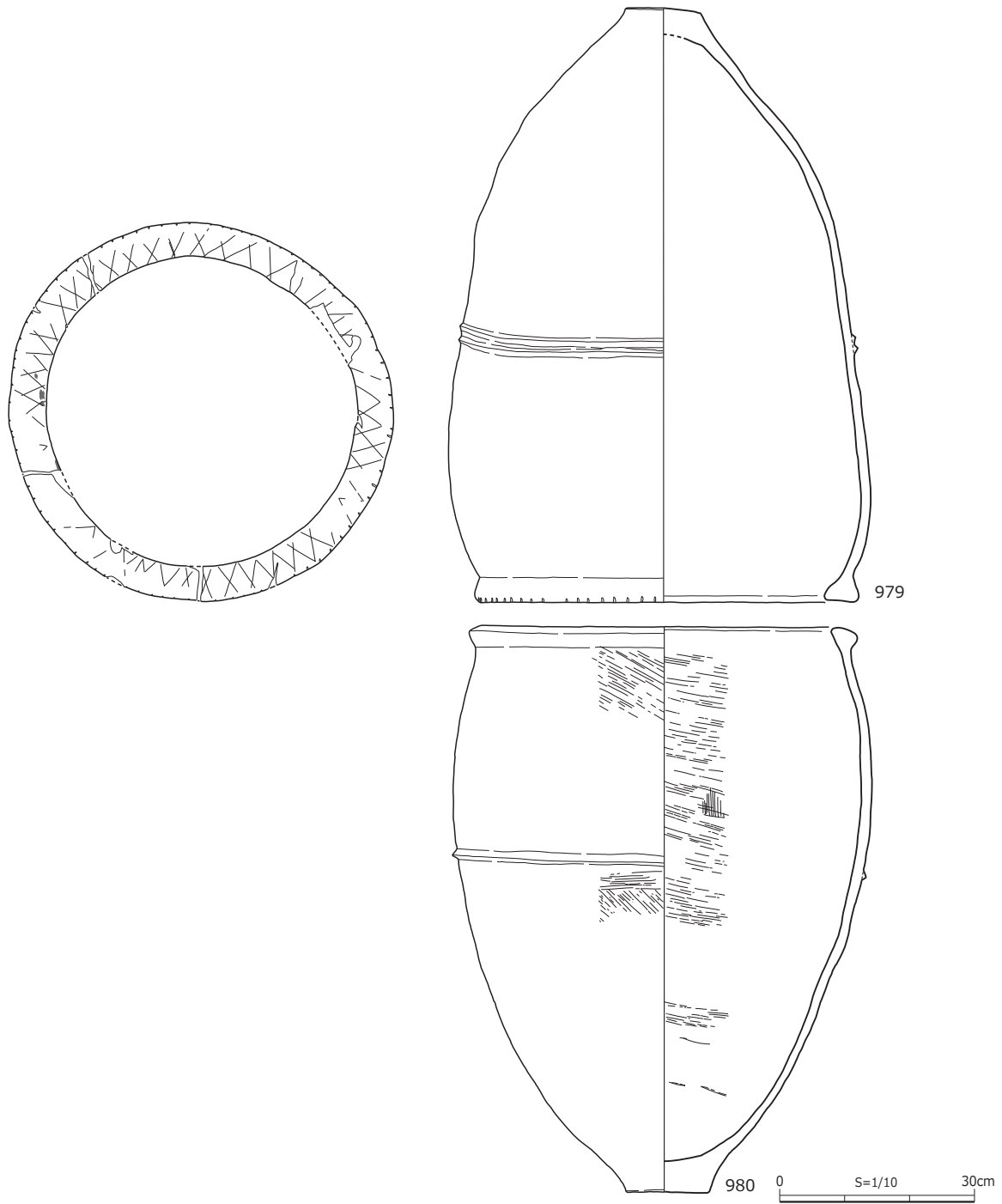
第 173 図 S373 出土遺物実測図

【S374】(第 175 図、図版 15)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	人骨	備考
			長軸	短軸					
S373	甕棺墓	長方形	2.70	1.38	G-7	S372 → S373	S-67° -W	○	合口

S374 は楕円形を呈する甕棺墓で、S371 ~ S373 などと同じく確認の為にトレンチ調査で検出された。棺の設置状況は、図面の不備により掲載できていない。上部構造は不詳である。

上棺は鉢を利用しており、この調査では唯一の例である。口縁は甕形と同様厚く肥厚させ、直下に断面三角形の突帯を付けている。底部は破損しているが、平底であったと思われる。下棺は甕形で、口縁を肥厚させ、直下に小さな三角形の突帯を貼り付けている。胴部には突帯がつかない。

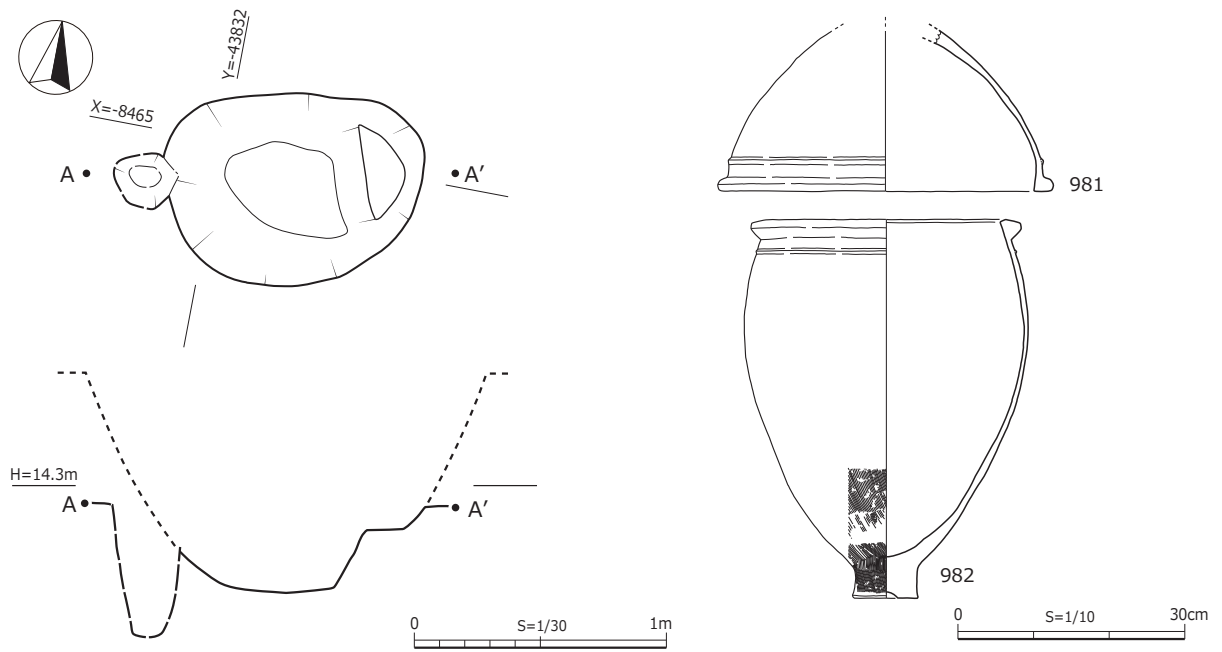


第 174 図 S373 出土遺物実測図

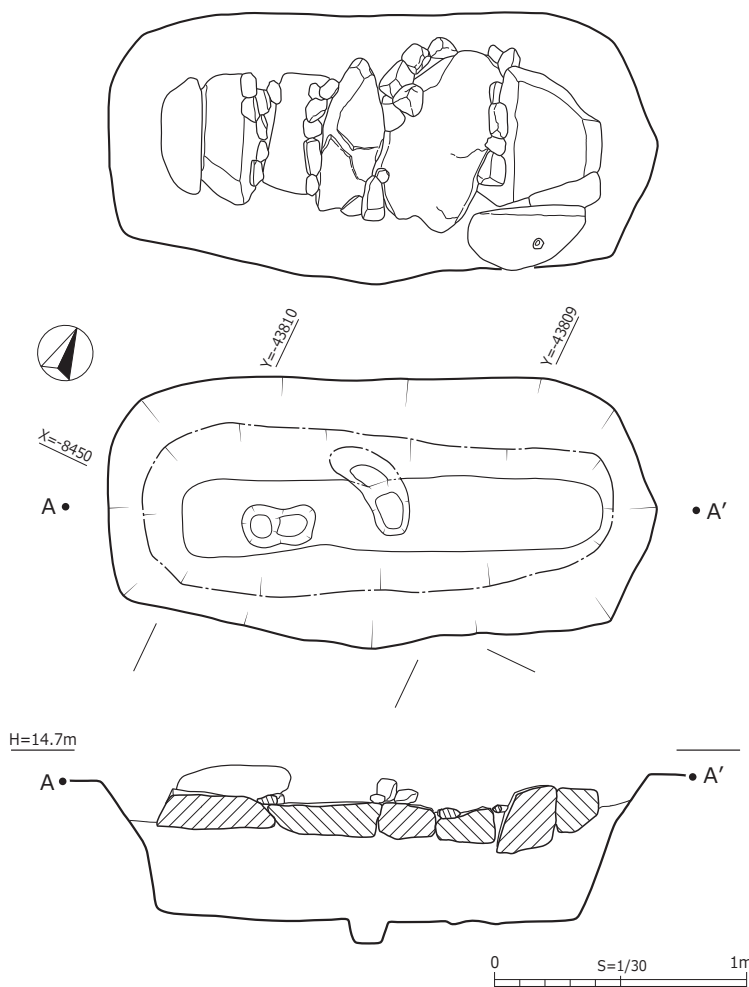
いためか、胴長に見える。底部は厚く、わずかに上げ底を呈している。上棺のほうが口径が大きく、埋葬時には多少の隙間が生じていたと見られる。

【S367】(第 176 図、図版 15)

番号	種別	平面形	墓坑規模 (m)		グリッド	切り合い	主軸方位	石材	備考
			長軸	短軸					
S367	石蓋土坑墓	長方形	2.16	1.07	J-8	S351 → S367	N-65°-E	安山岩	



第 175 図 S374 実測図・出土遺物実測図

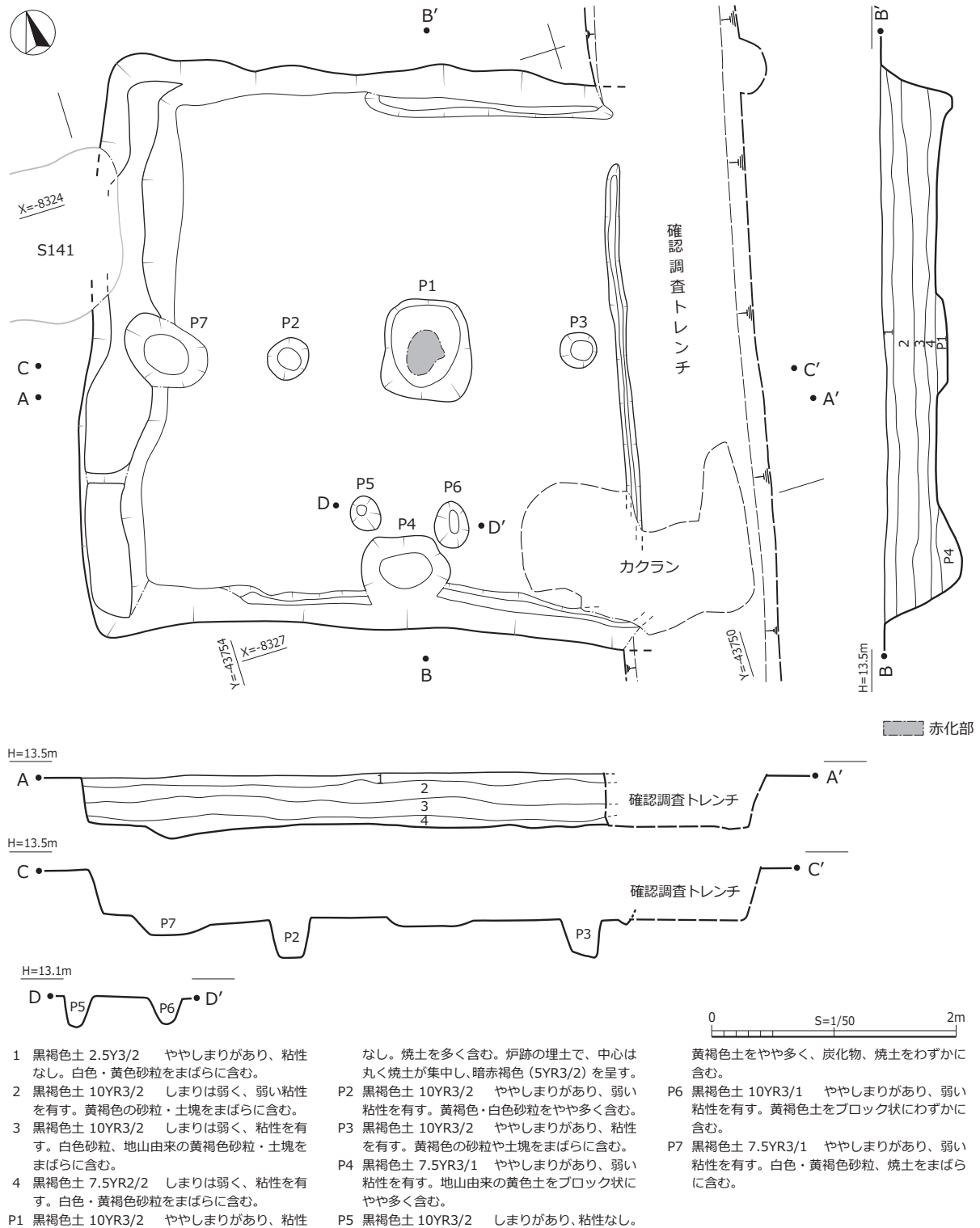


第 176 図 S367 実測図

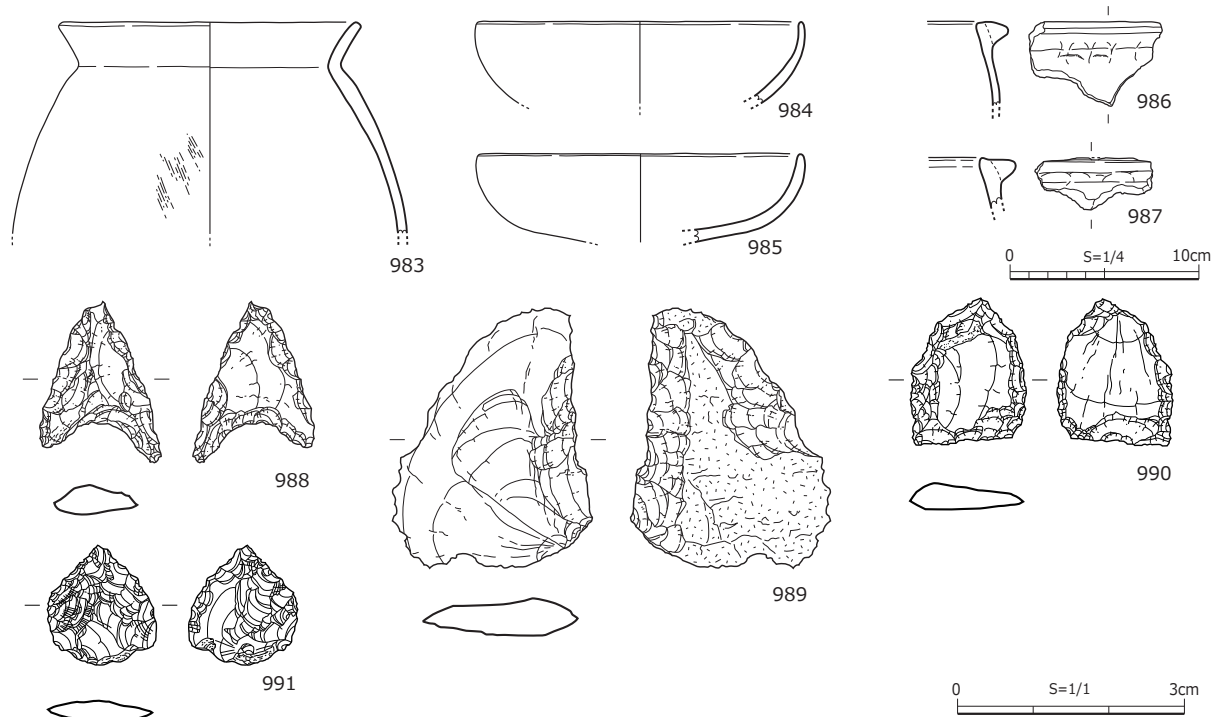
S367 は長方形を呈する遺構で、長さ 2 m 弱の掘り込みを 40 ~ 50cm 大の石で蓋をし、さらに拳大の石で補強した石蓋土坑墓である。石材は安山岩を利用し、内側にあたる石組みの下面には、一部に赤彩の痕跡が残っていた。北西側で甕棺墓 S351 の墓坑を切っている。石蓋内部及び掘方からは副葬品などの出土はなかった。遺構の年代は至近距離にあり、かつ切り合い関係にある 2 基の甕棺墓 (S316・S351) とも主軸を同じくしていることから、弥生時代中期と考えている。

(2) 弥生時代後期の遺構・遺物

1. 竪穴住居・竪穴遺構



第 177 図 S42 実測図



第178図 S42 出土遺物実測図

【S42】(第177・178図、図版16・40)

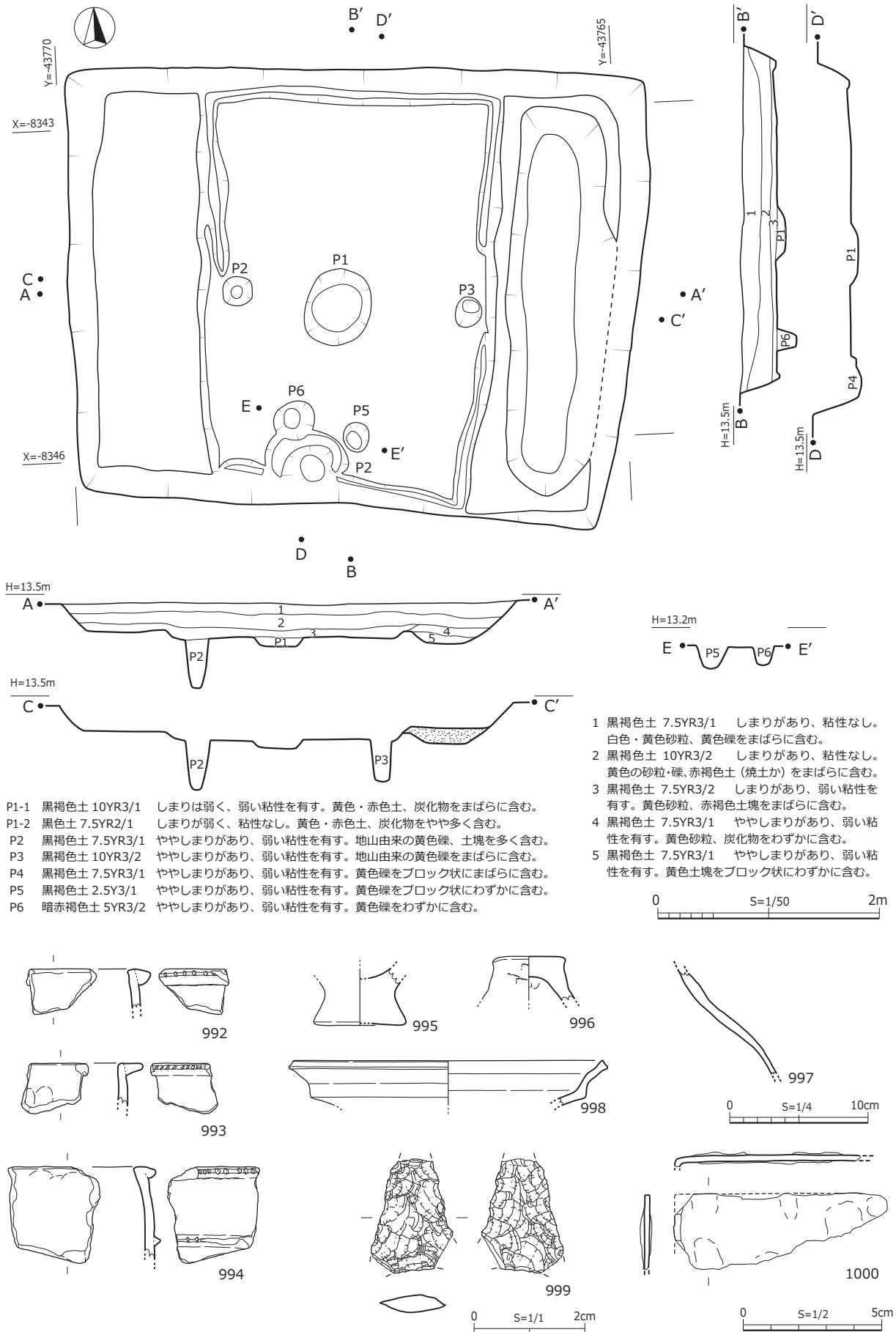
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S42	竪穴住居	長方形	(5.50)	4.60	O-21	S41,S110,S116, S132,S133→S42	2本	方形	東側	東半分	

S42は弥生後期と見られる長方形の竪穴住居跡である。弥生中期の土坑などを切って削りつつ作られている。中央部分で方形に掘られた炉跡や、南壁際には土坑と2基のピットを確認したが、確認調査によって東側のベッド状遺構及び壁を削ったため、形状などの情報が一部失われた。弥生土器は後期の甕が覆土下層より得られている。鉢は同一個体の可能性が高く、口縁が内湾して直立するもので、脚が付く器形と見られる。石器は石鏃など小型品の製作途中である未製品が出土した。

【S46】(第179図、図版41)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S46	竪穴住居	長方形	5.16	4.00	N-19	—	2本	円形	東・西壁	床面	

S46は長方形を呈す竪穴住居跡で、周囲には同様の規格や構造を持つ弥生時代後期の住居跡が点在する。出土遺物は床面に近い層位からの遺物は見つかっておらず、量としても僅少であったが、数点の図化を行っている。これらは弥生時代中期の内容にも見えるが、周辺の遺構のあり方や複合口縁壺が3層から出土していることから、S46についても弥生時代後期と考えている。

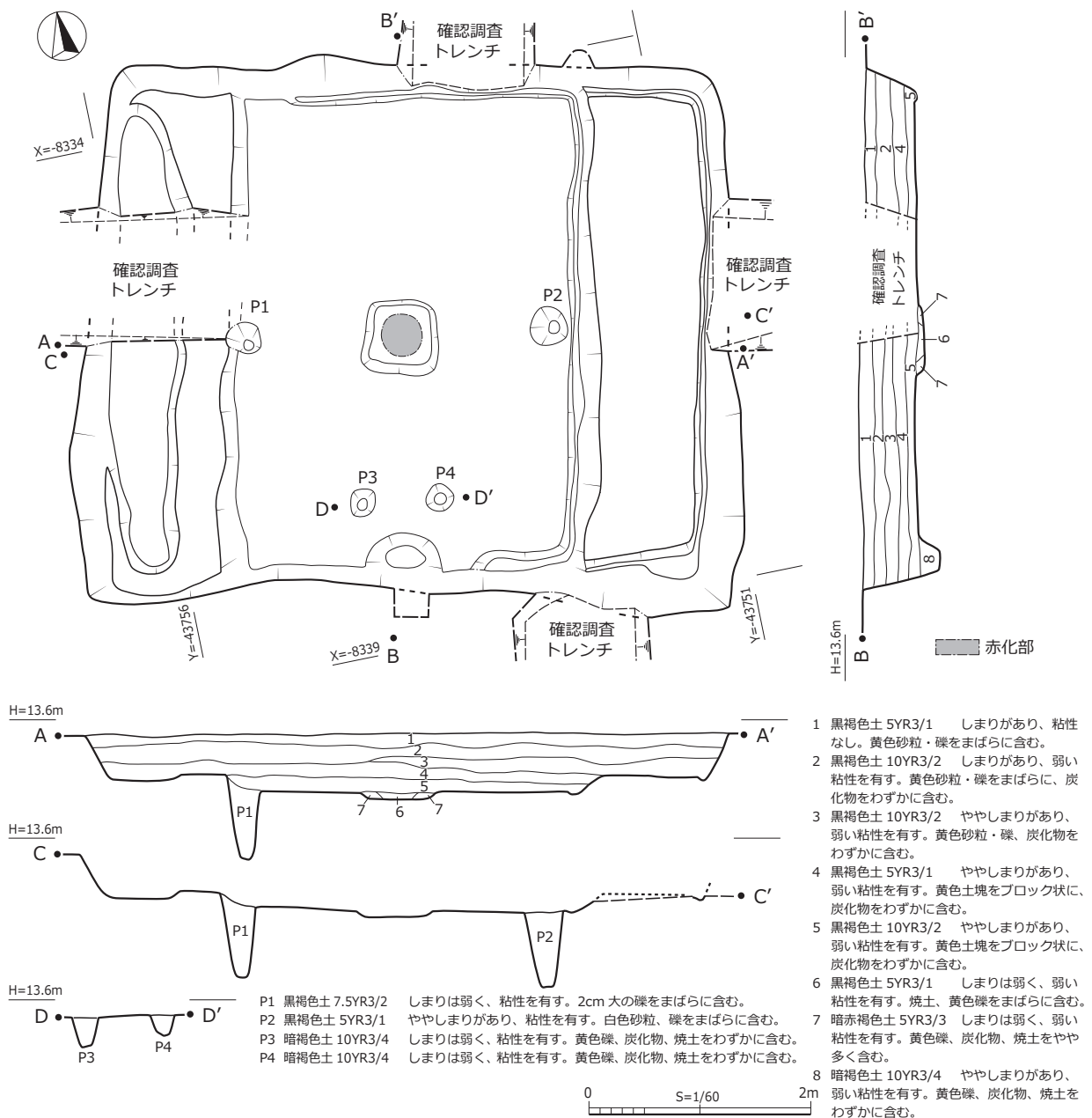


第 179 図 S46 実測図・出土遺物実測図

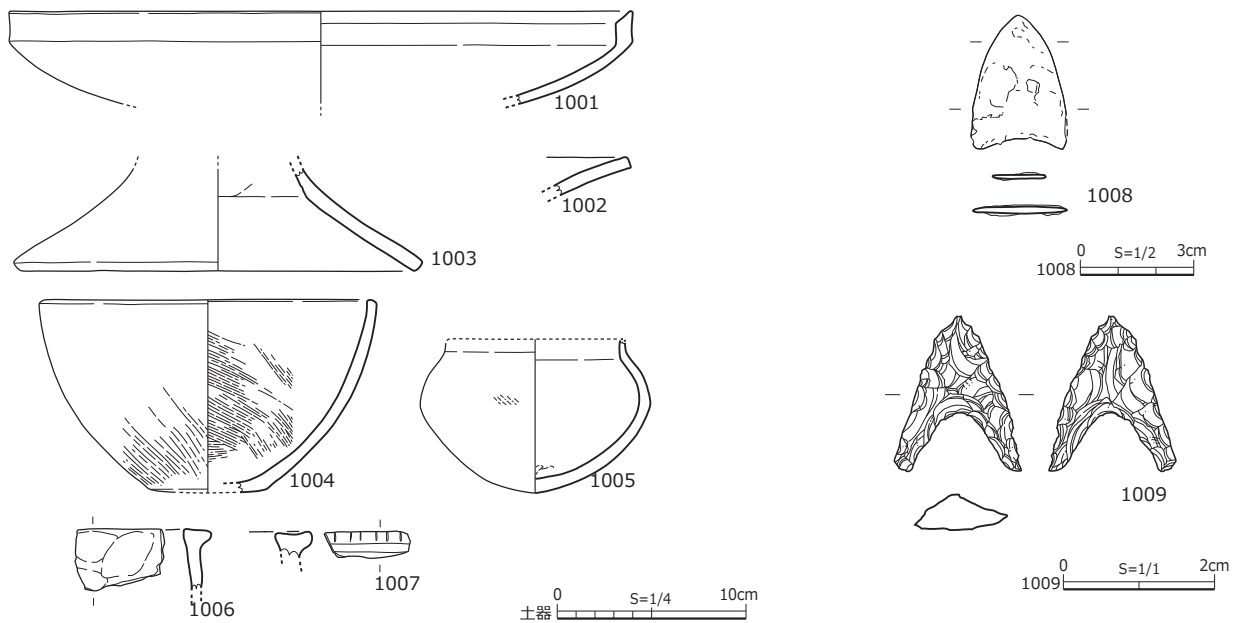
[S66] (第 180・181 図、図版 16・41)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S66	竪穴住居	方形	6.60	4.86	0-20	—	2本	方形	東・西	東半分	

S66 は平面方形の形状で、壁面など遺構の一部を確認調査のトレンチによって削られている。南側中央壁際には、方形や不整形の土坑とこれに付随する2基のピットが設けられている。炉跡は一辺 60cm の方形を呈し、中心は円形に熱を受けて赤化している。ベッド状遺構は両短辺にあたる東及び西側に配置され、奥行きは約 1.2 m、床面掘削時にこの部分だけが掘り残され、



第 180 図 S66 実測図



第 181 図 S66 出土遺物実測図

高低差として現れている。西側では壁際を溝状に深さ 5～10cm ほど掘り下げてあった。

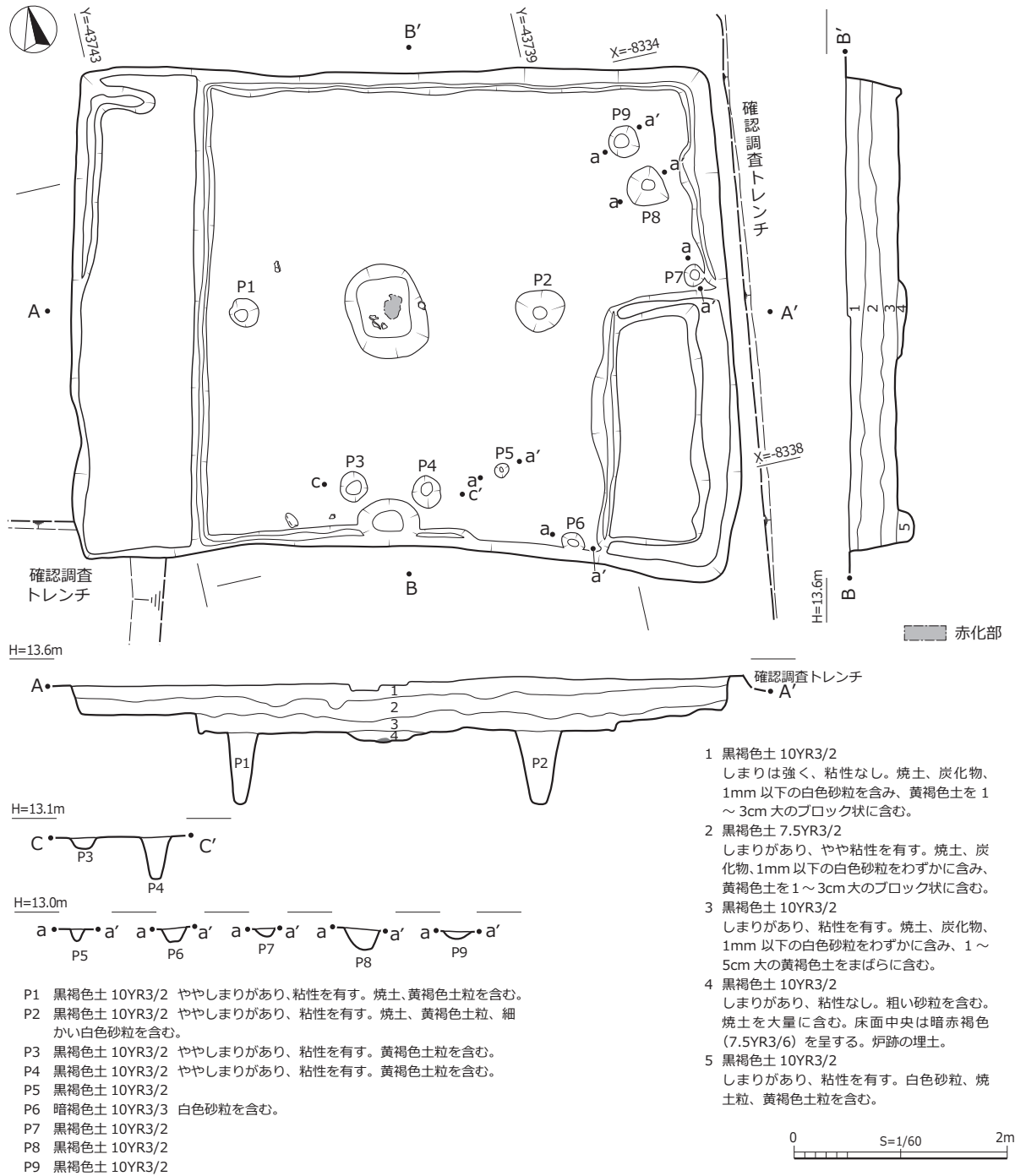
S66 から出土した土器は高坏・壺・鉢で、弥生時代後期と考えられる。高坏は口径が大きく口縁直下で強く屈曲する口縁部や、内器面の稜線によって脚・裾境界を表現した脚部が出土した。鉢は直口で深い平底のもの、頸部から口縁へ短く立ち上がる丸底のものを図化している。また、埋土より鉄鏃を検出した。基部に緩やかな抉りが入り、非常に薄い作りをしている。弥生中期と考えられる甕も 2 点図示した。どちらもカマボコ形に近い口縁断面の形状で、内側へわずかに突出させているように見える。

【S107】(第 182・183 図、図版 16・42)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉 (m)	ベッド状	壁周溝	
S107	竪穴住居	長方形	6.26	4.68	P-20	S111→S107	2本	方形 0.9×0.7	西・南東側	床面	

S107 は長方形に掘られた竪穴住居跡で、構築の際に地山を掘り残したベッド状遺構が東辺と南西側にある。中心に炉と 2 本の主柱穴をこしらえ、床面には壁周溝が配される。南壁際の中央には土坑とこれに付随する 2 基のピットを有する。

S107 では弥生土器や未製品を含む石器が出土した。土器は甕、鉢、ジョッキ形などがあり、甕は頸部でくの字形に屈曲している。鉢は直口口縁と頸部で屈曲してほぼ垂直に立ち上がるものがある。これらの土器から、遺構は弥生時代後期の所産と見られる。なお、17 点の石器・石製品を図示しているが、S111 では大量の製品や剥片が出土し、さらに S107 は S111 と直接の切り合い関係にあるため、これらの石器・石製品は弥生時代中期の円形建物跡 S111 由来とすべきかもしれない。

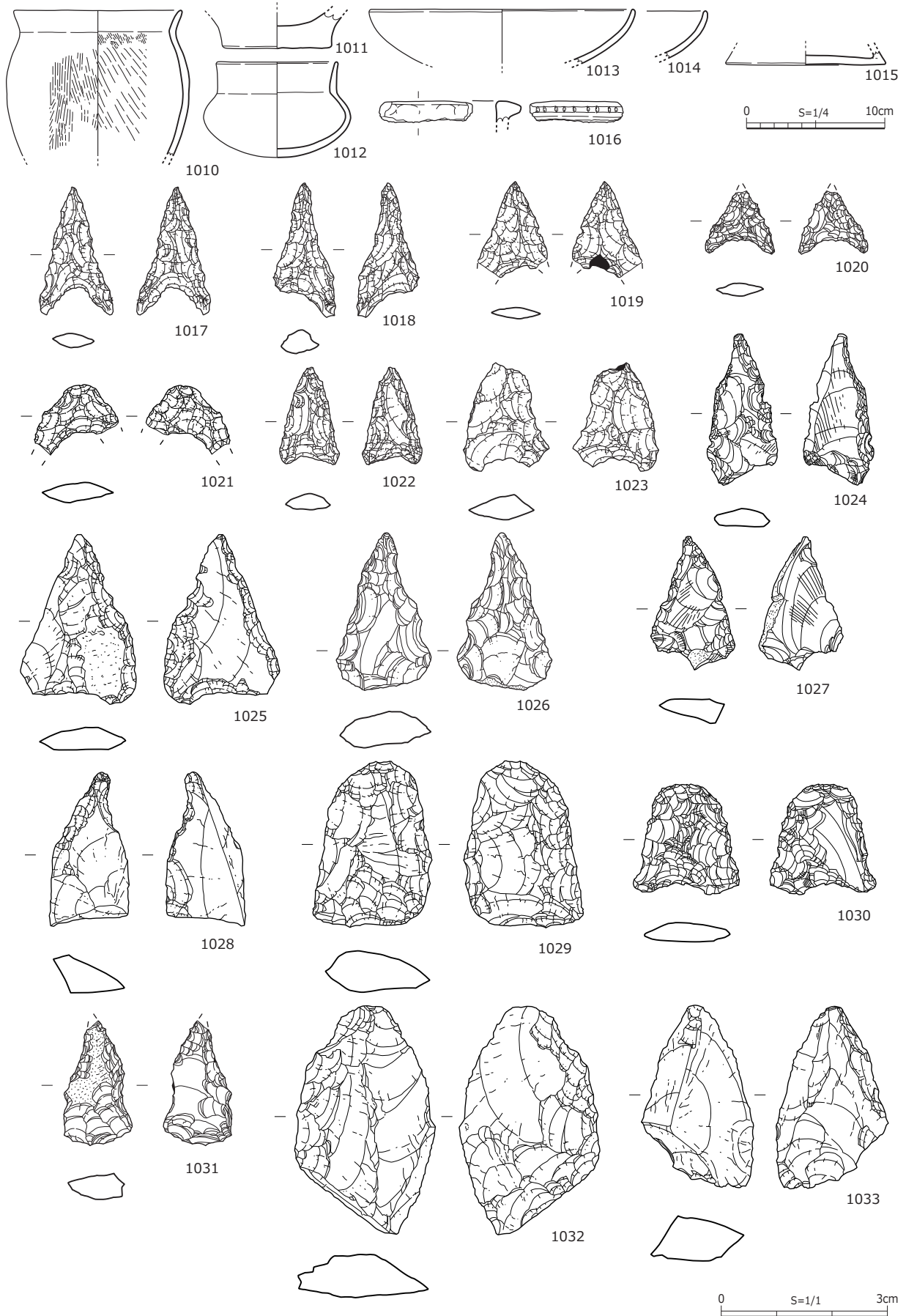


第182図 S107 実測図

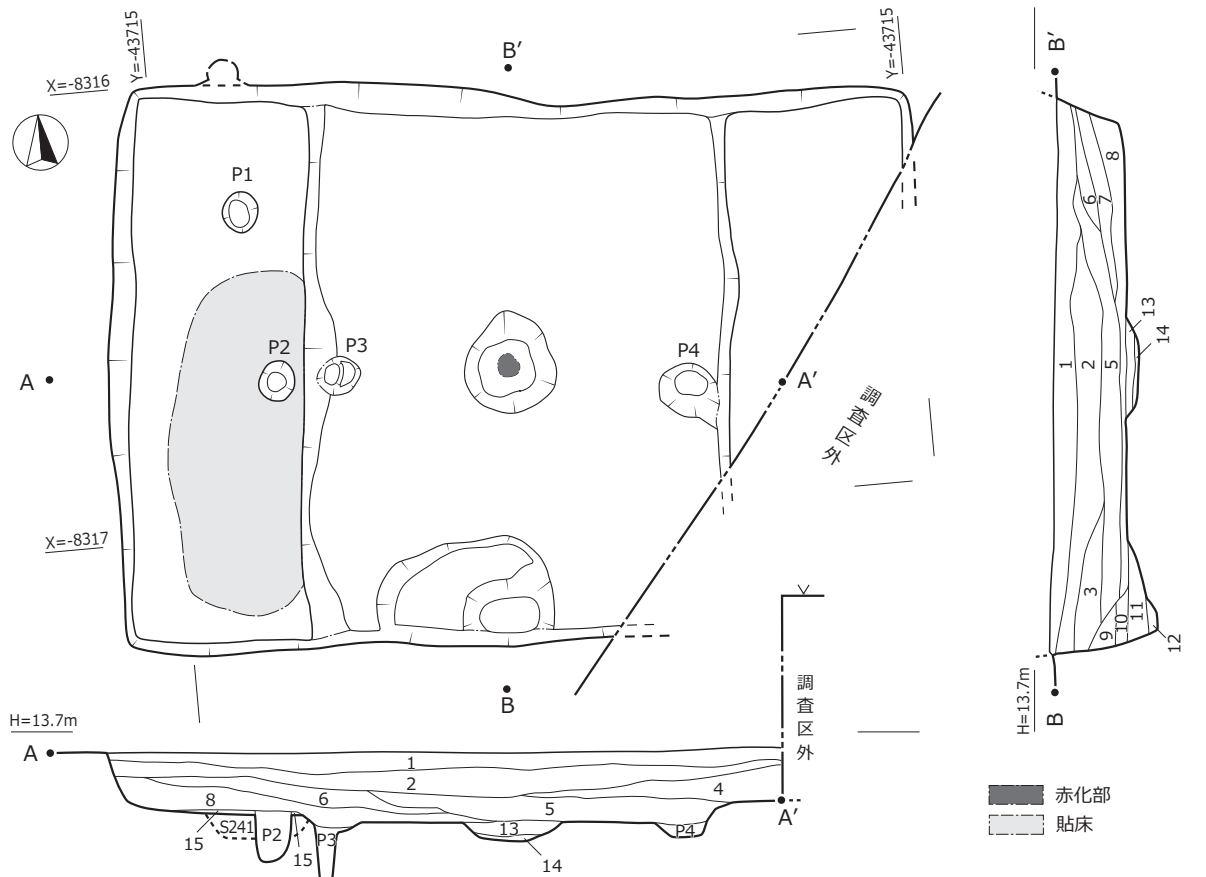
【S134】(第184～186図、図版17・43・44)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S134	竪穴住居	長方形	(5.35)	3.70	S-22	S241→S134	2本	円形	東・西側	×	

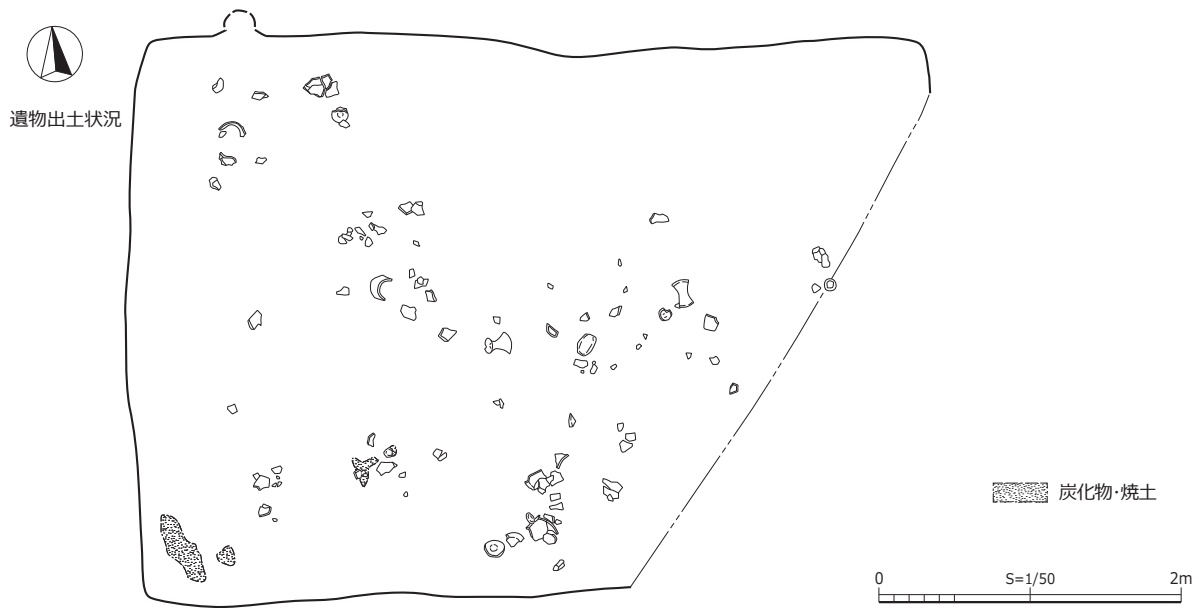
S134は長方形を呈す竪穴住居跡で、形態や出土した遺物から弥生時代後期と見られる。南東隅は調査区外となる。中央に炉跡、東西の長軸方向中央に2本の主柱穴、東西壁に沿って幅1.1mの削り出しのベッド状遺構がある。南壁の中央に沿って掘り込みはあるが、これに伴う



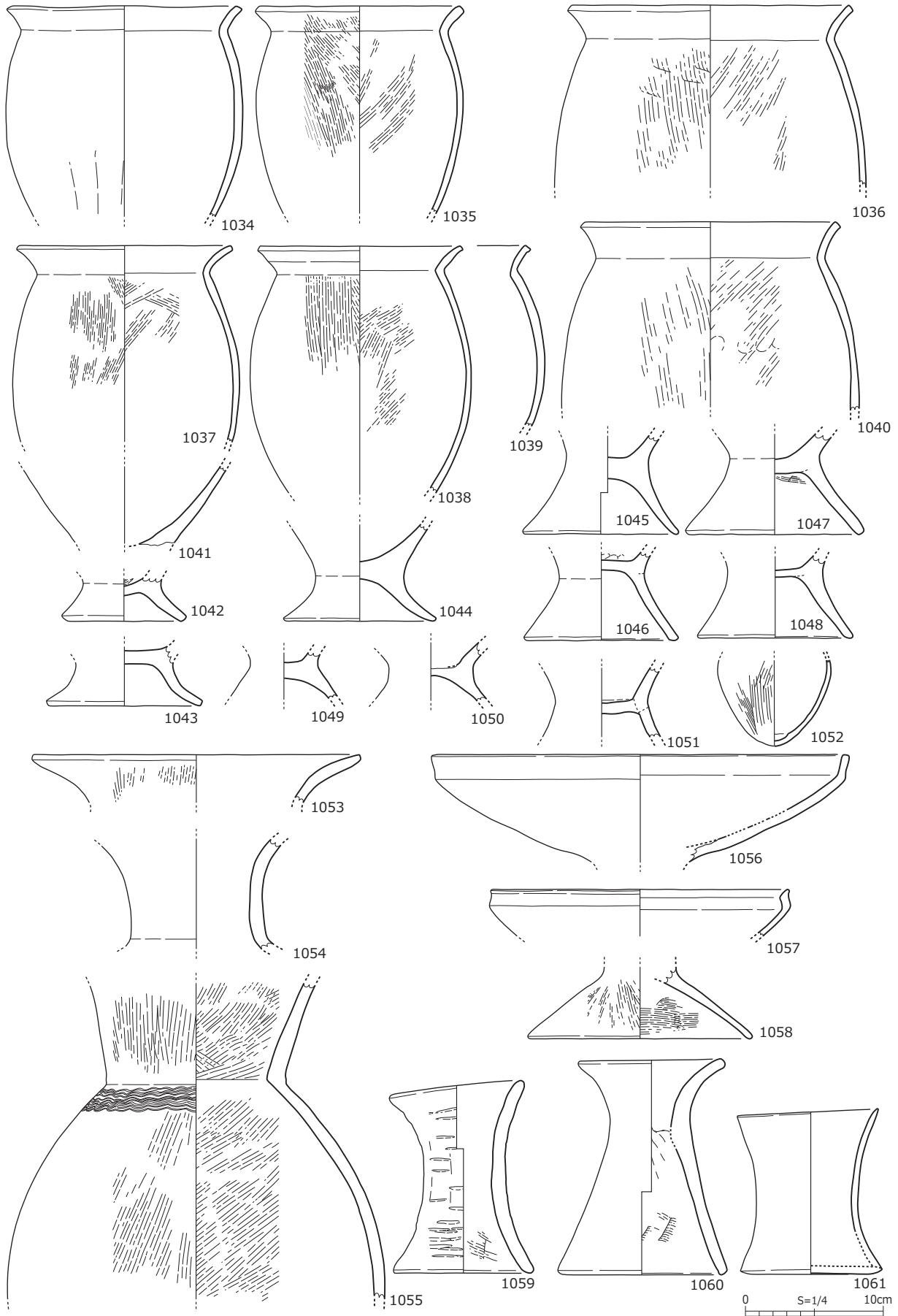
第 183 図 S107 出土遺物実測図



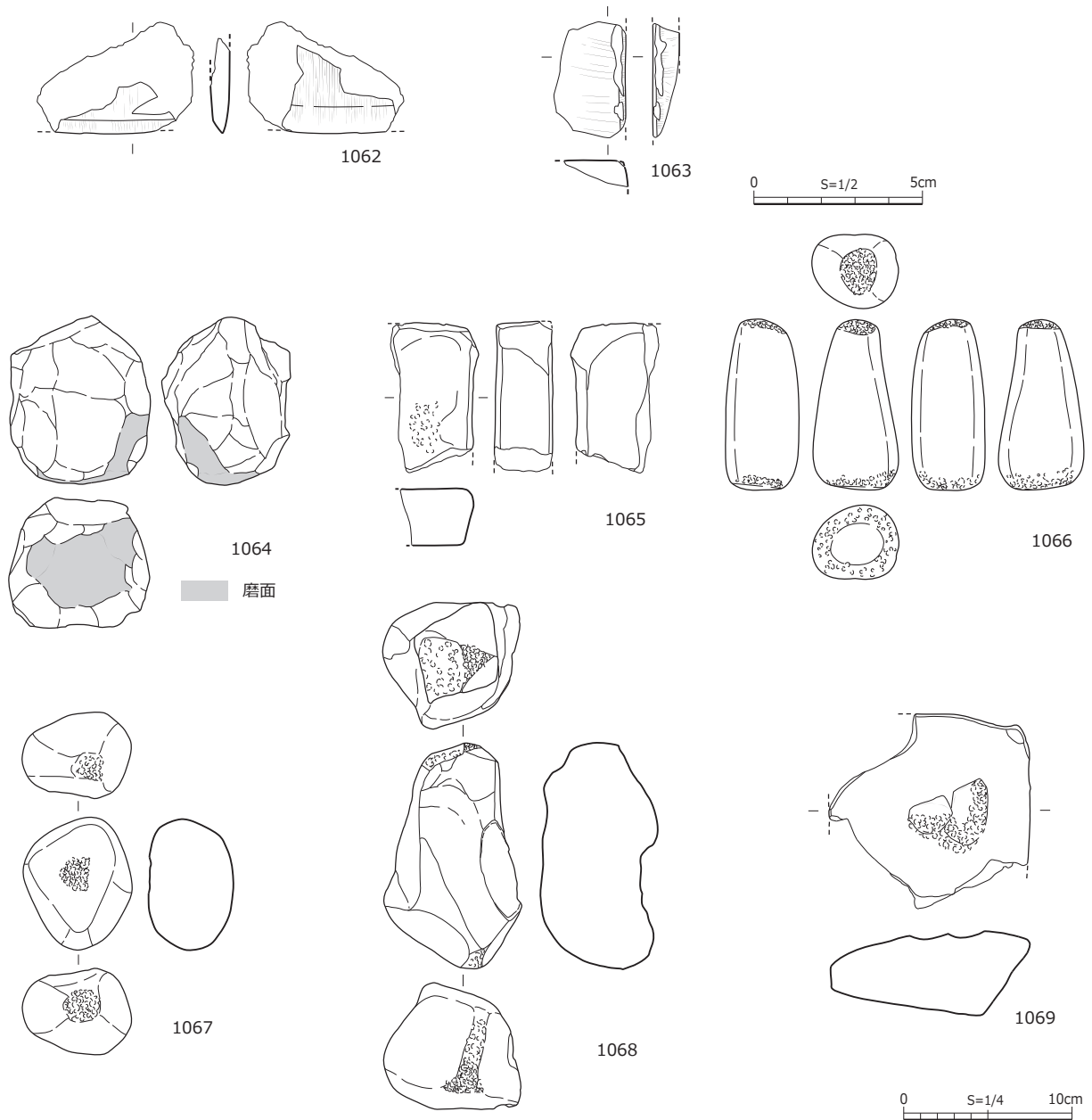
- | | | |
|---|--|---|
| <p>1 暗赤灰色 2.5YR3/1 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊（10YR4/3）、土器小片をまばらに含む。</p> <p>2 暗褐色土 10YR3/3 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊、炭化物をまばらに含む。</p> <p>3 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。黄褐色土塊をブロック状に、白色砂粒を多量に含む。</p> <p>4 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をまばらに含む。</p> <p>5 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊、白色砂粒を多量に含む。</p> <p>6 暗褐色土 10YR3/3 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色土塊、炭化物をまばらに含む。</p> <p>7 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊、炭化物をわずかに含む。</p> | <p>8 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状にまばらに、焼土をわずかに含む。</p> <p>9 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をまばらに、炭化物をわずかに含む。</p> <p>10 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状に多く含む。</p> <p>11 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、粘性を有す。地山由来の黄褐色土を多量に含む。</p> <p>12 黒褐色土 10YR3/2 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色土塊をまばらに含む。</p> <p>13 暗褐色土 10YR3/3 ややしまりがあり、粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状に多く含む。炉跡埋土。</p> | <p>14 に近い黄褐色土 10YR4/3 しまりは弱く、やや強い粘性を有す。ほとんどが地山由来の黄褐色土。炉跡床面の土。</p> <p>15 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊を多く、黒褐色土塊をまばらに含む。</p> <p>P1 黒褐色土 2.5Y3/2 しまりは弱く、粘性を有す。黄褐色土塊、炭化物をわずかに含む。</p> <p>P2 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。地山由来の黄褐色土を含む。</p> <p>P3 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりがあり、粘性なし。細かい黄褐色土塊をまばらに含む。西側支柱穴埋土。</p> <p>P4 暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土塊をブロック状にまばらに含む。東側支柱穴埋土。</p> |
|---|--|---|



第184図 S134実測図

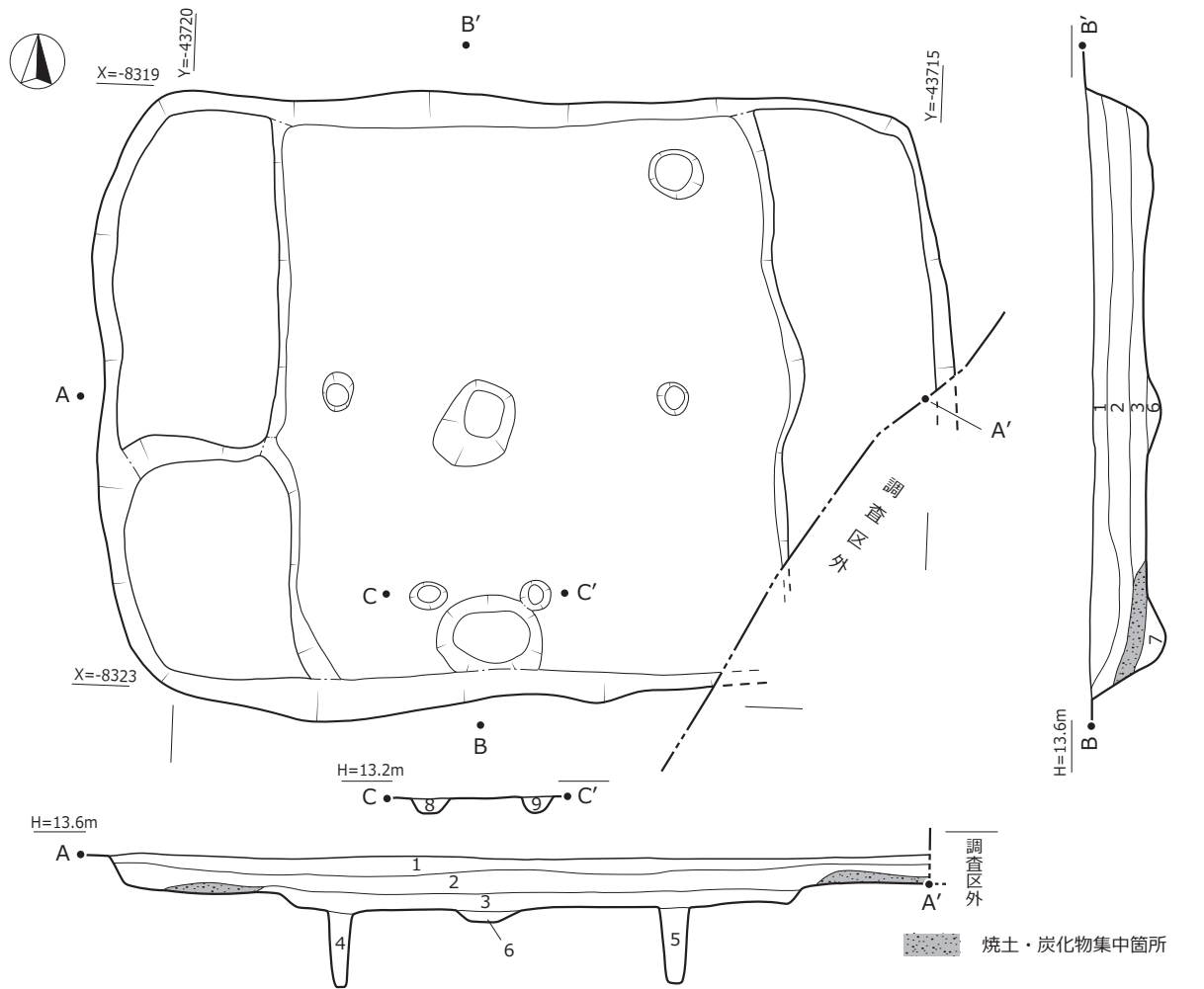


第 185 図 S134 出土遺物実測図 1

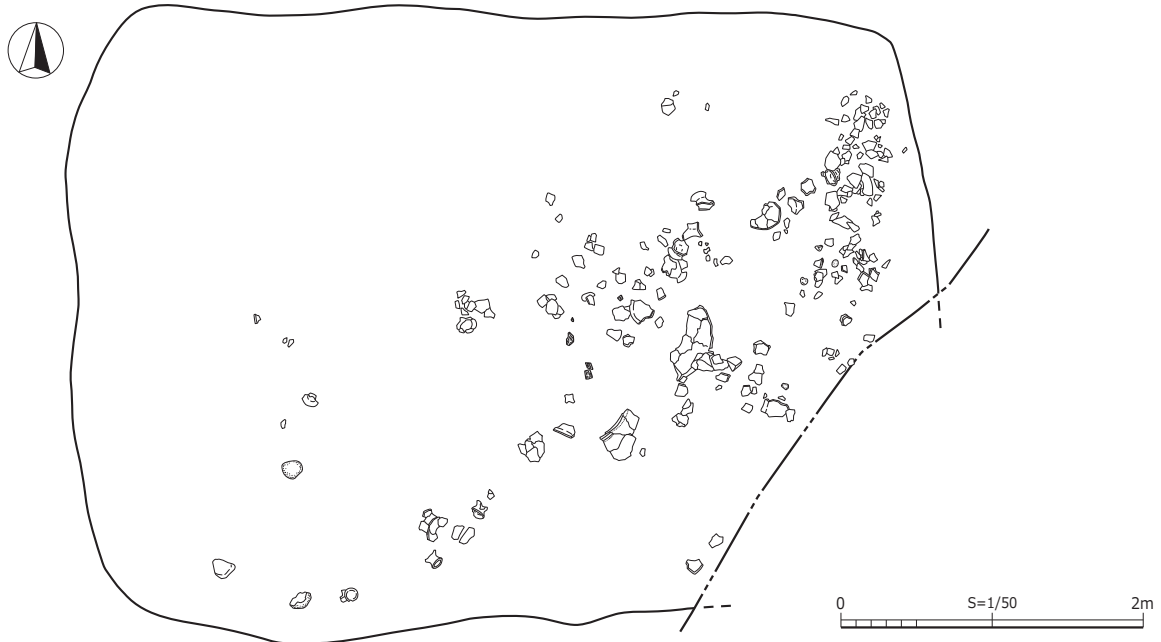


第186図 S134出土遺物実測図2

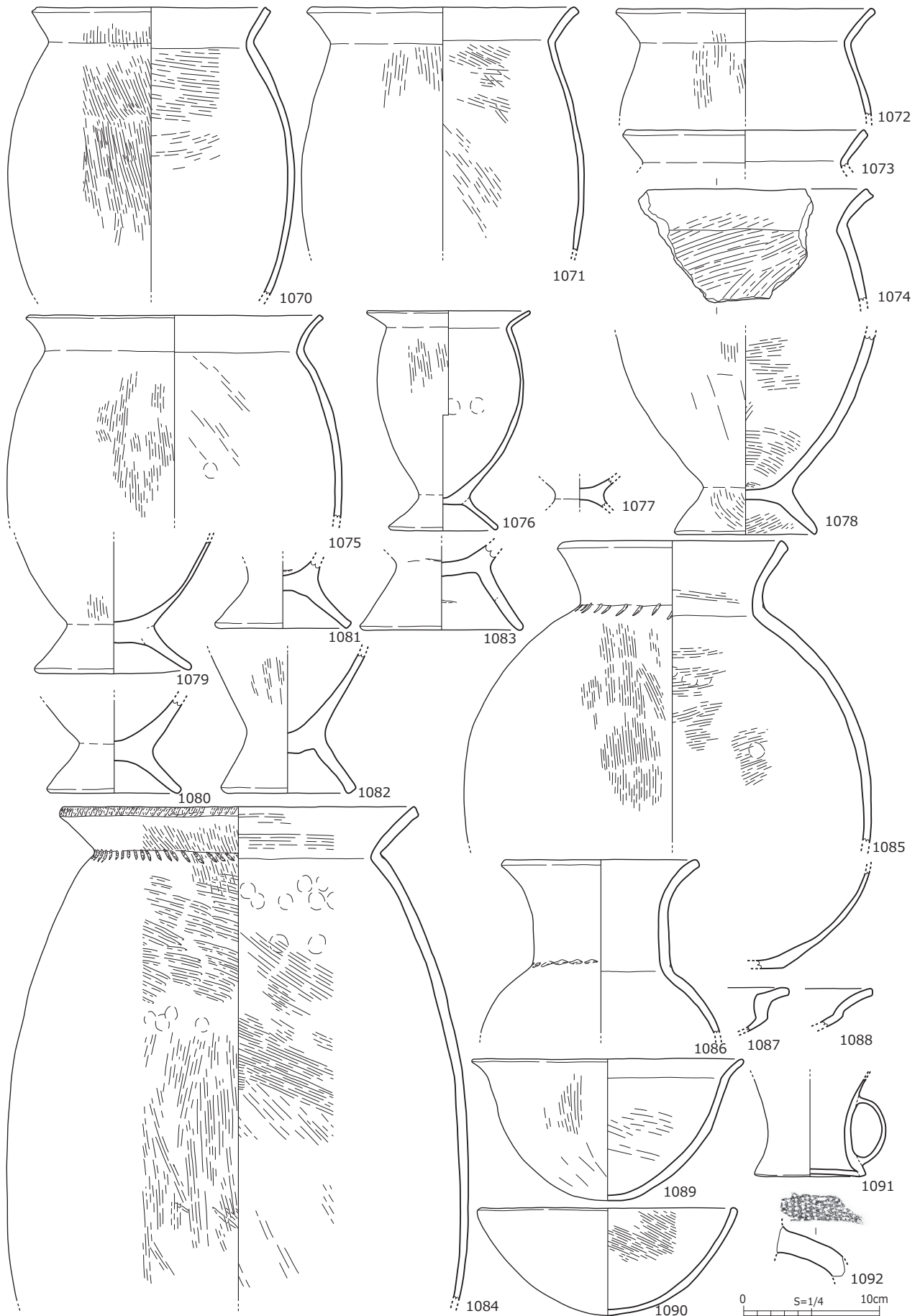
2基のピットは確認できなかった。床面の壁などに沿って掘削されることが多い壁周溝も未確認である。また、西側ベッド状遺構の下部には弥生中期の土坑と見られるS241があり、この部分は貼床（埋土15層）で、ベッド状遺構の利用による沈下や地山との土質の違いを抑える為に貼ったものと見られる。S134から出土した土器や石器を図化した。土器はくの字に屈曲した口縁部で脚を付けた底部を持つ甕や、口径が大きく口縁直下で屈曲する高坏及びビョッキ形など、弥生時代後期と見られるものが多い。石器は磨製石斧、磨石・敲石などが出土した。



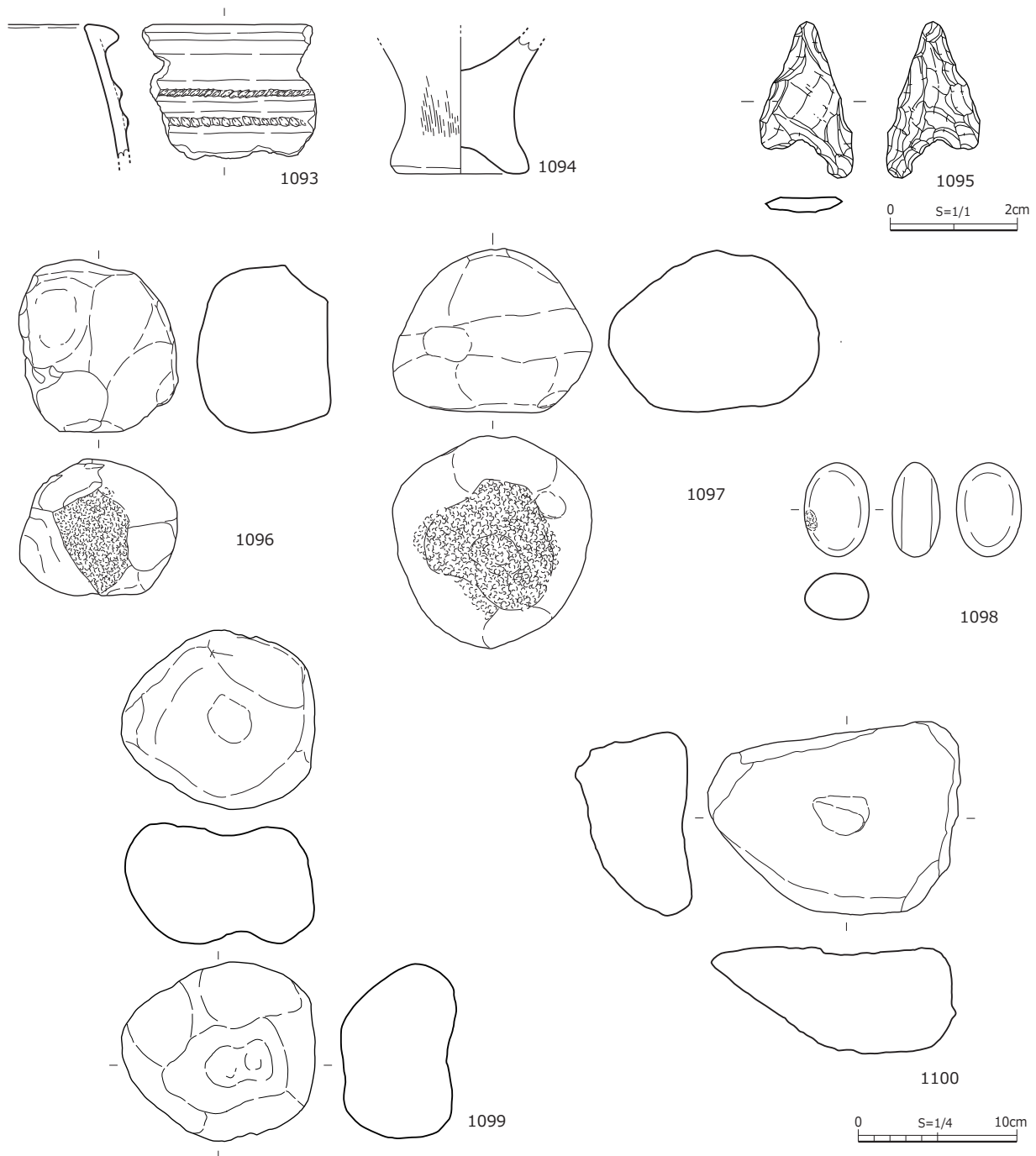
- | | | |
|---|---|--|
| <p>1 灰色土 5Y4/1 しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色土、白色砂粒を多く含む。</p> <p>2 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物、焼土を多く含む。土器片を多く含む。</p> <p>3 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。炭化物、焼土を全面に、かなり多く含む。</p> <p>4 暗赤褐色土 5YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。焼土、炭化物をやや多く含む。西側主柱穴埋土。</p> | <p>5 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。焼土、炭化物をやや多く含む。東側主柱穴埋土。</p> <p>6 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性なし。1cm以下の焼土を多く、炭化物をまばらに含む。炉跡埋土。</p> <p>7 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、弱い粘性を有す。1cm以下の焼土をやや多く、炭化物をわずかに含む。</p> | <p>8 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。1cm大の焼土、炭化物を多く含む。</p> <p>9 灰黄褐色土 10YR4/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。地山由来の黄色・白色砂粒を多く含む。焼土・炭化物集中箇所 灰赤色土 2.5YR4/2 しまりがあり、粘性なし。炭化物、焼土の細片を大量に含む。</p> |
|---|---|--|



第187図 S140実測図



第188図 S140 出土遺物実測図1



第 189 図 S140 出土遺物実測図 2

【S140】（第 187 ～ 189 図、図版 17・44 ～ 46）

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S140	竪穴住居	長方形	5.72	4.15	S-21	—	2本	不整形	東・西側	×	

S140 は長方形を呈す竪穴住居跡で、南東部は調査区外になるため掘り下げは行っていない。南北方向の軸から西へずれた部分（B - B' 断面）で炉跡と土坑が並んでいる。この土坑には 2 基のピットが付随する状況が分かる（C - C' 断面）。東西の壁に沿うようにそれぞれベッド状遺構を持つが、西では南半分がわずかに低い造りとなっている。また、埋土 3 層から大

量の焼土・炭化物片を検出した。これらは遺構内のほぼ全面にわたり多く存在することから、S140は火災に遭った住居と考えることができる。柱材や屋根など大きな建築部材は後に取り除かれた為か、残っていない。この層からはまた、土器片も多く出土している。出土遺物は弥生時代後期の土器が多く、器種で見ても甕・壺・鉢・ジョッキ形などがある。甕は「く」の字状に屈曲した口縁で、長胴気味の胴部と短い脚が付いている。大型の甕胴部にはタタキの手法も用いられている。石器では台石と磨石・敲石のセットが検出された。

【S194】（第190図、図版17・47）

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S194	竪穴住居	長方形	5.48	4.76	P-19	S202、 S309→S194	2本	方形	四隅	全周	

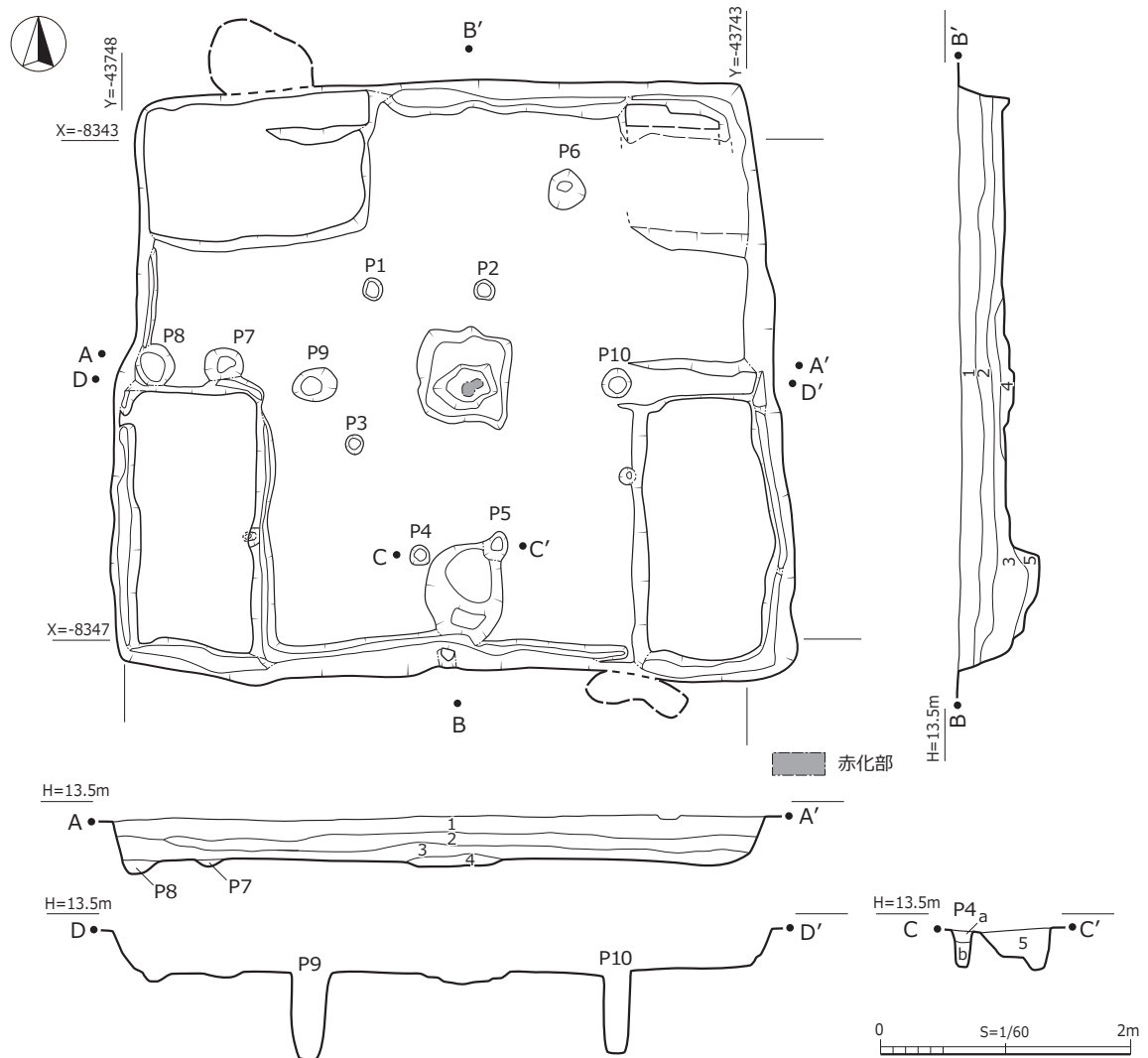
S194は長方形を呈する竪穴住居跡で、大型建物S202と土坑S309を切っている。遺構の主軸は東西方向がわずかに長く、正確に方角に沿って作られている。中央に方形の炉を設け、中心部は赤化した部分が残る。土坑とこれに付随して2基のピットがある。南辺を除いてベッド状遺構の高まりを掘り残す一方、1m程の幅で床面と同じ深さまで掘り下げ、結果的に四隅にベッド状遺構が配置された恰好となる。壁際はほとんどの箇所壁周溝が掘られている。南半分ではベッド状遺構の上でも見られる。また、床面にはいくつかのピット（P1～P3、P6～P8）を検出したが、最大でも10cm程度の深さである。

S194出土遺物は、弥生土器と石器で、中期及び後期の土器が混在している。甕底部は脚部分が外れている。鉢2点は丸底で半球形の器形と考えられ、弥生時代後期の土器と見られる。石器は黒曜石を石材とした、製作途中の未製品と見られる。

【S221】（第191図、図版47）

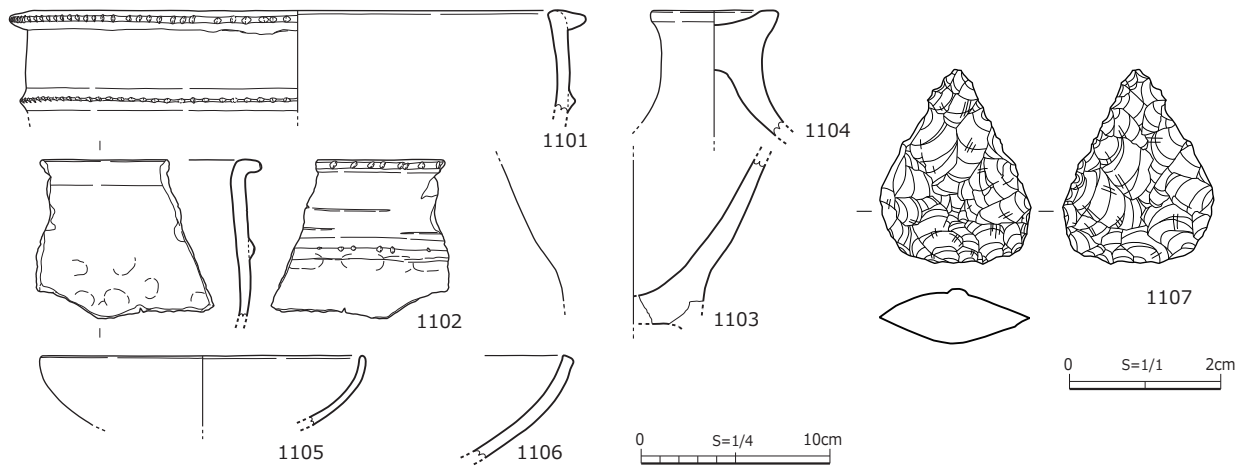
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S221	竪穴住居	長方形	5.70	4.62	O-19	—	2本	方形	東・西壁	全周	

S221は長方形を呈する竪穴住居跡で、確認調査のトレンチが南北方向に走る。2本の支柱穴があり、その中央に方形の炉を掘っている。炉の南側には赤化した部分がある。東西の壁際にはベッド状遺構が設けられ、ベッド状遺構の上にも壁周溝が掘られている。また、南壁には土坑と2基の出土した遺物は土器・土製品（円板）・石器などで、土器は弥生時代後期のものが多かった。甕は「く」の字に屈曲した口縁部や脚部資料を図示している。口縁を肥厚させるものは中期土器の混入と考えている。高坏口縁部を2点と鉢1点も図化した。土製品は土器片を丸く加工した円板で、用途は不明。砥石転用の敲石は、両端が折れた後も破断面はそのままに1面を敲石として使用した敲打痕が残っている。石鏃はいずれも安山岩を利用して作られており、弥生時代中期遺構からの流れ込みと見られる。

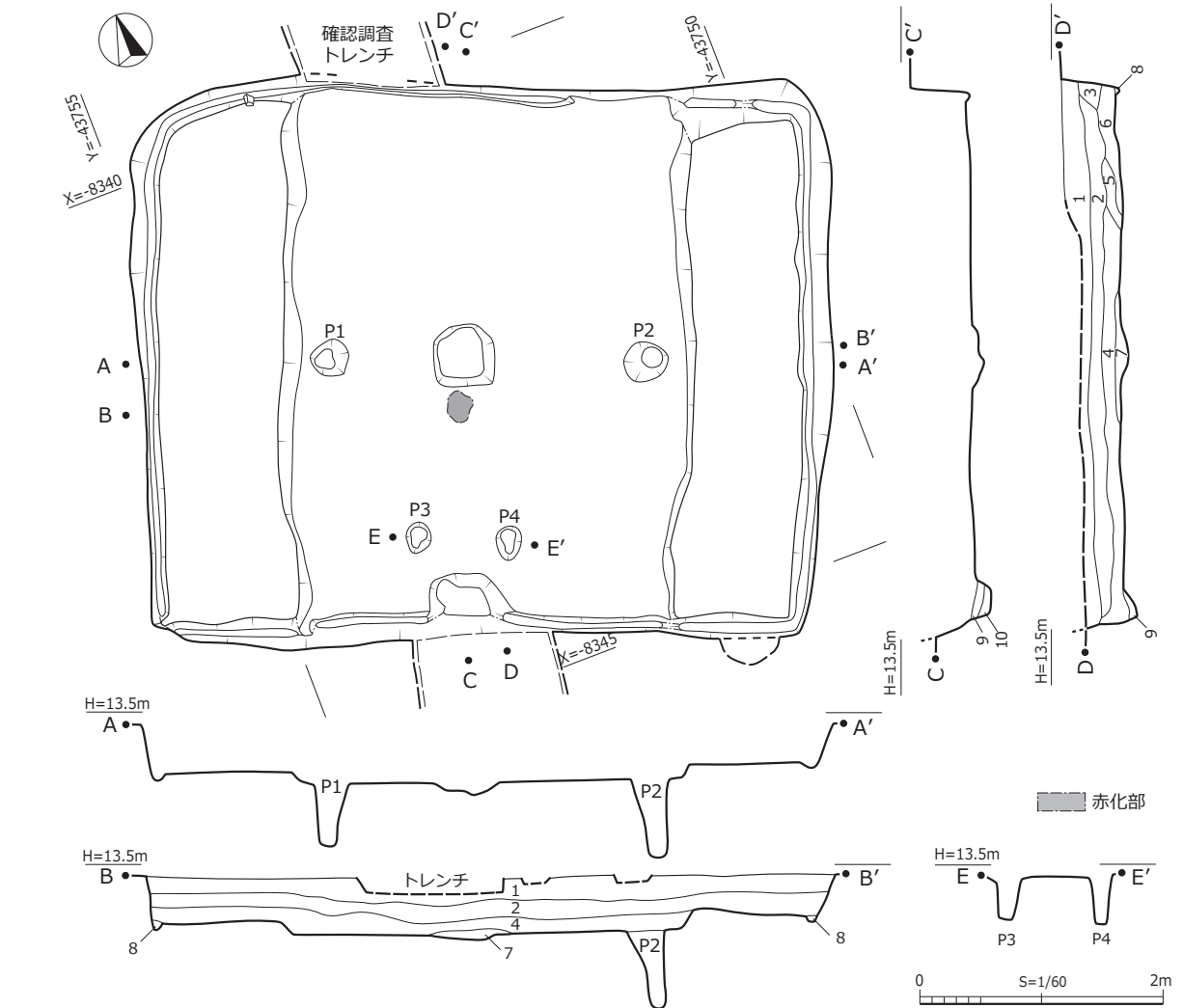


- 1 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、粘性なし。白色砂粒を含み、褐色(10YR4/4)の粒をまばらに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒を含み、褐色の粒をまばらに含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒、炭化物、焼土を含み、褐色の粒をまばらに含む。
- 4 暗褐色土 7.5YR3/3 ややしまりがあり、やや粘性を有す。焼土、炭化物を多く含む。炉跡内の埋土。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 ややしまりがあり、粘性を有す。焼土をわずかに、地山中の黒色礫を含む。

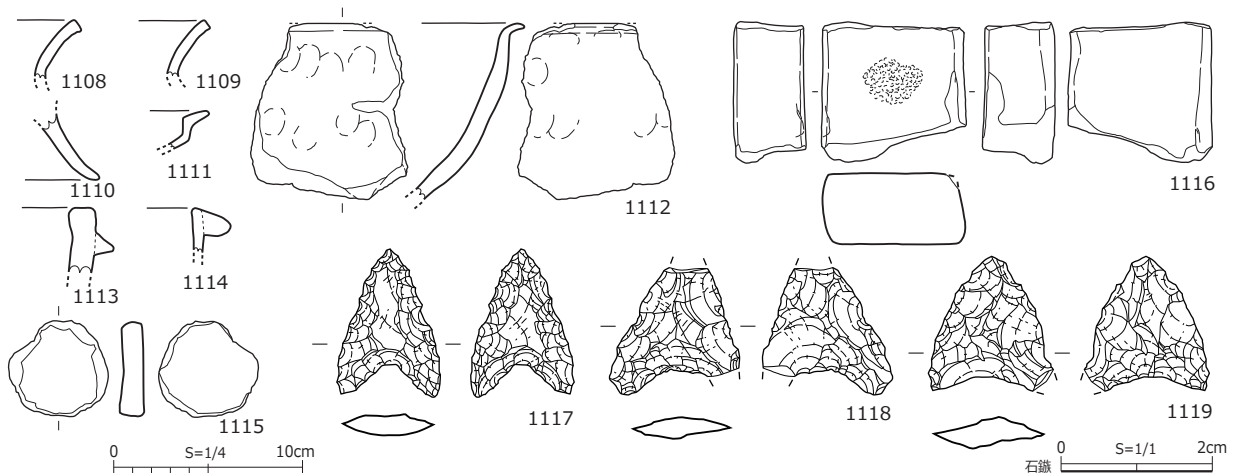
- P1 ~ 3, 6 ~ 8 黒褐色土 7.5YR3/2 覆土 3層と同層
- P4-a 黒褐色土 7.5YR3/2 覆土 3層と同層
- P4-b 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒を含み、褐色粒及び地山中の黒色礫を少量含む。
- P5 暗褐色土 10YR3/3 覆土 5層と同層
- P9 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒を含み、褐色粒及び地山中の黒色礫を少量含む。主柱穴の埋土層。
- P10 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒を含み、褐色粒及び地山中の黒色礫を少量含む。主柱穴の埋土層。



第190図 S194実測図・出土遺物実測



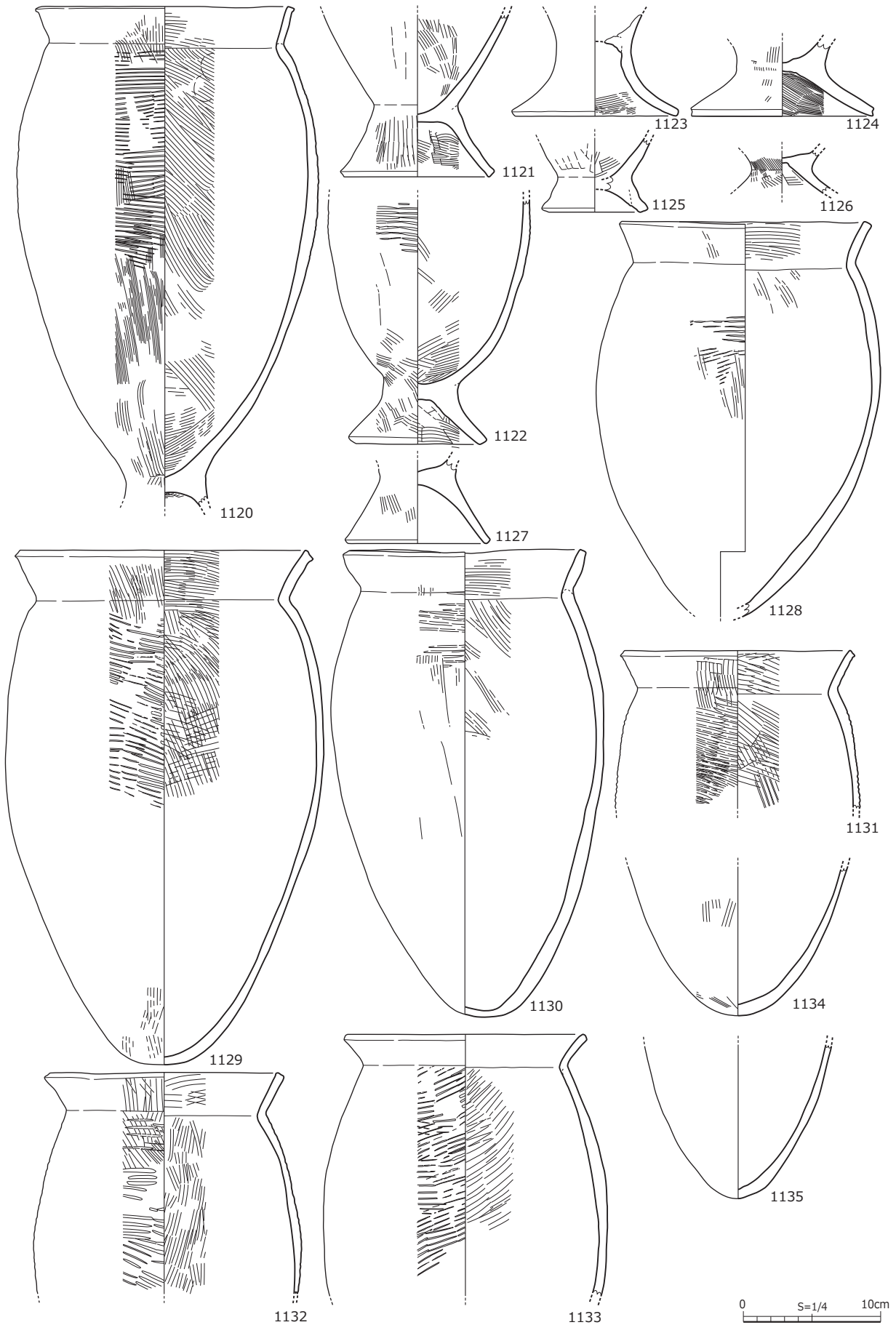
- 1 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、弱い粘性を有す。白色砂粒、にぶい黄褐色(10YR4/3)土を含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。白色砂粒、にぶい黄褐色土を含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒、にぶい黄褐色土をわずかに含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりがあり、やや粘性を有す。にぶい黄褐色土をまばらに含む。南側Kピット周辺と南西コーナー部分に焼土の集中が見られる。
- 5 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。焼土、にぶい黄褐色土をわずかに含む。
- 6 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。焼土、にぶい黄褐色土を含む。
- 7 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。にぶい黄褐色土をわずかに含む。炉跡覆土。
- 8 灰褐色土 7.5YR4/2 ややしまりがあり、粘性を有す。にぶい黄褐色土を含む。壁周溝覆土。
- 9 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、やや粘性を有す。にぶい黄褐色土をまばらに含む。
- 10 黒褐色土 7.5YR3/2 しまりは弱く、やや粘性を有す。にぶい黄褐色土をわずかに含む。
- P1 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒、灰黄褐色(10YR4/2)土を含む。西側主柱穴埋土。
- P2 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒、灰黄褐色土を含む。東側主柱穴埋土。
- P3 黒褐色土 7.5YR3/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒、灰黄褐色土を含む。
- P4 黒褐色土 10YR3/2 ややしまりがあり、強い粘性を有す。白色砂粒、灰黄褐色土を含む。



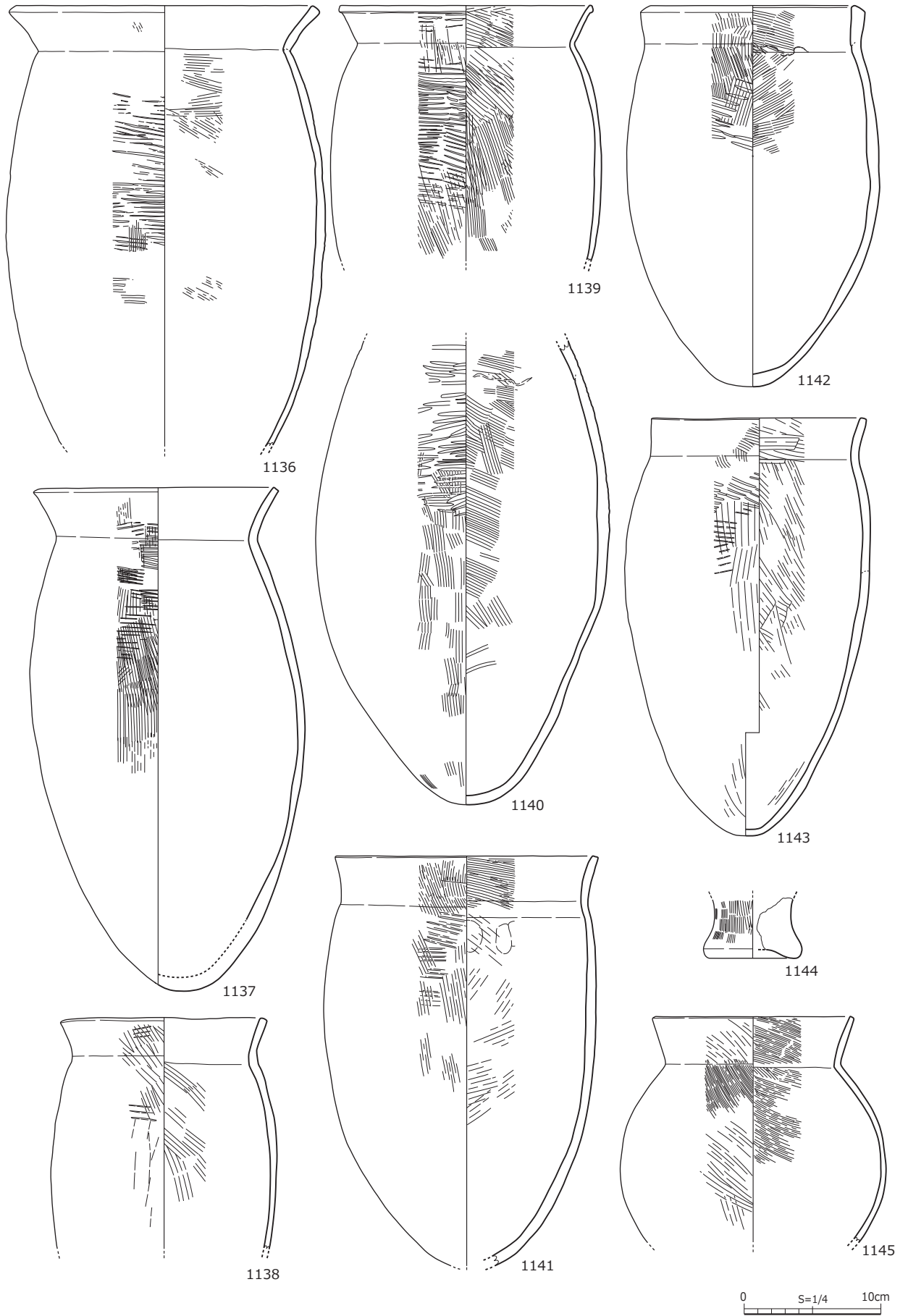
第191図 S221 実測図・出土遺物実測図



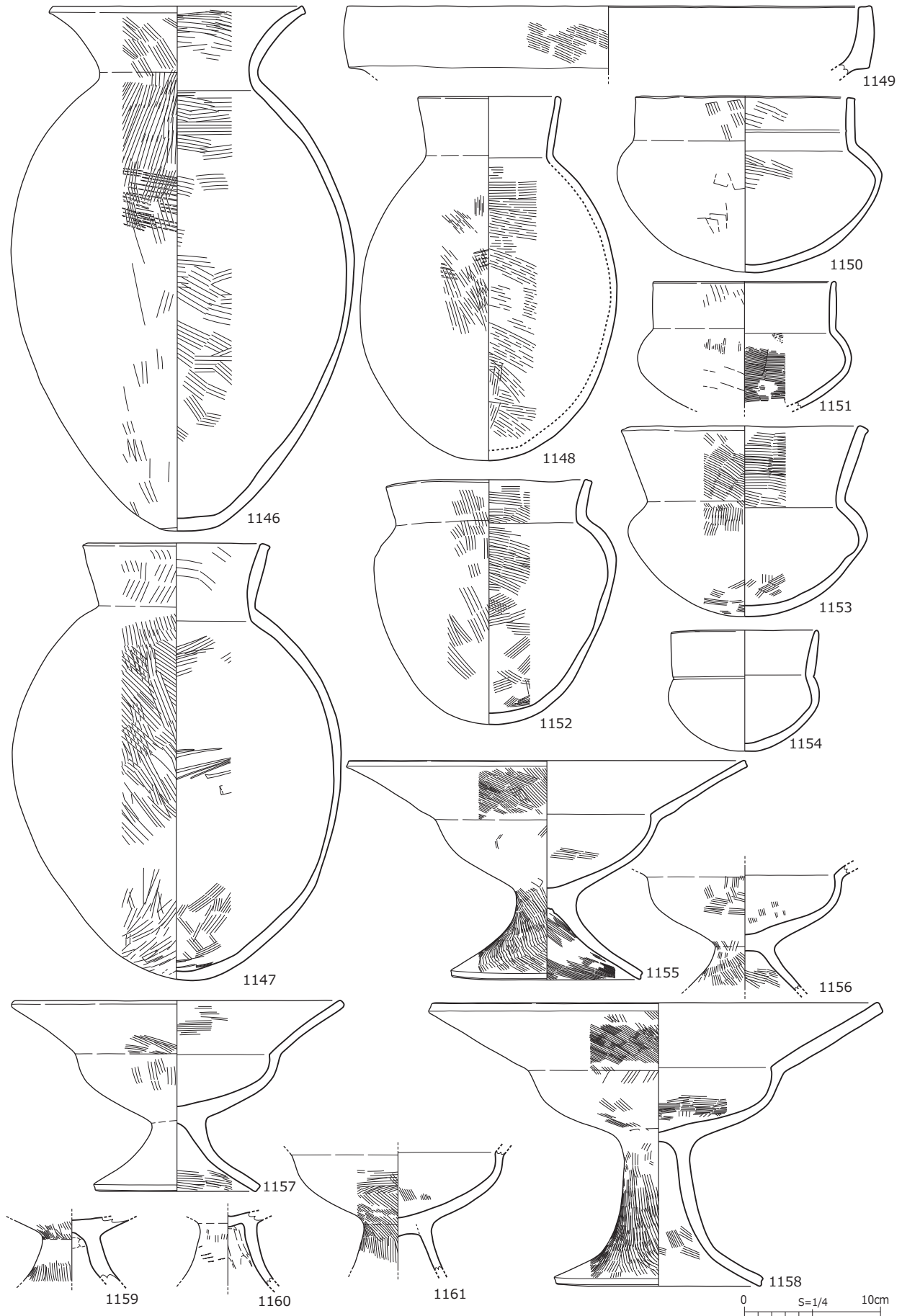
第192図 S141実測図



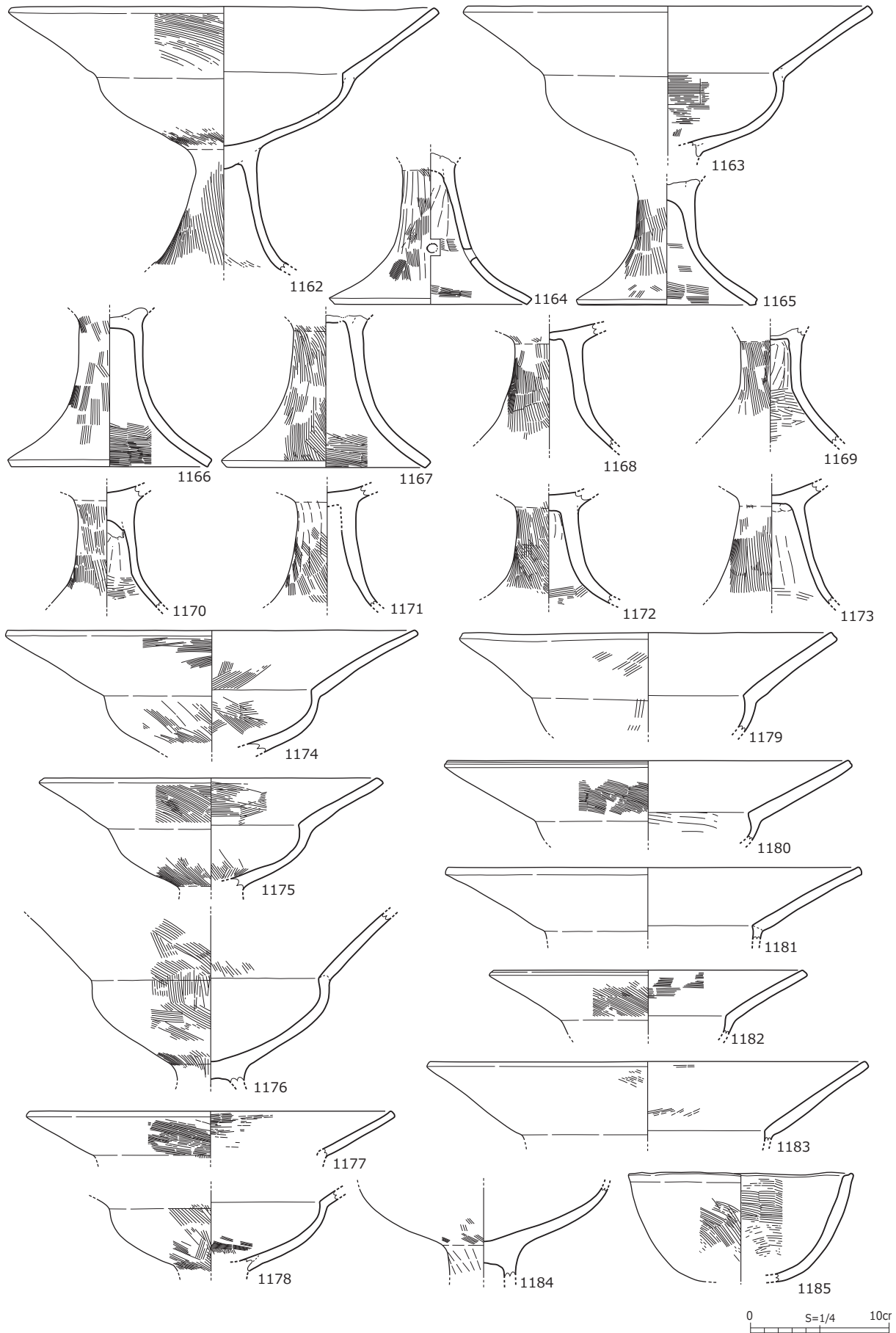
第193図 S141出土遺物実測図1



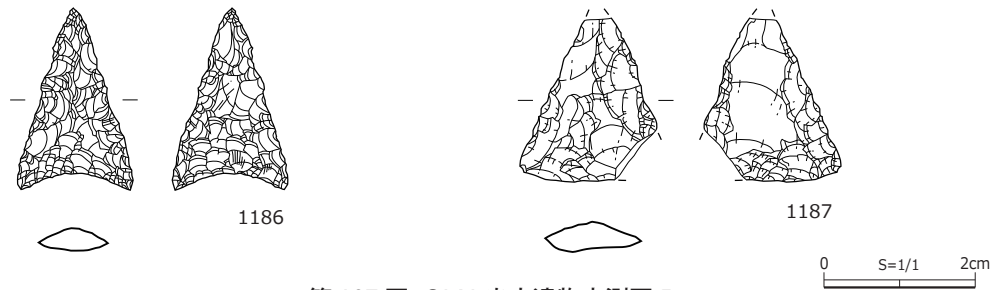
第194図 S141 出土遺物実測図2



第195図 S141出土遺物実測図3



第196図 S141 出土遺物実測図4



第197図 S141 出土遺物実測図5

【S141】(第192～197図、巻頭図版3、図版47～52)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S141	竪穴遺構	方形か	$3.2 + \alpha$	$2.4 + \alpha$	C-2	S138 → S141	—	円形	—	—	—

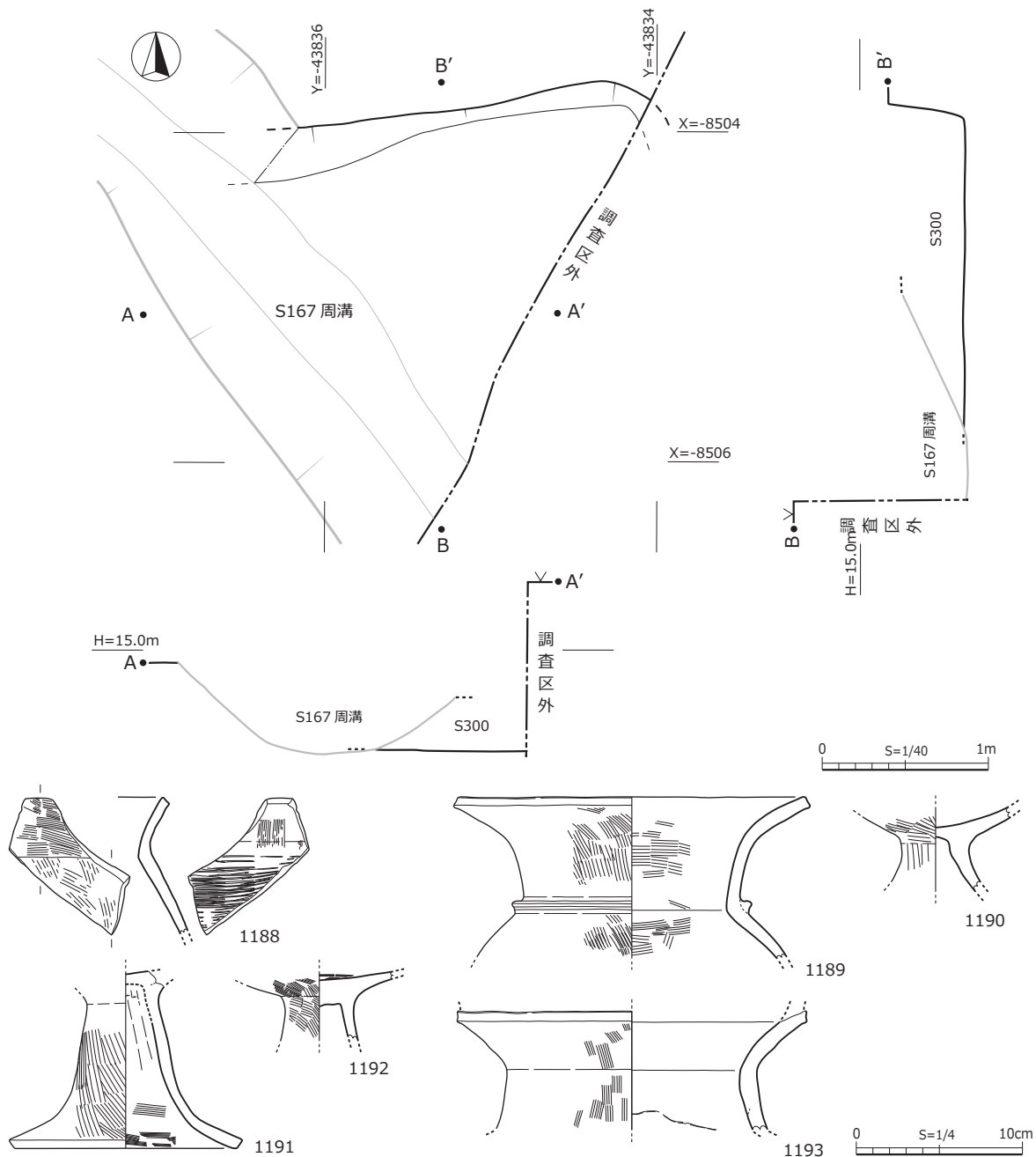
S141はその掘り込みに弥生時代後期(終末)の土器片が大量に廃棄された状態で見つかった竪穴遺構である。南端部分のみを検出しており、東側を中世の溝であるS138に切られている。また、西側は調査区外へ延びており、完掘には至っていない。調査区の境として掘り残した壁際に浅い円形の小穴があり、焼土の集中が見られることから炉跡と考えられる。このことから、A-A'断面図に描かれる南側の小穴は「入口土坑」である可能性が高くなる。他にも複数の小穴を検出しているが、性格は不明である。

S141からは大量に土器片が出土しており、接合・復元などの作業により図化できたものが多い。甕は「く」の字状に屈曲した口縁部と、胴部が張りのない長胴、底部では脚が付くものと丸底になるものがある。また、意図的に脚を打ち欠くものがある。壺は口縁が外反するものとほぼ直立するものがあり、胴部は球形に近く丸底を呈している。複合口縁を持つ大型壺の口縁部も出土した。口径がやや大きく、器高が低い一群を鉢形としている。口縁は直立かやや外反し、頸部で屈曲したあと胴部は強く張り、丸底の底部となっている。高坏の坏部は口縁から屈曲部まで直線的な器形で、屈曲以下は丸く浅い坏底部とつながる斉一性が強い器形である。脚部は高・低二種があり、低脚のものは少なく、脚裾は緩やかな八の字状に広がる。高い脚部をもつものは下方で裾部へ大きく開く器形で、稜は確認できない。

【S300】(第1978図)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S300	竪穴遺構	方形か	$2.4 + \alpha$	$2.1 + \alpha$	G-3	S300 → S167	—	—	—	—	—

S300は方形を呈す竪穴遺構と見られる。南及び西側を大きく古墳S167の周溝に切られ、さらに東側は調査区外に延びており、原形を把握することはできていない。ただ、南西ではS167の周溝を越えた箇所で掘り込みは確認しておらず、これより狭い範囲であったと考えられる。

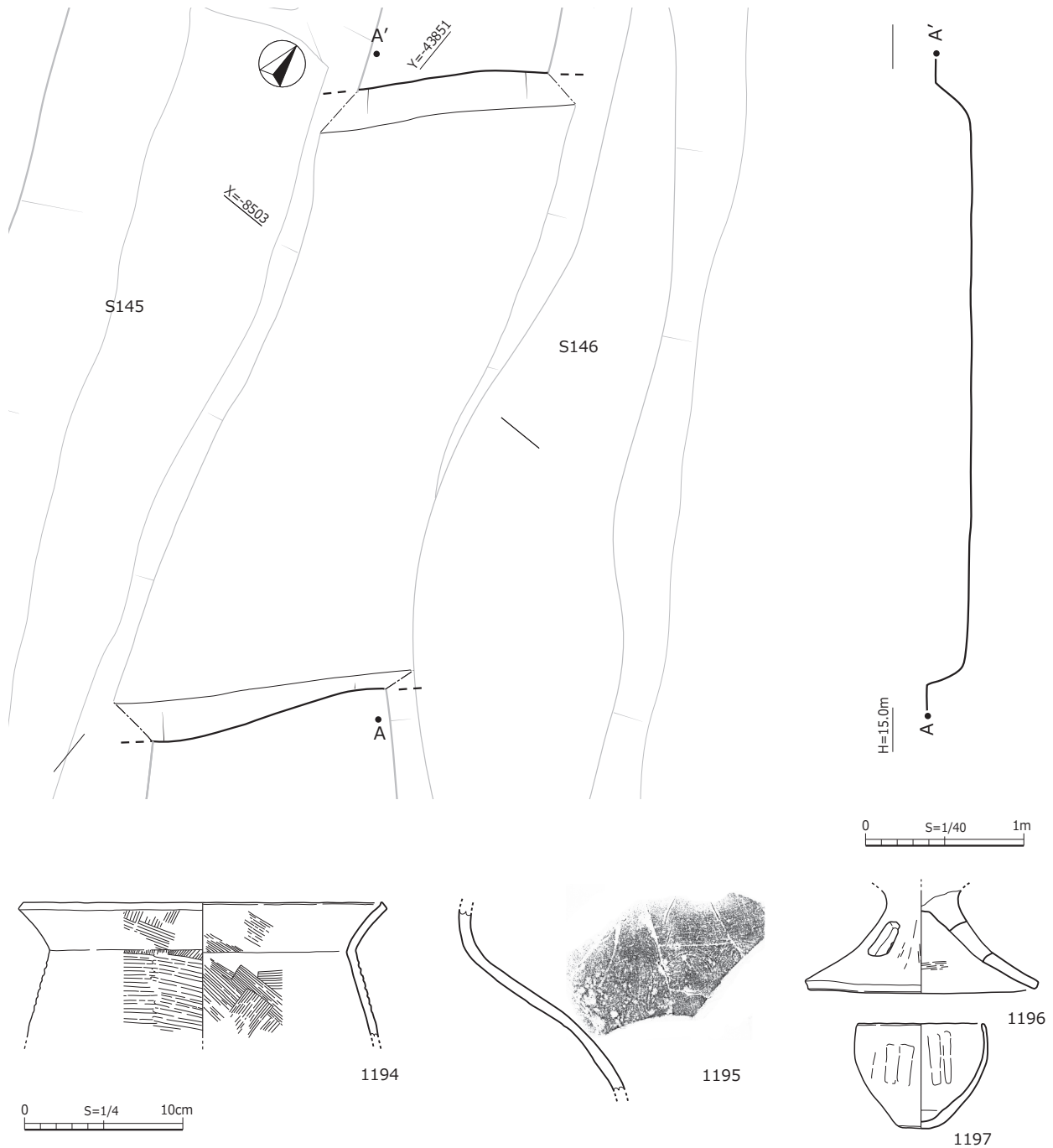


第 198 図 S300 実測図・出土遺物実測図

S300 で出土した遺物は弥生後期の甕・高坏・壺・鉢形土器である。甕は口縁部が「く」の字状に屈曲し、頸部以下外器面には密にタタキが施される。高坏は 2 点とも坏底部と脚の接合部分で、脚裾は緩やかに広がる。壺は広口と複合口縁の 2 種を図示した。鉢は直線的に脚が広がる器形と見られる。

【S361】 (第 199)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S361	竪穴遺構	方形?	3.76	1.5 + α	F-3	S361 → S145、 S146	—	—	—	—	



第199図 S361実測図・出土遺物実測図

S361は方形を呈すると見られる竪穴遺構で、東西を中世の溝であるS145及びS146によって大きく削られている。床面はほぼ平坦にされているが、柱穴や炉跡などは確認できなかった。

S361から出土した遺物は弥生時代後期土器で、器種は甕・壺・脚付鉢・手捏ね鉢があった。甕は口縁部が「く」の字状に外反し、頸部以下は外器面にタタキを施している。壺は頸部から肩部にかけて櫛描波状文を描いている。脚付鉢は脚部に長さ3cmほどの台形状の透かしを三方に開けている。手捏ねの鉢は高さがあり、鉢としては深い形状となる。器面調整も縦方向に長い指頭圧痕が内外器面に残っている。

2. 土坑

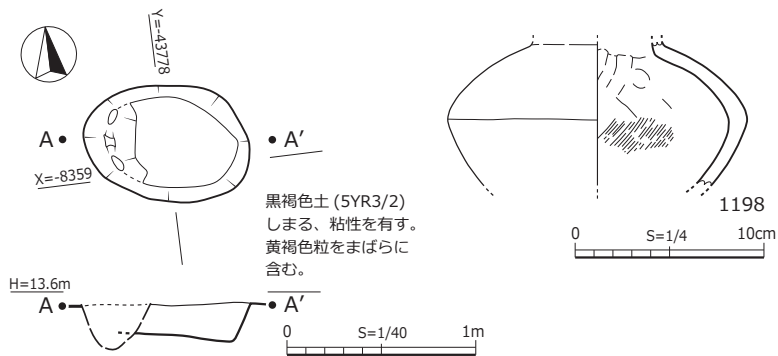
【S34】(第 200 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S34	土坑	楕円形	0.89	0.32	0.20	M-18	—	

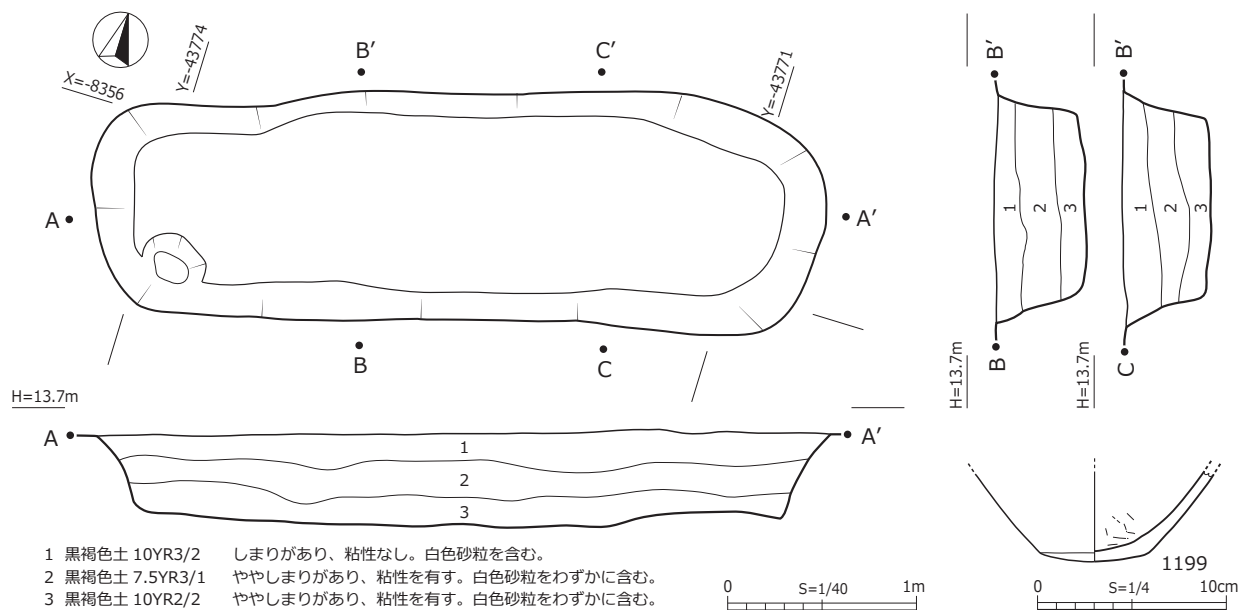
S34 は東西に長軸を持つ楕円形の土坑で、西側底面が根穴により攪乱を受けている。壺形土器を 1 点図化した。緩やかに屈曲した無文の胴部片で、形状から長頸壺と見られる。

【S58】(第 201 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S58	土坑	長方形	3.88	1.20	0.50	M-18	—	

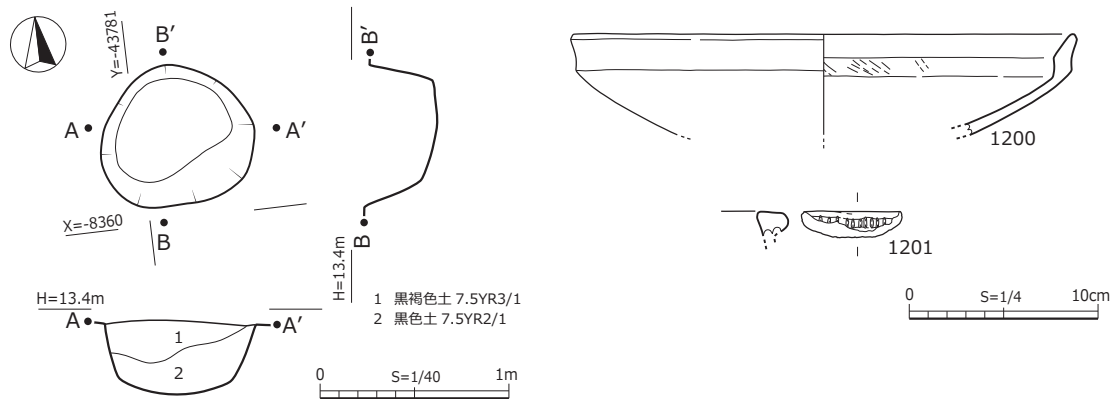


第 200 図 S34 実測図・出土遺物実測図

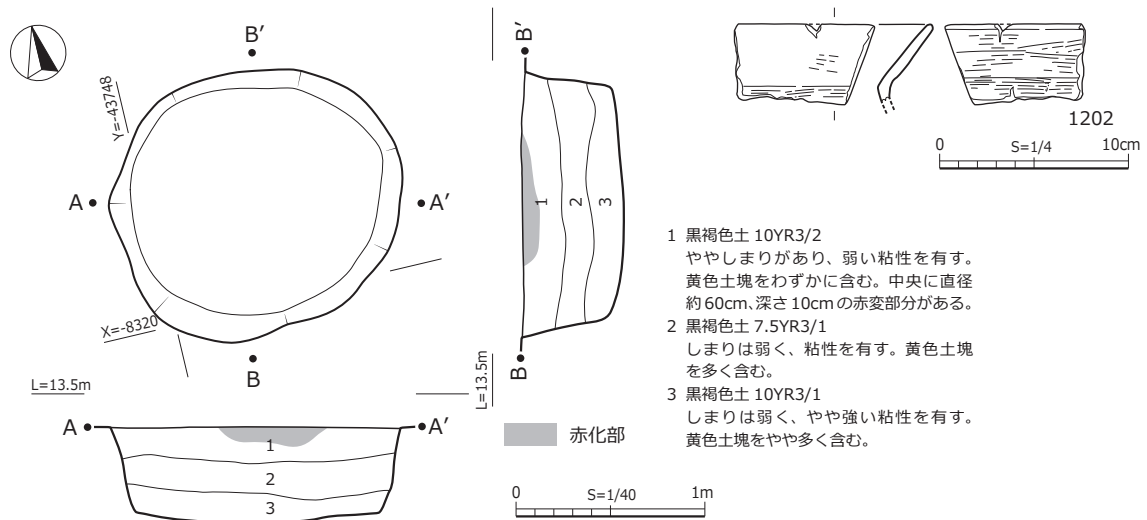


- 1 黒褐色土 10YR3/2 しまりがあり、粘性なし。白色砂粒を含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 10YR2/2 ややしまりがあり、粘性を有す。白色砂粒をわずかに含む。

第 201 図 S58 実測図・出土遺物実測図



第202図 S76 実測図・出土遺物実測図



第203図 S94 実測図・出土遺物実測図

S58 は長方形を呈する土坑で、弥生後期の所産と見られる丸底の壺が出土し、これを図示している。

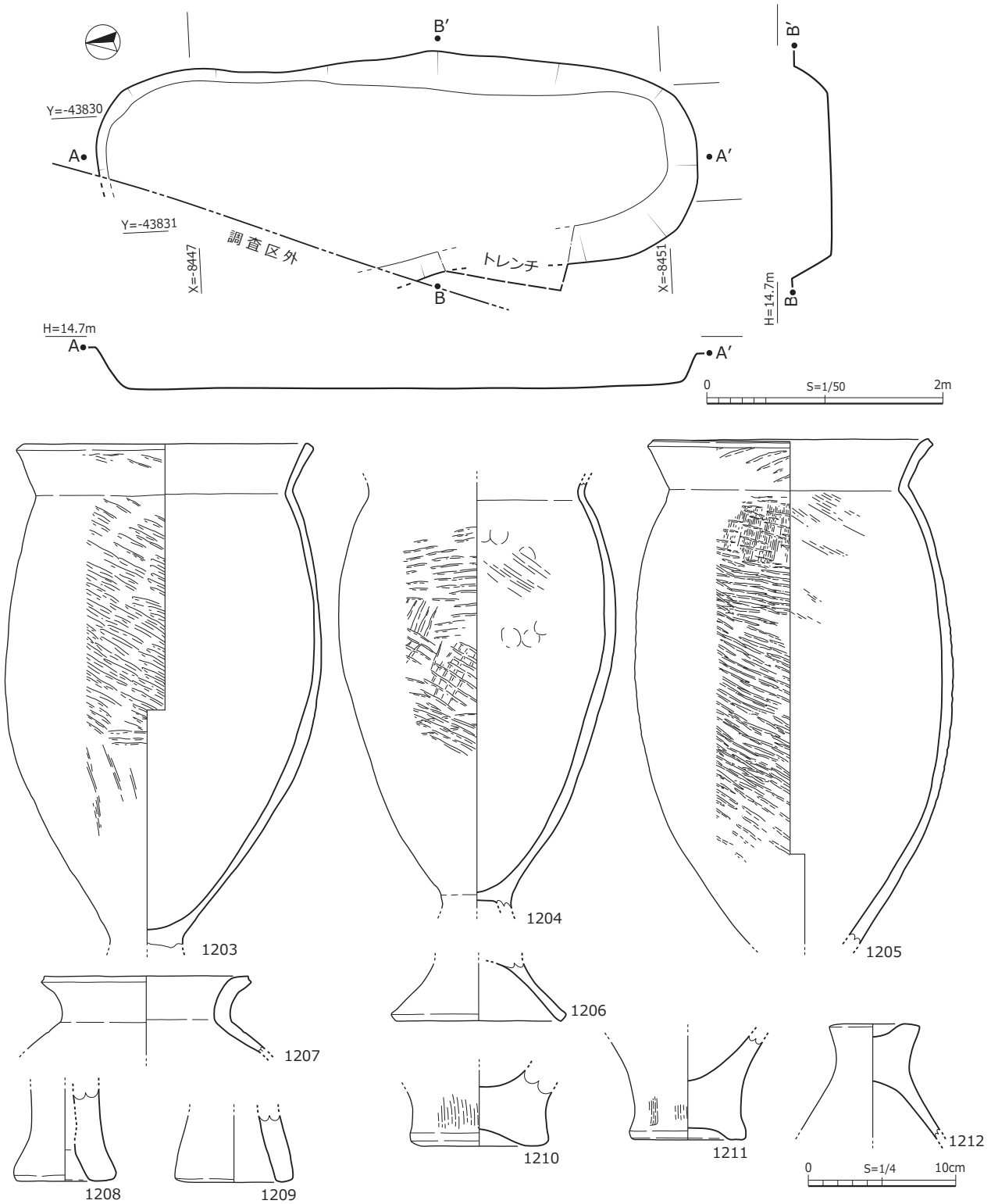
【S76】 (第202図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S76	土坑	円形	0.80	0.76	0.39	L-18	—	

S76 は円形を呈す土坑で、2点の土器を図化した。高坏は口縁部直下の内外器面に明瞭な屈曲がある。甕は小片で、口縁部の断面形状や刻目から弥生中期のものと思われる。遺構自体の時期は高坏の出土から弥生時代後期と考えている。

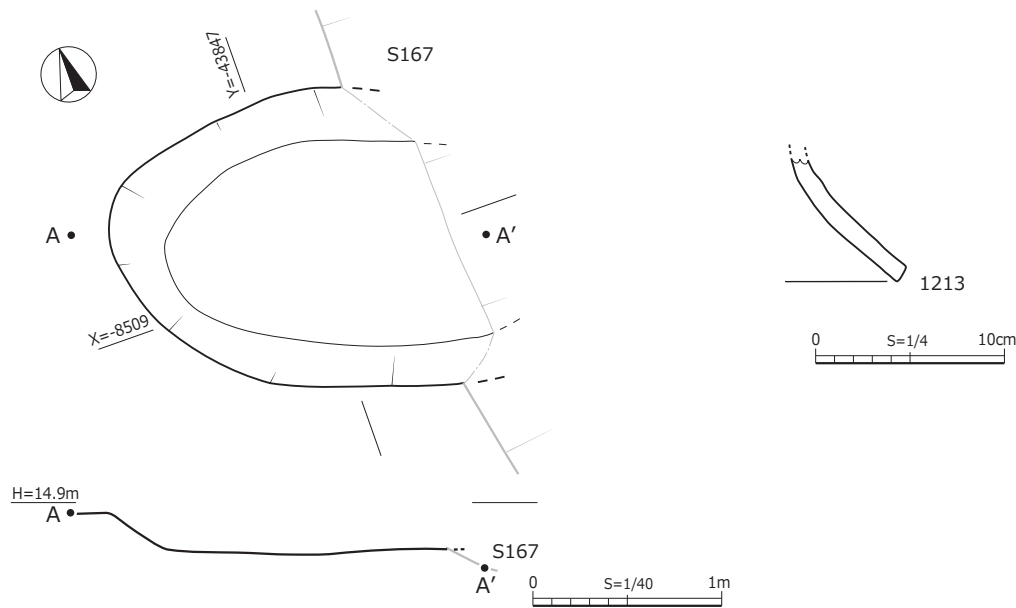
【S94】 (第203図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S94	土坑	円形	1.56	1.43	0.54	P-22	—	



第204図 S219 実測図・出土遺物実測図

S94は円形を呈す土坑である。土層断面図中の覆土1層は、中央の浅い部分でのみ確認した土層で、熱を受けたように赤化していた。土坑の埋没過程で堆積しており、上層の耕作土などから沈み込んだものと思われる。図化したのは甕の口縁部で、頸部から「く」の字状に開き、端部は丸みを帯びる。複合口縁の屈曲を頸部の内外でわずかに残している。



第205図 S358実測図・出土遺物実測図

【219】(第204図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S219	土坑	楕円形	5.04	1.90	0.33	G-9	—	

S219は楕円形を呈す土坑で、北西側は調査区外へ延びる。底面は平坦に掘り込まれている。S219から出土した土器を図示した。甕は口縁から底部下位まで3点が復元できた。3点とも「く」の字状に開く口縁部と、長胴で外器面の調整がタタキであること、脚部を打ち欠く手法などが共通している。この土器から、S219の時期は弥生時代後期でも後半から末頃と見られる。上げ底の甕底部と蓋の天井部は弥生中期土器の混入と見られる。なお、S219は土層の堆積状況と遺物の出土状況等の記録が残っていない。

【S358】(第205図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S358	土坑	楕円形	2.1 + α	1.60	0.22	F-3	S358 → S167	

S358は楕円形を呈すと見られる土坑で、東半分を古墳S167の周溝に切られている。掘り込み自体は浅く、底面は平坦な皿状の断面形状である。図示した土器は高坏の脚裾部で、脚柱部へ屈曲気味にすばまる器形と見られる。器壁は厚く、また小片でもあり穿孔は確認できなかった。

3. 溝

【S136】(第 206・207 図、図版 18・52・53)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長さ	幅				
S136	溝	(22.0)	5.50	C-1 ~ D-3	S148 → S136 → S138	皿形	

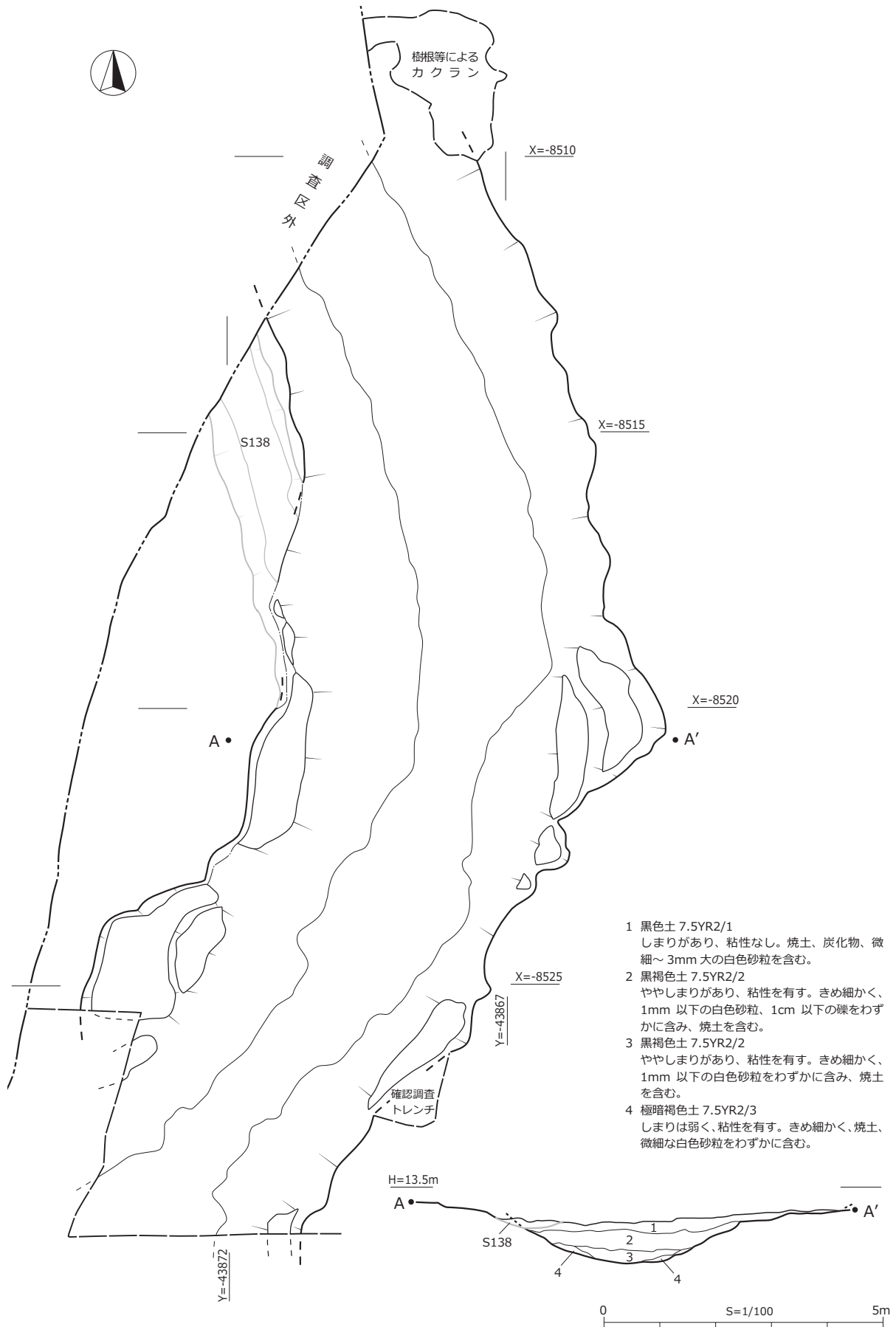
S136 は緩やかに湾曲する溝で、弥生時代後期の時期と考えている。調査区南端付近で確認し、南及び西側は調査区外へと延びている。遺構検出面では幅が約 5.5 m、深さ 0.8 m ほどで、断面の形状は浅い皿状を呈する。

S136 からは弥生時代～中世にかけての土器や石器が出土している。このうち、古墳時代初頭の土器が量・内容ともに充実しており遺構はこの時期に大部分が埋没したと考えている。高坏や鉢などに付く脚部が検出され、これを多く図示している。やや低い脚で、焼成前に穿孔されている。また、底面からは脚付舟形土器が出土した。全体に丁寧なナデ調整で仕上げを行い、底部は脚が付いていたとみられる。玉名市内では東南大門遺跡で酷似した土製品が出土している。土製模造鏡もこの時期と考えられる。弥生時代の遺物としては弥生時代中期及び後期の甕で、石鏃も調査区北側で多くみられたように、中期の所産と考えられる。また、埋土上位には中世の土師器杯や青磁碗の口縁部が出土し、後の時代の遺物が混入した状況が見られる。

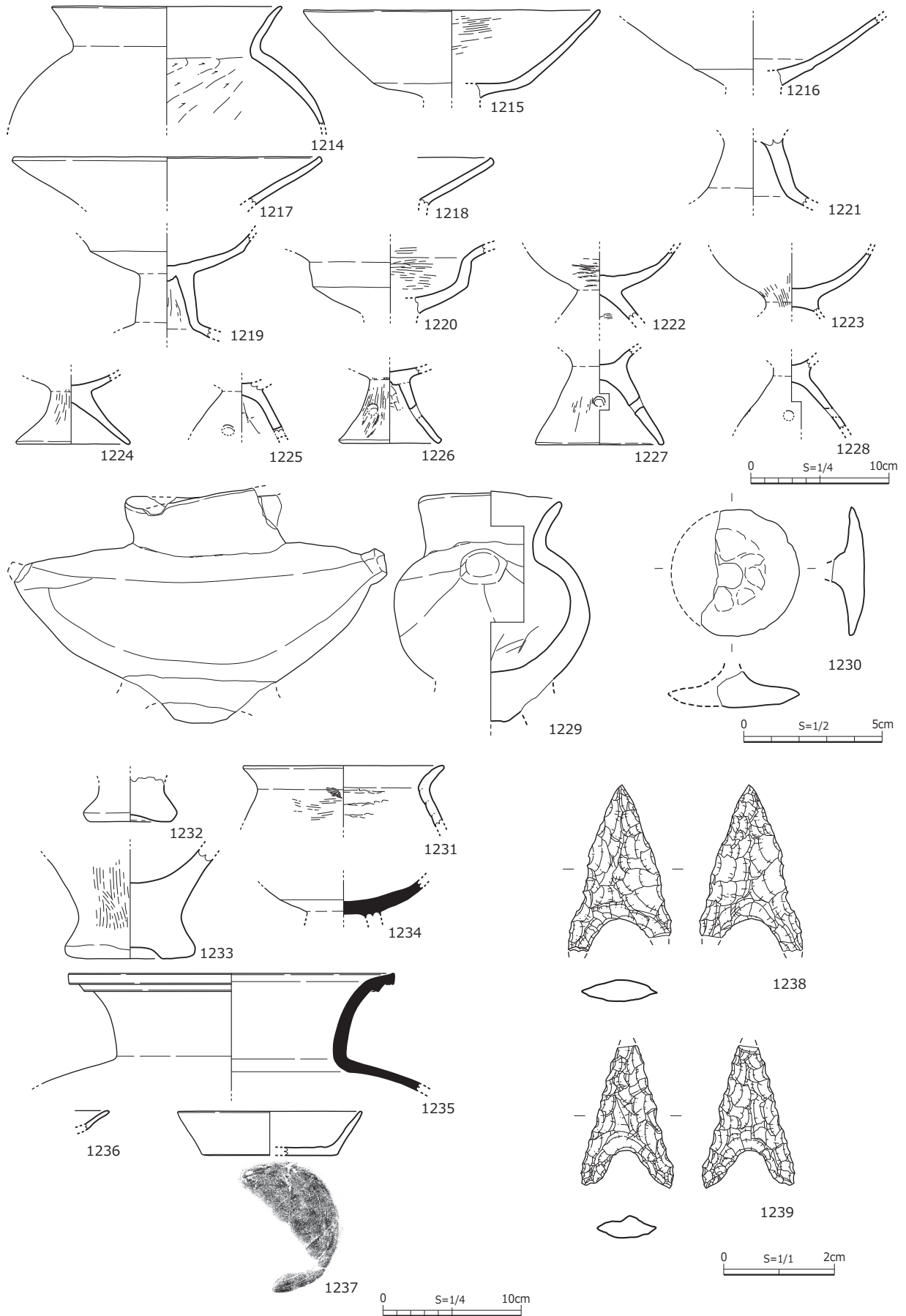
【S148】(第 208 図)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長さ	幅				
S148	溝	(7.24)	0.54 ~ 2.13	D-2・D-3	S148 → S136、S189	皿形	

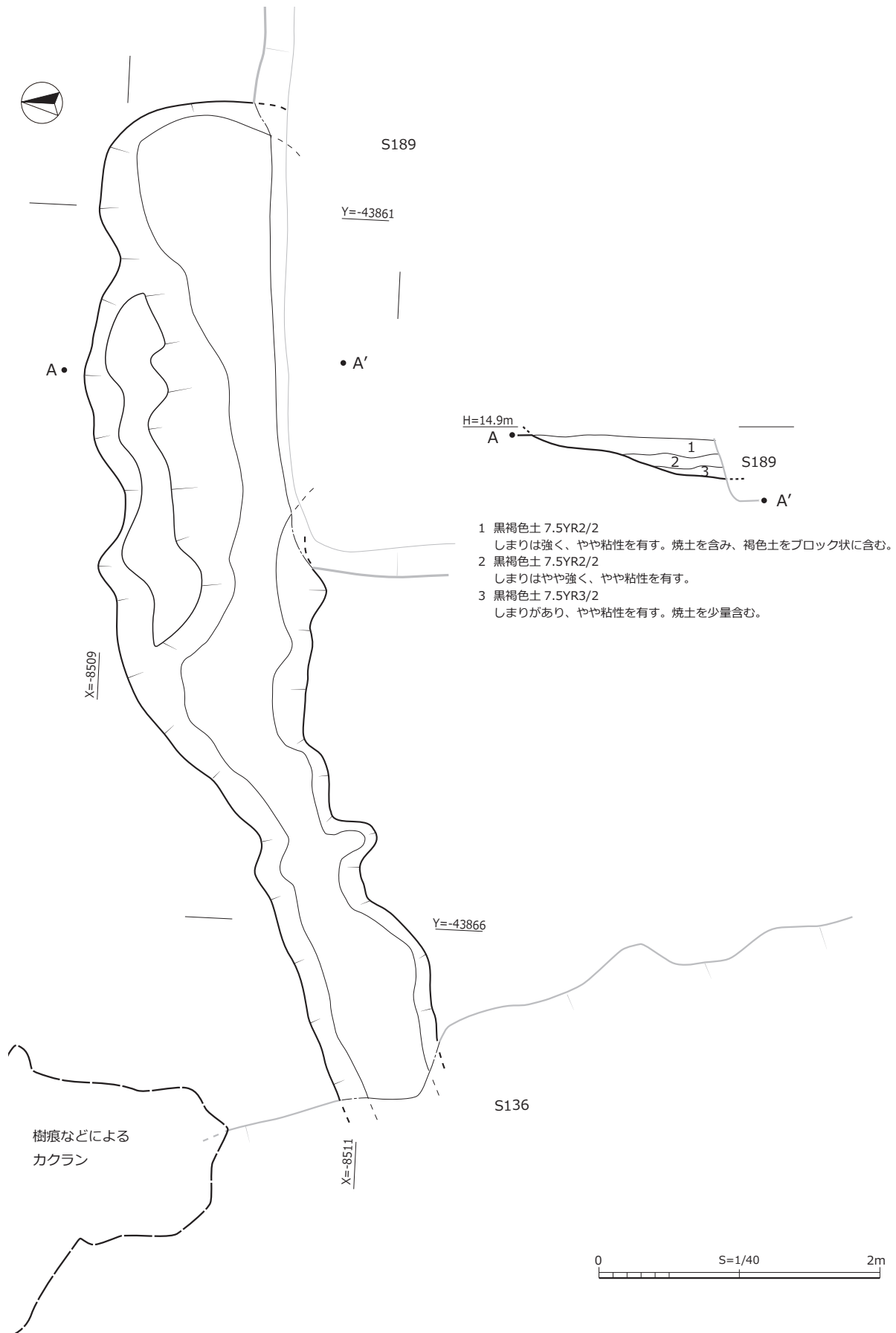
S148 は東西方向に延びる溝で、残存の長さ 7.2 m、幅は約 0.5 ~ 2.0 m と差がある。明確に時期を示す遺物は出土していない。西側で弥生時代後期と見られる S136 に切られるが、时期的に近いものとして見ている。



第206図 S136実測図



第 207 図 S136 出土遺物実測図



第 208 図 S148 実測図

第5節 古墳時代の遺構・遺物

古墳時代については、前期及び中期の遺構・遺物を検出した。前期の遺構としては、竪穴住居 14 基、土坑 11 基を検出した。中期の遺構としては、古墳 6 基（内 2 基は主体部消失）を検出した。各遺構及び出土遺物の詳細は以下のとおりである。

(1) 古墳時代前期の遺構・遺物

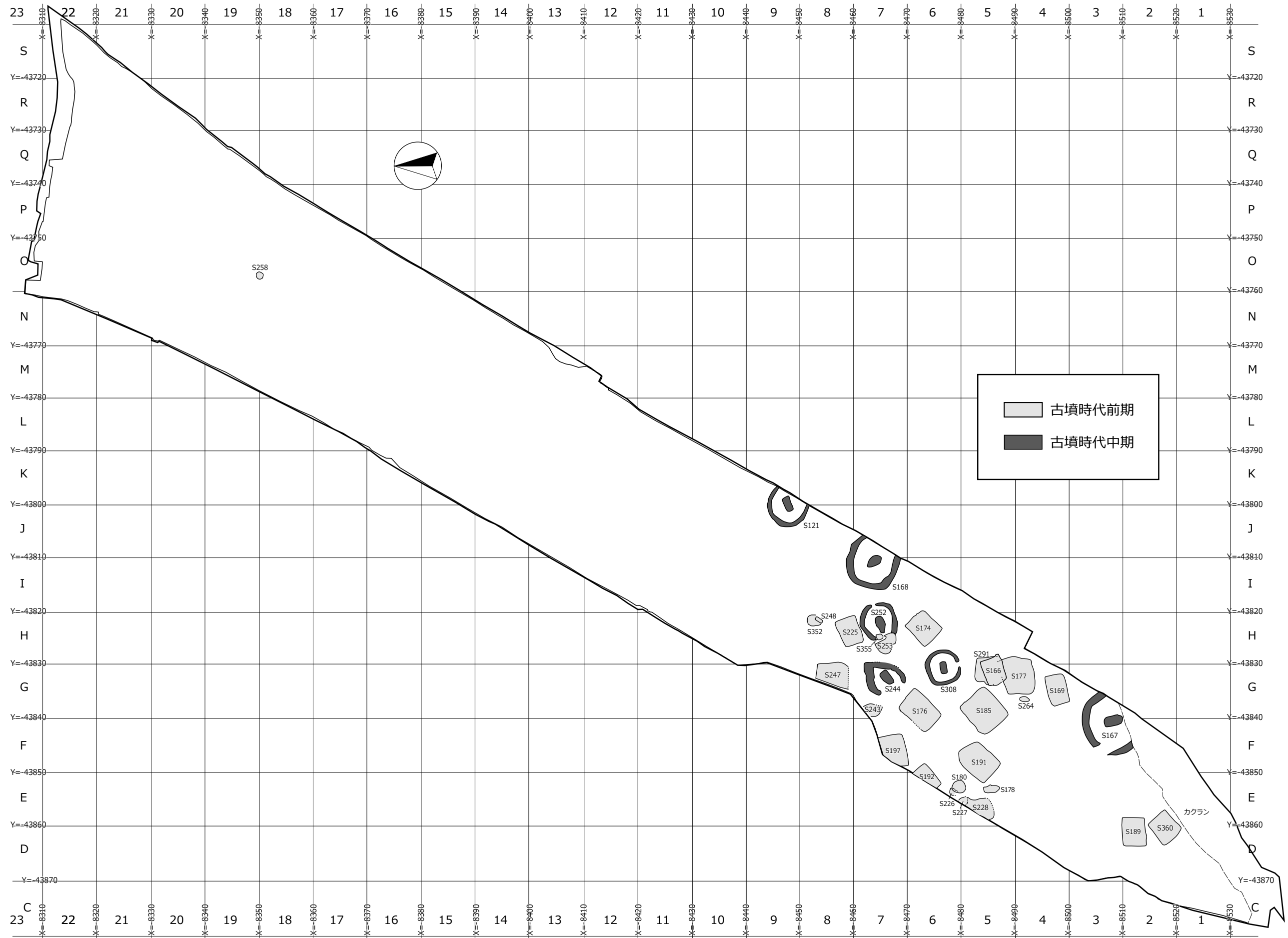
1. 竪穴住居

【S166】（第 210 ～ 214 図、図版 18・54 ～ 58）

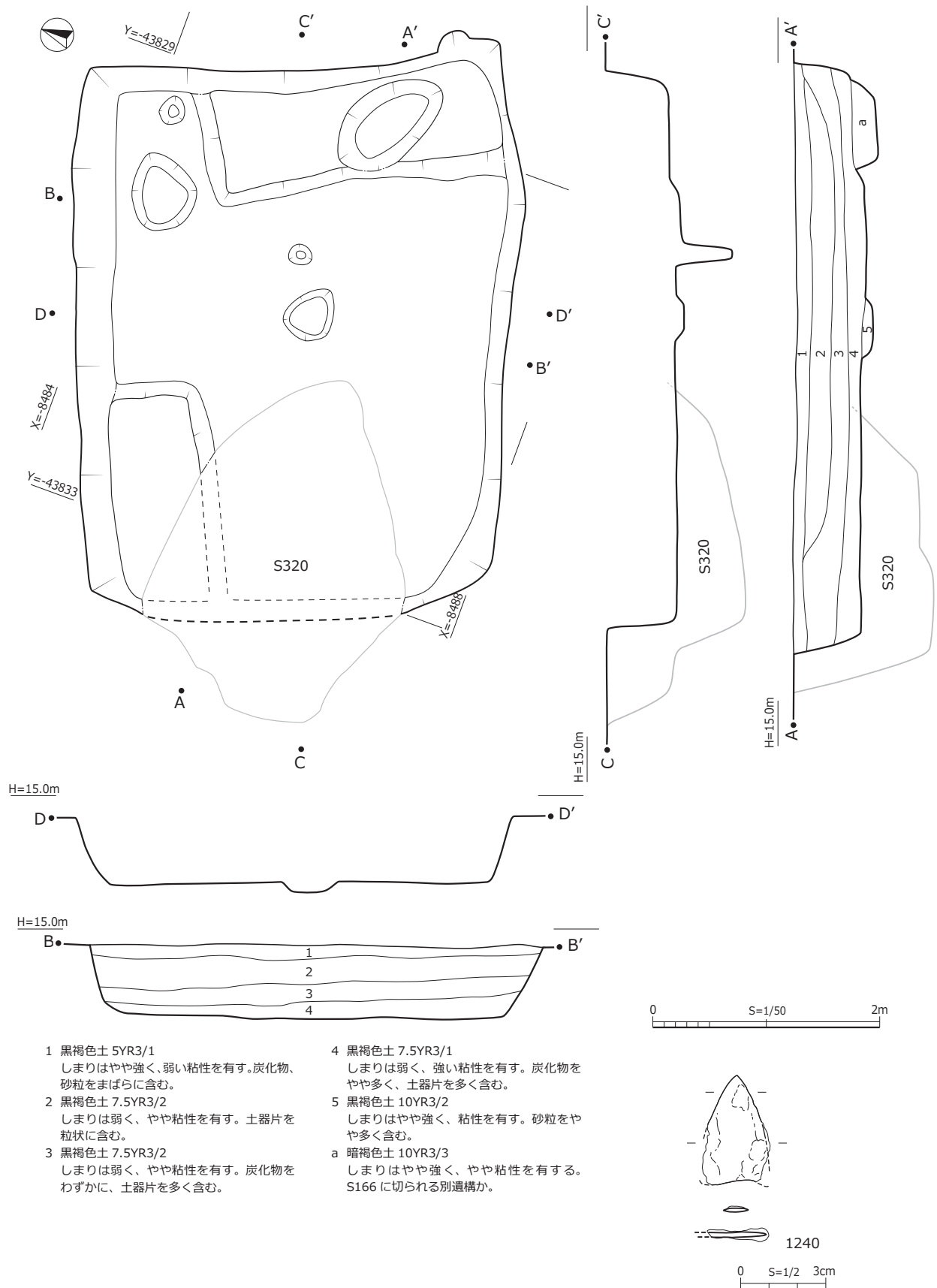
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S166	竪穴住居	長方形	4.90	4.0	G-5	S177、S291、 S320 → S166	2本柱?	円形	北西・東側	×	

S166 は長方形を呈す竪穴住居跡で、古墳時代前期の時期と見られる。周辺の甕棺墓壙と見られる S320、弥生終末～古墳時代初頭の竪穴住居跡 S177 及び古墳前期の竪穴住居跡 S291 など複数の遺構埋土を掘り込んで作られている。構造は北西・東側の壁際にベッド状遺構が地山の削り出しによって作られ、中央には炉跡と考えられる略円形の浅い掘り込みがある。その東には深さ約 60cm の主柱穴がある。西側主柱穴は、S166 に一部先行して S320 を掘ったことによって失われてしまった。また、平面図では東側ベッド状遺構上にあり断面図で「a 層」としているピットは、S166 以前の別遺構の可能性はある。

S166 から出土した遺物のうち鉄器（鉄鏃）、土師器を図示した。鉄鏃は非常に薄い作りで、基部は凹んでいる。土師器を器種ごとに見ると、甕は外器面にハケメ、内器面にヘラケズリを施し、球形胴で尖り気味の丸底を作る布留系が主体となる。なお、長胴気味のものや、外器面にタタキが明瞭に残る甕も少量出土している。甕より頸部の締まりが強いものを壺として集めた。球形胴で丸底、内外器面の調整は甕と同様である。高坏は坏下半部に段を持ち、脚裾が大きく広がるものが多い。鉢及び脚付鉢は丸底で単純に口縁が開くもの、頸部で屈曲するものがあり、短い脚を取り付けるものがある。大型の鉢も出土している。器台は浅い皿状の上端部に脚を付けた作りで、直線的な器形を呈す。

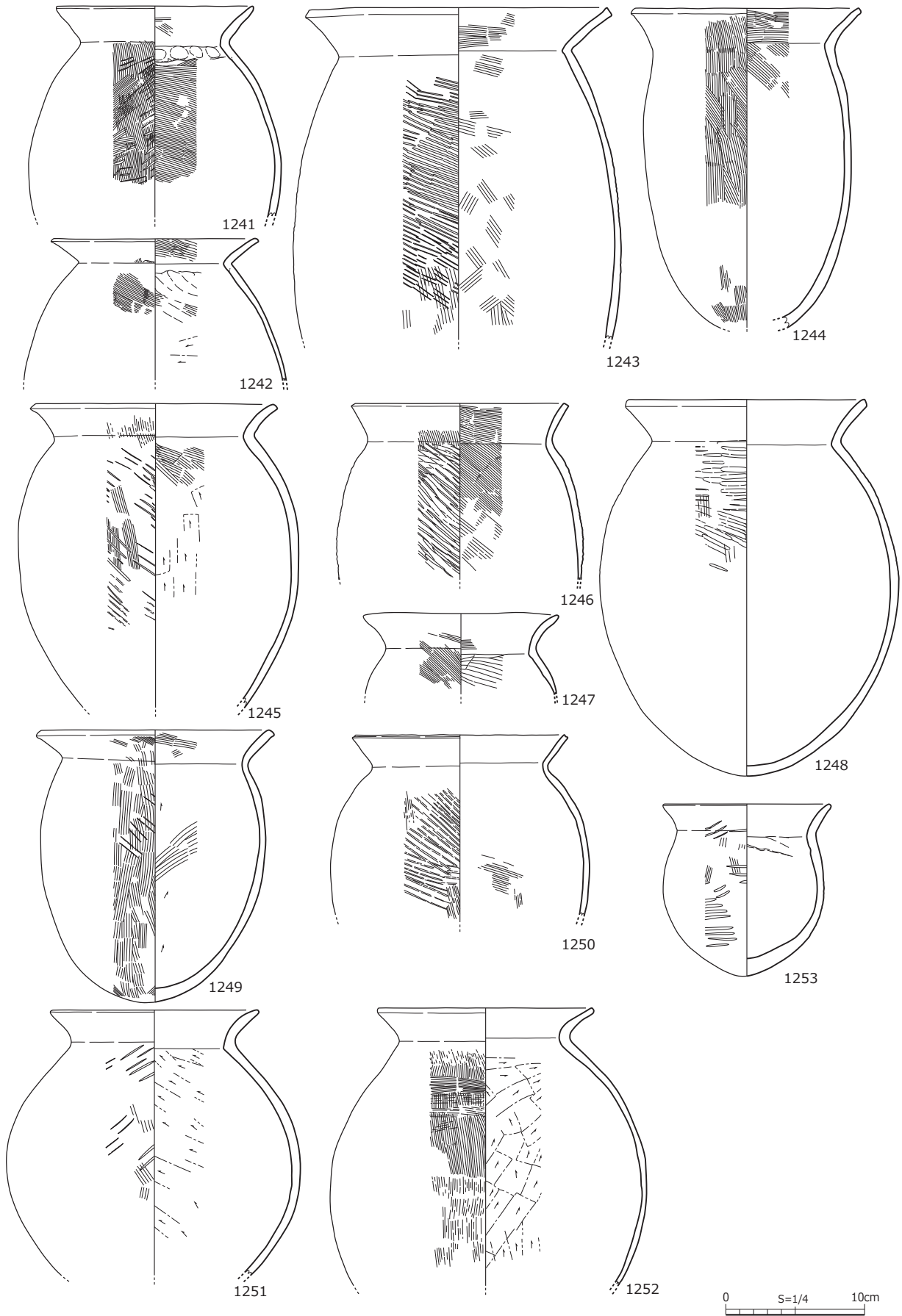


第 209 図 古墳時代遺構配置図 S=1/700

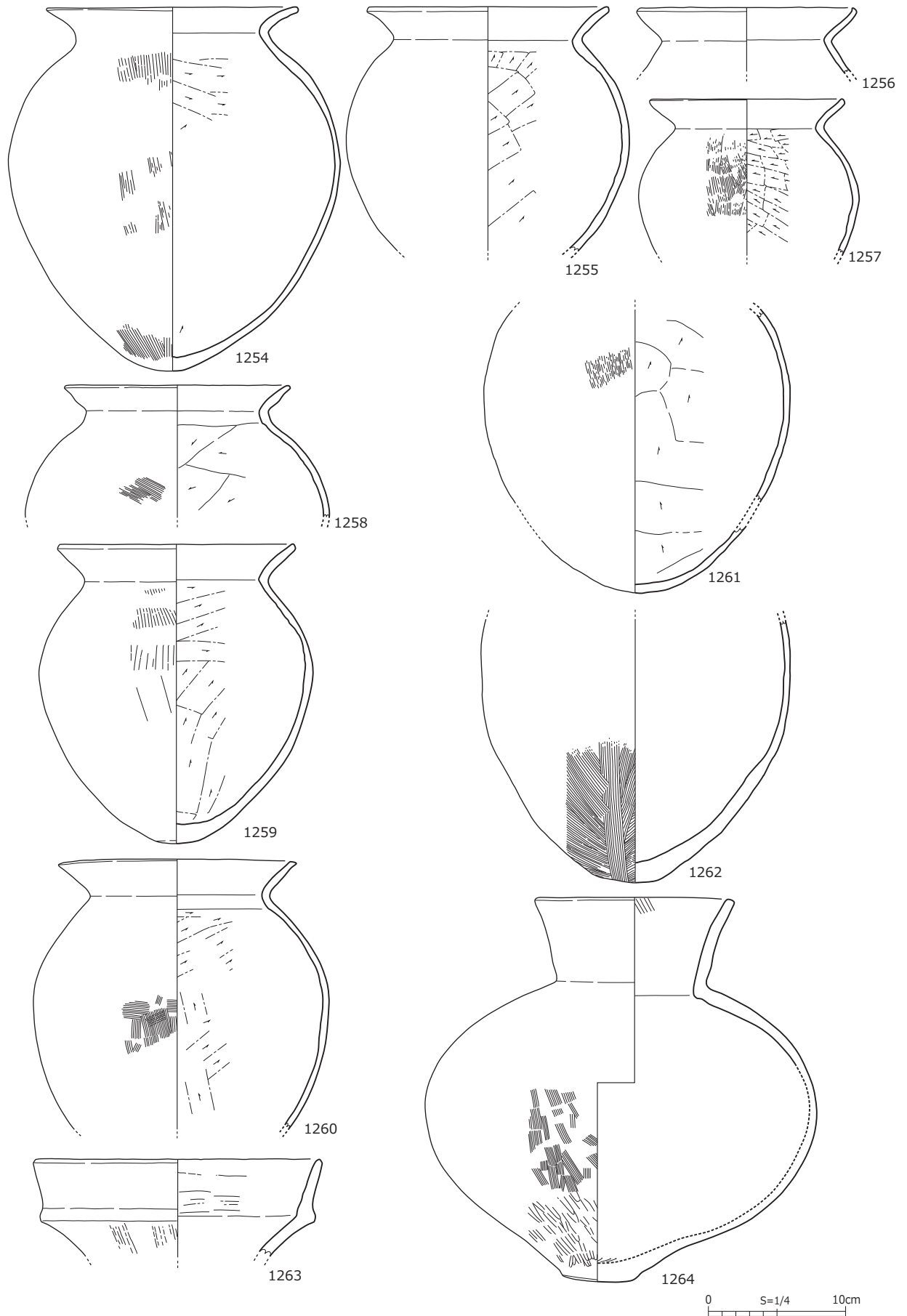


- | | |
|--|--|
| <p>1 黒褐色土 5YR3/1
しまりはやや強く、弱い粘性を有す。炭化物、砂粒をまばらに含む。</p> <p>2 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりは弱く、やや粘性を有す。土器片を粒状に含む。</p> <p>3 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりは弱く、やや粘性を有す。炭化物をわずかに、土器片を多く含む。</p> | <p>4 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりは弱く、強い粘性を有す。炭化物をやや多く、土器片を多く含む。</p> <p>5 黒褐色土 10YR3/2
しまりはやや強く、粘性を有す。砂粒をやや多く含む。</p> <p>a 暗褐色土 10YR3/3
しまりはやや強く、やや粘性を有する。S166 に切られる別遺構か。</p> |
|--|--|

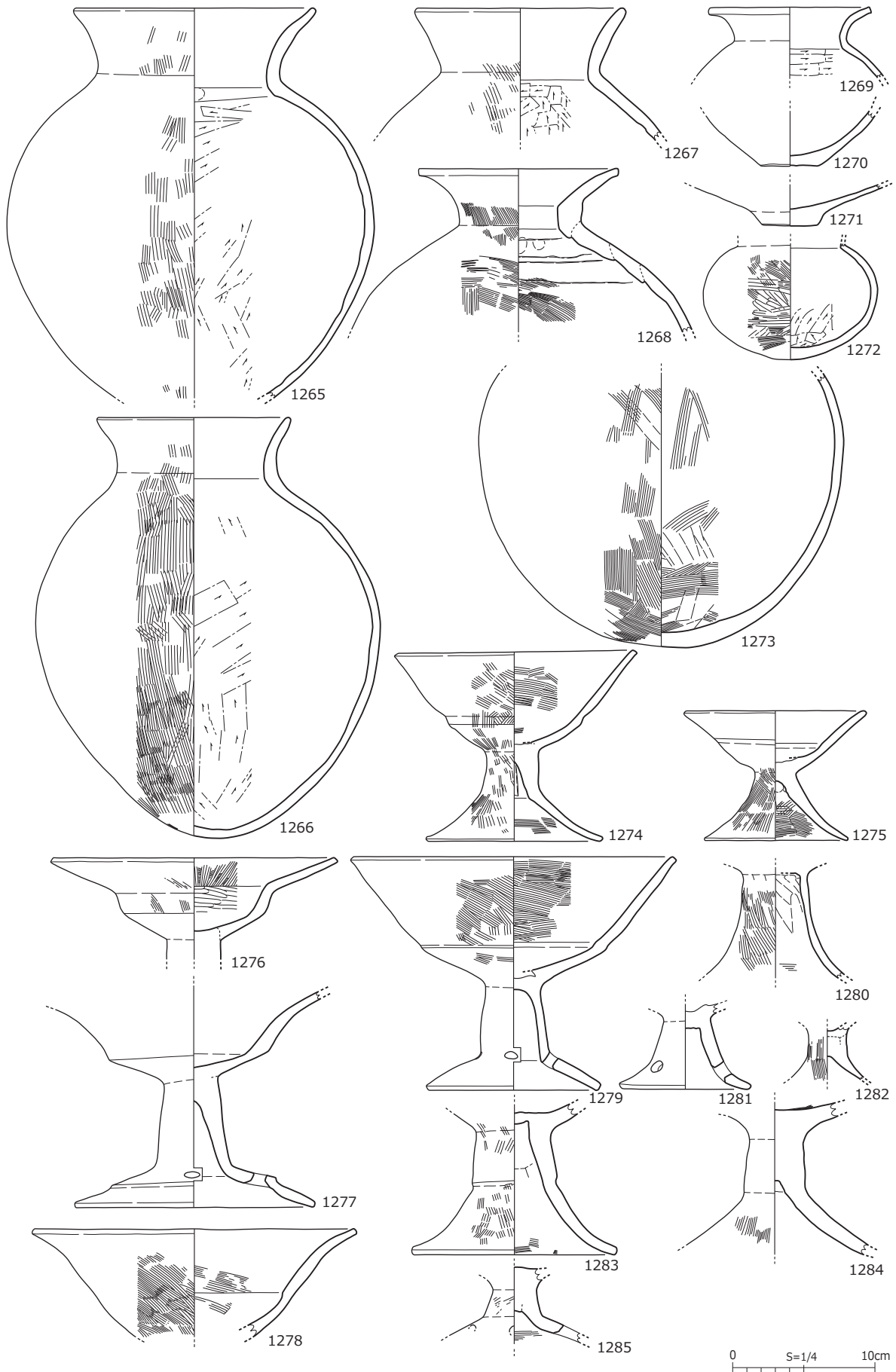
第 210 図 S166 実測図・出土遺物実測図 1



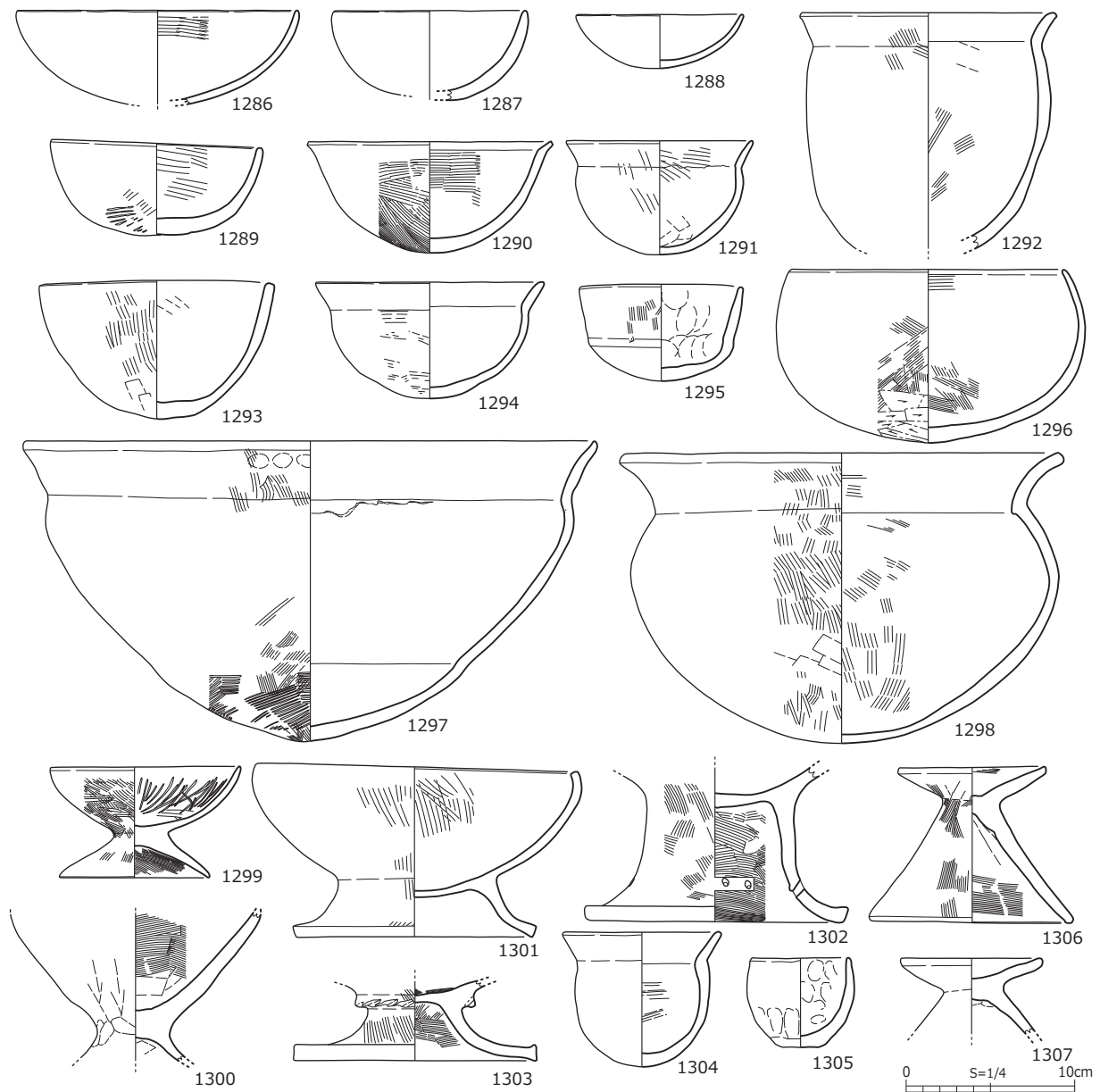
第 211 図 S166 出土遺物実測図 2



第212図 S166 出土遺物実測図3



第 213 図 S166 実測図・出土遺物実測図 4

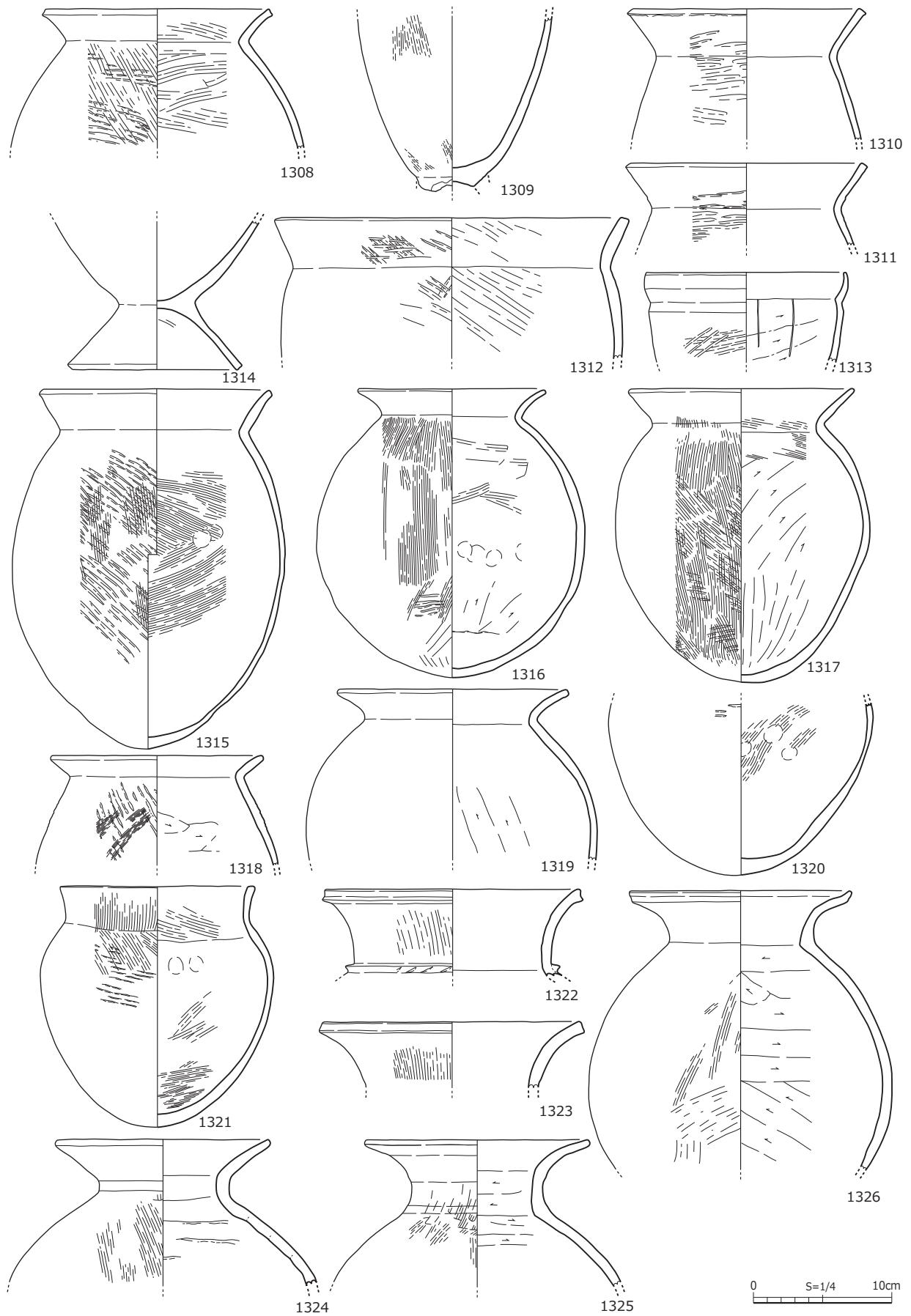


第214図 S166 出土遺物実測図5

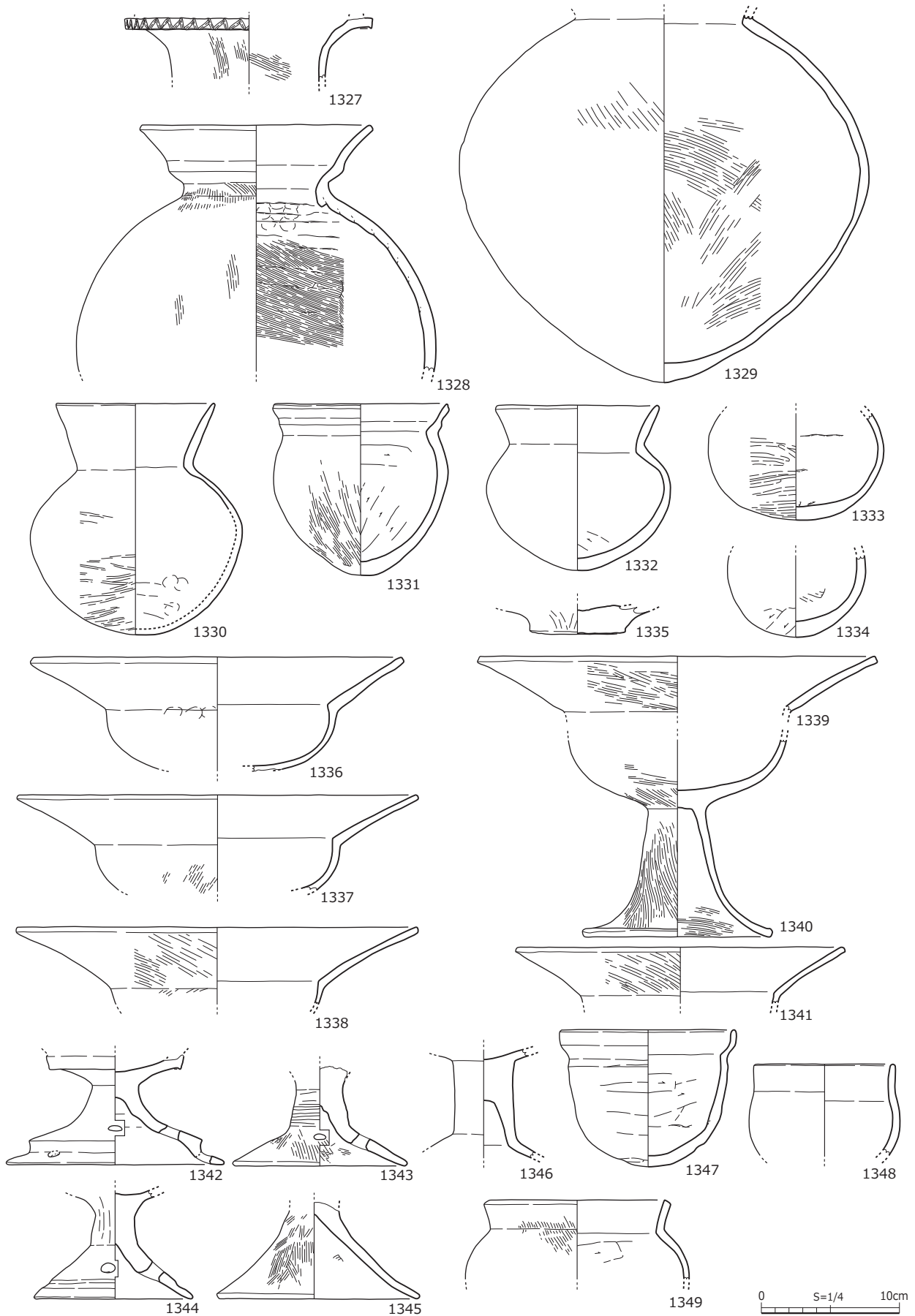
【S169】(第215～218図、図版18・58～61)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S169	竪穴住居	長方形	5.62	3.48	G-4	—	2本柱	楕円形	北東・西側	南東・東側	

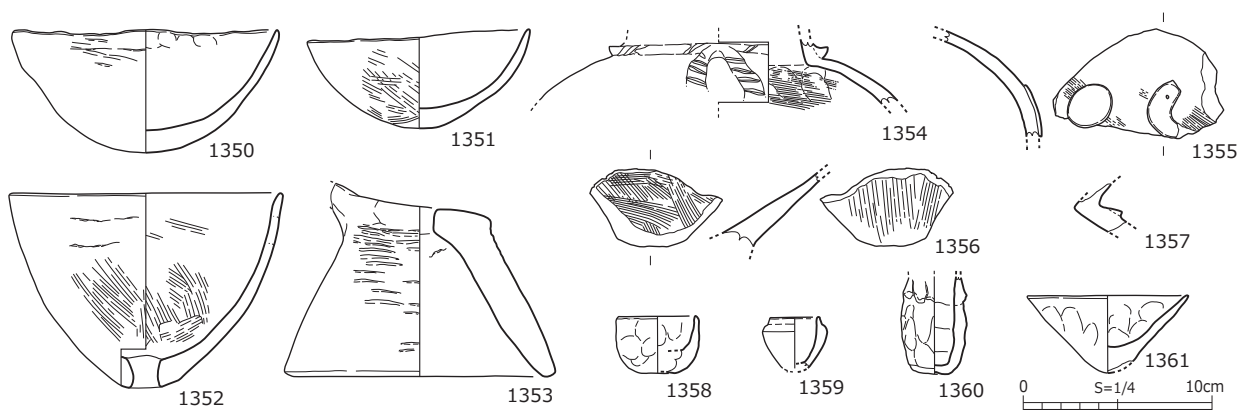
S169は長方形を呈す竪穴住居跡で、住居の廃絶時に大量の土器を廃棄した遺構である。廃棄された土器群は古墳時代前期のものであり、堆積の状況から住居の廃絶よりあまり間を置かずに土器の廃棄が行われたと考えられる。住居跡は長軸上に2本の支柱穴とやや南にずれてはいるが炉跡があり、北東と西の壁際には奥行き1m弱のベッド状遺構が削り出しによって作られるなど、住居に付帯する施設は基本的に弥生時代後期と変わりはない。大きな違いは長辺がかなり長めに作られている程度である。



第216図 S169出土遺物実測図1



第 217 図 S169 出土遺物実測図 2



第218図 S169出土遺物実測図3

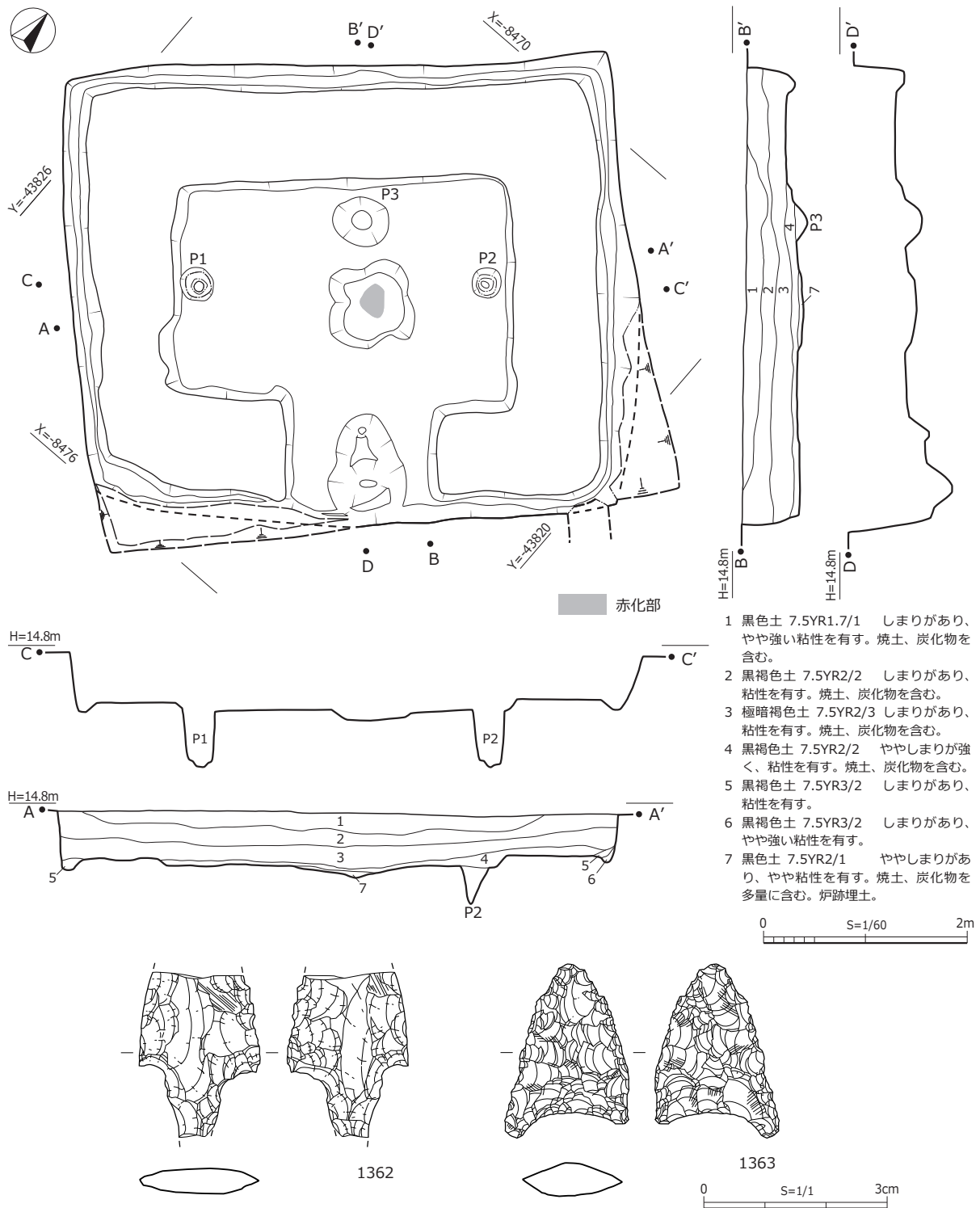
S169から出土した土器を図示しているが、ほとんどが3層または4層からの出土である。弥生時代後期土器と古墳時代の土師器で、後者が主体となる。土師器は多くの器種が認められる。甕は丸みを持った胴部と尖り気味の丸底、内器面にはヘラケズリを施す器形が多い。弥生時代後期末の、長胴でタタキをナデ消さないものや意図的に脚部を打ち欠いた甕が少量出土している。壺は頸部が締め、胴部は球形に近い。高坏はS141で一括して見つかったものによく似た、坏部の口径が大きく屈曲部より下位が丸い器形や、脚部に段を設けている器形がある。鉢としたものは口径の大きさや頸部の締めりだけでは甕または壺との区別が付きにくいものがある。弥生以来の器形と見られる、屈曲を持たない半円形の鉢も図示した。この鉢器形の底部に穿孔しただけの器形の甕が1点出土している。杵形支脚は胴部外面や上面にタタキを残している。弥生時代の壺と見られる胴部資料に、円形と勾玉の形を模したと見られる貼付文を施したものがあつた。勾玉形は緩く鉤状に曲がっており、上方に孔の表現がある。隣の円形貼付文は鏡を表現しているのかもしれない。手捏ね土器はすべて鉢形としているが、個体差が大きい。

【S174】(第219・220図、図版19・62・63)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S174	竪穴住居	長方形	5.60	4.55	H-6	—	2本柱	不整形	ほぼ全周	全周	

S174は長方形を呈する古墳時代前期の竪穴住居跡で、長軸(C-C'断面)上に2基の支柱穴があり、その間に浅い炉を作る。南東部の中央付近を除く壁際には壁周溝を掘り、削り出しの低いベッド状遺構がある。この壁周溝とベッド状遺構の切れ目にはやや深いピットが掘られているが、出入口に関連する施設と考えられる。

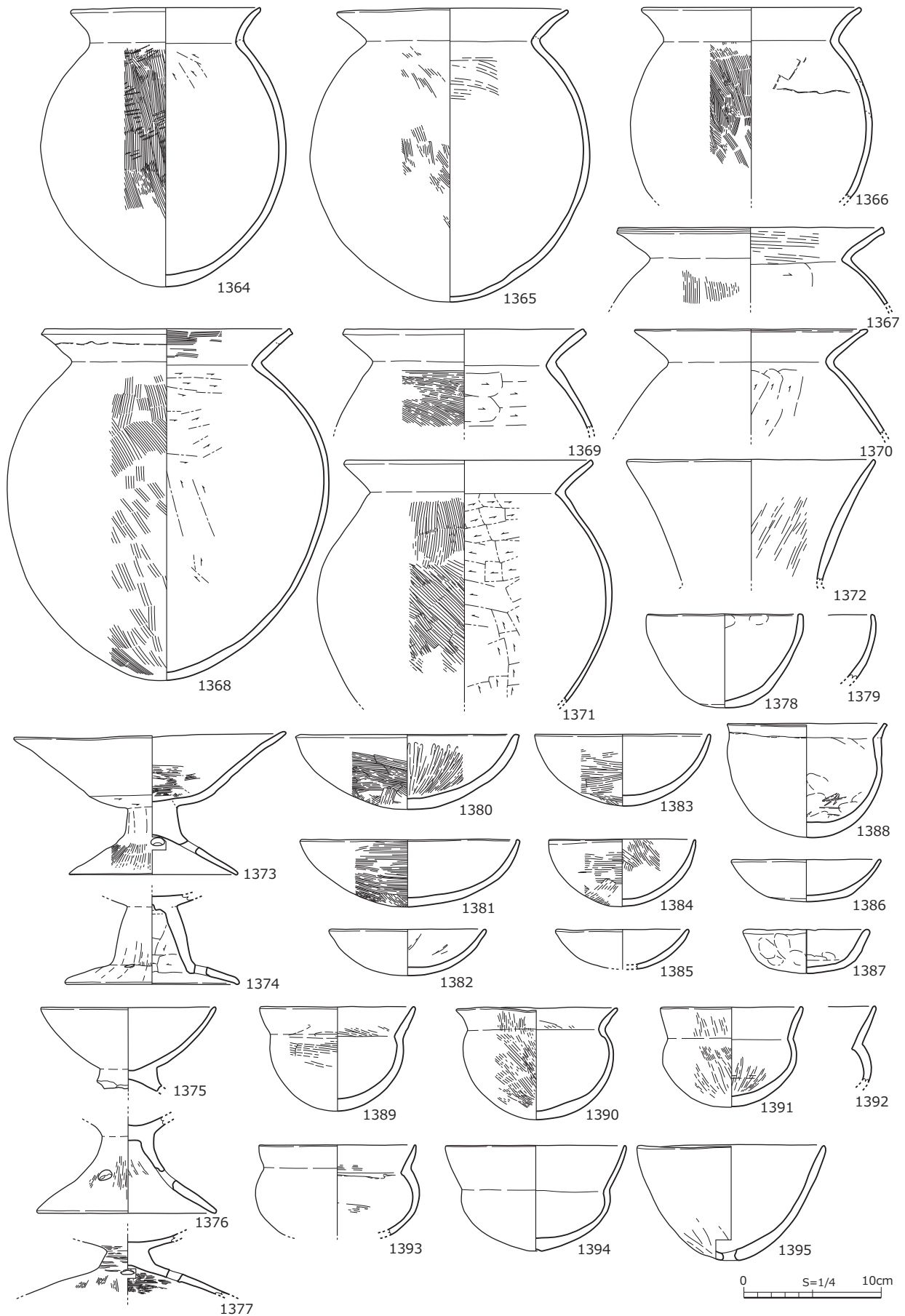
出土遺物は石器・土師器がある。石器は鏃で安山岩製で基部に柄を作るものと黒曜石製で基部を弧状にくぼませるものがあつた。土師器は住居跡出土の一括性が高い甕・壺・高坏・鉢・甕などの器種が安定的に見られる。



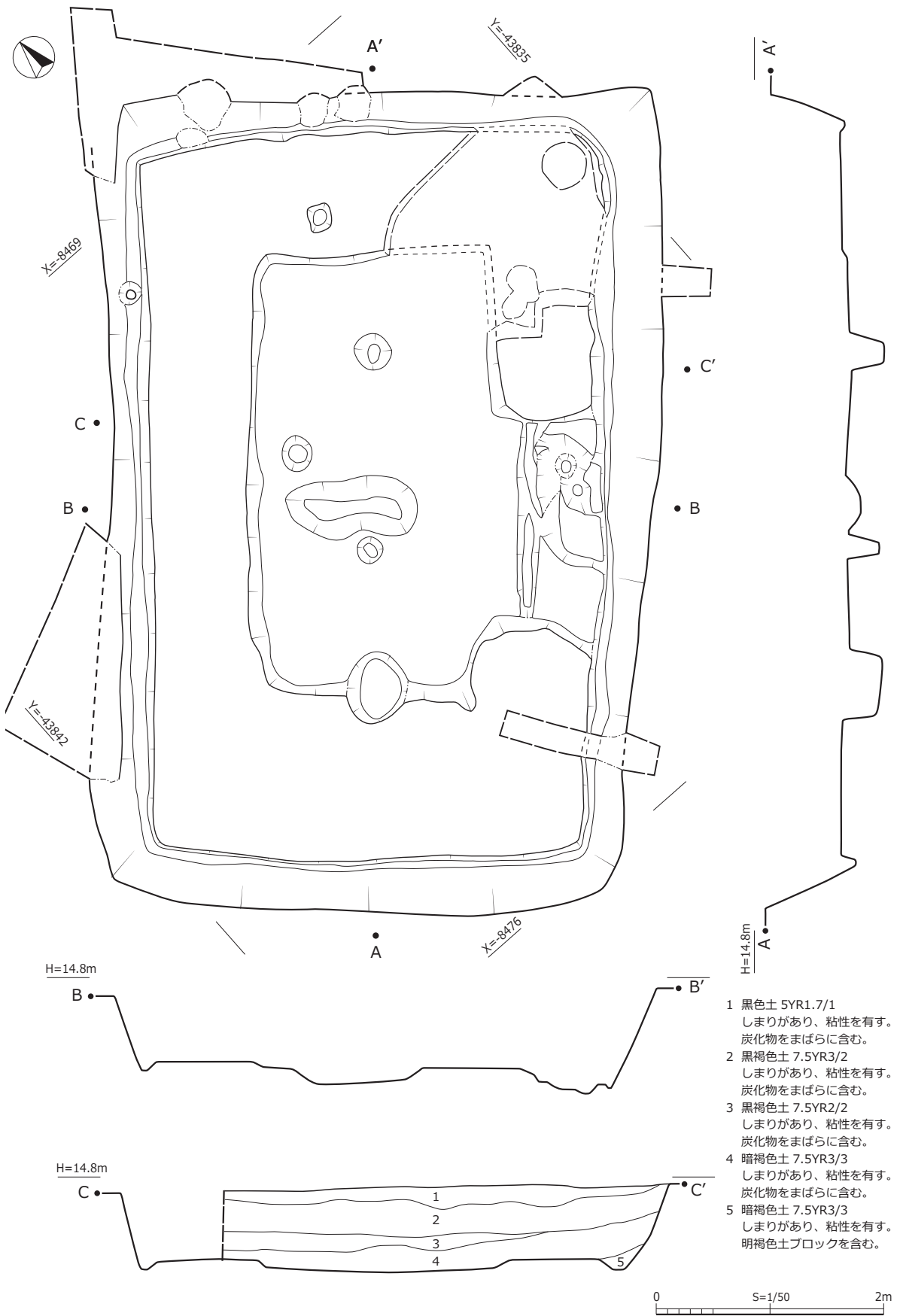
第 219 図 S174 実測図・出土遺物実測図 1

【S176】(第 221 ~ 223 図、巻頭図版 3、図版 19・63・64)

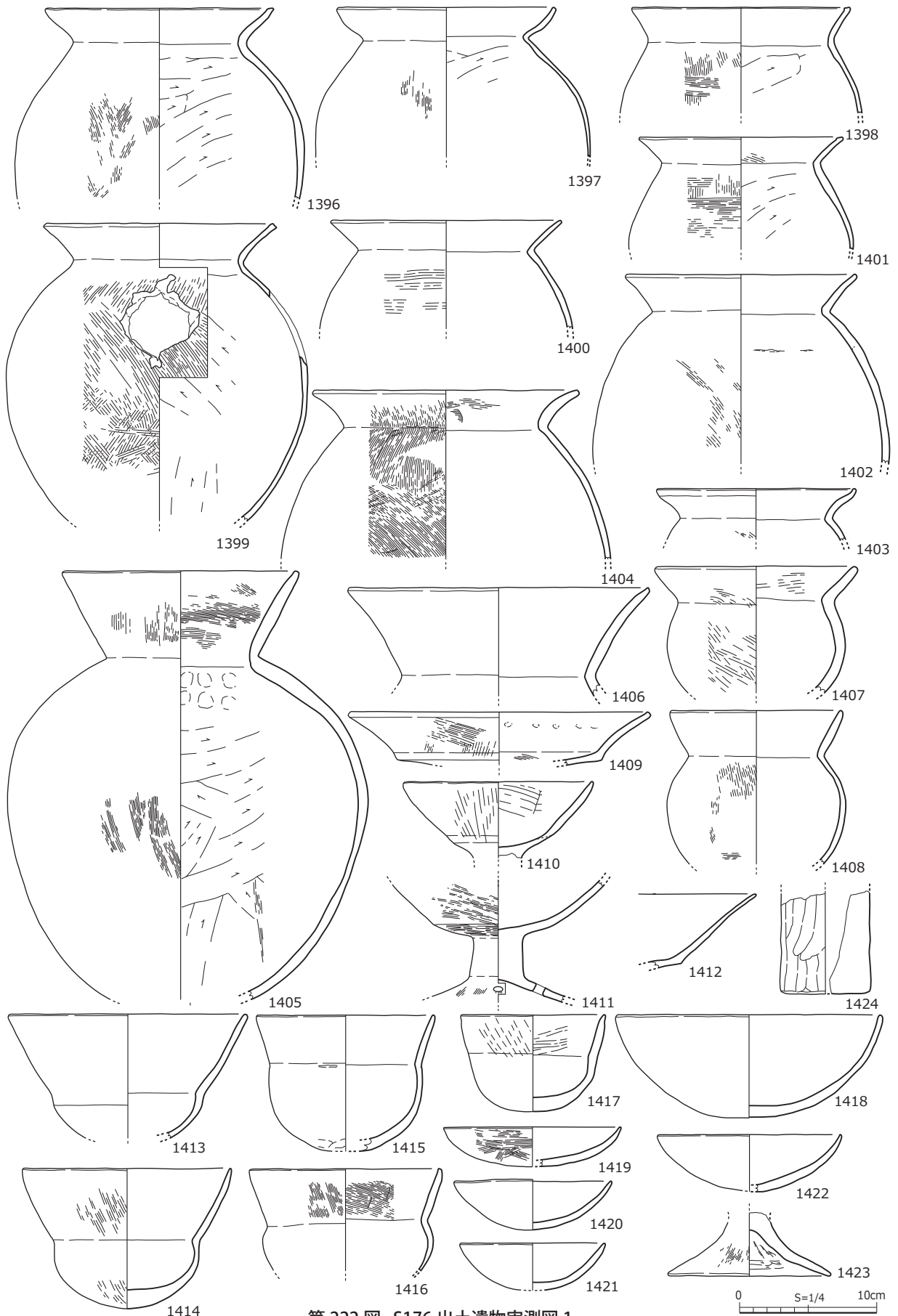
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S176	竪穴住居	長方形	7.18	4.82	G-6	—	2本柱	不整形	ほぼ全周	全周	



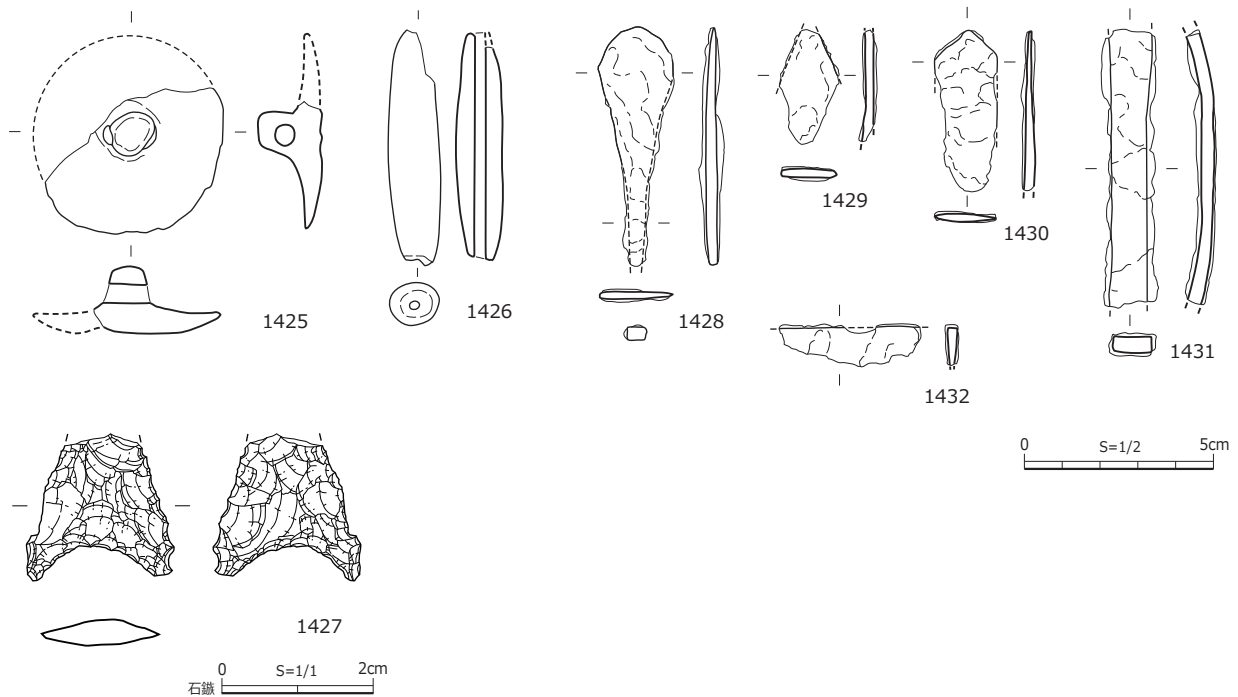
第220図 S174 出土遺物実測図2



第 221 図 S176 実測図



第222図 S176 出土遺物実測図1



第 223 図 S176 出土遺物実測図 2

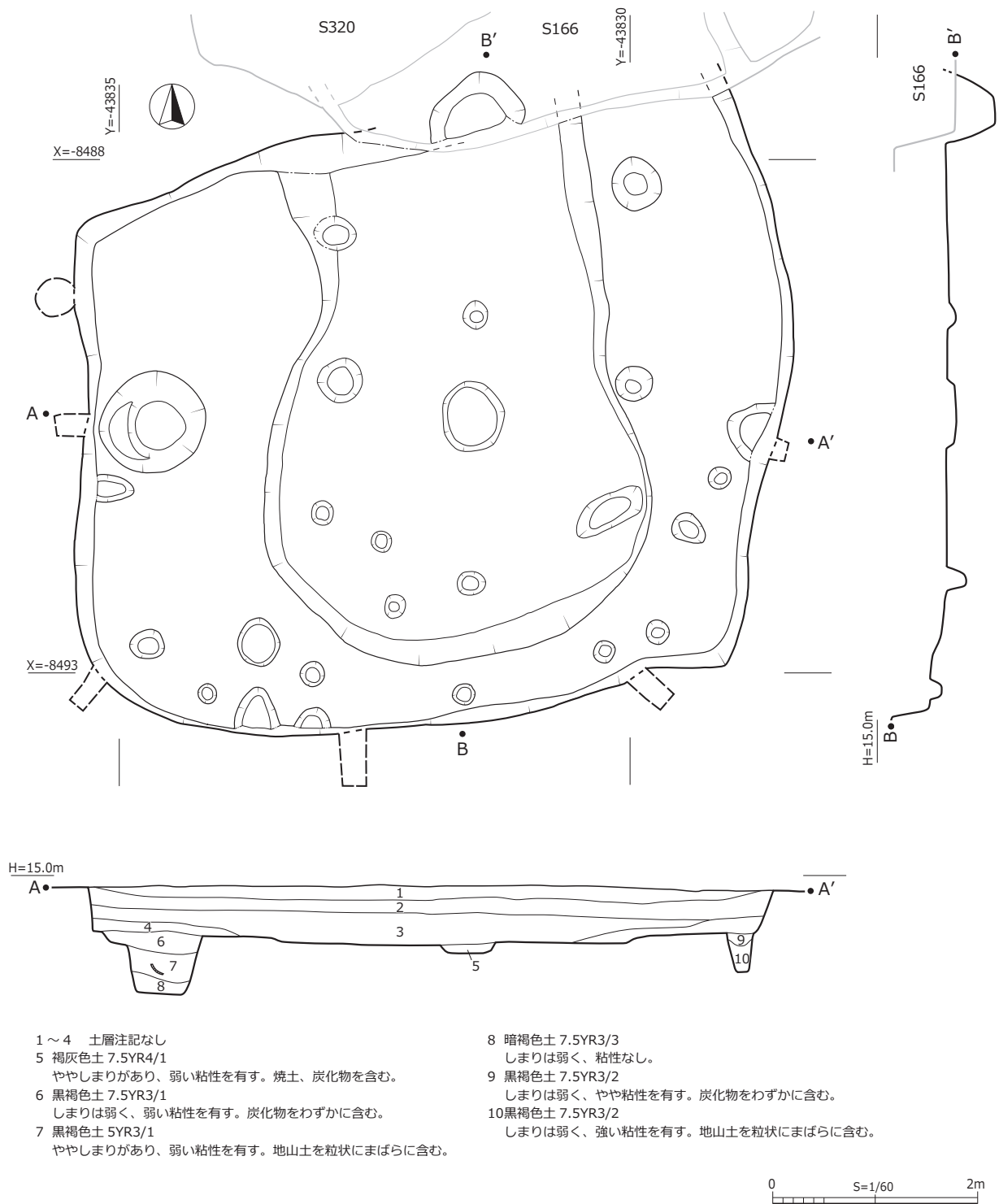
S176 は長方形を呈する古墳時代前期の竪穴住居跡である。中央に細長い炉の掘り込みと、長軸線上に 2 本の支柱穴がある。また、長辺の一つである南東壁の中央には出入口に関すると思われる空間やピットがあり、この部分だけはベッド状遺構が途切れている。壁周溝はこの部分も含め、より内側に掘り込まれて一周する。

図示した遺物は土師器、土製品（模造鏡・土錘）、石器（鏃）、鉄器である。土師器は甕の胴部上位に穿孔したものがあつた。土製模造鏡は丁寧なナデで仕上げられ、鈕部分の残りが良かった。石鏃は弥生時代の遺物混入と見ている。鉄器は鏃 3 点、刀子及び器種不明 1 点である。鏃は先端部の形状に違いが見られる。器種不明の 1 点は人為的に曲げられたものかもしれない。

【S177】（第 224・225 図、図版 18・19・65）

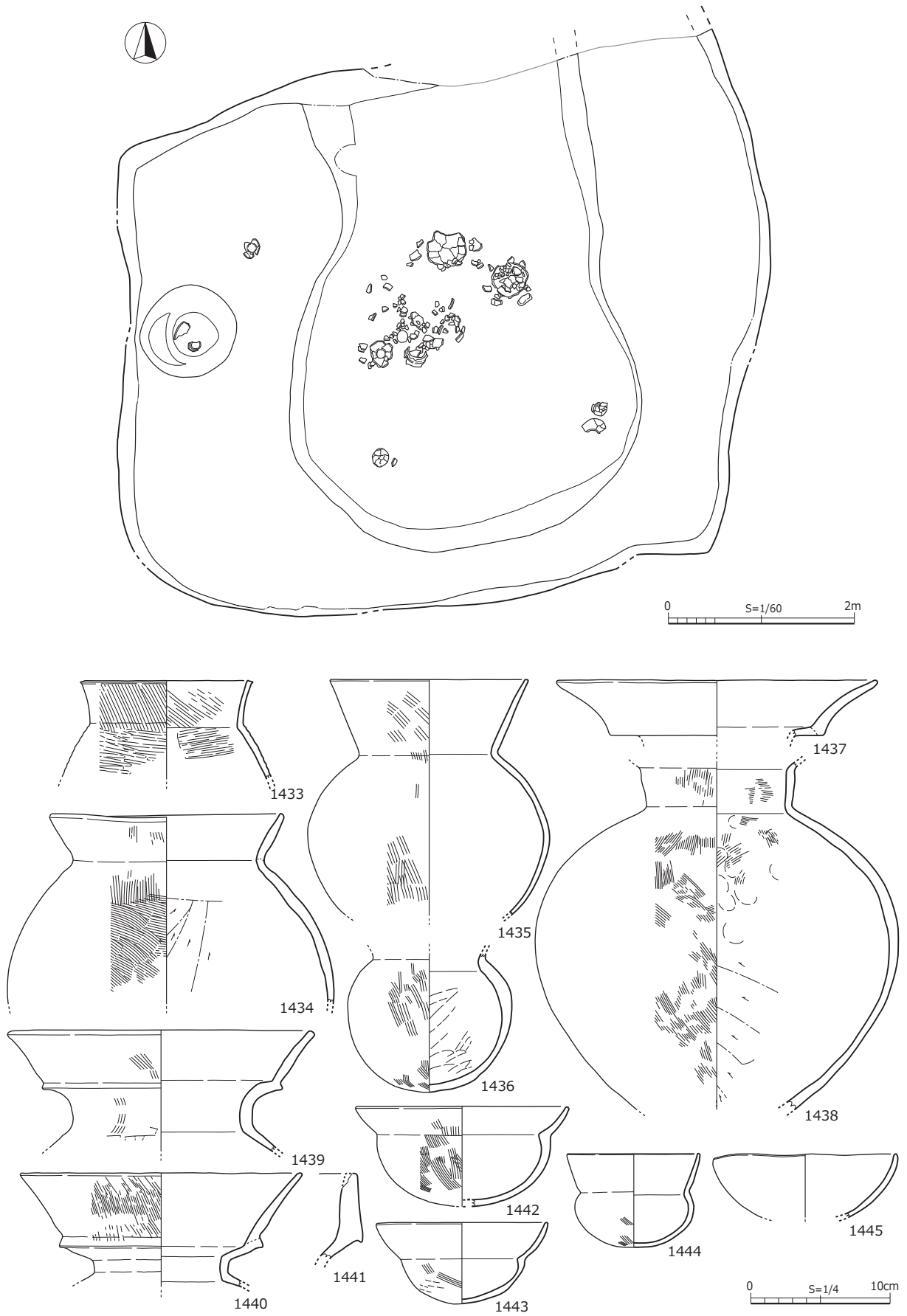
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S177	竪穴住居	隅丸方形	6.82	5.80	G-4	S177 → S166	2本?	円形	東・西・南	×	

S177 は東西方向にやや長く、いびつな隅丸方形を呈す竪穴住居で、北東隅を古墳前期の住居跡 S166 に切られている。中央に浅い円形の炉があり、同じ軸線上（A-A' 断面）に 2 本の深いピットがあつて壁に近すぎるが、柱穴または支柱穴の可能性がある。北辺中央を除く壁沿いには高さ 10cm 程の削り出しのベッド状遺構が作られている。このベッド状遺構が途切れた部分に出入口があつたと見られる。北側に出入口を推定できる住居跡は当遺跡では珍しい。なお、埋土 1～4 層についての土層所見は残されていない。

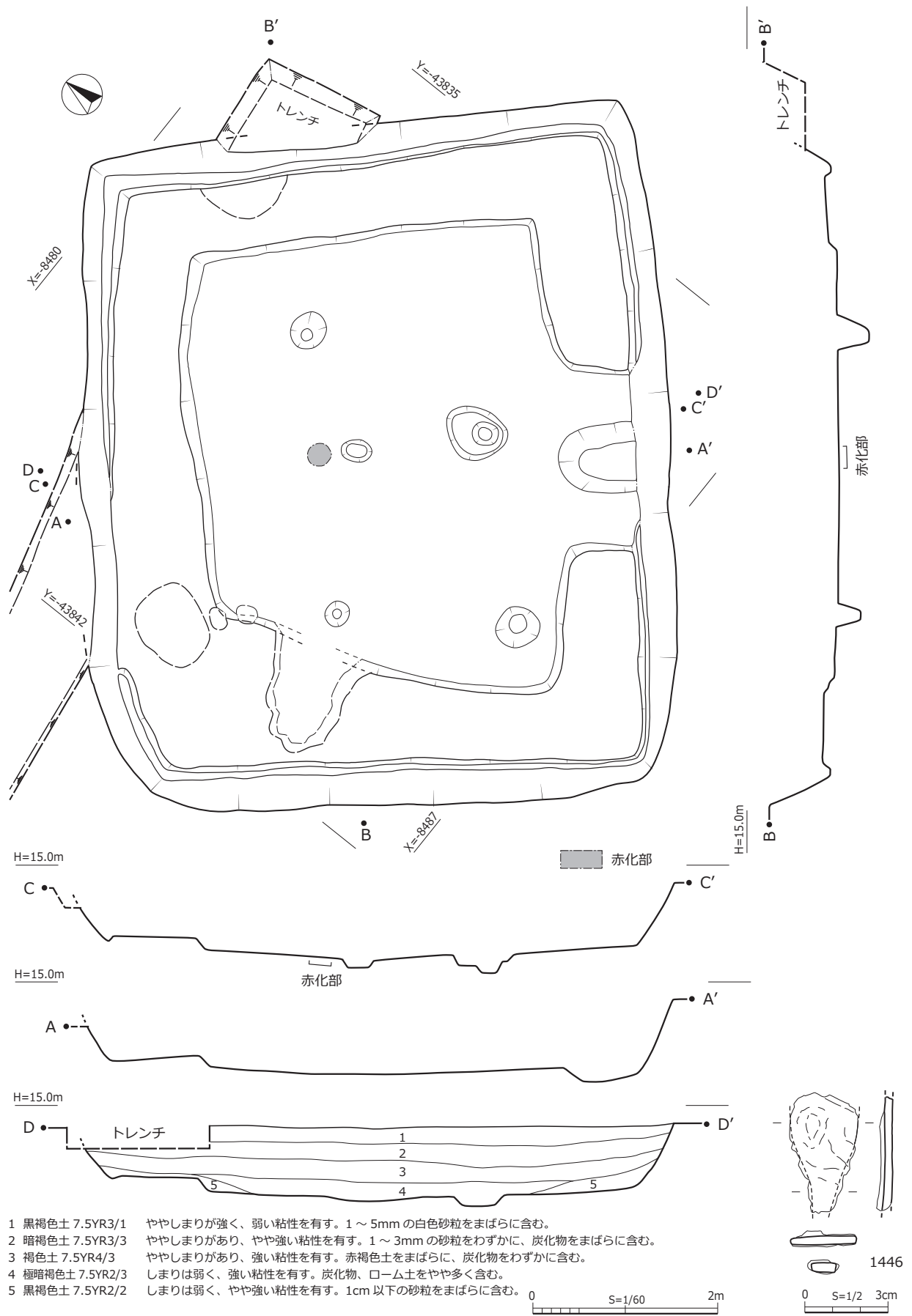


第 224 図 S177 実測図 1

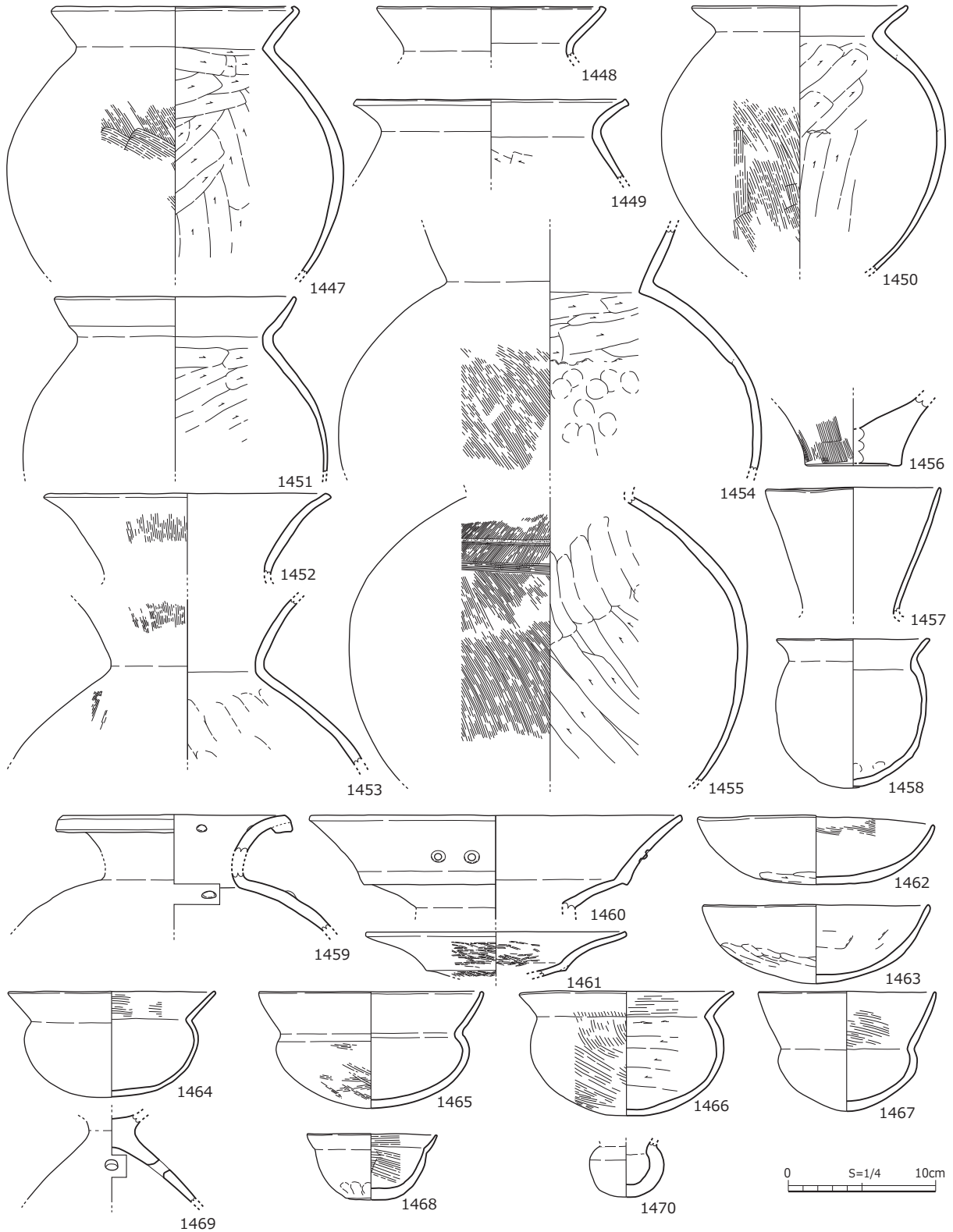
出土遺物は土師器で、甕・壺・鉢などの器種がある。甕は外器面にタタキを残すものがある。壺は複合口縁に作られるものも多く、直線的な広口のものは1点だけであった。胴部は球形を呈し、底部も丸底になると見られる。鉢は頸部で屈曲して口縁が広がる。半球形の胴部を持つ。



第 225 図 S177 実測図 2・出土遺物実測図



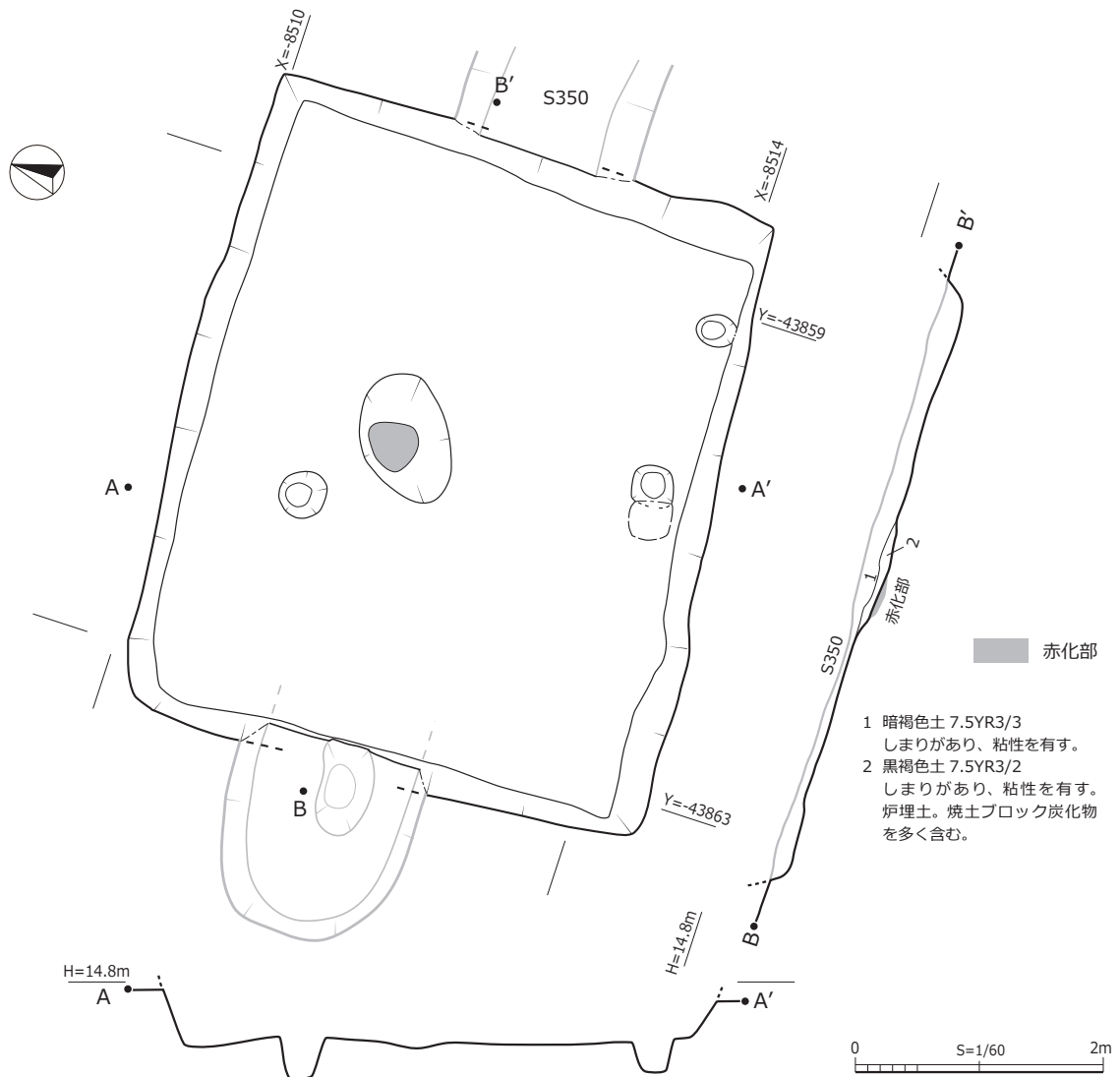
第226図 S185実測図・出土遺物実測図1



第 227 図 S185 出土遺物実測図 2

【S185】(第 226・227 図、図版 20・66・67)

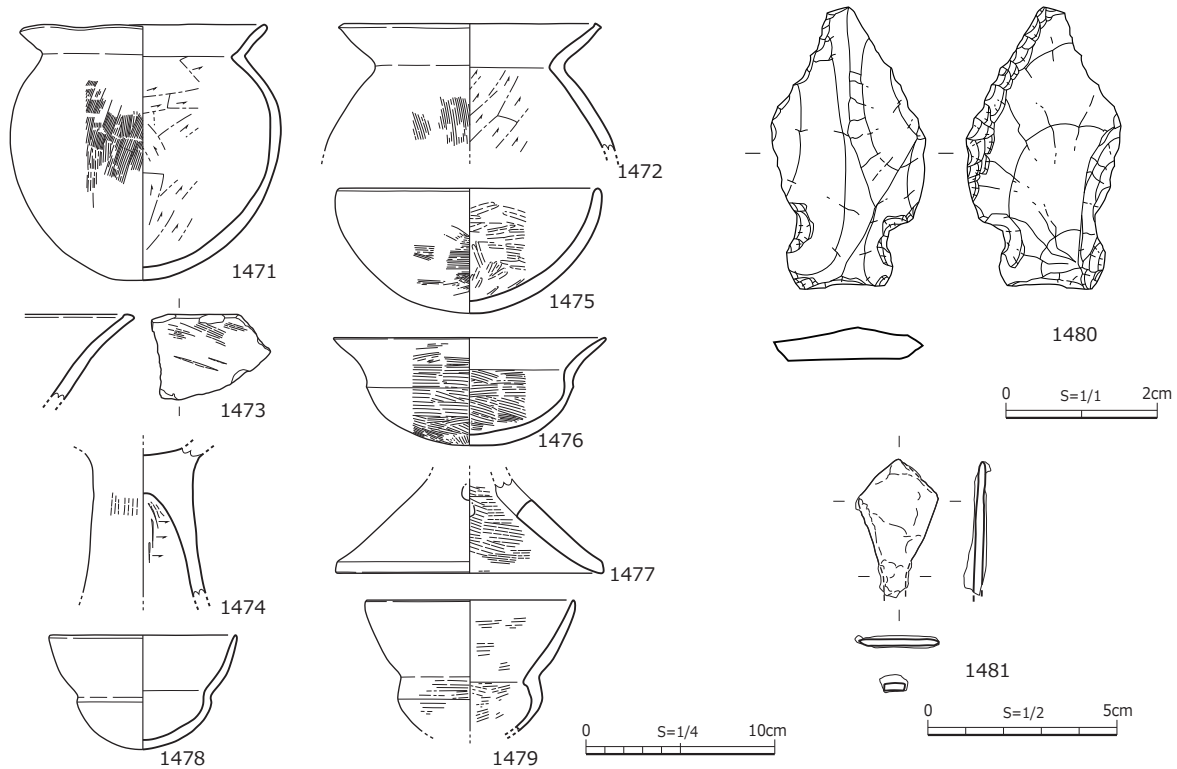
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状 壁周溝	
S185	竪穴住居	長方形	7.42	6.40	G-5	—	2本	円形	南東辺中央 ベッド状遺構 以外の上	



第228図 S189実測図

S185は長方形を呈す古墳時代前期の竪穴住居で、鉄製鏃1点と共に土師器が多く検出された。長軸からやや西へずれた線(B-B'断面)に2本の支柱穴と赤化部のみ残る炉跡が配されている。南東辺の中央壁沿いにピットを設け、出入口を作っていたと見られる。このピット付近を空白地として四方には高さ10cm程度のベッド状遺構が削り出して構築されている。さらに西側では途切れているものの、ベッド状遺構上の壁際では壁周溝を確認している。

鉄鏃は先端部と基部を失っているが、刃部は薄く作られている。土師器は甕・壺・鉢・手捏ね土器を図示している。甕は概ね口縁から屈曲までが短く、壺は長い。壺には複合口縁となるものがある。胴部は球形で器種間の差はなく、他の例からどちらも尖り気味の丸底と考えられる。鉢では浅い丸底の器形と深めで頸部と大きく開く口縁部を作る器形とがある。手捏ね土器は甕や鉢を模して造られたミニチュア土器と見られる。器壁が厚く、小ささの割には重量感がある。



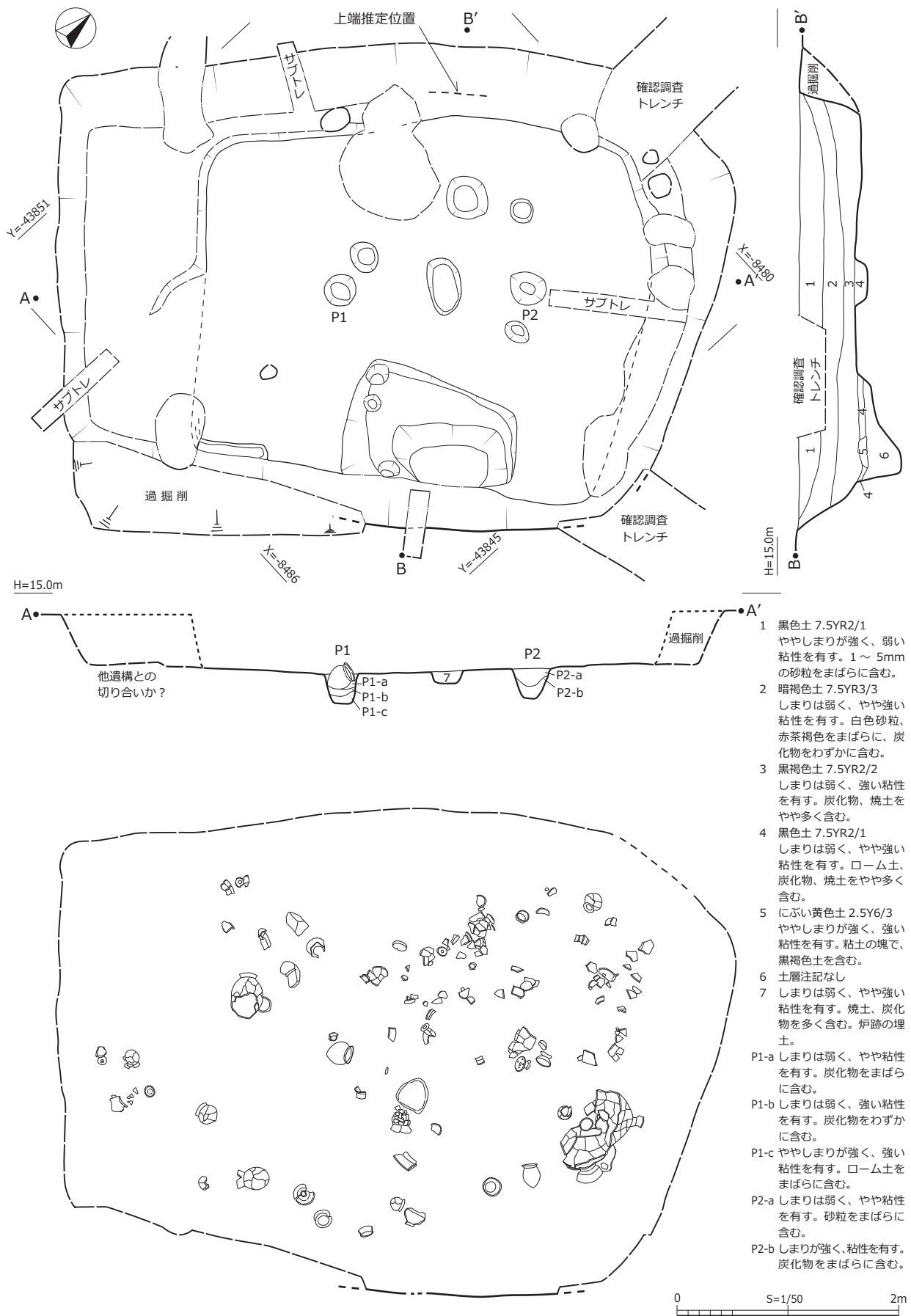
第 229 図 S189 出土遺物実測図

【S189】(第 228・229 図、図版 67)

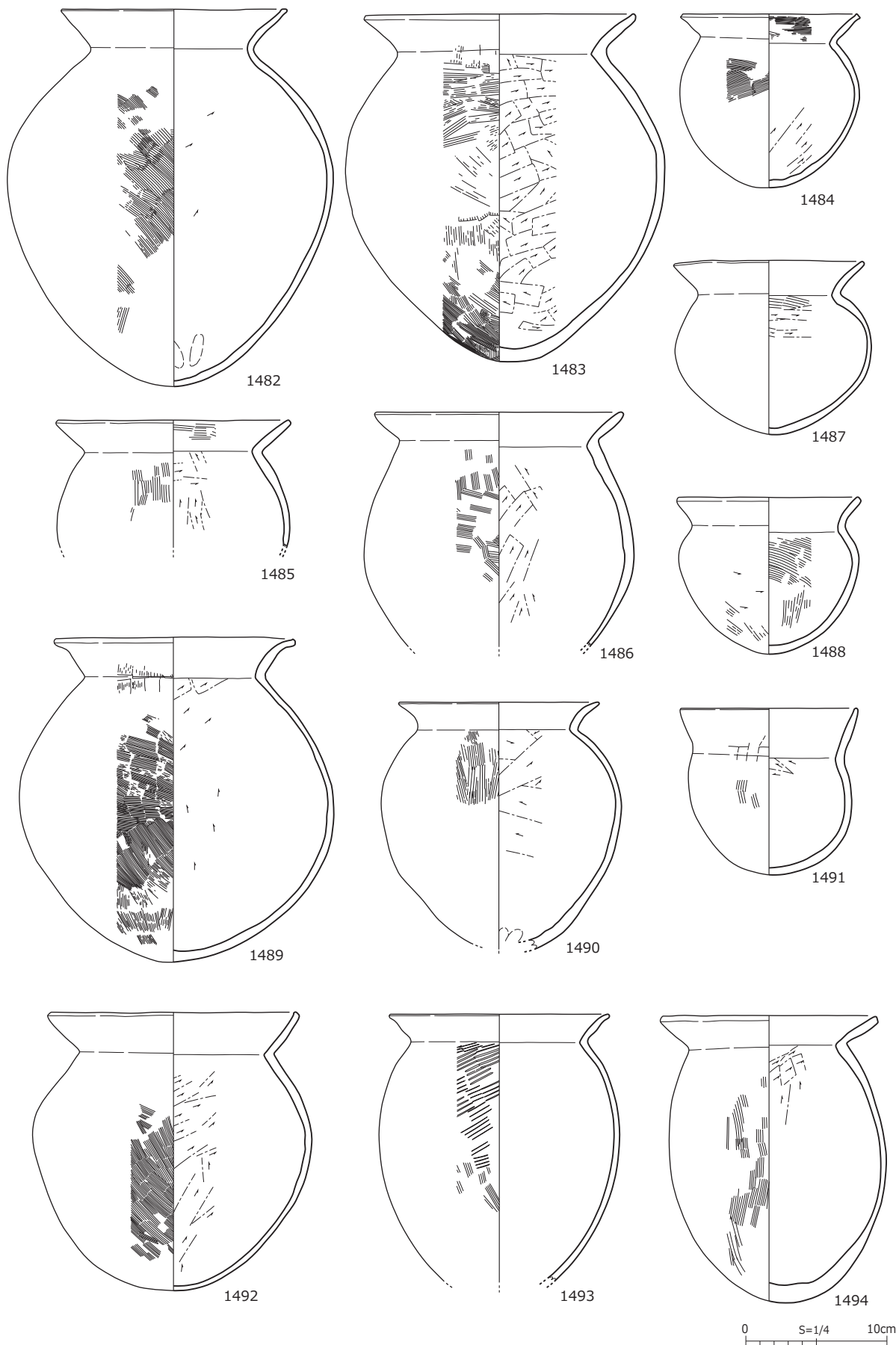
番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S189	竪穴住居	長方形	5.31	4.42	D-2 E-2	S148 → S189 → S350	2本	円形	×	×	

S189 は長方形を呈す竪穴住居で、土師器や石器、鉄鏃などが出土した。中央部に炉があり、浅い掘り込みに赤化部が見られる。S189 自体の主軸はほぼ東西に作られている。支柱穴と想定されるピット 2 基を結んだ線 (A - A' 断面) は東西へ振れ、壁との距離や炉跡との位置でも大きなずれが生じている。ベッド状遺構及び壁周溝も確認されなかった。北西側で弥生時代の溝 S148 を切っている。また、中世の溝 S350 が約 1.5 m の幅で東西に貫く形で切っている。B-B' 断面とも重なっているが、これは S350 と遺構として認識する前に S189 の遺構掘削を行い、他に土層観察用ベルトを残していなかったためである。結果として S189 の遺構埋土は下部の 2 つの土層だけの報告となってしまった。

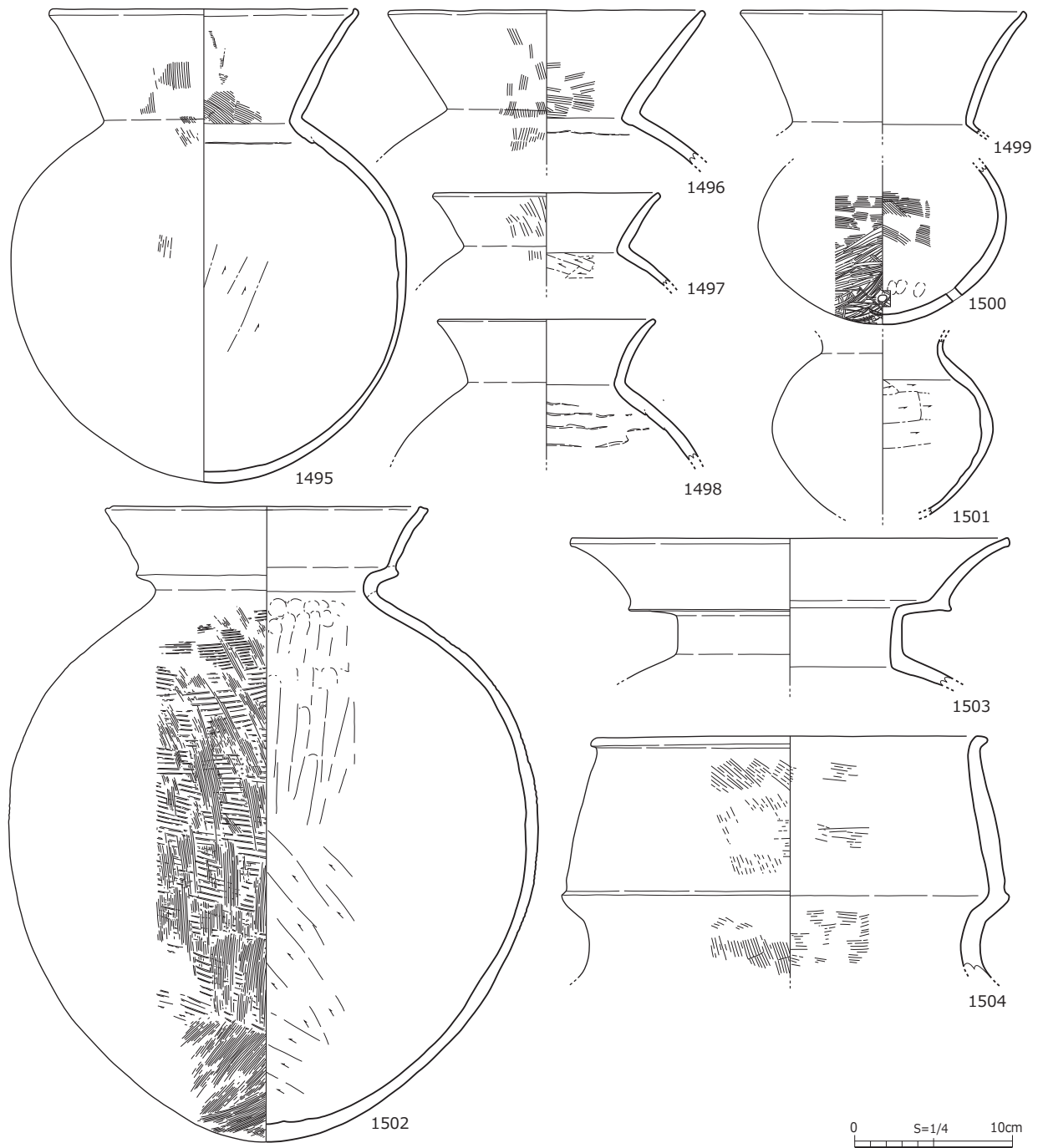
出土した遺物のうち土師器では高坏の脚部に穿孔が行われたり、小型丸底土器のように特徴的な器形が見られる。安山岩の石鏃未製品は弥生時代の遺物が混入したものと考えられる。鉄鏃は先端部が菱形を呈し、全体に薄い作りをしている。



第230図 S191実測図



第 231 図 S191 出土遺物実測図 1

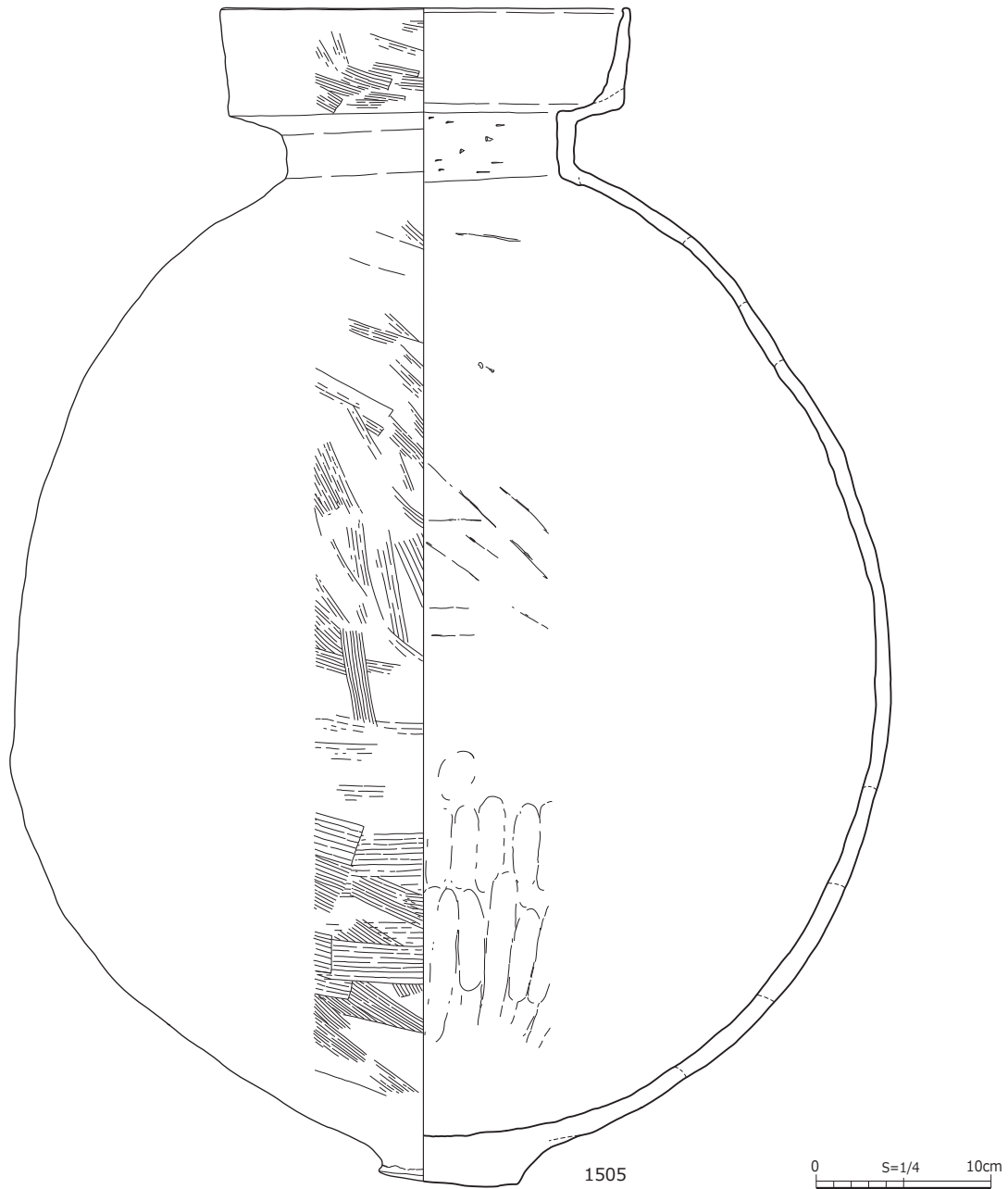


第232図 S191出土遺物実測図2

【S191】(第230～235図、巻頭図版4、図版20・68・69)

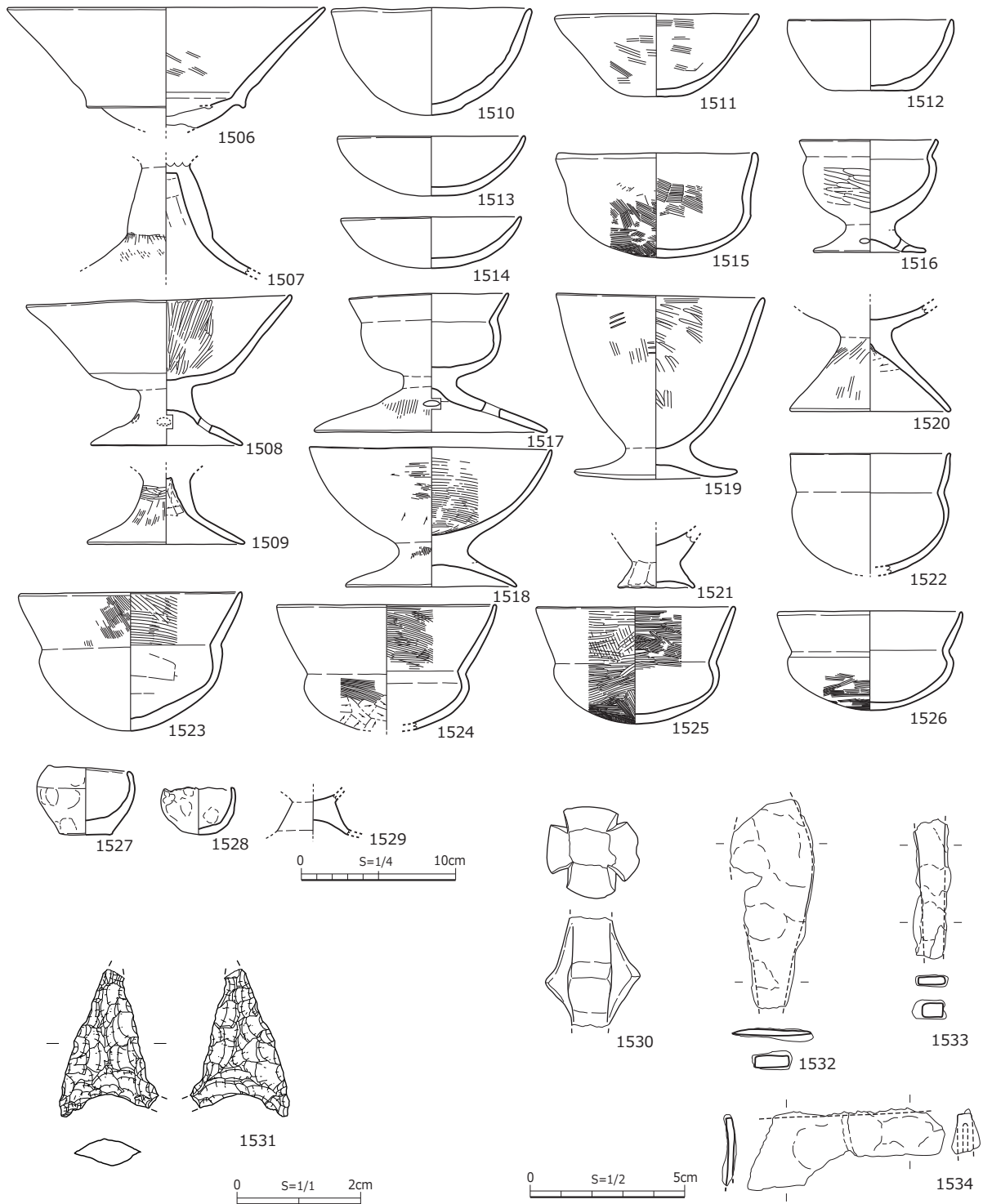
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S191	竪穴住居	長方形	7.18	5.24	F-5	—	2本	楕円形	×	南隅	

S191はいびつな長方形を呈す竪穴住居である。楕円形の炉とこれに並ぶ長軸方向に比較的浅い2本の主柱穴を設けている。南西側の主柱穴(P1)には柱を抜き取った穴に据え置いたと見られる甕(1483)があった。南隅のわずかな部分で壁周溝を確認している。南西壁側の



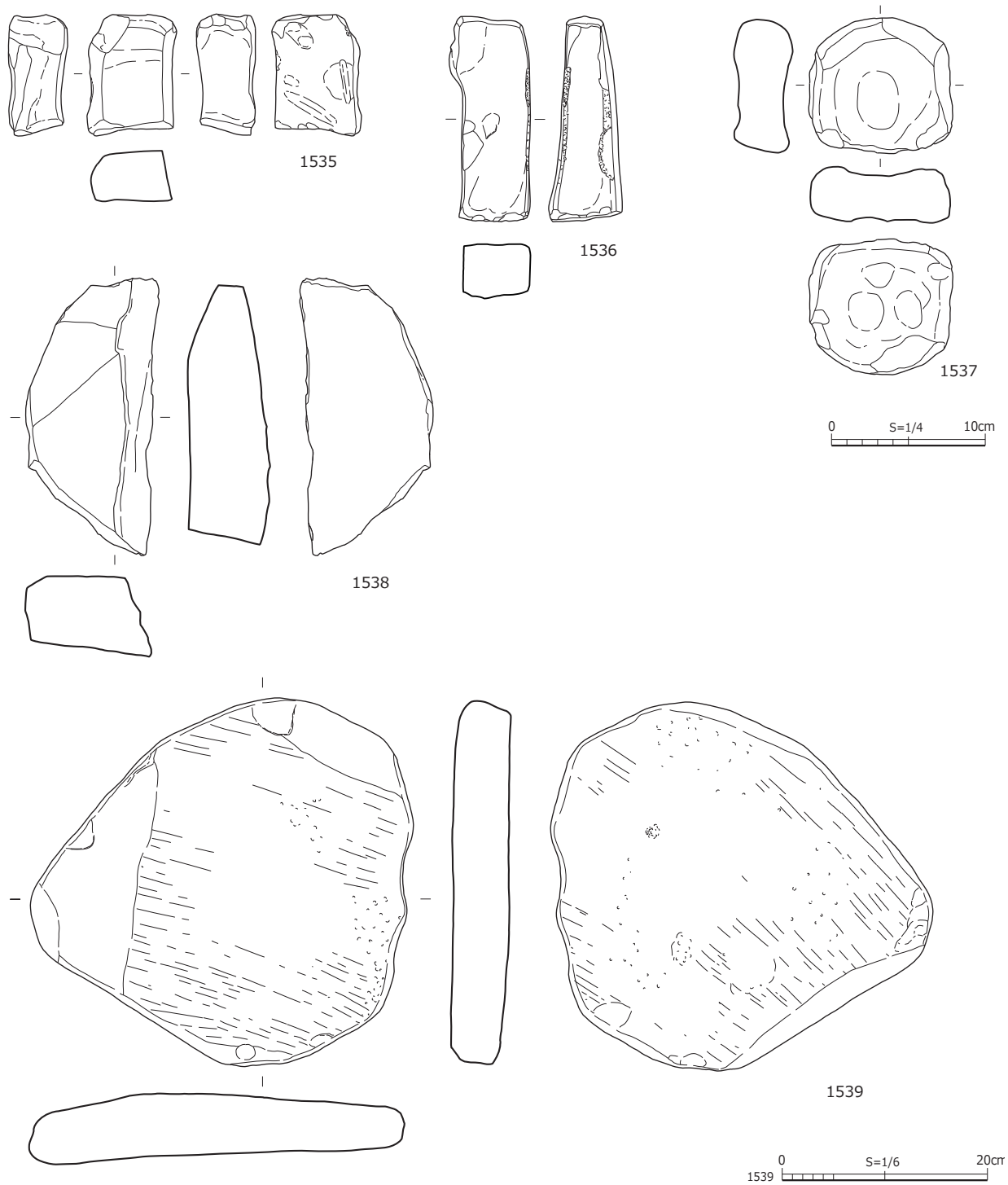
第 233 図 S191 出土遺物実測図 3

一帯はテラス状にやや高くなっており、ベッド状遺構にも見えるが、北東壁及び支柱穴との距離から、ベッド状遺構と認定するには至らなかった。また、調査時南側では別遺構と見られる土層の違いもあって、遺構の立ち上がりを完全に把握する前に掘削してしまい、遺構掘り込み面での上端を確認したのは東側の隅に実線で示した範囲にとどまる。なお、前述の別遺構の可能性のある部分については少量の土器が出土しているが、遺物実測図に掲載（1501・1506・1510・1516）している。土層堆積状況図では埋土 6 層の記録が残されていなかった。出土遺物は古墳時代土師器、土製品、鉄器及び石器で、中でも土師器は数量や内容的にも充実している。甕・壺・鉢・高坏の各器種に加え、手捏ねの鉢・高坏もある。甕は短く屈曲する頸部と球形の胴部で尖り気味の丸底が多く、胴部以下外器面はハケメ、内器面はヘラケズリを施してい



第 234 図 SS191 出土遺物実測図 4

る。わずかに外器面にタタキが残るものや全面に亘ってハケメ調整を行うものがある。壺は口縁が直線的に長く頸部の締まりが強いものと、複合口縁を持つものがある。前者は球形胴で、胴部下位に穿孔を施すものがあった。後者は複合口縁の形態に変化があり、外へ開くものと直立するものが見られる。石鏃は弥生期遺物の混入と見られる。ほかに剣の把頭の一部かと思われる土製品、鉄器では鏃 2 点と器種不明 1 点、石器は砥石や台石を図示した。

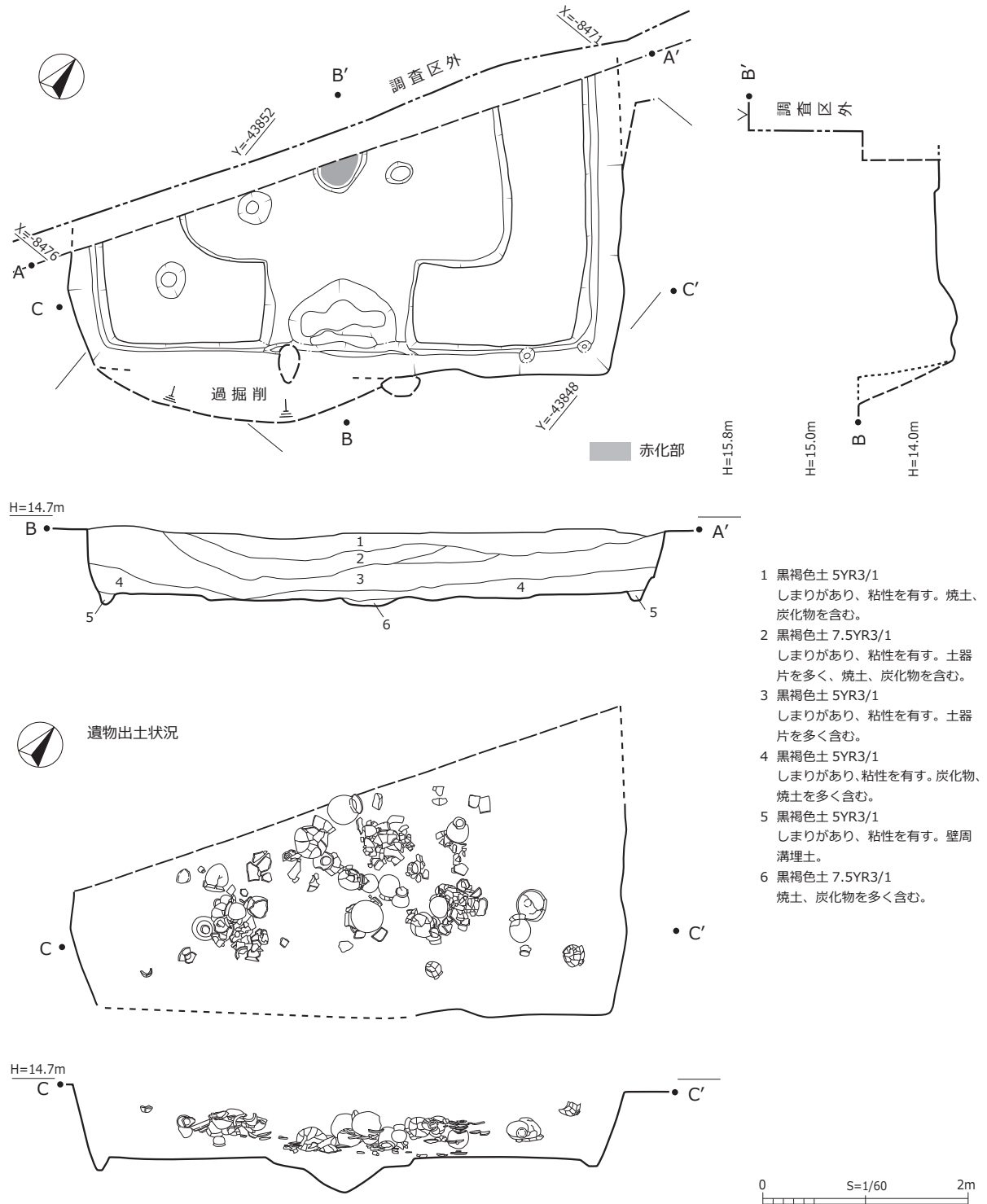


第 235 図 S191 出土遺物実測図 5

【S192】(第 236 ~ 241 図、巻頭図版 3、図版 20・69 ~ 71)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S192	竪穴住居	長方形	5.34	3.0 + α	E-6 他	—	?	円形	「出入口」 以外か	ベッド状遺構 の上	

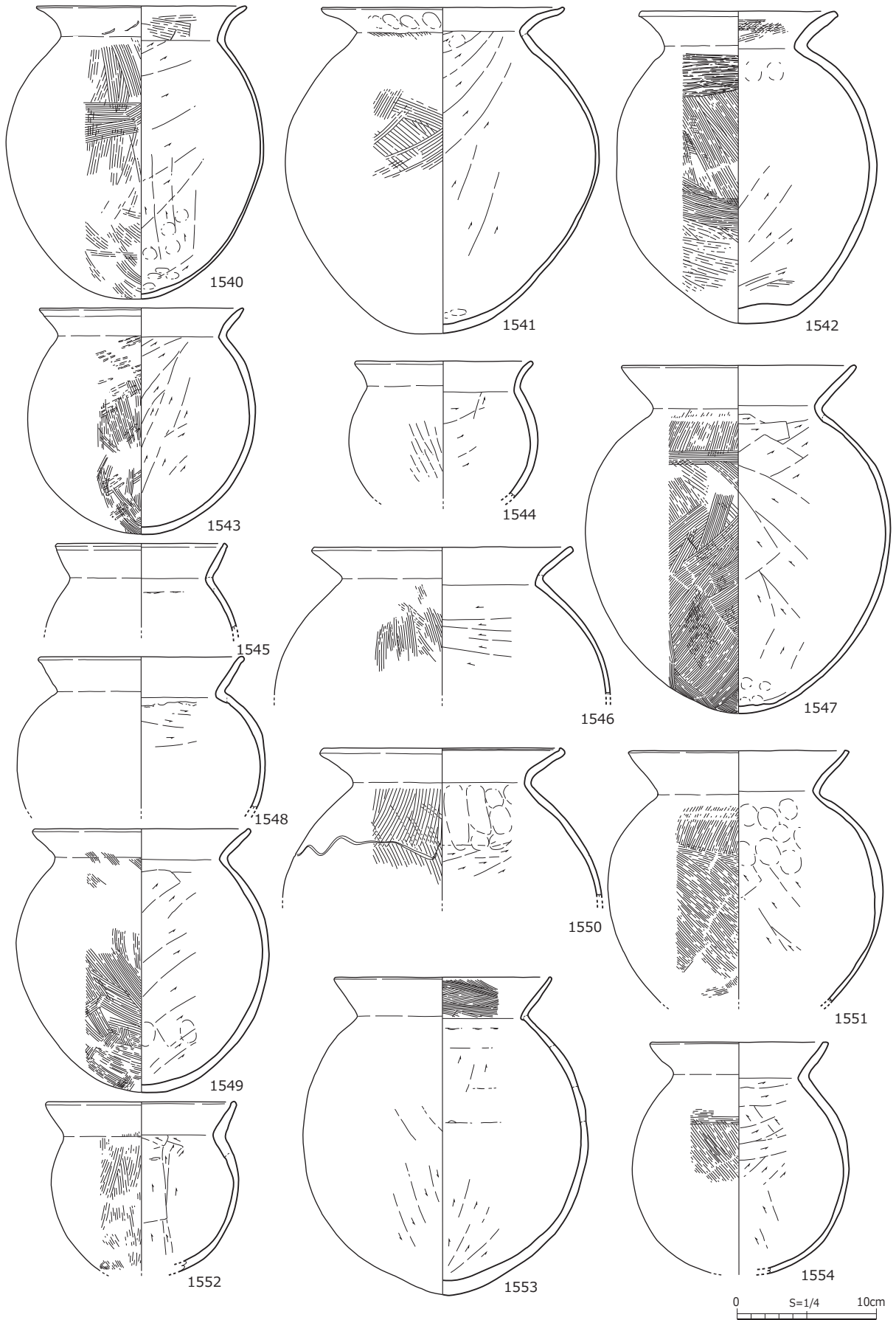
S192 は長方形を呈すと見られる竪穴住居跡である。西側は調査区外へと延びており、床面



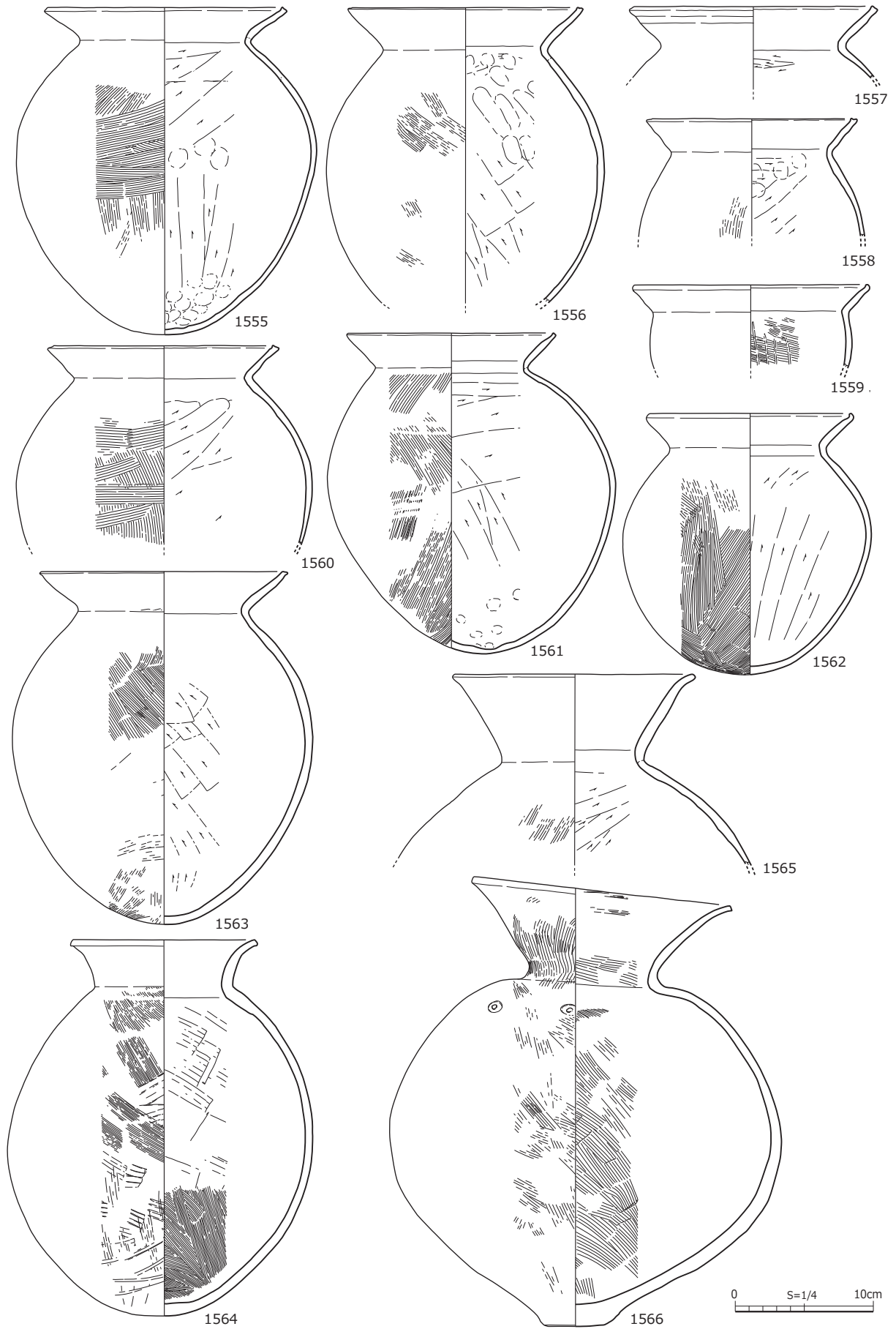
第236図 S192実測図

まで発掘できたのは全体の半分ほどと考えられる。赤く変色した、浅い掘り込みの炉跡を検出した。2本の支柱穴が想定されるが、床面ではこれに対応する位置と深さを持った柱穴は見つからなかった。南西側の一辺の中央はベッド状遺構が途切れており、出入り口に関する施設と見られる。また、ベッド状遺構の壁際には壁周溝が掘られている。

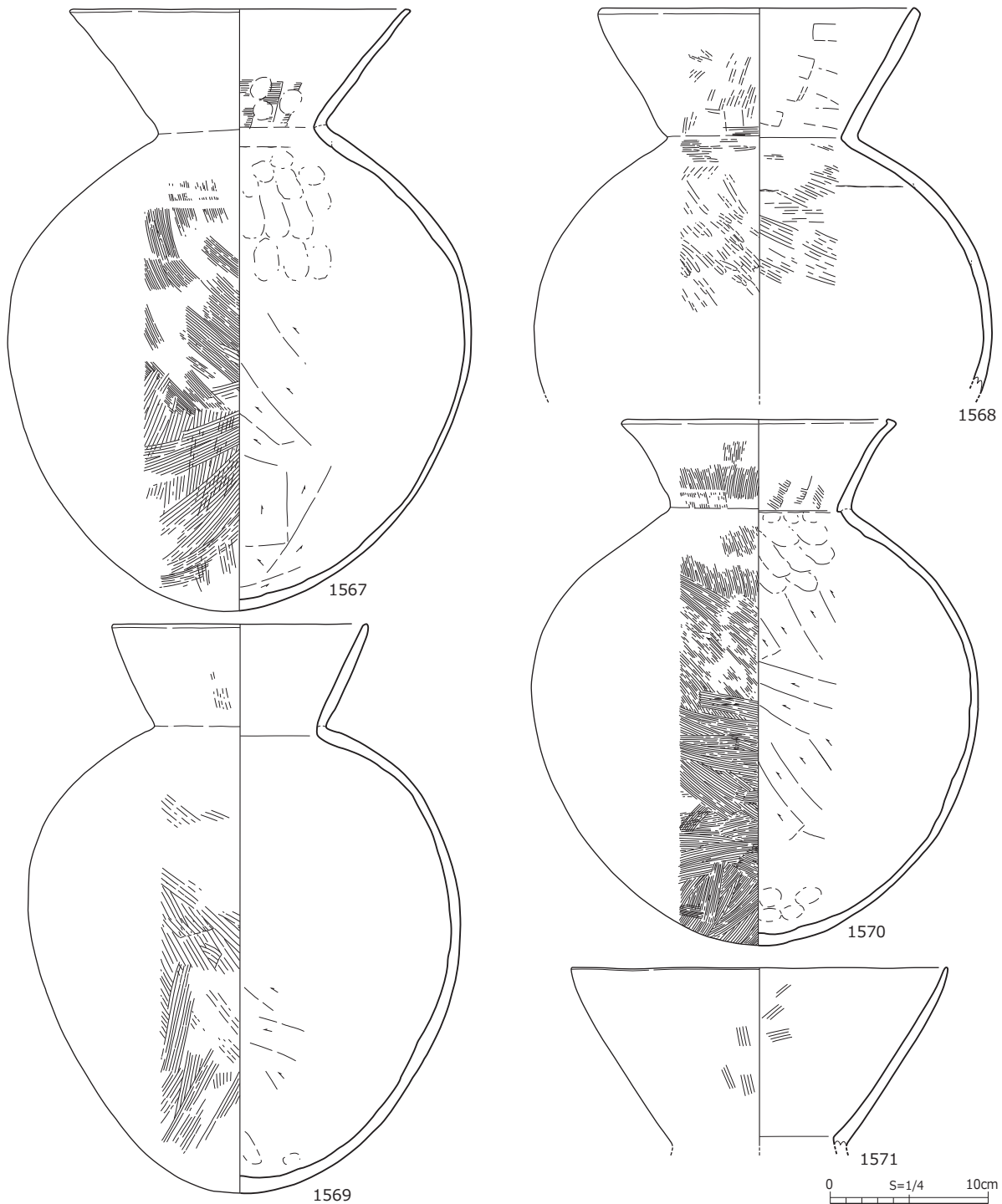
埋土2～3層にかけて大量の土器が検出された。図示した土器は2または3層からの出土で



第 237 図 S192 出土遺物実測図 1



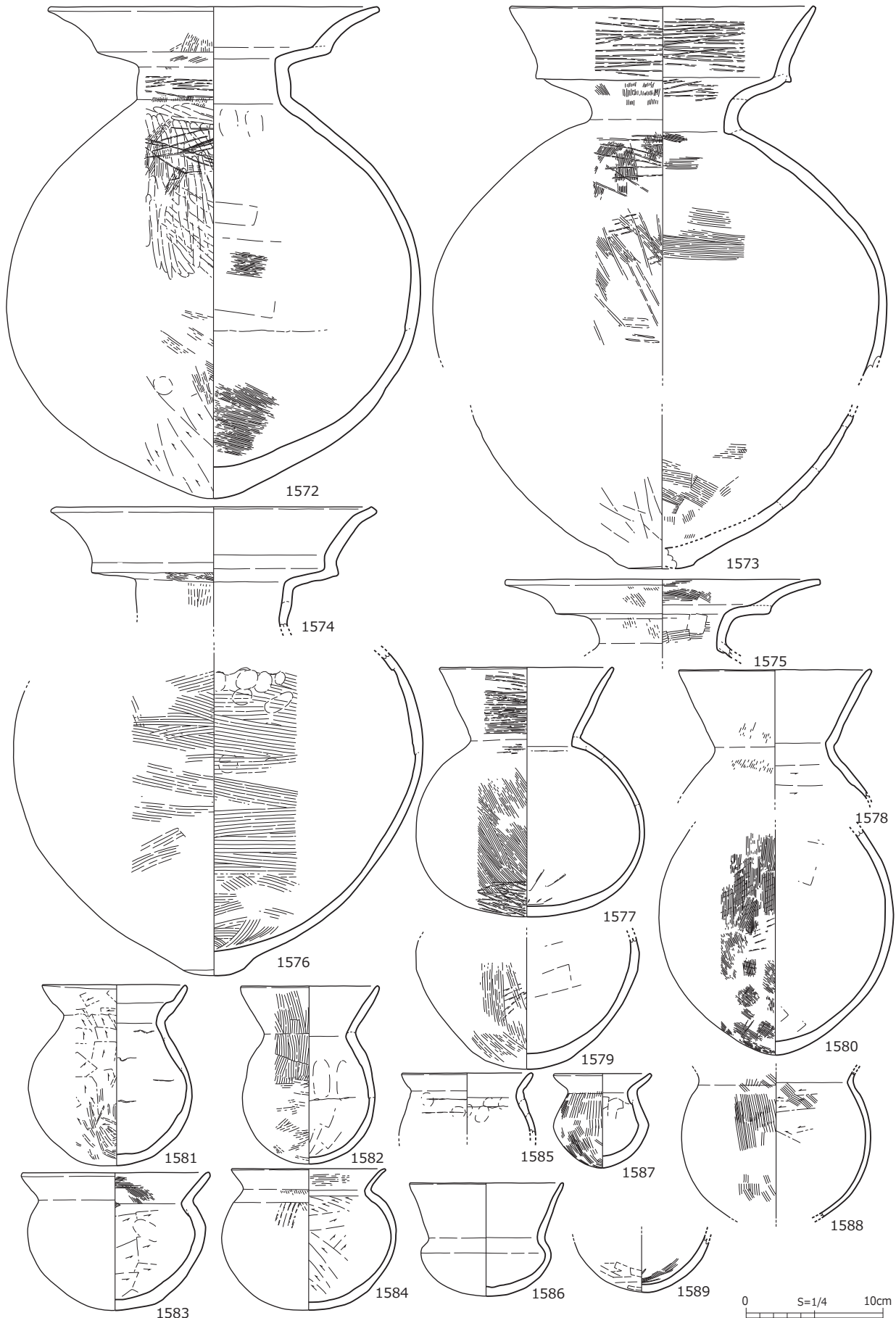
第238図 S192出土遺物実測図2



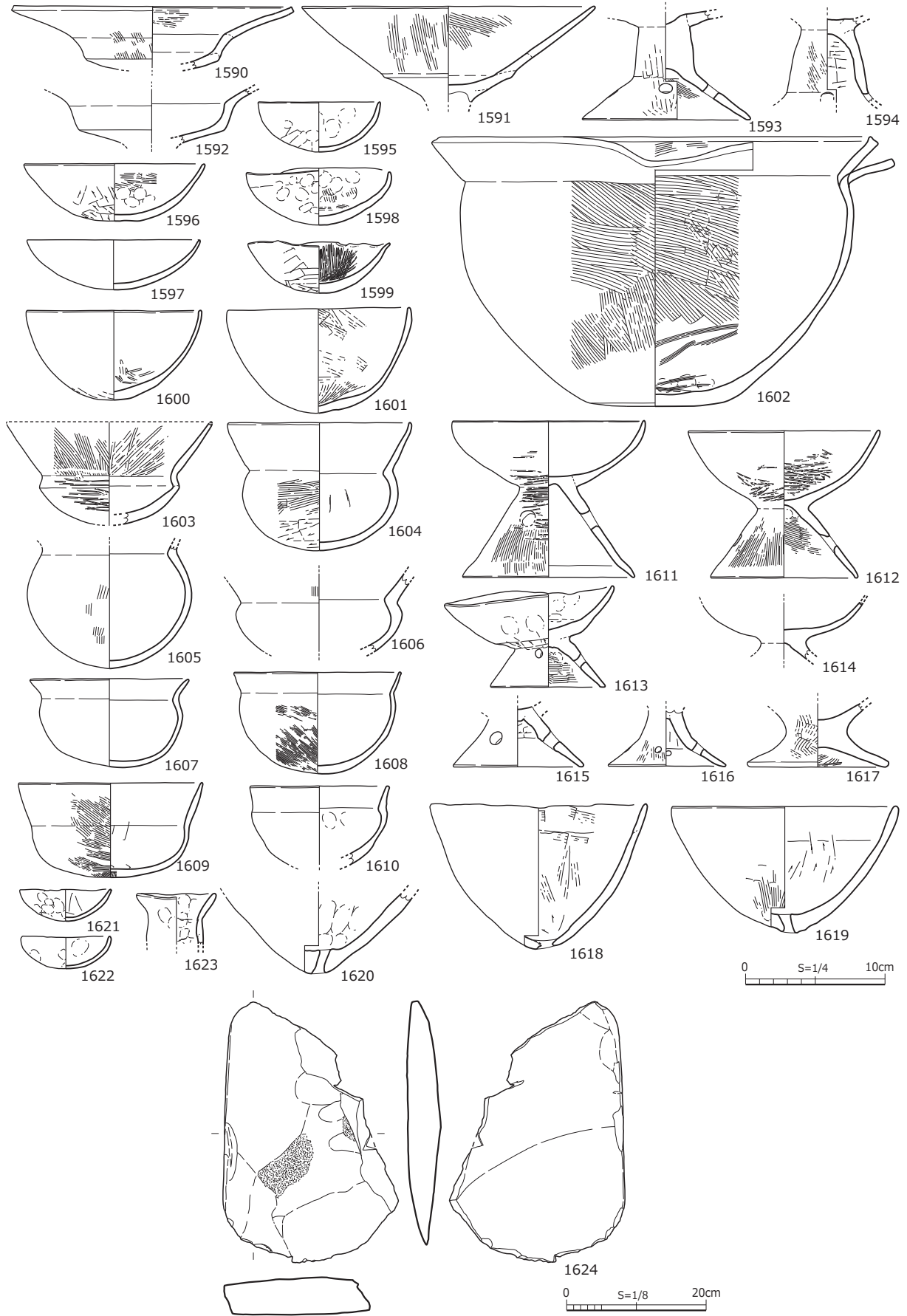
第 239 図 S192 出土遺物実測図 3

ある。完形やこれに近い状況で残存している土器が多く見られ、かつ床面との間には間層として埋土 4 層が堆積していることから、住居廃絶後一定の期間が経過した後にまとめて廃棄された一括性の高い資料とみなすことができる。なお、石器（台石）だけは床面に置かれたままと見られる状況で出土している。

前述の通り、土師器は器種・数量ともに多いことから、器種ごとに特徴を述べる。甕は頸部の屈曲から上が短く、胴部が球形で底部がやや尖るものがある。器面調整は頸部以下外器面は



第240図 S192出土遺物実測図4



第 241 図 S192 出土遺物実測図 5

ハケメを施している。タタキを残すものはなかった。内器面はヘラケズリを行うものが多い。壺では頸部がすぼまり甕より口縁が長く直線的に開いているもの、複合口縁で外反するものなどが出土した。底部は多くが丸底であるが、レンズ状で底径の小さい平底も見られる。高坏は坏部分で屈曲より上位で大きく開き、脚には屈曲があり、穿孔を施す器形が見られる。鉢は大別すると屈曲した頸部を作るものと直口口縁の2種があり、さらに器高や頸部より上の形状などバリエーションが見られる。脚付鉢は底部に「ハ」の字に開く脚が付いた器形で、脚には焼成前に穿孔したものが多い。甕は尖底の鉢に単孔を穿った器形で、3点見つかった。手捏ね土器では鉢及び器台と見られる小型の土器が得られた。台石は一面だけを利用したようで、細かい敲打痕や磨石として使用されたと見られる部分が残っていた。

【S197】(第242～244図、巻頭図版4、図版21・72)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S197	竪穴住居	長方形	6.20	4.6 + α	F-7	—	2本	円形	「出入口」以外	×	

S197は長方形を呈す竪穴住居跡で、北西側は調査区外で発掘は実施していない。中央に浅い掘り込みの炉跡がある。床面の長軸上に2本の支柱穴を検出した。南側には出入口に関連すると見られる土坑状の掘り込みもある。また、南辺を除く壁際にはベッド状遺構があるが、一旦床面と同じ深さまで掘り込み、20cm程度の貼り土を行って構築している。壁周溝は確認されていない。

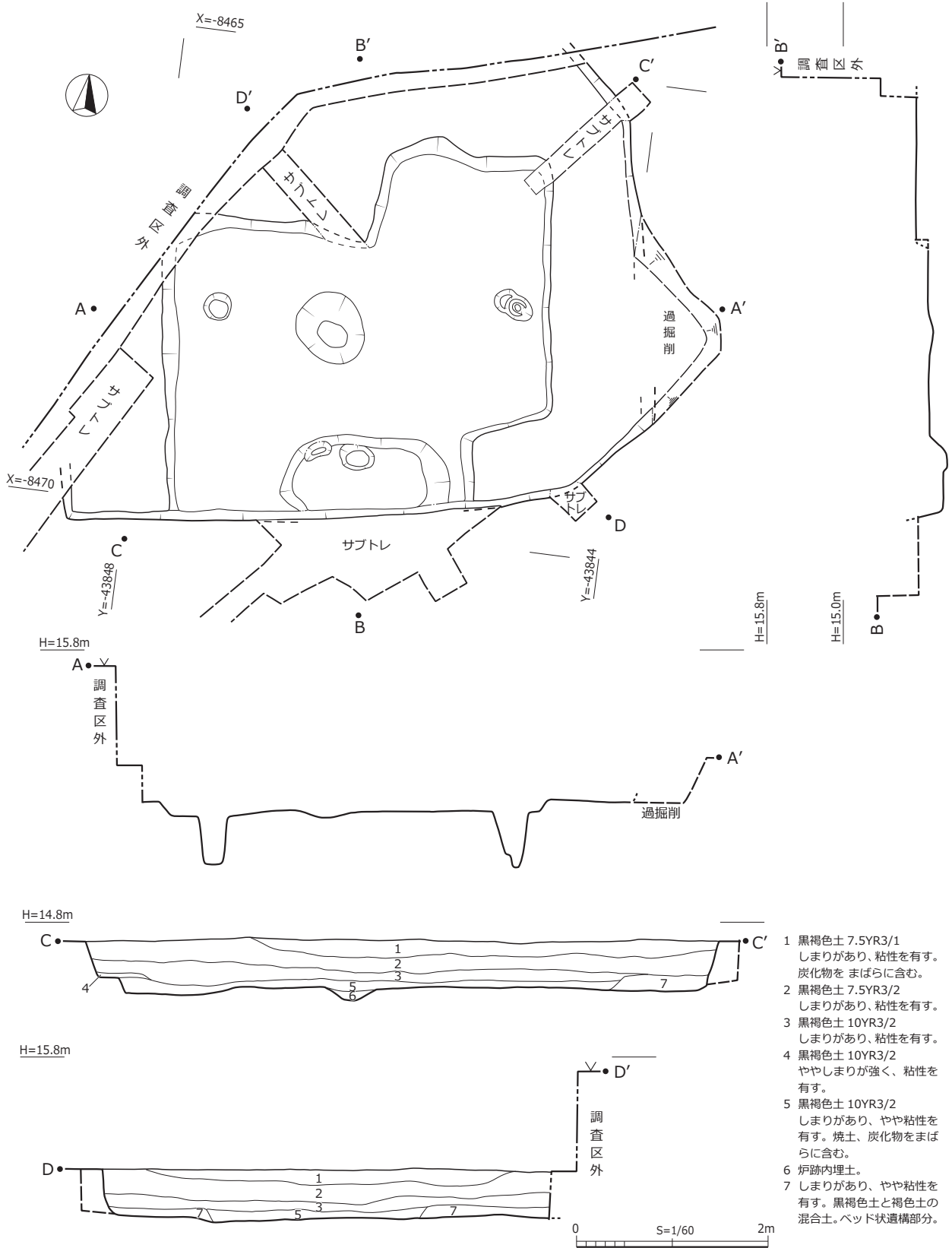
土師器は図版上部の8点(1625～1632)が床面に近い埋土4・5層より、下部の14点(1633～1646)が1～3の上層で出土した土器を配した。埋土4・5層出土土器は甕の底部が尖り気味の丸底で、外器面にタタキ痕を残すものが見られる。複合口縁壺の口縁部には縄を模した装飾が施される。高坏は小ぶりのものが出土した。

一方上層出土の甕は器面調整でタタキ痕が見られない。球形に近い胴部の形状で、丸底を呈している。高坏は坏底部が広く、鉢形も見られる。鉢形の手捏ね土器2点を図化した。石器は緑色の変成岩を利用した磨製石器で、床面に近い埋土5層から出土している。細い作りで全体に丁寧な研磨が施され、形状は弥生時代の小型のノミ形石器に似ている。ただし、刃部は片刃ではなく両刃に加工されている。また、床面に近い位置から鉄器(不明鉄片等を含む)70点が出土している。鋏や刀子といった機能や形状が分かるものなど22点を図示した。

【S225】(第245～247図、巻頭図版4、図版21・72・73)

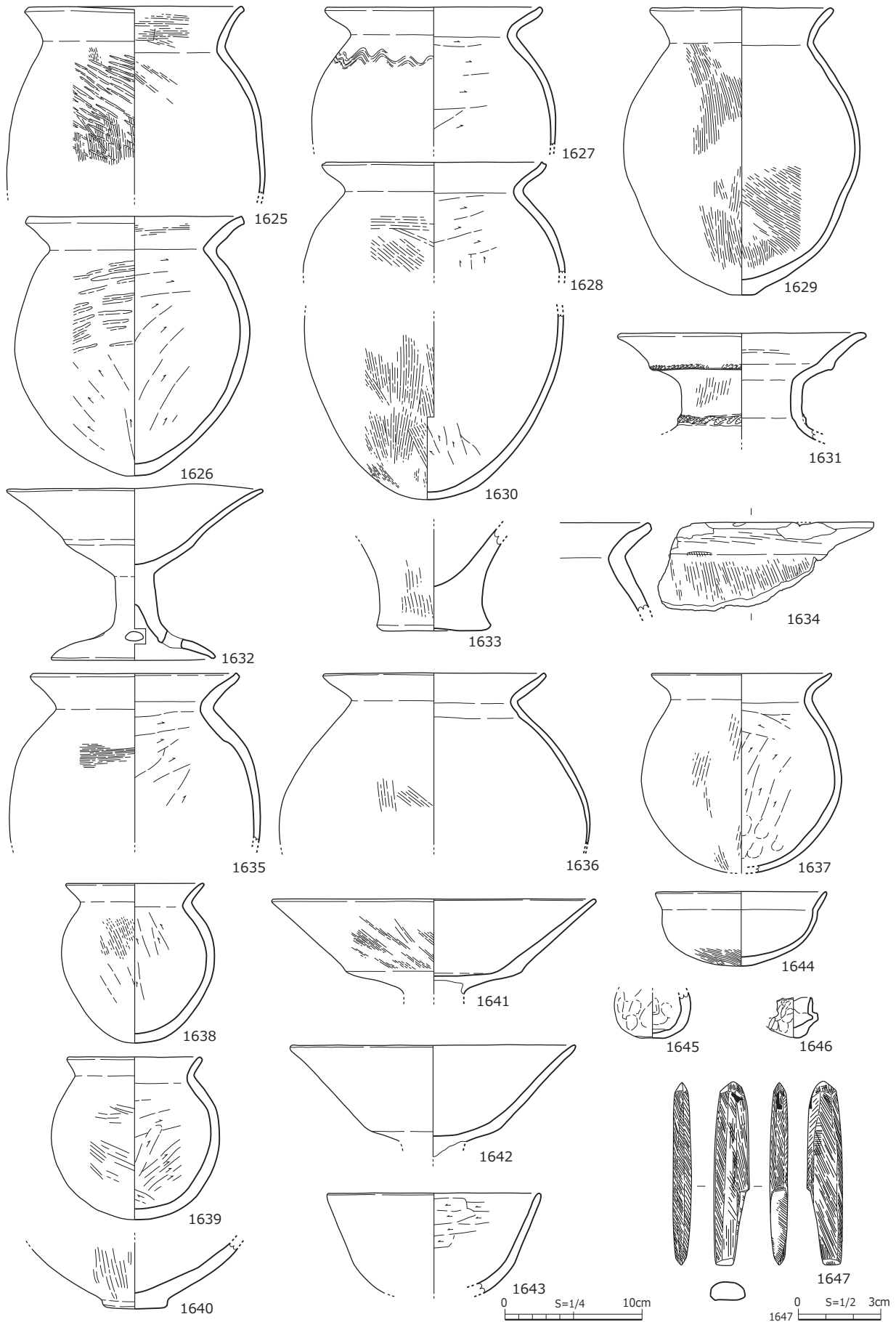
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			支柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S225	竪穴住居	長方形	5.26	4.02	H-8	S317、S366、S375→S225	2本	円形	東・西側	ベッド状遺構の上	

S225は長方形を呈す竪穴住居で、西側で甕棺墓S366、東側で甕棺墓S317及び時期不詳の

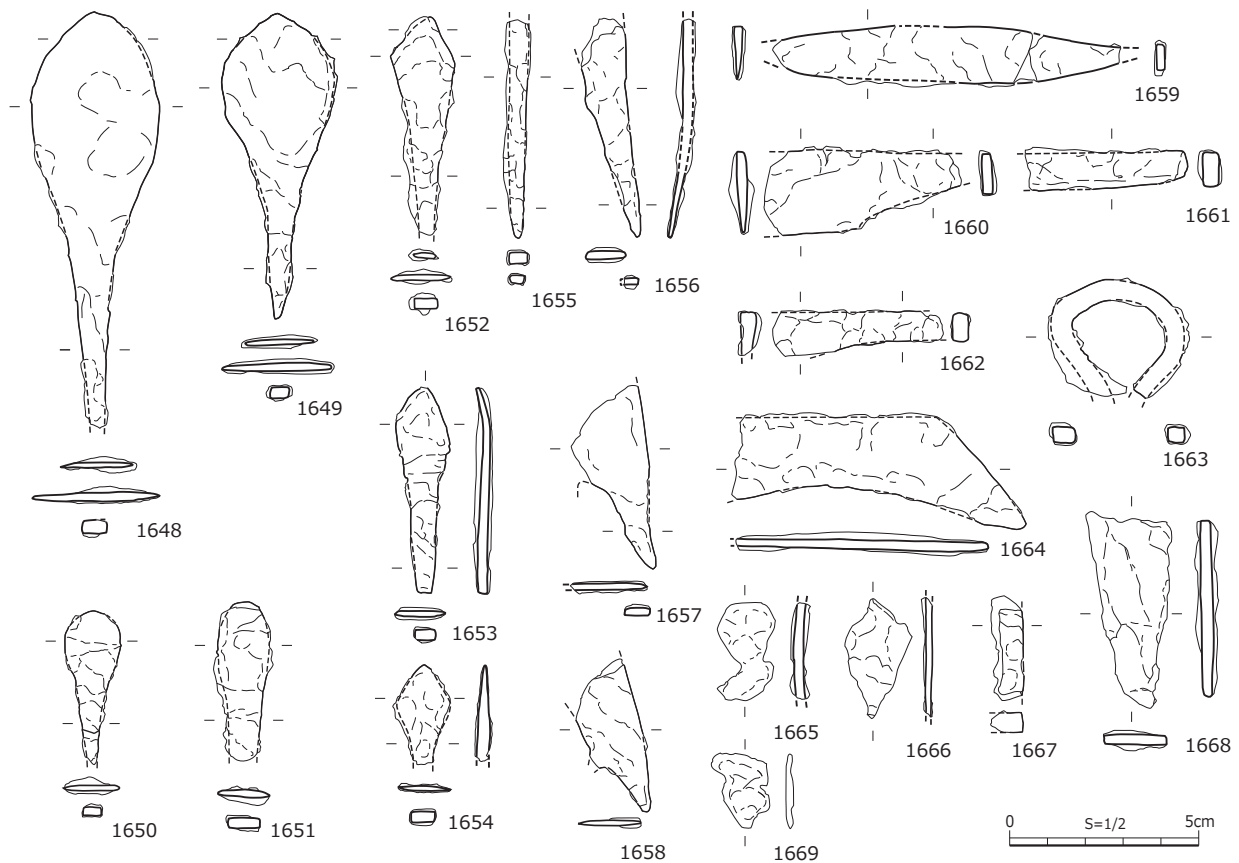


- 1 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。
炭化物をまばらに含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。
- 3 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。
- 4 黒褐色土 10YR3/2
ややしまりが強く、粘性を有す。
- 5 黒褐色土 10YR3/2
しまりがあり、やや粘性を有す。焼土、炭化物をまばらに含む。
- 6 炉跡内埋土。
- 7 しまりがあり、やや粘性を有す。黒褐色土と褐色土の混合土。ベッド状遺構部分。

第 242 図 S197 実測図



第 243 図 S197 実測図・出土遺物実測図 1



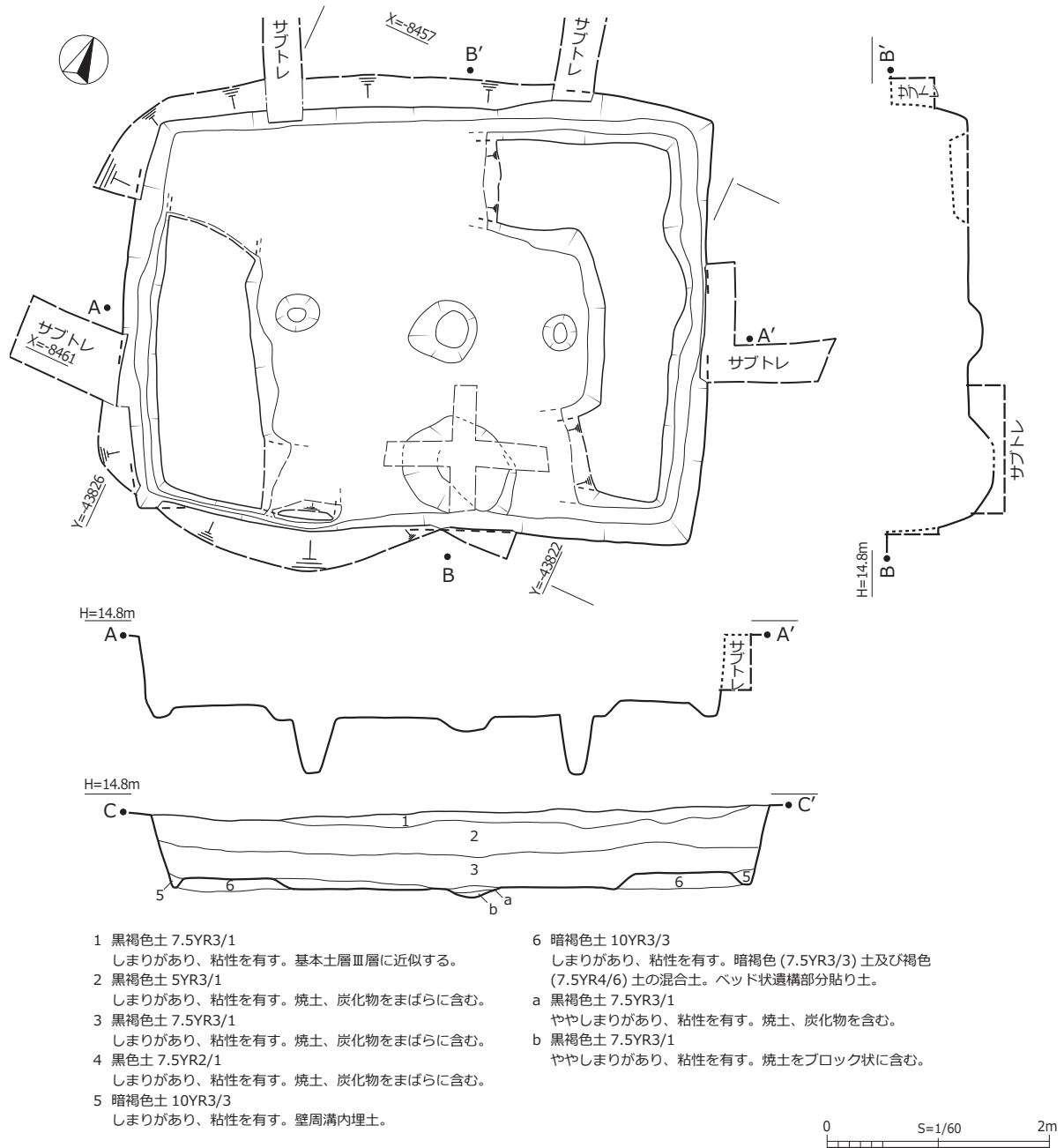
第 244 図 S197 出土遺物実測図 2

土坑 S375 を切っている。東西の長軸線上に主柱穴が 2 本と炉跡が並んでいる。南辺には出入口に関すると思われる土坑がある。また、壁際には貼り土によってベッド状遺構が構築されている。北西の一隅はこれが途切れているが、掘りすぎて床面の掘形を露出させてしまったようである。ベッド状遺構が残っている箇所については、壁周溝も確認できた。S225 出土遺物は、土師器・鉄器・石器などを図示している。土師器では複合口縁壺がほとんど完形に復元できた。胴部は押しつぶされたようにひしゃげ、底部は直線的な尖底を呈している。他にも甕・高坏・鉢などの器形を持つものが出土している。鉄器は鍬 2 点、刀子及び摘鎌が各 1 点検出された。石器では砥石を 2 点図化した。どちらも鉄器用の砥石と見られる。

【S247】(第 248・249 図、図版 21・73)

番号	種別	平面形	規模 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S166	竪穴住居	長方形	4.90	4.0	G-5	S177、S291、S320→S166	2 本柱?	円形	北西・東側	×	

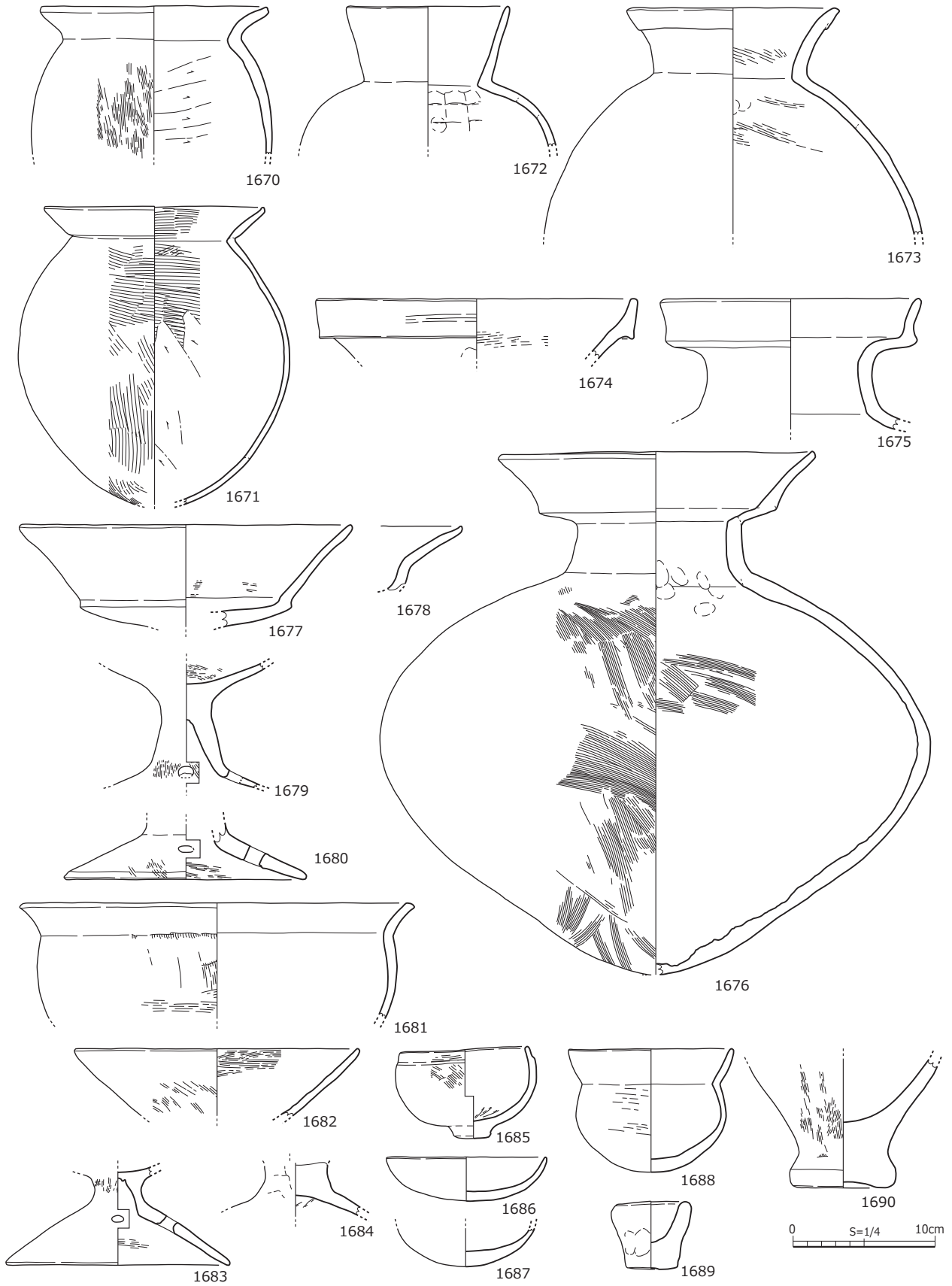
S247 は長方形を呈すると見られる竪穴住居跡で、西側は調査区外へ延びている。また、南壁と床面の中央には大きな攪乱が入っている。この攪乱によって、床面で検出されるべき炉跡や主柱穴は確認できなかった。東壁際のベッド状遺構と南東隅の床面は影響が少なかった。ま



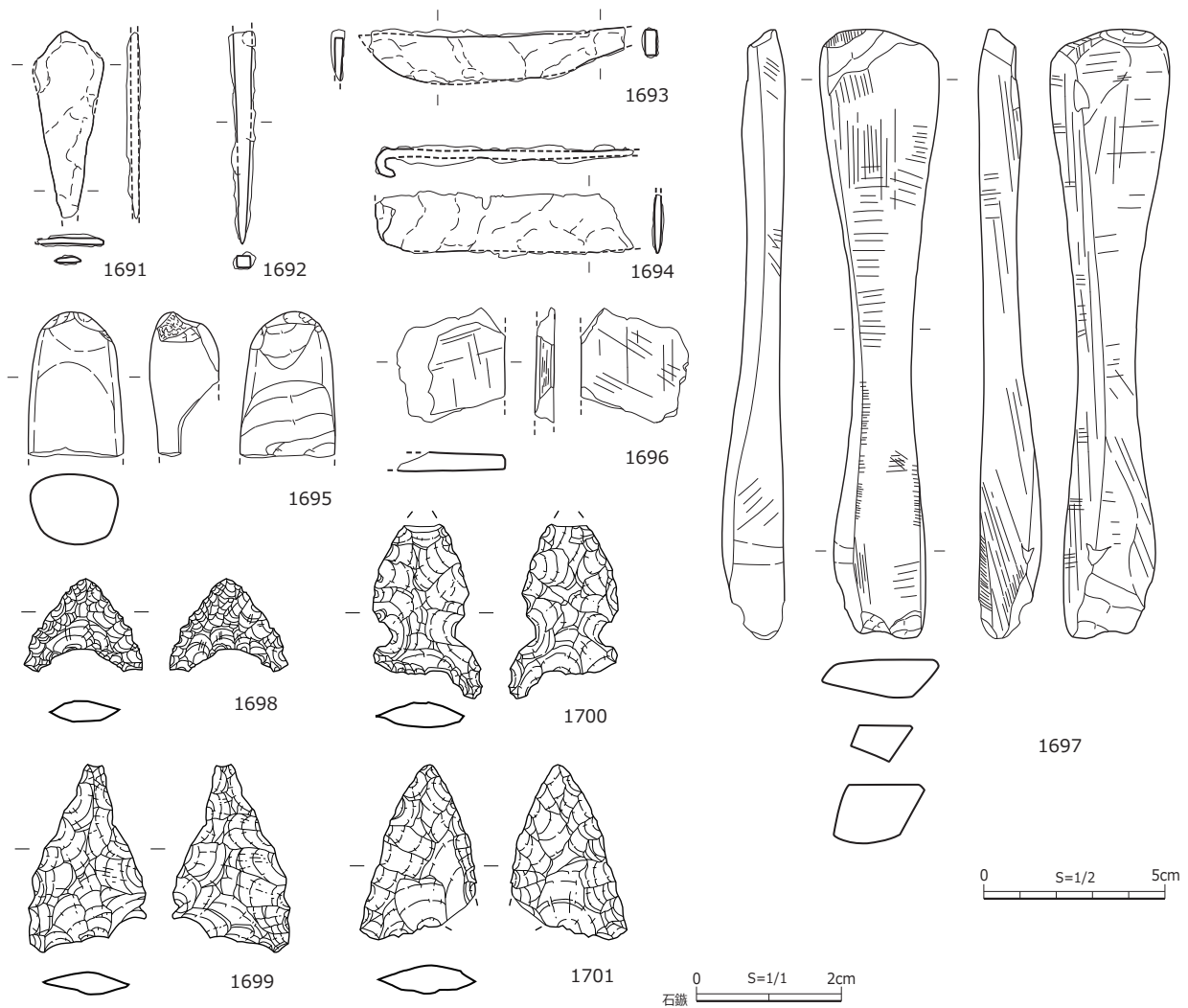
第 245 図 S225 実測図

た、他の古墳時代住居跡では南壁の中央に土坑を設けたり、床面あるいはベッド状遺構に壁周溝を持つ例がほとんどだが、ここでは検出されていない。

S247 出土遺物は弥生土器・土師器および石器で、小片だが縄文土器（第5図32）もあった。弥生土器は中期の甕底部が1点と後期では甕と壺がある。後期の甕は頸部で「く」の字に屈曲する口縁部から胴部にかけてのもので、外表面に明瞭なタタキ痕を残している。底部資料の1つは打ち欠きによって外れた一部の可能性がある。壺は頸部に断面三角形の突帯と連続刺突文を施すものがあった。土師器は甕と壺の弁別が難しいものもあるが、ほぼ完形に復元できた壺や完形の小型鉢を図化した。石器は鍬と鍬未製品で、弥生時代中期の遺物混入と見られる。



第 246 図 S225 出土遺物実測図 1



第247図 S225出土遺物実測図2

【S291】(第250図、図版18)

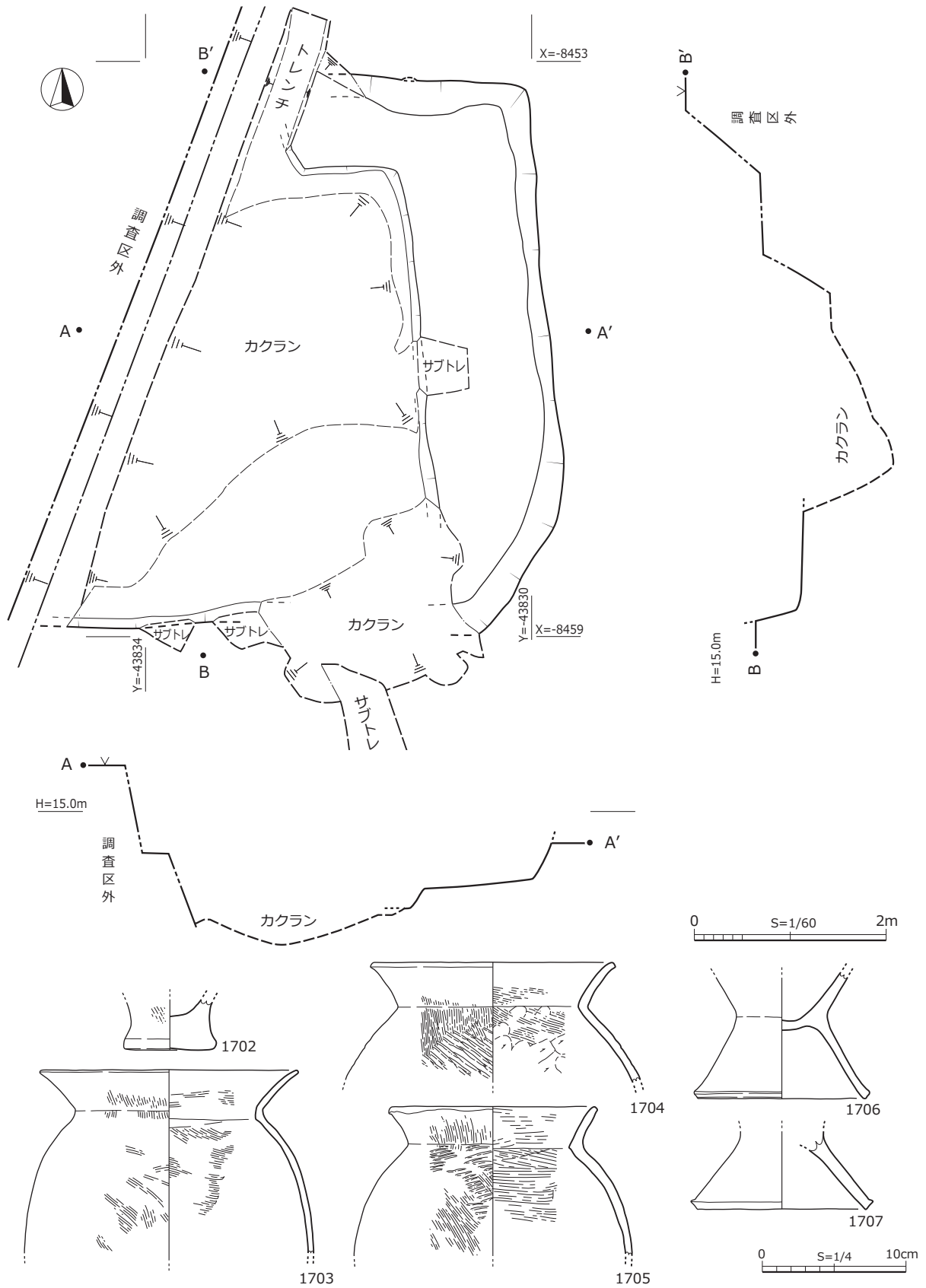
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S166	竪穴住居	長方形	4.90	4.0	G-5	S177、S291、S320→S166	2本柱?	円形	北西・東側	×	

S291は長方形を呈すと見られる竪穴住居で、南側の多くの部分を古墳時代住居S166に切り取られている。通常の竪穴住居跡の構造や残っている範囲から考えると、S291として認定した部分はベッド状遺構の一部かもしれない。

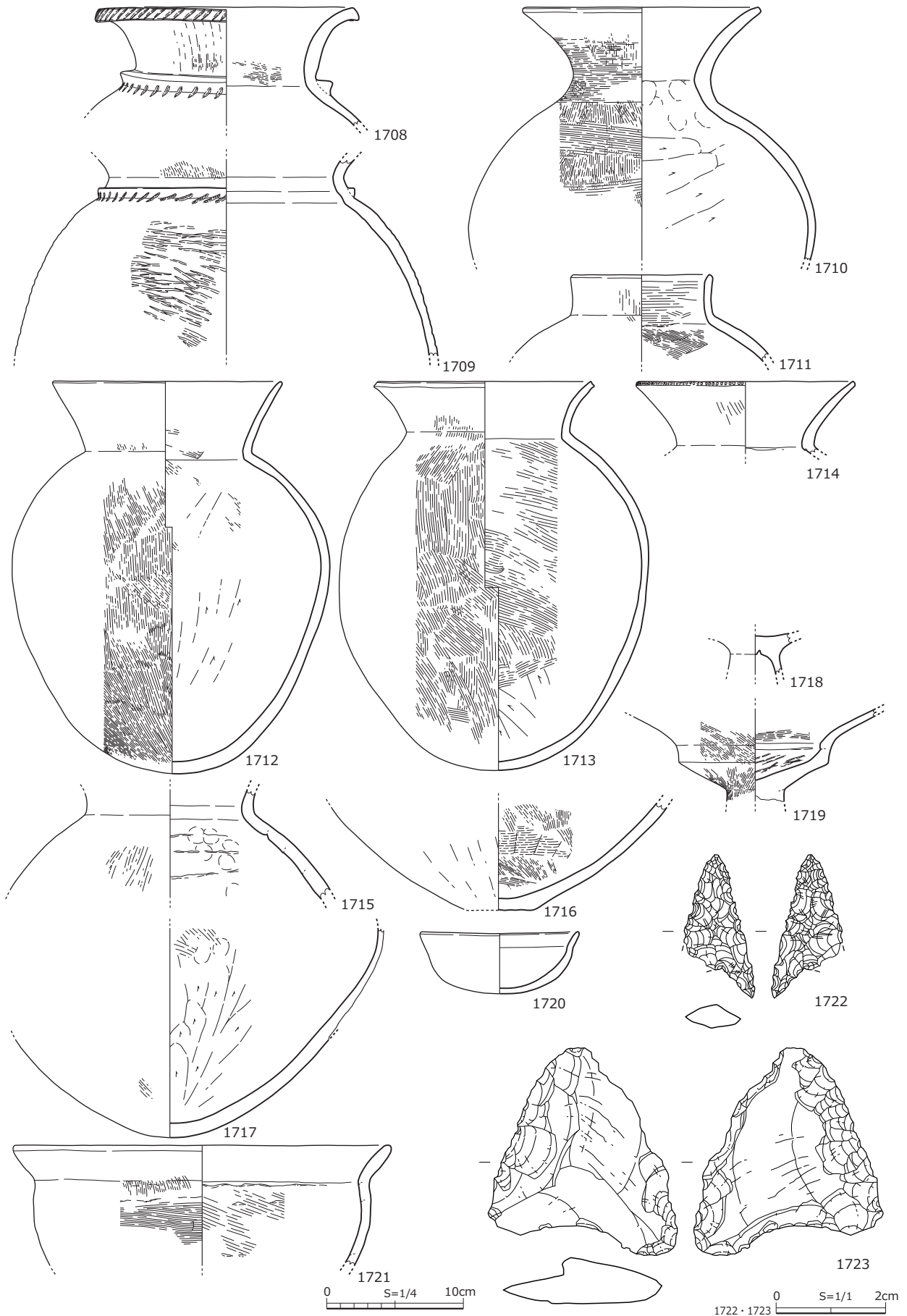
土師器甕・鉢が出土している。甕は外器面にタタキの痕跡がわずかに残る。鉢はやや直線的な器形で脚を付けるが、割れにより脚裾部での穿孔や屈曲はわからなかった

【S360】(第251図、巻頭図版4、図版74)

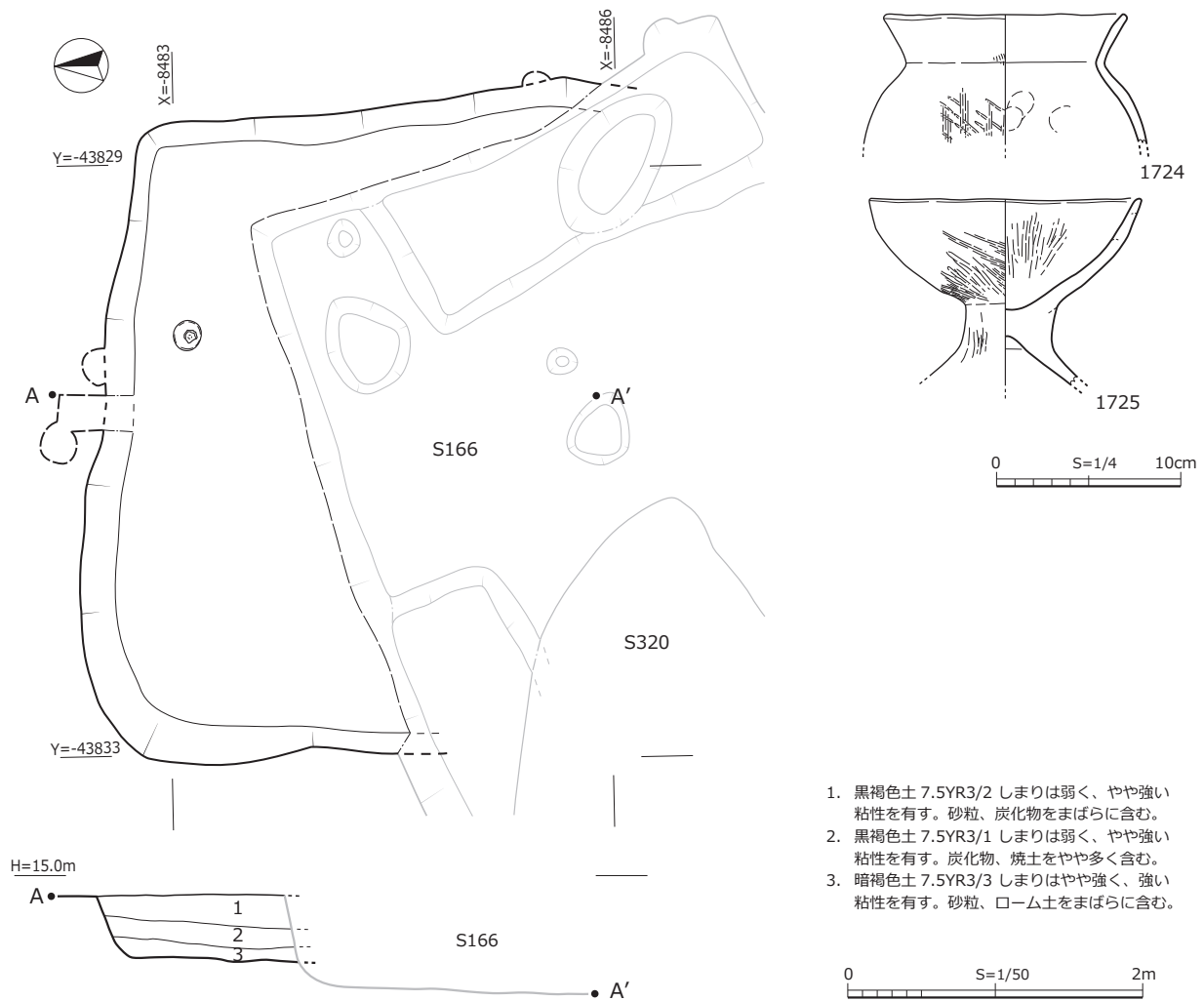
番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	付帯施設				備考
			長辺	短辺			主柱穴	炉	ベッド状	壁周溝	
S166	竪穴住居	長方形	4.90	4.0	G-5	S177、S291、S320→S166	2本柱?	円形	北西・東側	×	



第 248 図 S247 実測図・出土遺物実測図 1

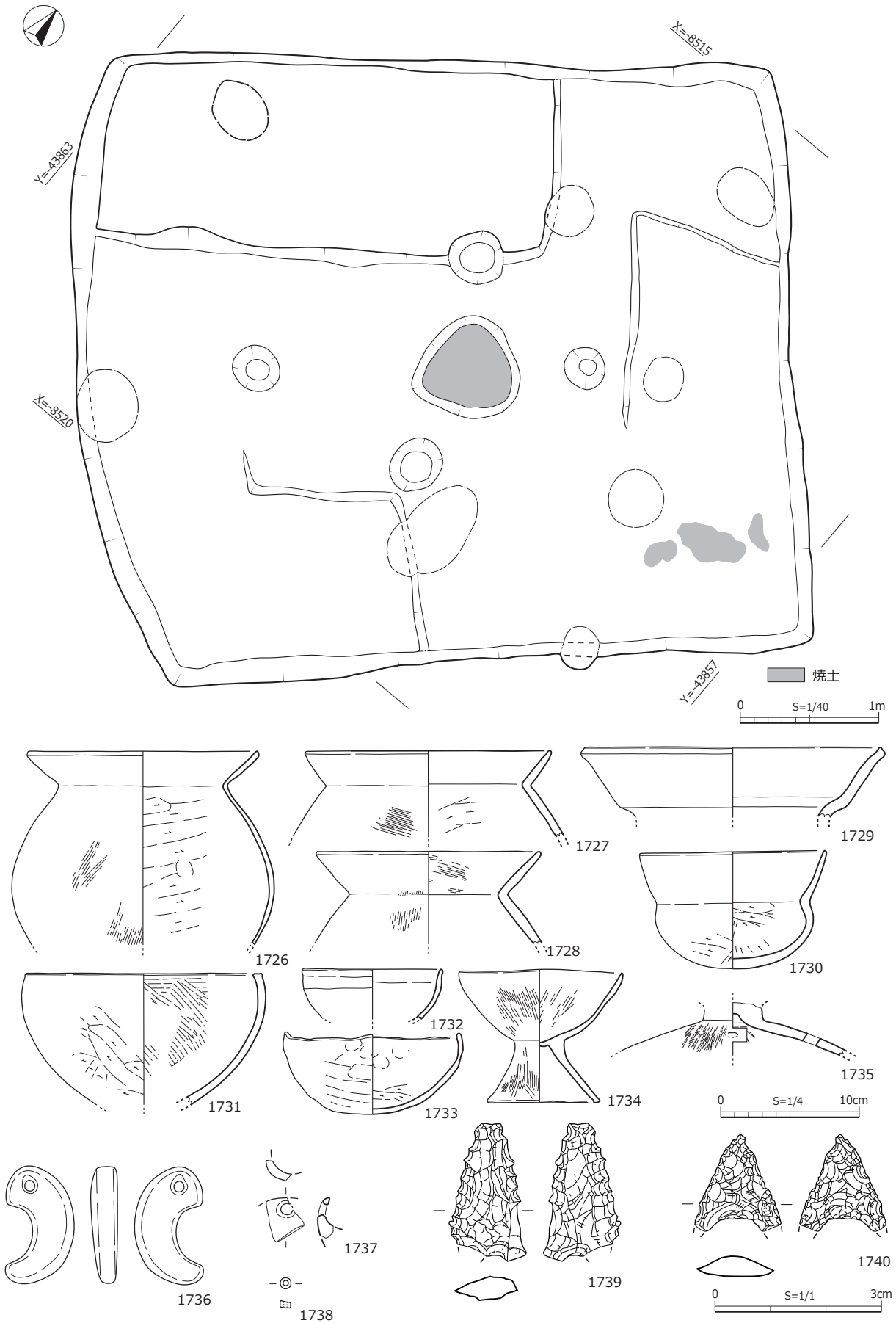


第249図 S247 出土遺物実測図2



第 250 図 S291 実測図・出土遺物実測図

S360 は長方形を呈す竪穴住居跡で、調査区のほぼ南端で確認され、現況は約 10 m 先で低位段丘の崖面がある。中央に焼土を伴う円形の炉跡と長軸方向に 2 本の主柱穴と見られるピットがある。北東壁と南・西側の隅に高さ 10cm にも満たないベッド状遺構が設けられている。壁際に壁周溝は見られず、出入口も推定できなかった。西隅には焼土を含む部分があった。なお、調査時の記録不備により、土層堆積状況図などを提示できなかったため、遺構内の状況は平面図の観察による。遺物出土状況も明らかではないが、S360 出土として取り上げられた遺物を図示している。土器は土師器甕・壺・鉢があり、甕は頸部以下内器面にヘラケズリを施すため、器壁が薄くなっていた。壺は複合口縁の資料が 1 点、鉢は小型で口縁が直立気味に立ち上がるものが多く見られた。玉類は 3 点見つかっており、1 点は完形で半円形を呈した滑石製勾玉である。全体に丁寧な研磨が施されるが、片面はやや平坦になっており、2 mm の孔には紐ずれの痕跡も見られた。1 点は黒色滑石製勾玉のごく小片と見られ、通常の孔に直交して対して上部からも大きく穿孔されている。もう 1 点は極小のガラス玉で、直径 2 mm ・孔径 0.8mm であった。直径もさることながら、これに通す糸にも細く作る技術が求められる。石鏃 2 点は弥生時代中期の混入と見られる。



第251図 S360実測図・出土遺物実測図

2. 土坑

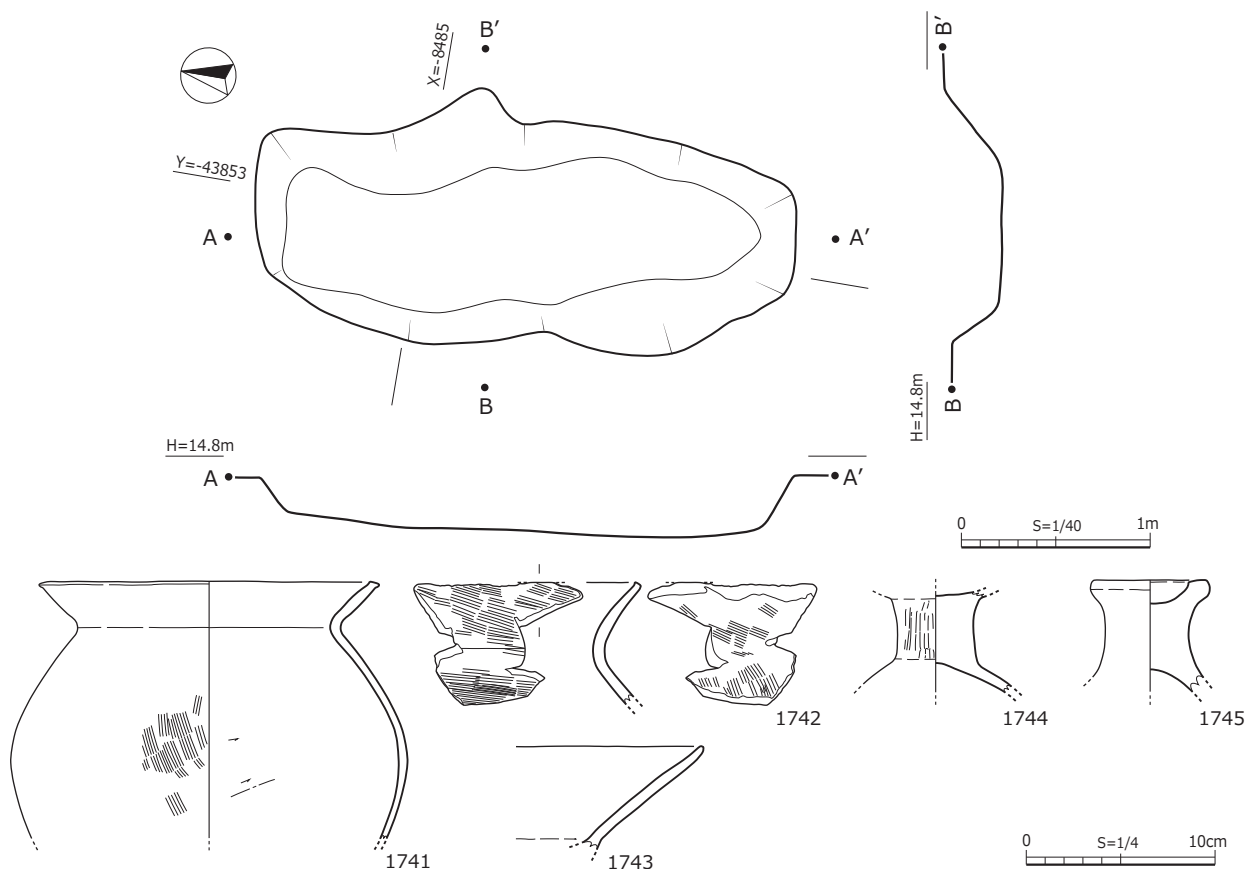
【S178】(第 252 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S178	土坑	長方形	2.87	1.16	0.32	E-5	—	

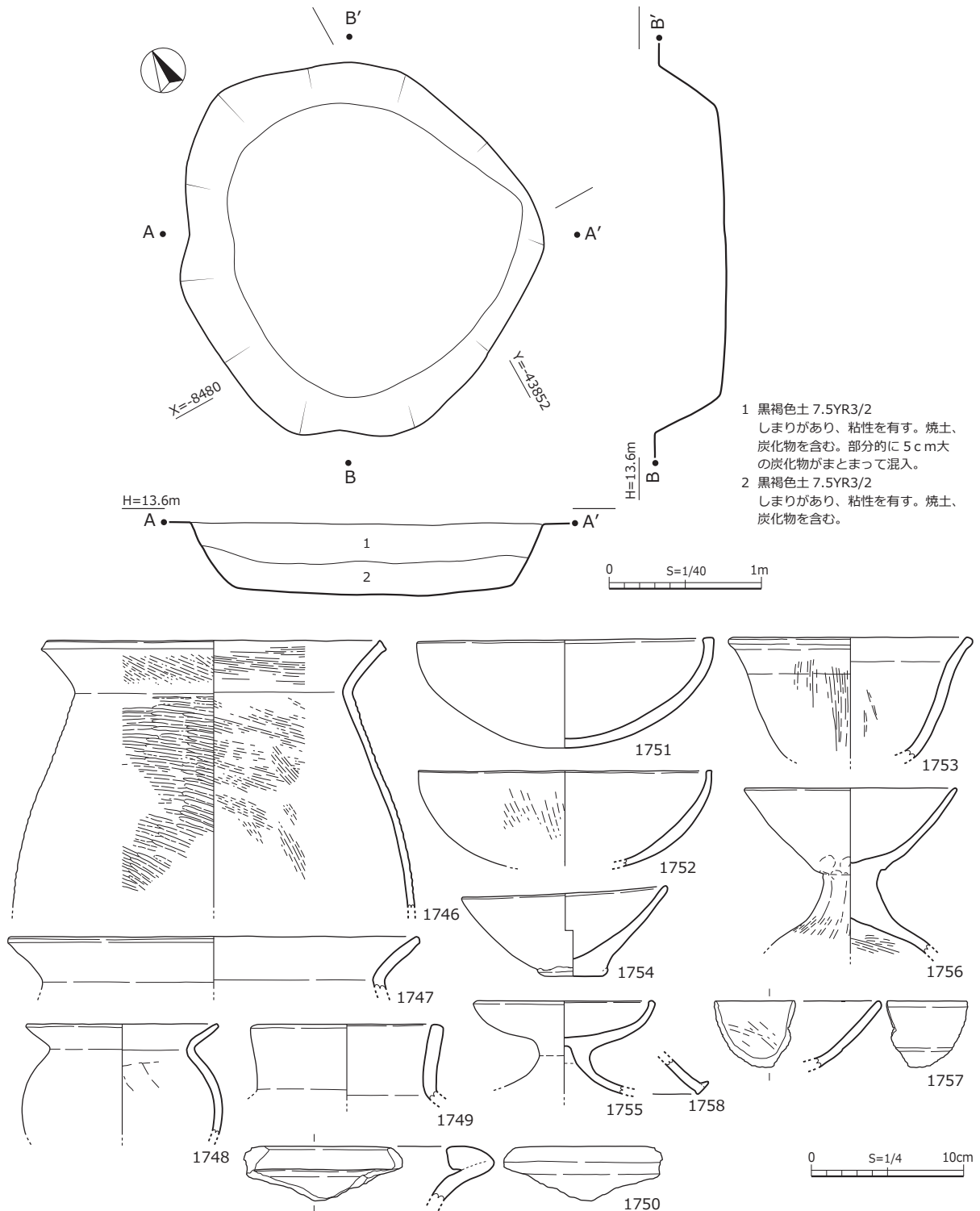
S178 はいびつな長方形を呈す土坑である。底面は平坦に掘られている。土層の記録は残されていない。S178 より出土した土器を 5 点図示している。甕・壺は 1 点ずつあり、甕は口縁から胴部中位までの資料で、胴部内器面はヘラケズリを行い、器壁が薄い。壺は口縁が長く延び、緩やかに外反する。高坏は 2 点で、直線的に広がる坏部の口縁と中実の脚柱部である。蓋天井部は弥生時代中期土器の混入と見ている。

【S180】(第 253 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S180	土坑	円形	2.50	2.20	0.46	E-6	S226 → S180	

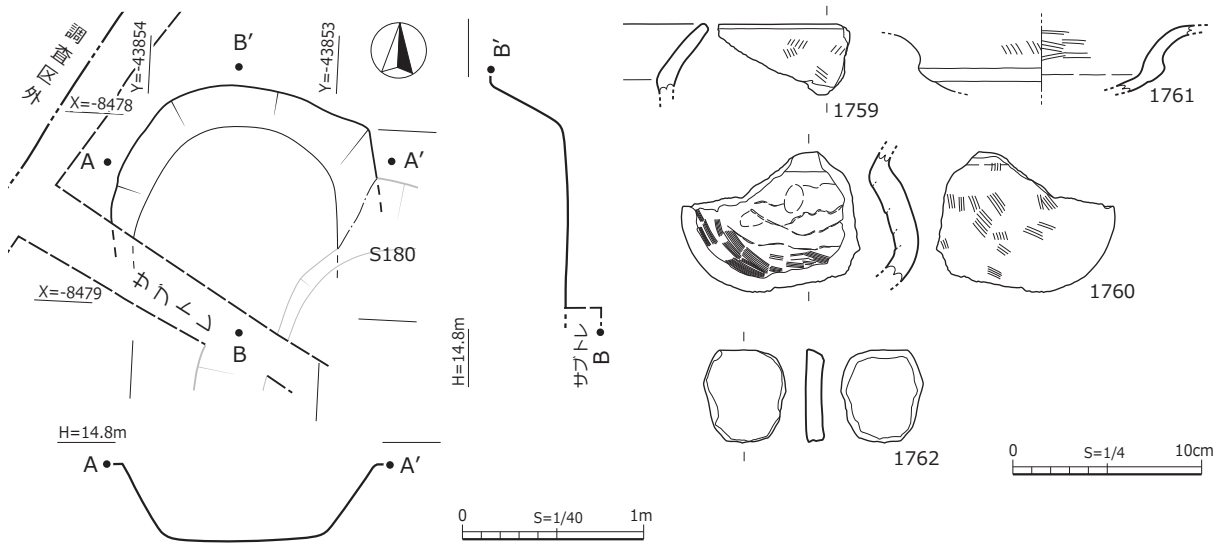


第 252 図 S178 実測図・出土遺物実測図

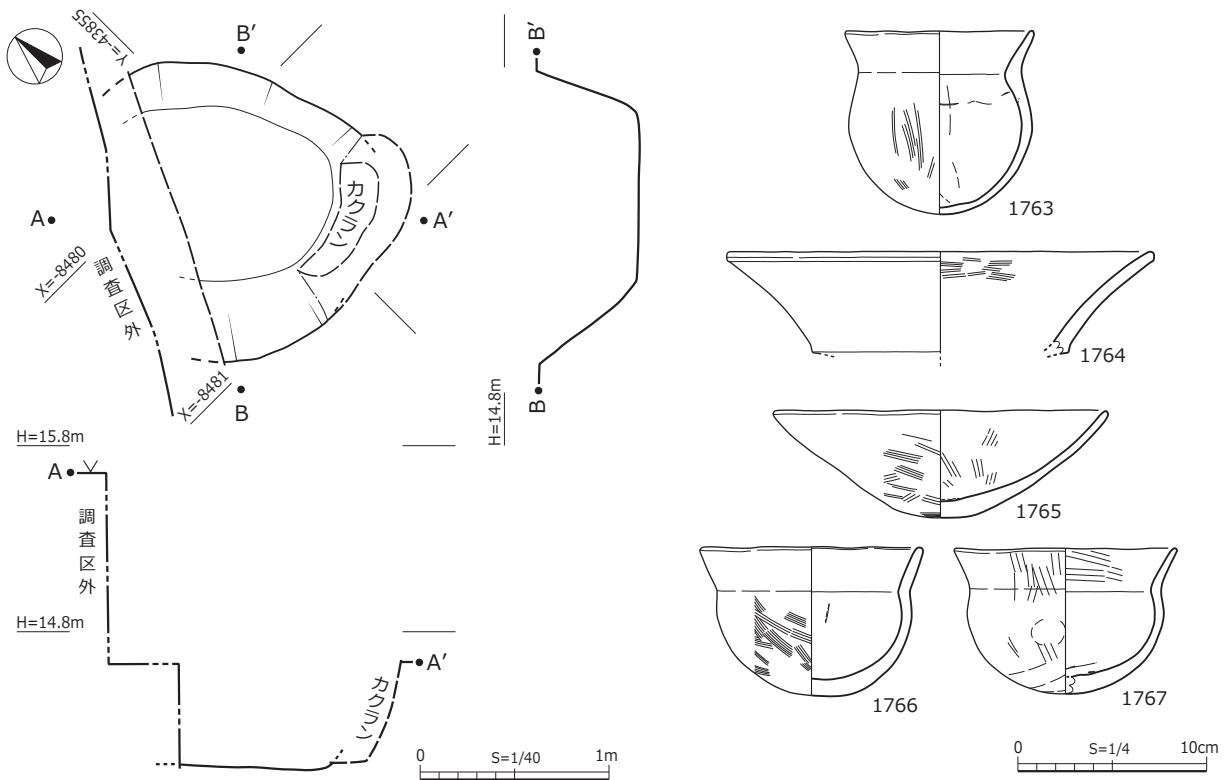


第253図 S180実測図・出土遺物実測図

S180は円形を呈する断面が皿形の土坑である。底面は平坦な作りとなる。北西部で土坑S226を切っている。S180から出土した遺物を図示している。いずれも土器だが、弥生時代後期から末頃の土器と古墳時代の土師器が混雑している。小型の甕や口縁が直立する壺、直線的な器形の鉢、高坏などを古墳時代の土師器と見ている。



第 254 図 S226 実測図・出土遺物実測図



第 255 図 S227 実測図・出土遺物実測図

【S226】(第 254 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S226	土坑	楕円形	1.40	1.3 + α	0.40	E-6	S226 → S180	

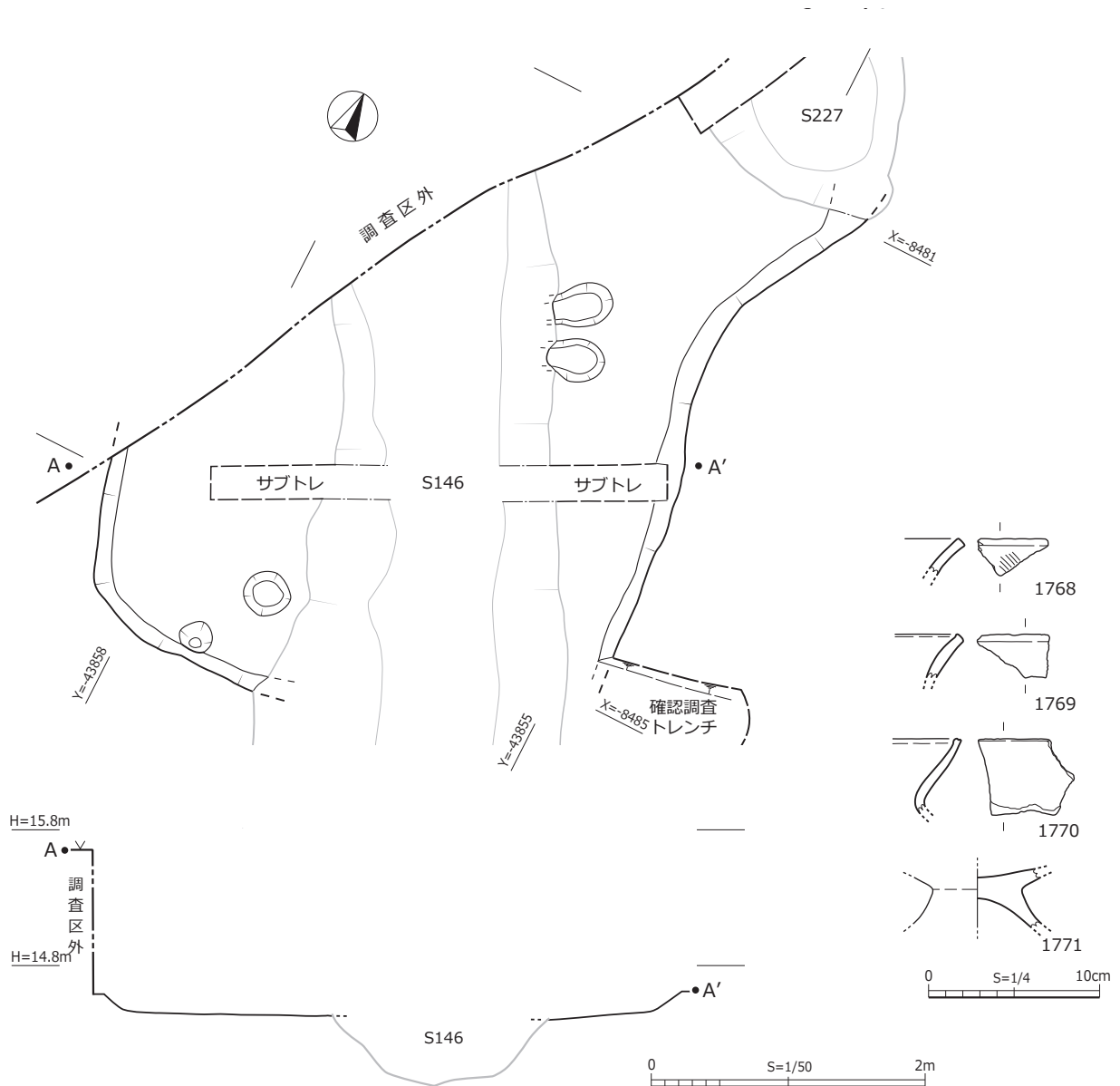
S226 は楕円形を呈すと見られる土坑で、断面形状は皿形をなす。南側を土坑 S180 とその調査の為に開けられたサブトレンチに切られている。出土遺物は土師器、土製円板があった。

土師器は甕口縁部、高坏の坏胴部、壺胴部などで、外器面は丁寧に仕上げられている。土製円板は土器片を手頃な大きさに打ち欠いて作られるが、用途は不明である。

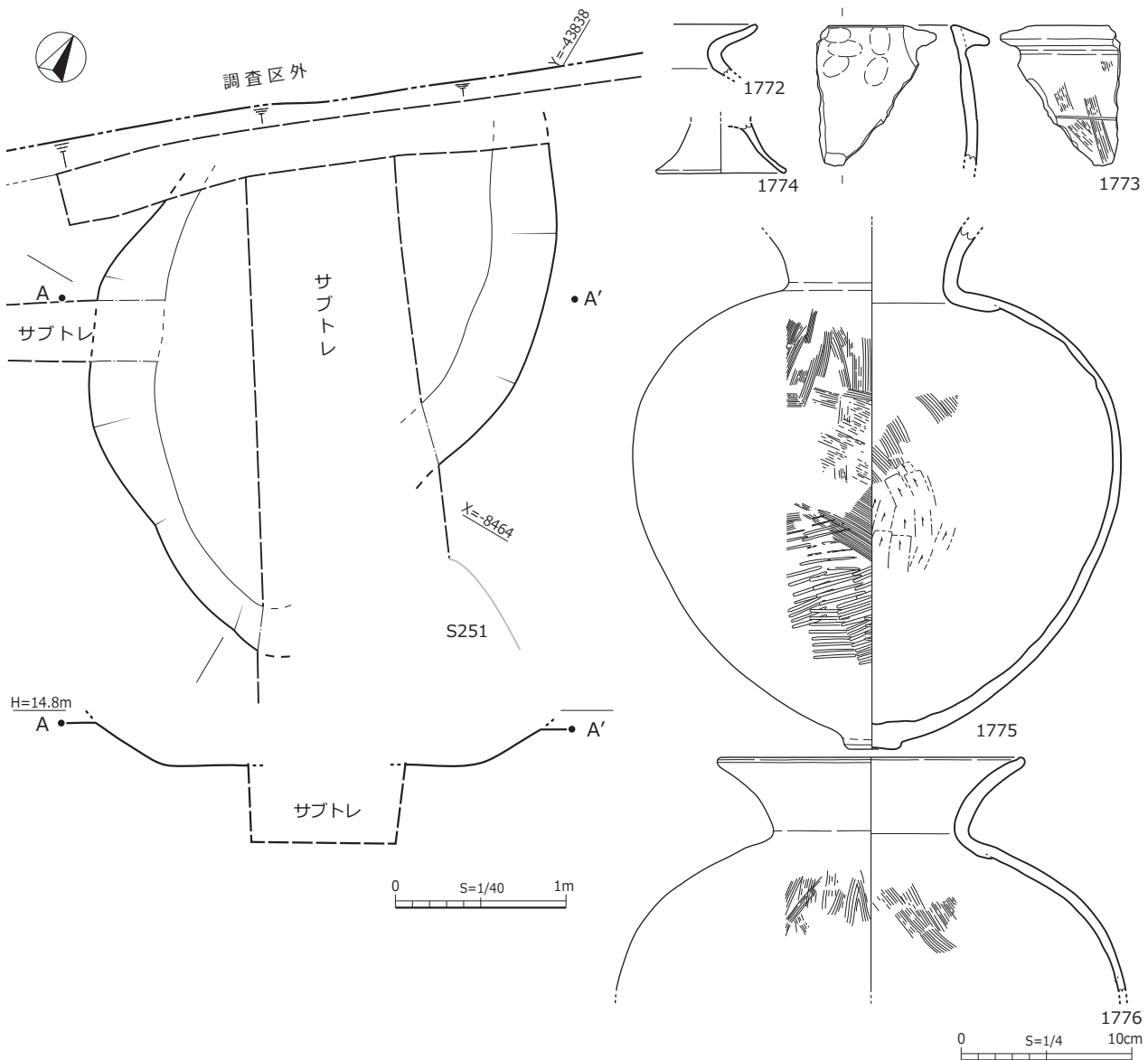
【S227】（第255図、）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S227	土坑	円形	1.66	1.0 + α	0.54	E-5	S228 → S227	

S227は円形を呈すと見られる土坑で、西側は調査区外へ延びる。南側では土坑S228を切り、また攪乱によって削られてもいる。S227からは土師器が出土した。甕と口縁を屈曲させた鉢は大きさ、形態とも似通っている。



第256図 S228実測図・出土遺物実測図



第 257 図 S243 実測図・出土遺物実測図

【S228】 (第 256 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S228	土坑	長方形か	5.0 + α	3.94	0.22	E-5	S228 → S146、S227	

S228 は長方形を呈すと見られる、比較的浅い土坑である。北西側は調査区外に延びている。北東側を土坑 S227 に、南東側は溝 S146 に切れ、中世には中央部分を溝 S146 が南北に縦断している。土師器甕の口縁部小片が 3 点、脚付鉢の接合部が 1 点出土している。

【S243】 (第 257 図)

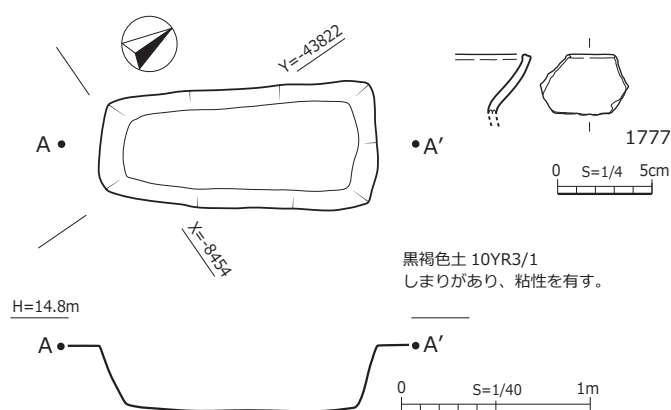
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S243	土坑	楕円形	3.0 + α	2.60	0.25	G-7	—	

S243は楕円形を呈す土坑である。南西側から北端にかけての中央部分は甕棺墓S251の調査に伴うサブトレンチによって大きく削られている。このため、遺構本来の形状が分かりにくくなってしまった。

出土遺物では口縁を三角形に肥厚させた、弥生時代中期の甕の混入があった。また土師器壺を2点図化しているが、同一個体である。口縁が単純に開き、球形胴から小さな平底へすぼまる器形で、外器面の胴部上位まではハケメ調整だが、下半にはタタキ痕が残る。

【S248】(第258図)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S248	土坑	長方形	1.48	0.68	0.34	H-8	S352→S248	



第258図 S248 実測図・出土遺物実測図

S248は長方形を呈する土坑で、垂直に近い角度で掘り込まれており、底の広さは検出面とさほど変わらない。同じ古墳時代前期の土坑S352を切っている。

土師器甕口縁部を図化した。屈曲した頸部から内湾気味に口縁端部へ至る器形である。

【S253】(第259図)

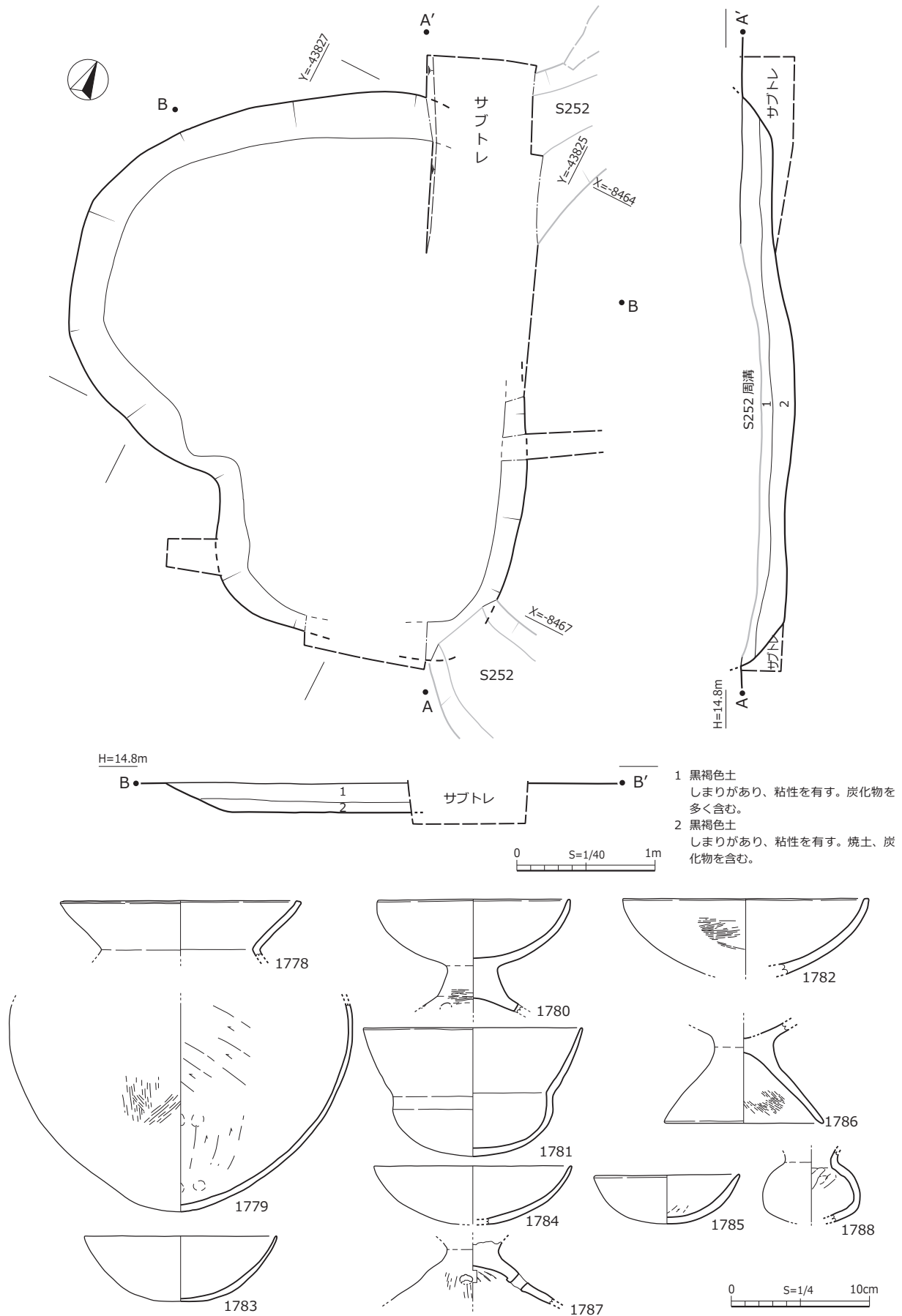
番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S253	土坑	不整形	3.98	3.50	0.40	H-7	S345→S253→S252、S355	

S253は不整形の土坑で、断面は皿状を呈し、底面は平坦に掘られている。西端部分で甕棺墓S345の墓坑をわずかに切っていて、東側では古墳S252の周溝が重なり、このほか土坑S355とサブトレンチによって削られている。S253出土遺物は土師器の甕・鉢、手捏ねの壺などである。なかでも脚の付かない土師器鉢は器壁がかなり薄いものである。

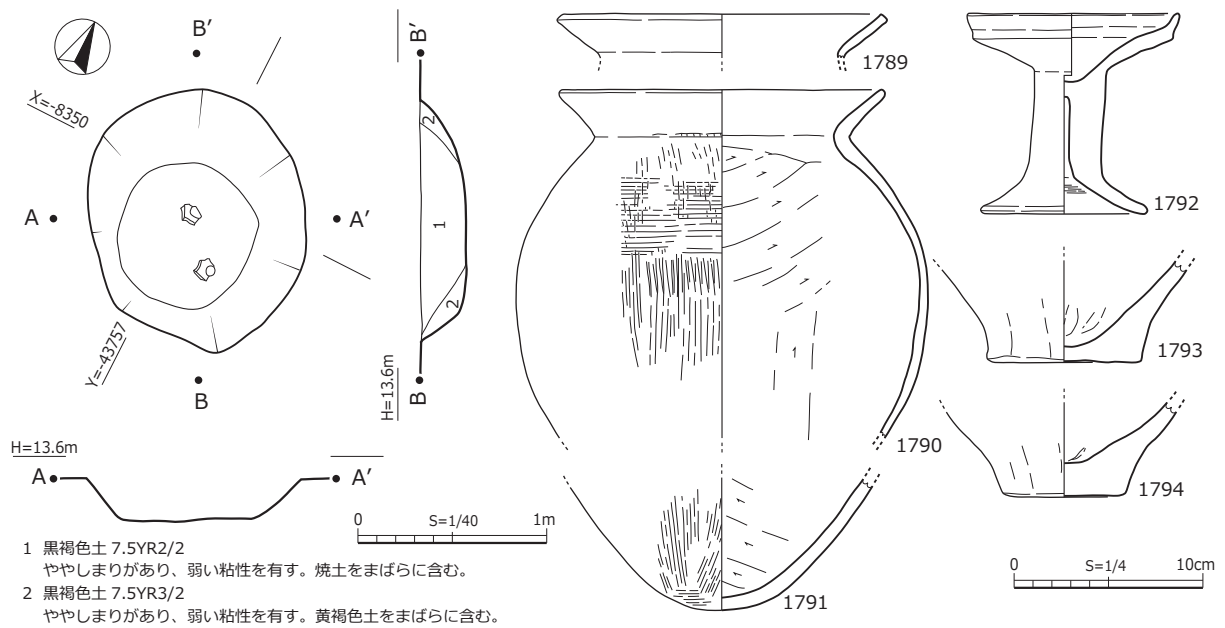
【S258】(第260図)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S258	土坑	円形	1.40	1.14	0.24	O-19	—	

S258は円形を呈す、断面が皿状の土坑である。弥生時代中期と見られる甕形土器の平底部分が出土した。



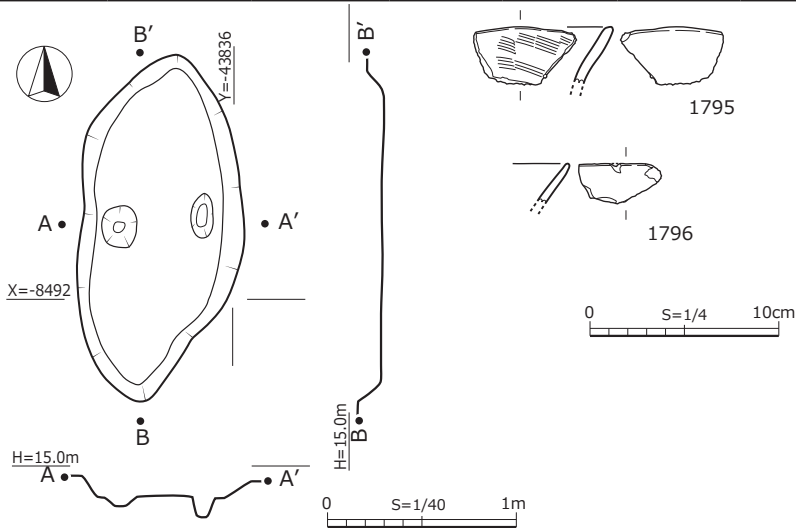
第 259 図 S253 実測図・出土遺物実測図



第260図 S258実測図・出土遺物実測図

【S264】(第261図)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S264	土坑	楕円形	1.85	0.75	0.20	G-4	—	



第261図 S264実測図・出土遺物実測図

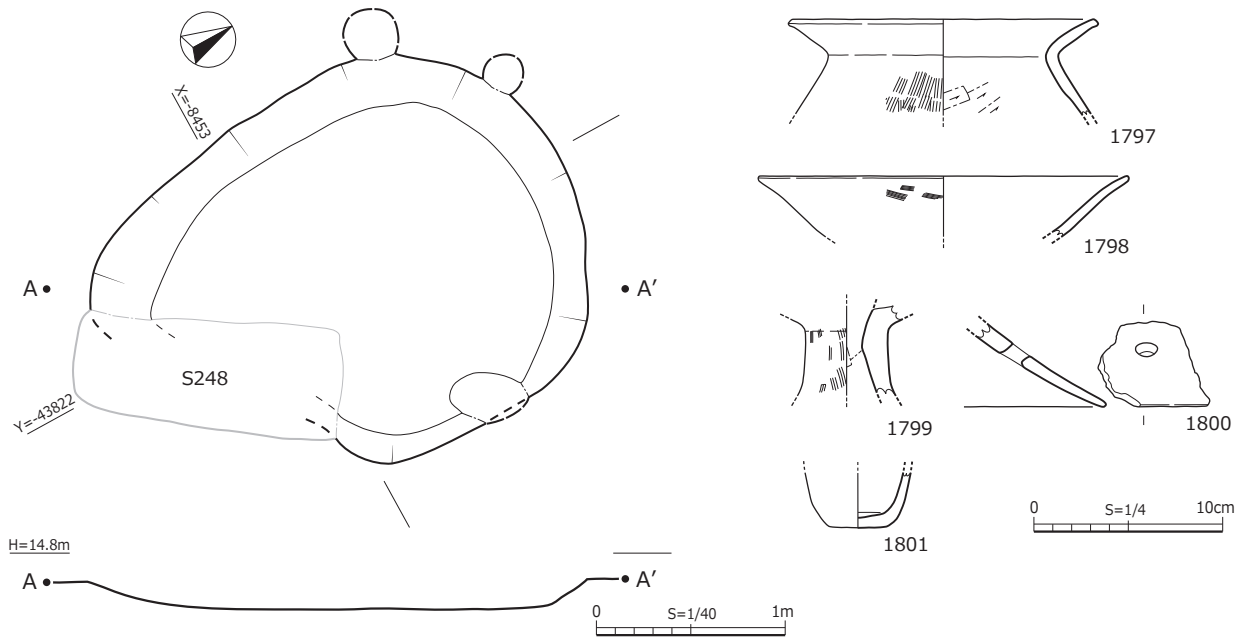
S264は楕円形を呈す土坑である。中央にピットが2つ並ぶが、遺構との関連は不明である。

土師器甕の口縁部2点を小片だが図示した。

【S352】(第262図)

番号	種別	平面形	規模(m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S352	土坑	楕円形	2.62	2.17	0.15	H-8	S352→S248	

S352は不整な楕円形を呈す浅い土坑で、南東部を古墳時代前期の土坑S248に切られている。S352からは土師器、手捏ね土器などが出土している。図示したのは土師器甕・高坏と手捏ね

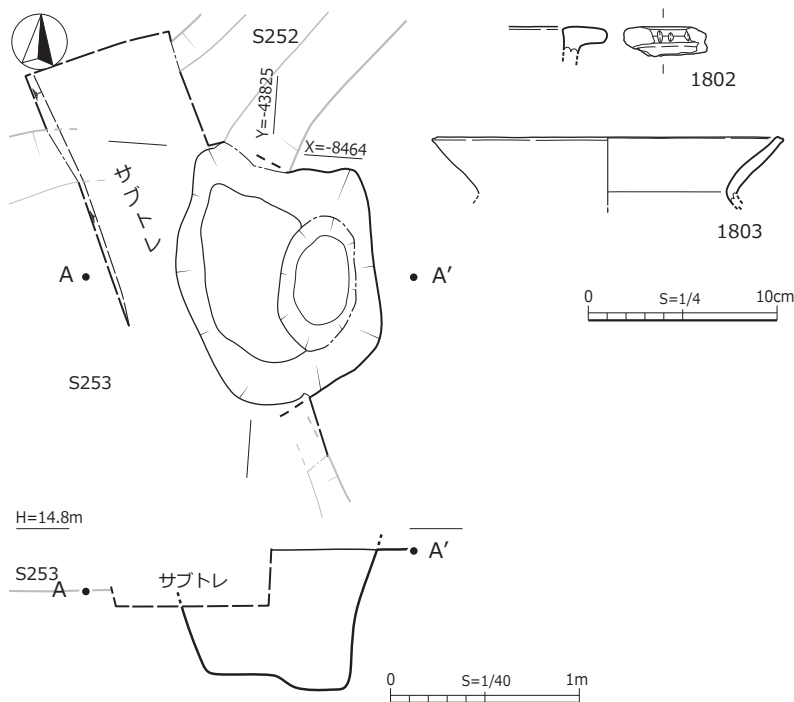


第 262 図 S352 実測図・出土遺物実測図

鉢で、高坏は別個体と見られる坏部・坏と脚の接合部・脚端部があった。

【S355】（第 263 図）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長辺	短辺	深さ			
S355	土坑	楕円形	1.4 + α	1.0 + α	0.75	H-7	S253 → S355 → S252	



第 263 図 S355 実測図・出土遺物実測図

S355 は楕円形を呈すと見られる土坑で、底面は東側が 10cm 程度低い段状の構造となっている。土坑 S253 を切り、西側のおよそ半分は古墳 S252 の周溝に切られ、また周溝調査に際して設定されたサブトレンチにも一部を切られている。

出土土器では弥生中期の甕が混入していた。もう 1 点は土師器甕口縁部で、内湾気味に立ち上がり、口縁端部は沈線を施したように凹んでいる。

(2) 古墳時代中期の遺構・遺物

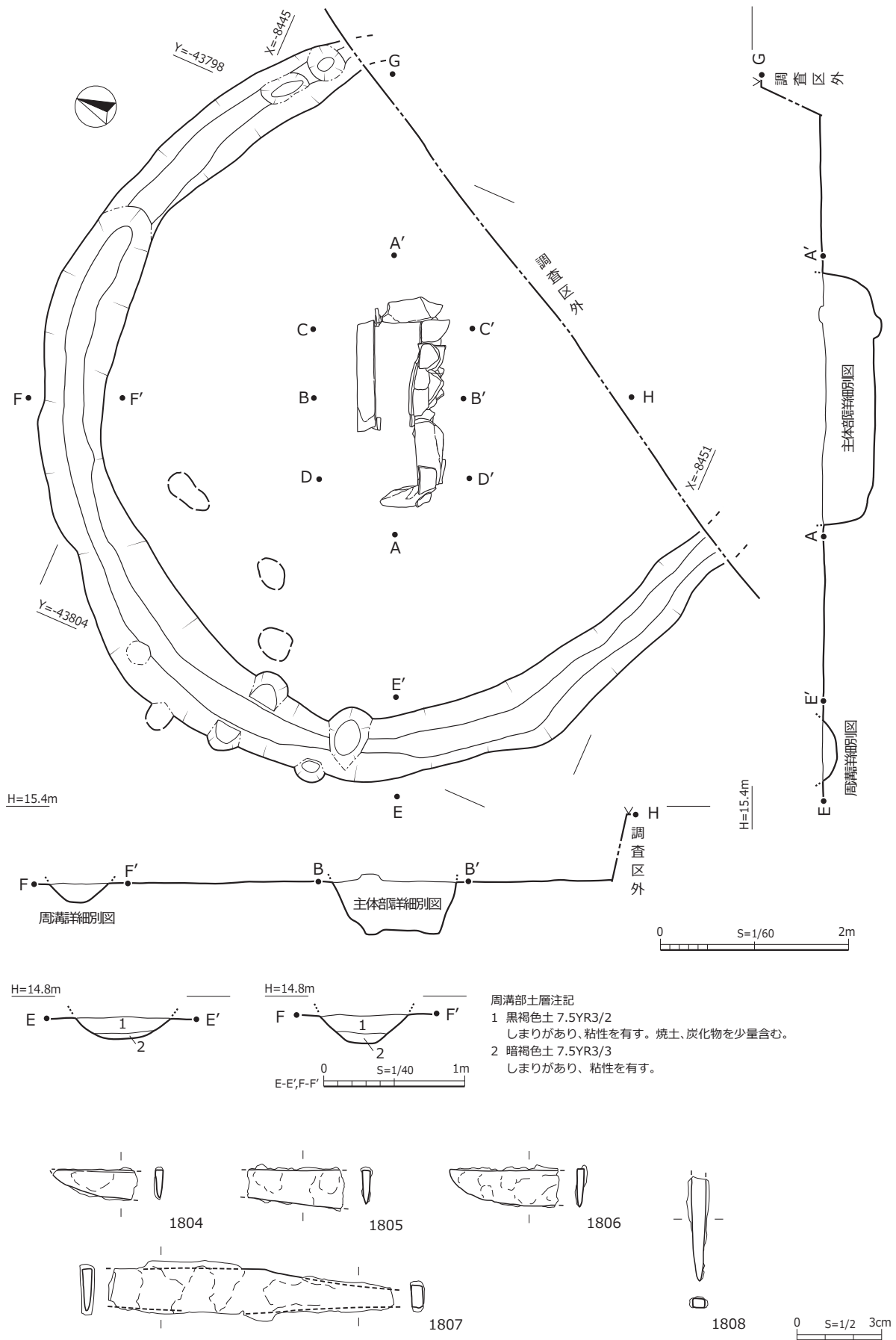
1. 古墳

【S121】(第264～268図、巻頭図版5、図版22)

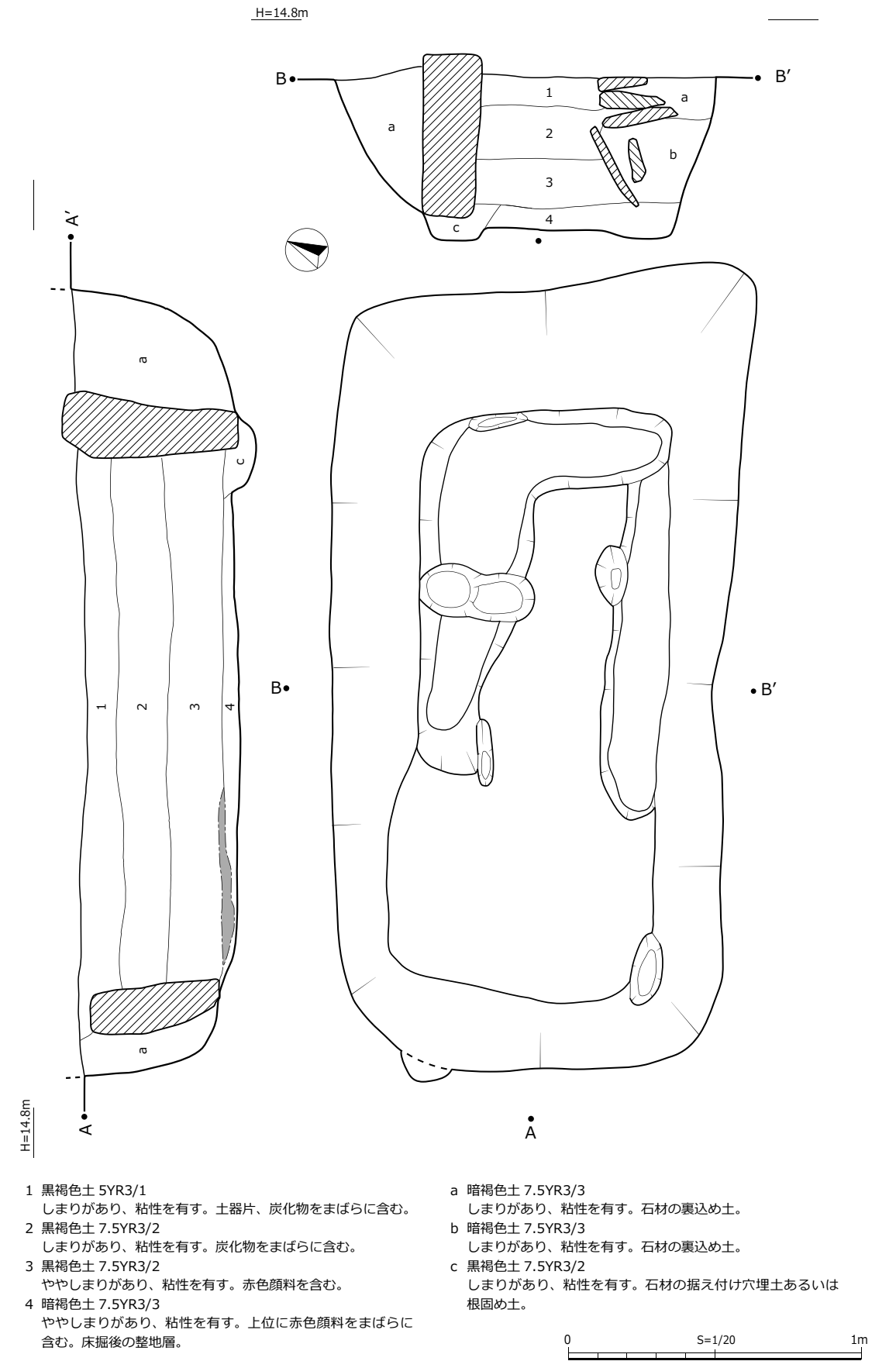
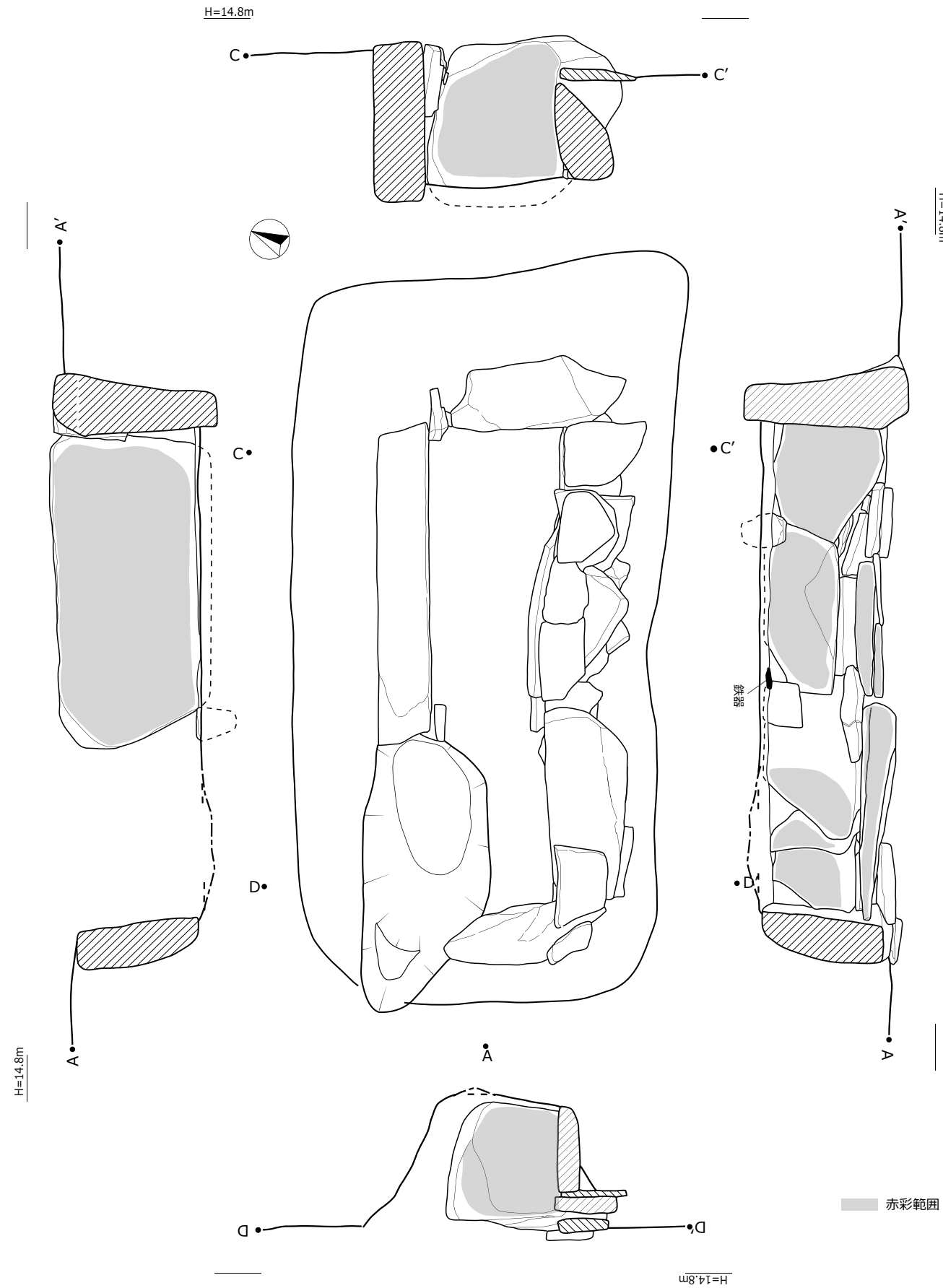
番号	種別	全長 (m)	石室内法 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			副葬品	備考
			長辺	短辺			石室	装飾	周溝		
S121	円墳	7.60	1.80	0.48	J-9 他	—	石棺系石室	石室内側赤彩	周溝 幅 60～90cm	鉄製品白玉	

S121は平成21年度に行われた確認調査で見つかった古墳で、石室上部の数個の石材と掘り込みが露出していた。本調査では中央に石棺系石室を構築し、直径7.6mの周溝を備える円墳であることがわかった。ただし周溝の南東側は調査区外に延びており、陸橋の有無など全面にわたる発掘は実施できなかった。遺構の上部に関しては、墳丘をすべて失い、さらに石室上部を構成する平積みの板石や蓋石も動かされる深さまで地形の改変や削平が行われたと考えられる。主軸方位はN-66°-Wで、石室構築の為の掘り込みは2.65m×1.35m、石室内法は1.80m×0.48mである。石室築造の工程はまず床掘りと整地を行っている。ただし、この整地層(4層)は礫や粘土を伴っておらず、床面(屍床)としている。次に基底となる石を据えている。この時整地層を石材に合わせて掘りくぼめ、先に長側壁、次に小口の順で黒褐色土(c層)を用いて根固めを行っている。なお、根固めを行うより前、石室内に赤色顔料を塗布したと見られる。これは赤彩が鮮やかに残っていた東側小口石の下端部まで顔料が垂れていることによる。さらに長側壁では基底石前面の数カ所で30cm程の板石を立てて押さえとしている。なお、南北の長側壁で石材選択に若干の違いが見られる。北側は一部の石材を欠くが、長さ1.4mの大型石材を立てている。南側では小型の板石と大型の石材を併用している。石室東側では押さえの板石のひとつに面を合わせて小口石が据え置かれている。この後基底に立てた板石や大型石材の背面に裏込めの土(a・b層)や小型の板石を入れている。周溝は検出面での幅60～90cm、深さ20cmで断面が皿状を呈す。

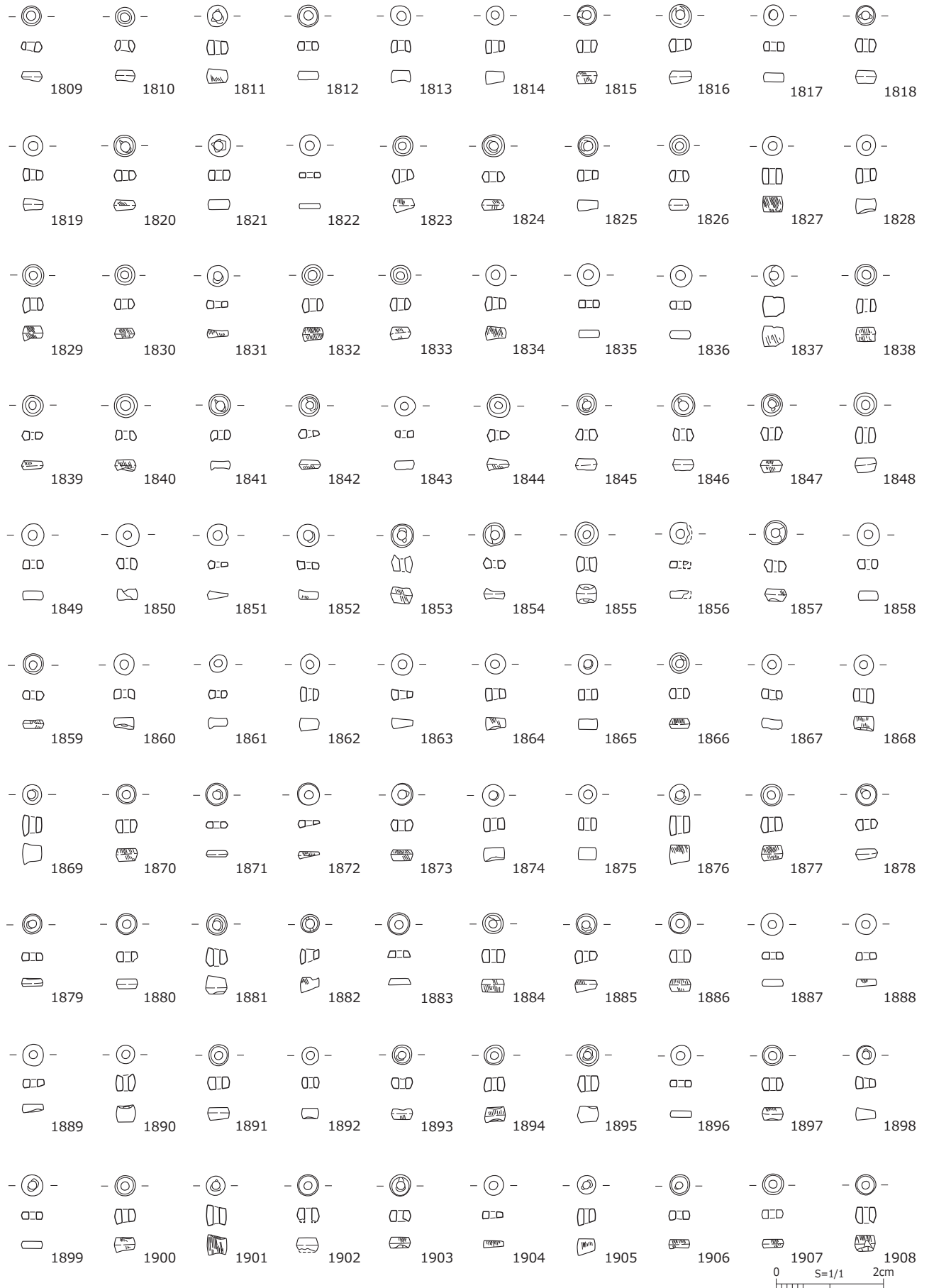
主体となる石室から刀子や鍬などの鉄器や多量の石製玉類の出土があった。鉄器は折れたり厚く錆が付着していた。玉類は石室内の掘り下げを行う前の清掃を実施したところ、数点の滑石製白玉を検出したため、石室内の土をすべて洗浄した。その結果白玉271点、棗玉2点、管玉1点の玉類計274点を検出した。白玉は暗緑色の滑石を用い、平均で直径3.8mm、厚さ2.2mm、孔径1.5mmの大きさである。直径と孔径で大きな個体差は見られないが、厚さでは1.0～4.0mmとばらつきがあった。側面は研磨の痕跡を残すものが多く、また半分ほどの146点は側面に稜を持つ。石室床面に近いほど点数は多くなる傾向にあるが、平面での分布に偏りは見られなかった。



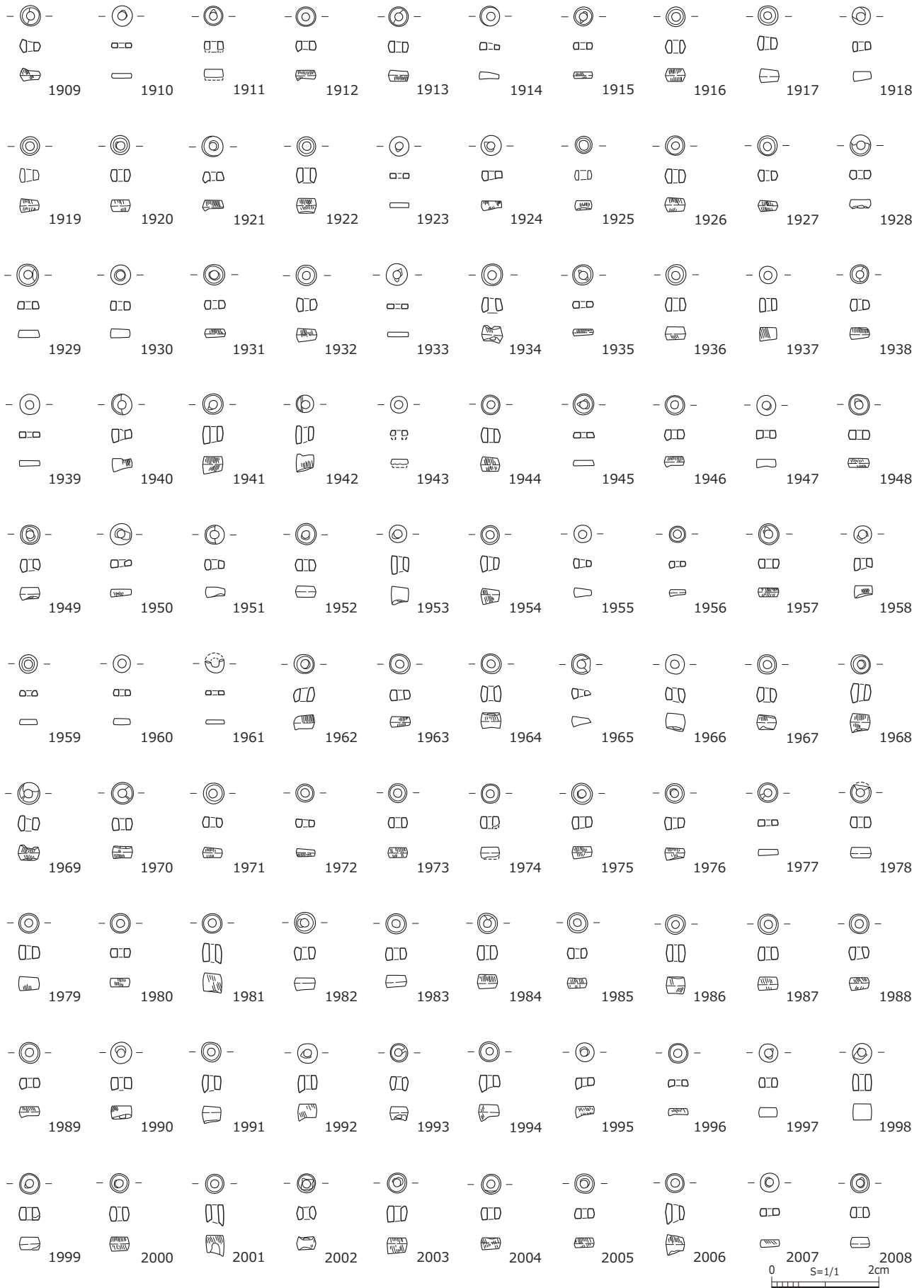
第 264 図 S121 実測図 1・出土遺物実測図 1



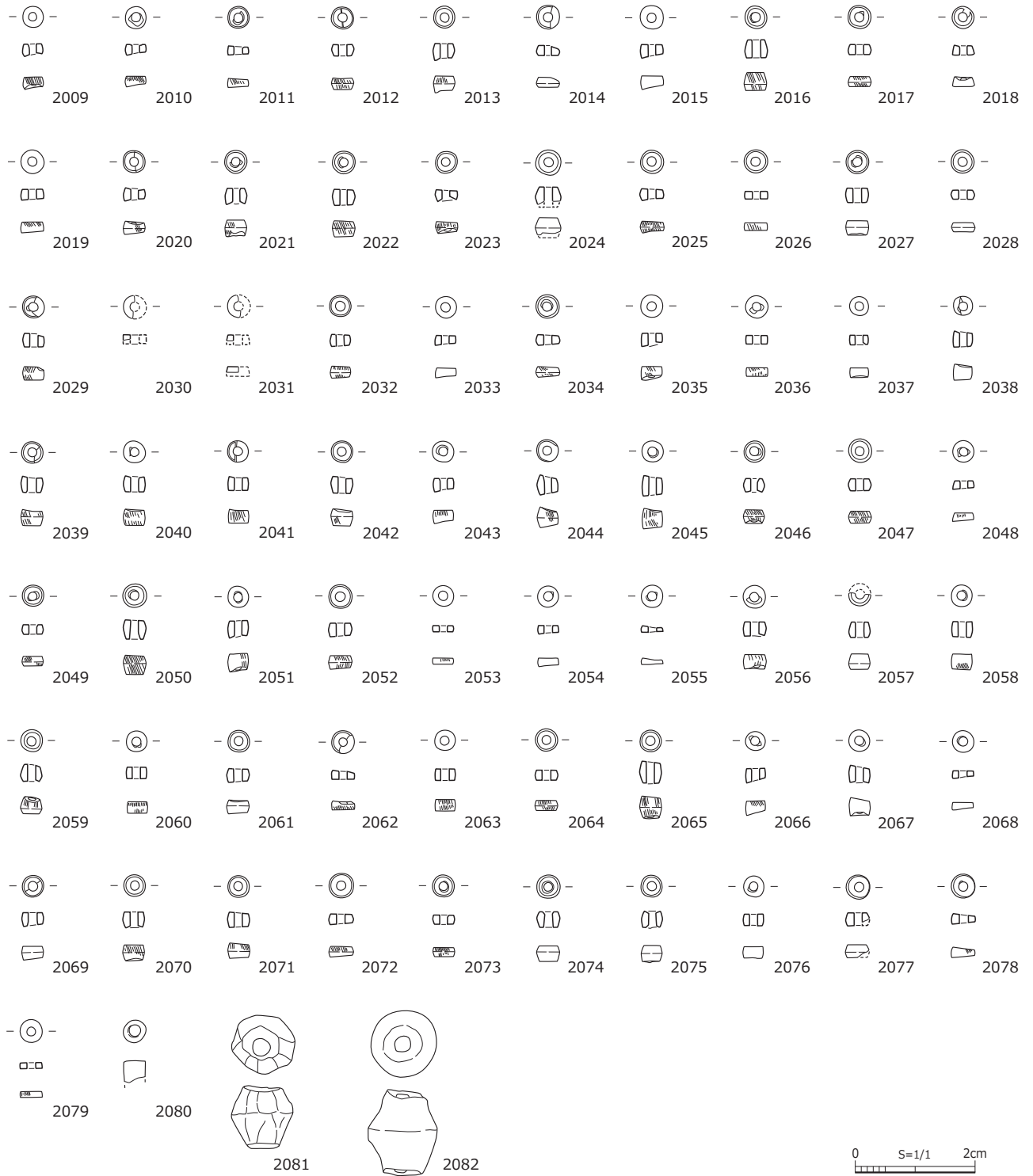
第 265 図 S121 実測図 2



第 266 図 S121 出土遺物実測図 2



第 267 図 S121 出土遺物実測図 3



第 268 図 S121 出土遺物実測図 4

【S167】(第 269 ~ 272 図、巻頭図版 6、図版 22)

番号	種別	全長 (m)	石室内法 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			副葬品	備考
			長辺	短辺			石室	装飾	周溝		
S167	円墳	12.0	1.97	0.70	F-3・G-3	S167→S146	石棺系石室	石室壁赤彩	幅 1.2 m	鉄器・玉・土師器	

S167 は石棺系石室と周溝を持つ全長 12.0 m の古墳で、今回の調査で見つかった古墳中最大のものである。石室より南側は、崖面へと下がっていく地形の為に削られていた。西側は中世の溝 S146 で周溝の一部を失っている。周溝は 1.2 m 前後の幅を有しており、削平などにより陸橋の有無は不明である。残存していた周溝から径を復元して全長とした。石室の主軸方向は N -15° - W で、墳丘及び石室上部の積石は後世の攪乱などによって大きく削平を受け、失われている。主体部は 3.0 × 2.2 m の範囲を掘り下げ、その中に石棺系石室が築造されている。石室の立石には赤彩の痕跡が見られる。基底となる立石の位置に幅約 20cm の溝状に掘り込む。この溝の下部に g 層を敷いている。次に北の小口側と東西の長側壁に基底となる大型の立石を g 層に埋め込むように立てている。次に立石の背面に裏込め (e・f 層) を施している。また、貼床 (a 層) も前後して作業され、屍床面が形成されたと見られる。石室下部構築最後の工程として南側小口の立石が立てられている。石室は南側の攪乱からもわかるように盗掘があったと見られ、石室内には弥生土器片の混入も見られた。

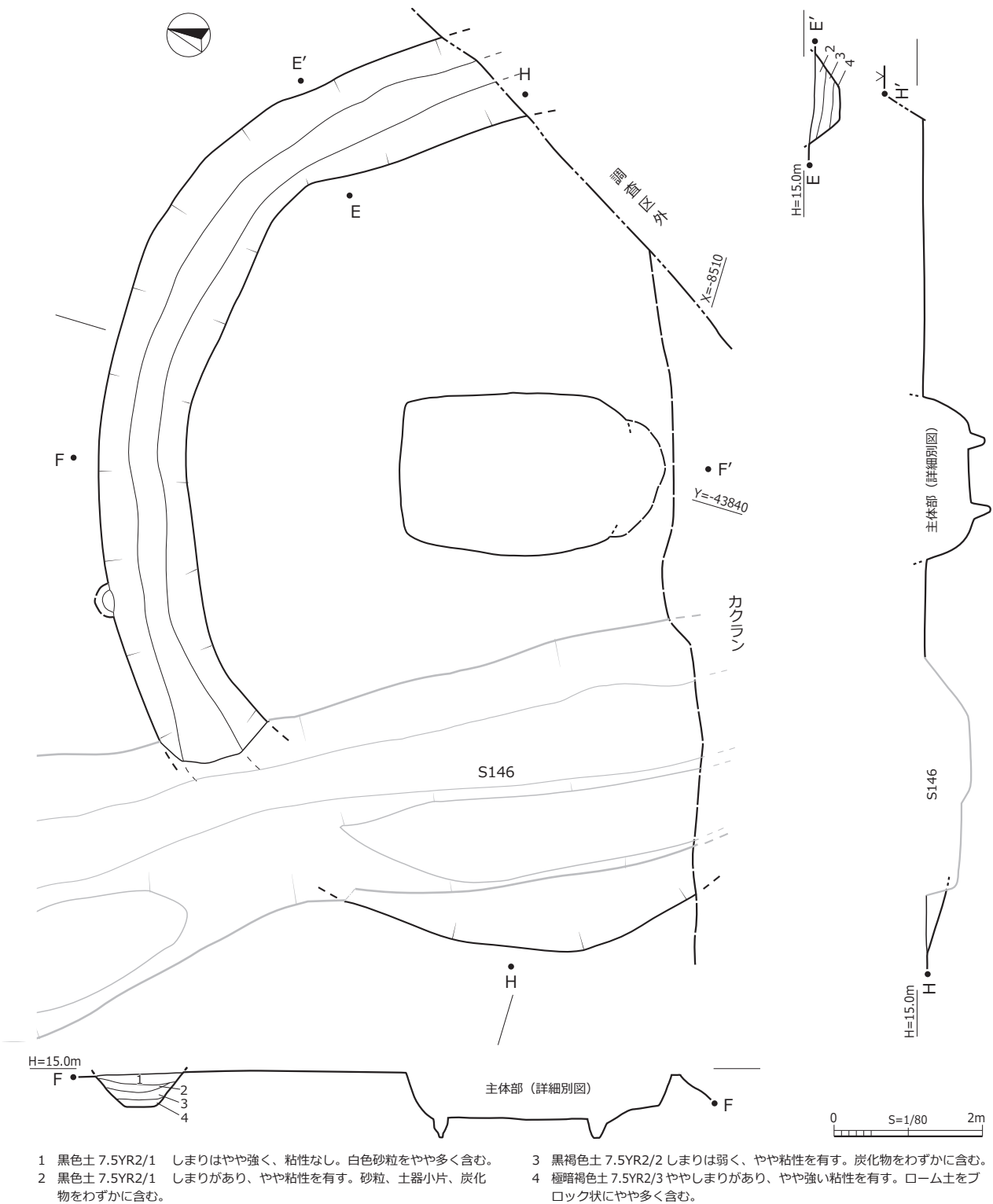
S167 においても石室内の排土はすべて水洗作業を行った。その結果、石室内からは濃緑色のガラス玉が 34 点見つかった。わずかな個体差は認められるが、ほぼ同じ規格・色調であり、同時に作られまとまった形で石室に入れられたと考えられる。屍床面から出土した鉄器として鍬 5 点を図示した。先端部の大きさや形状には違いが見られる。周溝及び石室を含む主体部から少量の土師器を検出した。また、石室内からは弥生土器も出土しているが、盗掘などで堆積土が乱され、周囲から混入したと見られる。

【S168】(第 273・274 図、巻頭図版 8、図版 23)

番号	種別	全長 (m)	主体部 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			副葬品	備考
			長軸	短軸			石室	装飾	周溝		
S168	円墳	10.0	—	—	I-7 他	—	石棺系?	—	幅 1.0 m	周溝に土器・鉄器	主体部盗掘で破壊

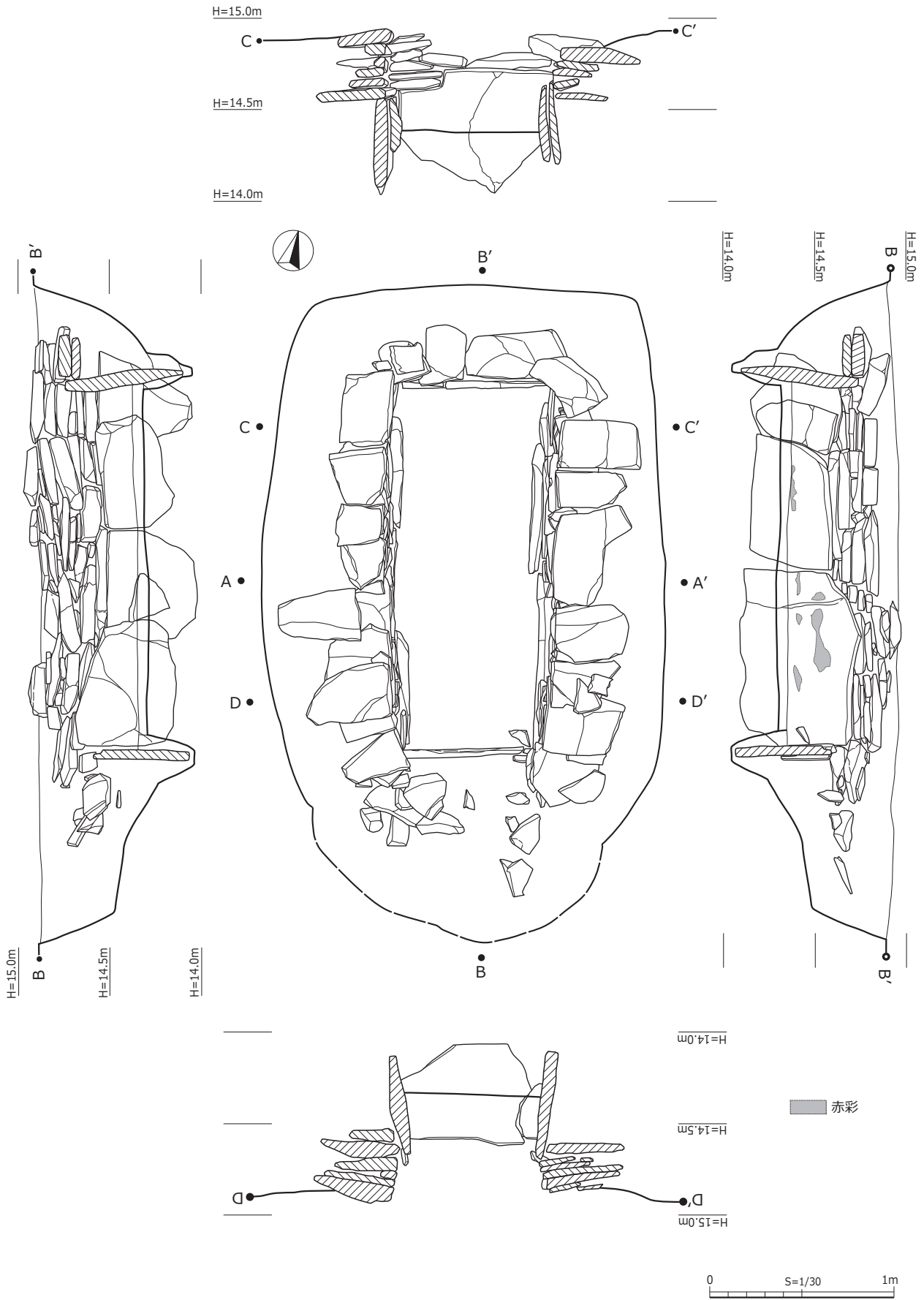
S168 は全長約 10 m、主体部を失った円墳で、墳丘も他の古墳と同様に後世の削平を受けている。主体部は石棺系石室であったと見られるが、盗掘によって埋土内に石棺材の板石数枚を残して完全に破壊されており、その構造や規模及び副葬品はわからなくなってしまった。この盗掘坑は北西—南東方向に長軸があり、これは主体部の主軸に沿ったものと考えられる。周溝は不整な円形で、南側で遺物の集積が見られた。周溝東側は調査区外まで延びるため、陸橋の有無はわからない。

出土した遺物はすべて周溝から出土しており、特に南側の一画からは高坏 5 点と鉢、鉄製品各 1 点がまとまって検出され、さらに数 m 離れた箇所からは土師器壺が見つかった。高坏は胎

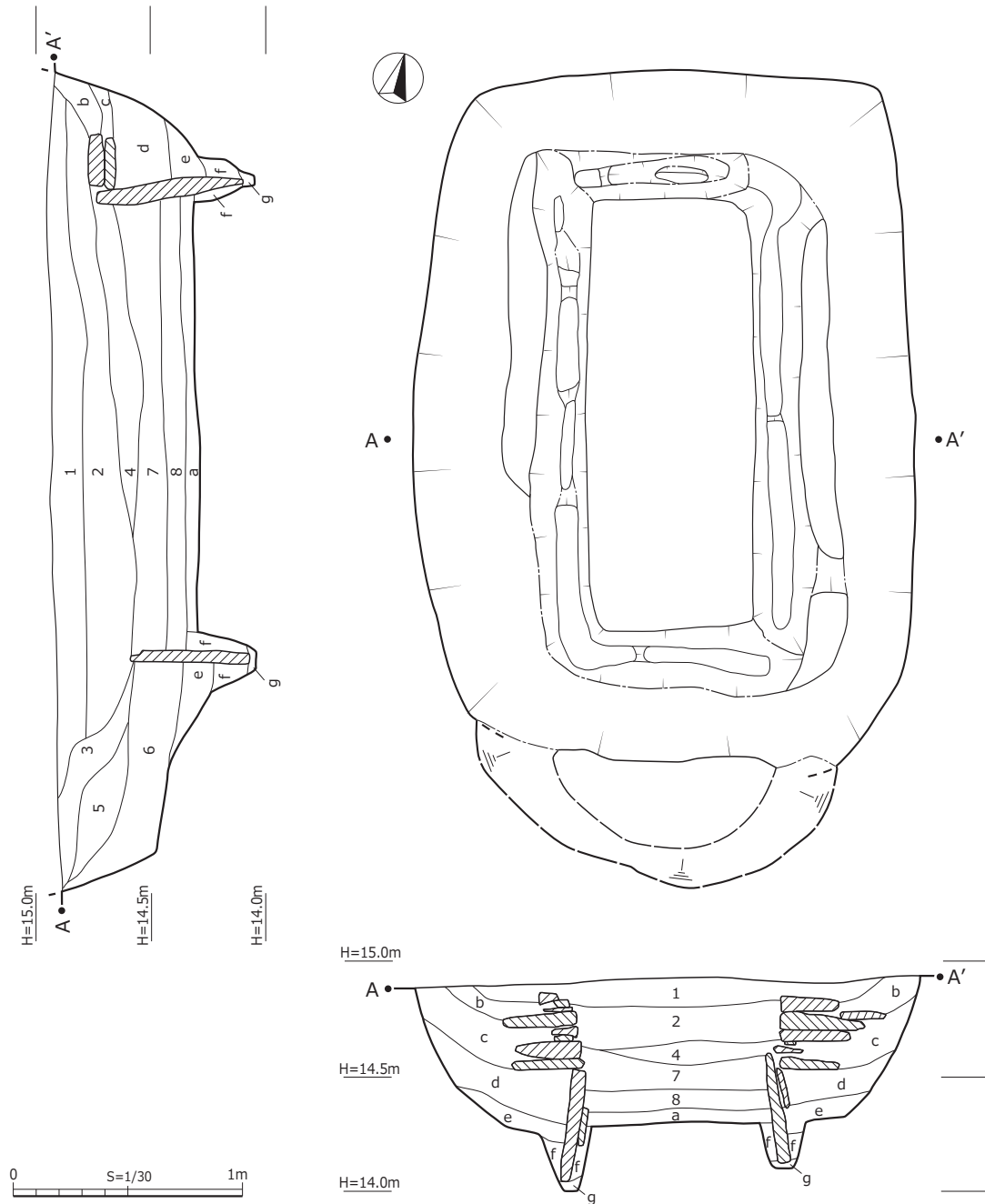


第 269 図 S167 実測図 1

土や色調でわずかな違いは認められるものの、同じ意匠によって作られた器形である。坏部は胴部下半で屈曲し、口縁へ直線的に伸び口縁直下はわずかに外反している。脚柱部はハの字に開き、脚裾では大きく広がっている。鉢は口縁部でわずかに内湾している。壺は球形胴で頸部より上は意図的に外されていた可能性がある。鉄製品は鋤と見られるやや大型の製品であった。また、遺構埋土からは他に石鏃未製品、手捏ねの鉢、鉄鏃の身部、ガラス玉が出土している。



第 270 図 S167 実測図 2



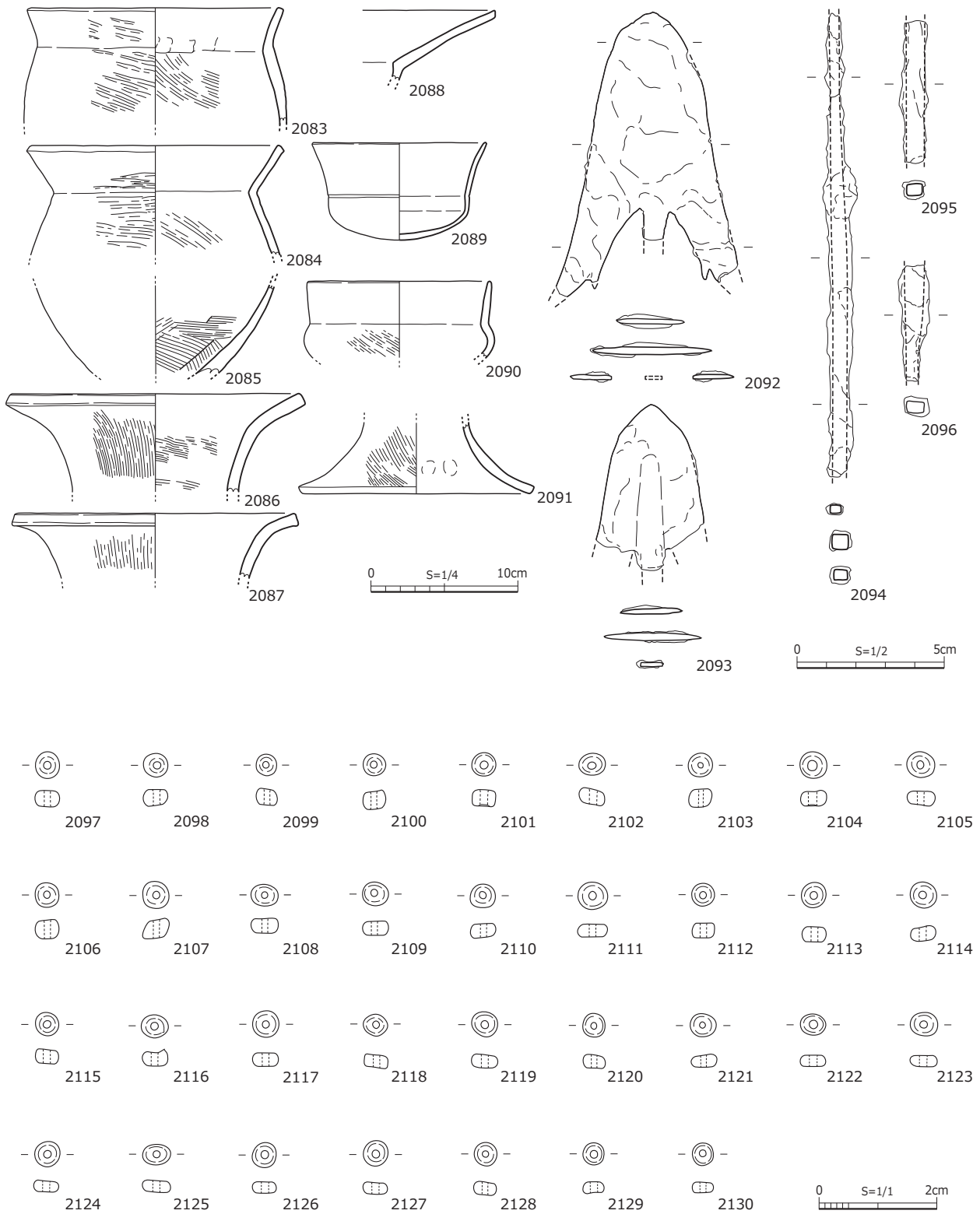
石室内

- | | |
|-----------------|--|
| 1 黒褐色土 7.5YR2/2 | しまりはやや強く、弱い粘性を有す。砂粒をやや多く、赤褐色土、焼土をわずかに含む。 |
| 2 暗褐色土 7.5YR3/3 | しまりがあり、やや粘性を有す。砂粒をわずかに、黄褐色土をやや多く含む。 |
| 3 黒褐色土 7.5YR3/2 | ややしまりがあり、やや強い粘性を有す。灰茶褐色土をまばらに含む。 |
| 4 暗褐色土 10YR3/3 | しまりはやや強く、弱い粘性を有す。砂粒をまばらに、茶褐色土をやや多く含む。 |
| 5 暗褐色土 10YR3/3 | ややしまりがあり、やや強い粘性を有す。赤茶褐色土、青灰褐色粘土をまばらに含む。 |
| 6 褐色土 7.5YR4/3 | しまりは弱く、強い粘性を有す。灰黄褐色粘土をやや多く含む。 |
| 7 黒褐色土 7.5YR3/2 | しまりは弱く、強い粘性を有す。ローム土を粒状にわずかに、砂粒をまばらに含む。 |
| 8 褐色土 7.5YR4/4 | しまりはやや強く、弱い粘性を有す。灰色粘土をやや多く含む。 |
| 9 黒褐色土 10YR2/3 | しまりはやや強く、強い粘性を有す。灰白色粘土を粒状に、砂粒、ローム土をまばらに含む。 |

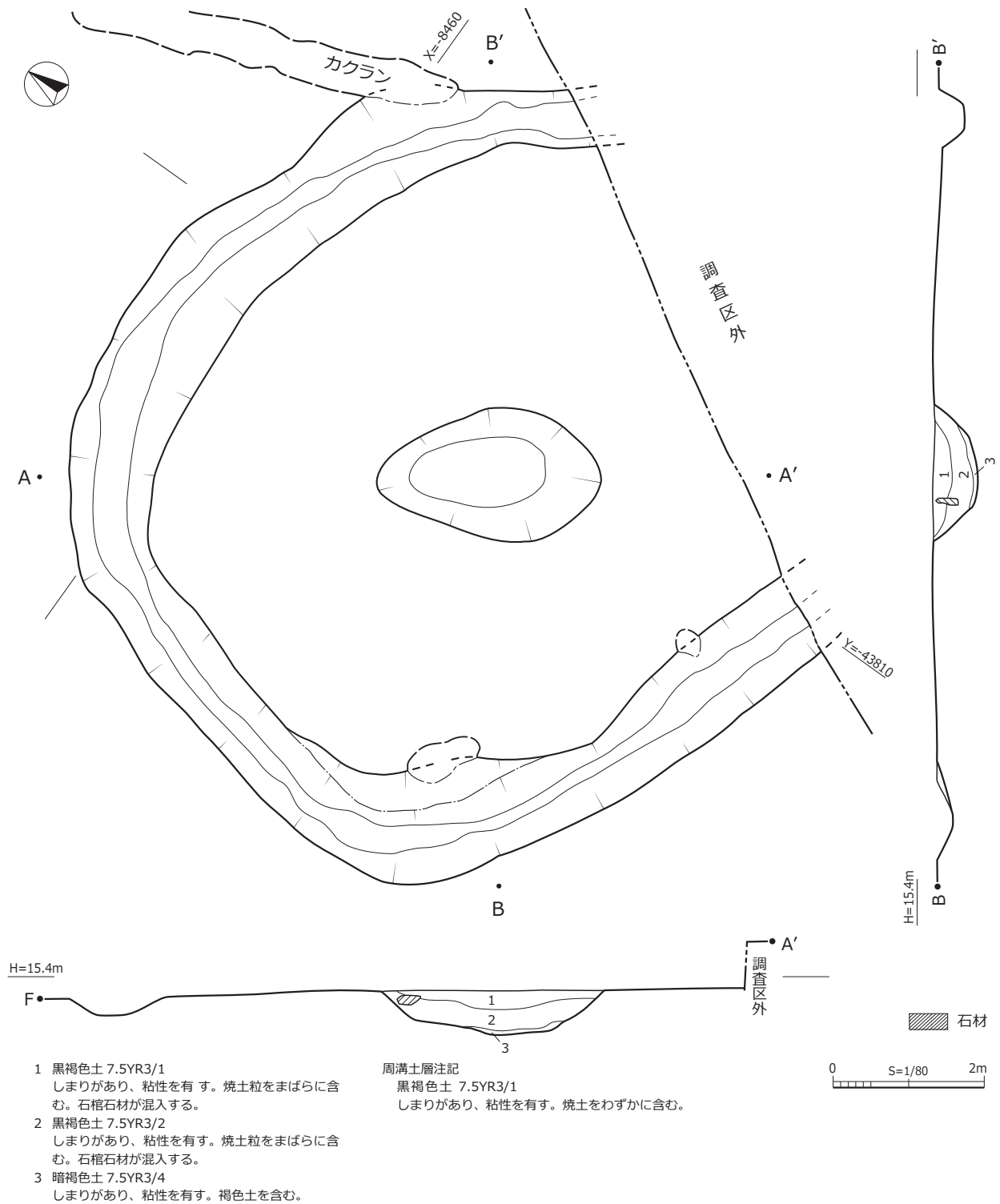
石室裏込め

- | | |
|-----------------|--|
| a 黒褐色土 7.5YR3/2 | しまりは弱く、粘性なし。砂粒をまばらに、炭化物をわずかに含む。 |
| b 褐色土 7.5YR4/3 | しまりは弱く、粘性なし。炭化物をわずかに含む。 |
| c 黒褐色土 7.5YR3/2 | しまりはやや強く、弱い粘性を有す。茶褐色土をまばらに含む。 |
| d 暗褐色土 7.5YR3/3 | しまりは強く、弱い粘性を有す。ローム土をまばらに含む。 |
| e 褐色土 7.5YR4/3 | しまりは弱く、やや粘性を有す。ローム土を粒状に多く含む。 |
| f 黒褐色土 7.5YR2/2 | しまりは弱く、やや強い粘性を有す。ローム土をわずかに含む。石棺石材の下部に敷いた土。 |

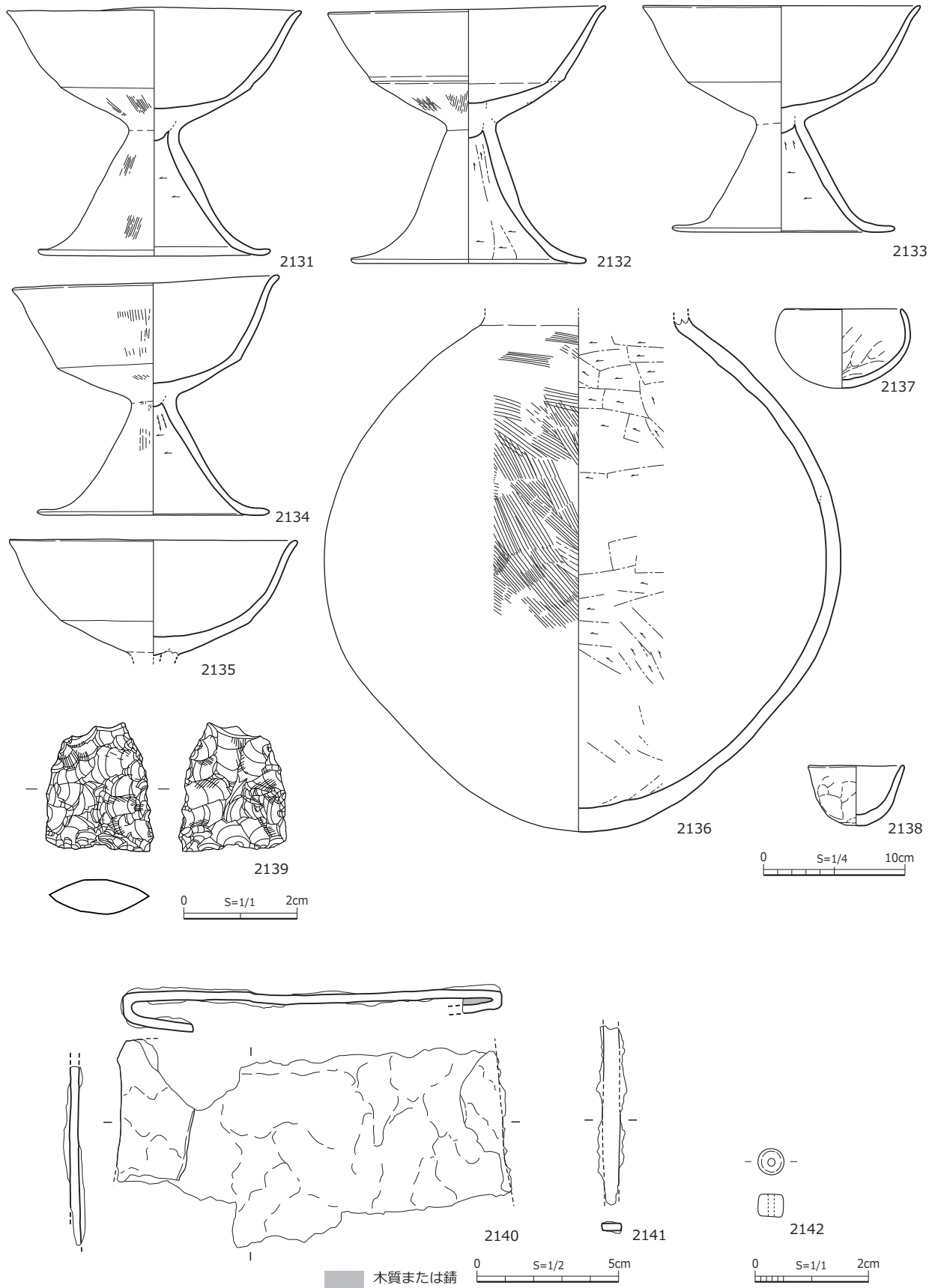
第 271 図 S167 実測図 3



第 272 図 S167 出土遺物実測図 1



第 273 図 S168 実測図



第 274 図 S168 出土遺物実測図

【S244】(第275図、図版24)

番号	種別	全長 (m)	主体部 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			副葬品	備考
			長軸	短軸			石室	装飾	周溝		
S244	円墳	7.0	—	—	G-7	S344～347、353、 354→S244	石棺系?	—	幅0.8～ 1.5 m	—	主体部破壊

S244は周溝を持つ円墳と見られる。周溝端での復元全長7.0m、周溝幅は0.8～1.5mで断面は皿状、南西部分が途切れており陸橋と考えられる。S244の南側にはS308、東には順にS252、S168が並んで築かれ、規格や長さが近似した古墳群の様相を呈している。なお、東隣のS252周溝の陸橋とは正反対に開いていることになる。

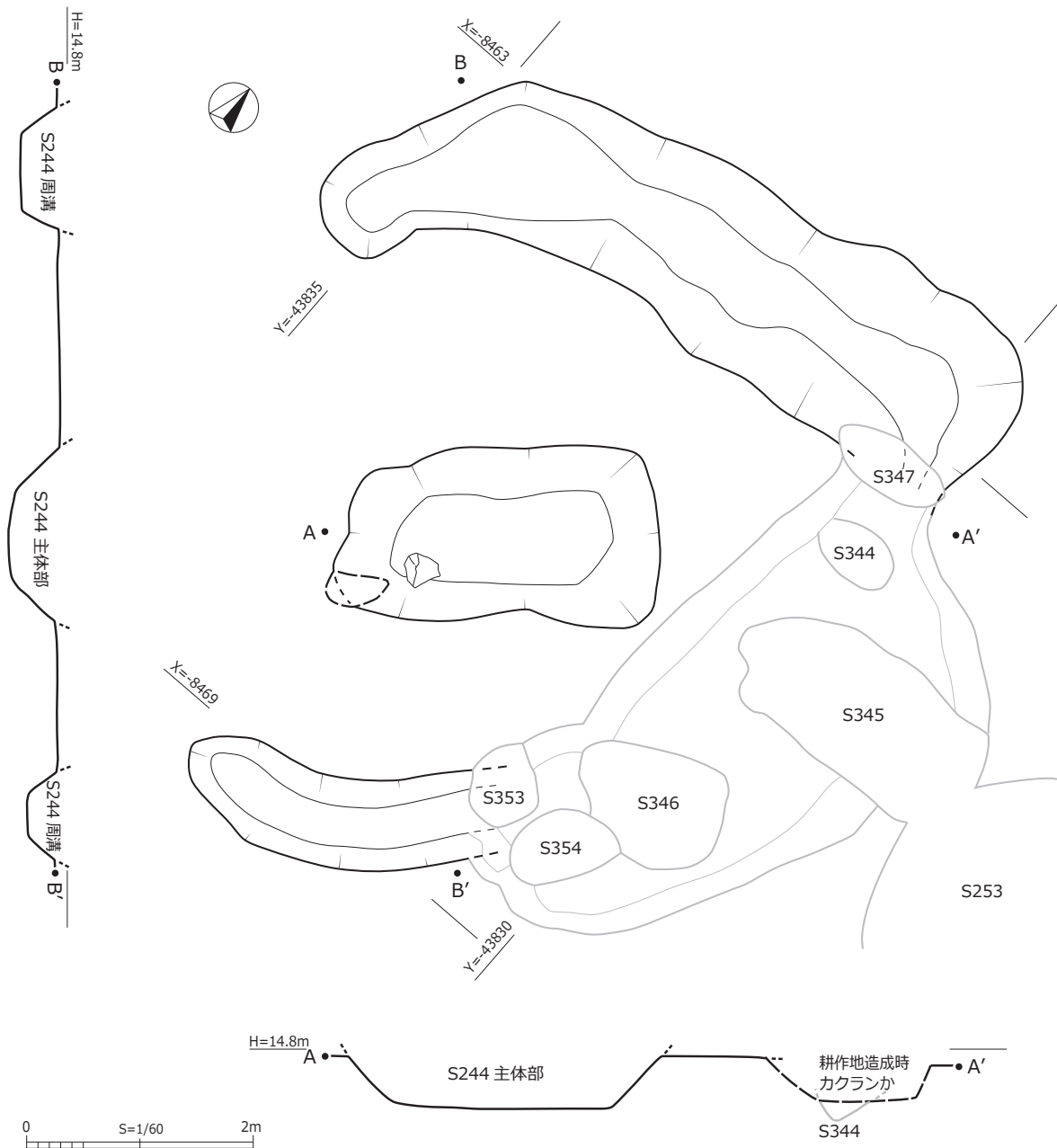
主体部は後世の盗掘か耕作の造成などで破壊されてしまったと見られる。また、調査時の土層堆積状況や観察の記録が残されておらず、この掘り形が築造時の姿を残すものか、あるいは盗掘等の痕跡かすら明らかにできていない。平面図に一石記載があり、近接する古墳が石室を作ることから、S244でも同様の石室を埋葬施設とする主体部と考えられる。陸橋に向けた長軸はS-50°-Wの角度である。東側は弥生中期の甕棺墓及び甕棺墓坑を計6基切っている。この部分にはまた、耕作地への造成で攪乱が入っており、周溝東側は明確な遺構検出の線として描けなかった。主体部及び周溝から遺物は出土していない。

【S252】(第276・277図、巻頭図版7、図版24)

番号	種別	全長 (m)	石室内法 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			副葬品	備考
			長辺	短辺			石室	装飾	周溝		
S252	円墳	7.0	1.60	0.40	H-7	S253、 S355→S252	石棺系石室	蓋石赤彩	幅0.8 m	—	

S252は周溝を持った円墳で、周溝端から全長7.0mと見られ、東側に陸橋が設けられている。周溝西側ではどちらも古墳時代前期の土坑であるS253・S355を切っている。また、S252の周辺では西にS244、南にS308、東にS168の各古墳が近接して所在する。なお、主体部石室及び周溝の埋土の土層堆積状況とその所見が記録されておらず、石室の構築手順や盗掘の有無などを考察する手掛かりを失ってしまった。周溝幅は約0.8mで、西側には石室に使われた可能性のある石が2個見つかった。後述する石室の構築に使われた石材と同じ安山岩で、蓋石とも大きさが似ていることから、盗掘あるいは造成の為に移動させられたものと考えられる。主体部は立石を壁として固定した上に石室あるいは蓋石を積み重ねた石棺系石室で、屍床面は長さ1.6m、幅0.4mほどの大きさである。長側壁北側は大きめの2石と小ぶりの1石、南側はほぼ均等な大きさの3石からなり、短側壁(小口)は東西どちらも一石の立石が据えられていた。さらに板石数枚を重ね、立石よりも一回り小さい蓋石を乗せるようで、西側の小口側立石の上には蓋石が残っていた。北西側にある石は原位置から動いた蓋石と見られ、一部に赤彩があった。石室主軸はN-74°-Eで、陸橋側に頭または足を向けて葬られる恰好になる。

S252からは弥生土器を含む土器小片が出土し、石棺内に堆積していた土も水洗いを実施したが、図示できるような資料はなかった。

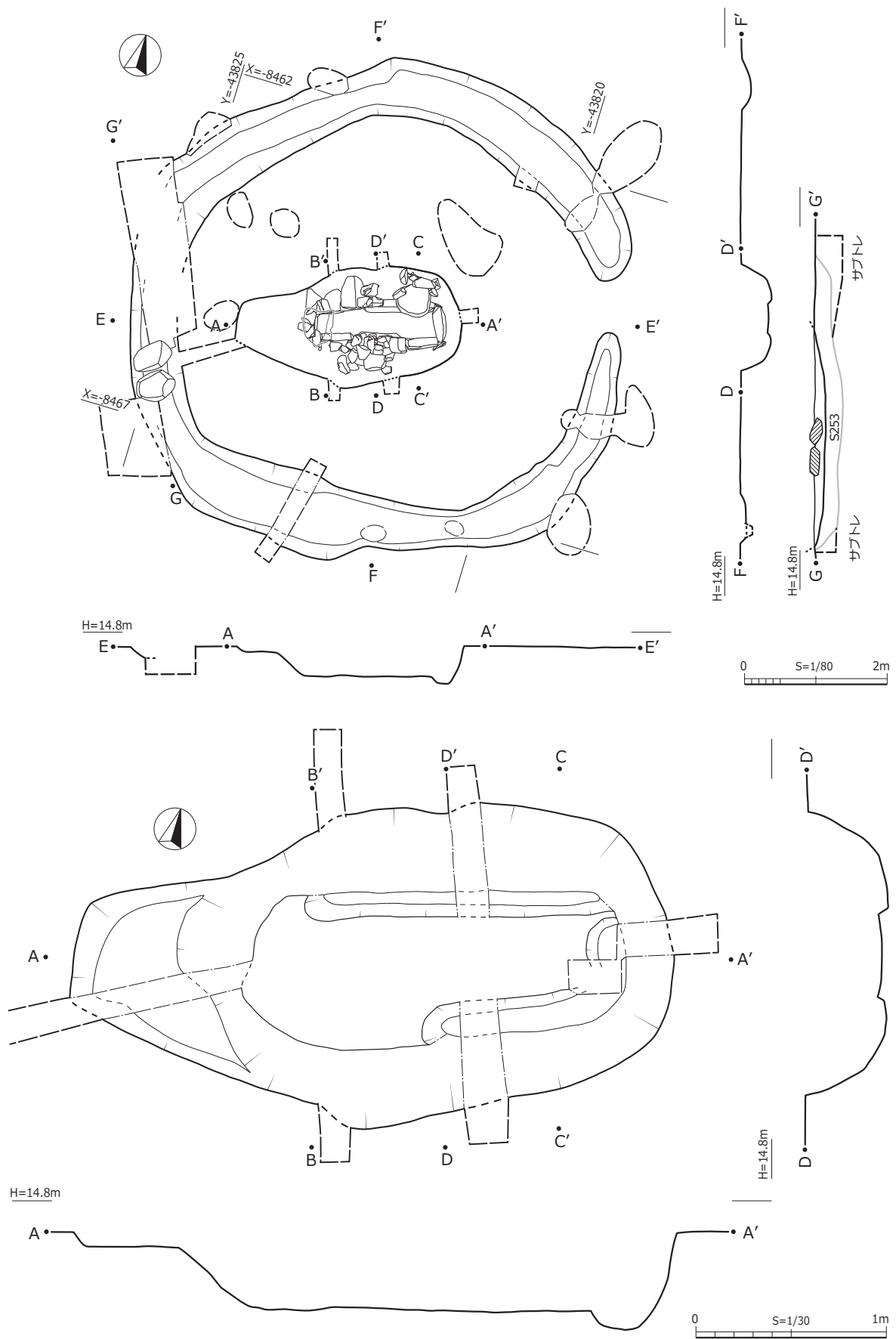


第 275 図 S244 実測図

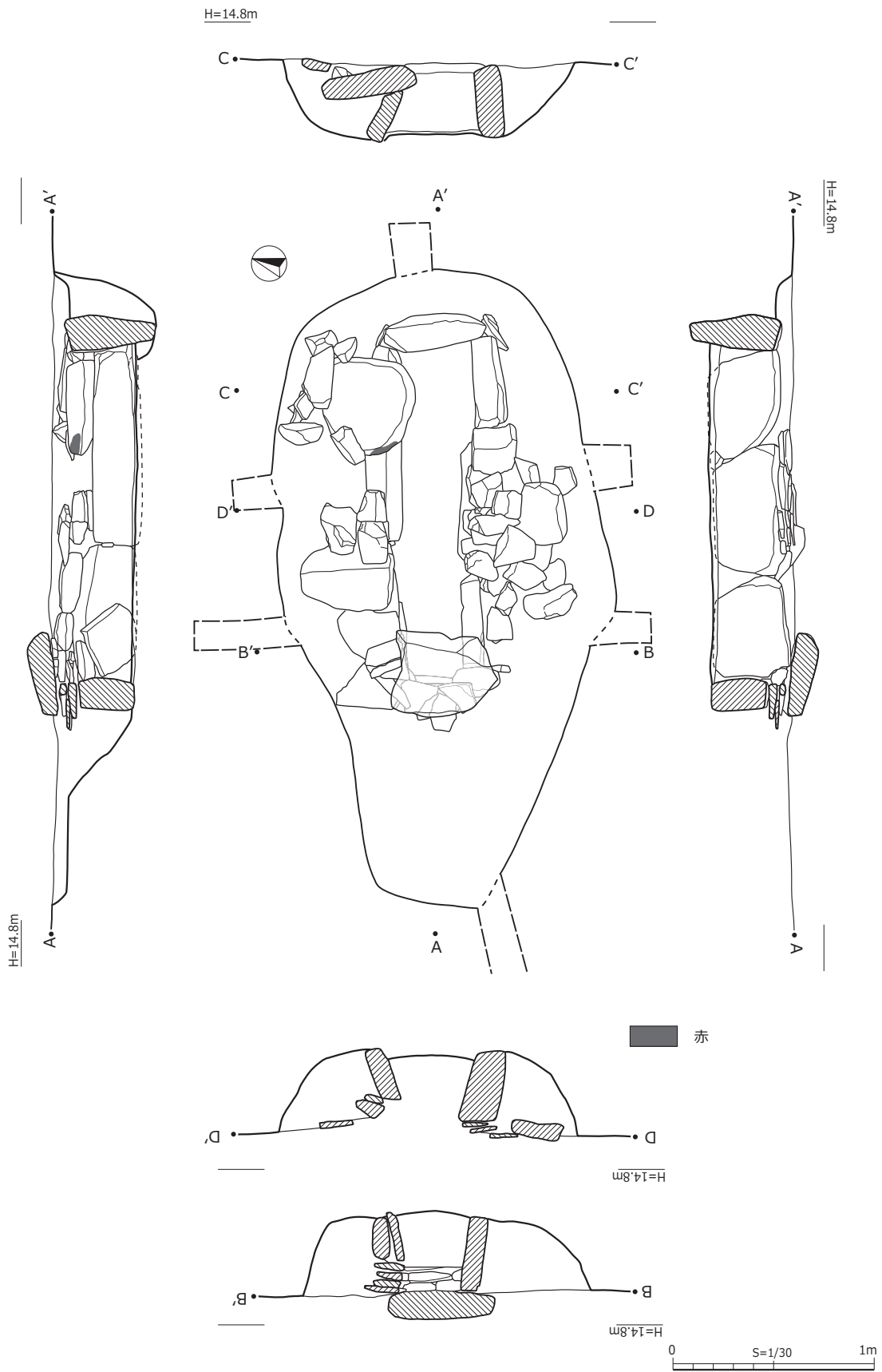
【S308】(第 278 ~ 280 図、巻頭図版 7、図版 25)

番号	種別	全長 (m)	石室内法 (m)		グリッド	切り合い	付帯施設			備考
			長辺	短辺			石室	装飾	周溝	
S308	円墳	6.6	1.60	0.35	G-6	—	石棺系石室	石室赤彩	幅 0.6 m	—

S308 は周溝の直径 6.6 m を測る円墳で、南側に陸橋がある。北側には西から S244・S252・S168 と規模の近い古墳が並ぶ。また、古墳前期の住居跡が取り巻くように所在している。古墳前期には意図的に空き地などにしていた部分に築造したようにも見え、あるいは祖先の故地

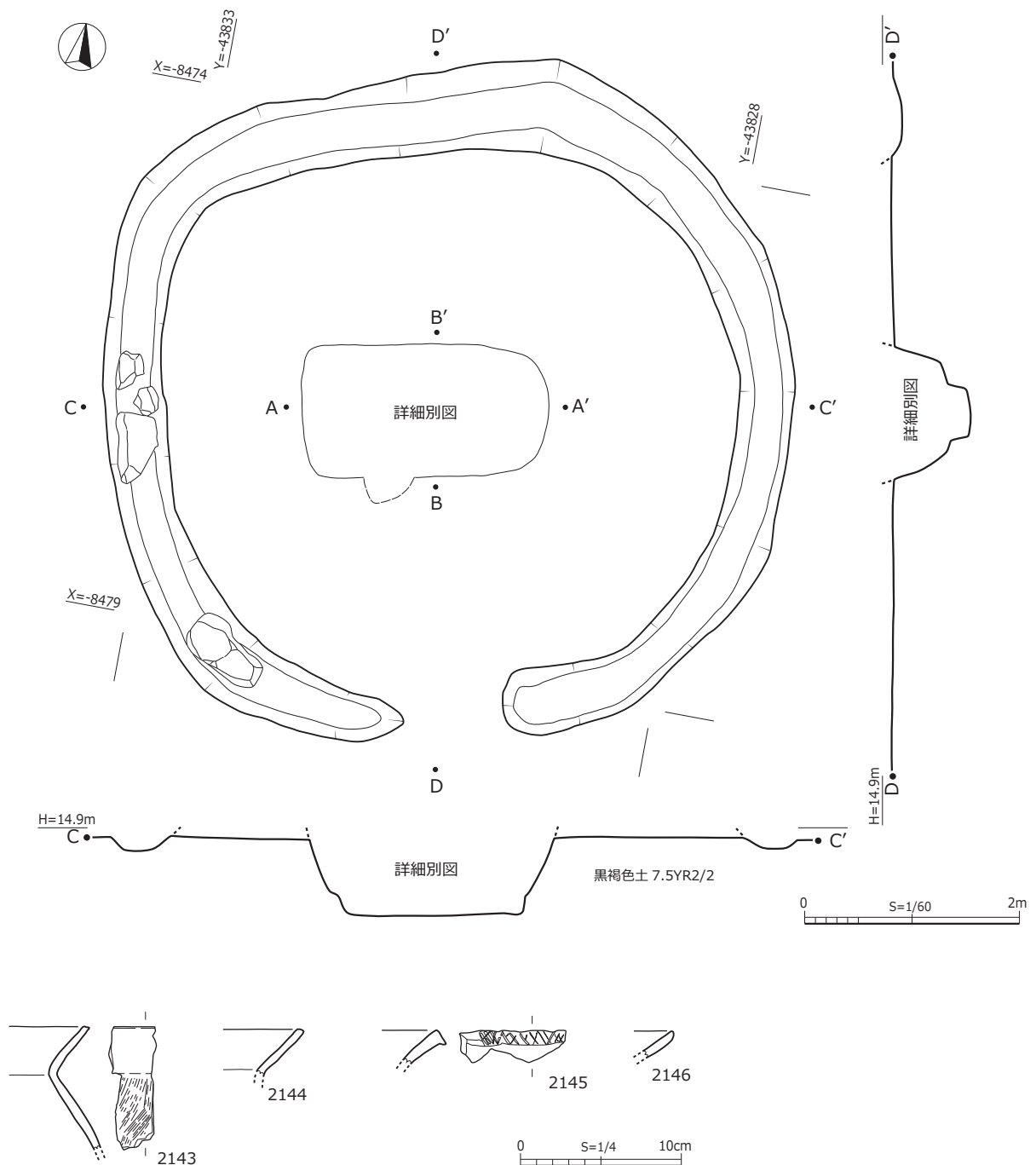


第276図 S252 実測図1

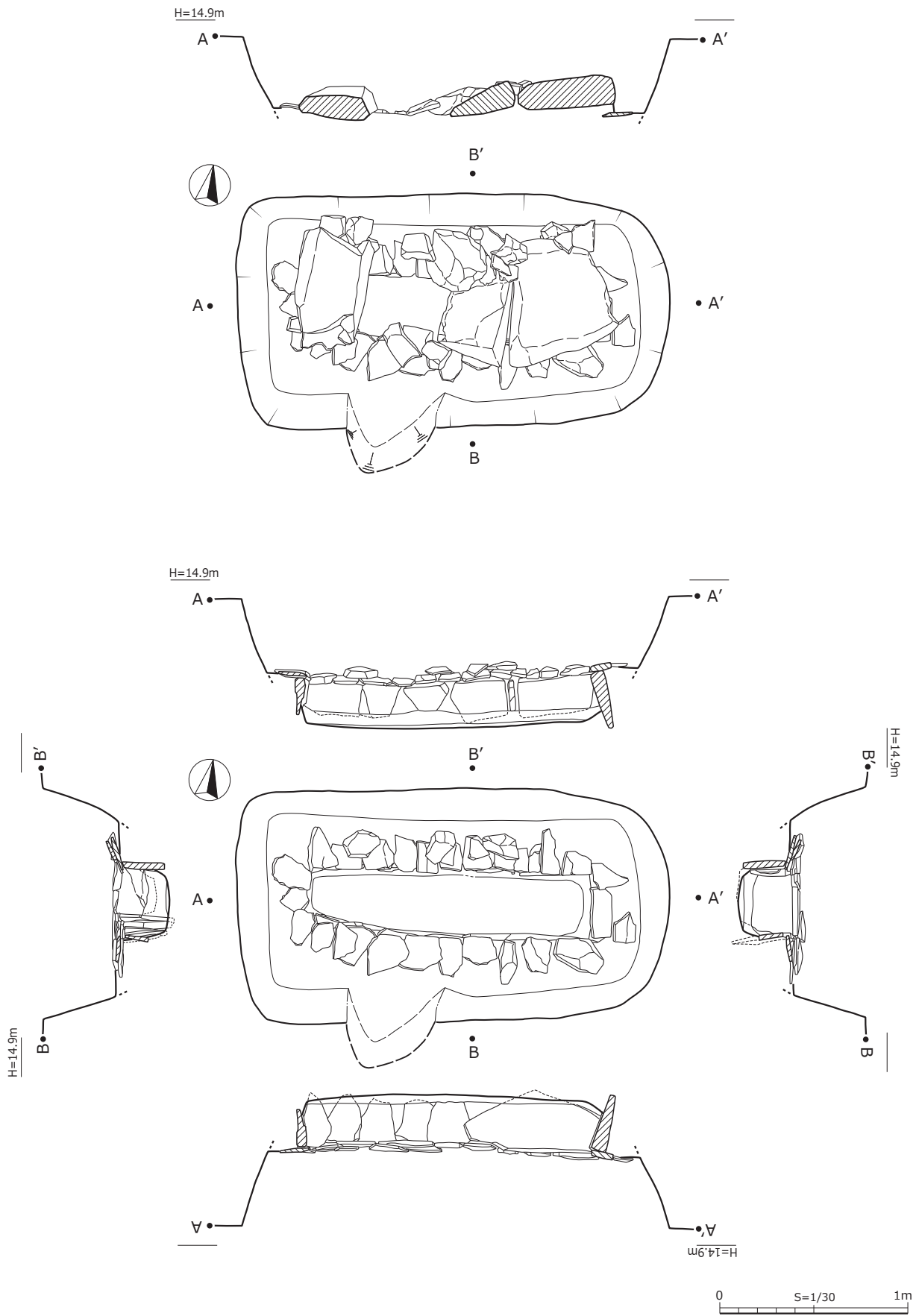


第 277 図 S252 実測図 2

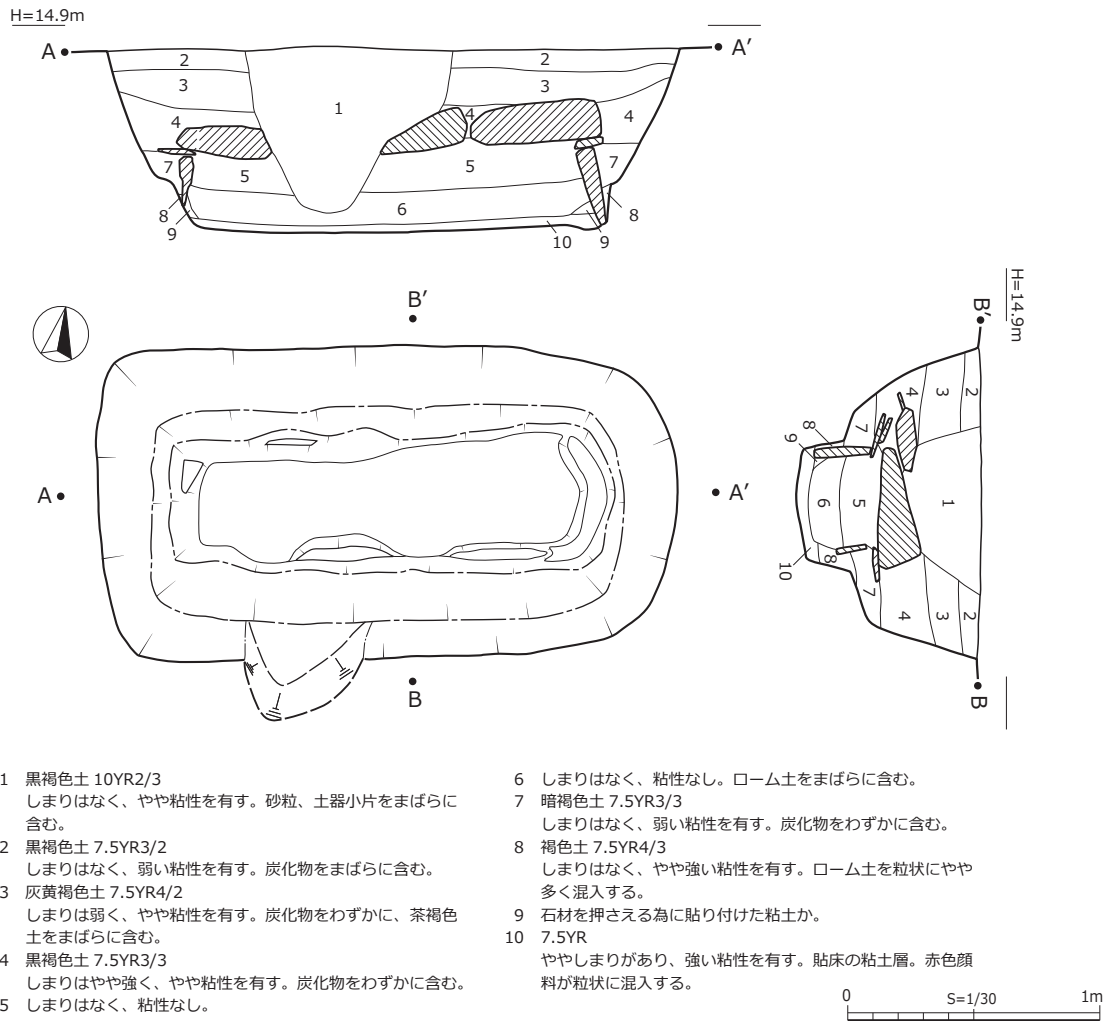
として認識し選定されたものか。主体部は石棺系石室で、主軸方向はN-80°-Eで、陸橋とは直交している。なお、一度ならず盗掘があったことが窺われ、副葬品は見つかっていない。石室の蓋石は4枚設置していたと見られるが、うち1枚が外れていた。この部分の南側から開けられた盗掘坑が見つかっている。また、屍床面の東寄り部分に板石が数枚落ちていた。屍床面に直接板石が乗っており、石室内に土が入り込む前に落ちてはいるものの、盗掘によるものか断定はできない。石室構築の手順はまず石室掘り形に粘性の強い貼り床を行い、この上面を屍床面としている。この貼り床に、長側壁南側は6枚、北側は5枚、さらに短側壁はどちらも1



第278図 S308 実測図1・出土遺物実測図



第 279 図 S308 実測図 2



第 280 図 S308 実測図 3

枚の板石を立てて石棺を作っている。石棺の内外を7～9層の土で固定し、石室内に赤彩と埋葬を行った後、大小の板石で蓋をして閉塞している。周溝は幅0.6mで、検出面からは10cm程度の深さしか残っていなかった。周溝の西から南西側にかけて30～70cm大の石が4個見つかっている。全て周溝底面からは浮いた状況での出土で、S308石室に用いられた石材と同一と見られることから、おそらく石室から動かされたものであろう。

出土遺物は、いずれも周溝から見つかった土師器甕・鉢の計4点を図示している。

第6節 その他の遺構・遺物

(1) 中世期の遺構・遺物

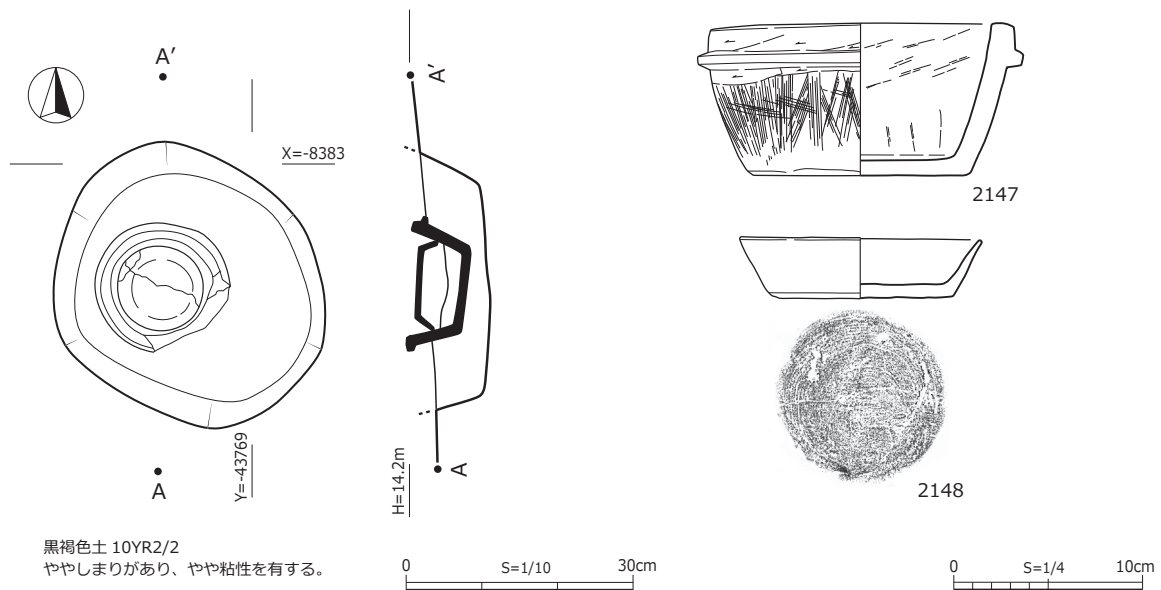
中世については、14世紀を中心とした遺構・遺物を検出した。遺構の内容は、土坑3基、溝7本、掘立柱建物1基である。各遺構及び出土遺物の詳細は以下のとおりである。

1. 土坑

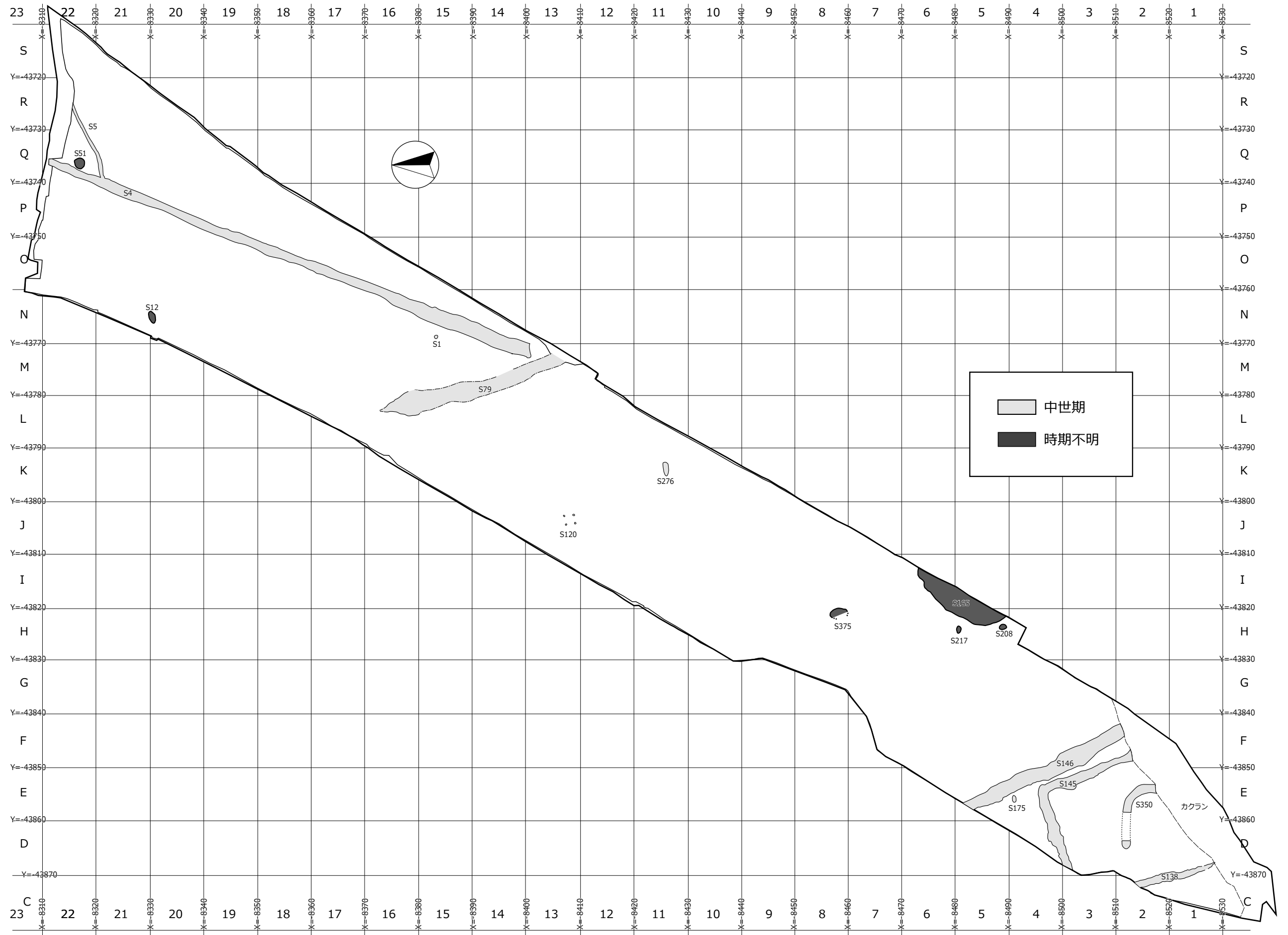
【S1】(第281図、図版25・74)

番号	種別	平面形	規模(m)		グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸			
S1	埋納土坑	円形	0.38	0.36	N-15	—	石鍋と土師器杯を埋納

S1は基本土層Ⅱ層を剥いでいる段階で確認した。耕作の影響で遺構上面及び掘り込みの一部は残存していなかった。検出の状況は円形の土坑底面に滑石製石鍋を置き、底部を上にして土師器杯を入れてあり、石鍋の内側半ばまでは埋土の堆積が見られた。胞衣(胎盤)を容器に入れ埋納した、誕生儀礼に伴うものか。遺構の年代は土師器杯から、14世紀代と見られる。底部から直線的な立ち上がりを持つ器形で、ロクロ成形後糸切りを行っている。石鍋は口縁直下に鏝が巡るもので、底面にはススが付着し、実際に利用したものを転用したと見られる。



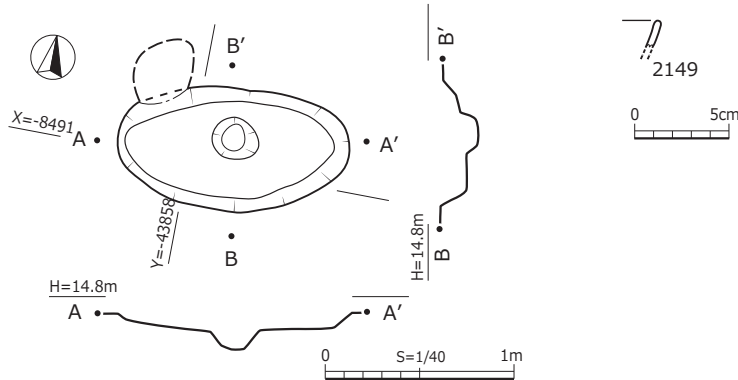
第281図 S1 実測図・出土遺物実測図



第 282 図 中世期・その他遺構配置図 S=1/700

【S175】(第283図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S175	土坑	楕円形	1.24	0.66	0.20	E-4	—	



第283図 S175 実測図・出土遺物実測図

S175 は楕円形を呈す浅い土坑で、中央にピットのような掘り込みがある。

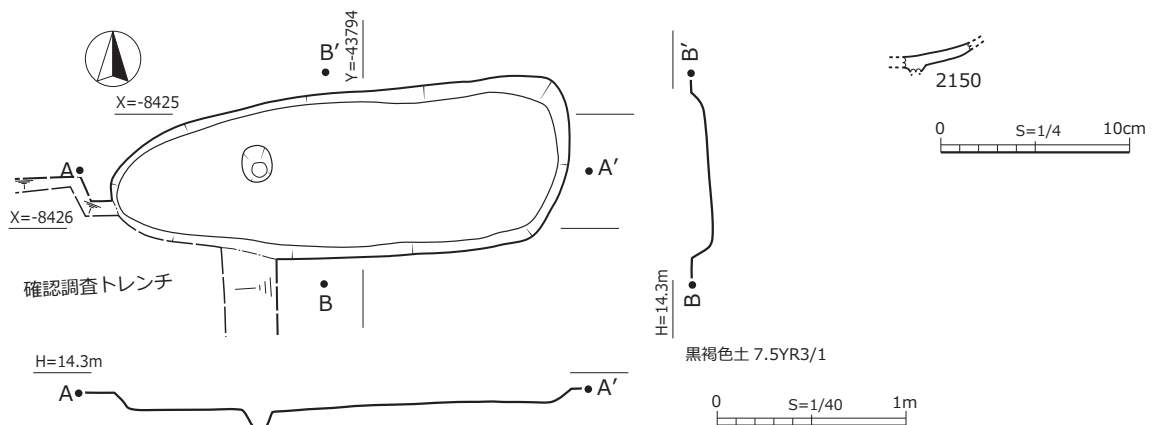
瓦器碗口縁部の小片が埋土より出土した。これを図化している。時期は中世と見られる。

【S276】(第284図)

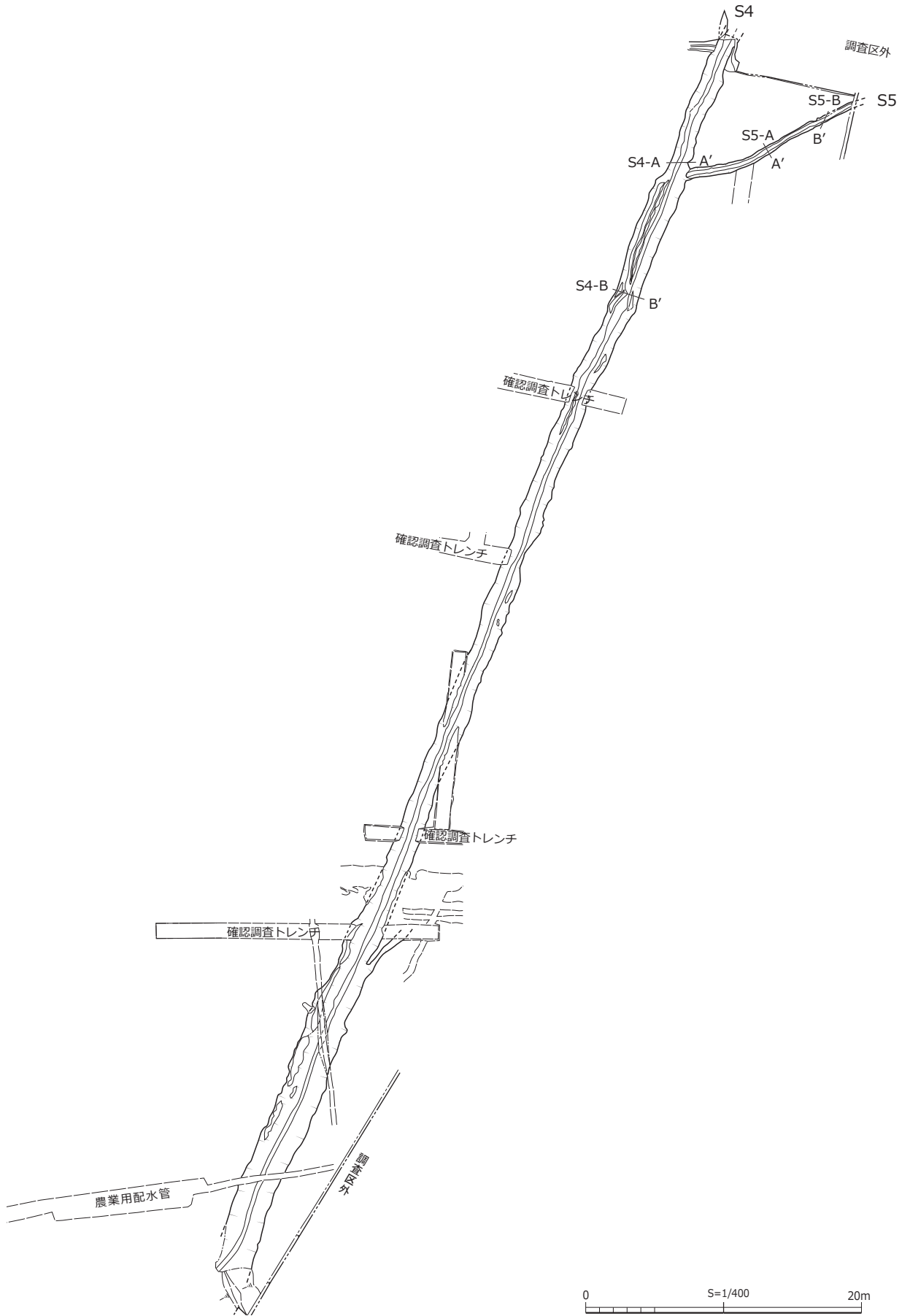
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S276	土坑	楕円形	2.45	0.90	0.20	K-11	—	

S276 は楕円形を呈す土坑で、中央より西側にピットがある。検出面から平坦な底面まで約10cm、ピットの底まで20cmと全体に浅い。南西側は確認調査のトレンチで一部を削られている。

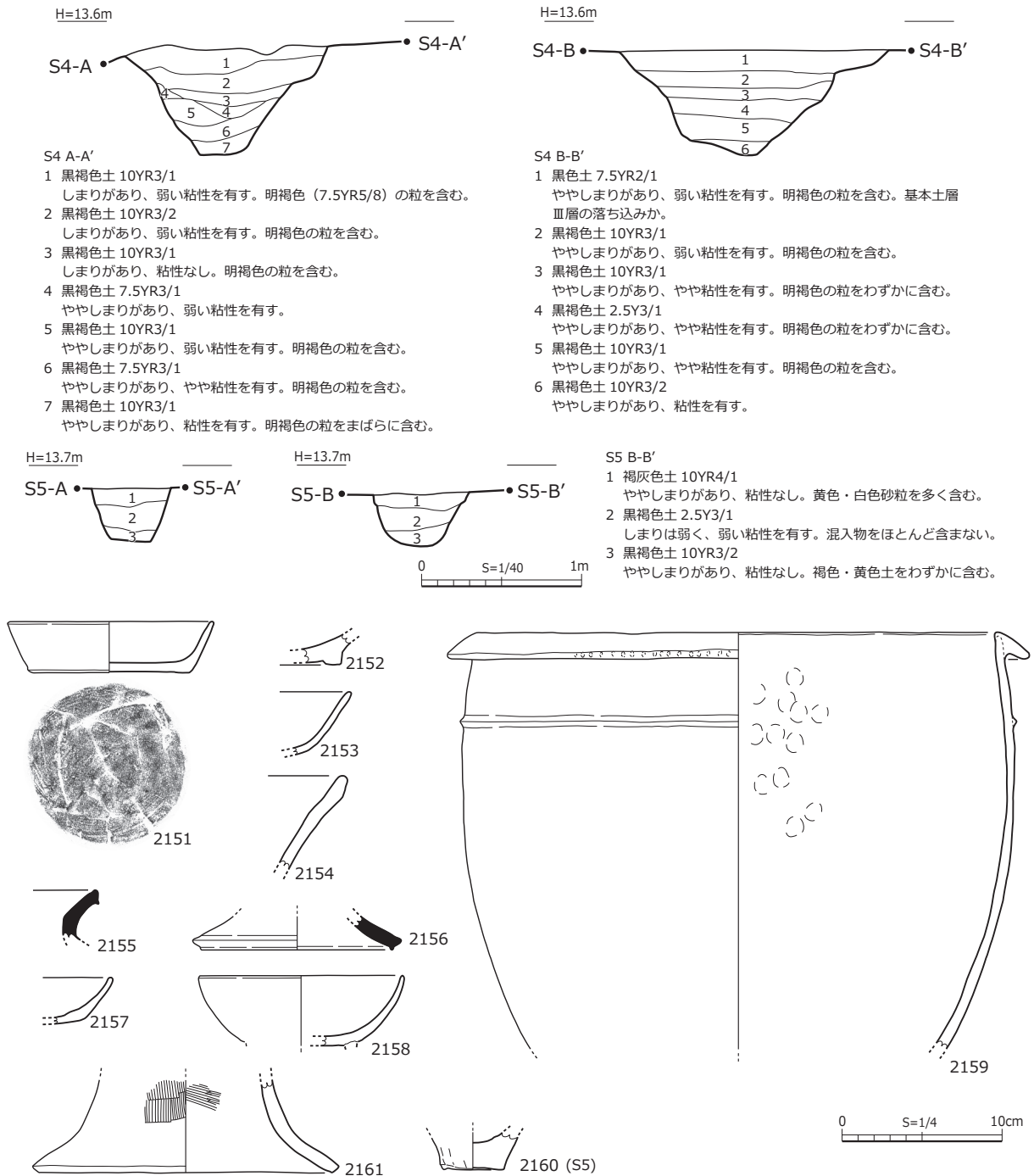
ここから出土した瓦器碗底部を小片ではあるが1点図化した。



第284図 S276 実測図・出土遺物実測図



第 285 図 S4・S5 実測図



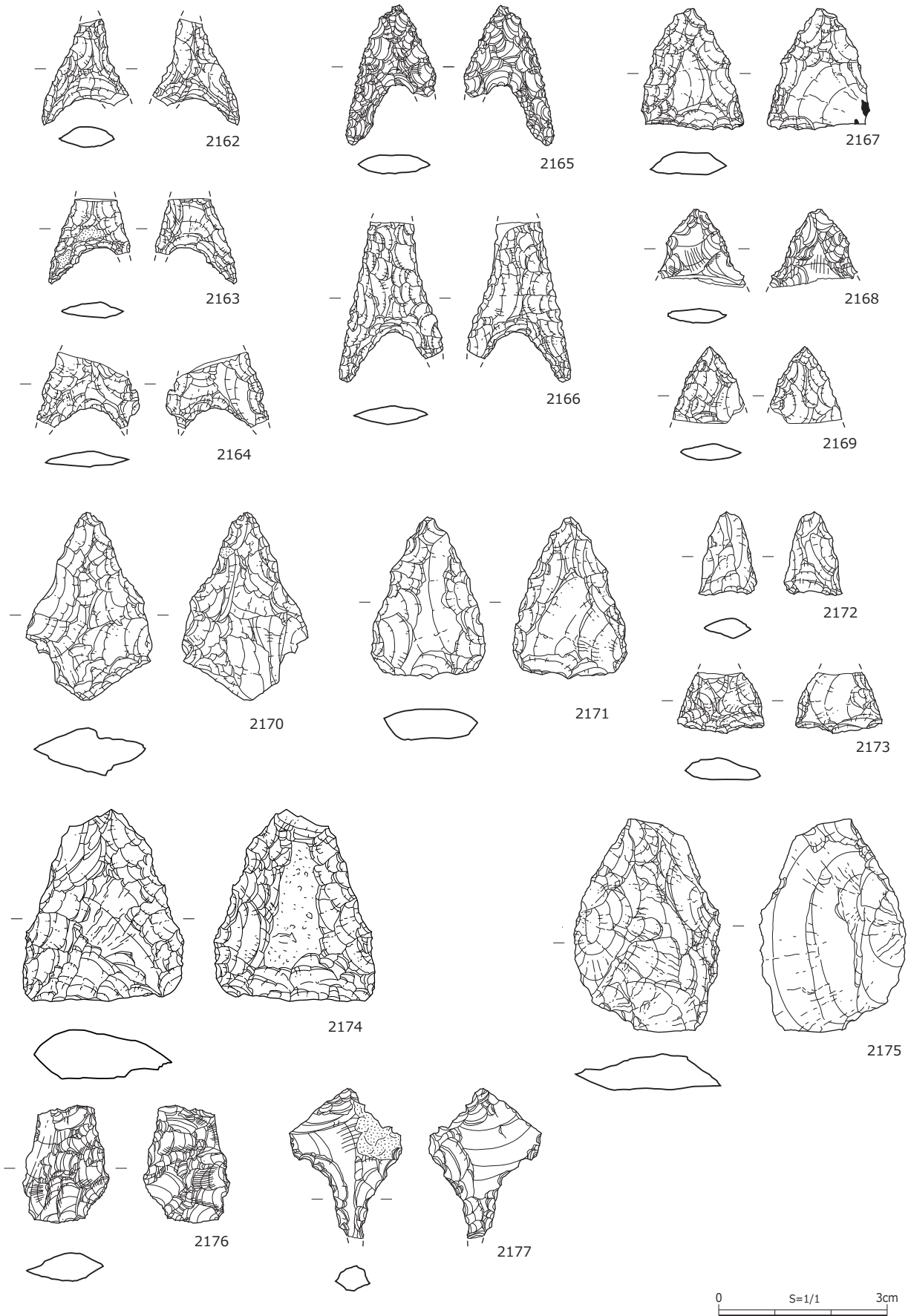
第286図 S4・S5 実測図・出土遺物実測図

2. 溝

【S4】(第285～287)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S4	溝	(98.0)	1.5～2.0	M-13～Q-22	S5、S79と接続	V字形	

S4 は今回調査を行った範囲の北半分で直線的に伸びている溝で、調査で確認できた長さは



第 287 図 S4 出土遺物実測図 2

100m 弱である。なお、北側の市道を挟んだ塚原2調査区でも規模・方向を同じくする溝が検出されている。S5とは接続する形で同時期と見られる。また、南側はS79の壁面で途切れていた。部分的に10～20cm大の安山岩が多く出土した。

S4から出土した遺物は弥生時代～中世に至る各時代の遺物が出土した。S4の時代を決定づけた中世の遺物として土師器杯、白磁・瓦器碗、瓦質土器鉢を図示した。土師器杯は見込み部分に不定方向のナデを行い、底面を糸切りによって切り離している。白磁碗は高台が厚く、畳付は外側が削られ、斜めになっている。瓦器碗は口縁まで厚みに変わりが無い。瓦質土器は播目が見られないことから捏ね鉢と見られ、口縁を外側へ摘んだ注ぎ口部の破片である。さらに、S4では今回調査で出土数が少ない古代の須恵器、土師器が見つかっており、これらを図示した。須恵器は甕口縁と高坏脚端部で、荒尾の製品ではないと見られる。土師器は坏と高台付坏があり、前者は外器面に赤彩が見られ、後者は須恵器の器形と同様に製作され、赤い色調になるよう酸化炎焼成されている。弥生時代の遺物では石器・石製品が数多く検出された。このうちほとんどがP-20グリッドの円形大型建物跡S111を切った部分からの出土であり、S4掘削によってS111埋土を攪拌した結果と考えられる。

【S5】(第285・286図)

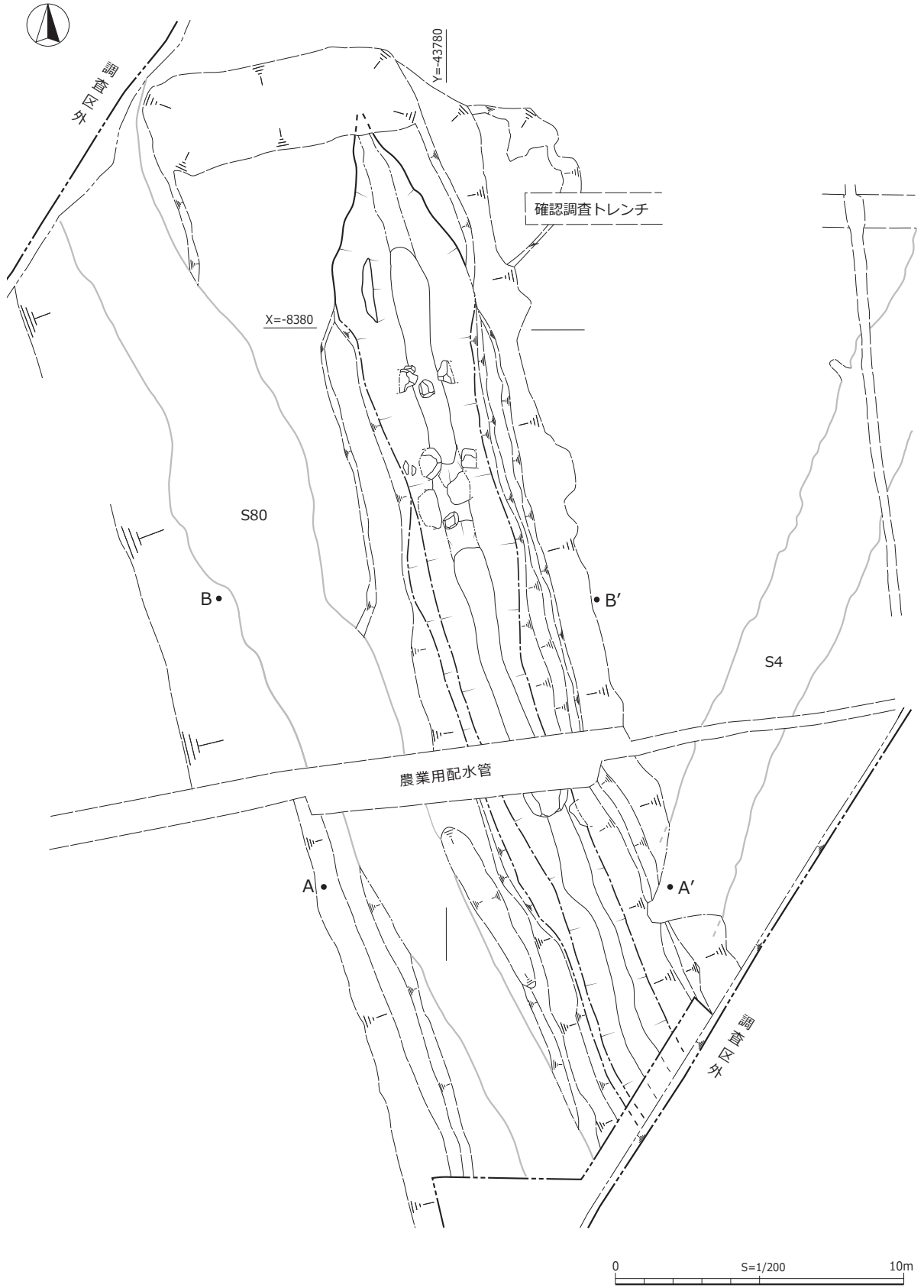
番号	種別	規模(m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S5	溝	(13.4)	0.5	Q-21～R-22	S4と接続	U字形	

S5は幅約50cm、確認した長さは13.4mで、東側は市道により切られ、西側はS4に斜めに接続しその先は途切れたように見える。よってS4に付随して掘られた溝と考えられる。

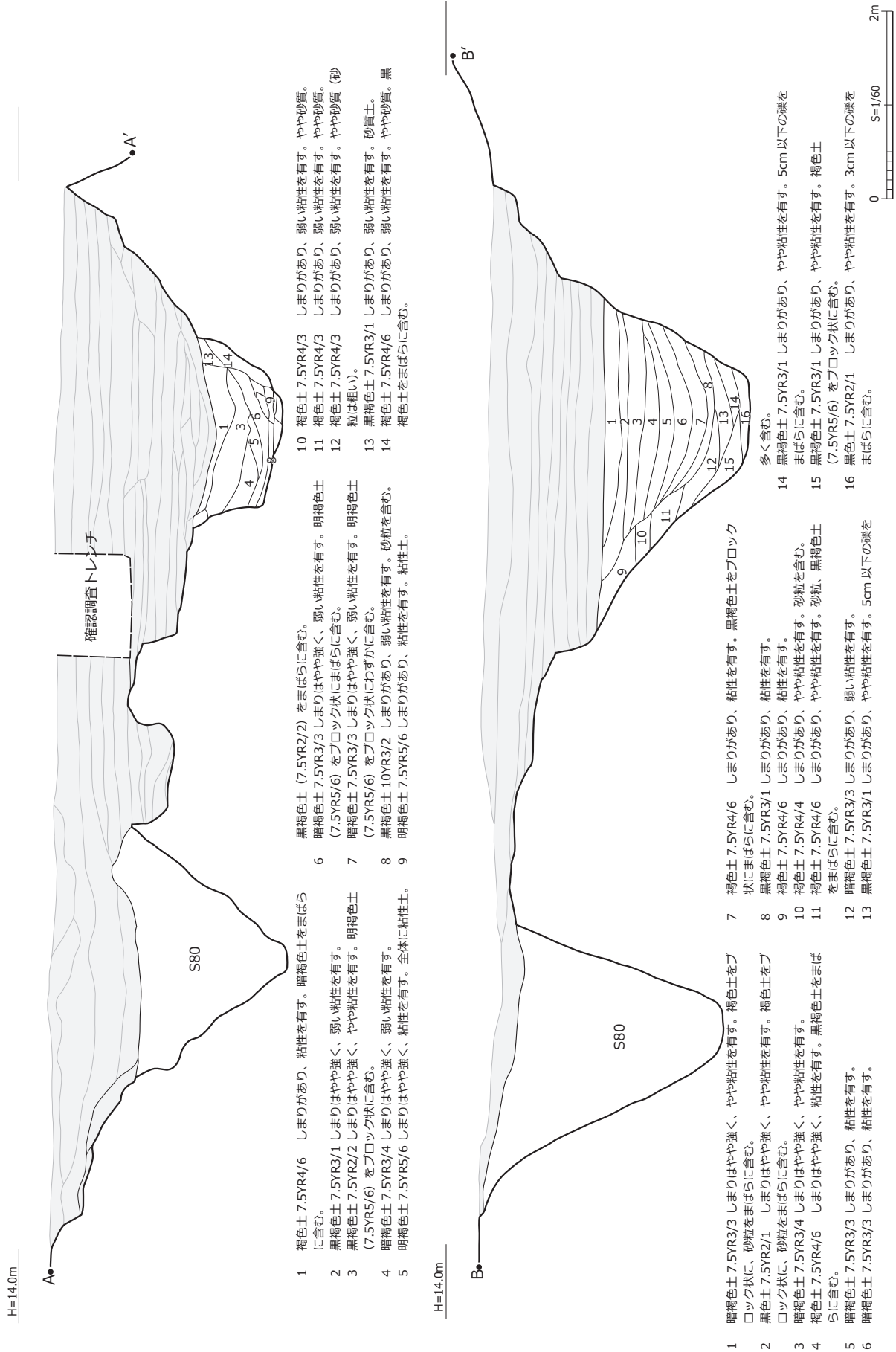
【S79】(第288～292図、図版26・27)

番号	種別	規模(m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S79	溝	(37.0)	2.4～4.6	L-16～M-13	S4と接続	逆台形	

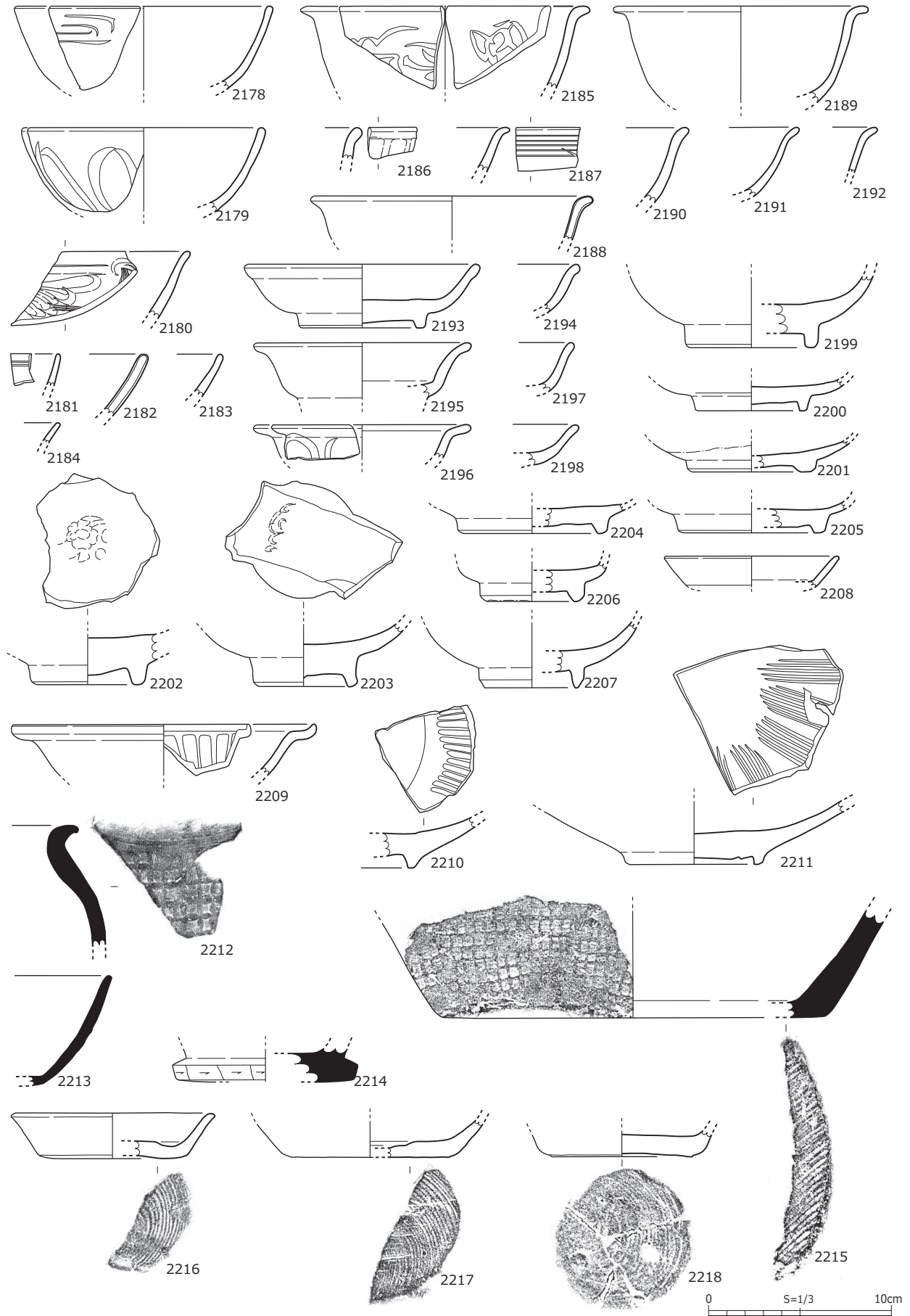
S79は調査区中央付近で見つかった、南北方向に掘られた中世の溝である。長さは37mを確認し南側は調査区外へ伸び、約50mで崖線へと至る。北側は斜面を形成して浅くなり、掘り込み自体が途切れている。この部分では10cm程の角礫や川原石が集積し、これらに交じって中世の遺物や獣骨が出土した。この北端に近い一部では50cmを越える安山岩が壁や床面のあちこちに露頭し、これ以上の溝の拡充を妨げたようである。断面(B-B')からは掘りかえが確認できるが、概ね水平堆積で、底面も平坦で著しい水流の痕跡などは見られない。なお、溝の上位は中世期以降、耕作等の攪乱によって、溝本来の掘り込み面や堆積状況がわからなくなってしまった。



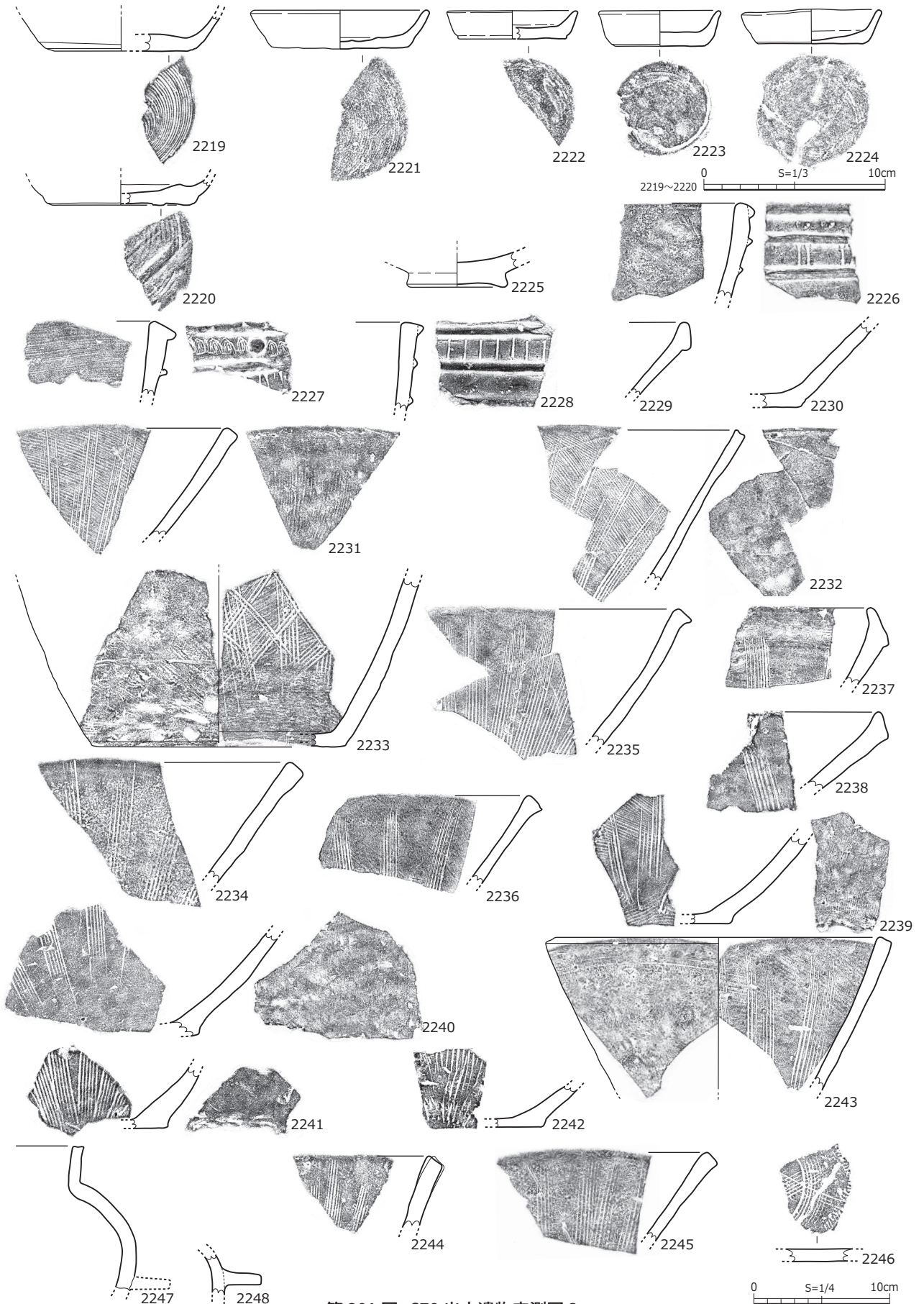
第 288 図 S79 実測図 1



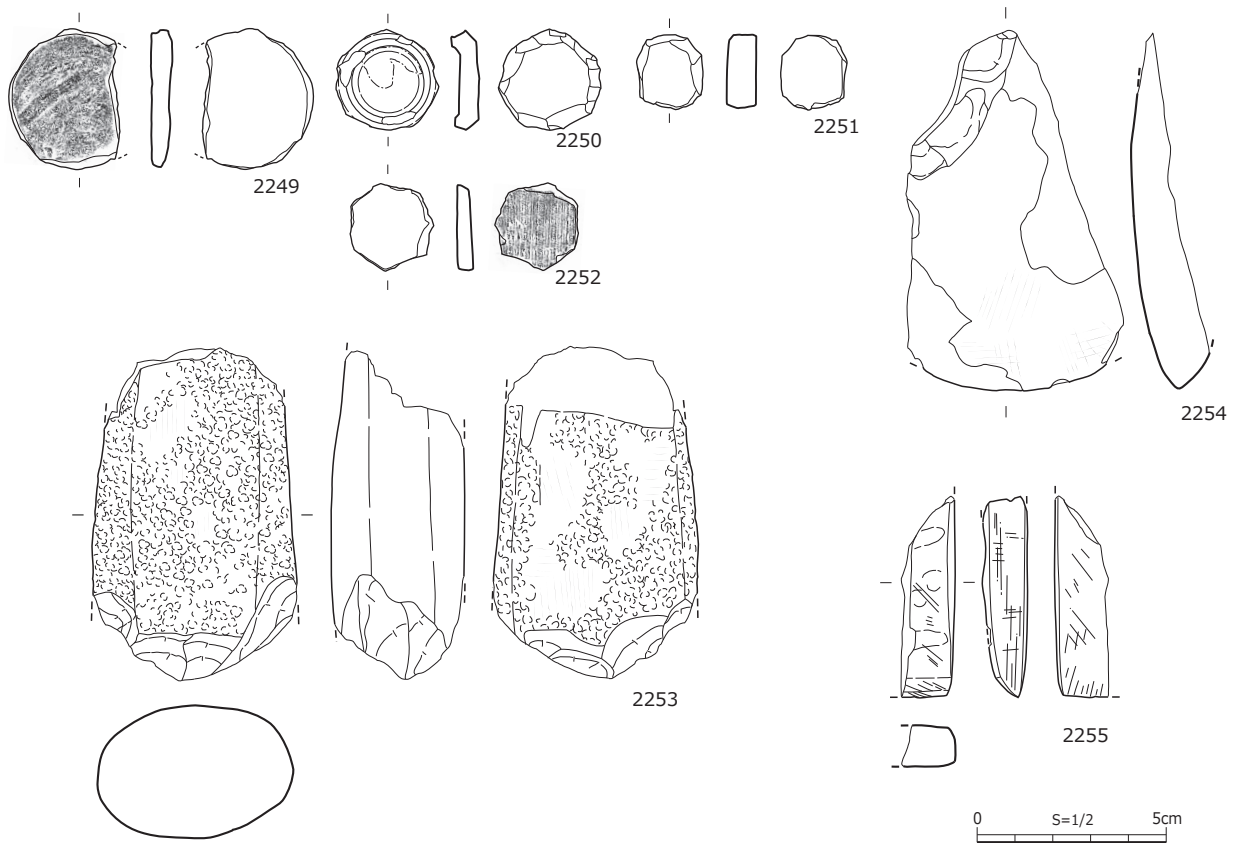
第289図 S79 実測図 2



第 290 図 S79 出土遺物実測図 1



第 291 図 S79 出土遺物実測図 2



第 292 図 S79 出土遺物実測図 3

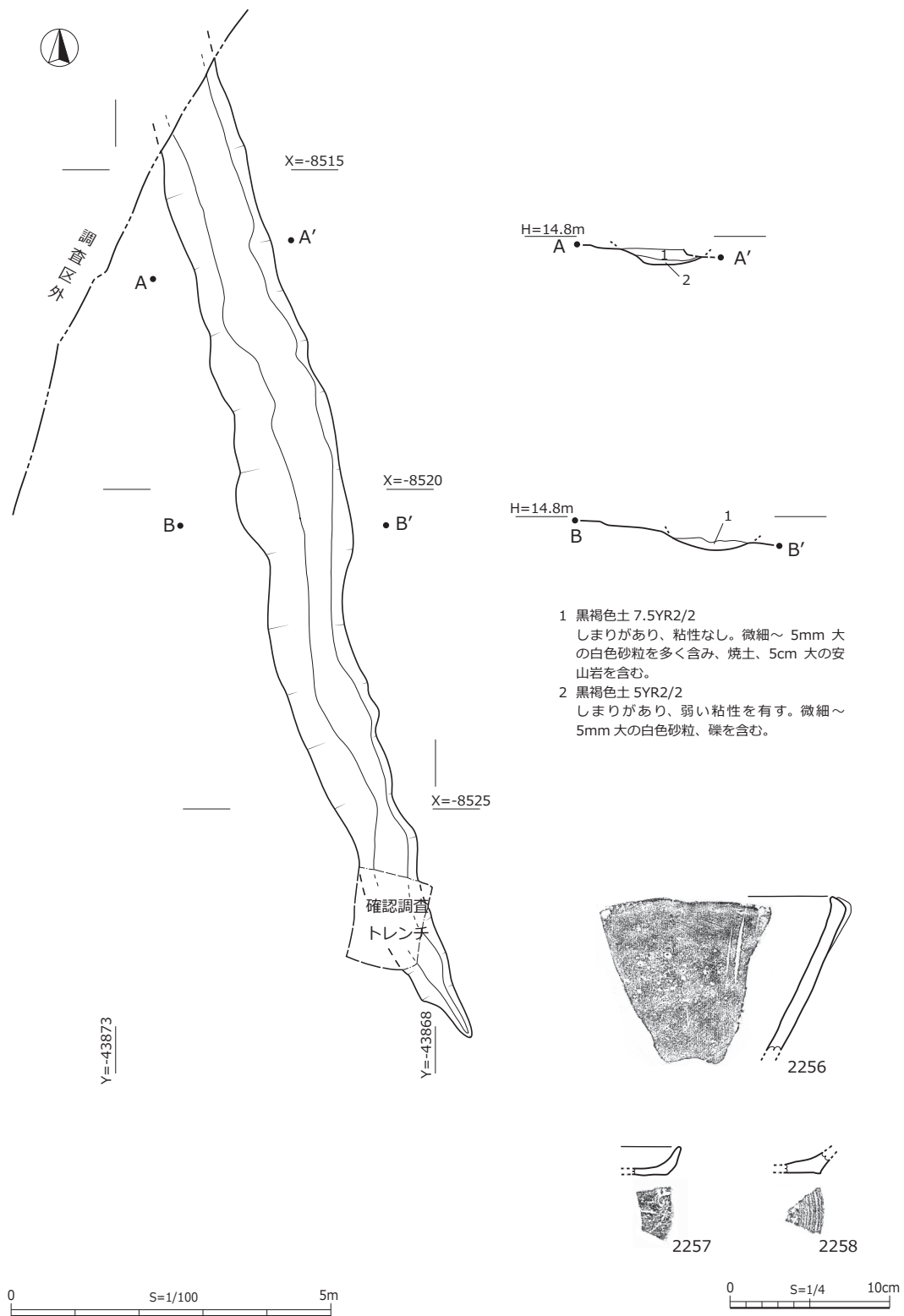
S79 からは中世の遺物のほか、動物種不明の四肢骨片、ウシと見られる下顎骨が数個出土している。青磁は雷文、無鎬蓮弁文、印花文、櫛描文が施された碗や皿がある。荒尾市樺番城窯で焼かれたと考えられる甕も出土した。ほかに糸切り離しの底面を持つ土師器杯・皿・灯明皿、瓦器碗、瓦質土器の火鉢・羽釜・播鉢、青磁碗などを円板形に加工した製品などを図示している。これらの出土遺物から溝は 13 世紀以降に埋没していったと考えられる。また、石器を 2 点図化した。1 つは安山岩製の磨製石斧で、片面が大きく破損している。もう 1 点はシルト質の泥岩で作られた小型の片刃石斧片で、どちらも弥生時代の遺物の混入と見られる。

【S138】 (第 293 図)

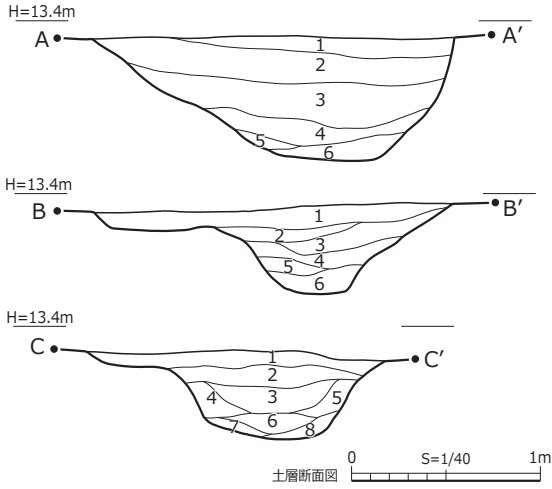
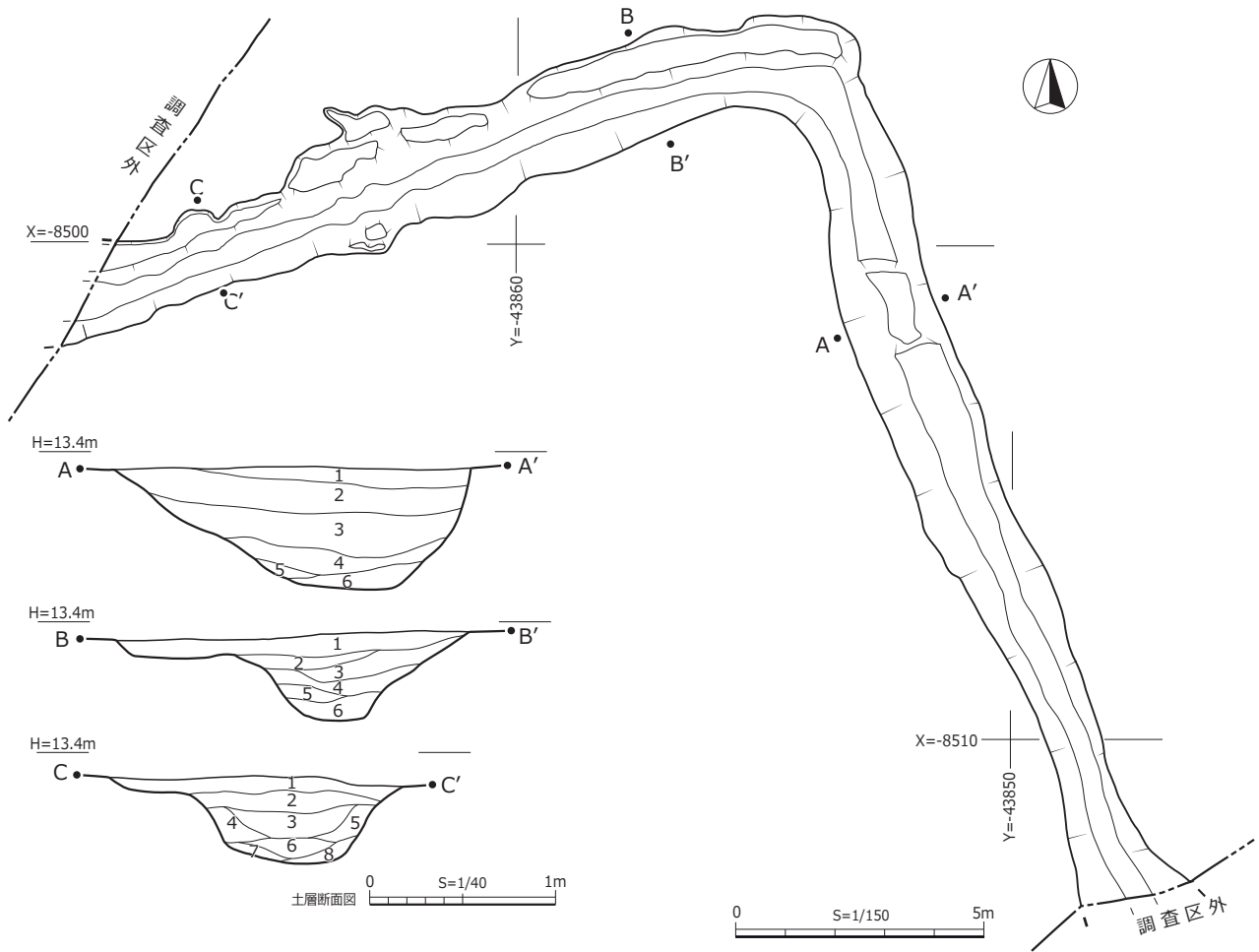
番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S138	溝	(15.2)	1.68	C-2 ~ D-1	S136、S141 → S138	皿形	

S138 は調査区南端付近で確認された中世の溝で、主軸方向は N -10° - W、深さ 24 c m 程で断面形状は皿状を呈する。平面形はほぼ直線で北側は調査区外に延び、南側では S138 底面より下へ削平が及んでいるため、途切れている。

S138 からは土師器皿や瓦質播鉢が出土している。瓦質播鉢は播目がわずかに見える程度のもので、土師器皿はどちらも底面を糸で切り離している。



第293図 S138 実測図・出土遺物実測図



A - A' 土層注記

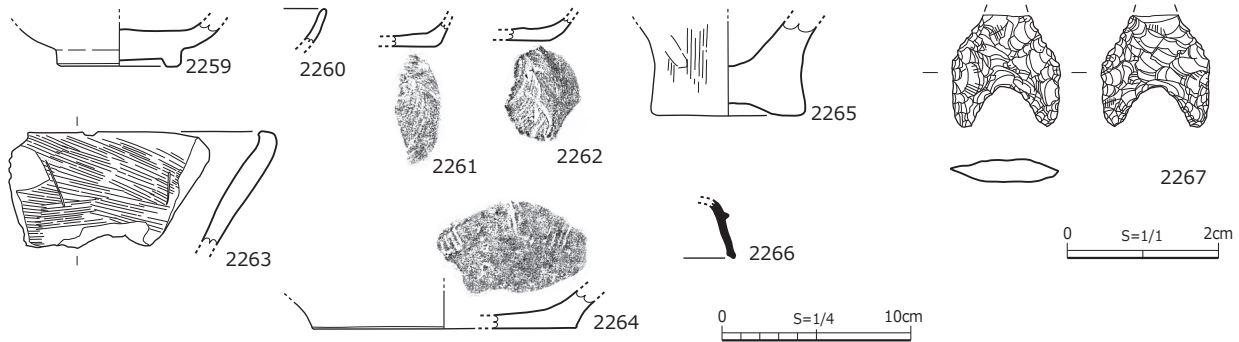
- 1 黒色土 10YR2/1
しまりがあり、粘性を有す。焼土、炭化物を多く含む。
- 2 黒色土 10YR2/1
しまりがあり、粘性を有す。焼土、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土 7.5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。焼土、炭化物を含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。褐色土をブロック状に、焼土、炭化物をまばらに含む。
- 5 暗褐色土 7.5YR3/4
しまりがあり、粘性を有す。
- 6 黒褐色土 7.5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。褐色土をブロック状にまばらに含む。

B - B' 土層注記

- 1 黒褐色土 7.5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。焼土、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1
しまりがあり、粘性を有す。
- 3 黒褐色土 7.5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。焼土、炭化物を含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。褐色土をブロック状に含む。
- 5 黒褐色土 5YR2/2
しまりがあり、粘性を有す。
- 6 暗赤褐色土 5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。1cm 以下の礫をまばらに含む。

C - C' 土層注記

- 1 黒褐色土 5YR2/2
しまりがあり、やや粘性を有す。焼土を含む。
- 2 黒褐色土 5YR2/2
しまりがあり、やや粘性を有す。
- 3 暗褐色土 7.5YR3/4
しまりがあり、やや粘性を有す。
- 4 暗褐色土 7.5YR3/4
しまりがあり、やや粘性を有す。
- 5 暗褐色土 7.5YR3/4
しまりがあり、やや粘性を有す。石を含む。
- 6 暗褐色土 7.5YR3/3
しまりがあり、粘性を有す。
- 7 暗赤褐色土 5YR3/3
しまりがあり、粘性を有す。焼土を含む。
- 8 暗赤褐色土 5YR3/2
しまりがあり、粘性を有す。



第 294 図 S145 実測図・出土遺物実測図

【S145】(第294図)

番号	種別	規模(m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S145	溝	(33.5)	1.8	D-3～F-2	S361→S145	皿形	

S145は調査区南端付近で見つかった溝状遺構で、調査区内で直角に曲がっており、確認できた長さは33.5mに及ぶ。幅は平均1.8mで、断面の形状は半円形の皿状を呈する。断面の観察から、部分的な改修や掘り替えが行われていたと見られる。東隣ではS146が直線で並ぶように南北に掘られており、一体となって何らかの機能を持っていたと考えられる。

埋土から中世と見られる青磁・陶器・瓦質土器・土師器が検出された。青磁は見込みが広く平坦で、高台は厚みがある。陶器は天目茶碗の口縁部小片である。瓦質土器は播鉢・こね鉢で、どちらもやや焼きが甘い。また、中世以外の時代の遺物も出土している。弥生時代中期の上げ底の甕底部、古墳時代の須恵器蓋などで、石鏃についても調査区北側の調査成果から、弥生時代中期のものと考えられる。

【S146】(第295・296図)

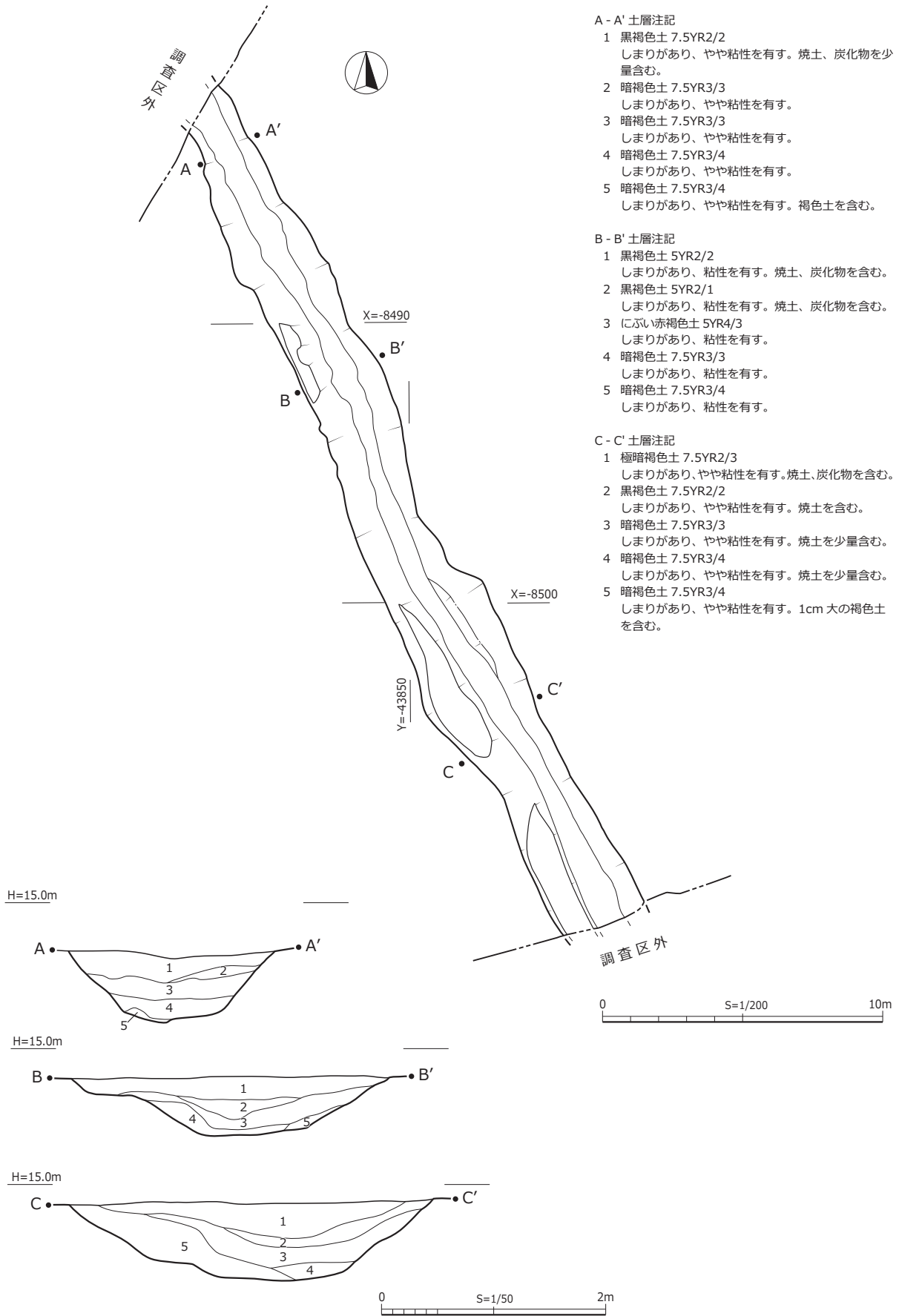
番号	種別	規模(m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S146	溝	(32.8)	3.0	E-5～F-2	S167、S228、 S361→S146	皿形	

S146は略南北方向に直線的に延びる溝で、調査区内で32.8mの長さを確認した。幅はおよそ3.0m、断面形状は皿状を呈し、溝の西側立ち上がりは数カ所でステップ状に広い部分がある。西隣にはS145の一部が方向を同じくして並ぶ。北からS228・S361・S167・S368の弥生末～古墳時代の遺構を切っている。

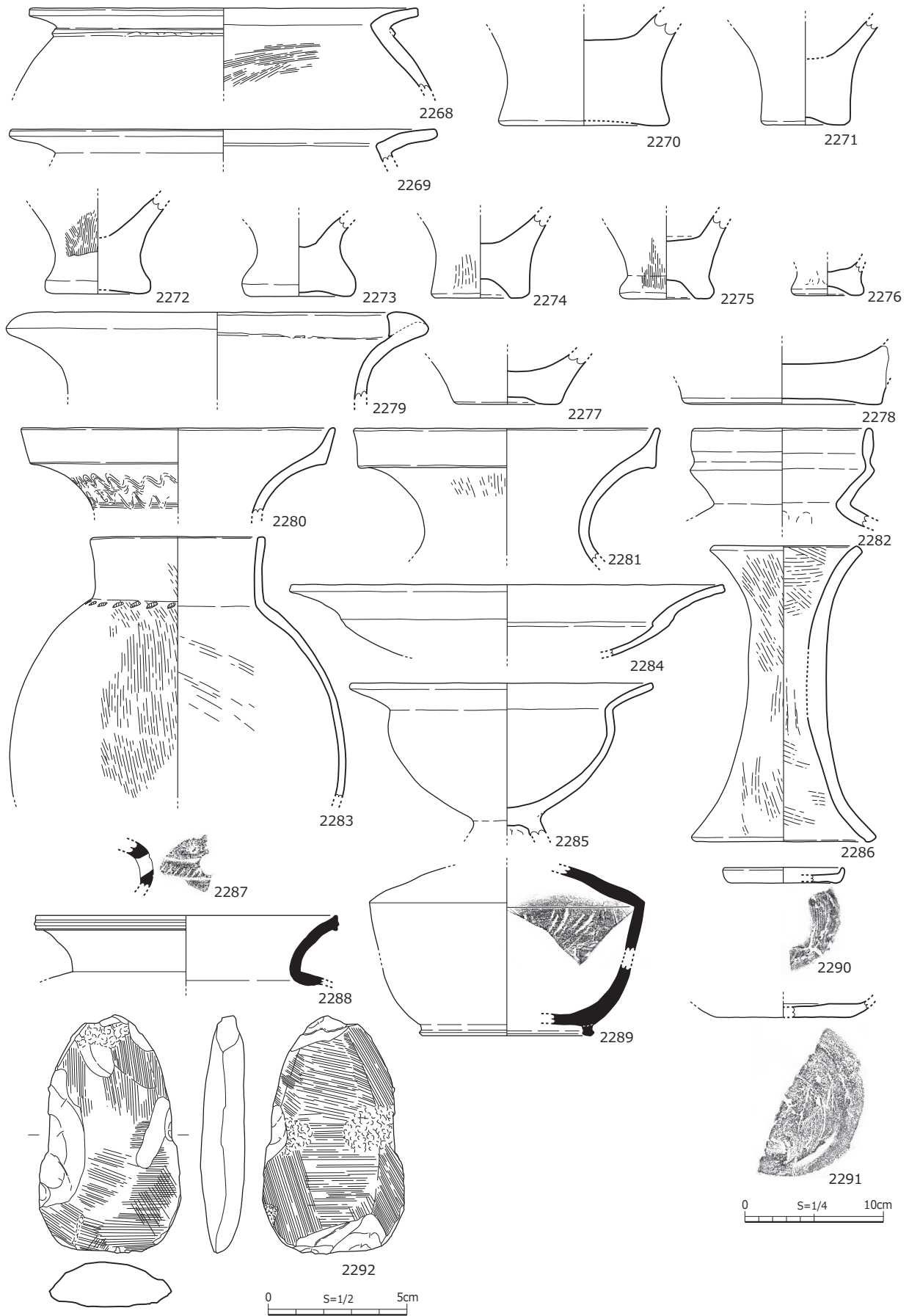
S146からは弥生時代中期の甕・壺形土器、弥生時代後期(終末期)の土器、古墳時代の須恵器、中世土師器、磨製石斧が見ついている。弥生中期土器が出土する遺構は、調査区北側のやや離れた地点であり、そこからもたらされたと考えられる。弥生後期の土器では、器高が20cmを越える器台や白川流域などで見られる複合口縁壺のような特徴的な土器が出土している。須恵器は甕、甕、長頸壺が検出されている。なお、S146周辺には古墳も存在するが、石室・周溝内では見つかっておらず、また若干時期差もあることから、直接的な関連はないと考えられる。中世土師器は2点を図示している。どちらも糸切り離しの底部であり、点数こそ少ないがこの溝の帰属する時代と考えている。

【S350】(第297図)

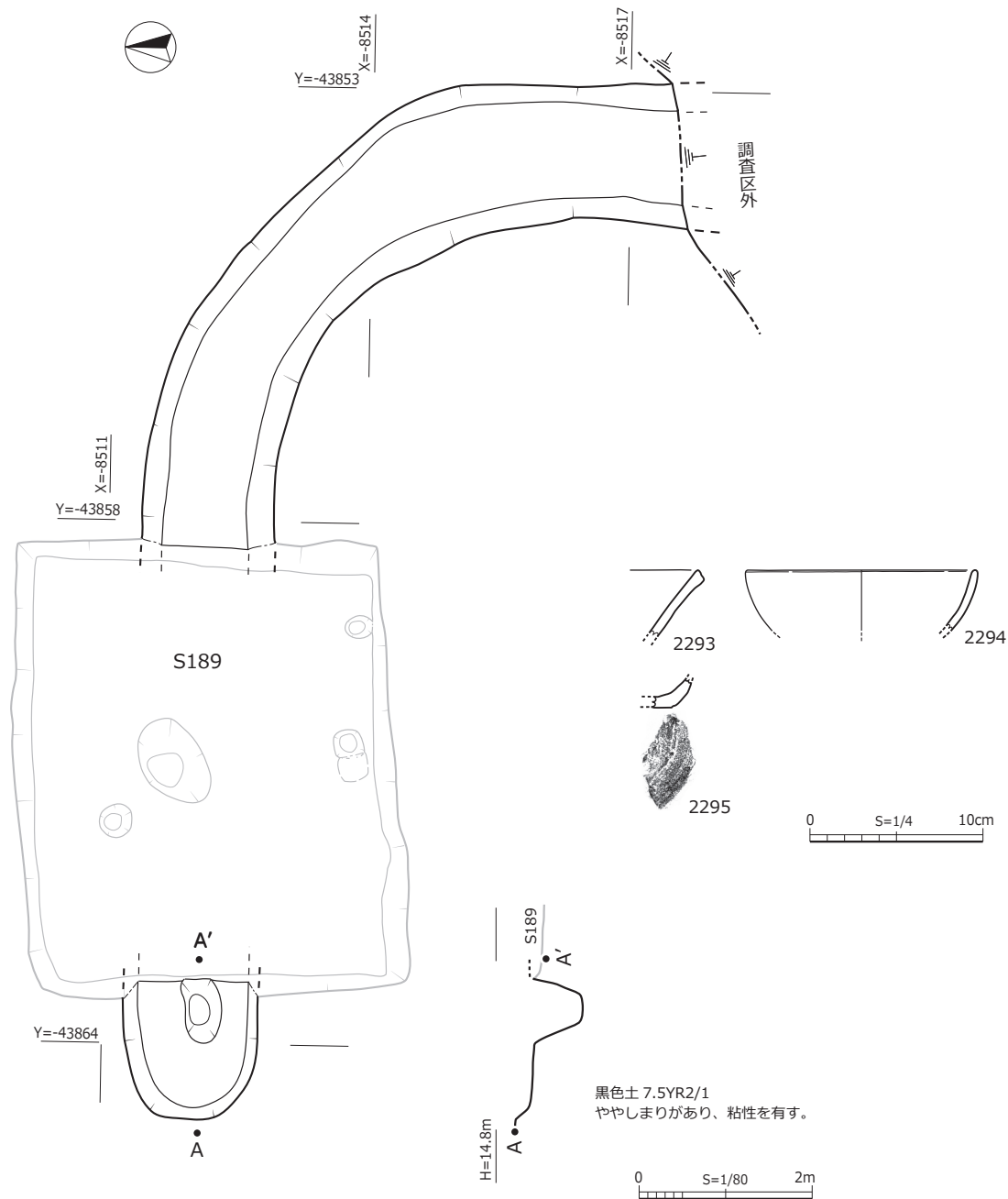
番号	種別	規模(m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長軸	短軸				
S350	溝	14.9	1.5	D-2・E-2	S189→S350	皿形	



第 295 図 S146 実測図実測図



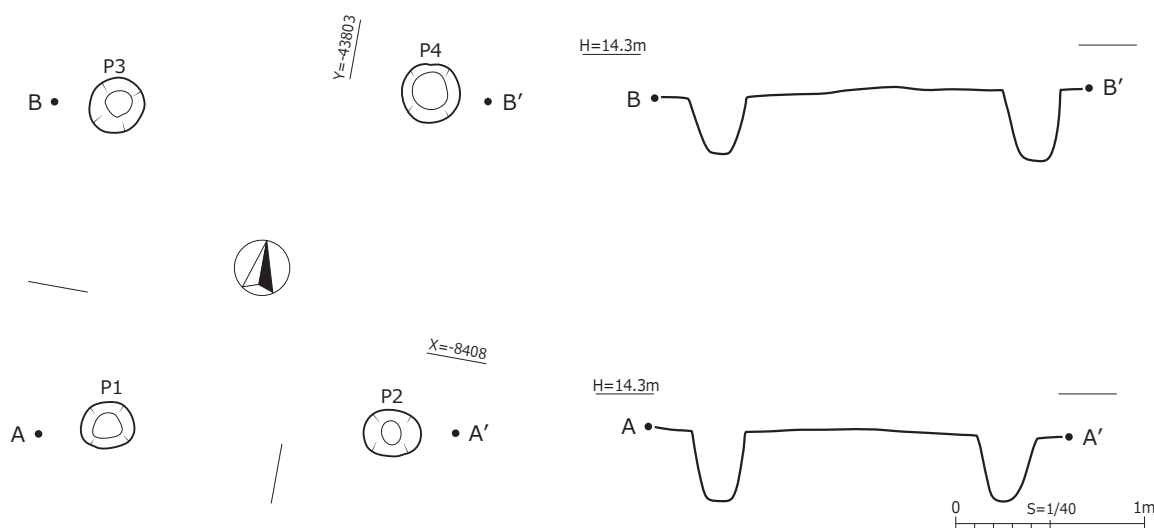
第296図 S146 出土遺物実測図



第 297 図 S350 実測図・出土遺物実測図

S350 は鉤状に大きく曲がった形状の溝で、南端は調査区外へ延びている。さらにその先は現況でも崖面となっている。西端の立ち上がり部にピット状の掘り込みがあり、すぐ東側で古墳時代前期の住居跡 S189 を切っている。この部分で掘り下げを行う際、切り合いが確認出来ぬまま S189 を先に掘ってしまったため、図上でも途切れている。また、S189 より東側は図面に不備があり、高さの記録が残っていない。

S350 から出土した遺物を 3 点図示した。2 点は古墳時代の土師器で、周辺の遺構などからの混入と見られる。1 点は中世の土師皿で、ロクロを使用しており、底面に糸切りの痕跡が残っていた。



第 298 図 S120 実測図

3. 掘立柱建物

【S120】（第 298 図）

番号	切り合い	グリッド	平面形	柱間距離 (m)		備考
				東西	南北	
S120	掘立柱建物	J-13	歪な方形	1.50 ~ 1.66	1.70 ~ 1.84	

S120 は掘立柱建物跡と考えられる遺構で、ややいびつな四角に配置された柱穴 4 基からなる。時期を示す遺物は出土しなかったが、表土剥ぎ後基本土層Ⅲ層下部の面で柱穴を確認しており、それぞれに直径や深さとも同様に埋土に砂粒が多く含まれることから、遺構の時期は中世以降と考えている。

(2) 時期不明の遺構・遺物

時期不明の遺構として、土坑 5 基、溝 1 基を検出した。各遺構の詳細は以下のとおりである。

1. 土坑

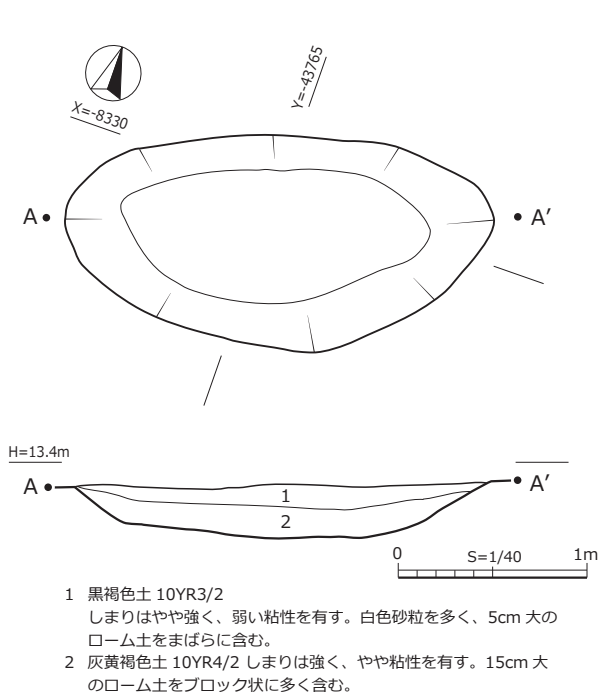
【S12】（第 299 図）

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S12	土坑	楕円形	2.28	1.14	0.30	N-20	—	

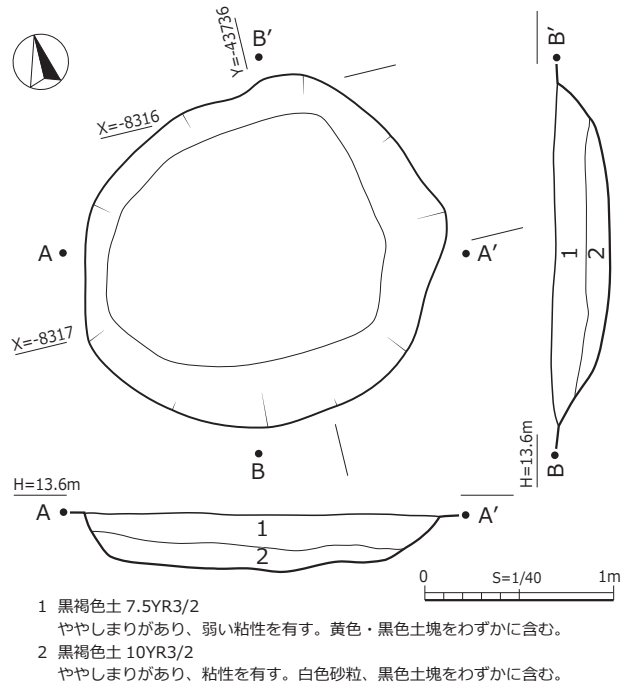
S12 は深さ約 30cm と浅い楕円形の土坑である。遺物等の出土はなく、時期不明とした。

【S51】（第 300 図）

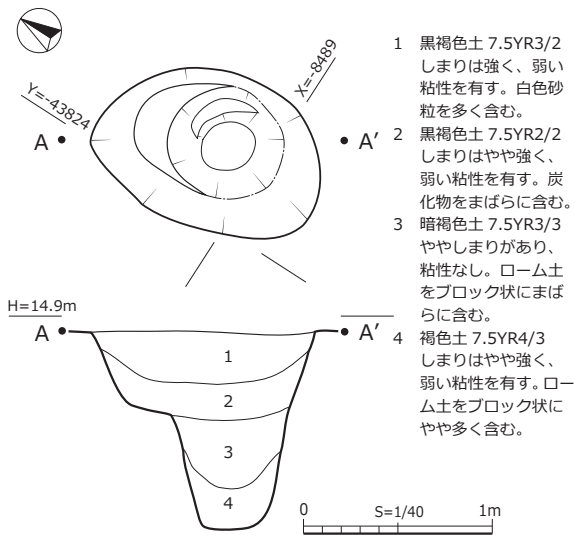
番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S51	土坑	円形	2.02	1.75	0.30	Q-22	—	



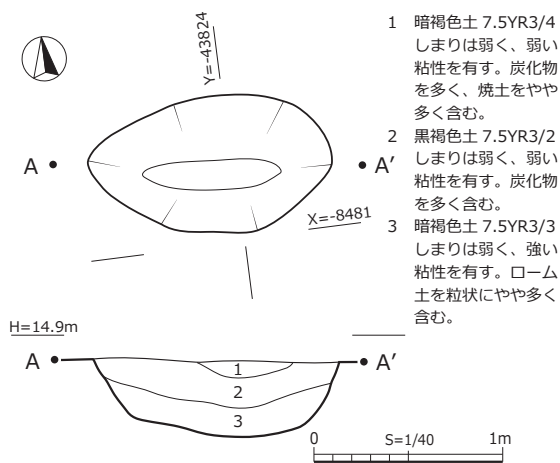
第 299 図 S12 実測図



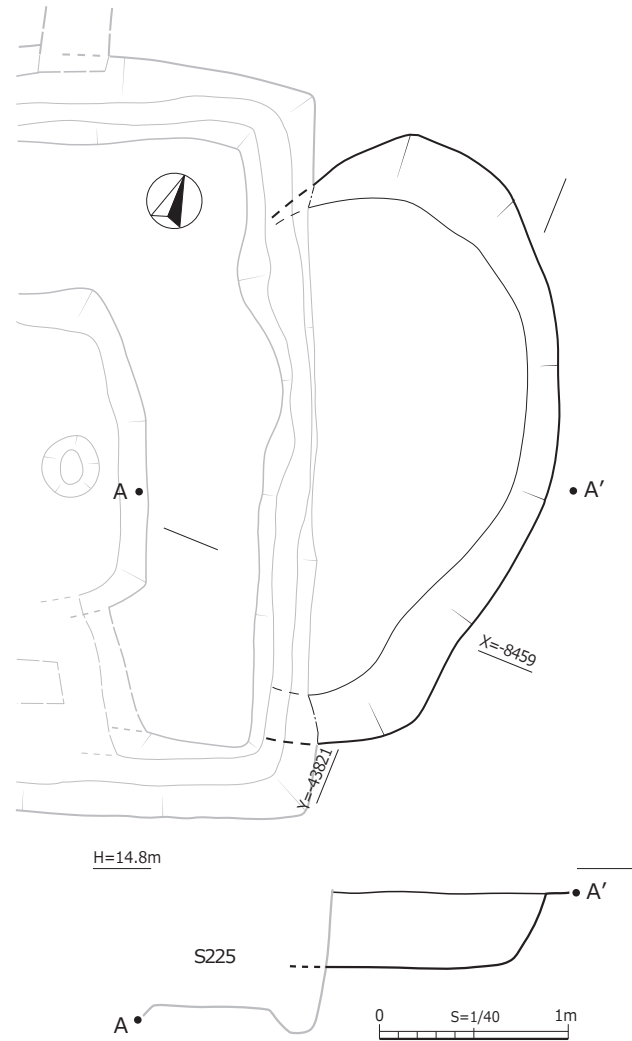
第 300 図 S51 実測図



第 301 図 S208 実測図



第 302 図 S217 実測図



第 303 図 S375 実測図

S51 は円形を呈す土坑で、ごく少量の土器が出土しているが、時期を決定できるような資料はなかった。

【S208】(第 301)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S208	土坑	楕円形	1.24		0.83		1.04	

S208 は楕円形を呈す土坑で、中央が段状に円形に深く掘り込まれている。時期を示すような遺物の出土はなかった。

【S217】(第 302 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S217	土坑	楕円形	1.31	0.74	0.41	H-5	—	

S217 は楕円形を呈す土坑で、埋土 2 層の下部で炭化物がやや集中している部分があった。時期を示すような遺物の出土はなかった。

【S375】(第 303 図)

番号	種別	平面形	規模 (m)			グリッド	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
S375	土坑	楕円形	3.2 + α	1.9 + α	.40	H-8	S317 → S375 → S225	

S375 は楕円形を呈す土坑と見られる。東側で甕棺墓 S317 を切り、西側で古墳前期の住居跡 S225 に切られている。これにより弥生中期以降、古墳前期以前の時期が考えられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかったため、時期不明としている。

2. 溝

【S165】(第 304 図、図版 27)

番号	種別	規模 (m)		グリッド	切り合い	断面形状	備考
		長さ	幅				
S165	溝	(13.0)	2.8 ~ 4.0	H-5 ~ I-6	—	皿形	

S165 は幅 3.5 m 前後の弧状の溝である。東側が調査区外となるため、全体の形状はよくわからない。S165 からは弥生時代中期・後期・終末期及び古墳時代の遺物が出土している。多くは小片で接合関係も認められないことから、S165 は帰属時期不明とした。

なお、図化できた須恵器 2 点を示している。坏では坏身に短いかえりが付いている。甕は外面に格子タタキ、内面には同心円や格子などを刻まない無文の当て具痕が残る。

第IV章 自然科学的分析

玉名市塚原遺跡出土の弥生人骨

松下真実* 松下孝幸**

【キーワード】:熊本県、玉名市、弥生人骨、甕棺墓、男性、高・狭顔、高身長

はじめに

熊本県玉名市岱明町野口字塚原に所在する塚原遺跡の発掘調査が道路建設事業に伴って2010(平成22)～2011(平成23)年度におこなわれ、4基の甕棺墓から人骨が出土した。本遺跡では、縄文時代から中世期までの遺構・遺物が確認されている。弥生時代の遺構としては大規模な集落と、それに伴う甕棺墓群が確認された。そのうち甕棺墓は21基(内墓坑のみ8基)検出され、4基から人骨が出土した。また、隣接する年の神遺跡からは弥生時代中・後期に属する支石墓および多数の甕棺墓が確認されており、ゴホウラ製の貝輪も出土している。

熊本県から出土した弥生人骨としては、熊本市の葉山遺跡(松下、1991)のほか庵ノ前遺跡(松下、1997)、万楽寺出口遺跡(松下、2000)、長嶺遺跡(松下、2005b)、梅ノ木遺跡(松下、2001)、^{くわみず}神水遺跡(松下、2004)、八ノ坪遺跡(松下、2005a,2006)、^{かみ ごと}上ノ郷遺跡(松下、2007)、^{ほうまんづる いわさか は やなぎ}宝満鶴・岩坂葉柳遺跡(松下・他、2013)、^{よしわら}吉原遺跡1区(松下、投稿中)出土の例や嘉島町剣原(北条・他、1969)、玉名市立^{りゅうがんじ}願寺(里・他、1959)の例などがある。

熊本県でも福岡県や佐賀県と同じように弥生時代には甕棺が出土するが、北部九州ほど甕棺が密集することがない。その結果弥生人骨がある数まとまって出土することがなかったので、熊本地域での弥生人の特徴は明確になっていなかった。その後体数は少ないが、観察や計測ができる弥生人骨が出土した。葉山遺跡と庵ノ前遺跡、万楽寺出口遺跡、長嶺遺跡、梅ノ木遺跡出土の弥生人の特徴を明らかにすることができた。また、1997年から98年にかけて、熊本市の南部に位置する白藤遺跡の発掘調査がおこなわれた。この調査によって佐賀県や福岡県で見られるものと同じような大型の成人用甕棺が多数出土した。人骨の保存状態はよくなかったが、現場で観察したところ、高顔・高身長で四肢骨が屈強な形質的特徴が認められ、彼らが佐賀県や福岡県の甕棺から出土する弥生人と同じ形質的特徴を持っていたことがわかった。万楽寺出口遺跡の弥生人は北部九州の甕棺弥生人の特徴が濃厚である。長嶺遺跡の甕棺からは保存良好な男女1体ずつ合計2体の弥生人骨が出土したが、2体とも高顔・高身長で、北部九州タイプの弥生人であった(松下、2005)。

* Masami MATSUSHITA、** Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]

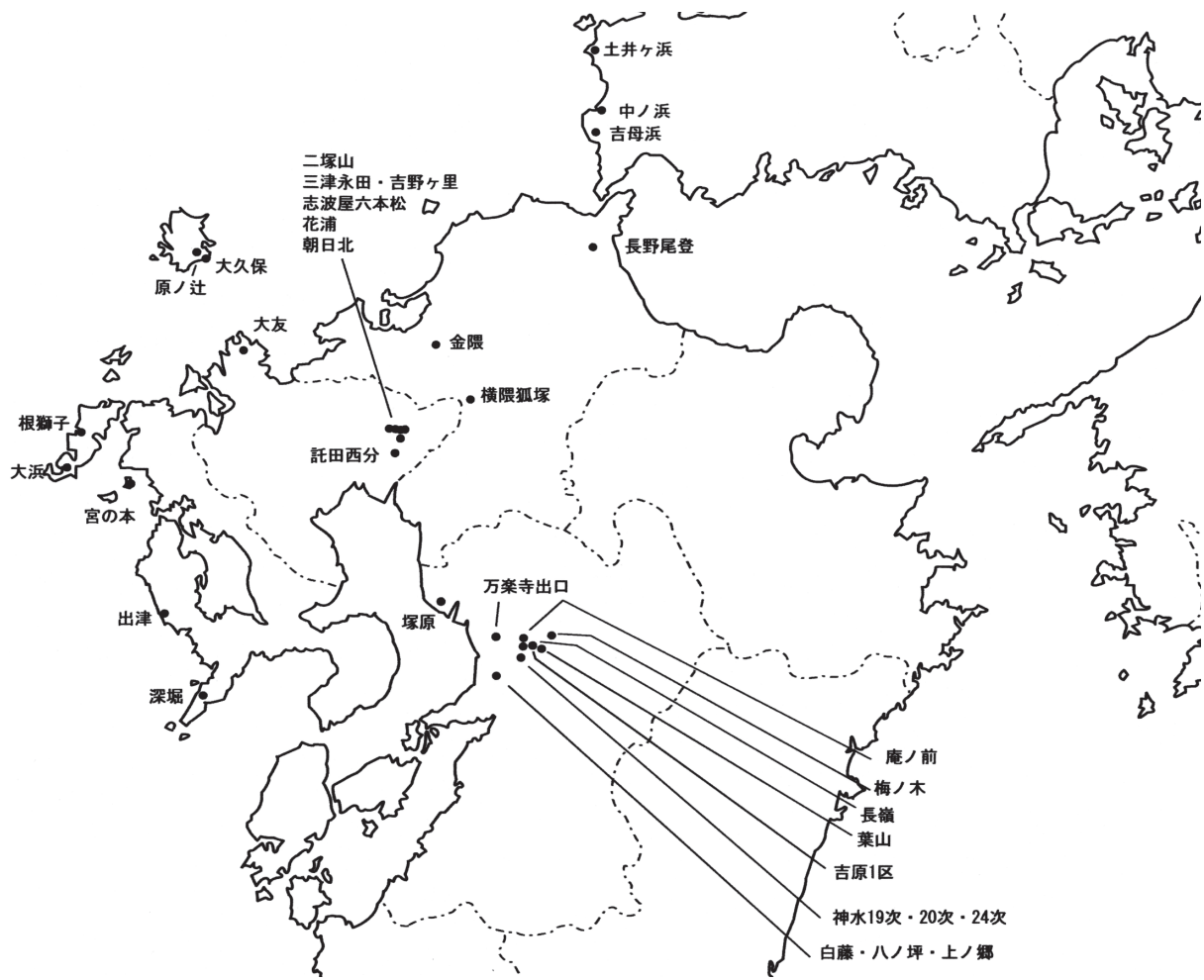


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)
 (Fig.1 Location of the Tsukahara site, Tamana City, Kumamoto Prefecture)

今回4基の甕棺墓から出土した弥生人骨の内、2基の保存状態は良好であり、形質的な地域差を知るうえでの貴重な資料である。出土人骨の人類学的観察や計測をおこなったところ、興味深い形質的特徴が認められたので、その結果を報告しておきたい。

資 料

本遺跡から出土した人骨は、考古学的所見から弥生時代中期に属する人骨である。出土した人骨は表1に示すとおりで、2体とも男性で、ともに熟年である。2体の人骨は甕棺から出土した。各骨の残存状態は図2に示すとおりで、保存状態は良好である。

計測方法は、Martin-Saller (1957) によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木 (1963) と松下ら (1983) の方法で計測をおこなった。なお、年齢区分に関しては表2の基準のとおりである。

表1 出土人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢
S351	男性	熟年
S363	男性	熟年

表2 年齢区分 (Table 2. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書 (1996) を参照されたい。

所 見

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

S351 (男性・熟年)

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

頭蓋は完全である。前頭結節の発達が悪く、外後頭隆起の発達は弱い。乳様突起は大きい。外

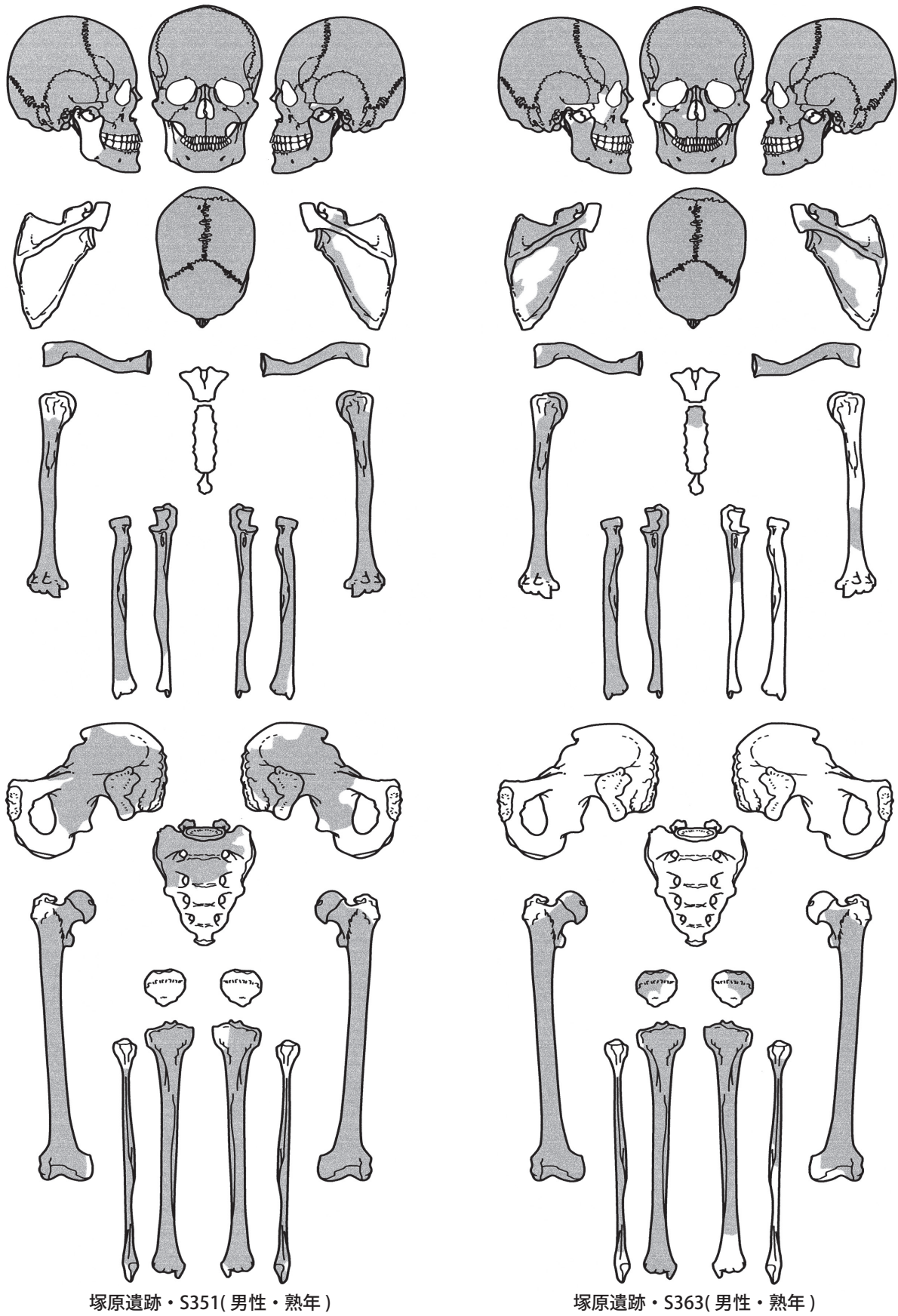


図2. 人骨の残存図(アミかけ部分)
(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、三主縫合の内外両板が観察できた。内板では三主縫合は完全に癒合している。外板では、冠状縫合と矢状縫合で癒合が進んでいるものの開離しており、ラムダ縫合も開離している。

計測値は、頭蓋最大長が 175mm、頭蓋最大幅は 143mm、バジオン・ブレグマ高は 131mm である。頭蓋長幅示数は 81.71、頭蓋長高示数は 74.86、頭蓋幅高示数は 91.61 となり、頭型は brachy-,ortho-,tapeinokran (短、中、平頭型) に属している。また、頭蓋水平周は 507mm、横弧長は 309mm、正中矢状弧長は 353mm である。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋も完全である。眉上弓の隆起は強く、鼻骨はやや広く、鼻骨と鼻根部は扁平である。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が 101mm、頬骨弓幅は 142mm、中顔幅は 100mm、顔高は 121mm、上顔高は 71mm で、顔示数は 85.21 (K)、121.00 (V)、上顔示数は 50.00 (K)、71.00 (V) となり、顔面には高・狭顔傾向が認められる。

眼窩幅は 43mm (右)、44mm (左)、眼窩高は 34mm (左右) で、眼窩示数は 79.07 (右)、77.27 (左) となり、両側とも mesokonch (中眼窩) に属している。鼻幅は 27mm、鼻高は 55mm で、鼻示数は 49.09 で、mesorrhin (中鼻) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が 17mm、鼻根横弧長は 18mm、鼻根彎曲示数は 94.44 となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は 96mm で、眼窩間示数は 17.71 となり、顔の幅に対して、眼窩間幅が広い。側面角は、全側面角が 81 度、鼻側面角が 80 度、歯槽側面角が 77 度で、歯槽性突顎の傾向は認められない。

下顎骨は、右側下顎枝が欠損しているが、保存状態は比較的良好である。下顎枝は低くて幅は広い。

2. 歯

上顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 ⑥ 5 4 3 2 ①	① ② 3 4 5 ⑥ 7 8	[○: 歯槽開存 ●: 歯槽閉鎖 /: 不明]
/ 7 ⑥ 5 4 3 2 ①	1 2 3 4 5 ⑥ 7 8	

(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 3 度 (咬耗が象牙質まで及ぶ) である。風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

左側肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

① 上腕骨

右側は上腕骨頭が欠損しているが、保存状態は良好である。骨体は太く、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、最大長が 314mm (左)、骨体最小周は 63mm (右)、65mm (左)、中央周が 73mm (右)、72mm (左) で、長厚示数は 20.70 (左) となり、骨体はそれ程頑丈ではない。また、中央最大径が 26mm (左右)、中央最小径は 16mm (右)、17mm (左) で、骨体断面示数は 61.54 (右)、65.38 (左) となり、骨体は扁平である。

② 橈骨

左右とも遠位端が欠損しているが、保存状態は良好である。長さはやや長く、骨体は太い。

③ 尺骨

右側は遠位端を欠損しているが、保存状態は良好である。長さはやや長い。右側尺骨の骨間縁の発達は良好である。骨体は太い。

(2) 下肢骨

仙骨、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

① 寛骨

左右の腸骨体が残存していた。径は余り大きくない。大坐骨切痕の角度は小さい。

② 大腿骨

左右の大転子が欠損しているが、保存状態は比較的良好である。長さは長く、骨体は大きい。粗線の発達は良好であるが、骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体上部は扁平である。

計測値は、最大長が 430mm (右)、433mm (左)、骨体中央周は 97mm (右)、91mm (左) で、長厚示数は 22.77 (右)、20.98 (左) となり、右側骨体は頑丈である。骨体中央矢状径は 30mm (右)、29mm (左)、中央横径は 31mm、(右)、29mm (左)、骨体中央断面示数は 96.77 (右)、100.00 (左) となり、粗線の発達は良好であるが、骨体両側面の後方への発達は悪い。また、上骨体断面示数は 74.29 (右)、76.47 (左) となり、骨体上部は扁平である。

③ 脛骨

左右とも近位端を欠損しているが、保存状態は比較的良好である。長さは長く、骨体は太いが、ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのIV型を呈している。

計測値は、骨体周が 86mm (右)、84mm (左)、最小周は 79mm (右)、77mm (左) で、骨体は太い。中央最大径は 33mm (右)、32mm (左)、中央横径は 21mm (左右) で、中央断面示数は 63.64 (右)、67.74 (左) となり、右側骨体は扁平である。

④ 腓骨

左右の骨体が残存していた。骨体の径は大きい。

4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ 162.15cm (Pearson、右)、162.71cm (Pearson、左)、161.11cm (藤井、右)、161.81cm (藤井、

左)となり、高身長である。

5. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達が弱く、眉上弓が隆起し、大坐骨切痕の角度が小さいことから、男性と推定した。年齢は、三主縫合の内板は癒合し、外板は癒合が進んでいるものの開離していることから熟年と推定した。

S363 (男性・熟年)

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

頭蓋は右側頭頂骨から右側側頭骨にかけて欠損しているが、保存状態は良好である。前頭結節の発達は良好で、外後頭隆起の発達は弱い、小さな棘が形成されている。乳様突起はやや小さい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、三主縫合の内外両板が観察できた。内板では三主縫合は完全に癒合している。外板では、矢状縫合は癒合しており、冠状縫合とラムダ縫合は癒合が進んでいるが、一部開離している。

計測値は、頭蓋最大長が 185mm、頭蓋最大幅は 140mm、バジオン・ブレグマ高は 140mm である。頭蓋長幅示数は 75.68、頭蓋長高示数は 75.68、頭蓋幅高示数は 100.00 となり、頭型は meso-,hypsi-,akrokran (中、高、尖頭型) に属している。また、頭蓋水平周は 528mm、横弧長は 328mm、正中矢状弧長は 395mm である。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋は、右側頬骨が欠損しているが、保存状態は良好である。眉上弓の隆起は弱く、鼻骨は狭く、鼻骨は扁平である。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が 96mm、頬骨弓幅は [136]mm、中顔幅は [106]mm、顔高は 130mm、上顔高は 77mm で、顔面の高径は著しく高く、顔示数は 95.59 (K)、122.64 (V)、上顔示数は 56.62 (K)、72.64 (V) となり、顔面には高・狭顔傾向が認められる。

眼窩幅は 43mm (左右)、眼窩高は 34mm (右)、35mm (左) で、眼窩示数は 79.07 (右)、81.40 (左) となり、両側とも mesokonch (中眼窩) に属している。鼻幅は (23) mm、鼻高は 52mm で、鼻示数は (44.23) で、leptorrhin (狭鼻) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が 17mm、鼻根横弧長は 19mm、鼻根彎曲示数は 89.47 となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は 96mm で、眼窩間示数は 17.71 となり、顔の幅に対して、眼窩間幅が広い。

側面角は、全側面角が 82 度、鼻側面角が 85 度、歯槽側面角が 82 度で、歯槽性突顎の傾向は認められない。

下顎骨は、右側下顎頭と右側筋突起が欠損しているが、保存状態は良好である。下顎枝は高くて幅はやや広い。

2. 歯

上顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ 7 6 ⑤ ④ 3 ② ①	① ② ③ 4 5 6 7 ⑧	[○:歯槽開存 ●:歯槽閉鎖 /:不明]
⑧ ● 6 ⑤ ④ ③ ② ①	① ② 3 4 ⑤ 6 ● ⑧	

(1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小臼歯、5:第二小臼歯、6:第一大臼歯、7:第二大臼歯、8:第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 2 度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)～3 度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

左右の骨体が残存していた。骨体はやや細いが、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、骨体最小周が 63mm (右)、中央周は 67mm (右) で、骨体はやや細い。また、中央最大径は 22mm (右)、中央最小径は 17mm (右) で、骨体断面示数は 77.27 (右) となり、骨体の扁平性は弱い。

②橈骨

右側の橈骨が残存していた。保存状態は良好である。長さはやや長い。骨体は細いが、骨間縁の発達は良好である。

③尺骨

左右の尺骨が残存していた。右側の保存状態は良好である。長さはやや長い。骨体は細いが、骨間縁の発達は良好である。

(2) 下肢骨

大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨が残存していた。

①大腿骨

左右の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さはやや長く、骨体はそれほど大きくない。粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央周が 87mm (右)、88mm (左) で、骨体はやや細い。骨体中央矢状径は 24mm (右)、25mm (左)、中央横径は 26mm (右)、27mm (左) で、骨体中央断面示数は 92.31 (右)、92.59 (左) となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。また、上骨体断面示数は 93.55 (右)、93.75 (左) となり、骨体上部には扁平性は認められない。

②脛骨

左右の近位端が欠損しているが、保存状態は比較的良好である。長さは長さはやや長い。それほど大きくなく、ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのIV型を呈している。

計測値は、骨体周が 81mm (右)、80mm (左)、最小周は 76mm (左右) で、骨体は細い。中央最大径は 29mm (右)、30mm (左)、中央横径は 21mm (左右) で、中央断面示数は 72.41 (右)、70.00 (左) となり、骨体には扁平性は認められない。

③腓骨

左右の骨体が残存していた。骨体の径はやや大きい。

4. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達良好で、眉上弓や外後頭隆起の発達はそれほど強くはないが、四肢骨の骨体が高いことから男性と推定した。年齢は、三主縫合の内板は癒合し、外板は癒合が進んでいるものの一部開離していることから、熟年と推定した。

考 察

熊本県における保存状態が良好な弥生人骨の出土例は少なく、比較資料はきわめて少ない。よって熊本県内および周辺地域の弥生人骨の資料と比較してみたい。

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

表 3 は脳頭蓋の比較表である。本遺跡から出土した S351 と S363 は、脳頭蓋の計測値に違いが認められるので、1 体ずつ比較していきたい。まず、S351 であるが、頭蓋長幅示数は 81.71 で、八ノ坪、庵ノ前に次いで大きく、頭型は短頭型を示す。一方、S363 の頭蓋長幅示数は 75.68 で、表 3 ではもっとも小さくなり、長頭に傾いた中頭型を示す。頭蓋水平周は、S351 が 507mm で、表 3 では最小値になる。一方、S363 は 528mm で、根獅子、三津、大友に次いで大きい。S351 の頭型は短頭傾向が強く、S363 は長頭傾向が認められる。

(2) 顔面頭蓋

表 4 は顔面頭蓋の比較表である。頬骨弓幅は、S351 が 142mm で、二塚山、三津に次いで大きい。中顔幅は 100mm で、葉山と同値で、表 4 では最小値になる。顔高は 121mm で、土井ヶ浜と大差なく、葉山よりは大きい、その他の資料より小さい。上顔高は 71mm で、長嶺と同値で、二塚山、横隈狐塚と大差なく、三津よりは小さいが、その他の資料より大きい。S351 の顔示数は、コルマンでは 85.21 で、横隈狐塚、土井ヶ浜、三津、長嶺より小さく、その他の資料より大きい。ウィルヒョーは 121.00 で、三津、長嶺と大差なく、横隈狐塚に次いで大きい。上顔示数は、コルマンが 50.00 で、長嶺と大差なく、横隈狐塚、三津、二塚山に次いで大きい。ウィルヒョーは 71.00 で、三津に次いで大きく、S351 の顔面には高・狭顔傾向が認められる。

一方、S363 は、頬骨弓幅が [136] mm で、表 4 では最小値になるが、中顔幅は [106] mm で、二塚山と同値で、表 4 では最大値になる。顔高は 130mm、上顔高は 77mm で、表 4 では最大値

になり、S363の顔面の高径は著しく高い。顔示数はコルマンが〔95.59〕で表4では最大値になり、ウィルヒョーは〔122.64〕で、横隈狐塚に次いで大きい。上顔示数は、コルマンが〔56.62〕、ウィルヒョーが〔72.64〕で、表4では最大値を示し、S363の顔面には著しい高・狭顔傾向が認められる。

歯槽側面角はS351が77度で、土井ヶ浜、二塚山に次いで大きく、S363は82度で表4では最大値になり、ともに歯槽性突顎傾向は認められない。

(3) 鼻根部

表5は鼻根部の比較表である。鼻根彎曲示数は、S351が94.44、S363は89.47で、ともに表5では大きな値になり、鼻根部は扁平である。前頭突起水平傾斜角は、S351が111度で、表5では最大値になり、S363も89度で、土井ヶ浜に次いで大きく、前頭突起は前額方向を向いている。

2. 四肢骨

(1) 上腕骨

表6は上腕骨の比較表である。S351の最大長は314mm（左）で、表6では最大値となる。長厚示数は20.70（左）で、横隈狐塚、土井ヶ浜と大差なく、その他の資料より小さくなり、上腕骨はそれほど頑丈ではない。中央周は、S351が73mm（右）で、根獅子に次いで大きく、骨体は太い。一方、S363の中央周は67mm（右）で、表6では最小値になり、S363の上腕骨は細い。骨体断面示数は、S351は61.54（右）で、表6では最小値になり、骨体は強い扁平性が認められる。一方、S363は77.17（右）で、長嶺、庵の前に次いで大きく、骨体の扁平性は弱い。

(2) 大腿骨

表7は大腿骨の比較表である。最大長は、S351が430mm（右）で、八ノ坪と同値で、二塚山、土井ヶ浜に次いで大きい。骨体中央周は、S351が97mm（右）で、表7では最大値になり、骨体は太い。長厚示数は22.77（右）で、表7では最大値となり、大腿骨は頑丈である。一方、S363の中央周は87mm（右）で、大友と大差なく、八ノ坪よりは大きい、その他の資料より小さく、骨体はそれほど大きくはない。中央断面示数は、S351が96.77（右）、S363は92.31（右）で、ともに梅ノ木よりは大きい、その他の資料よりは小さく、骨体両側面の後方への発達が悪い。

(3) 脛骨

表8は脛骨の比較表である。骨体周は、S351が86mm（右）で、万楽寺出口、長嶺、三津、庵の前に次いで大きい。一方、S363は81mm（右）で、八ノ坪よりは大きい、その他の資料より小さく、骨体は大きくない。中央断面示数は、S351が63.64（右）で、万楽寺出口よりは大きい、その他の資料より小さく、骨体は扁平である。S363は72.41（右）で、二塚山と同値で、庵の前、長嶺、八ノ坪よりは小さい、その他の資料より大きく、骨体には扁平性は認められない。

3. 推定身長値

表9は推定身長値の比較表である。大腿骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推

定身長値を算出すると、S351は162.15cm (Pearson) (右)、161.11cm (藤井) (右) となり、二塚山、土井ヶ浜に次いで大きく、S351の身長は高い。S363は橈骨最大長から推定身長値を算出すると、162.14cm (Pearson) (右)、159.56cm (藤井) (右) となり、長嶺、横隈狐塚、土井ヶ浜、葉山に次いで大きく、身長はそれほど低くない。

要 約

熊本県玉名市岱明町野口字塚原に所在する塚原遺跡の発掘調査が道路建設事業に伴って2010(平成22)年度～2011(平成23)年度におこなわれ、4基の甕棺墓から人骨が出土し、内2基について人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. この人骨は、考古学的所見から、弥生時代中期に属する人骨である。
2. S351とS363は2体とも熟年の男性骨である。
3. 頭蓋長幅示数は、S351は81.71で、短頭型を示している。一方、S363は75.68で長頭に近い中頭型を示しており、2体は異なった頭型を示している。
4. S351の頬骨弓幅は142mm、中顔幅が100mm、顔高が121mm、上顔高が71mmで、顔面の高径は高い。顔示数は85.21 (K)、121.00 (V)、上顔示数は50.00 (K)、71.00 (V)で、顔面には高・狭顔傾向が認められる。一方、S363の頬骨弓幅は〔136〕mm、中顔幅が〔106〕mm、顔高は130mm、上顔高は77mmで、顔面の高径は著しく高い。顔示数は〔95.59〕(K)、〔122.64〕(V)、上顔示数は〔56.62〕(K)、〔72.64〕(V)で、顔面には著しい高・狭顔傾向が認められる。歯槽側面角は、S351が77度、S363は82度で、ともに歯槽性突顎傾向は認められない。鼻根彎曲示数は、S351が94.44、S363は89.47で、鼻根部は扁平である。
5. 風習的抜歯は2体とも認められない。
6. 上腕骨は、S351の最大長は314mm(左)で、上腕骨は長い。中央周は73mm(右)、長厚示数は20.70(左)で、骨体は太いが、それ程頑丈ではない。S363の中央周は67mm(右)で、骨体は細い。
7. 大腿骨は、S351の最大長は430mm(右)で、大腿骨はやや長い。中央周は97mm(右)、長厚示数は22.77(右)で、骨体は大きく、頑丈である。中央断面示数は96.77(右)で、骨体両側面の後方への発達が悪い。S363の中央周は87mm(右)、中央断面示数は92.31(右)で、骨体はそれほど大きくなく、骨体両側面の後方への発達が悪い。
8. 脛骨は、S351の骨体周が86mm(右)、中央断面示数は63.64(右)で、骨体は太く、扁平である。S363の骨体周は81mm(右)、中央断面示数は72.41(右)で、脛骨は細く、骨体には扁平性は認められない。
9. 推定身長値は、S351は、大腿骨最大長から162.15cm (Pearson) (右)、161.11cm (藤井) (右) となり、身長は高い。S363は、橈骨最大長から、162.14cm (Pearson) (右)、159.56 (藤井)

(右) となり、身長は低くはない。

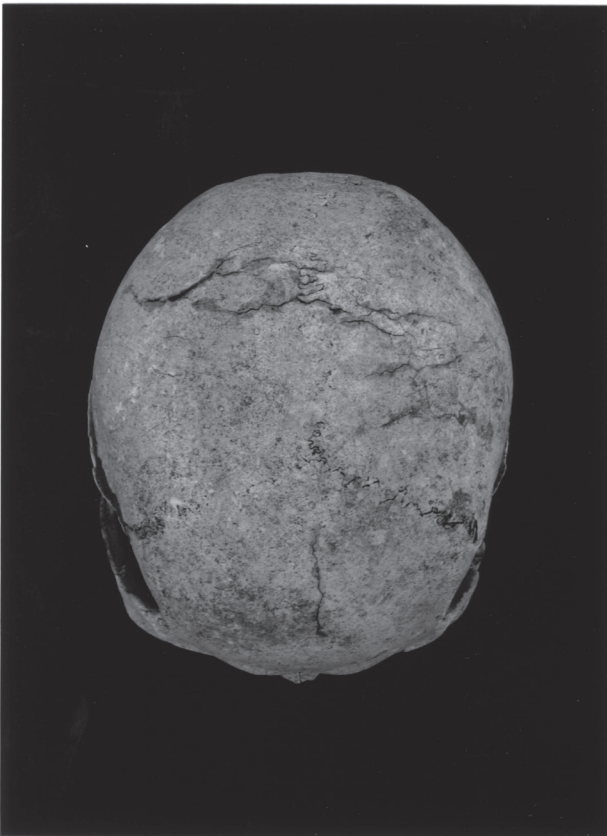
10. 今回、本遺跡からは4基の甕棺墓から人骨が出土したが、S351とS363はともに高・狭顔、高身長であることから、西北九州タイプの弥生人ではなく、北部九州タイプの弥生人である。とくにS363は、顔高、上顔高ともに著しく高く、顔示数と上顔示数は熊本県の弥生人や、北部九州・山口タイプの弥生人の平均値を超えており、北部九州・山口地域でもこのような例は少なく、このような弥生人が玉名市に居住していたということは注目しておきたい。一方、脳頭蓋ではS351が短頭型で、熊本県から出土している弥生人骨と大差がないのに対し、S363は長頭に近い中頭型を示し、北部九州・山口タイプの弥生人骨より長頭傾向が強いなど、個体差が認められ、興味深い結果を得た。今後の資料数の増加をまって、玉名市周辺地域の更なる検討をおこなっていききたい。

謝 辞

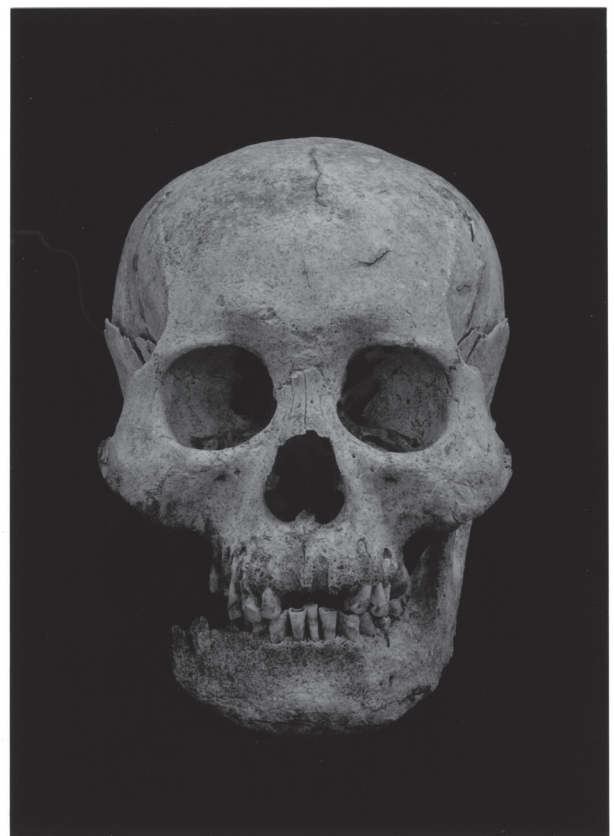
擲筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた玉名市教育委員会文化課の皆様方に感謝致します。

参考文献一覧

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下孝幸・他、1983d: 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告2): 19-30.
3. 松下孝幸、1991: 熊本市葉山遺跡出土の弥生時代人骨。交流の考古学(肥後考古学第8号 三島格会長古稀記念) : 287-312.
4. 松下孝幸、1997: 熊本市庵ノ前遺跡出土の弥生時代人骨。庵ノ前遺跡Ⅲ(熊本県文化財調査報告書第160集): 142-172.
5. 松下孝幸、2000: 熊本市万楽寺出口遺跡出土の弥生時代人骨。万楽寺出口遺跡山海道遺跡(熊本県文化財調査報告第185集): 147-155.
6. 松下孝幸、2001: 弥生時代人骨の分析梅ノ木遺跡Ⅱ下巻- 県道益城菊陽線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査-(熊本県文化財調査報告書第199集): 46-54.
7. 松下孝幸、2004: 熊本市神水遺跡第20・24次調査出土の弥生人骨。神水遺跡Ⅵ- 第20次・第28次調査区発掘調査報告書-(都市計画道路船場・神水線建設に伴う埋蔵文化財報告書5): 106-110.
8. 松下孝幸、2005a: 熊本市八ノ坪遺跡出土の弥生人骨。八ノ坪遺跡Ⅰ本文編- 東西屋敷地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告1: 188-213.
9. 松下孝幸、2005b: 熊本市長嶺遺跡群出土の弥生人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集-平成16年度 -: 517-546.
10. 松下孝幸、2006: 熊本市八ノ坪遺跡出土の弥生人骨(2)。八ノ坪遺跡Ⅱ- 東西屋敷地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2: 128-142.
11. 松下孝幸、2007: 熊本市上ノ郷遺跡(旧熊本平野条里跡)出土の弥生人骨。上ノ郷遺跡(熊本県文化財調査報告書第239集): 109-130.
12. 松下孝幸・他、2013: 熊本県大津町中島宝満鶴・岩坂葉柳遺跡出土の弥生・中世人骨。中島西鶴遺跡・中島宝満鶴遺跡・岩坂葉柳遺跡・岩坂樋ノ口遺跡(迫井手地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査)(大津町文化財報告第10集): 291-297.
13. 松下真実・他、: 熊本市吉原遺跡1次出土の弥生人骨。(投稿中)
14. 北条暉幸・他、1969: 熊本県上益城郡嘉島村剣原出土箱式石棺人骨について。熊本医学会雑誌、43: 892-894.
15. 一郎・他、1959: 熊本県玉名郡立願寺発掘の弥生式時代人骨について。熊本医学会雑誌、33: 2483-2491.
16. 鈴木 尚、1963: 日本人の骨。岩波書店、東京。



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



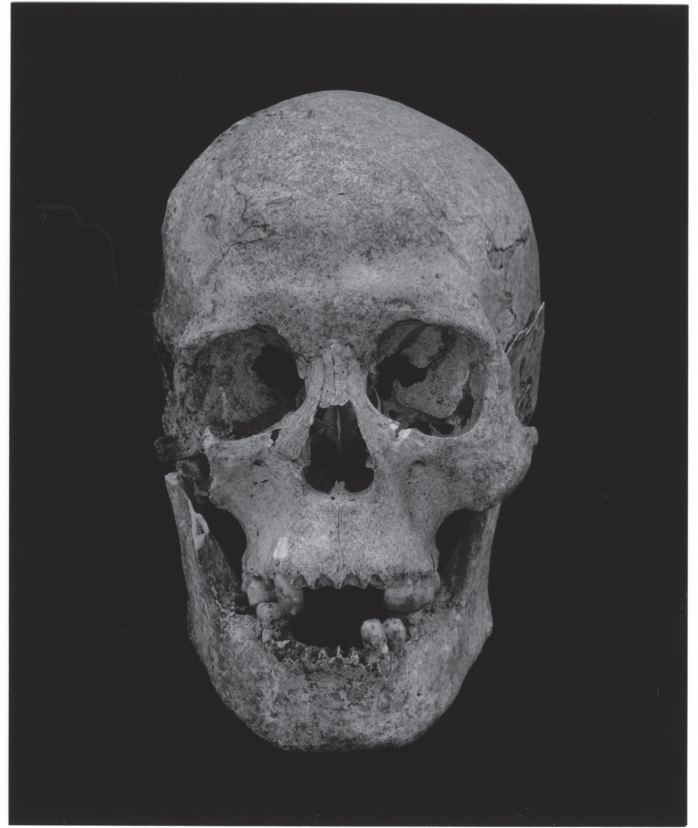
頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

塚原遺跡 S351(男性・熟年)

(The skeleton S351 excavated from the Tsukahara site, mature male)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

塚原遺跡 S363(男性・熟年)

(The skelton S363 excavated from the Tsukahara site, mature male)

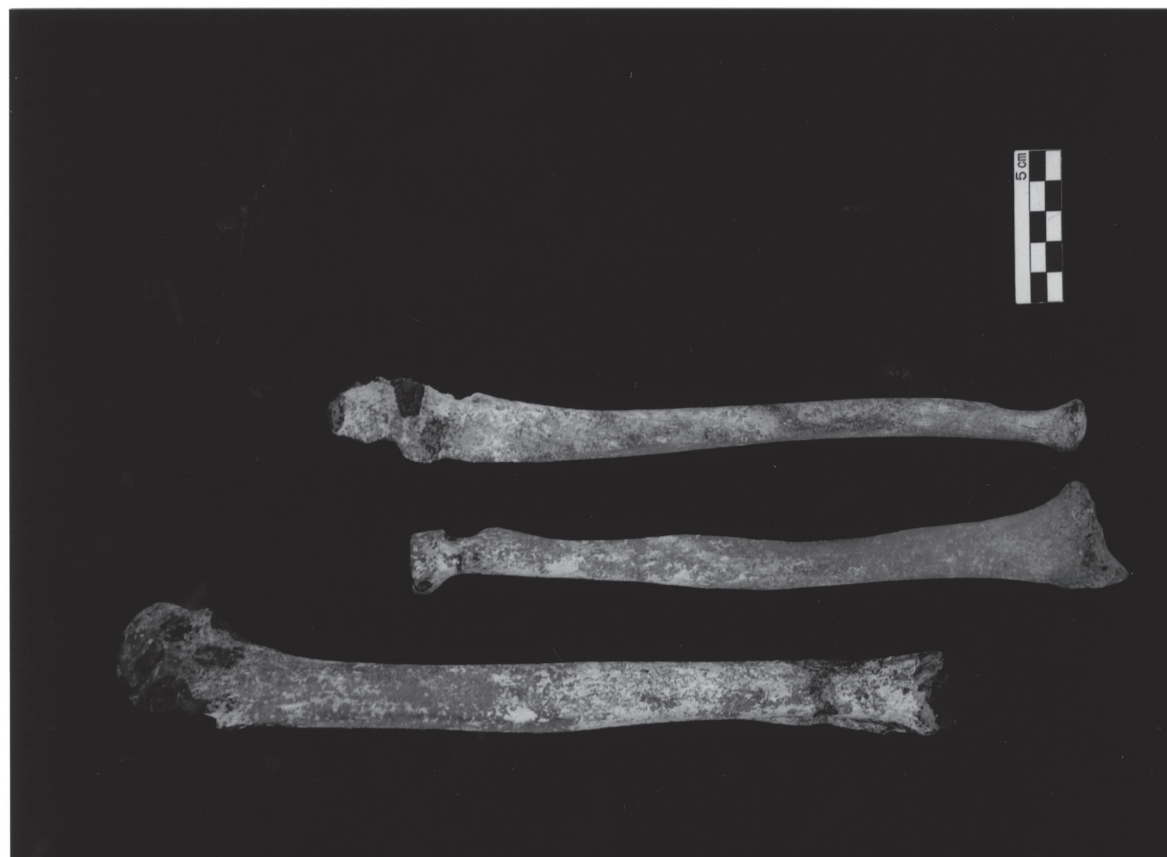


下肢骨 (Bones of the lower limb)

塚原遺跡 S351(男性・熟年)
(The skeleton S351 excavated from the Tsukahara site, mature male)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

塚原遺跡 S363 (男性・熟年)

(The skeleton S363 excavated from the Tsukahara site, mature male)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

表3 脳頭蓋計測値(男性、mm)(Table 3. Comparison of male calvarial measurements and indices)

	塚原		八ノ坪		長嶺		庵ノ前		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈狐塚		土井ヶ浜	
	弥生人 熊本県 玉名市 (松下)	S363 3号人骨	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 長崎県 平戸市 (松下)	弥生人 佐賀県 (牛島)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 福岡県 小都市 (松下)	弥生人 福岡県 小都市 (松下)	弥生人 山口県 下関市 (松下)	弥生人 山口県 下関市 (松下)		
1. 頭蓋最大長	175	185	178	178	178	176	176	176	4	(185.50)	15	184.73	13	183.00	24	183.71	18	182.61	62	184.10
8. 頭蓋最大幅	143	140	147	-	[138]	145	145	145	3	147.33	10	145.60	14	146.50	24	143.29	16	142.25	62	142.82
17. ハジオン・ブレグマ高	131	140	-	-	153	-	-	-	2	146.50	12	136.83	12	138.67	20	135.55	11	138.73	43	136.60
8/1 頭蓋長幅示数	81.71	75.68	82.58	-	[77.53]	82.95	82.95	82.95	3	(79.65)	10	78.45	12	78.05	21	77.93	14	77.90	60	77.74
17/1 頭蓋長高示数	74.86	75.68	-	-	85.96	-	-	-	2	77.94	11	74.18	11	76.02	16	74.52	9	75.51	42	74.34
17/8 頭蓋幅高示数	91.61	100.00	-	-	[110.87]	-	-	-	1	91.56	9	94.89	11	97.42	18	94.38	10	97.60	42	95.43
1+8+17/3 頭蓋モズルス	149.67	155.00	-	-	-	-	-	-	1	161.67	-	-	10	155.23	15	154.31	9	155.55	41	154.72
23. 頭蓋水平周	507	528	-	-	-	-	-	-	2	537.00	10	536.70	13	526.00	18	531.44	9	527.44	54	527.56
24. 横弧長	309	328	-	-	-	-	-	-	3	317.67	11	321.27	15	314.07	22	317.27	8	314.50	58	314.83
25. 正中矢状弧長	353	395	-	-	-	-	-	-	2	381.50	12	378.00	11	368.45	13	382.62	8	378.38	53	379.00

表4 顔面頭蓋(男性、mm、度)(Table 4. Comparison of male facial measurements and indices)

	塚原		長嶺		葉山		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈狐塚		土井ヶ浜	
	弥生人 熊本県 玉名市 (松下)	S363 3号人骨	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 熊本県 熊本市 (松下)	弥生人 長崎県 平戸市 (松下)	弥生人 佐賀県 (牛島)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 佐賀県 (松下)	弥生人 福岡県 小都市 (松下)	弥生人 福岡県 小都市 (松下)	弥生人 山口県 下関市 (松下)	弥生人 山口県 下関市 (松下)	
45. 頬骨弓幅	142	[136]	[140]	3	(139.00)	6	142.41	5	144.20	9	140.67	6	136.83	31	139.84	31	139.84	
46. 中顔幅	100	[106]	[100]	4	(105.50)	10	104.30	6	106.00	24	101.83	11	101.82	45	104.64	45	104.64	
47. 顔高	121	130	(110)	3	(114.50)	10	125.00	9	122.56	18	118.67	11	126.00	32	121.25	32	121.25	
48. 上顔高	71	77	(61)	2	(63.00)	13	74.54	10	71.60	16	66.63	15	71.93	40	69.33	40	69.33	
47/45 顔示数(K)	85.21	[95.59]	[76.39]	2	(81.05)	4	89.95	4	84.97	7	83.85	3	93.13	19	86.11	19	86.11	
48/45 上顔示数(K)	50.00	[56.62]	[42.36]	1	43.48	5	53.05	5	51.34	7	47.55	5	52.71	23	49.58	23	49.58	
47/46 顔示数(V)	121.00	[122.64]	[110.00]	3	(105.66)	8	121.58	5	117.47	17	116.55	6	124.38	26	115.66	26	115.66	
48/46 上顔示数(V)	71.00	[72.64]	[61.00]	2	(59.17)	10	71.65	6	69.58	15	64.46	10	69.44	32	66.20	32	66.20	
顔面モズルス	121.33	[120.67]	[121.33]	1	116.33	13	20.07	4	123.34	7	119.67	3	119.89	15	120.07	15	120.07	
50. 前眼窩間幅	17	20	-	2	17.50	16	20.13	12	18.42	21	18.82	15	17.33	47	18.51	47	18.51	
44. 両眼窩幅	96	96	-	3	105.00	11	102.50	9	100.33	22	100.23	11	98.18	42	101.12	42	101.12	
50/44 眼窩間示数	17.71	17.71	-	2	16.99	13	20.07	7	18.25	20	18.82	10	17.34	42	18.27	42	18.27	
51. 眼窩幅(右)	43	43	43	2	47.00	14	42.93	9	44.67	23	43.96	14	42.57	50	44.08	50	44.08	
(左)	44	44	-	3	(45.00)	14	42.93	9	44.67	23	43.96	14	42.57	50	44.08	50	44.08	
52. 眼窩高(右)	34	34	35	2	33.50	2	33.50	12	35.00	24	33.21	14	35.21	48	34.54	48	34.54	
(左)	34	35	-	2	(32.50)	13	35.25	12	36.08	24	33.54	18	34.89	49	34.35	49	34.35	
52/51 眼窩示数(右)	79.07	79.07	81.40	2	71.27	2	71.27	10	78.81	22	76.09	13	80.76	40	76.01	40	76.01	

表4 顔面頭蓋(男性、mm、度)(Table 4. Comparison of male facial measurements and indices)

	塚原		長嶺		葉山		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈孤塚		土井ヶ浜	
	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
54. 鼻幅	77.27	3	81.40	2	79.55	2	(73.08)	13	82.45	9	81.43	22	76.48	13	81.92	46	78.13	46
55. 鼻高	27	26	(23)	4	26	4	(27.00)	13	27.15	11	26.27	25	27.36	16	25.88	43	26.56	43
54/55 鼻示数	49.09	52	(44.23)	2	50.00	2	49.50	14	53.00	11	55.18	23	50.74	18	53.50	45	53.20	45
72. 全側面角	81	80	82	2	80	2	56.62	13	51.38	11	47.80	22	54.49	16	48.01	39	49.93	39
73. 鼻側面角	80	86	85	1	86	1	81.00	11	82.55	9	84.44	-	-	15	83.47	36	84.75	36
74. 齒槽側面角	77	64	82	1	64	1	85	11	87.73	10	87.20	-	-	15	87.00	36	85.64	36
							62	11	67.27	9	78.22	-	-	15	73.40	32	81.38	32

表5 鼻根部(男性、mm、度)(Table 5. Comparison of male nasal root measurements and indices)

	塚原		長嶺		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈孤塚		土井ヶ浜	
	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
50. 前眼窩幅	17	17	20	16	17	16	20.13	12	18.42	21	18.81	14	17.21	47	18.51	47
50A. 鼻根弧長	18	19	23	1	23	1	-	-	-	-	-	14	19.93	43	21.07	43
50/50A 鼻根彎曲示数	94.44	89.47	86.96	1	73.91	1	-	-	-	-	-	14	86.69	43	87.66	43
57. 鼻骨最小幅	9	7	11	17	10	17	8.53	12	7.42	21	8.52	16	7.94	48	8.06	48
44. 両眼窩幅	96	96	-	11	101	11	102.50	9	100.33	22	100.23	11	97.18	42	101.05	42
50/44 眼窩間示数	17.71	17.71	-	13	16.83	13	20.07	7	18.25	20	18.82	10	17.34	42	18.28	42
a. 前頭突起上幅(右)	18	11	10	2	9.50	2	-	-	-	-	-	17	9.18	42	11.02	42
(左)	19	10	9	2	9.05	2	-	-	-	-	-	15	9.47	48	10.52	48
b. 前頭突起水平傾斜角	111	89	-	2	78.50	2	-	-	-	-	-	9	86.33	40	95.78	40
c. G-N 投影距離	2	33	-	2	3.50	2	-	-	-	-	-	10	2.10	46	2.46	46
d. 鼻根角	148	-	146	2	(123.50)	2	-	-	-	-	-	9	145.56	26	140.65	26
e. C-R 距離	32	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	9	31.33	24	32.04	24
f. 垂線高	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	9	4.22	24	4.96	24
f/e 鼻根陷凹示数	12.50	-	13.33	1	22.73	1	-	-	-	-	-	9	13.63	26	16.17	26
77. 鼻頰骨角	156	142	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	145.56	41
Fa fmo 間距離	94	97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	100.46	41
Fh 垂線高	10	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	15.32	41
Fh/Fa 顔面扁平示数	10.64	17.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	15.24	41

安座間原 = 真志喜安座間原

表6 上腕骨計測値(男性、右、mm)(Table 6. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	塚原		長嶺		上ノ郷		庵ノ前		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈狐塚		土井ヶ浜	
	S351	S363	S-075	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
1. 上腕骨最大長	314	(左)	-	2	280.50	4	309.75	2	300.00	9	294.33	5	303.00	32	307.88					
5. 中央最大径	26	24	25	(左)	1	23	13	23.85	12	24.08	37	24.46	23	23.87	74	23.77				
6. 中央最小径	16	19	17	(左)	1	18	13	18.12	12	17.92	37	17.97	23	18.17	74	17.78				
7. 骨体最小周	63	65	64	(左)	1	65	13	67.15	9	65.89	37	64.57	22	63.32	73	64.53				
7(a). 中央周	73	71	69	(左)	1	70	3	76.67	12	69.92	35	71.00	23	69.87	74	69.45				
6/5 骨体断面示数	61.54	77.27	68.00	(左)	1	78.26	4	73.99	12	74.53	37	73.60	23	76.25	74	75.04				
7/1 長厚示数	20.70	(左)	-	2	24.80	4	22.00	2	21.26	9	22.32	5	20.78	32	20.86					

表7 大腿骨計測値(男性、右、mm)(Table 7. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	塚原		八ノ坪		梅ノ木		万葉寺出口		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈狐塚		土井ヶ浜		
	S351	S363	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	
1. 最大長	430	-	1	430	(左)	-	-	-	2	399.00	7	429.14	7	441.29	15	413.60	8	431.38	31	433.68	
4. 自然位転子長	-	-	-	-	-	-	-	-	2	373.00	3	399.67	1	404.00	6	393.50	6	393.50	18	408.00	
6. 骨体中央矢状径	30	24	3	28.33	(左)	1	25	34	6	29.17	13	29.86	25	30.40	41	28.85	23	29.96	83	29.51	
7. 骨体中央横径	31	26	3	26.33	(左)	1	32	28	6	25.83	13	27.62	26	28.12	41	26.07	23	27.52	84	26.79	
8. 骨体中央周	97	87	3	86.67	(左)	1	89	97	5	88.00	13	91.00	25	91.84	41	87.22	23	90.44	82	89.01	
9. 骨体上横径	35	31	1	31	(左)	1	33	31	6	31.00	14	32.11	22	32.23	42	30.62	24	31.75	83	32.16	
10. 骨体上矢状径	26	29	1	25	(左)	1	24	32	6	24.67	14	28.50	21	26.62	42	24.83	24	26.29	82	25.77	
8/2. 長厚示数	22.77	-	1	20.66	(左)	-	-	-	2	21.63	5	22.45	3	21.23	15	21.13	6	21.97	31	20.71	
6/7 骨体中央断面示数	96.77	92.31	3	107.64	(左)	1	78.13	121.43	6	112.99	13	105.91	25	108.71	41	111.72	23	109.22	83	110.44	
10/9 上骨体断面示数	74.29	93.55	90.00	1	80.65	(左)	1	72.73	103.23	6	79.65	14	88.81	21	82.50	42	81.34	24	82.96	82	80.35

表8 脛骨(男性、右、mm)(Table 8. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	塚原		藤ノ前		万葉寺出口		長嶺		八ノ坪		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈孤塚		土井ヶ浜	
	S351	S363	10号人骨	1号人骨	3号人骨	3号人骨	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人
脛骨全長	-	-	-	-	-	-	2 331.50	3 341.00	3 341.00	3 355.67	12 339.58	6 336.83	21 344.95									
1a. 脛骨最大長	-	-	-	-	-	1 344	5 348.20	5 348.20	5 358.60	14 347.86	9 345.44	20 352.85										
8. 中央最大径	33	29	31	39	33	1 27	6 31.83	12 32.04	20 30.95	35 31.26	25 31.44	77 30.65										
9. 中央横径	21	21	25	24	25	1 20	6 21.50	12 22.96	20 22.45	38 21.29	25 22.36	77 21.70										
10. 骨体周	86	81	88	98	91	1 74	5 84.20	12 89.92	20 84.20	34 82.85	25 85.04	77 82.86										
10b. 最小周	79	76	79	86(左)	81	-	6 77.67	12 80.75	11 76.55	34 75.35	27 76.41	69 75.93										
9/8. 中央断面示数	63.64	72.41	80.65	61.54	75.76	1 74.07	6 67.83	12 71.62	20 72.41	34 68.03	25 71.34	77 71.06										
10b/1. 長厚示数	-	-	-	-	-	2 23.53	3 25.45	12 21.88	3 23.32	12 21.88	6 23.03	20 21.79										

表9 推定身長値(男性、右、cm)(Table 9. Comparison of estimated male stature) この表は体数で平均値を算出、両側あるものは右側を使用

	塚原		長嶺		藤ノ前		八ノ坪		葉山		根獅子		三津		二塚山		大友		横隈孤塚		土井ヶ浜	
	S351	S363	3号人骨	10号人骨	10号人骨	10号人骨	ST-144	4号人骨	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人	弥生人
Pearson の式	161.51	-	-	-	-	-	-	-	2 151.82	2 161.33	2 161.33	2 161.33	2 161.33	2 161.33	2 160.34	13 161.78	5 163.38	8 157.79	37 159.48			
橈骨	-	162.14	168.35	161.49	-	-	162.47	160.64	2 156.32	7 161.98	22 159.75	14 162.00	43 163.52									
大腿骨	162.15	-	-	-	162.15	160.64	2 156.32	7 161.98	22 159.75	14 162.00	43 163.52											
脛骨	-	-	-	-	-	-	161.11	2 158.26	7 162.13	18 162.18	16 161.42	28 161.05										
藤井の式	161.77	-	-	-	-	-	-	2 151.51	3 159.65	15 154.06	8 157.58	37 158.98										
橈骨	-	159.56	165.69	158.91	-	-	160.62	159.14	2 158.75	7 163.90	22 157.94	14 161.05	43 162.92									
大腿骨	161.11	-	-	-	161.06	159.14	2 153.46	7 163.90	22 157.94	14 161.05	43 162.92											
脛骨	-	-	-	-	-	-	159.71	2 156.75	7 160.93	18 160.72	16 159.89	28 161.48										

表 10 脳頭蓋 (男性、mm)(Calvaria)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1.	175	185
8.	143	140
17.	131	140
8/1	81.71	75.68
17/1	74.86	75.68
17/8	91.61	100.00
1+8+17/3	149.67	155.00
5.	100	94
9.	92	93
10.	118	125
11.	128	126
12.	112	110
13.	110	109
7.	36	36
16.	30	29
16/7	83.33	80.56
23.	507	528
24.	309	328
25.	353	395
26.	122	140
27.	119	127
28.	112	128
29.	109	122
30.	104	116
31.	95	107
29/26	89.34	87.14
30/27	87.39	91.34
31/28	84.82	83.59

表 11 顔面頭蓋 (男性、mm、度)(Facial skeleton)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
40.	顔長	101
41.	側顔長	77
42.	下顔長	113
43.	上顔幅	101
45.	頬骨弓幅	142
46.	中顔幅	100
47.	顔高	121
48.	上顔高	71
47/45	顔示数 (K)	85.21
48/45	上顔示数 (K)	50.00
47/46	顔示数 (V)	121.00
48/46	上顔示数 (V)	71.00
40+45+47/3	顔面モズルス	121.33
50.	前眼窩間幅	17
44.	両眼窩幅	96
50/44	眼窩間示数	17.71
51.	眼窩幅 (右)	43
	(左)	43
52.	眼窩高 (右)	34
	(左)	34
52/51	眼窩示数 (右)	79.07
	(左)	77.27
54.	鼻幅	27
55.	鼻高	55
54/55	鼻示数	49.09
55(1).	梨状口高	34
56.	鼻骨長	24
57.	鼻骨最小幅	9
57(1).	鼻骨最大幅	17
60.	上顎歯槽長	54
61.	上顎歯槽幅	63
62.	口蓋長	47
63.	口蓋幅	40
64.	口蓋高	10
61/60	上顎歯槽示数	116.67
63/62	口蓋示数	85.11
64/63	口蓋高示数	25.00
72.	全側面角	81
73.	鼻側面角	80
74.	歯槽側面角	77

表 12 鼻根部 (男性、mm、度)(Nasal root)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
50.	前眼窩間幅	17
50A.	鼻根横弧長	18
50/50A	鼻根彎曲示数	94.44
57.	鼻骨最小幅	9
44.	両眼窩幅	96
50/44	眼窩間示数	17.71
a.	前頭突起上幅 (右)	18
	(左)	19
b.	前頭突起水平傾斜角	111
c.	G-N 投影距離	2
d.	鼻根角	148
e.	G-R 距離	32
f.	垂線高	4
f/e	鼻根陥凹示数	12.50
77.	鼻頰骨角	156
Fa	fmo 間距離	94
Fh	垂線高	10
Fh/Fa	顔面扁平示数	10.64

表 13 下顎骨 (男性、mm、度)(Mandibula)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
65	-	-
65(1).	-	-
66	-	-
67	50	50
68	-	-
68(1).	-	-
69	34	38
69(1).	32	38
69(2).	33	37
70	29	-
70(1).	-	68
70(2).	-	72
70(3).	49	57
71(1).	-	18
71	-	36
71a.	44	38
79	44	38
66/65	-	119
68/65	-	-
68(1)/65	-	-
69(2)/69	-	-
71/70	85.29	-
71a/70(2)	89.80	55.88
70(3)/71(1)	-	36.52
	-	66.67
	-	-
	-	50.00

表 14 肩甲骨 (男性、mm)(Scapula)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
12.	-	35
13.	-	28
14.	29	28
13/12	-	80.00
14/12	-	11.43

表 15 鎖骨 (mm)(Clavicula)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1.	-	-
2a	-	30
2(1)	-	-
4.	-	10
5.	12	11
6.	13	15
6/1	13	13
2a/1	-	-
4/5	-	66.67
2(1)/1	92.31	84.62

表 16 上腕骨 (mm) (Humerus)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1. 上腕骨最大長 (右) (左)	-	-
2. 上腕骨全長 (右) (左)	314	-
3. 上端幅 (右) (左)	309	-
3(1). 横上径 (右) (左)	-	-
4. 下端幅 (右) (左)	-	-
5. 中央最大径 (右) (左)	26	22
6. 中央最小径 (右) (左)	26	17
7. 骨体最小周 (右) (左)	63	63
7(a). 中央周 (右) (左)	73	67
8. 頭周 (右) (左)	72	-
9. 頭最大横径 (右) (左)	-	-
10. 頭最大矢状径 (右) (左)	-	-
11. 滑車幅 (右) (左)	-	-
12. 小頭幅 (右) (左)	18	-
12(a). 滑車幅および小頭幅 (右) (左)	17	-
13. 滑車深 (右) (左)	41	-
14. 肘頭窩幅 (右) (左)	-	-
15. 肘頭窩深 (右) (左)	28	-
6/5 骨体断面示数 (右) (左)	61.54	77.27
7/1 長厚示数 (右) (左)	65.38	-
	20.70	-

表 17 橈骨 (男性、mm) (Radius)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1. 最大長 (右) (左)	-	233
1b. 平行長 (右) (左)	-	232
2. 機能長 (右) (左)	-	219
3. 最小周 (右) (左)	218	-
4. 骨体横径 (右) (左)	42	45
4a. 骨体中央横径 (右) (左)	16	18
4(1). 小頭横径 (右) (左)	14	17
4(2). 頸横径 (右) (左)	23	-
5. 骨体矢状径 (右) (左)	11	13
5a. 骨体中央矢状径 (右) (左)	12	13
5(1). 小頭矢状径 (右) (左)	11	15
5(2). 頸矢状径 (右) (左)	15	45
5(3). 小頭周 (右) (左)	16	-
5(4). 頸周 (右) (左)	73	-
5(5). 骨体中央周 (右) (左)	42	48
5(6). 骨下端幅 (右) (左)	44	-
3/2 長厚示数 (右) (左)	-	20.55
5/4 骨体断面示数 (右) (左)	68.75	72.22
5a/4a 中央断面示数 (右) (左)	68.75	76.47
	85.71	-
	73.33	-

表 18 尺骨 (mm) (Ulna)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1. 最大長 (右) (左)	-	-
2. 機能長 (右) (左)	(255)	225
2(1). 肘頭尺骨頭長 (右) (左)	249	-
3. 最小周 (右) (左)	-	36
6. 肘頭幅 (右) (左)	38	-
6(1). 上幅 (右) (左)	27	-
7. 肘頭深 (右) (左)	26	-
8. 肘頭高 (右) (左)	34	-
11. 尺骨矢状径 (右) (左)	32	-
12. 尺骨横径 (右) (左)	27	-
S 中央最小径 (右) (左)	23	11
L 中央最大径 (右) (左)	13	16
C 中央周 (右) (左)	18	16
	16	47
	53	47
	47	16.00
3/2 骨体断面示数 (右) (左)	15.26	-
S/L 中央断面示数 (右) (左)	72.22	68.75
	75.00	-
	72.22	68.75
	75.00	-

表 19 大腿骨 (男性、mm)(Femur)

	塚原			塚原	
	S351 男性	S363 男性		S351 男性	S363 男性
1. 最大長(右)	430	-	-	-	-
(左)	433	-	-	-	-
2. 自然位全長(右)	426	-	-	-	-
(左)	429	-	-	-	-
3. 最大軀子長(右)	-	-	358	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4. 自然位軀子長(右)	-	-	330	326	-
(左)	-	-	-	-	-
6. 骨体中央矢状径(右)	30	24	-	-	-
(左)	29	25	-	-	-
7. 骨体中央横径(右)	31	26	-	-	-
(左)	29	27	-	-	-
8. 骨体中央周(右)	97	87	-	-	-
(左)	91	88	-	-	-
9. 骨体上横径(右)	35	31	-	-	-
(左)	34	32	-	-	-
10. 骨体上矢状径(右)	26	29	-	-	-
(左)	26	30	-	-	-
15. 頸垂直径(右)	-	-	55	-	-
(左)	36	-	-	-	-
16. 頸矢状径(右)	-	-	38	-	-
(左)	29	-	39	-	-
17. 頸周(右)	-	-	33	29	-
(左)	105	-	31	30	-
18. 頭垂直径(右)	48	-	34	33	-
(左)	-	-	-	-	-
19. 頭横径(右)	48	-	36	32	-
(左)	-	-	21	21	-
20. 頭周(右)	48	-	21	21	-
(左)	-	-	24	24	-
21. 上顆幅(右)	152	-	26	25	-
(左)	-	-	86	81	-
(80)	-	-	84	80	-
8/2 長厚示数(右)	22.77	-	95	94	-
(左)	20.98	-	100	92	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	96.77	92.31	79	76	-
(左)	100.00	92.59	77	76	-
10/9 上骨体断面示数(右)	74.29	93.55	63.64	72.41	-
(左)	76.47	93.75	67.74	70.00	-
			70.59	72.73	-
			72.22	78.13	-
			-	-	-
			-	-	-

表 20 脛骨 (mm)(Tibia)

	塚原			塚原	
	S351 男性	S363 男性		S351 男性	S363 男性
1. 脛骨全長(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
1a. 脛骨最大長(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
1b. 脛骨長(右)	-	-	358	-	-
(左)	-	-	-	-	-
2. 顆距間距離(右)	-	-	330	326	-
(左)	-	-	-	-	-
3. 最大上端幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
3a. 上内関節面幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
3b. 上外関節面幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4a. 上内関節面深(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4b. 上外関節面深(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
6. 最大下端幅(右)	-	-	55	-	-
(左)	-	-	-	-	-
7. 下端矢状径(右)	-	-	38	-	-
(左)	-	-	39	-	-
8. 中央最大径(右)	-	-	33	29	-
(左)	-	-	31	30	-
8a. 栄養孔位最大径(右)	-	-	34	33	-
(左)	-	-	-	-	-
9. 中央横径(右)	-	-	36	32	-
(左)	-	-	21	21	-
9a. 栄養孔位横径(右)	-	-	21	21	-
(左)	-	-	24	24	-
10. 骨体周(右)	-	-	26	25	-
(左)	-	-	86	81	-
10a. 栄養孔位周(右)	-	-	84	80	-
(左)	-	-	95	94	-
10b. 最小周(右)	-	-	100	92	-
(左)	-	-	79	76	-
9/8. 中央断面示数(右)	-	-	63.64	72.41	-
(左)	-	-	67.74	70.00	-
9a/8a. 栄養孔位断面示数(右)	-	-	70.59	72.73	-
(左)	-	-	72.22	78.13	-
10b/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-

表 21 腓骨 (男性、mm)(Fibula)

	塚原			塚原	
	S351 男性	S363 男性		S351 男性	S363 男性
1. 最大長(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
2. 中央最大径(右)	-	-	18	17	-
(左)	-	-	16	-	-
3. 中央最小径(右)	-	-	11	12	-
(左)	-	-	12	-	-
4. 中央周(右)	-	-	50	48	-
(左)	-	-	46	-	-
4a. 最小周(右)	-	-	37	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4b. 頸横径(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4c. 頸矢状径(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4(1). 上端幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4(1a). 上端矢状幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4(2). 下端幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
4(2a). 下端矢状幅(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-
3/2 中央断面示数(右)	-	-	61.11	70.59	-
(左)	-	-	75.00	-	-
4 a / 1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-

表22. 膝蓋骨 (男性、mm)(Patella)

	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
1. 最大高 (右)	-	-
(左)	-	-
2. 最大幅 (右)	-	-
(左)	-	-
3. 最大厚 (右)	-	-
(左)	-	-
4. 関節面高 (右)	-	-
(左)	-	-
5. 内関節面幅 (右)	-	-
(左)	-	-
6. 外関節面幅 (右)	-	27
(左)	-	27
1/2 膝蓋骨高幅示数 (右)	-	-
(左)	-	-

表23. 推定身長値 (cm)(Stature)

Peasonの式	塚原 S351 男性	塚原 S363 男性
上腕骨 (右)	161.51	-
(左)	-	-
橈骨 (右)	-	162.14
(左)	-	-
大腿骨 (右)	162.15	-
(左)	162.71	-
脛骨 (右)	-	-
(左)	-	-
藤井の式	161.77	159.56
上腕骨 (右)	-	-
(左)	-	-
橈骨 (右)	-	-
(左)	-	-
大腿骨 (右)	161.11	-
(左)	161.81	-
脛骨 (右)	-	-
(左)	-	-

表24. 形態小変異 (Non-metric crania variants)

	塚原 S351 男性		塚原 S363 男性	
	右	左	右	左
1. Medial palatine canal	-	-	-	-
2. Pterygospinous foramen	-	-	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	-	-	+	-
4. Clinoid bridging	/	/	/	/
5. Condylar canal absent	+	-	-	-
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(>1mm)	-	-	-	-
7. Jugular foramen bridging	+	-	-	-
8. Precondylar tubercle	-	-	-	-
9. Supra-orbital foramen (incl. frontal foramen)	-	-	-	-
10. Accessory infraorbital foramen	+	-	-	-
11. Zygofacial foramen absent	+	-	/	-
12. Aural exostosis	-	-	-	-
13. Metopism	-	-	-	-
14. Os incae	-	-	-	-
15. Ossicle at the lambda	-	-	-	-
16. Parietal notch bone	-	-	-	-
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	-	-	/	-
18. Asterion ossicle	-	-	-	-
19. Occipitomastoid ossicle	-	-	-	-
20. Epipteric ossicle	-	-	-	-
21. Frontotemporal articulation	-	-	-	-
22. Bisterrionic suture(>10mm)	-	-	-	-
23. Mylohyoid bridging	/	-	-	-
24. Accessory mental foramen	-	-	-	-
25. Mandibular torus	-	-	+	-
26. 滑車上孔 (上腕骨)	-	-	-	-

第V章 まとめ

今回の調査結果を踏まえた知見や問題点を挙げて、時代ごとに記述してまとめとしたい。

縄文時代

明らかに縄文時代に帰属する遺構は見つからなかったが、包含層あるいは後の時代の遺構から少量の縄文土器が出土した。今回の調査では、阿高式及びその後続型式と見られる土器が多く出土している。暗褐色や黄橙色の色調とやや厚手の器壁で、口唇部から胴部にかけて凹線文と凹点を施すものが主体となっている。また、底面にクジラ脊椎骨の圧痕を持つものや滑石を混入させるものがある。同じ低位段丘の東に位置する尾崎貝塚でも阿高式土器が得られており、活動範囲の一端が示される。

なお、この報告では石器を縄文時代の図版に掲載していない。石器を主に弥生時代中期としたのは、縄文土器の出土量と比較して大きな隔たりがあり、逆に弥生中期遺構から集中的に出土することなどからである。しかし、そもそも石器で時代を分離させることはほとんど不可能であり、本来縄文時代に製作・使用された石器を弥生時代のものとして報告している可能性があることは当然考慮しておかねばならない。

弥生時代

弥生時代中期初頭においては、調査区の北側に竪穴住居、大型建物、土坑などが、多くは切り合い関係を持って作られている。竪穴住居は、直径6 m前後の円形で、中央に炉跡があり柱穴は2本・4本・環状に配置されたものなど数種の構造が認められる。硬化面はいずれの住居跡でも確認されていない。また竪穴遺構としたものがあるが、これらは住居跡より一回り小さく、平面プランは円形または長方形で、明確な炉跡や柱穴が確認できない一群である。出土遺物は住居跡より少ない傾向にあり、その性格は詳らかに出来ていない。

隣接する3基の円形大型建物は、直径が9.6～11 mにおよび、中央に楕円形の土坑（中央土坑）を持ち、さらに長軸側の両方にピットを掘る例が多い。これにより、松菊里型住居としての要件に適うものと見ている。柱穴は環状に取り巻くよう配置される。この柱穴は、柱を埋める際にV層（岱明層）の砂礫混じり土を利用しているため、非常に固く締まっている。

前述した竪穴遺構や円形大型建物は、生活の場としてよりむしろ石器製作の工房（作業場）など別の目的があって作られたと考えられる。特にS111・S172・S202では、安山岩や黒曜石による石器（主に石鏃・石鏃未製品）・剥片が大量に出土し、また調査区北側範囲における包含層出土分（報告書未掲載）も含めると製品・未製品のみで450点を越える。なお、磨石・台石類も小型品ほどの偏りはないものの、約50点が出土し、石器分布の中心域となっている。

土坑は、大小様々な大きさ・形態・深さのもの94基を検出した。多様な出土遺物があり、廃棄土坑・

貯蔵穴など一部は機能を推定できるものもあるが、大半は用途や機能を特定できていない。

溝 S80 は、調査区中央付近にあって、北側の生活域と南側の墓域を分ける区画溝であると想定している。調査地一帯の地形を観察すると、南は縄文期の旧海岸線と想定される段丘崖、北は旧菊池川流路と考えられる谷に挟まれており、S80 は北東から南西に延びる段丘を断ち切るような位置と方向に掘られている。しかし幅約 5m、深さ約 2.5 m、断面 V 字形の溝に単なる区画のみの機能は考えにくく、防御的な役割を有した可能性も想定される。

これらの遺構及び包含層からは、主に弥生時代中期初頭の城ノ越式の土器が出土しているが、それに後続し、筑後地域などに分布するとして提唱された「筑後型甕」と見られる資料の出土も確認できた。筑後型甕は、城ノ越式と同様に口縁を断面三角形に肥厚させ外見上よく似たものとなるが、接合の手法に違いが見られ、さらに須玖 I 式にも併行する時期とされる甕形土器である。ただし、在地系である黒髪式土器が出土していないため、弥生中期初頭から黒髪式土器成立までの土器様相は不明確である。

甕棺墓は、墓坑のみと見られる遺構も含め 21 基を検出した。S320(G-5 グリッド)、S349(F-6 グリッド) の 2 基が例外的な出土であるが、他は G-7 から I-9 グリッドにかけて幅 10 m、東北東—西南西の方角で帯状の範囲に集中した甕棺葬が認められる。この範囲は東西 2 つの集団に分ける事が出来る。東側は大型棺を中心に数基の甕棺墓が南北 2 列に配置され、主軸の方向も揃えられる。さらに東端には今回の調査では唯一となる石蓋土坑墓が列の内側に作られる。頭位が判明したものは西南西に近い方角を保っており、うち 3 基が東側の北列に属している。一方西側には、日常容器の甕を棺に転用した例や、墓坑自体が小規模のものが多く、主軸方向でも若干のばらつきが認められる。

全体の特徴は、合口でほぼ水平の状態に埋設され、小型の棺が納められた墓坑では棺に合わせた最小限の掘り込みが行われている。墓坑埋土と IV 層との判別が困難であったため、墓坑の上部構造は明確でない。

甕棺については、沈線で装飾を施す例が 2 個体確認された。S363 上棺は、口縁を打ち欠いた甕の頸部に浅い線を刻んでいる。縦・斜め方向に線刻する部分と空白部分を設け、これを組み合わせている。S373 上棺は口縁平坦面に連続して X 字状に沈線を刻んでいる。玉名市内では、東南大門遺跡で小児用甕棺 (K-34 上棺) の口唇部に線刻で鋸歯文が施された資料があり、福岡県大牟田市羽山台遺跡や田隈石佛遺跡では、X 字状の沈線を施した甕棺が出土したようである。

また、4 基の甕棺墓において人骨を検出し、うち 2 体 (S351・S363) については、保存状態が良好であったため自然科学分析を実施した。S351・363 の人骨ともに、高・狭顔、高身長であり、北部九州タイプの弥生人との分析結果が出ている。とくに S363 人骨は、顔高、上顔高ともに著しく高く、熊本県内や北部九州・山口の弥生人平均値を越えるもので、北部九州・山口でもこのような例は少ないとのことである。S363 上棺に文様が見られることも相まって注目しておきたい。

弥生時代後期の遺構としては、調査区北側における竪穴住居が主体となる。長方形で東西方向に長く、東・西の壁際にベッド状遺構を持つ。出土土器のうち、甕は頸部で屈曲して胴部に張り

があり脚が付く器形で、調整はハケメとナデ主体で外器面にタタキが見られないことから、後期中頃のものと考えられる。

一方調査区南側では、弥生時代終末期の遺構を検出した。溝 S136 では、弥生時代から中世にかけての遺物が見られ、比較的長期間を経て埋没したと考えられる。底面で舟形土器、また上層ではあるが土製模造鏡が見つかっており、これら祭祀に関わると考えられる遺物の出土は興味深い。S141 では、弥生時代後期末と見られる土器がまとまった形で出土した。セット関係は、長胴の甕、複数の口縁形態が見られる壺、坏部に屈曲を持ち口縁が大きく広がる高坏などからなり、甕と高坏の比率が高い。特に高坏は、脚の高低2種が認められるものの、坏部については、小ぶりな下半と屈曲から直線的に大きく広がる口縁で、かなり斉一性が高い。菊池川流域の編年観ではうてな B 期に属すると見られる。

古墳時代

古墳前期の竪穴住居が見つかった G-6 グリッド周辺は、検出面であるⅣ層と遺構内埋土の色調が酷似し、また検出面から床までが深いことから、平面プランや壁面の把握が困難な状況であった。このため複数のサブトレンチを設定しながら床面等の確認に努めたが、掘りすぎてしまった箇所が複数ある。弥生時代の竪穴住居と比べて、その形状や構造にほとんど変化はなく、支柱穴2本と壁際のベッド状遺構を持ち、中央に炉跡を有する。

S166・S191・S192の各竪穴住居からは、土師器が大量に出土している。S191では、床面に近い位置で出土しており、住居廃絶に近い頃土器片もまとめて廃棄されたものと考えられる。対してS166・S192は、床面からある程度離れた位置で見つかっており、住居としての利用と出土土師器には多少の時間差を見ておかねばならない。また、確認された14基の竪穴住居のうち、9基から鉄器（不明鉄片含む）が出土していることは注目される。特にS197からは、床面に近いものも含め70点が出土しており、他の竪穴住居とくらべて特筆して多い。また、S360からは、石製勾玉2点、ガラス玉1点が出土している。このように、当該期の竪穴住居からは様々な遺物が出土しており、当集落の性格を考える上で重要視される。

古墳時代中期の遺構としては、6基の古墳（円墳）を確認した。そのうちの4基は、石棺系石室を主体部としており、菊池川下流域では初の発見例となった。これまで、菊池川下流域は当該石室の空白地帯であったが、菊池川中流域の山鹿市（旧鹿央町）広諏訪原2号石室や、有明海沿岸の福岡県大牟田市石亀城古墳、宇土市小松2号墳及びマブシ古墳群3号の間を埋めるものとして注目しておきたい。

古墳主体部から副葬品として出土したのは鉄器及び玉類であるが、すべての石室が盗掘もしくは破壊を受けており、大半は元位置を留めないと考えられる。S121では、鉄器（刀子・鉄鏃）及び滑石製の玉類（白玉・棗玉）が出土したが、白玉だけで271点の出土があり、6基の中では群を抜いている。S167は、主体部も含め今回確認した6基の古墳中最大の規模を誇り、出土した副葬品（鉄鏃5点・ガラス玉34点）の内容からも、当古墳群の中心をなすものと考えられる。

S168 では、周溝内から祭祀行為を窺わせる土師器の壺や高坏を検出している。これらの土師器は、その形態から 5 世紀中頃のものと考えられ、当該古墳群の築造時期を考える上でも重要視される。S244、S252、S308 については、周溝に設けられた陸橋を確認しているが、主体部（石室）の長短どちらかの軸に相對しており、埋葬主体部に關連して設けられたようである。今回確認されたいずれの古墳も、後世の耕作地化などの影響により墳丘部は残存しておらず、周溝及び主体部も削平を受けていると考えられるが、各古墳とも周溝内の直径が 10 m 程度であり、低位段丘面上の起伏が少ない立地でもあることから、墳丘は低い作りであったと想定している。

中世

溝 S79 は、弥生時代中期の溝 S80 の北側で一部重複し、並行して所在している。直線的な溝で、南北方向に延び、南側は調査区外へおよんでいる。溝の壁や底面の一部には、V 層（岱明層）中に取り込まれた 1 m 前後の大石が露頭し、砂質の強い箇所では崩落の危険性もあることから、排水機能や通路として利用するには不向きである。また、同じ時期に利用していたかはっきりしないものの、調査区南端付近には S138・S146 の溝が直線、S145 が L 字状に掘削され、土地を区切るように配されているようにも見える。

参考文献

- 熊本県教育会玉名郡支会編纂 1923『熊本県玉名郡誌』
- 永見秀徳 2016「弥生時代中期前半における筑後型甕の設定」『魂の考古学 豆谷和之さん追悼論文編』
- 山田元樹 2002『田隈柿添遺跡』大牟田市文化財調査報告書第 55 集 大牟田市教育委員会
- 三好栄太郎ほか 2007『考古学研究室報告』第 42 集 熊本大学文学部考古学研究室
- 田中康雄 2000『東南大門遺跡』玉名市文化財調査報告第 8 集 玉名市教育委員会
- 村田勉 2004『広諏訪原遺跡』鹿央町文化財調査報告書 鹿央町教育委員会
- 兵谷有利 中村安宏 2011『玉名市遺跡地図』玉名市文化財調査報告第 26 集 玉名市教育委員会
- 野田拓治 1983「古式土師器の成立と展開」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』
- 高木正文 1979「鹿本地方の弥生後期土器」『古文化談叢』第 6 集

第2表-1 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グランド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第5図 1	縄文土器 深鉢	H-9・10	-	Ⅲ層	(3.9)	-	-	ナデ, 組織痕	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	暗黄褐 (10YR6/6)	細かい長石・角閃石; やや多	
第5図 2	縄文土器 深鉢	H-8	-	Ⅲ層	(4.1)	-	-	組織痕	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	細かい長石・石英; やや多	
第5図 3	縄文土器 鉢か	K-16	S80	覆土中位	(8.5)	-	-	押型文	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	黒褐色 (10YR3/1)	細かい長石・石英・褐 色粒; 少	
第5図 4	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅳ層上面	(2.6)	-	-	楕円押型文	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	細かい長石・石英・角 閃石・褐色粒; 少	5・6 と同一個体。
第5図 5	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅳ層上面	(3.3)	-	-	楕円押型文	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・石英・角 閃石・褐色粒; 少	4・6 と同一個体。
第5図 6	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅳ層上面	(5.2)	-	-	楕円押型文	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	4・5 と同一個体。
第5図 7	縄文土器 深鉢	F-6	-	Ⅲ層	(3.4)	-	-	口縁端; 刻目, 口 縁; 沈線文	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい石英・角閃石; やや多	
第5図 8	縄文土器 深鉢	P-20	-	Ⅲ層	(3.9)	-	-	口縁端; 連点文, 口縁; ナデ, 凹線文	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	細かい滑石・雲母・角 閃石; やや多	
第5図 9	縄文土器 深鉢	N-15	-	Ⅲ層	(9.0)	-	-	貝殻条痕, 凹線 文	貝殻条痕, ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/4)	細かい長石・石英・滑 石; やや多, 角閃石; 少	
第5図 10	縄文土器 深鉢	N-15	-	Ⅱ・Ⅲ層	(7.2)	-	-	凹線文, 条痕	ナデ, 指頭圧痕, 条痕か	明赤褐 (5YR5/6)	橙 (5Y6/6)	細かい長石・石英; 多	
第5図 11	縄文土器 深鉢	O-15	-	Ⅲ層	(2.7)	-	-	凹線文	ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい長石・石英・角 閃石・滑石; 少	
第5図 12	縄文土器 深鉢	N-15	-	Ⅲ層	(3.6)	-	-	凹線文	ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	細かい滑石; 多, 褐色・ 黒色粒; 僅	
第5図 13	縄文土器 深鉢	N-15	-	Ⅲ層	(5.2)	-	-	凹線文, 擦痕	ナデ, 指頭圧痕	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	細かい長石・石英; やや 多, 角閃石・滑石; 僅	
第5図 14	縄文土器 深鉢	N-15	-	Ⅲ層	(2.7)	-	-	凹線文, 条痕か	ナデ, 指頭圧痕	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい長石・石英・角 閃石・滑石; 少	
第5図 15	縄文土器 深鉢	N-20	-	Ⅲ層	(3.5)	-	-	ナデ, 凹線文	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	細かい石英・角閃石・ 滑石; 少	
第5図 16	縄文土器 深鉢	N-21	-	Ⅱ・Ⅲ層	(3.9)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	褐 (7.5YR4/3)	細かい長石・角閃石・ 滑石; 多	
第5図 17	縄文土器 深鉢	G-6	-	Ⅱ層	(5.8)	-	-	凹線文, 条痕	条痕, 指頭圧痕	褐 (7.5YR4/4)	明赤褐 (5YR5/6)	細かい滑石; やや多, 長 石・石英; 少	
第5図 18	縄文土器 深鉢	I-7	-	Ⅲ層	(3.4)	-	-	口縁端; 爪形刻 目, 口縁; 凹線文	ナデ	にぶい橙 (7.5YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	滑石; 非常に多	
第5図 19	縄文土器 深鉢	I-8	-	Ⅲ層	(4.7)	-	-	凹線文	ナデ, 指頭圧痕	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい長石・石英・滑 石; やや多	
第5図 20	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅱ・Ⅲ層	(2.9)	-	-	口縁端; 刻目, 口 縁; 凹線文	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい滑石; 多, 長石・ 褐色粒; 僅	
第5図 21	縄文土器 深鉢	E-5	-	Ⅲ層	(4.5)	-	-	凹線文	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	細かい滑石; 多, 褐色粒; 少	
第5図 22	縄文土器 深鉢	E-5	-	Ⅲ層	(3.5)	-	-	爪形文, 凹線文	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	細かい滑石; 多, 長石; 少	
第5図 23	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅱ・Ⅲ層	(2.1)	-	-	凹線文	ナデか	褐 (7.5YR4/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい長石・滑石; 少	
第5図 24	縄文土器 深鉢	G-6	-	Ⅱ・Ⅲ層	(2.7)	-	-	ナデ, 凹線文	条痕か	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	細かい滑石; 少, 石英・ 褐色粒; 少	
第5図 25	縄文土器 深鉢	G-6	-	Ⅱ・Ⅲ層	(2.5)	-	-	凹線文 (不明瞭)	ナデか (不明瞭)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	灰褐 (5YR4/2)	細かい長石・石英・角 閃石; 多	
第5図 26	縄文土器 深鉢	G-6	-	Ⅱ・Ⅲ層	(4.3)	-	-	沈線文	ナデか	にぶい赤褐 (5YR5/1)	黒褐 (7.5YR3/1)	細かい長石・石英; や や多, 雲母; 少	
第5図 27	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅱ・Ⅲ層	(2.8)	-	-	凹線文, ナデ	ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	細かい滑石; 多, 褐色・ 黒色粒; 僅	
第5図 28	縄文土器 深鉢	I-7	-	Ⅲ層	(2.9)	-	-	凹線文	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	褐灰 (7.5YR4/1)	細かい長石・滑石; 多	
第5図 29	縄文土器 深鉢	H-7	-	Ⅲ層	(2.0)	-	-	凹線文, ナデか	ナデか	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.4YR5/3)	滑石; 多	
第5図 30	縄文土器 深鉢	G-6	-	Ⅱ層	(2.6)	-	-	条痕後ナデ	ナデ	褐 (7.5YR4/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	細かい長石・角閃石・ 滑石; 少	
第5図 31	縄文土器 深鉢	F2・3	S145	-	(2.1)	-	(13.0)	ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい長石・石英・角 閃石; 多	胎底。
第5図 32	縄文土器 鉢	G-8	S247	上～中層	(5.4)	-	-	凹線 (3mm幅), 貝殻条痕	ナデ	にぶい赤褐 (5YR4/4)	にぶい赤褐 (5YR4/4)	細かい長石・石英・角 閃石; 多	
第5図 33	縄文土器 深鉢	O-21	-	Ⅱ・Ⅲ層	(4.0)	-	-	貝殻条痕, 沈線, ケズリ (縦)	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	細かい長石・石英・角 閃石・金雲母; 多	
第5図 34	縄文土器 深鉢	O-22	-	Ⅲ層	(3.5)	-	-	沈線文, 貝殻条 痕	ナデ	暗灰黄 (2.5Y4/2)	黄褐 (2.5Y5/3)	細かい長石・石英; 多	
第5図 35	縄文土器 深鉢	P-19	-	Ⅳ層上面	(3.8)	-	-	沈線文, 貝殻復縁 による擬似縄文	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英; や や多	
第5図 36	縄文土器 浅鉢	G-7	-	Ⅲ層	(2.2)	-	-	ナデか	ナデか, 沈線か	暗オリーブ褐 (2.5Y3/3)	暗オリーブ褐 (2.5Y3/3)	細かい長石; 多	
第5図 37	縄文土器 深鉢	L-15	-	Ⅲ層	(2.7)	-	-	ナデ, 沈線文	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 多	
第5図 38	縄文土器 浅鉢か	G-7	-	Ⅲ層	(2.1)	-	-	沈線文	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい長石・石英; 多	
第5図 39	縄文土器 深鉢	M-15	-	Ⅲ層	(10.2)	-	-	沈線文, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第5図 40	縄文土器 浅鉢	E-3	-	Ⅱ～Ⅲ層	(3.7)	-	-	ナデ	ナデ	黒褐 (10YR3/2)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第5図 41	縄文土器 浅鉢	H-9・10	-	Ⅲ層	(2.6)	-	-	沈線文, ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第5図 42	縄文土器 浅鉢	I-8	-	Ⅲ層	(2.1)	-	-	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第5図 43	縄文土器 浅鉢	H-7	-	Ⅲ層	(4.3)	-	-	擦痕, ナデ	擦痕, 条痕か	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	細かい長石・石英; 多	
第6図 44	縄文土器 深鉢	H-9・10	-	Ⅲ層	(8.8)	-	-	擦痕, リボン状 突起	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	細かい長石; 多, 金雲母; 少	
第6図 45	縄文土器 浅鉢	G-7	-	Ⅲ層	(4.4)	-	-	リボン状突起, ナデ, 赤彩	ナデか	赤彩; 橙 (7.5YR6/6)	赤彩; 橙 (2.5YR6/6)	細かい輝石; 多, 長石; 僅	リボン状突起の基部 のみ残存。
第6図 46	縄文土器 深鉢	I-8	-	Ⅲ層	(3.9)	-	-	リボン状突起, 擦痕	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/6)	細かい長石; やや多, 角 閃石; 僅	
第6図 47	縄文土器 浅鉢	O-22	-	Ⅲ層, Ⅳ 層上面	(4.7)	-	-	条痕後ナデ	擦痕	にぶい黄褐 (10YR5/4)	明黄褐 (10YR6/6)	細かい長石・石英・金 雲母; やや多	

第2表-2 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラッド	遺構	層位	器高	口径	底径	外面面	内器面	外面面	内器面		
第6図 48	縄文土器 深鉢	K-16	-	攪乱	(4.5)	-	-	ナデ、刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石英;多	
第6図 49	縄文土器 深鉢	H-7	-	Ⅲ層	(1.6)	-	-	ナデか、刻目	ナデか	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	細かい長石・石英;多, 角閃石;僅	
第10図 50	弥生土器 甕	P-20	S111	1層	(4.9)	(27.2)	-	ナデ	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	
第10図 51	弥生土器 甕	P-20	S111	-	(6.7)	(22.8)	-	ナデ、貼付突帯, キザミ目	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第10図 52	弥生土器 甕	P-20	S111	P83内	(1.6)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石2mm以下	
第10図 53	弥生土器 甕	P-20	S111	-	(4.3)	-	-	ナデ、キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第10図 54	弥生土器 甕	P-20	S111	2層	(2.1)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子2mm以下	焼成不良。
第10図 55	弥生土器 甕	P-20	S111	2層	(3.1)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	焼成不良。
第10図 56	弥生土器 甕	P-20	S111	P25内	(5.6)	-	-	ナデ、貼付突帯	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第10図 57	弥生土器 甕	P-20	S111	-	(4.5)	-	-	ナデ、貼付突帯	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 黒曜石2mm以下	焼成不良。
第10図 58	弥生土器 甕	P-20	S111	P83内	(4.2)	-	6.9	ハケメ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第10図 59	弥生土器 甕	P-20	S111	2層	(4.1)	-	(6.9)	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	焼成不良。
第10図 60	弥生土器 甕	P-20	S111	2層	(6.4)	-	(6.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第10図 61	弥生土器 蓋	P-20	S111	P19内	(9.2)	-	ワミ径 6.6	指頭圧痕,ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下, 黒曜石7mm以下	
第10図 62	弥生土器 蓋	P-20	S111	1層	(9.3)	-	ワミ径 6.4	指頭圧痕,ハケ メ,ナデ	指頭圧痕,ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第10図 63	手捏土器 器台	P-20	S111	南西	(2.5)	上部径 2.4	-	ナデ	ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	1mm大の長石・石英; 多,角閃石;僅	
第10図 64	土製磁器 土製磁器	P・Q-20	S111	-	-	直径 3.3	厚さ 0.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4) 暗灰黄 (2.5Y6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4) 暗灰黄 (2.5Y6/4)	細かい長石石英;多	重さ:11g。
第15図 111	弥生土器 甕	Q-20	S172	床直	(14.2)	(25.2)	-	ナデ、指頭圧痕, 貼付突帯	ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石3mm以下	焼成不良。
第15図 112	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	床直	(8.8)	-	-	ナデ、貼付突帯, キザミ目	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・黒曜石 3mm以下,角閃石・赤 色粒子1mm以下	焼成不良。歪みあり。
第15図 113	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	床直	(9.4)	(20.2)	-	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・白色粒子4mm以下	焼成不良。
第15図 114	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	床直	(9.0)	-	-	横ナデ,ナデ	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第15図 115	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	2層	(16.3)	29.8	-	ナデ、ハケメ,貼 付突帯,キザミ目	指頭圧痕,ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第15図 116	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	床直	(23.7)	-	6.8	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・黒色粒 子4mm以下,赤色粒 子6mm以下,礫9mm以下	焼成不良。
第15図 117	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	床直	(20.7)	-	6.6	ナデか	ナデか,指頭圧 痕	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・白 色粒子3mm以下,角閃 石1mm以下,礫1mm以下	焼成不良。底部焼 成後穿孔。
第15図 118	弥生土器 甕	Q-20	S172	2層	(14.7)	-	-	ナデか(不明瞭)	ナデか(不明瞭)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	明黄褐 (10YR7/6)	細砂~1mm大の長石 ・石英;多,角閃石;僅	
第15図 119	弥生土器 甕	Q-20	S172	P4	(5.2)	-	6.8	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石2mm以下,角 閃石1mm以下	
第15図 120	弥生土器 壺	Q-20	S172	P23	(5.7)	-	-	ナデ	ナデ	淡黄 (2.5Y8/4)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	細砂~1mm大の長石・ 石英;やや多,角閃石;僅	
第15図 121	弥生土器 壺	Q-20	S172	2層	(8.4)	-	-	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英;多, 角閃石;少	
第15図 122	弥生土器 壺	Q-20	S172	4層 中央土坑	(5.2)	-	-	ナデ	ナデ	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	細かい長石・石英;や や多	
第15図 123	弥生土器 甕	Q・R-20	S172	-	(3.6)	-	(6.8)	ナデか,突帯貼 付か	ナデか	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第15図 124	弥生土器 蓋	Q・R-20	S172	2層	(8.5)	-	ワミ径 5.5	ナデ	ナデ,ハケメ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第20図 175	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	3層	(23.4)	(30.4)	-	横ナデ,ハケメ, 貼付突帯,キザ ミ目	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	焼成不良。
第20図 176	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	1層	(12.4)	(24.4)	-	ナデ、貼付突帯, キザミ目	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・雲母・角閃石2mm 以下	焼成不良。
第20図 177	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	1層	(11.1)	(26.2)	-	ナデ、ハケメ,貼 付突帯,キザミ 目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石3mm以下,角 閃石1mm以下	
第20図 178	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	2層	(16.6)	(33.4)	-	ナデ、ハケメ,貼 付突帯,キザミ 目	指頭圧痕,ナデ	黒褐 (10YR3/1)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下, 礫5mm以下	焼成不良。
第20図 179	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	2層	(10.2)	(27.2)	-	ナデ、ハケメ,貼 付突帯,キザミ 目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR7/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下, 角閃石1mm以下	
第20図 180	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	-	(5.4)	-	-	ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	細かい長石;多,角閃石 ・褐色粒;僅	
第20図 181	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	1層	(5.5)	-	4.5	指頭圧痕,ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下,赤 色粒子・角閃石1mm以下	焼成不良。
第20図 182	弥生土器 甕	P・Q- 18・19	S202	1層	(9.7)	-	6.0	指頭圧痕,ナデ	工具痕,ナデ	橙 (5YR6/6)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	

第2表-3 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グランド	遺構	層位	器高	口径	底径	外面面	内器面	外面面	内器面		
第20図183	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	2層	(7.8)	-	(6.4)	ナデ, 貼付突帯	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第20図184	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	2層	(8.7)	-	(7.0)	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 3mm 以下	
第20図185	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	1・2層	(9.5)	-	5.6	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 3mm 以下	焼成不良。
第20図186	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	3層	(6.9)	-	(5.8)	指頭圧痕, ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下, 黒曜石 4mm, 角閃石 1mm 以下	
第20図187	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	3層	(4.9)	-	4.2	ナデ, ミガキ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 3mm 以下	
第20図188	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	3層	(11.4)	-	6.5	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 4mm 以下, 黒曜石・赤色粒子 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第20図189	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	2・3層	(12.9)	-	6.2	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第20図190	弥生土器 甕	P・Q-18・19	S202	2層	(5.7)	-	(9.4)	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 2mm 以下, 赤色粒子 6mm 以下	焼成不良。
第20図191	弥生土器 壺	P・Q-18・19	S202	2・3層	(14.5)	(22.8)	-	ナデ, ハケメ, 貼付突帯	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第20図192	弥生土器 壺	P・Q-18・19	S202	2層	(3.4)	-	-	ナデ, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	褐灰 (10YR4/1)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第20図193	弥生土器 壺	P・Q-18・19	S202	2・3層	(26.1)	-	7.1	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第20図194	弥生土器 蓋	P・Q-18・19	S202	3層	(4.8)	-	7.7mm 径 6.4	ナデ, 工具痕	ナデ	浅黄 2.5Y7/4)	浅黄 2.5Y7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第20図195	土製品 土弾	P-19	S202	-	長さ 3.1	最大径 1.6	-	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	細かい長石; やや多	重さ: 7g。
第24図233	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(9.5)	(13.0)	-	ハケメ, ナデか	ハケメ (不明瞭)	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	細粒~1mm 大の石英・長石・角閃石; やや多	
第24図234	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(4.3)	-	-	不明	不明	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	1mm 大の石英; 多, 細かい角閃石; 僅	
第24図235	弥生土器 甕	J-14	S245	埋土	(3.0)	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	細粒~1mm 大の石英・長石・角閃石; やや多	
第24図236	弥生土器 甕	J-14	S245	埋土	(2.6)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい石英・長石; 多	
第24図237	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(3.1)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR5/3)	1mm 大の石英・長石; やや多	
第24図238	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(2.6)	-	-	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	細かい石英・長石; 多	
第24図239	弥生土器 甕	J-14	S245	埋土	(2.3)	-	-	ナデか	不明	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄 (7.5YR6/4)	1mm 大の石英・長石; やや多	
第24図240	弥生土器 甕	J-14	S245	埋土	(3.0)	-	-	不明	不明	にぶい黄褐 (10YR5/3)	橙 (7.5Y7/6)	1mm 大の石英・長石; 少	
第24図241	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(3.4)	-	-	不明	不明	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	細かい石英・長石・角閃石; やや多	
第24図242	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(7.8)	-	9.1	ナデ, 工具痕 (不明瞭), 不明瞭	ナデ, 工具痕	黄橙 (7.5YR8/8)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5~2mm 大の長石・石英・雲母・赤褐色粒	
第24図243	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(6.0)	-	7.0	ハケメ, 底: ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	細砂~1mm 大の長石; 多	
第24図244	弥生土器 甕	J-13	S245	埋土	(4.8)	-	(8.0)	ハケメ (縦), ナデ	-	浅黄橙 (10YR8/4)	-	細粒~1mm 大の石英・長石・角閃石; やや多	
第26図247	弥生土器 壺	O-21・22	S17	中・4層	(16.7)	(22.4)	-	横ナデ, ナデ, 工具痕	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄 (7.5YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第26図248	弥生土器 壺	O-21・22	S17	中層	(13.0)	-	4.4	ナデ, ヘラミガキ (横/縦)	シボリ痕, 指頭圧痕, ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母 2mm 以下, 角閃石・赤色粒子 1mm 以下	外面面に黒斑。
第26図249	弥生土器 壺	O-21・22	S17	中・下層	(13.1)	-	6.3	指頭圧痕, ナデ, ヘラミガキ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子 1mm 以下, 礫 6mm 以下	外面面に黒斑。
第26図250	弥生土器 壺	O-21・22	S17	1層	(8.1)	-	6.0	ナデ, 工具痕	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第26図251	弥生土器 甕	O-21・22	S17	上層	(3.6)	-	(6.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第26図252	弥生土器 甕	O-21・22	S17	上層	(5.4)	-	-	横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 1mm 以下, 黒曜石 2mm 以下	
第26図253	土製品 紡錘車	P-21	S17	覆土上位	-	直径 4.2	厚さ 1.6	ナデ, 赤彩	ナデ, 赤彩	にぶい黄橙 (10YR7/4) 赤彩: 明褐 (7.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4) 赤彩: 明褐 (7.5YR5/6)	細かい長石石英; 多	重さ: 32g。
第27図259	弥生土器 甕	O-22	S104	1層	(5.2)	-	-	ナデ, キザミ目, 貼付突帯か	指頭圧痕, ナデ	淡黄 (2.5Y8/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第27図260	弥生土器 甕	O-22	S104	1層	(7.2)	(20.4)	-	横ナデ, ナデ, 沈線文, ハケメ	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・黒色粒子 2mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒子 1mm 以下	
第27図261	弥生土器 甕	O-22	S104	1層	(6.8)	-	-	ナデ, 沈線文	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子 2mm 以下	
第27図262	弥生土器 甕	O-22	S104	1層	(4.7)	-	(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第27図263	弥生土器 甕	O-22	S104	2層	(4.5)	-	6.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子 3mm 以下	
第31図269	弥生土器 甕	N-21・22	S130	-	(19.9)	25.8	-	横ナデ, ハケメ (不明瞭), ハケメ後ナデか	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4) にぶい黄 (10YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~4mm の小石粒・長石・石英・赤褐色粒; 多	外面面下半, 内器面中位に煤。
第31図270	弥生土器 甕	N-21・22	S130	-	(28.8)	(25.8)	-	横ナデ, 沈線文, キザミ目, ハケメ後ナデか, ハケメ	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4) にぶい黄 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5~3mm の長石・石英・角閃石・赤褐色粒; 多	外面面頭部, 腰~体部に黒斑。口縁部歪む。
第31図271	弥生土器 甕	N-21・22	S130	-	(9.5)	-	7.6	ナデ, 工具痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	

第2表-4 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラッド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第31図 272	弥生土器 甕	N-21・ 22	S130	-	(8.6)	-	-	ミガキ(縦),工 具痕	ミガキ(斜),ナ デ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,礫4mm以下 角閃石2mm以下	
第34図 273	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	31.7	(25.8)	6.8	横ナデ,ナデ,沈 線文,キザミ目, ハケメ(縦)	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 4mm以下,礫6mm以下 角閃石2mm以下	
第34図 274	弥生土器 甕	R・S-21	S147	1層	(10.3)	(19.6)	-	横ナデ,沈線文, ナデか	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,礫5mm以下	焼成不良。
第34図 275	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	26.5	16.4	6.0	横ナデ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 2mm以下	焼成不良。
第34図 276	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	(11.8)	(20.0)	-	横ナデ,沈線文	不明	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子・ 角閃石2mm以下,雲 母1mm以下	焼成不良。外器面 に黒斑。
第34図 277	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	(13.1)	-	6.0	ナデ,ハケメ(縦)	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石3mm以下, 礫5mm以下,赤色粒子 ・黒色粒子・角閃石・ 雲母2mm以下	
第34図 278	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	(8.3)	-	7.4	ナデ,ハケメ(縦)	ナデ,工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石3mm以下,赤 色粒子・角閃石2mm以下	
第34図 279	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	(8.4)	-	6.6	ナデ,工具痕	ナデか	橙 5YR6/6)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石3mm以下,赤 色粒子・雲母2mm以下	
第34図 280	弥生土器 甕	R・S-21	S147	-	(18.2)	-	5.8	ナデ,工具痕	ナデ,指頭圧痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子3mm以下, 角閃石1mm以下	
第34図 281	弥生土器 壺	R-21	S147	2層	(33.2)	-	8.4	不明瞭	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	明黄褐 (10YR7/4)	細かい長石;少	
第34図 282	弥生土器 蓋	R・S-21	S147	上層	(2.7)	-	-	横ナデ,ナデ,ハ ケメ(斜)	ナデ	灰黄褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒子2mm 以下,雲母・角閃石1mm以下	
第37図 292	弥生土器 甕	Q・R-21	S171	-	(8.1)	-	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,キザミ目	横ナデ,指頭圧 痕,ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・黒曜石2mm 以下,雲母・角閃石1mm 以下,礫6mm以下	焼成不良。
第37図 293	弥生土器 甕	Q・R-21	S171	炉跡内	(6.0)	-	3.5	ナデか	ナデか	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石2mm以下, 赤色粒子5mm以下	焼成不良。
第37図 294	弥生土器 甕	Q・R-21	S171	上層	(4.7)	-	(7.8)	ナデか,指頭圧 痕	ナデか	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・ 黒色粒子3mm以下,礫 6mm以下	焼成不良。
第37図 295	弥生土器 甕か壺	Q・R-21	S171	-	(5.3)	-	6.2	ナデ	ナデ	黒褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR3/1)	石英・長石3mm以下,角 閃石・赤色粒子1mm以下	焼成不良。
第38図 303	弥生土器 甕	P-22	S82	中層	(3.3)	-	-	横ナデ	横ナデ,ナデ	橙 (2.5YR7/8)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母	刻目あり。
第38図 304	弥生土器 甕	P-22	S82	-	(2.1)	-	(6.8)	不明瞭	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	灰黄 (2.5Y6/2) 黒褐 (10YR3/1)	0.5～2mmの長石・石英・ 角閃石・雲母・赤褐色粒	
第38図 305	弥生土器 甕	P-22	S82	上層	(8.4)	-	6.9	ナデ,工具ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/3) 明赤褐 (2.5YR5/8)	浅黄橙 (10YR8/3) 明赤褐 (2.5YR5/8)	0.5～2mmの長石・石英・ 角閃石・雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第38図 306	弥生土器 甕	P-22	S82	上層	(8.3)	-	6.8	ハケメ,ナデ	ナデ	橙 (2.5YR6/8)	褐 (10YR4/4)	3～4mmの小石粒,0.5～2 mmの長石・石英・角閃石・ 雲母・赤褐色粒	
第38図 307	弥生土器 高坏	P-22	S82	中層	(7.6)	-	-	ハケメ(不明瞭)	ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	橙 (5YR6/6)	3～4mmの小石粒,0.5～2 mmの長石・石英	
第39図 309	弥生土器 甕	N-22	S87	1層	(4.1)	-	-	横ナデ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石3mm以下,赤 色粒子・角閃石2mm以下	
第39図 310	弥生土器 甕	N-22	S87	1層	(1.7)	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下,赤 色粒子・角閃石2mm以下 雲母1mm以下	
第40図 312	弥生土器 甕	Q-22	S103	1層	(5.8)	-	(7.4)	ハケメ,ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第40図 313	弥生土器 甕	Q-22	S103	-	(5.6)	-	7.2	ハケメ,ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石3mm以下, 角閃石1mm以下	
第40図 314	弥生土器 甕	Q-22	S103	-	(4.5)	-	(9.0)	ハケメ,ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第42図 317	弥生土器 甕	O-22	S105	-	31.9	25.8	8.0	指頭圧痕,ナデ, 沈線文	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第42図 318	弥生土器 円板	O-22	S105	No.5	-	直径 (5.2)	厚さ 0.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石;多	二次加工品。
第44図 328	弥生土器 甕	Q-21	S152	-	(8.6)	(25.4)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,キザミ 目	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	
第44図 329	弥生土器 甕	Q-21	S152	-	(7.6)	-	(7.7)	ナデ,指頭圧痕	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石3mm以下,礫 6mm以下	
第44図 330	弥生土器 甕	Q-21	S152	-	(6.3)	-	5.8	ナデか	ナデか	明赤褐 (2.5YR5/8)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下,角閃石 1mm以下	焼成不良。
第44図 331	弥生土器 甕	Q-21	S152	-	(4.5)	-	7.3	指頭圧痕,ナデ	指頭圧痕,ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・黒曜石 3mm以下,角閃石・赤 色粒子1mm以下	
第45図 343	弥生土器 甕	Q-21	S153	-	(2.1)	-	-	ナデ	ズリ後ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下,雲母1mm以下	焼成不良。
第45図 344	弥生土器 甕	Q-21	S153	-	(5.7)	-	(6.2)	ナデ	ナデか	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・黒曜石2mm 以下,角閃石1mm以下	
第45図 345	弥生土器 甕	Q-21	S153	1層	(3.0)	-	(8.4)	ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第45図 346	弥生土器 壺か甕	Q-21	S153	-	(6.6)	-	(6.0)	ハケメ後ナデ	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第47図 357	弥生土器 甕	R-20	S368	-	(6.9)	(36.2)	-	不明瞭	不明瞭	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	4～6mmの小石粒,0.5 ～2mmの長石・石英・ 雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第47図 358	弥生土器 甕	R-20	S368	-	(30.4)	(33.0)	-	不明瞭,横ナデ, キザミ目	不明瞭	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母	内器面体部,口縁 端部,外器面腰部 に黒斑。

第2表-5 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第47図 359	弥生土器 甕	R-20	S368	-	(2.5)	-	-	ナデ, 横ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 黒, 色粒子 2mm 以下	
第48図 362	弥生土器 甕	O-18	S369	1層	35.2	(26.9)	7.9	ハケメ, ナデ, 貼付突帯	指頭圧痕, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第49図 365	弥生土器 甕	N-20	S13	-	(2.1)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・雲母	刻み目あり。
第49図 366	弥生土器 甕	N-20	S13	-	(3.6)	-	-	横ナデ, ナデ	不明瞭	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・角閃石・雲母	刻み目あり。
第49図 367	弥生土器 甕	N-20	S13	-	(2.1)	-	-	横ナデ, ハケメ後横ナデ	横ナデ, ナデ	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/6, 7.5YR7/6)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・角閃石	刻み目あり。
第50図 368	弥生土器 甕	N-20	S15	-	(2.8)	-	-	不明瞭, 横ナデ	不明瞭, 横ナデ, ナデ	浅黄橙 (10YR8/4) 橙 (2.5YR6/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・雲母	
第51図 369	弥生土器 甕	Q-21	S16	12・13層	(5.5)	(31.0)	-	横ナデ, キザミ目, ナデ	横ナデ, ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・雲母・赤褐色粒	
第51図 370	弥生土器 甕	Q-21	S16	上層 10・11層	(13.2)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3) 黒褐 (10YR3/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	刻み目あり。
第51図 371	弥生土器 甕	Q-21	S16	上層	(7.6)	(8.0)	-	横ナデ, ハケメか, 工具ナデ	横ナデ, ナデ	黒 (2.5Y2/1) 暗灰黄 (2.5Y5/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第51図 372	弥生土器 甕	Q-21	S16	14層	(8.7)	-	-	不明瞭	ナデ	赤褐 (2.5YR4/8) にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第51図 373	弥生土器 甕	Q-21	S16	14層	(5.3)	-	7.1	ハケメ (不明瞭), ナデ	ナデ, 指頭圧痕	明赤褐 (2.5YR5/8) 明黄褐 (10YR6/6)	灰黄 (2.5Y7/2)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒	
第51図 374	弥生土器 甕	Q-21	S16	14層	(5.5)	-	7.8	ハケメ, 横ナデ, ナデ	ナデ	明赤褐 (5YR5/8)	暗褐 (10YR3/3)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・雲母	
第51図 375	弥生土器 甕	Q-21	S16	14層	(6.2)	-	6.4	ハケメ (不明瞭), ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5Y5/8)	明褐 (7.5YR5/6)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第51図 376	弥生土器 壺	Q-21	S16	12・13層	(2.7)	-	-	横ナデ, ナデ	ハケメ後ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	赤褐 (5YR4/8) 明黄褐 (10YR7/6)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第51図 377	土製品 土彈	Q-21	S16	覆土上位	長さ 3.8	最大径 2.3	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙色 (5YR7/6)	橙色 (5YR7/6)	細かい長石白色粒; 僅 角閃石; やや多	重さ: 16g。三日 月形の圧痕。
第52図 381	弥生土器 甕	N-19	S19	-	28.5	(22.7)	6.1	横ナデ, ナデ, 貼付突帯, キザミ目, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 4mm 以下, 礫 5mm 以下	
第52図 382	弥生土器 甕	N-19	S19	-	(4.6)	-	(6.4)	指頭圧痕, ナデ	ナデか	橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第53図 383	弥生土器 甕	N-18	S23	-	(3.7)	-	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5 ~ 2mm の長石・石英・雲母	
第54図 384	弥生土器 甕	M-18	S30	-	(8.8)	(19.1)	-	ナデ, 横ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 4mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第54図 385	弥生土器 甕	M-18	S30	-	(8.3)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯	ナデ, 工具痕, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 礫 6mm 以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第54図 386	弥生土器 壺	M-18	S30	-	(5.2)	(15.6)	-	横ナデ, ナデ, 工具痕	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 4mm 以下, 黒色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第54図 387	弥生土器 甕	M-18	S30	-	(9.2)	-	(5.3)	ナデ, ハケメ (縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第55図 388	弥生土器 甕	M-18	S31	-	(16.2)	(24.2)	-	横ナデ, キザミ目, ハケメか (不明瞭)	横ナデ, ナデ	赤褐 (2.5YR4/8) にぶい黄褐 (10YR5/4)	明赤褐 (2.5YR5/8) 褐 (10YR4/4)	0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第55図 389	弥生土器 鉢	M-18	S31	-	(4.4)	-	6.9	不明瞭	不明瞭	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	3 ~ 5mm の小石粒, 0.5 ~ 2mm の長石・石英	
第56図 390	弥生土器 甕	M-18	S35	-	(14.9)	(23.6)	-	横ナデ, ハケメ (縦), ナデ, キザミ目, 貼付突帯	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第56図 391	弥生土器 甕	M-18	S35	-	(10.9)	(19.2)	-	横ナデ	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第56図 392	弥生土器 甕	M-18	S35	-	(8.5)	-	-	ナデ, ハケメ (縦), 工具痕	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色 粒子・角閃石 2mm 以下	
第56図 393	弥生土器 甕	M-18	S35	-	(5.6)	-	(5.8)	ナデ, 工具痕 (斜), ハケメ (縦)	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 4mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	底部に穿孔。
第57図 394	弥生土器 甕	O-22	S36	1・2層	(16.0)	(36.4)	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第57図 395	弥生土器 壺	O-22	S36	1・2層	(31.2)	(22.8)	-	横ナデ, ナデによる沈線, 貼付突帯, ヘラミガキ	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第57図 396	弥生土器 壺	O-22	S36	1・2層	(9.5)	(12.0)	-	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ, ヘラミガキ	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・雲母・赤色粒子 2mm 以下	
第57図 397	弥生土器 壺	O-22	S36	2層	(11.2)	(21.3)	-	横ナデ, ヘラミガキ	横ナデ, 指頭圧痕後ヘラミガキ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第57図 398	弥生土器 壺	O-22	S36	1・2層	(6.8)	(22.6)	-	横ナデ, ヘラミガキ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子 2mm 以下	
第58図 400	弥生土器 甕	O-22	S37	3・4層	(12.6)	(27.6)	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯, キザミ目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母 2mm 以下	外器面に煤。
第58図 401	弥生土器 甕	O-22	S37	3・4層	(20.7)	(26.0)	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯, キザミ目	横ナデ, ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子 3mm 以下	外器面に黒斑。
第58図 402	弥生土器 甕	O-22	S37	最下層	(13.0)	-	-	ハケメ後ナデ, ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい長石・石英; や や多	
第58図 403	弥生土器 蓋	O-22	S37	-	(9.0)	-	7.6	ハケメ, ナデ, ミガキか	ナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石 2 mm 以下	
第58図 404	弥生土器 蓋	O-22	S37	覆土	(1.2)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英; 少	

第2表-6 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケット	遺構	層位	器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
第58図405	弥生土器器台	O-22	S37	覆土	(3.2)	-	6.0	ナデ	ケズリ(縦)	灰黄(2.5Y/2)	灰黄(2.5Y/2)	細かい長石;多,角閃石・褐色粒;僅	
第59図408	弥生土器	P-22	S38	-	(31.3)	(45.0)	-	横ナデ,ハケメ(縦/斜),ナデ,キザミ目,貼付突帯	横ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第59図409	弥生土器	P-22	S38	-	(10.3)	-	-	横ナデ,キザミ目,ナデ,貼付突帯	横ナデ,ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石3mm以下,礫5mm以下,角閃石・赤色粒子2mm以下	
第59図410	弥生土器	P-22	S38	-	(9.3)	-	-	横ナデ,ナデ,キザミ目,貼付突帯,指頭圧痕	横ナデ,ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英・長石・角閃石2mm以下	
第60図411	弥生土器	P-22	S38	1・2層	(14.3)	-	-	横ナデ,キザミ目,ハケメ,ナデ,貼付突帯	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	石英・長石3mm以下,角閃石・赤色粒子2mm以下	
第60図412	弥生土器	P-22	S38	II層No.91・93・98	(4.8)	(20.0)	-	ナデ,キザミ目	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐色(10YR5/2)	細かい長石・角閃石;やや多	
第60図413	弥生土器	P-22	S38	3・4層	(25.4)	-	-	横ナデ,キザミ目,ナデ,貼付突帯	横ナデ,工具ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子3mm以下	
第60図414	弥生土器	P-22	S38	2層	(4.3)	-	-	横ナデ,キザミ目,ハケメ(斜),指頭圧痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子・角閃石3mm以下	焼成不良。
第60図415	弥生土器	P-22	S38	1層	(3.8)	-	-	ナデ,ハケメ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	細かい長石・石英;多	
第60図416	弥生土器	P-22	S38	-	(11.5)	(19.6)	-	横ナデ,沈線文,ナデ	横ナデ,ナデ(斜),指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石3mm以下,雲母・赤色粒子・黒色粒子2mm以下	
第60図417	弥生土器	P-22	S38	2層	(23.5)	(12.8)	-	横ナデ,ナデ,貼付突帯	横ナデ,ナデ,指頭圧痕	にぶい褐(7.5Y5/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子3mm以下,礫5mm以下	
第60図418	弥生土器	P-22	S38	-	(8.1)	(17.8)	-	横ナデ,ナデ	横ナデ,ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石3mm以下,角閃石・赤色粒子・黒色粒子2mm以下	
第60図419	弥生土器	P-22	S38	No.150	(4.5)	-	7.2	ナデ	剥落	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細かい長石・石英・角閃石;やや多	
第60図420	弥生土器	P-22	S38	1層	(4.2)	-	6.4	ナデ,指頭圧痕	ナデ	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	1mm大の長石・石英;多	
第60図421	弥生土器	P-22	S38	No.57	(5.0)	-	10.6	ナデ,ハケメ後指頭圧痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	1~2mm大の長石・石英;多,金雲母;僅	
第60図422	弥生土器	P-22	S38	-	(10.8)	-	6.6	ナデ,ヘラミガキ(縦)	ナデか	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石・角閃石3mm以下,礫5mm以下	
第60図423	弥生土器	P-22	S38	-	(9.4)	-	-	ナデ	工具ナデ,指頭圧痕	橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下,黒色粒子・雲母2mm以下	
第60図424	弥生土器	P-22	S38	-	(8.1)	-	-	ハケメ(縦),ナデ	ナデ,指頭圧痕	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英・長石・角閃石3mm以下	
第60図425	弥生土器	P-22	S38	No.10・15・28・41	(11.2)	-	-	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	細かい長石・石英;やや多	
第60図426	弥生土器	P-22	S38	-	(11.9)	-	7.9	ハケメ(縦)ナデ,ヘラミガキ(縦)	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子・角閃石3mm以下	
第61図427	弥生土器	P-22	S39	-	(13.9)	(23.2)	-	ナデ,貼付突帯,キザミ目	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第61図428	弥生土器	P-22	S39	1層	(10.6)	-	-	横ナデ,キザミ目,ハケメ後ナデ,ハケメ	横ナデ,ナデ	明黄褐(10YR7/6)(10YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)(10YR6/4)	0.5~2mm程の長石・石英;多,角閃石・雲母・赤褐色粒;少	
第61図429	弥生土器	P-22	S39	1層	(10.2)	-	-	横ナデ,ハケメ,キザミ目,ナデ	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙(10YR6/3)にぶい黄褐(10YR5/3)	微細~5mmの長石・石英;多,微細~2mmの角閃石・雲母・赤褐色粒	
第61図430	弥生土器	P-22	S39	-	(11.4)	-	-	ナデ,貼付突帯,ハケメ,キザミ目	ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第61図431	弥生土器	P-22	S39	-	(10.6)	-	6.9	ナデか	指頭圧痕,ナデ	橙(2.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子3mm以下,角閃石1mm以下	
第61図432	弥生土器	P-22	S39	-	(8.1)	-	(7.6)	ハケメ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第61図433	弥生土器	P-22	S39	覆土1層	(5.6)	-	7.8	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	細砂~1mm大の長石・石英;やや多	
第61図434	弥生土器	P-22	S39	1層	(7.5)	(16.9)	-	横ナデ(不明瞭)	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	0.5~5mmの長石・石英;多,1mm程の角閃石・雲母	
第61図435	弥生土器	P-22	S39	-	(14.3)	(18.9)	-	ハケメ,ナデ,沈線文	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第61図436	弥生土器	P-22	S39	1層	(6.9)	-	7.5	ハケメ後ナデ,ナデ	ナデ,工具痕	灰黄褐(10YR4/2),10YR5/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	0.5~4mmの長石・石英;多,0.5~1mmの角閃石・雲母,3mm程の赤褐色粒;少	外面に黒斑。
第61図437	弥生土器	P-22	S39	覆土1層	(4.6)	-	6.4	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい橙(5YR7/4)灰褐(7.4YR6/2)	浅黄橙(10YR8/4)	細かい長石・石英;やや多	
第61図438	弥生土器	P-22	S39	-	(5.9)	-	6.4	ナデか	ナデか	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子5mm以下,角閃石1mm以下	焼成不良。
第62図439	弥生土器	O-22	S40	上層	(3.3)	-	-	横ナデ	横ナデ,ナデ	黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	微細~3mm程の長石・石英;多	
第62図440	弥生土器	O-22	S40	-	(7.3)	-	7.5	ハケメ,ハケメ後ナデ,ナデ	不明瞭,ナデ	橙(5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR5/3)	0.5~2mmの長石・石英・雲母;多	
第62図441	弥生土器	O-22	S40	-	(10.9)	-	6.6	ハケメ,ナデ	ナデ,工具ナデ	橙(5YR6/8)にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	微細~3mm程の長石・石英・雲母;多	
第63図445	弥生土器	O-21	S41	2・3層	(4.5)	(22.4)	-	ナデ	指頭圧痕,ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	石英・長石・赤色粒子3mm以下,角閃石1mm以下	焼成不良。
第63図446	弥生土器	O-21	S41	3層	(2.9)	(25.4)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	石英・長石・雲母;角閃石2mm以下	

第2表-7 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第63図 447	弥生土器 甕	O-21	S41	2・3層	(6.2)	(25.6)	-	ナデか	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下, 雲母 1mm 以下	焼成不良。外器面 に煤。口縁部歪む。
第63図 448	弥生土器 甕	O-21	S41	上・3層	(8.0)	(25.3)	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。外・内 面に煤。
第63図 449	弥生土器 甕	O-21	S41	3層	(6.3)	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	黒褐 (10YR4/2)	黒褐 (10YR4/2)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm以下,	
第63図 450	弥生土器 甕	O-21	S41	3層	(6.1)	-	5.7	ハケメ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 1mm以下	底部焼成後穿孔。
第63図 451	弥生土器 甕	O-21	S41	1層	(8.3)	-	(7.0)	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第63図 452	弥生土器 甕	O-21	S41	中層	(19.3)	-	7.3	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 雲母・角閃 石 1mm以下	焼成不良。内器面 に煤。胴下部に焼 成後穿孔。
第63図 453	弥生土器 甕	O-21	S41	2層	(9.0)	-	7.5	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 7.5YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第63図 454	弥生土器 甕	O-21	S41	3層	(7.0)	-	7.2	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5YR4/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm以下	
第63図 455	弥生土器 甕	O-21	S41	2層	(8.9)	-	6.1	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	
第63図 456	弥生土器 壺	O-21	S41	2・3層	(23.0)	18.2	-	ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm以下	焼成不良。
第63図 457	弥生土器 器台	O-21	S41	2層	(7.6)	-	6.6	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	
第63図 458	弥生土器 壺	O-21	S41	2・3層	(8.6)	-	(11.8)	ナデ, ヘラミガ キ	指頭圧痕, ナデ, ヘラミガキ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石・雲母 1mm以下, 礫 8mm以下	
第64図 459	弥生土器 甕	P-22	S43	下層	(10.2)	-	-	横ナデ, キザミ目, 工具痕, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	褐灰 (10YR4/1) 灰黄褐 (10YR4/2)	3mm程の小石粒, 0.5～2 mmの長石・石英・多 微細な角閃石・雲母; 少	
第64図 460	弥生土器 甕	P-22	S43	-	(5.7)	-	-	横ナデ, キザミ 目, ナデ, 赤彩	不明瞭	赤彩・明赤褐 (5YR5/8)	黄橙 (10YR8/6)	3～5mmの小石粒, 0.5 ～2mmの長石・石英・多 角閃石・雲母, 赤褐色 粒; 少	外器面に赤彩。
第64図 461	弥生土器 甕	P-22	S43	-	(6.2)	-	14.1	ミガキ (不明瞭), ナデ	ナデ, 工具痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	灰褐 (7.5YR4/2) 黒褐 (7.5YR3/1)	7mm程の小石粒, 0.5～2 mmの長石・石英・多, 角閃 石・雲母・赤褐色粒; 少	外器面に黒斑。
第64図 462	弥生土器 甕	P-22	S43	下層	(6.9)	-	-	ナデ	ナデ, 赤彩	にぶい黄褐 (10YR5/3) 黄灰 (2.5Y4/1)	橙 (2.5YR6/8)	5～6mmの小石粒; 少, 0.5～2mmの長石・ 石英・多, 角閃石・雲母, 赤褐色粒; 少	内器面に赤彩。
第64図 463	弥生土器 蓋	P-22	S43	-	(8.6)	-	(5.8)	ナデ, ミガキ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	1～3mmの長石・石英・ 雲母・赤褐色粒	
第65図 464	弥生土器 甕	N-20	S45	1層	28.6	(23.1)	6.5	横ナデ, 指頭圧痕, ハケメ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ目	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm以下	口縁部歪む。
第65図 465	弥生土器 壺	N-20	S45	1層	(4.9)	-	4.6	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・黒色粒子 3mm以下, 赤色粒子 5mm 以下	焼成不良。
第66図 466	弥生土器 甕	O-19	S47	1・3層	(7.7)	(24.3)	-	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕, キザミ 目	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第66図 467	弥生土器 甕	O-19	S47	3層	(8.7)	-	-	ナデ, 貼付突帯	指頭圧痕, ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子 2mm以下	焼成不良。
第66図 468	弥生土器 甕	O-19	S47	2層	(7.1)	-	8.6	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石 2mm以下	焼成不良。
第66図 469	弥生土器 甕	O-19	S47	3層	(5.9)	-	7.6	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第66図 470	弥生土器 甕	O-19	S47	-	(4.9)	-	7.0	ナデ, タタキ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石・石英・赤色粒 子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第66図 471	弥生土器 蓋	O-19	S47	2層	(2.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	黒褐 (7.5YR3/1)	石英・長石・角閃石 ・赤色粒子・黒曜石 1mm以下	焼成不良。
第67図 475	弥生土器 甕	O-19	S48	-	(4.5)	(27.0)	-	指頭圧痕, ナデ	指頭圧痕, ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第67図 476	弥生土器 甕	O-19	S48	-	(4.9)	(22.8)	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 横ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm以下, 赤色粒子 2mm以下, 角 閃石・雲母 1mm以下	焼成不良。
第67図 477	弥生土器 甕	O-19	S48	-	(3.5)	-	(8.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第67図 478	弥生土器 壺	O-19	S48	-	(14.9)	-	-	ナデ, 貼付突帯	ナデ, ミガキ (横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・黒色粒 子 4mm以下, 赤色粒 子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第67図 479	弥生土器 壺	O-19	S48	覆土 No.1	(10.5)	(11.6)	-	不明瞭	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石英; 少	口縁部に穿孔。
第68図 482	弥生土器 甕	O-19	S49	-	(3.6)	-	-	ナデ, 横ナデ, キ ザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 礫 6mm以 下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第68図 483	弥生土器 甕	O-19	S49	-	(5.1)	-	-	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ, 貼付突 帯	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm以下, 赤色・黒色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第68図 484	弥生土器 甕	O-19	S49	-	(4.8)	-	7.6	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・黒色粒子 4mm以下, 赤色粒子・ 角閃石 2mm以下	
第68図 485	弥生土器 甕	O-19	S49	-	(7.8)	-	6.4	ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	黒褐 (7.5YR3/1)	石英・長石・赤色粒子 4mm以下, 礫 5mm以 下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第68図 486	弥生土器 壺	O-19	S49	-	(8.9)	-	6.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm以下	
第69図 487	弥生土器 甕	O-19	S52	-	(12.6)	(37.0)	-	横ナデ, 不明瞭, ハケメ後横ナデ か, ハケメか	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細～5mm程の長石・ 石英・赤褐色粒; 多	

第2表-8 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第70図 488	弥生土器 甕	M-18	S55	-	(21.1)	(26.6)	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目、ハケメ(斜)	横ナデ、ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	焼成不良。外器面に煤。
第70図 489	弥生土器 甕	M-18	S55	-	(13.9)	-	6.4	ナデ、ハケメ(縦)	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石2mm以下	
第70図 490	弥生土器 甕	M-18	S55	-	(9.3)	-	(4.6)	ナデ、工具痕、ハケメ(縦)	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	焼成不良。
第70図 491	弥生土器 壺	M-18	S55	No.8	(7.3)	(15.6)	-	ナデ、ハケメ	丁寧なナデ	橙(2.5YR6/6)	橙(2.5YR6/8)	細かい長石・石英;多	
第71図 492	弥生土器 甕	M-19	S57	-	(6.6)	(25.8)	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、指頭圧痕、ナデ	黒褐(10YR3/2)	灰黄褐(10YR4/2)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第71図 493	弥生土器 甕	M-19	S57	-	(3.4)	-	-	横ナデ、ナデ、キザミ目	横ナデ、ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第71図 494	弥生土器 甕	M-19	S57	-	(3.6)	-	-	横ナデ、ナデ、キザミ目	横ナデ、ナデ	橙(5YR7/6)	橙(2.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第71図 495	弥生土器 甕	M-19	S57	-	(5.0)	-	(6.6)	ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第71図 496	弥生土器 壺	M-19	S57	-	(5.0)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第71図 497	弥生土器 蓋	M-19	S57	覆土4層	(2.4)	-	-	ナデ	ナデ	細かい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR4/2)	細かい長石・石英・角閃石;やや多	口縁部内器面黒変(煤か)。
第72図 498	弥生土器 甕	Q-20・21	S61	2層	(22.1)	(26.4)	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、指頭圧痕、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石1mm以下	焼成不良。内器面に黒斑。
第72図 499	弥生土器 壺	Q-20・21	S61	3層	(5.7)	-	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・雲母1mm以下	
第72図 500	弥生土器 壺	Q-20・21	S61	2層	(15.8)	-	-	貼付突帯、ナデ	ナデ	橙(2.5YR6/6)	明黄褐(10YR7/6)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第72図 501	弥生土器 蓋	Q-20・21	S61	2層	(3.2)	-	フミ径5.6	ハケメ、ナデ	ナデか	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子1mm以下	
第73図 507	弥生土器 甕	Q-2	S62	3層	(19.1)	(24.2)	-	横ナデ、ナデ、キザミ目、貼付突帯	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英・長石4mm以下、礫5mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	外器面に黒斑。
第73図 508	弥生土器 甕	Q-21	S62	2・3層	(10.1)	(32.2)	(31.4)	ナデ、貼付突帯	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、黒曜石5mm以下	焼成不良。
第73図 509	弥生土器 甕	Q-21	S62	3層	(6.5)	-	-	ナデ、貼付突帯、キザミ目	ナデ	灰褐(7.5YR4/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石4mm以下、赤色粒子・角閃石1mm以下	外器面に煤。
第73図 510	弥生土器 甕	Q-21	S62	2層	(13.3)	(22.4)	-	ナデ、貼付突帯、キザミ目	指頭圧痕、ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英・長石3mm以下、角閃石1mm以下	
第73図 511	弥生土器 甕	Q-21	S62	2層	(3.8)	-	-	ナデ、横ナデ	ナデ	灰黄((2.5YR7/2)	灰黄褐(10YR5/2)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下、雲母1mm以下	
第73図 512	弥生土器 甕	Q-21	S62	3層	(4.7)	-	5.9	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	
第73図 513	弥生土器 甕	Q-21	S62	3層	(5.5)	-	(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石2mm以下、赤色粒子3mm以下	
第73図 514	弥生土器 甕	Q-21	S62	2層	(10.5)	-	(8.2)	ナデ	ナデ	明赤褐((2.5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石1mm以下	焼成不良。
第73図 515	弥生土器 壺	Q-21	S62	3層	(8.0)	-	7.3	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石4mm以下、礫5mm以下、赤色粒子3mm以下、角閃石1mm以下	
第73図 516	弥生土器 蓋	Q-21	S62	3層	(1.6)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい褐色(7.5YR5/3)	灰褐(7.5YR4/2)	細かい長石・石英;多、角閃石;僅	
第74図 520	弥生土器 甕	N-20	S64	-	(1.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	3mm程の小石粒。0.5~2mmの長石・石英・角閃石	
第75図 521	弥生土器 甕	P-22	S78	2層	20.1	(18.2)	5.7	横ナデ、ナデ、ハケメ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石2mm以下	焼成不良。
第75図 522	弥生土器 甕	P-22	S78	最下層	17.7	15.6	5.2	指頭圧痕、ハケメ後ナデ、板状工具痕	横ナデ、指頭圧痕、ナデ	灰褐(7.5YR4/2)	にぶい黄褐(10YR5/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第75図 523	弥生土器 甕	P-22	S78	-	(8.0)	-	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石・3mm以下、角閃石・赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第75図 524	弥生土器 甕	P-22	S78	2層	(6.8)	(11.4)	-	ナデ	ナデ、指頭圧痕	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第75図 525	弥生土器 甕	P-22	S78	2層	(3.1)	-	7.5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第75図 526	弥生土器 蓋	P-22	S78	-	(3.6)	-	フミ径5.5	ナデ	-	橙(2.5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	やや良好
第75図 527	土製品 玉	P-22	S78	覆土3層	-	直径(2.0)	厚さ1.6	ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	細かい長石角閃石;僅	重さ:4g。
第76図 529	弥生土器 甕	P-21	S81	下層	(6.6)	(28.0)	-	横ナデ、指頭圧痕、ナデ、キザミ目、貼付突帯	ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石4mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	
第76図 530	弥生土器 甕	P-21	S81	下層	(4.3)	-	-	横ナデ、ナデ、キザミ目	ナデ	黒褐(10YR3/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	
第76図 531	弥生土器 甕	P-21	S81	2層	(6.9)	-	(4.6)	ハケメ、ナデ	ナデ	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	石英・長石・角閃石・雲母1mm以下	
第76図 532	弥生土器 甕	P-21	S81	2層	(4.7)	-	(8.0)	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	石英・長石・雲母・赤色粒子3mm以下	
第76図 533	弥生土器 甕	P-21	S81	-	(3.9)	-	(7.8)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第76図 534	弥生土器 甕	P-21	S81	2層	(4.1)	-	(6.6)	ナデ	指頭圧痕、ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子・角閃石2mm以下	

第2表-9 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グレート	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第76図 535	弥生土器 高坏	P-21	S81	2層	(6.7)	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石 2mm以下, 赤色粒子・ 白色粒子・礫4mm以下	
第76図 536	土製品 紡錘車	P-21	S81	覆土下部	-	直径 4.3	厚さ 2.0	ナデ, 赤彩	ナデ, 赤彩	にぶい黄橙 (10YR6/4) 赤彩: 橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4) 赤彩: 橙 (5YR6/6)	細かい長石; 多, 角閃石; 僅	重さ: 43g。
第77図 539	弥生土器 蓋	P-21	S83	覆土2層	(1.3)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	細かい長石・石英; 多	
第78図 540	弥生土器 甕	O-22	S84	1層	(5.9)	-	7.3	ナデ, ハケメ	ナデ, 指頭圧痕	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石4mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第78図 541	弥生土器 鉢	O-22	S84	2層	(4.5)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第79図 544	弥生土器 甕	K-13	S86	2層	(3.4)	-	-	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第79図 545	弥生土器 甕	K-13	S86	1層	(3.5)	-	(5.8)	ナデか	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明褐 (7.5YR5/6)	石英・長石・黒色粒 子3mm以下, 礫5mm以 下	焼成不良。外器面 広範囲に剥離。
第79図 546	弥生土器 甕	K-13	S86	1層	(6.9)	(15.6)	-	ナデか	ナデか	黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 雲母・角閃 石1mm以下	焼成不良。
第79図 547	弥生土器 壺	K-13	S86	2層	(4.1)	-	4.6	ナデか	ナデか	明黄褐 (10YR6/6)	褐灰 (10YR4/1)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	内器面広範囲に剥 離。
第79図 548	弥生土器 壺	K-13	S86	1層	(3.8)	-	(5.0)	ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石1mm以下	
第80図 549	弥生土器 甕	O-21	S88	4層	(5.8)	(29.4)	-	ナデ, 貼付突帯, キザミ目	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母 2mm以下	
第80図 550	弥生土器 甕	O-21	S88	最下層	31.2	(24.3)	(6.4)	指頭圧痕, ナデ, 貼付突帯, キザ ミ目	ハケメ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第80図 551	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(8.6)	(36.4)	-	ナデ, 貼付突帯, キザミ目	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・黒 曜石3mm以下	
第80図 552	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(9.9)	(25.2)	-	ナデ, ハケメ, 貼 付突帯, キザミ 目, 指頭圧痕	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第80図 553	弥生土器 壺	O-21	S88	-	(4.1)	-	-	ナデ, キザミ目	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下, 角閃石 1mm以下	焼成不良。
第80図 554	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(8.1)	-	8.1	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第80図 555	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(4.4)	-	(8.8)	ハケメ, ヘラミ ガキ, ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第80図 556	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(3.7)	-	7.6	ナデ, ヘラミガ キか	ナデ, 工具痕	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第80図 557	弥生土器 甕	O-21	S88	-	(8.8)	-	(10.8)	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第80図 558	弥生土器 蓋	O-21	S88	1層	(9.0)	-	ワミ径 (7.5)	ハケメ, ナデ, 工 具痕	ナデ, 工具痕	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・雲母2mm以下	焼成不良。
第80図 559	弥生土器 蓋	O-21	S88	-	(7.9)	-	6.0	ハケメ, ナデ, 工 具痕	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第80図 560	弥生土器 鉢	O-21	S88	-	12.2	(29.1)	6.5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下	
第80図 561	弥生土器 甕	O-21	S88	No.39	(8.3)	-	(11.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・石英; 多	
第81図 563	弥生土器 甕	O-21	S89	-	(1.9)	-	-	横ナデ, ナデ	ナデ	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第81図 562	弥生土器 蓋	O-21	S89	1層	(1.4)	-	-	不明瞭, 横ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	内器面に黒斑。
第82図 564	弥生土器 甕	O-20	S90	-	(7.3)	-	-	ナデ, 貼付突帯, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	石英・長石・雲母・赤 色粒子2mm以下	焼成不良。
第82図 565	弥生土器 甕	O-21	S90	-	(5.1)	-	-	ナデ, 貼付突帯	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 1mm以下	
第82図 566	弥生土器 甕	O-20	S90	-	(4.3)	-	-	ナデ, 指頭圧痕, キザミ目	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・雲母・角 閃石1mm以下	
第82図 567	弥生土器 甕	O-21	S90	-	(4.2)	-	-	ナデか, キザミ 目	ナデか	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	焼成不良。
第82図 568	弥生土器 甕	O-20	S90	-	(7.3)	-	-	ナデ, 貼付突帯	ナデ	淡黄 (2.5Y8/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下, 雲母・角閃 石1mm以下	
第82図 569	弥生土器 甕	O-21	S90	1・2層	(3.4)	(19.0)	-	指頭圧痕, ナデ	ナデ	淡黄 (2.5Y8/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	石英・長石・雲母・赤 色粒子1mm以下	
第82図 570	弥生土器 甕	O-20	S90	-	(6.5)	-	(6.4)	ナデか	ナデか	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	石英・長石・雲母 2mm以下	底部に圧痕か。
第82図 571	弥生土器 甕	O-21	S90	覆土	(1.6)	-	-	ナデ	ナデ	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	細かい長石・石英; や や多	
第82図 572	弥生土器 蓋	O-21	S90	2層	13.8	(24.9)	ワミ径 (6.8)	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	焼成不良。
第82図 573	弥生土器 円板	O-21	S90	覆土2層	-	直径 4.0	厚さ 0.7	ナデ	ナデ	黒褐 (2.5Y3/2)	浅黄橙 (10YR8/3)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	二次加工品
第83図 575	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(6.5)	(35.0)	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第83図 576	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(12.1)	(33.8)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第83図 577	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(13.1)	(26.4)	-	横ナデ, ナデか	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデか	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (2.5YR6/8)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第83図 578	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(17.1)	-	7.5	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・黒色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第83図 579	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(11.5)	-	7.5	ナデ	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 雲母・角閃 石1mm以下	

第2表-10 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第83図 580	弥生土器 甕	Q-20	S91	1層	(3.6)	-	3.6	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子2mm 以下	
第83図 581	弥生土器 壺か甕	Q-20	S91	1層	5.8	-	(7.6)	ナデカ	ナデカ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 1mm以下	
第83図 582	弥生土器 支脚	Q-20	S91	1層	(8.2)	-	6.4	ナデ	ナデカ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石2mm以下,黒曜 石3mm以下	
第84図 585	弥生土器 甕	Q-20	S92	覆土	(7.6)	-	-	突帯,ハケメか, 赤彩	ナデカ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	細粒~1mm大の石英 ・長石・角閃石;多	
第85図 587	弥生土器 甕	Q-21	S95	-	(4.2)	(22.6)	-	横ナデ,不明瞭	横ナデ,指頭圧 痕,不明瞭	にぶい黄橙 (10YR7/4, 10YR6/4)	黄橙(10YR8/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第87図 588	弥生土器 甕	R-22	S97	2層	(6.3)	(24.2)	-	横ナデ,キザミ 目,ハケメ後ナ デ,赤彩	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	口縁部に赤彩あり。
第87図 589	弥生土器 甕	R-22	S97	2層	(7.4)	-	-	横ナデ,ハケメ 後ナデ,ナデ,赤 彩	横ナデ,指頭圧 痕,ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	外器面に黒彩か。 内器面に黒斑。
第87図 590	弥生土器 甕	R-22	S97	-	(5.1)	-	-	横ナデ,キザミ 目,ナデ	横ナデ,指頭圧 痕,赤彩	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	外器面に黒。内器 面に赤彩か。
第87図 591	弥生土器 壺	R-22	S97	-	(4.8)	-	-	横ナデ,ナデ	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/4)	褐灰(10YR4/1)	6~7mmの小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・ 雲母	
第87図 592	弥生土器 壺	R-22	S97	2層	(7.0)	-	-	ナデ(不明瞭), 横ナデ,不明瞭	ミガキ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	3~4mmの小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・ 雲母・赤褐色粒	外・内器面に黒斑。
第87図 593	弥生土器 甕	R-22	S97	2層	(3.8)	-	(5.6)	ハケメ後ナデ, ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	灰白(2.5Y8/2)	3~10mmの小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・角 閃石・雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第87図 594	弥生土器 甕	R-22	S97	2層	(2.8)	-	(4.9)	工具ナデ,ナデ	工具ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	3mm程の小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・ 角閃石・赤褐色粒	底面形の歪みの為 径不確実。
第87図 595	弥生土器 蓋	R-22	S97	-	(2.1)	-	(21.6)	ミガキか,横ナ デ,凹線	ナデ,横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	3~4mmの小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・ 角閃石・雲母	
第87図 596	弥生土器 蓋	R-22	S97	3層	(1.6)	-	(20.8)	ナデ,横ナデ,沈 線	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	黒褐(10YR3/2)	3mm程の小石粒.0.5 ~2mmの長石・石英・角 閃石・雲母	
第87図 597	土製品 円板	R-22	S97	覆土	-	直径 5.6	厚さ 0.8	ナデ	ハケメ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英・角 閃石;やや多	二次加工品。重 さ:18g。
第87図 598	土製品 紡錘車	R-22	S97	覆土	-	直径 3.9	厚さ 0.9	ナデ	ナデ	明褐色 (7.5YR5/6)	明褐色 (7.5YR5/6)	細かい長石石英;多, 角閃石;僅	重さ:16g。
第88図 599	弥生土器 甕	P-22	S99	2層	(3.1)	-	-	横ナデ	横ナデ,ナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	刻目あり。
第88図 600	弥生土器 甕	P-22	S99	-	(3.8)	-	-	ハケメ後横ナデ, 横ナデ,工具痕, ナデ	横ナデ,ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	刻目あり。
第88図 601	弥生土器 甕	P-22	S99	2層	(5.4)	-	(9.0)	ハケメ後ナデ	ナデ,工具痕か	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第88図 602	弥生土器 甕	P-22	S99	2層	(4.5)	-	(6.4)	ナデ,工具痕	不明瞭	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	外底面に工具によ る加工(窪み)あり。
第89図 603	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	22.4	(20.4)	(7.5)	ハケメ,ナデ,貼 付突帯,キザミ 目	指頭圧痕,ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 雲母・赤色粒子2mm 以下	
第89図 604	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	27.0	(24.0)	7.5	横ナデ,ナデ,ハ ケメ,キザミ目, 貼付突帯	ナデ,指頭圧痕, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下,雲 母・角閃石1mm以下	
第89図 605	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(17.4)	(21.0)	-	横ナデ,ハケメ, ナデ	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下,赤色粒子・角閃石 2mm以下,	
第89図 606	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(7.0)	(27.4)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙(5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下,黒曜 石3mm以下,角閃石 1mm以下	
第89図 607	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(14.5)	(19.9)	-	ナデ	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・雲母・角 閃石1mm以下	
第89図 608	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(4.5)	-	9.0	横ナデ,ナデ,ミ ガキ,工具痕	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	褐灰(10YR4/1)	石英,長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石1mm以下	
第89図 609	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(6.1)	-	8.5	ハケメ,ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英,長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 雲母1mm以下	
第89図 610	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(6.5)	-	7.8	ナデ,横ナデ,ハ ケメ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	浅黄(2.5YR7/3)	石英,長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 雲母1mm以下	
第89図 611	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(7.3)	-	(8.2)	ハケメ,ナデ,ミ ガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英,長石,赤色粒 子2mm以下,角閃石 1mm以下	
第89図 612	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(7.0)	-	6.9	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英,長石3mm以下, 雲母1mm以下	
第89図 613	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(17.1)	-	8.4	ハケメ,ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下,角閃石 1mm以下	
第89図 614	弥生土器 甕	Q-22	S100	上層	(11.5)	-	(6.5)	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	石英・長石・黒曜石 ・赤色粒子2mm以下	底部に穿孔。
第90図 615	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(17.4)	(20.4)	-	横ナデ,ナデ	ナデ,指頭圧痕, ハケメ,貼付突 帯,キザミ目	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以 下,赤色粒子・角閃石 2mm以下,雲母1mm 以下	内器面に黒斑。外 器面に黒。
第90図 616	弥生土器 甕	Q-22	S100	-	(22.2)	(25.4)	-	ナデ,ハケメ,貼 付突帯	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子3mm以下	焼成不良。
第90図 617	弥生土器 壺	Q-22	S100	上層	(4.9)	-	7.8	ミガキ,ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5Y5/4)	にぶい褐 (7.5Y5/4)	石英・長石3mm以下, 礫6mm以下	

第2表-11 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ゲリット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第90図 618	弥生土器 壺	Q-22	S100	上層	(6.9)	-	7.0	ミガキ, ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第90図 619	弥生土器 蓋	Q-22	S100	-	(7.9)	-	ナミ径 7.0	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石, 赤色粒子 3mm 以下, 角閃石, 雲 母 1mm 以下	ツマミに煤。
第90図 620	弥生土器 蓋	Q-22	S100	覆土 2層	(1.5)	-	-	ナデ	ナデ	褐灰 (7.5YR4/1)	灰褐 (7.5YR4/2)	細かい長石・石英; 多 角閃石; 僅	
第91図 625	弥生土器 甗	P-22	S101	1・3層	(14.7)	(24.2)	-	横ナデ, キザミ 目	横ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4) にぶい褐 (7.5YR5/3)	橙 (5YR7/6) にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~5mm程の長石・ 石英・雲母; 多	
第91図 626	弥生土器 甗	P-22	S101	3層	(8.0)	-	6.5	ハケメ, 工具ナ デ, ナデ	摩滅	橙 (2.5YR6/6) にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~4mm程の長石・ 石英; 多	
第91図 627	弥生土器 甗	P-22	S101	2・上層	(6.1)	-	5.5	ミガキ	ミガキ	にぶい黄 (2.5Y6/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	微細~3mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面に黒斑。
第91図 628	弥生土器 甗	P-22	S101	-	(8.7)	-	9.3	工具ナデ, ナデ, 工具痕	ナデ, 工具ナデ	褐 (7.5YR4/3) にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~3mm程の長石・ 石英; 少	
第91図 629	弥生土器 壺	P-22	S101	-	(2.6)	-	-	横ナデ, キザミ 目	横ナデ, キザミ 目	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	微細~2mm程の長石・ 石英・赤褐色粒; 多	
第91図 630	弥生土器 蓋	P-22	S101	-	(9.1)	-	上部径 5.9	ナデ, ミガキ	工具ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	微細~3mm程の長石・ 石英・雲母; 少	
第92図 632	弥生土器 甗	P・Q-21	S106	3層	(14.4)	20.5	-	ナデ, 貼付突帯, キザミ目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第92図 633	弥生土器 甗	P・Q-21	S106	1・3層	(18.1)	(21.8)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ, 貼付突帯, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	長石・石英, 赤色粒子 ・黒色粒子 3mm 以下	外器面に黒斑, 煤。
第92図 634	弥生土器 甗	P・Q-21	S106	3層 No.4	(6.3)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	
第92図 635	弥生土器 甗	P・Q-21	S106	3層 No.45	(5.2)	-	7.0	ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	細かい長石・石英; 多	
第92図 636	弥生土器 甗	P・Q-21	S106	3層 No.6	(8.1)	-	6.0	ナデか, 指頭圧 痕, 赤彩	ナデ (ハケメか)	赤彩; にぶい橙 (5YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	細かい長石・石英; 多 角閃石; 僅	底部に焼成前穿 孔 (0.9cm)。外器 面に赤彩僅かに残 る。
第92図 637	弥生土器 蓋	P・Q-21	S106	2・3層	(6.0)	(33.4)	-	ナデ, ハケメ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外・内器面に黒 斑。
第92図 638	土製品 円板	P・Q-21	S106	3層 No.14	-	直径 6.4	厚さ 1.0	不明	不明	にぶい橙 (5YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	細かい長石・石英; 多 角閃石; 僅	二次加工品。赤彩 残る。重さ .29g。
第94図 641	弥生土器 甗	O-21	S109	-	(10.5)	(18.0)	-	ハケメ, ナデ, 横 ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・雲母・赤 色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第94図 642	弥生土器 甗	O-21	S109	上層	(14.4)	22.3	-	ハケメ, ナデ, 沈 線文, キザミ目 文	指頭圧痕, ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第94図 643	弥生土器 甗	O-21	S109	3層	(8.1)	(25.0)	-	ナデ, 貼付突帯, キザミ目	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第94図 644	弥生土器 甗	O-21	S109	2層	(15.1)	-	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第94図 645	弥生土器 甗	O-21	S109	-	(7.2)	-	8.5	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石・石英 4mm 以 下, 雲母・角閃石 2mm 以下, 赤色粒子 5mm 以 下	
第94図 646	弥生土器 壺	O-21	S109	-	(8.3)	(15.2)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第94図 647	弥生土器 壺	O-21	S109	-	(22.2)	-	10.1	ミガキ, ハケメ	ナデ	黒褐 (10YR3/1)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第94図 648	弥生土器 蓋	O-21	S109	2層	(6.4)	-	ナミ径 (5.0)	ナデ, 工具痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第94図 649	弥生土器 蓋	O-21	S109	-	(5.0)	-	ナミ径 6.8	ナデ, 工具痕	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第94図 650	弥生土器 蓋	O-21	S109	中・下層	(7.2)	(23.0)	-	ナデ, ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第96図 652	弥生土器 甗	O-21	S110	上・下層	(4.9)	(29.6)	-	横ナデ, 指頭圧 痕, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm 以下	
第96図 653	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(5.2)	(22.4)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第96図 654	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(5.0)	-	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	横ナデ, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第96図 655	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(3.4)	-	-	横, ナデ, キザミ 目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以 下, 雲母 1mm 以下, 礫 6mm 以下	焼成不良。
第96図 656	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(3.9)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・角 閃石 1mm 以下	
第96図 657	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(3.2)	-	-	ナデ	ナデか	にぶい褐 (7.5YR5/3)	橙 (5YR6/6)	石英・長石 3mm 以 下, 黒曜石 4mm 以下, 角閃石・雲母 1mm 以 下	
第96図 658	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(8.9)	(41.6)	-	横ナデ, 貼付突 帯, キザミ目, ナ デ	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm 以下, 礫 4mm 以下	
第96図 659	弥生土器 甗	O-21	S110	-	(5.3)	(21.0)	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 雲母・角閃 石 1mm 以下	焼成不良。
第96図 660	弥生土器 甗	O-21	S110	上層	(4.9)	(24.0)	-	横ナデ, ナデ, 沈 線文	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒 子 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。

第2表-12 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第96図 661	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(4.0)	-	-	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ, キザミ目	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石 3mm 以下, 角閃石・雲母・赤色粒子 1mm 以下	
第96図 662	弥生土器 甕	O-21	S110	下層	(2.5)	-	-	横ナデ, キザミ目, 指頭圧痕	横ナデ, ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第96図 663	弥生土器 甕	O-21	S110	上層	(5.7)	-	-	横ナデ, ハケメ, 横ナデ	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 1mm 以下	
第96図 664	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(3.3)	(16.8)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第96図 665	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(4.3)	-	-	横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ナデ	黄灰 (2.5Y4/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	
第96図 666	弥生土器 壺	O-21	S110	No.2	(4.5)	-	9.2	ナデ, 底: 条痕	ナデ	暗オリーブ褐 (2.5Y3/3)	黒褐 (2.5Y3/2)	細かい長石・石英; 多	
第96図 667	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(12.4)	-	6.8	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下, 黒曜石 7mm 以下	
第96図 668	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(6.3)	-	(6.1)	ハケメか, 指頭圧痕, ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第96図 669	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(5.8)	-	6.6	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子・角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第96図 670	弥生土器 甕	O-21	S110	1層	(6.9)	-	7.0	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第96図 671	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(4.6)	-	(8.2)	ハケメ, 工具痕, ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	石英・長石 4mm 以下, 礫 5mm 以下, 雲母・角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第96図 672	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(6.2)	-	7.2	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第96図 673	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(10.2)	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・黒曜石 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下, 礫 6mm 以下	
第96図 674	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(6.2)	-	7.4	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 3mm 以下	焼成不良。
第96図 675	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(7.3)	-	8.1	ナデ, 工具痕	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	灰褐 (7.5YR5/2)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第96図 676	弥生土器 甕	O-21	S110	-	(5.9)	-	(9.2)	ナデ	不明, ナデか	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第96図 677	弥生土器 蓋	O-21	S110	-	(7.9)	-	7.2	ナデ, ハケメか, 工具痕	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第96図 678	弥生土器 蓋	O-21	S110	-	(6.5)	-	5.9	ナデ, 工具痕	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第97図 680	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(8.8)	(21.2)	-	ナデ, ハケメ, キザミ目	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・雲母・赤色粒子 3mm 以下	
第97図 681	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(8.5)	-	-	ナデ, ハケメ (縦), 貼付突帯, キザミ目	ナデ, 指頭圧痕	褐灰 (10YR4/1)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石 3mm 以下, 角閃石・赤色粒子 2mm 以下	
第97図 682	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(7.0)	-	-	ナデ, 貼付突帯	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石 2mm 以下	
第97図 683	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(13.8)	-	8.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・雲母・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第97図 684	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(5.9)	-	6.7	ナデ, ハケメ, 赤彩	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外器面に赤彩。
第97図 685	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(4.7)	-	6.5	ナデ, 工具痕	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第97図 686	弥生土器 甕	I-12	S112	-	(8.7)	-	5.9	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 雲母 2mm 以下	焼成不良。
第97図 687	弥生土器 壺	I-12	S112	-	(3.8)	-	(7.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第98図 688	弥生土器 甕	J-12	S113	-	(5.1)	(21.4)	-	横ナデ, ナデか, 貼付突帯, キザミ目	ナデか	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第98図 689	弥生土器 甕	J-12	S113	-	(3.8)	-	-	ナデ, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色・黒色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第98図 690	弥生土器 甕	J-12	S113	-	(5.1)	(17.1)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第98図 691	弥生土器 甕	J-12	S113	-	(15.9)	-	7.0	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石 4mm 以下, 赤色・黒色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第98図 692	弥生土器 壺	J-12	S113	-	(3.6)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 雲母 1mm 以下, 赤色・黒色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第98図 693	弥生土器 蓋	J-12	S113	-	10.6	24.1	7.1	ハケメ後ナデ	ナデか	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第98図 694	弥生土器 蓋	J-12	S113	-	(7.2)	-	5.9	ハケメ後ナデか	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色・黒色粒子 2mm 以下, 雲母 1mm 以下	焼成不良。
第99図 695	弥生土器 甕	O-21	S115	2層	(1.5)	-	-	ナデ, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石 2mm 以下, 赤色粒子・角閃石 1mm 以下	
第99図 696	弥生土器 甕	O-21	S115	1層	(7.3)	-	8.0	ハケメ, ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 3mm 以下, 雲母・角閃石 1mm 以下	
第99図 697	弥生土器 蓋	O-21	S115	1層	(3.8)	(27.4)	-	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下, 角閃石・赤色粒子 2mm 以下	内器面に煤。

第2表-13 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第100図699	弥生土器 甕	O-21	S116	-	(2.3)	-	-	ナデか、キザミ目	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 1mm 以下	焼成不良。
第100図700	弥生土器 甕	O-21	S116	-	(4.0)	-	-	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第100図701	弥生土器 甕	O-21	S116	-	(13.7)	-	(8.0)	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	焼成不良。
第100図702	弥生土器 甕	O-21	S116	-	(5.8)	-	(8.0)	ナデ	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子・角閃石 1mm 以下	
第101図704	弥生土器 甕	Q-19	S117	-	(6.8)	-	-	横ナデ、ハケメ(縦)、ナデ、貼付突帯	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下、赤色粒子 1mm 以下	
第101図705	弥生土器 甕	Q-19	S117	-	(7.1)	-	7.3	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、角閃石 2mm 以下	
第101図706	弥生土器 甕	Q-19	S117	-	(4.1)	-	-	横ナデ、ナデ、ハケメ(縦)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子 2mm 以下、角閃石 1mm 以下	
第101図707	弥生土器 壺	Q-19	S117	-	(5.3)	(17.6)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子 3mm 以下、角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第101図708	弥生土器 甕	Q-19	S117	-	(3.0)	-	-	ナデ	工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第101図709	弥生土器 蓋	Q-19	S117	覆土 No.33	1.5	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英；少	口縁部内器面黒変(煤か)。
第102図711	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(6.1)	-	-	横ナデ、ナデ、キザミ目、貼付突帯	アゲ、指頭圧痕	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明褐 (7.5YR5/6)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子・角閃石・雲母 2mm 以下	
第102図712	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(8.1)	-	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第102図713	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(6.4)	-	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英 3mm 以下、赤色粒子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第102図714	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(5.8)	-	-	横ナデ、貼付突帯、キザミ目、ナデ	横ナデ、ナデ、一部工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・角閃石 3mm 以下、赤色粒子・雲母 2mm 以下	
第102図715	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(5.4)	-	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下、角閃石 1mm 以下	
第102図716	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(5.2)	(28.0)	-	横ナデ、ナデ、キザミ目、口縁端：赤彩	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、角閃石 2mm 以下	口縁端部に赤彩。
第102図717	弥生土器 甕	P-21	S118	-	(4.3)	-	(9.2)	ミガキ、ナデ	ミガキ	灰黄褐 (10YR5/2)	褐灰 (10YR4/1)	石英・長石・赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第102図718	弥生土器 蓋	P-21	S118	上層	(10.6)	28.0	-	横ナデ、ナデ、ハケメ(斜)	横ナデ、指頭圧痕、ハケメ(斜)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子・角閃石 2mm 以下、雲母 1mm 以下	内器面に煤。外器面に黒斑。
第107図720	弥生土器 甕	Q-21	S170	-	(12.3)	(30.4)	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯	横ナデ、ナデ、指頭圧痕	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、角閃石 1mm 以下	
第107図721	弥生土器 鉢	Q-21	S170	3層	(5.6)	(13.2)	-	ナデか、貼付突帯、キザミ目	ナデか	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第107図722	弥生土器 甕	Q-21	S170	-	(4.1)	-	-	ナデか	指頭圧痕、ナデか	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石 3mm 以下、角閃石 1mm 以下	
第107図723	弥生土器 蓋	Q-21	S170	-	(4.2)	(29.4)	-	ハケメ後ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 2mm 以下、雲母・角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第108図728	弥生土器 甕	R-21	S179	1層	(8.1)	-	-	不明瞭	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	3～4mmの小石粒、0.5～2mmの長石・石英・雲母	
第108図729	弥生土器 甕	R-21	S179	-	(6.8)	-	-	横ナデ(不明瞭)、不明瞭	横ナデ(不明瞭)、不明瞭	にぶい褐 (7.5YR6/3) 橙 (7.5YR7/6)	灰褐 (7.5YR5/2) 橙 (7.5YR7/6)	0.5～3mmの長石・石英・角閃石・雲母	穿孔か。
第108図730	弥生土器 蓋	R-21	S179	覆土 3層	(4.3)	天井径 (5.2)	-	ハケメ、ナデ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	細かい長石・石英；多	
第108図731	弥生土器 器台	R-21	S179	1層	(5.9)	-	(7.8)	不明瞭	不明瞭	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR6/6)	0.5～2mmの長石・石英・赤褐色粒	
第108図732	土製品 土弾	R-21	S179	覆土 2層	長さ 3.5	最大径 2.4	-	ナデ	ナデ	橙色 (7.5YR7/6) 灰黄褐色 (10YR5/2)	灰色 (7.5YR7/6) 灰黄褐色 (10YR5/2)	細かい長石；やや多	重さ：20g。
第109図735	弥生土器 甕	Q-21	S186	1層	(9.5)	(25.8)	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	横ナデ、ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・雲母・角閃石 2mm 以下、白色粒子 5mm 以下	焼成不良。
第109図736	弥生土器 甕	Q-21	S186	-	(2.5)	-	(6.4)	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 (5YR4/4)	灰褐 (7.5YR4/2)	石英・長石 3mm 以下、角閃石 1mm 以下、礫 4mm 以下	
第110図740	弥生土器 壺	Q-19	S195	-	(14.0)	-	6.1	不明瞭、工具ナデ	不明瞭、ナデ	橙 (5YR7/6) にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4) 明黄褐 (10YR7/6)	0.5～5mmの長石・石英；多、0.5～1mmの角閃石、微細な雲母	
第110図741	弥生土器 壺	Q-19	S195	-	31.9	(19.5)	7.1	ミガキ(不明瞭)	ミガキ(不明瞭)	浅黄橙 (7.5YR8/6) 橙 (2.5YR6/8)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.5～3mmの長石・石英；多、0.5～1mmの角閃石・雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑。全体歪み著しい為、図上復元。
第111図743	弥生土器 甕	P-18	S203	-	(8.0)	(29.8)	-	ナデ、貼付突帯、キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・黒曜石 2mm 以下	
第111図744	弥生土器 甕	P-18	S203	-	(6.4)	-	-	横ナデ、ナデ、貼付突帯、赤彩	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、赤色粒子 2mm 以下、角閃石 1mm 以下	外器面に赤彩。
第111図745	弥生土器 甕	P-18	S203	-	(5.3)	-	-	ハケメ、ナデ、貼付突帯、キザミ目	指頭圧痕、ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第111図746	弥生土器 甕	P-18	S203	覆土	(5.1)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・角閃石；多	

第2表-14 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラツト	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第111図 747	弥生土器 鉢	P-18	S203	No.5	(4.9)	-	-	キザミ目、ナデ、 指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	細かい長石・石英・や や多	
第111図 748	弥生土器 壺	P-18	S203	-	(6.6)	(17.6)	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ、指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第111図 749	弥生土器 壺	P-18	S203	No.37	(5.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	黄褐 (10YR5/6)	細かい長石・石英・角 閃石；多	
第111図 750	弥生土器 甗	P-18	S203	-	(7.2)	-	6.3	ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第111図 751	弥生土器 蓋	P-18	S203	No.4	(4.0)	-	(6.0)	ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	細かい長石・石英・角 閃石；多	
第111図 752	弥生土器 蓋	P-18	S203	No.45	(3.4)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・石英・角 閃石；多	端部黒変(煤か)。
第111図 753	弥生土器 蓋か	P-18	S203	No.39	(1.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石；多、角閃石； 僅	
第112図 754	弥生土器 甗	R-21	S204	-	(7.4)	(27.6)	-	横ナデ、キザミ 目、貼付突帯、ナ デ	横ナデ、ナデ	黄灰 (2.5YR4/1)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石1mm以下	
第112図 755	弥生土器 甗	R-21	S204	-	(7.8)	-	(6.8)	ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、赤色粒 子3mm以下、角閃石 2mm以下	焼成不良。
第112図 756	弥生土器 壺	R-21	S204	-	(4.0)	-	(8.0)	ミガキか	ミガキか	橙 (2.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	焼成不良。
第114図 759	弥生土器 甗	H-9・10	S218	2～5層	(14.1)	23.8	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目、ハケメ(縦)	横ナデ、指頭圧 痕、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・雲母・角閃 石2mm以下	
第114図 760	弥生土器 甗	H-9・10	S218	2～4層	(7.8)	(23.6)	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目	横ナデ、ナデ、指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第114図 761	弥生土器 甗	H-9・10	S218	2～4層	(10.5)	(26.0)	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目	横ナデ、指頭圧 痕、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石2mm 以下、雲母1mm以下	内器面に黒斑。
第114図 762	弥生土器 甗	H-9・10	S218	5層	(11.4)	(20.6)	-	横ナデ、ナデ、キ ザミ目、貼付突 帯、ハケメ(縦)	ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石・雲母1mm以 下	焼成不良。
第114図 763	弥生土器 甗	H-9・10	S218	5層	(10.7)	-	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目、ハケメ(縦/ 斜)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	外器面に黒斑。
第114図 764	弥生土器 甗	H-9・10	S218	中層	(8.0)	-	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目、ハケメ(縦/ 斜)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・黒色粒子・ 角閃石2mm以下	
第114図 765	弥生土器 甗	H-9・10	S218	2～4層	(20.4)	(24.8)	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目、ハケメ(縦)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、角閃石 2mm以下	
第114図 766	弥生土器 甗	H-9・10	S218	上・中層	(14.7)	(23.4)	-	横ナデ、ナデ、貼 付突帯、キザミ 目、ハケメ(縦/ 斜)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、雲母・角閃 石2mm以下	
第114図 767	弥生土器 甗	H-9・10	S218	2～4層	(6.5)	-	7.1	ナデ	ナデ	橙 (5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第114図 768	弥生土器 甗	H-9・10	S218	5層	(21.9)	-	-	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、礫5mm以 下、角閃石3mm以下	外器面に煤。
第114図 769	弥生土器 甗	H-9・10	S218	5層	(11.0)	-	6.4	ハケメ(縦/斜)、 ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	褐灰 (10YR4/1) 以下、	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子2mm 以下、	
第114図 770	弥生土器 壺	H-9・10	S218	5層	(7.6)	(15.5)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、礫5mm以 下、角閃石2mm以下	焼成不良。
第114図 771	弥生土器 壺	H-9・10	S218	5層	(7.9)	-	-	剥落、赤彩	剥落、赤彩	赤彩：橙 (7.5YR6/6)	赤彩：(5YR7/6)	細かい長石・石英・角 閃石；少	外・内器面に赤 彩。
第114図 772	弥生土器 壺	H-10	S218	6層	(16.2)	-	-	ハケメ後ナデ	ハケメ	灰褐色 (7.5YR6/2)	浅黄橙 (2.5YR8/3)	細かい長石・角閃石・ 金雲母；少	
第114図 773	弥生土器 壺	H-9・10	S218	4層	(18.3)	-	-	剥落	ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (2.5YR8/2)	細かい長石・角閃石； 多、角閃石；少	
第115図 774	弥生土器 蓋	H-9・10	S218	中層	(11.2)	-	フミ径 6.6	指頭圧痕、ナデ、 ヘラケズリ(横)	工具痕、ナデ、ヘ ラミガキか(横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、角閃石 1mm以下	外器面に黒斑。内 器面に煤。
第115図 775	弥生土器 蓋	H-9・10	S218	2～4層	(5.5)	-	フミ径 6.0	ナデ、ハケメ	ナデか	浅黄 (2.5YR7/3)	浅黄 (2.5YR7/3)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第115図 776	弥生土器 蓋	H-9・10	S218	中層	(4.5)	-	フミ径 5.6	ハケメ(縦)、ナ デ	ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子2mm以下	
第115図 777	弥生土器 器台	H-9・10	S218	2～4層	(6.9)	-	(7.2)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、角閃石 1mm以下	混入品
第115図 778	土師器 壺	H-9・10	S218	中層	(8.3)	-	-	ナデ、ハケメ(横、 縦)	ナデ、ケズリ(横)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下、 礫7mm以下、赤色粒 子2mm以下、雲母・ 角閃石1mm以下	混入品
第115図 779	弥生土器 高坏	H-10	S218	1層	(5.5)	-	-	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	細かい長石・石英・や や多、角閃石・金雲母； 僅	混入品
第116図 780	弥生土器 甗	H-10	S220	-	(2.1)	-	-	不明瞭	不明瞭	橙 (5YR7/8)	橙 (2.5YR7/8)	3mm以上の小石粒； 少、0.5～2mmの長石・ 石英・雲母	
第116図 781	弥生土器 甗	H-10	S220	-	(2.0)	-	-	横ナデ、ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母	
第116図 782	弥生土器 甗	H-10	S220	-	(2.0)	-	-	横ナデ	横ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母	内外面ともに煤。

第2表-15 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第116図 783	弥生土器 甕	H-10	S220	-	(2.3)	-	-	不明瞭, 工具痕 か, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・赤褐色粒	
第116図 784	弥生土器 甕	H-10	S220	-	(1.8)	-	-	横ナデ	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4) 灰黄褐 (10YR6/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第116図 785	弥生土器 甕	H-10	S220	-	(3.1)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	3mm程の小石粒; 少 0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第116図 786	弥生土器 甕	H-10	S220	-	(3.1)	-	-	横ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第116図 787	弥生土器 甕	H-10	S220	-	(5.7)	-	(6.7)	ナデ	ナデ(不明瞭)	橙(5YR7/6) にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	
第116図 788	弥生土器 甕	H-10	S220	下層	(3.7)	-	(7.7)	不明瞭, ナデ	-	黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	外器面に黒斑。
第117図 789	弥生土器 甕	S-22	S241	-	(3.8)	-	-	横ナデ, 不明瞭	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英	
第117図 790	弥生土器 甕	S-22	S241	-	(1.3)	-	-	不明瞭, 横ナデ	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	3mm以上の小石粒; 少0.5~2mmの長石・ 石英・角閃石・雲母・ 赤褐色粒	
第117図 791	弥生土器 甕	S-22	S241	-	(9.0)	-	(6.8)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子・3mm以下, 雲母・角 閃石・黒曜石1mm以下	
第117図 792	弥生土器 甕	S-22	S241	-	(2.8)	-	-	横ナデ, 不明瞭, 工具ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	3~4mmの小石粒; 少0.5~2mmの長石・ 石英・雲母・赤褐色粒	
第117図 793	弥生土器 蓋	S-22	S241	-	(4.4)	-	(34.0)	ハケメ後ナデ	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	黄橙(10YR8/6) 黒褐(10YR3/2)	3~5mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 赤褐色粒	
第119図 794	弥生土器 甕	N-18	S246	-	(15.4)	22.6	-	横ナデ, キザミ 目, 不明瞭, ハケ メ	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/3) 暗褐(10YR3/4)	明褐(7.5YR5/6) 黒褐(10YR2/3)	微細~5mm程の長石・ 石英; 多	
第120図 795	弥生土器 甕	S-22	S249	-	(5.0)	-	-	横ナデ, 不明瞭	横ナデ, 不明瞭	にぶい黄褐 (10YR6/3)	明黄褐 (10YR6/6)	0.5~3mmの長石・石 英・角閃石	
第120図 796	弥生土器 甕	S-22	S249	-	(1.5)	-	-	不明瞭, キザミ 目	不明瞭	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石	
第122図 797	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(4.1)	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下, 雲母・角閃石1mm以 下	
第122図 798	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(4.6)	-	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ, キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 799	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(1.0)	-	-	ナデ, 赤彩	ナデ, 赤彩	赤彩: 赤褐 (10Y4/4)	赤彩: 赤褐 (10Y4/4)	細かい長石・石英; や や多	外・内器面に赤 彩。
第122図 800	弥生土器 壺	K-14	S250	下層	(2.3)	-	-	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	
第122図 801	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(5.6)	-	(6.6)	ナデ, ハケメ	ナデ	橙(5YR7/6)	浅黄((2.5YR7/3)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 黒曜石4mm以下	
第122図 802	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(5.3)	-	(7.5)	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下	
第122図 803	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(6.1)	-	6.3	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 1mm以下	焼成不良。
第122図 804	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(6.8)	-	(7.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・黒曜石 3mm以下, 赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第122図 805	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(5.3)	-	(5.8)	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石・雲 母2mm以下	焼成不良。
第122図 806	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(6.8)	-	9.8	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 807	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(7.6)	-	6.8	ハケメ, ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第122図 808	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(5.2)	-	(6.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第122図 809	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(5.9)	-	(6.0)	ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石1mm以下	
第122図 810	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(4.4)	-	(6.9)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石1mm以下	
第122図 811	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(3.5)	-	5.0	ハケメ, ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石3mm以下	
第122図 812	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(7.0)	-	7.2	ナデ, 工具痕	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 813	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(4.9)	-	(8.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第122図 814	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(5.5)	-	8.2	ナデか	ナデか	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石3mm以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第122図 815	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(6.5)	-	7.4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 816	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(6.7)	-	(7.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 817	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(3.9)	-	6.4	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄((2.5YR7/3)	石英・長石4mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第122図 818	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(5.1)	-	(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	

第2表-16 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第122図 819	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(2.5)	-	(11.4)	ナデカ	ナデカ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第122図 820	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(2.9)	-	6.0	ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 821	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(3.0)	-	(7.2)	ナデカ	ナデカ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm以下, 赤色粒・角閃石 1mm 以下	
第122図 822	弥生土器 壺	K-14	S250	上層	(4.7)	-	5.6	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	
第122図 823	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(4.1)	-	(8.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第122図 824	弥生土器 蓋	K-14	S250	下層	(4.2)	-	7.7 (5.0)	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石 3mm以下, 礫 5mm以下, 赤色粒子 2mm以下, 雲母・ 角閃石 1mm以下	
第122図 825	弥生土器 甕	K-14	S250	上層	(3.9)	(21.0)	-	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英; 少	
第122図 826	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(4.7)	-	7.8	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	
第122図 827	弥生土器 甕	K-14	S250	下層	(6.5)	-	9.1	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第122図 828	弥生土器 高坏	K-14	S250	下層	(8.0)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石 3mm以下	
第122図 829	弥生土器 高坏	K-14	S250	下層	(10.8)	-	-	ナデ, 赤彩	ナデ, 坏; 赤彩	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	長石・石英 4mm以下, 赤色粒子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	焼成不良。外器面 ・内器面坏部に赤 彩。
第122図 830	手捏土器 鉢	J-14 J-15	S250	下層	7.2	(6.2)	6.7	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	3mm大の石英; 極僅, 細かい長石石英角閃石; 多	
第123図 833	弥生土器 甕	O-20	S254	-	(7.3)	(26.2)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ後ナデ, 貼付 突帯, キザミ目	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	焼成不良。
第123図 834	弥生土器 甕	O-20	S254	-	(16.5)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	焼成不良。
第123図 835	弥生土器 甕	O-20	S254	-	(10.2)	-	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ後ナデ, 貼付 突帯, キザミ目	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm以下	
第123図 836	弥生土器 甕	O-20	S254	-	(3.8)	-	7.5	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子 3mm以下	
第123図 837	弥生土器 甕	O-20	S254	-	(7.7)	-	6.7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm以下, 礫 7mm以下	焼成不良。
第124図 839	弥生土器 甕	O-19	S255	1層	(4.0)	-	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 4mm以下, 赤 色粒子・角閃石 1mm以下	
第125図 840	弥生土器 甕	O-19	S256	-	(10.8)	(18.8)	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	指頭圧痕, 工具 痕	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm以下, 赤 色粒子・角閃石 2mm以下	焼成不良。
第125図 841	弥生土器 甕	O-19	S256	-	(17.4)	(28.0)	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ目	ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第125図 842	弥生土器 甕	O-19	S256	1層	(5.4)	-	-	ナデカ	ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	細かい長石・石英; 多	
第125図 843	弥生土器 甕	O-18 ・19	S256	-	(8.4)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ目	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 礫 5mm以下, 角閃石 2mm以下	
第125図 844	弥生土器 甕	O-19	S256	-	(4.5)	-	7.6	不明	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石 4mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第125図 845	弥生土器 甕	O-19	S256	-	(5.2)	-	6.2	ナデ, 工具痕	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	
第125図 846	弥生土器 蓋	O-19	S256	-	(2.8)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (2.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英; 多	
第128図 847	弥生土器 甕	N-17	S260	-	(2.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～2mmの長石・石 英	
第128図 848	弥生土器 壺	N-17	S260	2層	(1.6)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	黒褐 (10YR3/2)	黒褐 (2.5Y3/2)	0.5～2mmの長石・石 英・赤褐色粒	
第128図 849	弥生土器 甕	N-17	S260	1層	(4.7)	-	4.9	ハケメ, ナデ	不明瞭	黒 (2.5Y2/1)	黒褐 (2.5Y3/1)	0.5～2mmの長石・石 英	
第128図 850	弥生土器 甕	N-17	S260	-	(4.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐 (2.5Y5/6) 黄褐 (2.5Y5/3)	浅黄 (2.5Y7/4)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	
第128図 851	弥生土器 甕	N-17	S260	1層	-	-	(10.6)	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	3～4mmの小石粒; 少, 0.5～2mmの長石・ 石英・雲母・赤褐色粒	
第128図 852	弥生土器 甕	N-17	S260	1層	(6.8)	-	8.7	ハケメ, ナデ, 工 具ナデ	ナデ, 指頭圧痕	橙 (2.5YR6/8)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	
第130図 853	弥生土器 甕	N-17	S262	3層	(7.8)	(37.7)	-	横ナデ, キザミ 目	横ナデ, ナデ	灰黄 (2.5Y6/2) にぶい黄橙 (10YR7/4)	暗灰黄 (2.5Y5/2) 灰黄褐 (10YR4/2)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第130図 854	弥生土器 甕	N-17	S262	中・下層	(2.4)	-	-	横ナデ	ナデ	浅黄 (2.5Y7/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	3～4mmの小石粒, 0.5 ～2mmの長石・石英・ 赤褐色粒	
第130図 855	弥生土器 甕	N-17	S262	下層	(5.4)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3) にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～2mmの長石・石 英・赤褐色粒	
第130図 856	弥生土器 甕	N-17	S262	5層	(2.9)	-	-	横ナデ	ナデ, 指頭圧痕	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石・赤褐色粒	沈線あり。
第130図 857	弥生土器 甕	N-17	S262	上層	(9.1)	(28.6)	-	横ナデ, キザミ 目, ハケメ後横 ナデ	横ナデ, キザミ 目	褐 (10YR4/4) 暗褐 (10YR3/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	3～4mmの小石粒, 0.5 ～2mmの長石・石英・角 閃石・雲母・赤褐色粒	
第130図 858	弥生土器 甕	N-17	S262	中・下層	(7.3)	-	-	不明瞭	不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	3～4mmの小石粒, 0.5 ～2mmの長石・石英・ 赤褐色粒	

第2表-17 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿函 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラト	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第130図 859	弥生土器 甕	N-17	S262	5層	(8.1)	-	(8.0)	ナデ, 指頭圧痕	不明瞭, ナデ, 指頭圧痕	浅黄橙 (10YR8/4, 7.5YR8/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	3~4mmの小石粒, 0.5~2mmの長石・石英・角閃石・赤褐色粒	
第130図 860	弥生土器 壺	N-17	S262	上層	(2.3)	-	(4.8)	ヘラ調整, 不明瞭	ナデ	暗褐 (10YR3/3)	褐 (7.5YR4/3)	0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	
第130図 861	弥生土器 壺	N-17	S262	6層	(4.4)	-	5.6	工具ナデ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5~2mmの長石・石英・角閃石	外器面に黒斑。
第130図 862	弥生土器 蓋	N-17	S262	1層	(1.5)	-	-	ナデ, 横ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	暗褐 (10YR3/3) にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石英	内器面に煤。
第131図 863	弥生土器 甕	I-9・10	S263	-	(5.0)	-	(5.6)	ナデ, ミガキ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm以下	
第132図 864	弥生土器 甕	J-11	S265	-	(4.8)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	0.5~2mmの長石・石英・雲母	
第132図 865	弥生土器 甕	J-11	S266	-	(2.0)	-	-	横ナデ	横ナデ, ナデ	明褐 (7.5YR5/8)	明褐 (7.5YR5/6)	0.5~2mmの長石・石英・雲母	
第132図 866	弥生土器 甕	J-11	S267	-	(12.8)	(26.0)	-	横ナデ, キザミ目, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	外器面に煤か。
第132図 867	弥生土器 甕	J-11	S267	-	(15.5)	(26.7)	-	不明瞭, 横ナデ	横ナデ, 不明瞭	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第133図 868	弥生土器 甕	J-11	S272	-	(3.1)	-	-	横ナデ, ナデ	ナデ	暗褐 (10YR3/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	0.5~2mmの長石・石英	
第134図 869	弥生土器 甕	J-11	S273	-	(8.4)	(24.9)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ	黒褐 (10YR3/2) にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	3~4mmの小石粒, 0.5~2mmの長石・石英・雲母	
第135図 870	弥生土器 甕	O-20	S274	-	(6.6)	-	6.5	ナデ, ケズリ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm, 礫6mm	焼成不良。底部外面圧痕(植物原体か)。
第135図 871	弥生土器 甕	O-20	S274	-	(4.3)	-	(6.2)	ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子2mm以下	
第135図 872	弥生土器 甕	O-20	S274	-	(6.9)	-	8.9	ナデ, ナデによる沈線	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第135図 873	弥生土器 甕	O-20	S274	-	(5.2)	-	7.6	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第135図 874	弥生土器 甕	O-20	S274	覆土	(1.3)	-	-	ナデ, キザミ目	-	浅黄橙 (7.5YR8/6)	-	細かい長石・石英・角閃石; やや多	
第136図 875	弥生土器 甕	O-16	S275	-	(4.8)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石英・角閃石・赤褐色粒	
第136図 876	弥生土器 甕	O-16	S275	-	(1.7)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	明赤褐 (5YR5/8) にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	0.5~2mmの長石・石英・雲母	
第137図 877	弥生土器 甕	I-11	S288	-	(15.1)	(26.6)	-	キザミ目, ハケメ(不明瞭)	不明瞭	黒褐 (10YR2/3)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	微細~4mm程の長石・石英・雲母; 多	
第137図 878	弥生土器 甕	I-11	S288	-	(4.0)	-	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR6/6)	微細~3mm程の長石・石英; 多	
第137図 879	弥生土器 甕	I-11	S288	-	(11.4)	-	7.4	ハケメ, ハケメ後ナデ, ナデ	ナデ, 工具ナデ	明赤褐 (5YR5/8) 明褐 (7.5YR5/6)	黒褐 (10YR2/3)	微細~3mm程の長石・石英・雲母; 多	
第137図 880	弥生土器 甕	I-11	S288	-	(7.2)	-	7.0	ハケメ, ナデ, 工具ナデ	工具ナデ, ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	微細~3mm程の長石・石英・赤褐色粒; 多	
第137図 881	弥生土器 蓋	I-11	S288	-	(6.0)	-	上部径6.2	ナデ, ハケメ	工具ナデ, ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6) にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR7/6)	微細~2mm程の長石・石英; 多	
第138図 882	弥生土器 甕	O-18	S293	-	(6.9)	(27.0)	-	横ナデ, 指頭圧痕, 不明瞭	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英	外器面一部に煤。
第138図 883	弥生土器 甕	O-18	S293	-	(12.2)	(25.2)	-	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	横ナデ, キザミ目, ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5~4mmの長石・石英; 多, 0.5~2mmの角閃石・雲母・赤褐色粒; 少	外・内器面に黒斑。
第138図 884	弥生土器 甕	O-18	S293	-	(14.2)	-	8.0	ナデ, 工具痕	ナデ(不明瞭)	淡黄 (2.5YR8/4)	黄橙 (10YR8/6)	1~2mmの長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒; 多	外器面に黒斑。
第138図 885	弥生土器 甕	O-18	S293	-	(7.1)	-	(7.8)	不明瞭	ナデ	橙 (2.5YR6/8)	灰黄褐 (10YR4/2)	0.5~2mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒; 多	外・内器面に煤。
第138図 886	弥生土器 壺	O-18	S293	-	(16.1)	-	(7.2)	不明瞭, ハケメ後ナデ(不明瞭), 赤彩	摩滅	黄橙 (10YR8/6) 赤彩; にぶい赤褐 (5YR4/4)	明黄褐 (10YR7/6)	3mm程の小石粒; 少, 0.5~2mmの長石・石英; 多, 微細な角閃石・雲母・赤褐色粒; 少	やや不良外器面腰部に赤彩残る。
第138図 887	弥生土器 壺	O-18	S293	-	(10.6)	-	8.1	ナデ(不明瞭), 工具ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭), 指頭圧痕	褐灰 (10YR4/1) 灰黄褐 (10YR5/2)	暗灰黄 (2.5Y5/2)	1~3mmの長石・石英・角閃石・雲母	外・内器面に黒斑。歪み大。
第139図 888	弥生土器 甕	O-18	S294	-	(3.3)	-	-	横ナデ, ハケメ(不明瞭)	ナデ	橙 (5YR7/6)	赤橙 (10R6/6)	0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	やや不良
第139図 889	弥生土器 壺	O-18	S294	-	(13.6)	-	10.2	不明瞭	指頭圧痕	褐 (10YR4/6)	黄褐 (10YR5/6)	5~8mmの小石粒, 0.5~2mmの長石・石英	外・内器面腰部に黒斑。
第140図 891	弥生土器 甕	O-19	S297	-	(6.4)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯, キザミ目	横ナデ, ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・角閃石3mm以下, 赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第140図 892	弥生土器 甕	O-19	S297	-	(3.8)	-	-	横ナデ, ナデ, キザミ目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 雲母・赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第140図 893	弥生土器 甕	O-19	S297	-	(10.9)	-	7.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下, 礫5mm以下	焼成不良。
第140図 894	弥生土器 甕	O-19	S297	-	(8.9)	-	7.3	指頭圧痕	指頭圧痕	橙 (5YR6/8)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・赤色粒子3mm以下	
第140図 895	弥生土器 甕	O-19	S297	-	(5.9)	-	6.0	ナデ	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石4mm以下, 角閃石・雲母2mm以下, 黒曜石6mm以下	
第141図 896	弥生土器 甕	K-10	S299	-	(4.9)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯, キザミ目	横ナデ, 指頭圧痕, ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・角閃石・赤色粒子2mm以下	
第141図 897	弥生土器 甕	K-10	S299	-	(7.3)	-	6.7	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下	焼成不良。
第142図 898	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(5.4)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼付突帯	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子2mm以下	
第142図 899	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(2.8)	-	-	ナデ, 横ナデ	ナデ	にぶい橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石・雲母2mm以下	

第2表-18 出土遺物観察表(土器・土製品)

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量(cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第142図 900	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(1.5)	-	-	横ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,角閃石 1mm以下	焼成不良。
第142図 901	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(1.1)	-	-	横ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下	
第142図 902	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(5.3)	-	-	横ナデ,ナデ	ナデ,指頭圧痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・雲母 3mm以下,赤色粒子・ 角閃石2mm以下	
第142図 903	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(3.4)	-	-	横ナデ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・雲母・角閃 石2mm以下	
第142図 904	弥生土器 甕	I-11	S303	-	(1.8)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石・雲母2mm 以下	
第143図 905	弥生土器 甕	I-11	S304	-	(3.3)	-	-	横ナデ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石・雲 母2mm以下	
第143図 906	弥生土器 甕	I-11	S304	-	(2.5)	-	-	横ナデ,刺突文	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石2mm以下	
第145図 907	弥生土器 甕	P-18	S311	-	(6.4)	(25.0)	-	横ナデ,ナデ,キ ザミ目,貼付突 帯	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙(5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 角閃石2mm以下,赤 色粒子・黒曜石3mm 以下,	焼成不良。
第145図 908	弥生土器 壺	P-18	S311	-	(6.7)	-	7.4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石3mm以下	
第146図 909	弥生土器 甕	P-18	S313	-	(2.4)	-	-	横ナデ	横ナデ,ナデ	橙(2.5YR6/8)	明赤褐 (2.5YR5/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	
第147図 910	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(8.3)	(26.0)	-	横ナデ,キザミ 目,貼付突帯	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子・角閃石・ 角閃石2mm以下	外器面に黒斑。
第147図 911	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(21.4)	(29.2)	-	ハケメか,ナデ, 貼付突帯,キザミ 目	指頭圧痕,ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下,礫 4mm以下	
第147図 912	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(10.2)	(23.8)	-	横ナデ,ナデ,キ ザミ目,貼付突 帯	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm 以下	
第147図 913	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(10.2)	(26.8)	-	横ナデ,キザミ目 ナデ	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面に黒斑。
第147図 914	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(7.4)	-	-	横ナデ,ナデ	不明瞭	浅黄橙(10YR8/4) にぶい黄褐 (10YR5/4)	浅黄橙(10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	外器面に煤。
第147図 915	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(7.4)	(21.8)	-	ハケメ,ナデ,貼 付突帯,キザミ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第147図 916	弥生土器 壺	M-17	S362	-	(5.1)	-	(7.0)	ナデ	ナデ,指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石4mm以下, 礫7mm以下,赤色粒子 ・角閃石2mm以下	焼成不良。
第147図 917	弥生土器 甕	M-17	S362	-	(12.1)	-	10.1	ヘラミガキ,ナデ	ヘラミガキ,ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,礫6mm以下	外器面に黒斑。
第147図 918	弥生土器 蓋	M-17	S362	-	(8.3)	25.4	-	横ナデ,ミガキ (縦),工具痕	横ナデ,ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石1mm 以下	
第151図 919	弥生土器 甕	L-14	S80	最下層	(21.3)	(24.0)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,ハケメ (縦),キザミ目	横ナデ,ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 4mm以下,黒曜石3mm 以下,角閃石3mm以下, 礫5mm以下	焼成不良。
第151図 920	弥生土器 甕	L-14	S80	中層	(10.2)	(25.4)	-	ナデ	横ナデ,ナデ,貼 付突帯	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子3mm以下,角 閃石2mm以下	焼成不良。
第151図 921	弥生土器 甕	M-13	S80	中層	(11.5)	(21.2)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯	横ナデ,ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子・ 雲母2mm以下	
第151図 922	弥生土器 甕	L-14	S80	下層	(16.5)	(24.3)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,キザミ目	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石2mm以下	
第151図 923	弥生土器 甕	L-15	S80	上層	(8.5)	(17.7)	-	横ナデ,貼付突帯, ハケメ後ナデ	ナデ,指頭圧痕,ハ ケメ後ナデ(斜)	橙5YR6/6)	橙5YR6/6)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm 以下	
第151図 924	弥生土器 甕	K-16	S80	中層	(10.7)	(27.2)	-	横ナデ,ハケメ (縦),ナデ,キザ ミ目,貼付突帯	横ナデ,ハケメ (横)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,角閃石2mm 以下	
第151図 925	弥生土器 甕	M-13	S80	最下層	(11.0)	(25.7)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,キザミ目	横ナデ,ナデ	暗灰黄 (2.5YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR7/3)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・雲母2mm 以下	
第151図 926	弥生土器 甕	L-14	S80	最下層	(8.3)	(22.8)	-	横ナデ,ナデ,貼 付突帯,キザミ目	横ナデ,ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm 以下	
第152図 927	弥生土器 甕	L-16	S80	覆土上位	(5.1)	-	5.0	ナデ,ハケメか	ナデか	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細かい長石・石英;多	
第152図 928	弥生土器 甕	L-15	S80	中層	(7.9)	-	7.0	ナデ,工具痕	ナデ	浅黄2.5Y7/3)	浅黄2.5Y7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,角閃石2mm 以下	
第152図 929	弥生土器 甕	L-15	S80	上層	(6.4)	-	7.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 2mm以下	
第152図 930	弥生土器 甕	K-16	S80	最下層	(6.9)	-	7.6	ナデ,工具痕,ハ ケメ(縦)	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 礫5mm以下・赤色 粒子3mm以下,雲母 2mm以下	
第152図 931	弥生土器 甕	K-16	S80	上層	(6.4)	-	5.6	ナデ,ミガキ(縦)	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm 以下	焼成不良。
第152図 932	弥生土器 甕	L-15	S80	最下層	(7.0)	-	-	ナデ,工具痕	ナデ,ハケメ(縦)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	
第152図 933	弥生土器 甕	L-15	S80	中層	(7.9)	-	6.7	ナデ,工具痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下,角閃石 2mm以下	底部に穿孔。
第152図 934	弥生土器 壺	L-15	S80	中層	(7.7)	(12.8)	-	横ナデ,ナデ,沈 線文	横ナデ,指頭圧痕, ハケメ後ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm 以下	
第152図 935	弥生土器 壺	K-16	S80	覆土上位	(6.1)	-	-	ナデ,突帯	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	黄橙(10YR8/6)	細かい長石・石英・角 閃石;少	

第2表-19 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿函番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第152図936	弥生土器壺	L-15	S80	下層	15.0	(7.8)	5.1	横ナデ、ナデ、工具痕、ミガキ(横/斜)、沈線文、指頭圧痕	横ナデ、ナデ、工具痕、指頭圧痕	にぶい黄褐(10YR6/4)	褐灰(10YR4/1)	石英・長石4mm以下、赤色粒子3mm以下、雲母・角閃石2mm以下	外器面に黒斑。
第152図937	弥生土器壺	K-16	S80	下層	(6.5)	-	5.8	ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5Y5/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英・長石4mm以下、赤色粒子・黒曜石3mm以下、角閃石2mm以下	焼成不良。
第152図938	弥生土器壺	K-16	S80	上層	(3.7)	-	7.4	ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄2.5Y7/3)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石2mm以下	
第152図939	弥生土器壺	M-13	S80	下層	(4.7)	-	6.0	ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子4mm以下、雲母3mm以下	外器面に黒斑。
第152図940	弥生土器壺	K-16	S80	③層	(5.4)	-	7.8	ハケメ後ナデ、底ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	淡黄(7.5YR8/3)	細かい長石・石英・褐色粒子、やや多、角閃石；少	
第152図941	弥生土器蓋	K-16	S80	-	(6.7)	-	ナミ径5.4	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR7/3)	灰黄褐(10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子・黒曜石4mm以下、角閃石2mm以下	
第152図942	弥生土器蓋	M-13	S80	下層	(3.8)	-	ナミ径4.6	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、角閃石2mm以下	外器面に黒斑。
第152図943	弥生土器甕	L-15	S80	上層	(5.9)	-	(8.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5YR6/3)	石英・長石4mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下、雲母1mm以下	
第152図944	弥生土器甕	L-14	S80	上層	(5.6)	-	-	ナデ	ナデ、脚内；ナデハケメ後ナデ	明褐色(7.5Y5/6)	明黄褐色(10YR7/6)	細粒～2mm大の石英；多、長石・角閃石；少	
第152図945	弥生土器壺	K-16	S80	下層	(6.6)	-	-	横ナデ、ハケメ後ナデ(斜、横)	横ナデ、ハケメ(横)後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石4mm以下、赤色粒子3mm以下、角閃石2mm以下	
第152図946	弥生土器高坏	L-14・15	S80	上層	(8.8)	-	-	ナデ、工具痕	ナデ、シボリ痕	にぶい黄褐(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子・角閃石2mm以下、雲母1mm以下	
第152図947	弥生土器高坏	K・L-16	S80	覆土上位	(6.7)	-	-	ナデか	ナデ、脚内；ケズリか	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細かい長石石英；やや多	
第152図948	弥生土器器台	K-16	S80	上層	(13.2)	-	-	横ナデ、ナデ、タタキ	横ナデ、指頭圧痕シボリ痕、ナデ	にぶい黄褐(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR6/4)	石英・長石4mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	
第152図949	弥生土器甕	K-16	S80	中層	(6.3)	-	-	貝殻条痕後ナデ、貼付突帯、キザミ目	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR4/1)	石英・長石3mm以下、赤色粒子2mm以下、雲母1mm以下	
第155図952	弥生土器上・北甕	G-7	S251	-	68.0	13.4	89.4	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm大の石英・長石；多	見かけ2条突帯
第155図953	弥生土器下・南甕	G-7	S251	-	66.8	13.2	88.0	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙(2.5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	1mm大の石英・長石；多	見かけ2条突帯
第155図954	弥生土器上甕	I-8・9	S316	-	68.0	11.0	110.0	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1mm大の石英を多く角閃石；少	三角形突帯1条
第155図955	弥生土器下甕	I-8・9	S316	-	67.0	12.0	104.8	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	1mm大の石英を多く角閃石・赤色粒子；僅	見かけ2条突帯
第157図956	弥生土器上(西)甕	H・I-8	S317	-	(57.4)	-	(52.8)	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	細かい石英・長石・赤色粒子；やや多	三角形突帯1条
第157図957	弥生土器下(東)甕	H・I-8	S317	-	(56.0)	12.0	83.7	ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	細かい石英・長石・赤色粒子；やや多	三角形突帯1条
第160図958	弥生土器上(西)甕	G・H-7	S347	-	(32.0)	7.0	48.6	ハケメ、ナデ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	細粒～1mm大の石英；やや多	口縁直下三角形突帯1条
第160図959	弥生土器下(東)甕	G・H-7	S347	-	35.2	7.8	55.3	ハケメ、ナデ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	細粒～1mm大の石英；多	口縁直下三角形突帯1条
第160図960	弥生土器甕	G・H-7	S345 S346	上層	34.4	(27.2)	6.6	横ナデ、ハケメ(不明瞭)、ナデ	横ナデ、ナデ	褐(7.5YR4/6) 明赤褐(5YR5/8)	にぶい黄褐(10YR5/4) 暗褐(10YR3/3)	微細～3mm程の長石・石英・雲母；少	口縁部～底部は中心軸が大きくずれている。
第160図961	弥生土器甕	G・H-7	S345 S346	下層	35.5	27.0	6.4	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ、ナデ	横ナデ、ナデ	橙(7.5YR7/6、5YR6/8) 明褐(7.5YR5/6)	橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	微細～3mm程の長石・石英；多、雲母；僅	外器面胴部を中心に煤。
第160図962	弥生土器甕	G-7・H-7	S346	-	(5.3)	-	7.2	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石英・長石・赤色粒子2mm以下、	
第160図963	弥生土器甕	G-7・H-7	S345	-	(5.5)	-	10.2	工具痕、ナデ	ケズリ、ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	石英・長石・角閃石・赤色粒子3mm以下、	
第160図964	弥生土器甕	G-7・H-7	S345	-	(12.6)	-	6.8	ヘラミガキ、ナデ	指頭圧痕、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、	外器面黒斑。
第161図965	弥生土器甕	F-6	S349	上層	(4.6)	-	(5.5)	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	焼成不良。
第163図966	弥生土器上(東)甕	J-8	S351	-	66.0	13.0	95.6	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細粒～1mm大の石英；多	見かけ2条突帯
第163図967	弥生土器下(西)甕	J-8	S351	-	65.2	10.6	89.4	ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	細粒～1mm大の石英・長石；多	コの字形突帯1条
第165図968	弥生土器上(東)甕	I-8	S363	-	50.0	11.4	66.8	ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm大の石英・長石；やや多	頸部に文様
第165図969	弥生土器下(西)甕	I-8	S363	-	55.2	10.4	87.0	ハケメか、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	明黄褐(10YR7/6)	細粒～1mm大の石英・長石；多	三角形突帯1条
第166図970	弥生土器上(西)甕	I-8	S364	-	25.4	-	(36.3)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	細かい石英；多、長石・角閃石；僅	口縁直下沈線1条
第166図971	弥生土器下(東)甕	I-8	S364	-	27.2	6.0	40.1	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	細粒～1mm大の石英を多く長石・角閃石；僅	口縁直下沈線1条
第167図972	弥生土器西(上)甕	H-7	S365	-	29.4	6.8	44.8	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4) 赤彩：明赤褐(2.5YR5/6)	灰(白(10YR8/2) 赤彩：明赤褐(2.5YR5/6)	細かい石英；多	外・内器面赤彩。口縁直下沈線1条
第167図973	弥生土器東(下)甕	H-7	S365	-	28.0	6.4	44.0	ハケメ後ナデか	ハケメ後ナデか	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	細かい石英を多く、長石・角閃石；少	口縁直下沈線1条
第168図974	弥生土器上(東)甕	H-7	S366	-	29.2	7.6	45.5	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	細かい石英・長石・角閃石；多	口縁直下三角形突帯1条
第168図975	弥生土器下(西)甕	H-7	S366	-	39.2	9.0	66.7	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	細粒～1mm大の石英を多く、長石・角閃石；少	口縁直下三角形突帯1条
第170図976	弥生土器小型単椀	C-7	S371	-	39.0	8.2	58.3	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm大の石英を多く長石・角閃石；僅	口縁直下三角形突帯1条
第172図977	弥生土器上(西)甕	C-7	S372	-	50.0	11.0	70.0	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	細粒～1mm大の石英・長石；多	外器面赤彩。見かけ2条突帯

第2表-20 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第172図 978	弥生土器 下(東)甕	G-7	S372	-	58.8	(12.6)	87.6	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	暗灰黄 (2.5Y4/2)	細粒~1mm大の石英; 多	見かけ2条突帯
第174図 979	弥生土器 上(東)甕	G-7	S373	-	59.4	11.6	92.2	ナデ	ナデ	灰(白(2.5Y8/2) 明黄褐 (10YR6/6)	褐(灰(10YR5/1)	細かい石英を多く、長 石・角閃石;少	見かけ2条突帯。 口唇部に文様
第174図 980	弥生土器 下(西)甕	G-7	S373	-	56.2	13.0	87.7	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細粒~1mm大の石英・ 長石・角閃石;やや多	三角形突帯1条
第175図 981	弥生土器 上(東)鉢	G-7	S374	-	(43.4)	-	(21.3)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい石英を多く角閃 石・金雲母;少	口縁直下三角形突 帯1条
第175図 982	弥生土器 下(西)甕	G-7	S374	-	(32.0)	8.7	50.1	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	細かい石英;多	口縁直下三角形突 帯1条
第178図 983	弥生土器 甕	O-21	S42	4層	(11.2)	(16.0)	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下	
第178図 984	弥生土器 鉢	O-21	S42	3・下層	(7.3)	(17.0)	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第178図 985	弥生土器 鉢	O-21	S42	-	(4.7)	(16.8)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子1mm 以下	
第178図 986	弥生土器 甕	O-21	S42	-	(4.4)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石2mm以下、 角閃石1mm以下	
第178図 987	弥生土器 甕	O-21	S42	-	(2.7)	-	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石・黒曜石1mm 以下	外器面に煤か。
第179図 992	弥生土器 甕	N-19	S46	2層	(3.3)	-	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	
第179図 993	弥生土器 甕	N-19	S46	2層	(3.2)	-	-	横ナデ, ナデ, キ ザミ目	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・角閃石 1mm以下	
第179図 994	弥生土器 甕	N-19	S46	2層	(6.9)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ 目	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第179図 995	弥生土器 甕	N-19	S46	1層	(4.1)	-	6.6	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第179図 996	弥生土器 蓋	N-19	S46	1層	(3.2)	-	7.2径 (5.2)	ナデ, 工具痕	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第179図 997	弥生土器 壺	N-19	S46	1層	(7.4)	-	-	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細砂~2mm大の長石 ・石英;多, 角閃石;僅	
第179図 998	弥生土器 壺	N-19	S46	2層	(3.3)	(23.0)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子1mm 以下, 礫3mm以下	
第181図 1001	弥生土器 高環	O-20	S66	-	(4.9)	(32.8)	-	ナデか	ナデか	明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子2mm 以下	焼成不良。
第181図 1002	弥生土器 壺	O-20	S66	No.7	(2.0)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英;多, 角閃石;僅	
第181図 1003	弥生土器 高環	O-20	S66	-	(5.5)	-	(20.6)	ナデか	ナデか, ケズリ	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英・長石・角閃石 1mm以下, 白色粒子 3mm以下	焼成不良。
第181図 1004	弥生土器 鉢	O-20	S66	下層	(12.2)	(17.2)	(6.2)	横ナデ, ハケメ, ナデか	横ナデ, ハケメ, ナデか	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	外器面に黒斑。
第181図 1005	弥生土器 鉢	O-20	S66	-	(8.1)	-	-	ナデ, ハケメ	ナデ, 指頭圧痕	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	外器面に黒斑。
第181図 1006	弥生土器 甕	O-20	S66	覆土か	(1.4)	-	-	ナデ, 刻目	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英・角 閃石;やや多	
第181図 1007	弥生土器 甕	O-20	S66	覆土か	(3.2)	-	-	ナデ	指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英;少	
第183図 1010	弥生土器 甕	P-20	S107	4層(炉 内)	(10.4)	(12.0)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第183図 1011	弥生土器 甕	Q-20	S107	上層	(2.6)	-	7.6	ナデ	ナデ	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 角閃石 1mm以下	
第183図 1012	弥生土器 鉢	P-20	S107	4層(炉 内)	(6.9)	(8.6)	(10.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	
第183図 1013	弥生土器 鉢	Q-20	S107	床直上	(3.9)	(18.8)	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第183図 1014	弥生土器 鉢	P-20	S107	-	(3.4)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	
第183図 1015	弥生土器 ジッキ	P・Q-20	S107	3層	(1.0)	-	(11.4)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子1mm 以下	
第183図 1016	弥生土器 甕	Q-20	S107	上層	(1.5)	-	-	ナデ, キザミ目	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 1mm以下	
第185図 1034	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(15.2)	(16.2)	-	ナデ, ケズリか	ナデ	褐 (7.5YR4/3)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第185図 1035	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(15.0)	(14.4)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第185図 1036	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(13.2)	(20.0)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ後ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石2mm, 赤色 粒子・角閃石1mm以 下	焼成不良。
第185図 1037	弥生土器 甕	S-22	S134	中層	(14.2)	(15.3)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	褐 (7.5YR4/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石・雲母・角 閃石2mm以下, 赤色粒 子・黒曜石4mm以下	
第185図 1038	弥生土器 甕	S-22	S134	下層	(18.0)	14.4	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	明赤褐 (5YR5/6)	石英・長石3mm以下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第185図 1039	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(12.8)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第185図 1040	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(13.6)	(18.1)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	外・内器面に黒 斑。
第185図 1041	弥生土器 甕	S-22	S134	覆土下位 No.5	(5.6)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (2.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	細かい長石・石英;や や多	
第185図 1042	弥生土器 甕	S-22	S134	下層	(3.2)	-	8.2	ナデか	ナデか, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石3mm以下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第185図 1043	弥生土器 甕	S-22	S134	1層	(4.3)	-	(10.9)	ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石3mm以下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	焼成不良。

第2表-21 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケリット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第185図 1044	弥生土器 甕	S-22	S134	上層	(7.0)	-	(10.6)	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	
第185図 1045	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(7.1)	-	(11.0)	ナデ	ナデ, 工具痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子 3mm 以下, 黒曜 石 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	
第185図 1046	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(6.4)	-	10.7	ナデ	指頭圧痕, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第185図 1047	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(7.3)	-	12.2	ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第185図 1048	弥生土器 甕	S-22	S134	-	(6.0)	-	(11.0)	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm 以下, 雲母・角 閃石 1mm 以下, 黒曜 石 1mm 以下	焼成不良。
第185図 1049	弥生土器 甕	S-22	S134	No.125・ 141	(3.3)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい橙 (2.5YR6/4)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	細かい長石・石英・少 角閃石・僅	
第185図 1050	弥生土器 甕	S-22	S134	N o.1	(4.2)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英・や や多, 角閃石・僅	
第185図 1051	弥生土器 甕	S-22	S134	No.11・ 12	(5.0)	-	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	細かい長石・石英・や や多, 角閃石・僅	
第185図 1052	手捏土器 鉢	S-22	S134	82	(6.3)	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 87.5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石・やや多	
第185図 1053	弥生土器 壺	S-22	S134	-	(3.5)	(23.5)	-	横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子 1mm 以下	外器面に黒斑。
第185図 1054	弥生土器 壺	S-22	S134	-	(8.0)	-	-	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 1mm 以下	焼成不良。
第185図 1055	弥生土器 壺	S-22	S134	-	(22.9)	-	-	ハケメ, ナデ, 波 状文	ハケメ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・角 閃石・赤色粒子 1mm 以下	外器面に黒斑。
第185図 1056	弥生土器 高杯	S-22	S134	-	(7.8)	(30.2)	-	横ナデ, ナデか	横ナデ, ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。内 器面は広範囲剥 離。
第185図 1057	弥生土器 高杯	S-22	S134	-	(3.4)	(21.4)	-	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 雲母・赤色粒子 1mm 以下	外器面に黒斑。
第185図 1058	弥生土器 高杯か甕	S-22	S134	-	(5.2)	-	(16.2)	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR5/3)	石英・長石・角閃石 1mm 以下	
第185図 1059	弥生土器 器台	S-22	S134	-	13.9	(9.5)	9.8	タタキ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石 3mm 以下	
第185図 1060	弥生土器 器台	S-22	S134	-	15.6	10.2	11.5	ナデ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子 2mm 以下, 礫 9mm 以 下	
第185図 1061	弥生土器 ジョッキ	S-22	S134	下層	12.0	10.2	10.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石 1mm 以下, 黒 曜石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第188図 1070	弥生土器 甕	S-21	S140	上層	(21.2)	(16.8)	-	横ナデ, ハケメ (縦/斜)	横ナデ, ハケメ (横/斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 4mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外器面に煤。
第188図 1071	弥生土器 甕	S-21	S140	2層	(17.9)	(19.3)	-	横ナデ, ハケメ (縦)	横ナデ, ハケメ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm 以下, 角閃石・雲 母 1mm 以下	
第188図 1072	弥生土器 甕	S-21	S140	下層	(7.9)	(18.4)	-	横ナデ, ハケメ (縦)	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・赤色粒 2mm 以 下, 長石 4mm 以下	
第188図 1073	弥生土器 甕	S-21	S140	床直上	(2.8)	(17.4)	-	横ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 礫 4mm 以下, 赤色粒 子・雲母 2mm 以下	
第188図 1074	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(8.3)	-	-	横ナデ	横ナデ, ハケメ (斜)	にぶい褐 (7.5Y5/4)	にぶい褐 (7.5Y5/4)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第188図 1075	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(14.9)	(21.2)	-	横ナデ, ハケメ (縦)	横ナデ, 指頭圧 痕, ハケメ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下	外器面に煤。
第188図 1076	弥生土器 甕	S-21	S140	-	16.1	(11.8)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(縦)	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	明赤褐 (2.5YR5/6)	黒褐 (5YR3/1)	石英・長石 4mm 以下, 礫 6mm 以下, 赤色粒 子 2mm 以下	焼成不良。
第188図 1077	弥生土器 鉢か	S-21 ・22	S140	覆土上位	(2.2)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石英・少	
第188図 1078	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(14.7)	-	10.1	横ナデ, ハケメ (斜/縦)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(横)	橙 ((2.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石 3mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒 子 2mm 以下	
第188図 1079	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(9.7)	-	-	ナデ, ハケメ(縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm 以下	
第188図 1080	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(6.9)	-	9.4	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第188図 1081	弥生土器 甕	S-21	S140	上・中層	(5.0)	-	-	ナデ	ナデ, 工具痕	にぶい橙 5YR6/4)	にぶい橙 5YR6/4)	石英・長石 4mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第188図 1082	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(10.3)	-	-	ナデ, ハケメ(縦)	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石 4mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第188図 1083	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(6.2)	-	11.6	ナデ, 工具痕	ナデ, 輪積痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石 2mm 以下, 赤色粒子 4mm 以下	
第188図 1084	弥生土器 甕	S-21	S140	-	(35.7)	25.8	-	刺突文, 指頭圧 痕, ハケメ(斜/ 縦), ナデ, タタ キ	指頭圧痕, ナデ, ハケメ(斜/横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 3mm 以下, 黒色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第188図 1085	弥生土器 壺	S-21	S140	-	(22.2)	16.0	-	横ナデ, 刺突文, ハケメ(斜)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(横), 指頭 圧痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 4mm 以下, 角閃石・雲 母 2mm 以下	
第188図 1086	弥生土器 壺	S-21	S140	-	(12.7)	(14.0)	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 4mm 以下, 礫 6mm 以下, 赤色粒 子・黒色粒子 3mm 以 下	

第2表-22 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第188図 1087	弥生土器 高坏	S-22	S140	覆土 No.14	(3.3)	-	-	ナデ	ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第188図 1088	弥生土器 高坏	S-21	S140	覆土上位	(2.8)	-	-	ナデ, ケズリ後 ナデか	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/8)	細かい長石・石英; 多	
第188図 1089	弥生土器 鉢	S-21	S140	床直上	10.6	19.7	-	横ナデ, 工具痕 (縦)	横ナデ, ハケメ (斜), ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第188図 1090	弥生土器 鉢	S-21	S140	-	7.9	18.4	-	ナデ	ナデ, ハケメ(斜)	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子 4mm 以下, 角閃石 2mm 以下	
第188図 1091	弥生土器 ジョッキ	S-21	S140	-	(7.1)	-	-	ナデ	ナデ, ハケメか	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・角閃石・ 雲母 2mm 以下, 赤色 粒子 3mm 以下	
第188図 1092	弥生土器 ジョッキ	S-21 ・22	S140	覆土上位	(3.7)	-	-	刺突突, ナデ	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	-	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第189図 1093	弥生土器 甗	S-21	S140	-	(8.4)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ 目	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄 (10YR5/2)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第189図 1094	弥生土器 甗	S-21	S140	-	(8.6)	-	8.2	ナデ, ハケメ(縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以 下, 赤色粒子・黒色粒 子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第190図 1101	弥生土器 甗	P-19	S194	-	(5.5)	(30.4)	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ 目	横ナデ, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	
第190図 1102	弥生土器 甗	P-19	S194	中～下層	(8.3)	-	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ目	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 1mm 以下	
第190図 1103	弥生土器 甗	P-19	S194	覆土1層	(8.7)	-	-	剥落	剥落	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細砂～2mm 大の長石 ・石英; やや多	
第190図 1104	弥生土器 蓋	P-19	S194	-	(6.6)	-	フマ径 6.4	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 1mm 以下, 燧 4mm 以下	外・内器面に煤 か。
第190図 1105	弥生土器 鉢	P-19	S194	中～下層	(3.7)	(16.8)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	
第190図 1106	弥生土器 鉢	P-19	S194	中～下層	(5.4)	-	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子 1mm 以下	
第191図 1108	弥生土器 甗	O-19	S221	6層	(3.1)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 4mm 以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第191図 1109	弥生土器 甗	O-19	S221	下層	(3.0)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 2mm 以 下, 角閃石 1mm 以下	
第191図 1110	弥生土器 甗	O-19	S221	上層	(3.5)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石 3mm 以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm 以下	
第191図 1111	弥生土器 高坏	O-19	S221	下層	(2.0)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 3mm 以 下, 角閃石 1mm 以下	
第191図 1112	弥生土器 高坏	O-19	S221	上層	(9.3)	-	-	指頭圧痕, ナデ	指頭圧痕, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 3mm 以 下, 赤色粒子・黒色粒 子 2mm 以下	
第191図 1113	弥生土器 鉢	O-19	S221	下層	(3.5)	-	-	横ナデ, 貼付突 帯	横ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・白色粒 子 3mm 以下	
第191図 1114	弥生土器 甗	O-19	S221	下層	(2.4)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	
第191図 1115	弥生土器 円板	O-19	S221	下層	-	直径 5.2	厚さ 1.1	ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	二次加工品。重 さ: 21g。
第193図 1120	弥生土器 甗	C-2	S141	上層	(36.4)	(18.8)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, タタキ後 ハケメ, ハケメ	ハケメ後横ナデ, 指頭痕, 脚部内: ハケメ	橙 (7.5YR7/6) (2.5YR7/8)	橙 (7.5YR7/6)	微細～5mm 以下の長石 ・石英・雲母・赤褐色 粒	外器面体部に黒 斑, 被熱し腰部赤 変, 中位に煤。
第193図 1121	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(11.8)	-	11.2	工具ナデ, 横ナ デ, ハケメ	ハケメ, ハケメ 後ナデ, ナデ, 横 ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4) にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4) 橙 (5YR6/6)	微細～2mm 程の長石・ 石英・赤褐色粒; 少	内器面に黒斑。
第193図 1122	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(17.8)	-	10.0	タタキ, 工具ナ デ, ハケメ, 横ナ デ	ハケメ後ナデ, 脚部; ハケメ, 工 具ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	微細～3mm 程の長石・ 石英; 多	外器面体部に黒 斑。
第193図 1123	土師器 甗	C-2	S141	-	(7.4)	-	12.1	ナデ, 横ナデ	ナデ, 脚内; ハケ メ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～2mm の長石・石 英・雲母	
第193図 1124	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(5.4)	-	(13.2)	ハケメ後ナデか, 横ナデ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～5mm 程の長石・ 石英; 多	内器面に黒斑。
第193図 1125	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(5.4)	-	(7.7)	工具ナデ, 横ナ デ, 工具痕か	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	微細～3mm 程の長石・ 石英; 少	
第193図 1126	土師器 甗	C-2	S141	-	(3.1)	-	-	ハケメ	ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR7/6)	微細～5mm 程の長石・ 石英; 少	
第193図 1127	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(6.1)	-	(10.6)	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	ナデ	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2) にぶい橙 (7.5YR6/4)	微細～3mm 程の長石・ 石英; 多	
第193図 1128	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(28.8)	18.3	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, タタ キ後ハケメ, ハ ケメ後ナデ	ハケメ後横ナデ, ハケメ後ナデ	橙 (5YR7/8, 7.5YR7/6)	橙 (5YR7/8)	3～5mm の小石粒, 0.5 ～2mm の長石・石英	外器面肩・腰部に 黒斑, 外器面の1/2 に煤, 一部赤変。
第193図 1129	弥生土器 甗	C-2	S141	-	37.4	21.7	-	横ナデ, ハケメ, タタキ, ハケメ 後ナデ(不明瞭)	ハケメ, ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6) 橙 (2.5YR6/6, 2.5YR6/8)	橙 (2.5YR6/6) 浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.5～2mm の長石・石 英; 多	外器面体部に黒 斑, 外器面の1/2 と内器面体部上半 赤変。
第193図 1130	弥生土器 甗	C-2	S141	-	34.0	17.7	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, タタ キ後ハケメ後ナ デか	ハケメ後横ナデ, ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	3～5mm の小石粒, 0.5 ～2mm の長石・石英・ 角閃石・赤褐色粒	外器面被熱し, 特 に胴部下半の器面 荒れている。一部 赤色化, 煤, 黒斑。
第193図 1131	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(11.5)	(17.0)	-	横ナデ, ハケメ, タタキ	ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR6/6)	微細～3mm 程の長石・ 石英・赤褐色粒; 少	外器面に黒斑。
第193図 1132	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(16.1)	17.4	-	横ナデ, ハケメ, タタキ後ハケメ	ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～1mm 程の長石・ 石英; 少	外器面に黒斑。
第193図 1133	弥生土器 甗	C-2	S141	-	(19.0)	(17.6)	-	横ナデ, タタキ	横ナデ, ハケメ	浅黄橙 (10YR8/4)	橙 (7.5YR7/6) 浅黄橙 (7.5YR8/6)	1～2mm の長石・石 英; 多, 3～5mm の長石・石 英, 微細な雲母	外器面に黒斑。

第2表-23 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第193図 1134	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(10.9)	-	-	ハケメ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6) 赤 (10R6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	微細～4mm程の長石・ 石英;多	
第193図 1135	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(11.2)	-	-	不明瞭	不明瞭	淡赤橙 (2.5YR7/3)	灰白 (10YR8/2)	微細～1mmの長石・石 英;多。2～4mmの長石 ・石英・微細な雲母・ 赤褐色粒	
第194図 1136	弥生土器 甕	C-2	S141	-	32.2	(22.7)	-	横ナデ,ハケメ後 横ナデ,タタキ, タタキ後ハケメ 後ナデか	横ナデ,ハケメ 後ナデ	灰黄褐 (10YR5/2) 明黄褐 (10YR7/6)	灰黄褐 (10YR5/2) 明黄褐 (10YR7/6)	3～4mmの小石粒,0.5 ～2mmの長石・石英・ 赤褐色粒	外器面下半被熱 し,器面荒れ。一部 赤変,煤。
第194図 1137	弥生土器 甕	C-2	S141	-	36.8	17.9	-	横ナデ,ハケメ 後横ナデ,タタ キ後ハケメ	横ナデ,ナデ	浅黄橙 (10YR8/4) にぶい橙 (7.5YR7/4) 赤変部:にぶい 橙 (2.5YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	微細～3mmの長石・石 英	外器面口縁・体部 に黒斑,煤,腰部 赤変。
第194図 1138	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(16.9)	15.1	-	横ナデ,タタキ 後ハケメ,工具 ナデ	不明瞭,ハケメ	明赤褐 (2.5YR5/8) 明黄褐 (10YR7/6)	黄橙 (10YR8/6) にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～3mm程の長石・ 石英;少	外器面,内器面口 縁部に黒斑。
第194図 1139	土師器 甕	C-2	S141	-	(18.7)	(18.6)	-	横ナデ,タタキ 後ハケメ後横ナ デ,タタキ,ハケ メ	ハケメ,ハケメ 後ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4) 浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR7/6)	微細～2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	外器肩部,内器面 口縁部に黒斑。
第194図 1140	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(33.9)	-	-	タタキ後ハケメ, ハケメ,ナデ	ハケメ,ナデ	赤橙 (10R6/6) にぶい黄橙 (10YR6/4)	明赤褐 (2.5YR5/6)	微細～3mm程の長石・ 石英;多	外器面体部に黒 斑。
第194図 1141	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(30.0)	19.2	-	横ナデ,タタキ 後ハケメ	ハケメ,指頭痕, ハケメ後ナデ,	浅黄 (10YR8/4)	黄橙 (7.5YR8/8)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石	外器面体部に黒 斑。
第194図 1142	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(27.9)	(16.4)	-	ハケメ,タタキ 後ハケメ,タタ キ後ナデ	ハケメ	橙 7.5YR7/6) にぶい黄褐 (10YR5/4)	橙 (7.5YR7/6)	微細～3mm程の長石・ 石英・赤褐色粒;少	外器面に煤。
第194図 1143	弥生土器 甕	C-2	S141	-	30.6	15.7	-	タタキ後ハケメ, ハケメ後横ナデ, タタキ後工具ナ デか	ハケメ後横ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4) 灰黄褐 (10YR4/2) 赤橙 (10R6/8)	にぶい黄橙 (10YR7/4) 灰黄褐 (10YR4/2)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	外器面肩～胴部 に黒斑,被熱し下半 器面荒れ,腰部赤 変,中位に煤。
第194図 1144	弥生土器 甕	C-2	S141	-	(4.3)	-	(7.2)	ハケメ,ナデ	—	橙 (7.5YR7/6) (5YR6/8)	—	微細～4mm程の長石・ 石英;多	
第194図 1145	土師器 甕	C-2	S141	-	(16.5)	(14.7)	-	ナデか,ハケメ 後ナデ,タタキ 後ハケメ	ハケメ後ナデ (不 明瞭)	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	0.5～2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第195図 1146	弥生土器 壺	C-2	S141	-	38.6	18.8	4.3	横ナデ,ハケメ, タタキ後ハケメ, 工具ナデ	横ナデ,ハケメ, ハケメ後ナデ	橙 (7.5YR6/6) 明赤褐 (2.5YR5/8)	橙 (7.5YR6/6)	微細～3mm程の長石・ 石英	外器面口縁～体 部,内器面口縁・ 胴部に黒斑。
第195図 1147	弥生土器 壺	C-2	S141	-	32.1	13.7	-	横ナデ,ハケメ, 工具ナデ	ハケメ (不明瞭), ハケメ後ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～4mm程の長石・ 石英;少	外器面胴部に黒 斑。
第195図 1148	弥生土器 壺	C-2	S141	-	26.7	10.5	-	横ナデ,タタキ 後ハケメ後ナデ	横ナデ,ハケメ, ナデ	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面体部2箇 所に黒斑。
第195図 1149	土師器 壺	C-2	S141	-	(5.0)	(38.7)	-	横ナデ,ハケメ 後ナデ	横ナデ	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3) 橙 (7.5YR7/6)	0.5～2mmの長石・石 英;多,雲母;少	外器面に黒斑。
第195図 1150	弥生土器 鉢	C-2	S141	-	13.0	16.1	-	横ナデ,ハケメ か,工具ナデか	ハケメ,ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～5mm程の長石・ 石英・赤褐色粒;多	外・内器面中位に 煤。
第195図 1151	土師器 鉢	C-2	S141	中層	(9.3)	(13.5)	-	横ナデ (不明 瞭),ハケメ後ナ デ,(ヘラ状工具 によるナデ)	横ナデ (不明瞭), ハケメ後ナデ, ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	4mmの小石粒,0.5～2 mmの長石・石英・雲母; 少	外器面体部～底部 のヘラ状工具による ナデは左から右斜め上 方に向かう調整を施 す。
第195図 1152	弥生土器 甕	C-2	S141	-	18.0	15.1	-	横ナデ,ハケメ, ハケメ後ナデ	ハケメ,ハケメ 後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細～4mm程の長石・ 石英;多	外器面体部黒斑。
第195図 1153	弥生土器 鉢	C-2	S141	-	14.0	18.2	-	横ナデ,ハケメ	ハケメ,ハケメ 後ナデか	明赤褐 (2.5YR5/6) 黄橙 (7.5YR8/8)	明赤褐 (2.5YR5/8)	微細～4mm程の長石・ 石英;少	外器面下位黒斑。
第195図 1154	土師器 鉢	C-2	S141	-	8.9	10.8	-	不明瞭	不明瞭	明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	微細～4mm程の長石・ 石英;多	外器面に黒斑。沈 線あり。
第195図 1155	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	16.1	(29.4)	14.0	横ナデ,ハケメ後 横ナデ,ハケメ	不明瞭,ハケメ, 脚部;ハケメ	明黄褐 (10YR6/6) にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～4mm程の長石・ 石英;少	外器面口縁部,脚 端部に黒斑。
第195図 1156	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(9.2)	-	-	ハケメ	ナデ,ハケメ後 ナデ,ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細～3mm程の長石・ 石英;少	
第195図 1157	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	14.0	(24.4)	12.2	不明瞭,ハケメ	ハケメ,脚内;ハ ケメ	明黄褐 (10YR7/6) 橙 (2.5YR6/8)	明黄褐 (10YR7/6) 橙 (2.5YR6/8)	微細～4mm程の長石・ 石英;少	外器面坏部に黒 斑。
第195図 1158	弥生土器 高坏	C-2	S141	中層	20.8	(33.3)	15.3	横ナデ,ハケメ, ハケメ後ナデ	ハケメ (不明瞭), 脚内;ナデ,ハケ メ後ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～5mm程の長石・ 石英;多	外器面に黒斑。
第195図 1159	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(4.7)	-	-	ハケメ,ハケメ 後横ナデ	ナデか (不明瞭), 指頭痕,不明瞭	浅黄橙 (10YR8/4) にぶい黄橙 (10YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/4) にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5～2.5mmの長石・石 英;多,角閃石・雲母	
第195図 1160	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(5.4)	-	-	不明瞭 (ハケメ か工具痕か)	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～3mm程の長石・ 石英・赤褐色粒;少	
第195図 1161	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(8.8)	-	-	ハケメ後ナデ, ハケメ	ハケメ (不明瞭), ナデ,	浅黄橙 (7.5YR8/6) 橙 (2.5YR6/6)	黄橙 (10YR8/6) 橙 (2.5YR6/6)	1～4mmの長石・石 英;多,雲母・赤褐色粒	外器面に赤彩か。
第196図 1162	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	19.0	31.0	-	ハケメ後ナデ	ミガキか (不明 瞭),脚内;ナデ, ハケメ後ナデ	橙 (7.5YR7/6) にぶい黄褐 (10YR5/3)	橙 (7.5YR7/6) にぶい黄褐 (10YR5/3)	3～4mmの小石粒,0.5～ 2mmの長石・石英・角閃 石・雲母・赤褐色粒	口縁付近に赤色顔 料付着か。
第196図 1163	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(10.8)	(29.5)	-	横ナデ,ナデ	横ナデ,ハケメ (不明瞭),ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.5～3mmの長石・石 英・角閃石	外器面口縁部に黒 斑,赤色顔料残る。
第196図 1164	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(10.1)	-	14.6	ハケメ後ミガキ か,ハケメ (不明 瞭),横ナデ	指頭圧痕か,シ ボリ痕,ハケメ, 横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5～3mmの長石・石 英;多,角閃石・赤褐色粒	内外器面脚裾部に 黒斑,脚部に穿孔 2箇所残存。
第196図 1165	弥生土器 高坏	C-2	S141	-	(8.8)	-	13.0	ハケメ,ハケメ 後ナデ,横ナデ	ナデ,ハケメ (不 明瞭)	明褐 (7.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	微細～3mm程の長石・ 石英;少	

第2表-24 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第196図1166	弥生土器高環	C-2	S141	-	(11.0)	-	14.7	ハケメ(不明瞭), 横ナデ	ナデ, ハケメ	明褐(10YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~4mm程の長石・石英; 多	外器面に黒斑。
第196図1167	弥生土器高環	C-2	S141	-	(11.0)	-	15.1	ハケメ, 横ナデ	指頭圧痕, ナデ, ハケメ	にぶい黄橙(10YR7/4) 灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR5/2)	0.5~2mmの長石・石英・雲母; 多	
第196図1168	弥生土器高環	C-2	S141	-	(9.1)	-	-	ハケメ	ナデ	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	微細~3mm程の長石・石英・赤褐色粒; 多	
第196図1169	弥生土器高環	C-2	S141	-	(7.8)	-	-	ハケメ	ナデ, シボリ痕, ハケメ	橙(7.5YR7/6) にぶい黄褐(10YR5/3)	橙(7.5YR7/6)	0.5~3mmの小石粒 0.5~3mmの長石・石英; 多, 角閃石・雲母・赤褐色粒	
第196図1170	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.7)	-	-	ハケメ	ナデ, 工具ナデか, ハケメ	明黄褐(10YR7/6)	灰黄褐(10YR5/2) にぶい黄橙(10YR6/4)	微細~3mmの長石・石英・多, 微細な角閃石・雲母・赤褐色粒; 少	
第196図1171	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.7)	-	-	不明瞭, 工具ナデ, ハケメ	ナデ	橙(7.5YR6/6) 明褐(7.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	微細~3mm程の長石・石英・雲母・赤褐色粒; 多	
第196図1172	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.0)	-	-	ハケメ, 赤彩	ナデか, 工具痕, ハケメ	橙(7.5YR6/6) 赤顔料: (2.5YR6/8)	橙(7.5YR6/6)	0.5~2.5mmの長石・石英; 多, 角閃石・赤褐色粒	外器面に赤彩あり。
第196図1173	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.8)	-	-	ハケメ(不明瞭), ハケメ後横ナデ	ナデ, 指頭痕, ハケメ	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	1~2mmの長石・石英; 多, 角閃石	
第196図1174	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.8)	(29.7)	-	ハケメ(不明瞭), ハケメ後ナデ	ハケメ(不明瞭), ハケメ後ナデ	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	口縁部に黒斑。
第196図1175	弥生土器高環	C-2	S141	-	(8.1)	28.0	-	横ナデ, ハケメ, ハケメ後横ナデ	横ナデ, ハケメ後ナデ, ハケメ	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	4mm以上の小石; 少, 0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	
第196図1176	弥生土器高環	C-2	S141	-	(12.2)	-	-	ハケメ, ハケメ後横ナデ	ハケメ(不明瞭), ナデ, 脚内; 指頭痕	灰黄褐(10YR6/2) 橙(7.5YR6/6) 赤顔料: 橙(2.5YR6/8)	灰黄褐(10YR6/2) 浅黄橙(7.5YR8/6)	0.5~5mmの長石・石英; 多, 雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑, 坯部中~下部部分的に赤色顔料残る。
第196図1177	弥生土器高環	C-2	S141	-	(3.4)	(26.6)	-	横ナデ, ハケメ後横ナデ, ハケメ, 赤彩	ハケメ後横ナデ	橙(7.5YR7/6) 明黄褐(10YR7/6) 赤彩: 橙(2.5YR6/8)	明黄褐(10YR6/6) (10YR7/6)	3~4mmの小石粒; 少, 0.5~2mmの長石・石英; 多, 微細な雲母・赤褐色粒; 少	外器面部分的に赤彩残る。
第196図1178	弥生土器高環	C-2	S141	-	(5.9)	-	-	ハケメ(不明瞭)	ハケメ	浅黄橙(7.5YR8/4) にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	0.5~2.5mmの長石・石英; 多, 雲母・赤褐色粒	内器面に煤。
第196図1179	弥生土器高環	C-2	S141	-	(7.2)	27.2	-	横ナデ, ハケメ(不明瞭), 赤彩	不明瞭	明黄褐(10YR6/6) 赤彩: 明赤褐(2.5YR5/6)	明黄褐(10YR6/6)	微細~4mm程の長石・石英・赤褐色粒; 少	外器面口縁部に赤彩。
第196図1180	弥生土器高環	C-2	S141	-	(5.7)	(19.4)	-	横ナデ, 沈線, ハケメ後ナデ	横ナデ, ナデ, ハケメ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~1mmの長石・石英; 多, 赤褐色粒; 少	口縁部外・内器面に黒斑。
第196図1181	弥生土器高環	C-2	S141	-	(5.2)	(30.0)	-	ナデか	横ナデか(不明瞭), ナデ	明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~2mmの長石・石英; 多, 3~4mmの長石・石英 1~2mmの角閃石・赤褐色粒・微細な雲母; 少	
第196図1182	弥生土器高環	C-2	S141	-	(4.7)	(22.9)	-	横ナデ, ハケメ, ハケメ後ナデ, ナデ	横ナデ, ハケメ後ナデか, ナデ	橙(7.5YR7/6)	黄橙(10YR8/6)	0.5~3mmの長石・石英; 多, 角閃石・赤褐色粒	
第196図1183	弥生土器高環	C-2	S141	-	(5.8)	(31.8)	-	ハケメ後横ナデ, ナデか	ハケメ後横ナデ, ナデか	橙(7.5YR7/6) 明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	3~4mmの小石粒; 少, 0.5~2mmの長石・石英; 多, 微細な雲母・赤褐色粒; 少	焼成不良。外器面に黒斑。
第196図1184	弥生土器高環	C-2	S141	-	(6.5)	-	-	ハケメ(不明瞭), 工具ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~3mm程の長石・石英; 多	
第196図1185	土師器鉢	C-2	S141	-	(7.9)	(16.2)	-	横ナデ, ハケメ後ナデ(不明瞭), ナデ	ハケメ, ハケメ後ナデ, ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~2mmの長石・石英・角閃石・雲母	
第198図1188	弥生土器甗	G-3	S300	-	(8.2)	-	-	横ナデ, ハケメ後横ナデ(不明瞭), タタキ	ハケメ(不明瞭), ハケメ後ナデ(不明瞭)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第198図1189	弥生土器壺	G-3	S300	下層	(9.7)	(21.4)	-	横ナデ, ハケメ後横ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ(不明瞭)	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6) (10YR8/4)	0.5~2mmの長石・石英	
第198図1190	弥生土器鉢	G-3	S300	上層	(5.1)	-	-	ハケメ	ナデ, 工具ナデか	橙(2.5YR6/8) にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4) 脚: 橙(5YR7/8)	3~5mmの小石粒 0.5~2mmの長石・石英	
第198図1191	弥生土器高環	G-3	S300	-	(10.7)	-	(14.0)	横ナデ, ハケメ	ナデ, ケズリ, ハケメ後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石英	
第198図1192	弥生土器高環	G-3	S300	-	(4.2)	-	-	ハケメ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	脚: にぶい黄橙(10YR6/4) 坯: にぶい黄褐(10YR5/4)	0.5~2mmの長石・石英・雲母	坯内器面に黒斑。
第198図1193	弥生土器壺	G-3	S300	上層	(7.1)	(21.0)	-	横ナデ, ハケメ(不明瞭)	横ナデ, 不明瞭	明黄褐(7.5YR5/6)	明黄褐(7.5YR5/6)	3~5mmの小石粒 0.5~2mmの長石・石英・赤褐色粒	
第199図1194	弥生土器甗	F-3	S361	-	(8.6)	(22.6)	-	ハケメ, ナデ, タタキ	ナデ, ハケメ	にぶい黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	細粒~1mm大の石英; やや多	
第199図1195	弥生土器壺	F-3	S361	上・下層	(11.5)	-	-	ナデ, 櫛描文(横方向/波状文), ハケメ	ナデ, ケズリ後ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	細かい石英; 僅	
第199図1196	弥生土器鉢	F-3	S361	中層	(6.5)	-	14.2	ナデ, ハケメ	ナデ, ハケメ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下, 礫5mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm以下	S146出土遺物と接合
第199図1197	手捏土器鉢	F-3	S361	-	6.6	(8.0)	2.8	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	細かい長石・石英; やや多	
第200図1198	弥生土器壺	M-18	S34	-	(7.6)	-	-	ナデ	ナデ, 工具痕, ハケメ(斜), 指頭圧痕	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石1mm以下	
第201図1199	弥生土器壺	M-18	S58	-	(4.6)	-	(5.6)	ナデ	ナデ, 工具痕	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒	

第2表-25 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第202図 1200	弥生土器 高坏	L-18	S76	-	(5.3)	(26.4)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 雲母1mm以下, 赤色 粒子2mm以下	
第202図 1201	弥生土器 甕	L-18	S76	-	(1.4)	-	-	横ナデ, キザミ 目	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 1mm以下	
第203図 1202	弥生土器 甕	P-22	S94	3層	(3.2)	-	-	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	内器面に煤。
第204図 1203	弥生土器 甕	G-9	S219	上・中層	(33.8)	19.0	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ, タタキ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下, 角閃石 2mm以下	
第204図 1204	弥生土器 甕	G-9	S219	上・中層	(28.8)	-	-	ナデ, タタキ, ナ デ	ナデ, 指頭圧痕, ハケメ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下, 角閃石 2mm以下	
第204図 1205	弥生土器 甕	G-9	S219	上・中層	(34.1)	(19.3)	-	タタキ, ナデ, ハ ケメ	指頭圧痕, ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第204図 1206	弥生土器 甕	G-9	S219	上・中層	(3.9)	-	(11.8)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以 下, 角閃石・赤色粒子 1mm以下	
第204図 1207	弥生土器 壺	G-9	S219	上・中層	(5.3)	(14.8)	-	ナデ, 沈線文	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下	
第204図 1208	弥生土器 器台	G-9	S219	上・中層	(6.3)	-	6.5	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 礫7mm以下, 赤色粒 子・角閃石1mm以下	焼成不良。
第204図 1209	弥生土器 器台	G-9	S219	上・中層	(4.5)	-	(6.6)	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色・黒色粒子・雲 母1mm以下	
第204図 1210	弥生土器 甕	G-9	S219	上・中層	(5.2)	-	9.4	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第204図 1211	弥生土器 甕	G-9	S219	-	(7.1)	-	7.2	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子2mm以下	
第204図 1212	弥生土器 蓋	G-9	S219	上・中層	(7.8)	-	7.1	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下	
第205図 1213	弥生土器 高坏	F-3	S358	-	(6.5)	(21.0)	-	ナデ, ハケメ(横)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下, 雲母1mm 以下	
第207図 1214	土師器 壺	C・D-1	S136	4層	(8.6)	(16.4)	-	ナデ	ケズリ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下	
第207図 1215	土師器 高坏	C・D-1	S136	4層	(6.4)	(21.4)	-	ナデ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第207図 1216	土師器 高坏	D-2・3	S136	下層	(4.9)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第207図 1217	土師器 高坏	D-2・3	S136	下層	(3.5)	(22.8)	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	明褐 (7.5YR5/6)	石英・長石・赤色粒 子1mm以下	
第207図 1218	土師器 高坏	D-2・3	S136	下層	(3.4)	-	-	ナデ	ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英・長石・赤色粒 子1mm以下	
第207図 1219	土師器 高坏	C-1	S136	下層	(7.5)	-	-	ナデ	ナデ, シボリ痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石・雲母1mm以 下	
第207図 1220	土師器 高坏	C-1	S136	中層	(5.0)	-	-	ナデ	ナデ, ミガキ(横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第207図 1221	土師器 高坏	C-1	S136	上層	(4.9)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第207図 1222	土師器 鉢	C-1	S136	下層	(4.9)	-	-	ナデ, ケズリ, ミ ガキ	ナデ, ハケメ	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下	
第207図 1223	土師器 鉢	D-2	S136	中層	(4.2)	-	-	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石・ 雲母1mm以下	
第207図 1224	土師器 鉢	C・D-1	S136	3層	(5.0)	-	(8.1)	ナデ, ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第207図 1225	土師器 鉢	C-1	S136	中層	(3.6)	-	-	ナデか, ミガキ か	ナデ, ケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子1mm以下	
第207図 1226	土師器 鉢	C-1	S136	中層	(5.5)	-	(7.4)	ハケメ, ナデ, ミ ガキ	ケズリ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第207図 1227	土師器 鉢	C-1	S136	中・下層	(6.9)	-	(9.0)	ナデ, ハケメ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石・角閃石 2mm以下	
第207図 1228	土師器 鉢	C-1	S136	中層	(5.1)	-	-	ナデ	工具痕, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第207図 1229	弥生土器 舟形土器	D-1	S136	3層	(8.6)	5.2	-	ナデ	ナデ, ヘラケズ リ	橙 (7.5YR7/6) 灰褐 (7.5YR5/2)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英・や や多	
第207図 1230	土製品 模造鏡	C・D-1	S136	1層	厚さ (1.3)	-	直径 (4.5)	鏡面: 丁寧なナ デ	裏面: ナデ, 指頭 圧痕	鏡面: 明黄褐 (10YR6/6)	裏面: 明黄褐 (10YR6/6)	細かい石英・長石・角 閃石・金雲母: 多	
第207図 1231	弥生土器 甕	C・D-1	S136	-	(3.2)	-	6.8	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第207図 1232	弥生土器 甕	D-2	S136	中層	(7.9)	-	-	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子2mm以 下, 角閃石1mm以下	
第207図 1233	弥生土器 甕	C・D-1	S136	中層	(4.5)	(14.4)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石3mm以 下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第207図 1234	須恵器 高坏	C・D-1	S136	-	(2.7)	-	-	回転ナデ, 回転 ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰 (2.5Y5/1)	自然釉: 黄褐 (2.5Y5/3)	白色砂粒: 少	脚部透かし。
第207図 1235	須恵器 壺	C・D-1	S136	上・中層	(8.5)	(23.6)	-	回転ナデ, タタ キ, 突帯文	回転ナデ, 同心 円当具痕, ナデ	灰オリ・ブ (5Y4/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	石英・長石1mm以下	
第207図 1236	青磁 皿	C・D-1	S136	-	(1.4)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	オリ・ブ黄 (5YR6/3)	オリ・ブ黄 (5YR6/3)	素地: 磁胎	
第207図 1237	中世土師 器杯	D-2	S136	1層	3.2	(13.2)	9.6	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR5/4)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英・や や多	
第211図 1241	弥生土器 甕	G-5	S166	3層	(15.2)	(14.2)	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデか, ハ ケメ後タタキ	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ナデ(指 頭痕), ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	1~4mmの長石・石英 ・角閃石・赤褐色粒	外器面に煤。

第2表-26 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第211図 1242	土師器 甕	G-5	S166	3層	(10.2)	(14.9)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	ハケメ, 横ナデ, 指ナデ, ナデ (工 具痕), ヘラケズリ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	5mm以下の小石粒, 長石 ・石英, 1~2mmの角閃 石, 微細な雲母	
第211図 1243	弥生土器 甕	G-5	S166	2~4層	(23.9)	22.0	-	横ナデ, タタキ, タタキ後ハケメ	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	明赤褐 (5YR5/6) 明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/8)	微細~3mm程の長石・ 石英; 多	外器面体部に黒斑。
第211図 1244	弥生土器 甕	G-5	S166	2~4層	23.0	16.5	-	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	横ナデ, ハケメ, ハケメ後ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4) 赤 (10R5/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	外器面口縁・体部 に黒斑, 外・内器 面体部に煤。
第211図 1245	土師器 甕	G-5	S166	2層	(21.9)	17.8	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, ハケ メ後タタキ, 不 明瞭	横ナデ, ハケメ, ハケメ後ケズリ, ケズリ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英; 多	外器面中位に煤。
第211図 1246	弥生土器 甕	G-5	S166	2層	(12.7)	(15.7)	-	横ナデ, ハケメ, タタキ後ハケメ, タタキ	ハケメ, ハケメ 後ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・赤褐色粒	口縁端部に煤。
第211図 1247	土師器 甕	G-5	S166	-	(5.9)	(14.0)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	1~2mmの長石・角閃 石	
第211図 1248	土師器 甕	G-5	S166	2・3層	27.1	17.4	-	ハケメ後横ナデ, タタキ後ハケメ	不明瞭	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	4mmの小石粒, 0.5~3mm 長石・石英; 多, 雲母・ 赤褐色粒	外器面胴・底部に 黒斑, 肩部以下に 煤。
第211図 1249	土師器 甕	G-5	S166	3層	19.8	17.1	-	横ナデ, ハケメ, タタキ後ハケメ	ハケメ (不明瞭), ヘラケズリ後ナ デ	明褐 (7.5YR5/6) 明黄褐 (10YR6/6)	明褐 (7.5YR5/6)	微細~4mm程の長石・ 石英; 多, 雲母・赤褐色 粒; 僅	口縁端部, 外器面 下半に黒斑。
第211図 1250	土師器 甕	G-5	S166	3層No.23	(13.1)	(14.6)	-	ナデ, タタキ後ナ デ	ナデ, ヘラケズリ 後ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細粒~2mm大の石英; やや多, 細かい長石・ 赤色粒子; 僅	
第211図 1251	土師器 甕	G-5	S166	3・4層	(19.1)	15.0	-	タタキ後ハケメ (不明瞭)	不明瞭, ヘラケズ リ後ナデ	橙 (5YR6/8)	橙 (7.5YR6/6)	微細~4mm程の長石・ 石英; 多	外器面下半に煤。
第211図 1252	土師器 甕	G-5	S166	3・4層	(20.0)	15.6	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	横ナデ (不明瞭), ナデ, ケズリ	橙 (7.5YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5~3mmの長石・石 英; 多	外器面体部に黒斑。
第211図 1253	土師器 甕	G-5	S166	3・4層	12.4	12.2	-	タタキ後ナデ, ハ ケメ, ナデ	不明瞭, 工具ナデ 後ナデ	橙 (5YR6/6) 黒褐 (10YR3/1)	明赤褐 (5YR5/6)	微細~3mm程の長石・ 石英; 多	
第212図 1254	土師器 甕	G-5	S166	2層	26.5	28.2	-	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	横ナデ, ヘラケズ リ, ヘラケズリ後 ナデ	赤 (10R5/6) にぶい橙 (7.5YR7/4)	明赤褐 (2.5YR5/8) 黒褐 (7.5YR3/1)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	内器面中位黒斑。
第212図 1255	土師器 甕	G-5	S166	2・3層	(17.8)	17.6	-	横ナデ, 不明瞭	横ナデ, ヘラケズ リ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	5mm以下の小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 雲母・赤褐色粒	外・内器面体部に 黒斑, 煤。
第212図 1256	土師器 甕	G-5	S166	1層 写真No.13	(4.8)	(16.0)	-	ナデか	ナデか	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	細粒~1mm大の石英・ 長石; やや多	
第212図 1257	土師器 甕	G-5	S166	2層	(11.4)	14.2	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	横ナデ, ケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.5~2mmの長石・石 英, 微 細な雲母・赤褐色粒; 少	外器面に煤。
第212図 1258	土師器 甕	G-5	S166	中・下層 No.30	(9.7)	(16.4)	-	ナデ, ハケメ	ナデ, ヘラケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR7/6)	細粒~2mm大の石英・ 長石; やや多	
第212図 1259	土師器 甕	G-5	S166	2・3層	21.8	(17.3)	3.3	横ナデ, ハケメ後 横ナデ	横ナデ, ヘラケズ リ	橙 (7.5YR6/6) 灰褐 (7.5YR4/2)	橙 (7.5YR7/6) 灰褐 (7.5YR4/2)	0.5~3mm長石・石 英	外器面頸部以下に 煤。
第212図 1260	土師器 甕	G-5	S166	3層	(19.7)	17.3	-	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	横ナデ, ヘラケズ リ後ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	黄褐 (10YR5/8)	微細~4mm程の長石・ 石英; 多, 赤褐色粒; 僅	外器面中位に黒斑, 煤。
第212図 1261	土師器 甕	G-5	S166	3層No.17	(20.8)	-	-	ハケメ, ナデ	ヘラケズリ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	細粒~3mm大の石英; 多	
第212図 1262	土師器 甕か	G-5	S166	写真No.2・ 5他	(19.3)	-	-	ナデ, ハケメ	ヘラケズリ後ナ デ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	灰褐 (7.5YR4/2)	細粒~1mm大の石英・ 長石; 多	
第212図 1263	土師器 二重口縁 壺	G-5	S166	3層	(7.1)	(20.5)	-	ナデ, ハケメ後ナ デ	ハケメ後ナデ, ナ デ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細粒~2mm大の石英; 少, 細かい長石・角閃石; 少	
第212図 1264	弥生土器 壺	G-5	S166	4層	28.0	14.5	5.2	横ナデ, ハケメ (不明瞭), ミガキ ナデ	ハケメ痕, 不明瞭, 工具痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	微細~5mm程の長石・ 石英・赤褐色粒; 少	外器面腰部に黒 斑, 胴部煤あり。
第213図 1265	土師器 壺	G-5	S166	3層	(27.4)	(17.0)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデか (不明 瞭), ハケメ (不明 瞭)	横ナデ, 不明瞭, 指頭圧痕, ヘラケ ズリ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	微細~3mm程の長石・ 石英; 多	
第213図 1266	土師器 壺	G-5	S166	3・4層	28.5	(13.6)	-	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	横ナデ, 不明瞭, ヘラケズリ後ナ デ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	微細~3mm程の長石・ 石英; 多	外器面腰~底部に 黒斑。
第213図 1267	土師器 壺	G-5	S166	2・3層	(9.3)	(7.8)	-	横ナデ, ハケメ後 ナデ	横ナデ, ヘラケズ リ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6) 灰黄褐 (10YR6/2)	4mmの小石粒, 0.5~3mm の長石・石英・雲母・ 赤褐色粒	内器面口縁部, 外 器面肩部に黒斑。
第213図 1268	弥生土器 壺	G-5	S166	2層	(11.3)	(14.0)	-	横ナデ, ハケメ, タタキ後ハケメ (不明瞭)	不明瞭, ナデ, 指 頭圧痕, ハケメ後 ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~3mmの長石・石 英・赤褐色粒	
第213図 1269	土師器 壺	G-5	S166	4層	(5.0)	11.4	-	横ナデ, 不明瞭	横ナデ, ヘラケズ リ	明赤褐 (5YR5/6) にぶい黄橙 (10YR7/4)	明赤褐 (5YR5/6) にぶい黄橙 (10YR7/4)	5mm程の小石粒; 少, 0.5 ~1mmの長石・石英・ 角閃石・雲母	口縁部に黒斑。
第213図 1270	土師器 壺か	G-5	S166	写真No.6	(3.9)	-	4.2	ナデか	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細粒~2mm大の石英; 多	
第213図 1271	土師器 壺	G-5	S166	2層 No.24	(2.9)	-	4.0	ナデか	ナデか	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	細粒~2mm大の石英; やや多, 細かい角閃石; 少	
第213図 1272	土師器 壺	G-5	S166	2層	(8.2)	-	-	横ナデ, ハケメ後 ミガキ, ケズリ後 ナデ	ナデ, ケズリ後ナ デ, ケズリ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	1~4mmの長石・石 英; 多, 角閃石・雲母	外器面に黒斑。
第213図 1273	土師器 壺	G-5	S166	3・4層	(19.2)	-	-	ハケメ後ナデ, ハ ケメ	ハケメ後ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	1~2mmの長石・石 英・ 角閃石	外器面胴~底部に 黒斑。
第213図 1274	弥生土器 高環	G-5	S166	2・3層	13.4	17.0	12.4	横ナデ, ハケメ (不明瞭)	ハケメ (不明瞭), 不明瞭, 工具ナデ	明褐 (7.5YR5/6) にぶい黄橙 (10YR5/3)	環: 明褐 (7.5YR5/6) 脚: 黒 (10YR2/1)	微細~4mm程の長石・ 石英; 多	外・内器面に黒斑。
第213図 1275	土師器 高環	G-5	S166	3層	9.1	(12.8)	(10.1)	不明瞭, ハケメ	不明瞭, ナデ (指 頭痕), ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	1~2mmの長石・石 英; 多, 角閃石	外・内器面に黒斑。
第213図 1276	土師器 高環	G-5	S166	1層	(7.2)	(20.1)	-	横ナデ, ハケメ後 ナデ, ハケメ, ナ デ	横ナデ, ハケメ後 ミガキ, ミガキ	橙 (7.5YR7/6) 黒 (7.5YR2/1)	橙 (7.5YR6/6) 黒 (7.5YR2/1)	0.5~1mmの長石・石 英・ 角閃石・雲母・赤褐 色粒	外・内器面に黒斑, 煤。
第213図 1277	土師器 高環	G-5	S166	-	(15.2)	-	(16.9)	ナデ, 横ナデ	ナデ, 横ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~3mmの長石・石 英・ 雲母・赤褐色粒	脚部に穿孔。
第213図 1278	土師器 高環	G-5	S166	2層	(7.6)	(22.8)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ後 ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	1~4mmの長石・石 英; 多, 角閃石・赤褐色粒	

第2表-27 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第213図1279	土師器高坏	G-5	S166	3・4層	16.4	(22.8)	12.2	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ、ナデ	ハケメ、不明瞭、脚内；工具ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	微細～4mm程の長石・石英・雲母・赤褐色粒；多	外器面口縁部に黒斑。脚部4箇所に穿孔。
第213図1280	土師器高坏	G-5	S166	4層	(7.8)	-	-	横ナデ、ハケメ	指頭痕、ナデ(絞り痕)、ハケメ	明黄褐 (10YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/8)	1～2mmの長石・石英・角閃石	
第213図1281	土師器高坏	G-5	S166	1層	(6.0)	-	9.2	不明瞭	ナデ、工具ナデ、不明瞭	灰褐 (7.5YR4/2)	橙 (7.5YR6/6) 灰褐 (7.5YR4/2)	微細～2mm程の長石・石英・角閃石；少	穿孔3ヶ所あり。
第213図1282	弥生土器鉢か	G-5	S166	-	(3.7)	-	-	ナデ、ハケメ	ナデ、脚内；ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	細かい長石・石英；少	
第213図1283	弥生土器高坏	G-5	S166	4層	(10.6)	-	(14.4)	ハケメ(不明瞭)、横ナデ	ナデ、工具ナデ、ハケメ(不明瞭)	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～4mm程の長石・石英；多	
第213図1284	土師器高坏	G-5	S166	4層	(10.7)	-	-	ハケメ(不明瞭)	ハケメ、ナデ、不明瞭	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1～2mmの長石・石英；多、角閃石	
第213図1285	弥生土器高坏	G-5	S166	3層	(5.4)	-	-	ハケメ後ナデ	ナデ後粗いミガキか、ナデ、ハケメ	黒褐 (2.5Y3/1)	灰黄褐 (10YR4/2)	0.5～3mmの長石・石英、微細な角閃石・雲母	穿孔4ヶ所残存。
第214図1286	土師器鉢	G-5	S166	-	(5.6)	(16.8)	-	横ナデ、不明瞭	横ナデ、ハケメ、不明瞭	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	0.5～1mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒	
第214図1287	土師器鉢	G-5	S166	2層	(5.3)	(11.5)	-	ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭)	橙 (7.5YR6/6) にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	4mmの小石粒、0.5～2mmの長石・石英・雲母	外・内器面に黒斑。
第214図1288	土師器鉢	G-5	S166	2層	3.2	9.9	-	不明瞭	不明瞭	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	0.5～3mmの長石・石英・雲母	
第214図1289	土師器鉢	G-5	S166	4層	5.7	12.6	-	横ナデ、ハケメ後ナデ、タタキ後ナデ	横ナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	黄橙 (7.5YR7/8)	1～2mmの長石・石英；多、角閃石	外器面に黒斑。
第214図1290	弥生土器鉢	G-5	S166	中・下層	8.2	13.9	-	横ナデ、ハケメ、工具ナデ	工具ナデか(不明瞭)	黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6) 黒褐 (10YR3/1)	微細～4mm程の長石・石英；多	外器面に黒斑。
第214図1291	弥生土器鉢	G-5	S166	2・3層	6.6	(14.6)	-	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	にぶい橙 (7.5YR7/4) 褐灰 (7.5YR4/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4) 黒 (N2)	0.5～3mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒	外・内器面に黒斑。
第214図1292	土師器鉢	G-5	S166	2層	6.9	(13.7)	-	横ナデ、ハケメ後ナデ	横ナデ、ナデ	橙 (7.5YR6/6) 黒褐 (7.5YR3/1)	黒褐 (7.5YR3/1)	0.5～3mmの長石・石英・雲母	外・内器面に黒斑。
第214図1293	土師器鉢	G-5	S166	3層	6.8	11.1	-	ハケメ後横ナデ、ハケメ後ナデ	ハケメ、ハケメ後ナデ(工具痕)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	橙 (7.5YR6/6)	1～2mmの長石・石英；多、角閃石・赤褐色粒	
第214図1294	弥生土器甗	G-5	S166	3・4層	(14.0)	15.2	-	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	不明瞭、工具ナデか、ハケメ後ナデか	黒褐 (10YR2/2)	にぶい黄褐 (10YR5/4) 黒褐 (10YR2/2)	微細～3mm程の長石・石英；多	
第214図1295	土師器鉢	G-5	S166	-	5.7	9.7	-	横ナデ、ハケメ(不明瞭)、ナデ	横ナデ、ナデ、指頭圧痕	赤 (10R5/8)	褐 (10YR4/4) 明赤褐 (2.5YR5/6)	微細～2mm程の長石・石英；多	外器面に黒斑。
第214図1296	弥生土器鉢	G-5	S166	2層	10.3	(16.5)	-	横ナデ、ハケメ(不明瞭)、ケズリ後ハケメ	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	橙 (7.5YR7/6) にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	1～2mmの長石・石英・角閃石・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第214図1297	弥生土器鉢	G-5	S166	2層	17.8	(34.0)	-	横ナデ、指頭痕、ハケメ後ナデ、ハケメ後タタキ	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ナデか	黄褐 (7.5YR7/8)	橙 (7.5YR6/8) 褐灰 (10YR4/1)	1～4mmの長石・石英；多、角閃石・赤褐色粒	内器面上位、外器面下半に黒斑。
第214図1298	土師器鉢	G-5	S166	3層	17.2	26.3	-	横ナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ハケメ(不明瞭)、ナデ	明黄褐 (10YR6/6) 橙 (5YR6/8)	橙 (2.5YR6/8) 明黄褐 (10YR7/6)	微細～3mm程の長石・石英・雲母；多	外器面に黒斑。内器面胴部煤か。
第214図1299	土師器鉢	G-5	S166	2・3層	6.6	11.3	8.9	横ナデ、ハケメ後ミガキ、ハケメ後ナデ、ハケメ後横ナデ	横ナデ、暗文、ミガキ、ナデ、ハケメ	橙 (2.5YR6/8、7.5YR7/6)	橙 (2.5YR6/8)	1～4mmの長石・石英・赤褐色粒	外器面に黒斑。
第214図1300	弥生土器鉢	G-5	S166	4層	(8.8)	-	-	ハケメ後ナデ(工具痕)、ナデ(指頭圧痕)	ハケメ、ハケメ後ナデ(工具痕)、ナデ(工具痕)	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	1～4mmの長石・石英；多、赤褐色粒	
第214図1301	弥生土器鉢	G-5	S166	2～4層	10.3	19.1	13.9	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ、脚内；ナデ、横ナデ	黄橙 (10YR8/6) にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	1～4mmの長石・石英；多、角閃石・赤褐色粒	口縁端部～外器面体部中位、脚端部に黒斑。
第214図1302	弥生土器鉢	G-5	S166	3・4層	9.2	-	15.2	ハケメ(不明瞭)、ハケメ後横ナデ	ハケメ後ナデ、ナデ、ハケメ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	1～4mmの長石・石英・角閃石・雲母	脚部下位に2個組4ヶ所の穿孔あり。
第214図1303	弥生土器鉢	G-5	S166	3・4層	(4.7)	-	(14.4)	ハケメ、横ナデ	ハケメ、ハケメ後ナデ、横ナデ	橙 (7.5YR7/6)	灰黄褐 (10YR6/2) 橙 (7.5YR7/6)	1～2mmの長石・雲母	刻目目あり。
第214図1304	土師器(手捏土器)甗	G-5	S166	2層	8.0	(9.4)	-	ナデ	ナデ、ハケメ	暗灰黄 (2.5Y5/2)	橙 (7.5YR6/6)	1mmの長石・石英・角閃石；少	
第214図1305	手捏土器鉢	G-5	S166	-	5.3	(5.8)	2.0	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・角閃石；少	
第214図1306	土師器器台	G-5	S166	2層	9.3	受部径8.8	12.1	横ナデ、ハケメ後ナデか	横ナデ、ハケメ後ナデ、ナデ/絞り痕	橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/8)	1～2mmの長石・石英；多、角閃石・雲母・赤褐色粒	
第214図1307	土師器器台	G-5	S166	1層	4.5	受部径8.4	-	ナデか	ナデか、指頭圧痕	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	1～2mmの長石・石英；多、角閃石・赤褐色粒	
第216図1308	弥生土器甗	G-4	S169	中・上層	(10.1)	(16.0)	-	横ナデ、ハケメ、タタキ	横ナデ、ナデ、ハケメ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・角閃石2mm以下	
第216図1309	弥生土器甗	G-4	S169	3・4層	(12.6)	-	-	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・石英；少	
第216図1310	弥生土器甗	G-4	S169	3層	(9.4)	(16.2)	-	横ナデ、タタキ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子3mm以下、礫5mm以下、黒色粒子2mm以下	
第216図1311	弥生土器甗	G-4	S169	3層	(5.9)	(15.8)	-	横ナデ、タタキ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、赤色粒子2mm以下、角閃石1mm以下	
第216図1312	弥生土器甗	G-4	S169	中層	(10.2)	(24.5)	-	ナデ、タタキ	ナデ、ハケメ(斜)	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石3mm以下、赤色粒子・黒色粒子2mm以下	外器面に黒斑。
第216図1313	弥生土器甗	G-4	S169	1・3層	(6.5)	(14.4)	-	ナデ、タタキ	ナデ、ヘラズリ、ハケメか	にぶい橙 (2.5YR6/4)	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	細かい長石・石英；多	
第216図1314	弥生土器甗	G-4	S169	3・4層	(10.7)	-	(11.8)	ナデ	ナデ、工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石4mm以下、角閃石・赤色粒子2mm以下	
第216図1315	土師器甗	G-4	S169	中・下層	26.0	16.2	-	横ナデ、ナデ、タタキ、ハケメ(縦)	横ナデ、ナデ、指頭圧痕、ハケメ(斜)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下、礫5mm以下、赤色粒子2mm以下、黒曜石3mm以下	焼成不良。外・内器面に黒斑。

第2表-28 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外面面	内面	外面面	内面		
第216図 1316	土師器 甕	G-4	S169	3・5層	20.8	13.3	-	横ナデ、ハケメ、 タタキ、工具痕、 ナデ	横ナデ、ナデ、指 頭圧痕、工具痕、 ヘラケズリ(縦)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子3mm以下、 角閃石2mm以下	外面面に煤。
第216図 1317	土師器 甕	G-4	S169	3層	21.2	15.8	-	横ナデ、ハケメ (縦)、タタキ、ナデ	横ナデ、ハケメ (斜)、ヘラケズリ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、角閃石 2mm以下	外面面に黒斑。
第216図 1318	土師器 甕	G-4	S169	3層	(7.9)	(15.2)	-	横ナデ、ナデ、タ タキ、ハケメ(斜)	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	
第216図 1319	土師器 甕	G-4	S169	3層	(12.4)	16.4	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ(縦)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、角閃石2mm 以下、礫5mm以下	
第216図 1320	土師器 甕	G-4	S169	3層	(12.4)	-	-	ナデ	ナデ、ハケメ (斜)、指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄 (2.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、角閃石2mm 以下	
第216図 1321	土師器 甕	G-4	S169	3層	17.4	(13.8)	-	横ナデ、ハケメ (縦/斜)、タタキ、 ナデ	横ナデ、ハケメ (斜/横)、ナデ、 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、礫5mm 以下、角閃石2mm以下	外面面に黒斑。
第216図 1322	弥生土器 壺	G-4	S169	中・下層	(6.3)	(18.2)	-	ハケメ(縦)、ナ デ、貼付突帯、刺 突文	横ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英・長石4mm以下、赤 色粒子・黒色粒子2mm 以下	
第216図 1323	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(4.7)	18.5	-	横ナデ、ハケメ (縦)、ナデ	横ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	
第216図 1324	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(10.6)	(15.2)	-	ナデ、ハケメ(縦、 横)	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、赤色粒 子3mm以下、黒色粒 子2mm以下	
第216図 1325	土師器 壺	G-4	S169	3層	(10.6)	(16.0)	-	横ナデ、ハケメ (縦)、ナデ	横ナデ、ヘラケ ズリ(横)、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、 雲母1mm以下、赤色 粒子・礫5mm以下、 角閃石2mm以下	
第216図 1326	土師器 壺	G-4	S169	3層	(20.1)	15.7	-	横ナデ、工具痕、 ナデ、ハケメ(斜)	横ナデ、ヘラケ ズリ(斜/横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、角閃石 3mm以下	外面面に黒斑。
第217図 1327	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(5.0)	-	-	ナデ、ハケメ (縦)、鋸歯文	ナデ、ハケメ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下、雲母1mm 以下	
第217図 1328	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(17.8)	(16.4)	-	横ナデ、ハケメ (縦)、ミガキ(斜、 横)	横ナデ、ハケメ (斜)	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、赤色粒 子2mm以下、角閃石 1mm以下	
第217図 1329	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(26.6)	-	-	ハケメ(斜)、ナ デか	ナデ、ハケメ(縦、 斜、横)	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・黒曜石 4mm以下、礫6mm 以下、角閃石・赤色粒 子3mm以下	外面面に黒斑。
第217図 1330	土師器 壺	G-4	S169	3層	16.7	11.3	-	横ナデ、ナデ、ミ ガキ(横)	横ナデ、ナデ、指 頭圧痕、ケズリ か	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、黒色粒 子2mm以下	外面面に煤。
第217図 1331	土師器 壺	G-4	S169	3層	12.3	12.3	-	横ナデ、ハケメ (縦)、ナデ	横ナデ、ナデ、工 具痕、ヘラケズ リ(縦)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、礫5mm 以下、角閃石2mm以下	
第217図 1332	土師器 壺	G-4	S169	3層	11.9	11.6	-	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ	横ナデ、ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下、 礫6mm以下、赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第217図 1333	土師器 壺	G-4	S169	中層	(7.7)	-	-	ハケメ、ミガキ (横)	ナデ、工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下、雲母・角閃 石3mm以下、褐色粒 子10mm	
第217図 1334	土師器 壺	G-4	S169	中層	(5.9)	-	-	ナデ、工具痕	ナデ、ハケメ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石4mm以下、雲 母・角閃石1mm以下	
第217図 1335	弥生土器 壺	G-4	S169	中層	(2.2)	-	6.9	ナデ、ミガキ(縦)	磨滅	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、雲母 1mm以下、赤色粒子・ 角閃石2mm以下	外面面に黒斑。
第217図 1336	弥生土器 高環	G-4	S169	3・4層	(8.3)	(26.5)	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・黒色粒子・ 雲母2mm以下	
第217図 1337	弥生土器 高環	G-4	S169	中層	(7.0)	(28.0)	-	横ナデ、ハケメ (斜)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	
第217図 1338	弥生土器 高環	G-4	S169	4層	(5.6)	(28.4)	-	横ナデ、ナデ、ハ ケメ(斜)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	外・内面に黒 斑。
第217図 1339	弥生土器 高環	G-4	S169	中層	(4.1)	(27.6)	-	ナデ、ハケメ(斜)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下、赤 色粒子・黒色粒子2mm 以下	
第217図 1340	土師器 高環	G-4	S169	下層	(14.3)	-	(13.4)	ナデ、ハケメ(斜、 縦)	ナデ、工具痕、ハ ケメ(横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石1mm以下	
第217図 1341	土師器 高環	G-4	S169	中・下層	(4.6)	(23.2)	-	ナデ、ハケメ(斜)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子2mm以下	
第217図 1342	土師器 高環	G-4	S169	中層	(7.9)	(15.6)	-	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	脚部中位に穿孔3 箇所、下位に1箇所。
第217図 1343	土師器 高環	G-4	S169	中層	(7.2)	-	(12.3)	工具痕、ハケメ (斜)	ナデ、ハケメ(斜、 横)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下、 雲母1mm以下、角閃石 ・赤色粒子2mm以下	脚部穿孔3箇所 残存。
第217図 1344	土師器 高環	G-4	S169	3層	(7.8)	-	11.2	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石1mm 以下	脚部4箇所に穿 孔。外面面に黒斑。
第217図 1345	弥生土器 高環	G-4	S169	中・下層	(7.0)	-	14.3	ハケメナ(斜/ 縦)、ナデ	ハケメ(横)、ナ デ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	
第217図 1346	土師器 高環	G-4	S169	2層	(7.8)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、赤 色粒子・角閃石2mm 以下	
第217図 1347	土師器 鉢	G-4	S169	上層	9.9	(12.5)	-	横ナデ、ナデ、工 具痕	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ(横、斜)	明赤褐(5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石1mm以下	

第2表-29 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グリッド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第217図 1348	土師器 鉢	G-4	S169	上・中層	(6.6)	(9.9)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm以下, 赤 色粒子・角閃石 2mm以 下	
第217図 1349	土師器 甗	G-4	S169	中層	(5.7)	(12.6)	-	横ナデ, ハケメ (斜), ナデ	横ナデ, ナデ, 工 具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色 粒子・黒色粒子 2mm以 下	焼成不良。
第218図 1350	土師器 鉢	G-4	S169	中層	6.5	13.9	-	ナデ	ナデ, 指頭圧, 工 具痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 3mm以下, 角閃石 2mm以下	焼成不良。
第218図 1351	土師器 鉢	G-4	S169	3層	5.2	11.7	-	ナデ, ハケメ (横 斜)	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	外・内器面に黒 斑。
第218図 1352	弥生土器 甗	G-4	S169	3層	10.2	(14.2)	-	ナデ, ハケメ (斜), 輪轡痕	ナデ, ハケメ (斜), ハケメ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子 4mm以下, 礫 5mm以 下, 雲母 1mm以下, 角 閃石 2mm以下	
第218図 1353	弥生土器 香形支脚	G-4	S169	上層	(10.2)	-	(13.4)	ナデ, タタキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・黒曜石 4mm以下, 赤色粒 子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第218図 1354	弥生土器 壺	G-4 F-3	S169	下層	(3.4)	-	-	ナデ, 貼付文	ナデ, ハケメ後 指頭圧痕	黄褐 (10YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	細かい長石・石英; 少	S361 出土土器と 接合
第218図 1355	弥生土器 壺	G-4	S169	3層	(5.5)	-	-	ナデ, ハケメ, 貼 付文	ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	細かい長石; やや多, 金 雲母; 少	
第218図 1356	弥生土器 壺	G-4	S169	上層	(3.9)	-	-	ハケメ, 赤彩	ハケメ	赤彩: 赤褐 (2.5YR4/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・石英・金 雲母; 少	内器面に赤彩。
第218図 1357	弥生土器 壺	G-4	S169	④層	(2.5)	-	-	ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい長石・角閃石・ 金雲母; 少	
第218図 1358	手捏土器 鉢	G-4	S169	③層	3.0	(4.0)	(2.0)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	橙 (7.5YR6/6)	灰褐 (7/5YR4/2)	細かい長石・石英; や や多	
第218図 1359	手捏土器 鉢	G-4	S169	下層	(2.7)	(2.6)	-	ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (7/5YR7/6)	細かい長石; 少	
第218図 1360	手捏土器 鉢	G-4	S169	上層	(5.2)	-	2.0	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	細かい長石・石英; や や多	上部は 1cm 大の 粘土塊より形成。
第218図 1361	手捏土器 鉢	G-4	S169	3層	4.1	(8.6)	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第220図 1364	土師器 甗	H-6	S174	-	20.3	13.8	-	横ナデか (不明 瞭), タタキ後ハ ケメ, ハケメ後 ナデ	横ナデか (不明 瞭), ケズリ後ナ デ, 丁寧なナデ	黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	1 ~ 5mmの長石・石英 ・角閃石・雲母・赤褐 色粒	外器面中位に黒 斑。外器面下半は 被熱し赤色化, 中 位に煤。
第220図 1365	土師器 甗	H-6	S174	-	21.4	(16.9)	-	横ナデか (不明 瞭), ハケメ後ナ デ	横ナデか (不明 瞭), ケズリ後ハ ケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	1 ~ 4mmの長石・石英 ・角閃石・赤褐色粒	外器面中位, 内器 面下位に煤。
第220図 1366	土師器 甗	H-6	S174	下層	(13.9)	(16.0)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ケズリ 後ナデ (不明瞭)	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	0.5 ~ 1mmの長石・石 英・角閃石	口縁部内器面 ~ 脚 部外器面に黒斑。
第220図 1367	土師器 甗	H-6	S174	下層	(5.6)	(19.0)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ (縦)	横ナデ, ハケメ (横), ヘラケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm以下, 赤 色粒子・雲母 2mm以下	
第220図 1368	土師器 甗	H-6	S174	-	25.6	18.3	-	横ナデ, ハケメ, ハケメ後ナデ	横ナデ, ハケメ (不明瞭), ヘラケ ズリ後ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	橙 (5YR6/6)	微細 ~ 4mm以下の長石 ・石英・赤褐色粒; 多	外器面口縁・体・ 腰部に黒斑。
第220図 1369	土師器 甗	H-6	S174	-	(7.2)	17.3	-	横ナデ, ハケメ (横/斜)	横ナデ, ヘラケ ズリ (横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm以下, 礫 5mm以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm以下	外・内器面に煤。 外器面に黒斑。
第220図 1370	土師器 甗	H-6	S174	4層	(7.7)	(16.6)	-	横ナデ	横ナデ, ヘラケ ズリ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下	焼成不良。外器面 に煤。
第220図 1371	土師器 甗	H-6	S174	最下層	(17.6)	(18.6)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	横ナデ, ケズリ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1 ~ 2mmの長石・石英 ・角閃石	口唇端部, 外器面 体部に黒斑。
第220図 1372	土師器 壺	H-6	S174	-	(8.8)	17.7	-	不明	ミガキカ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 2mm以 下, 赤色粒子・角閃石 3mm以下	
第220図 1373	土師器 高坏	H-6	S174	下層	10.4	19.8	12.3	横ナデ, ナデ, ケ ズリ後ナデ, 工 具ナデ, ハケメ	ナデ, ハケメ後 ナデ, 横ナデ	橙 (7.5YR6/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	0.5 ~ 1mmの長石・石 英・角閃石・雲母, 3mm 程の石英; 少	脚部 4箇所に穿 孔。
第220図 1374	土師器 高坏	H-6	S174	下層	(6.5)	-	(12.3)	ナデ, ハケメ (縦)	ナデ, ヘラケズ リ (横/斜)	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm以下	脚部 3箇所に穿 孔。
第220図 1375	弥生土器 鉢	H-6	S174	下層	6.1	(12.6)	-	ナデ	ナデ, 脚内: ヘラ ナデか	橙 (7.5YR6/8)	橙 (7.5YR6/8)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	丁寧な仕上げ。
第220図 1376	土師器 鉢	H-6	S174	-	(7.0)	-	12.8	ナデ, ハケメ (縦)	ナデ, 原体痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 4mm以下, 礫 5mm以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm以下	焼成不良。脚部 3 箇所に穿孔。
第220図 1377	土師器 鉢	H-6	S174	下層	(4.4)	-	-	ナデ/ミガキ (横), ハケメ (縦)	ハケメ (斜/横), ミガキカ	にぶい褐 7.5Y5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 角閃石 2mm以下	脚部 3箇所に穿 孔残存。
第220図 1378	土師器 鉢	H-6	S174	-	6.8	11.0	3.8	横ナデ, ケズリ 後ナデか	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・黒色粒子 2mm以下, 角閃石・赤 色粒子 1mm以下	外器面に黒斑。
第220図 1379	弥生土器か 鉢	H-6	S174	中層	(4.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石; 少	
第220図 1380	土師器 鉢	H-6	S174	-	5.4	15.6	-	横ナデ, ハケメ (横, 斜)	横ナデ, ハケメ, ミガキ (放射状)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	外器面に黒斑。
第220図 1381	土師器 鉢	H-6	S174	中層	4.9	(15.6)	-	ナデ, ハケメ (横 /斜)	ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・角閃石 3mm以 下, 赤色粒子 2mm以下	
第220図 1382	土師器 鉢	H-6	S174	4層	3.4	(11.3)	(4.0)	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子 2mm以下	
第220図 1383	土師器 鉢	H-6	S174	中・下層	5.2	12.6	-	ナデ, ハケメ (横)	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 1mm以下	外器面に黒斑。
第220図 1384	土師器 鉢	H-6	S174	1層	4.9	9.5	-	横ナデ, ハケメ (横/斜)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・黒色粒子 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下	
第220図 1385	土師器 鉢	H-6	S174	下層	3.1	10.7	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm以下	外器面に黒斑。
第220図 1386	土師器 鉢	H-6	S174	3層	(2.9)	9.5	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm以下	外器面に黒斑。
第220図 1387	手捏土器 鉢	H-6	S174	上~中層	3.2	(9.0)	(5.4)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	暗灰黄 (2.5Y4/2)	買黄褐 (10YR5/2)	細かい長石・石英; 少	

第2表-30 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第220図 1388	土師器 鉢	H-6	S174	下層	8.3	11.3	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	外器面に黒斑。
第220図 1389	土師器 鉢	H-6	S174	上・中層	7.6	11.1	-	横ナデ, ハケメ(横) ケズリ後ナデ	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(斜)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	外器面中位に黒 斑。
第220図 1390	土師器 鉢	H-6	S174	下層	8.2	11.7	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, ナデ	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5 ~ 1mmの長石・石 英	
第220図 1391	土師器 鉢	H-6	S174	-	7.3	(10.2)	-	横ナデ, ナデ, ミガ キ(縦), ハケメ	横ナデ, ナデ, ケ ズリ, ミガキ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石・石英・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第220図 1392	土師器 鉢か	H-6	S174	下層	(5.6)	-	-	ナデ	ナデ, ヘラナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	
第220図 1393	土師器 鉢	H-6	S174	2層	(6.6)	(11.4)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第220図 1394	土師器 鉢	H-6	S174	4層	7.7	(12.9)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第220図 1395	土師器 甗	H-6	S174	3層	8.3	13.4	-	ナデ, 横ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下	底部に焼成前穿 孔。
第222図 1396	土師器 甗	G-6	S176	中・下層	(13.9)	16.5	-	横ナデ, ナデ, ヘ ラケズリ(斜)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下	
第222図 1397	土師器 甗	G-6	S176	中層	(10.9)	(15.6)	-	横ナデ, ハケメ (縦)	横ナデ, ナデ, ヘ ラケズリ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤 色粒子・雲母 2mm 以下	
第222図 1398	土師器 甗	G-6	S176	下層	(7.7)	(15.8)	-	横ナデ, ハケメ (横/縦)	横ナデ, ナデ, ヘ ラケズリ(斜)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石 3mm 以下, 赤 色粒子・角閃石 2mm 以下	
第222図 1399	土師器 甗	G-6	S176	下層	(21.6)	(16.5)	-	横ナデ, ハケメ (斜/横), ナデ	横ナデ, ヘラケ ズリ(斜)	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外器面に煤。胴部 上位焼成後穿孔。
第222図 1400	土師器 甗	G-6	S176	中層	(7.9)	(16.6)	-	横ナデ, ハケメ (横)	横ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下, 雲母 1mm 以下	
第222図 1401	土師器 甗	G-6	S176	下層	8.2	(14.6)	-	横ナデ, ハケメ (横/縦)	横ナデ, ハケメ(斜), ヘラケズリ(斜)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石 3mm 以下, 赤 色粒子・雲母 2mm 以下	
第222図 1402	土師器 甗	G-6	S176	下層	(13.8)	(16.6)	-	横ナデ, ハケメ (斜)	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子 3mm 以下	焼成不良。
第222図 1403	土師器 甗	G-6	S176	上層	(3.7)	(15.2)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(斜)	横ナデ, ヘラケ ズリか	橙 5YR6/6)	橙 5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第222図 1404	土師器 甗	G-6	S176	上・中層	(12.3)	(19.1)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(横)	横ナデ, ハケメ (縦/横), タタキ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 黒色粒子 2mm 以下	
第222図 1405	土師器 壺	G-6	S176	中・下層	(31.2)	16.6	-	横ナデ, ハケメ (縦), ナデ	ハケメ(横/斜/縦), ナデ, 指頭圧痕, ヘ ラケズリ(斜/横)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下	外器面に黒斑。火 ハネ一部。
第222図 1406	土師器 壺	G-6	S176	中層	(7.9)	(21.8)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	
第222図 1407	土師器 鉢	G-6	S176	3層	(9.3)	(14.2)	-	横ナデ, ハケメ (斜)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	外・内器面に黒 斑。
第222図 1408	土師器 鉢	G-6	S176	上層	(11.0)	12.3	-	横ナデ, ハケメ (縦/横), ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下, 角閃石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第222図 1409	土師器 壺	G-7	S176	中層	(3.9)	(21.6)	-	ハケメ後ナデ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	細かい長石・石英; 少, 金雲母; 僅	内器面に爪痕様の 窪み。
第222図 1410	土師器 高環	G-6	S176	下層	(5.6)	13.6	-	ナデ, ハケメ(縦)	ナデ, ハケメ(横)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下	
第222図 1411	土師器 高環	G-6	S176	上層	(8.9)	-	-	ナデ, ミガキ(斜 /横), ハケメ(縦)	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下, 礫 5mm 以下	脚部に穿孔 3箇 所残存。
第222図 1412	土師器 高環	G-6	S176	中層	(5.4)	-	-	不明	不明	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	細かい石英; 僅	外・内器面に赤彩 か。
第222図 1413	土師器 鉢	G-6	S176	下層	(9.0)	(17.2)	-	横ナデ, ナデか	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第222図 1414	土師器 鉢	G-6	S176	上・下層	10.2	(15.0)	-	横ナデ, ハケメ (斜), ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下	外器面に黒斑。
第222図 1415	土師器 鉢	G-6	S176	中層	(9.9)	(12.8)	-	横ナデ, ナデ, 工 具痕	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第222図 1416	土師器 鉢	G-6	S176	上・中層	(7.4)	13.8	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(縦)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ(斜)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第222図 1417	土師器 鉢	G-6	S176	中層	7.1	(10.4)	-	横ナデ	横ナデ, ナデ, ミ ガキ(横)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黄灰 2.5Y4/1)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第222図 1418	土師器 鉢	G-6	S176	床直上	7.5	(19.1)	-	ナデ	ナデ	橙 5YR6/6)	橙 5YR6/6)	石英・長石 3mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm 以下	
第222図 1419	土師器 鉢	F-6	S176	覆土	2.9	(13.0)	-	ハケメ後ナデ	ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	細かい長石・石英; 多	
第222図 1420	土師器 鉢	G-6	S176	4層	3.8	11.3	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下, 雲母 1mm 以下	焼成不良。
第222図 1421	土師器 鉢	G-6	S176	中・下層	(3.9)	10.4	-	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第222図 1422	土師器 鉢	G-6	S176	下層	4.2	(13.2)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下	内器面に黒斑。
第222図 1423	土師器 鉢	G-6	S176	下層	(4.6)	-	(11.8)	ナデ, ハケメ(縦)	ナデ, ヘラケズ リ, シボリ痕	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 3mm 以下	
第222図 1424	土師器 支脚	G-6	S176	下層	(7.3)	-	(6.4)	ケズリ後ナデ	-	明黄褐 (10YR6/7/6)	-	細かい長石・石英・角 閃石; 多	
第223図 1425	土製品 模造鏡	G-6	S176	-	厚さ 1.3	-	直径 (5.2)	鏡面: ナデ	裏面: 丁寧なナ デ	鏡面: 橙 (7.5YR6/6)	裏面: 橙 (7.5YR7/6)	細かい石英・長石・角 閃石; 多	
第223図 1426	土製品 土鉢	G-6	S176	中~下層	長さ 6.3	最大径 1.3	-	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	細かい長石角閃石; 多	重さ: 10g。
第225図 1433	弥生土器 甗	G-4・5	S177	中~下層	(7.1)	(12.4)	-	ハケメ, タタキ	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR7/6)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石; やや多	
第225図 1434	土師器 甗	G-4・5	S177	3層	(13.7)	(16.8)	-	横ナデ, ハケメ後 横ナデ, ハケメ	横ナデ, ケズリ (不明瞭)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1 ~ 5mmの長石・石英 ・角閃石・雲母・赤褐 色粒; 多	
第225図 1435	土師器 壺	G-4・5	S177	3層	(16.9)	(14.2)	-	ハケメ(不明瞭)	不明瞭, ヘラケ ズリ後ナデ	明赤褐(5YR5/8)	明赤褐(5YR5/6)	微細~3mm程の長石・石 英・雲母・赤褐色粒; 少	外器面上・中・下 位黒斑。
第225図 1436	土師器 壺	G-4・5	S177	3層	(10.0)	-	-	不明瞭, ハケメ 後ナデ	不明瞭, ナデ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	微細~3mm程の長石・石 英・雲母・赤褐色粒; 多	外器面に黒斑。

第2表-31 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グランド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第225図 1437	土師器 壺	G・4・5	S177	3層 No.11	(4.1)	(23.0)	-	ナデ	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい石英・長石;少 金雲母・赤色粒子;僅	
第225図 1438	土師器 壺	G・4・5	S177	3層	(25.0)	(11.8)	-	横ナデ,ハケメ 後横ナデ,ハケメ (不明瞭)	横ナデ,ハケメ 後横ナデ,ハケメ 後ナデか,指頭圧 痕,ケズリ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4) 褐灰 (10YR5/1)	0.5 ~ 2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	外器面肩部以下黒 斑。
第225図 1439	土師器 壺	G・4・5	S177	3層	(8.7)	(22.0)	-	ハケメ	ヘラケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~1mm程の長石・石 英・雲母・赤褐色粒;少	
第225図 1440	土師器 壺	G・4・5	S177	3層No 11他	(8.7)	(20.0)	-	ハケメ,ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	細粒~1mm大の石英; 多,細かい角閃石・金 雲母;僅	
第225図 1441	土師器 壺	G・4・5	S177	中~下層	(6.1)	-	-	ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	細かい石英・長石;や や多	
第225図 1442	土師器 鉢	G・4・5	S177	4層	(7.2)	15.3	-	横ナデ,ハケメ (不明瞭)	横ナデ,ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	微細~3mm程の長石・ 石英;多,赤褐色粒;僅	外器面に黒斑。
第225図 1443	土師器 鉢	G・4・5	S177	2層	5.8	12.3	-	横ナデ,ハケメ, 工具ナデ	横ナデ,不明瞭	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	微細~4mm程の長石・ 石英;少,赤褐色粒;僅	外器面に黒斑。
第225図 1444	土師器 鉢	G・4・5	S177	ピット	9.7	9.6	-	横ナデ,ハケメ か	横ナデ,ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	微細~3mm程の長石・ 石英・雲母;多	外器面に黒斑。
第225図 1445	土師器 鉢	G・4・5	S177	下層	(4.6)	13.2	-	不明瞭,工具ナ デの痕跡	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細~2mm程の長石・ 石英;多	
第227図 1447	土師器 甗	G・5	S185	-	(18.1)	(16.2)	-	横ナデ,ハケメ (斜),ナデ	横ナデ,ヘラケ ズリ(右あがり/ 縦/横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・雲母・赤 色粒子3mm以下	口縁部外器面に 煤。
第227図 1448	土師器 甗	F・G・5	S185	下層	(3.4)	15.5	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第227図 1449	土師器 甗	F・G・5	S185	下層	(5.4)	(18.6)	-	ナデ	ケズリ,ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第227図 1450	土師器 甗	G・5	S185	4層	(17.9)	14.4	-	横ナデ,ハケメ (斜)	横ナデ,ヘラケ ズリ(右あがり/ 縦)	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下,礫6mm以 下,角閃石1mm以下	焼成不良。
第227図 1451	土師器 甗	G・5	S185	床直上	(11.9)	(16.1)	-	横ナデ,ヘラケ ズリ(右あがり/ 横)	横ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子3mm以下	焼成不良。
第227図 1452	土師器 壺	F・G・5	S185	下層	(5.5)	(18.7)	-	ナデ,ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子2mm以下, 角閃石1mm以下	
第227図 1453	土師器 壺	G・5	S185	床直上	(18.1)	-	-	ハケメ(縦),ナ デ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	灰黄褐 (10YR5/2)	長石・石英・角閃石 2mm以下,赤色粒子 3mm以下	
第227図 1454	土師器 甗	G・5	S185	最下層	(16.3)	-	-	ナデ,ハケメ(斜)	ナデ,ヘラケズリ (横),指頭圧痕	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石・石英・角閃石・ 赤色粒子3mm以下, 礫5mm以下	
第227図 1455	土師器 壺	G・5	S185	-	(19.2)	-	-	ナデ,ハケメ(斜 /横)	ナデ,指頭圧痕, ヘラケズリ(左 あがり)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長石・赤色粒子・石 英4mm以下,角閃石 2mm以下	外器面に黒斑。
第227図 1456	弥生土器 費か壺	F・G・5	S185	4層No.8	(4.6)	-	(6.4)	ナデ,ハケメ後 ナデ	剥落	明黄褐 (10YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・角閃石; 少	
第227図 1457	土師器 壺	G・5	S185	下層	(8.6)	11.6	-	ナデ	ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石3mm以下, 角閃石2mm以下	焼成不良。
第227図 1458	土師器 甗	G・5	S185	-	10.1	-	-	横ナデ,ナデ	横ナデ,ナデ,指 頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子2mm以下	焼成不良。外器面 に黒斑。
第227図 1459	弥生土器 壺	F・G・5	S185	3・4層	(7.9)	(15.2)	-	不明瞭,円形貼 付文	不明瞭	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい白色粒;多,長石 ・角閃石;少	
第227図 1460	土師器 壺	F・G・5	S185	4層	(6.4)	(25.2)	-	ナデか,円形貼 付文後竹管文	ナデか	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英;や や多,褐色粒;少	
第227図 1461	土師器 高環	F・G・5	S185	1層	(3.0)	(17.6)	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・角閃石・ 金雲母;やや多	
第227図 1462	土師器 鉢	G・5	S185	最下層	4.7	15.8	-	ナデ,ハケメ(斜)	ナデ,ヘラケズ リ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下, 角閃石2mm以下	焼成不良。
第227図 1463	土師器 鉢	G・5	S185	4層	5.3	15.1	-	ナデ,ケズリ後 ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 雲母1mm以下,角閃石 ・赤色粒子2mm以下	
第227図 1464	土師器 鉢	G・5	S185	4層	7.2	(13.9)	-	横ナデ,ハケメ (横),ナデ	横ナデ,ナデ,ケ ズリ後ナデか	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第227図 1465	土師器 鉢	F・G・5	S185	下層	7.9	15.0	-	ハケメ,ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子1mm以下	
第227図 1466	土師器 鉢	G・5	S185	最下層	8.4	14.3	-	横ナデ,ナデ,ハ ケメ(縦/斜)	横ナデ,ハケメ (横),ナデ,ヘラ ケズリ(左あがり)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以 下,角閃石・赤色粒子 3mm以下	焼成不良。
第227図 1467	土師器 鉢	G・5	S185	4層	8.1	11.9	-	横ナデ,ナデ,ケ ズリか	横ナデ,ハケメ (斜),ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以下, 黒色粒子・赤色粒子 2mm以下	焼成不良。
第227図 1468	土師器 鉢	F・5	S185	1層	4.5	8.8	3.4	ナデ,指頭圧痕	ハケメ,ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英;や や多,褐色粒;少	
第227図 1469	土師器 鉢	F・G・5	S185	下層	(5.9)	-	-	ナデか	ナデか	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	長石・赤色粒子2mm 以下,礫4mm以下	焼成不良。
第227図 1470	手捏土器 壺	F・G・5	S185	5層No.9	(3.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい長石・石英・角 閃石;少	頸部より上は打欠 き。
第229図 1471	土師器 甗	D・E・2	S189	-	13.6	13.1	-	横ナデ,ハケメ 後ナデ,ナデ	横ナデ,ケズリ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	明褐 (7.5YR5/6)	微細~3mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面下半に黒 斑。
第229図 1472	土師器 甗	D・E・2	S189	-	(6.7)	(13.9)	-	横ナデ,ハケメ 後横ナデ	横ナデ,ヘラケ ズリ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第229図 1473	土師器 高環	D・E・2	S189	-	(4.5)	-	-	ハケメ後横ナデ, 不明瞭,工具痕	横ナデ,ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細~1mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒;少	
第229図 1474	弥生土器 高環	D・E・2	S189	-	(7.9)	-	-	ハケメ後ナデ(不 明瞭)	ナデ,ケズリか (不明瞭)	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	4~5mmの小石粒,0.5 ~2mmの長石・石英;多, 微細な雲母;少	焼成不良。
第229図 1475	土師器 鉢	D・E・2	S189	-	6.6	13.9	-	横ナデ,ハケメ 後横ナデ	横ナデ,ミガキ (不明瞭)	明黄褐 (10YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	微細~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面に黒斑。
第229図 1476	土師器 鉢	D・E・2	S189	-	5.7	(14.4)	-	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4) 黒 (10YR2/1)	0.5 ~ 2mmの長石・石 英・雲母;少	小型丸底土器。外 ・内器面に黒斑。

第2表-32 出土遺物観察表(土器・土製品)

挿図番号	種別器種	出土地点			法量(cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第229図 1477	土師器鉢	D・E-2	S189	-	(5.0)	-	(14.2)	不明瞭	ハケメ	橙(7.5YR7/6) 明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石英・やや多、微細な雲母・赤褐色粒；少	外器面に黒斑。脚部2箇所に穿孔。
第229図 1478	土師器鉢	D・E-2	S189	-	6.1	(9.9)	-	摩滅	摩滅	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	微細~3mmの長石・石英、微細な雲母；少	
第229図 1479	土師器鉢	D・E-2	S189	-	(7.0)	(11.1)	-	不明瞭、ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	橙(2.5YR6/8) (7.5YR6/6)	明赤褐(2.5YR5/8)	3~4mmの小石粒、0.5~2mmの長石・石英・やや多、0.5~2mmの角閃石、赤褐色粒(少)、微細な雲母	
第231図 1482	土師器甗	E-5	S191	4層	26.7	16.0	-	横ナデ(不明瞭)、ハケメ後ナデ、ハケメ、ナデか	横ナデ(不明瞭)、ケズリ後ナデ、ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	微細~2mmの長石・石英・雲母	外器面腰部に黒斑、胴部以下に黒斑。
第231図 1483	土師器甗	E-5	S191	4層	24.6	19.3	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ後ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ	にぶい橙(5YR6/4)	橙(5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石英・微細な雲母	外器面肩部以下に黒斑。
第231図 1484	土師器甗	E-5	S191	4層	12.3	12.8	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ナデ	横ナデ、ハケメ後ナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英・雲母	外器面に黒斑。
第231図 1485	土師器甗	E-5	S191	4層	(9.0)	(16.6)	-	不明瞭、ハケメ(不明瞭)	ハケメ(不明瞭)、ヘラケズリ後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	微細~3mm程の長石・石英；少	外器面に黒か。
第231図 1486	土師器甗	E-5	S191	4層	(16.6)	(17.6)	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ後ナデ	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ後ナデ	明赤褐(5YR5/8)	明赤褐(5YR5/8)	微細~5mm程の長石・石英・雲母；多	外器面肩部に黒斑。
第231図 1487	土師器甗	E-5	S191	4層	12.3	13.4	-	横ナデ、不明瞭	不明瞭、ハケメ、ヘラケズリ後ナデ	褐(7.5YR4/4)	にぶい黄褐(10YR5/4) 褐(10YR4/6)	微細~5mm程の長石・石英；多	外器面に黒斑。
第231図 1488	土師器甗	E-5	S191	4層	11.1	13.0	-	横ナデ、ナデ、ケズリ後ハケメ	横ナデ、ハケメ後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	0.5~2mmの長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒	外・内器面に黒斑。
第231図 1489	土師器甗	E-5	S191	4層	23.0	17.1	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ	横ナデ、ケズリ後ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい橙(5YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒；多	外器面胴部以下に黒斑。
第231図 1490	土師器甗	E-5	S191	3・4層	(17.5)	(14.2)	-	横ナデ(不明瞭)、ハケメ後ナデ、ハケメ、不明瞭	横ナデ(不明瞭)、ケズリ、ナデ、指頭圧痕	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	0.5~1mmの長石・石英・雲母・赤褐色粒	口縁端部、外器面体部、内器面胴~腰に黒斑。外器面に煤。
第231図 1491	土師器甗	E-5	S191	-	11.8	(12.6)	-	不明瞭、工具ナデ、ハケメ(不明瞭)	不明瞭、ヘラケズリ後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	明褐(7.5YR5/6)	微細~5mm程の長石・石英；多	
第231図 1492	土師器甗	E-5	S191	4層	19.7	17.8	-	横ナデ、ハケメ後ナデ、ハケメ、不明瞭	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ後ナデ	浅黄橙(10YR8/4) にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	微細~2mm程の長石・石英・赤褐色粒；少	外器面下半に黒斑。
第231図 1493	土師器甗	E-5	S191	4層	(18.9)	(15.6)	-	横ナデ、タタキ、タタキ後ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、工具ナデ、ナデ	明赤褐(5YR5/8) にぶい黄褐(10YR5/3)	明赤褐(5YR5/8)	微細~5mm程の長石・石英・雲母；多	
第231図 1494	土師器甗	E-5	S191	4層	20.4	15.4	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ後ナデ	明赤褐(5YR5/8) 赤(10R4/6)	明赤褐(5YR5/8)	微細~3mm程の長石・石英；僅	外器面下半に黒斑。
第231図 1495	土師器壺	E-5	S191	4層	30.0	19.6	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ、ハケメ後ナデ	横ナデ、ハケメ後ナデ、ケズリ後ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	10mmの小石粒、0.5~2mmの長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒	内器面口縁~頸、外器面底~胴部に黒斑。
第232図 1496	土師器壺	E-5	S191	4層	(9.8)	(20.1)	-	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、ハケメ(不明瞭)、ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~4mm程の長石・石英；少、雲母；僅、赤褐色粒；少	
第232図 1497	土師器甗	E-5	S191	4層	(5.9)	(14.4)	-	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、不明瞭、ケズリ	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	0.5~3mmの長石・石英・赤褐色粒；多	
第232図 1498	土師器壺	E-5	S191	4層	(8.9)	(13.8)	-	横ナデ、不明瞭	不明瞭	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	微細~2mm程の長石・石英・赤褐色粒；少	
第232図 1499	土師器壺	E-5	S191	4層	(7.8)	18.1	-	不明瞭、横ナデ	不明瞭	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	4mm程の小石粒、0.5~3mm程の長石・石英、4mm程の雲母	
第232図 1500	土師器壺	E-5	S191	4層	10.1	-	-	ハケメ後ナデ、ハケメ後ミガキ、ミガキ	ハケメ後ナデ、ナデ、指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英・角閃石・雲母・赤褐色粒	外器面に黒斑、穿孔1ヶ所あり。
第232図 1501	土師器壺	E-5	S191	1層	(11.1)	-	-	横ナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2) 黒褐(10YR3/2)	0.5~3mmの長石・石英・雲母	
第232図 1502	土師器壺	E-5	S191	-	40.4	20.4	-	タタキ後ハケメ後横ナデ	ヘラケズリ後ナデ後横ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	微細~2mm程の砂粒・角閃石・長石・石英	外器面に黒斑。
第232図 1503	土師器壺	E-5	S191	4層	(9.3)	(27.8)	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6) 橙(7.5YR6/8)	微細~3mm程の長石・石英；少、雲母；僅、赤褐色粒；少	
第232図 1504	土師器壺	E-5	S191	4層	(15.3)	23.1	-	横ナデ、ハケメ後横ナデ(不明瞭)、ハケメ	横ナデ、ハケメ後ナデ、ハケメ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	5~7mmの小石粒；少、1~2mmの長石・石英・赤褐色粒	S192出土土器と接合
第233図 1505	土師器壺	E-5	S191	-	67.4	23.5	8.1	横ナデ、工具ナデ、ヘラケズリ後ナデ	ハケメ後横ナデ、ナデ	橙(5YR6/8)	橙(5YR6/8)	微細~1.5mm程の砂粒・長石・角閃石・雲母・赤褐色粒	
第234図 1506	土師器高坏	E-5	S191	1層	(7.8)	(20.6)	-	不明瞭	ハケメ	明赤褐(2.5YR5/8)	赤(10R5/8)	微細~4mm程の長石・石英を多量；含、雲母；僅	
第234図 1507	土師器高坏	E-5	S191	下層	(7.2)	-	-	ナデ、ハケメ後ナデ	工具ナデ、ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.5~3mmの長石・石英、微細な雲母；多	
第234図 1508	土師器高坏	E-5	S191	4層	9.8	17.2	(9.8)	ミガキか	ミガキ、工具痕	明赤褐(2.5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	1~3mmの長石・石英；多、角閃石・雲母	外器面に黒斑。脚部に穿孔(推定4箇所)。
第234図 1509	土師器高坏	E-5	S191	4層	(4.6)	-	10.2	ミガキ、ハケメ後ナデか、横ナデ	ケズリ、不明瞭	黄橙(7.5YR8/8)	黄橙(7.5YR8/8)	1~2mmの長石・石英・角閃石・赤褐色粒	
第234図 1510	土師器鉢	E-5	S191	1層	7.0	(13.0)	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐(2.5YR5/8) にぶい黄橙(10YR6/4)	黒褐(2.5Y3/2) 明赤褐(2.5YR5/8)	微細~6mm程の長石・石英；多	
第234図 1511	土師器鉢	E-5	S191	4層	5.4	13.2	3.8	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	横ナデ、ハケメ(不明瞭)	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~5mm程の長石・石英；多	外器面に黒斑。

第2表-33 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グリッド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第234図 1512	土師器 鉢	E-5	S191	4層	4.6	(10.7)	(5.6)	ナデ	ナデ、不明瞭	橙(7.5YR7/6) 灰黄褐(10YR6/2)	橙(7.5YR7/6)	1~2mmの長石・石英; 多.5mm程の石英;稀	
第234図 1513	土師器 鉢	E-5	S191	2層	3.9	12.1	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4) 灰黄褐(10YR5/2)	にぶい橙(7.5YR6/4) 灰黄褐(10YR5/2)	4mm程の小石粒.0.5~ 2mmの長石・石英.4mm 程の雲母・赤褐色粒	
第234図 1514	土師器 鉢	E-5	S191	2層	3.4	11.7	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	1cm以上の小石粒.1 粒.0.5~6mmの長石・ 石英.多.微細な雲母; 少	外・内器面に黒斑 か。
第234図 1515	土師器 鉢	E-5	S191	4層	6.8	13.1	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ, ハケメ	横ナデ, ハケメ, ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石英 ・角閃石・赤褐色粒;多	内器面に黒斑。
第234図 1516	土師器 鉢	E-5	S191	1層	7.3	9.0	7.3	横ナデ, ミガキか ナデか(不明瞭), ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3) 橙(5YR6/6)	にぶい黄褐(10YR4/3) 橙(5YR6/6)	0.5~3mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外・内器面に黒斑。 穿孔3ヶ所あり。
第234図 1517	土師器 鉢	E-5	S191	4層	9.0	10.3	15.0	横ナデ, ナデ, ハケ メ後ナデ(不明瞭)	横ナデ, ナデ, 不 明瞭	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	穿孔4ヶ所あり。
第234図 1518	土師器 鉢	E-5	S191	4層	9.1	15.7	11.1	横ナデ, ケズリ後 ハケメ後ナデ(不 明瞭), ハケメ後ナ デ	横ナデ, ハケメ (不明瞭), 不明瞭	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.5~3mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	外器面に黒斑。
第234図 1519	土師器 鉢	E-5	S191	4層	12.0	13.5	10.5	横ナデ, タタキ後 ハケメ(不明瞭)	ハケメ, ミガキ (不明瞭)	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	微細~2mm程の長石・ 石英・角閃石;少	
第234図 1520	土師器 鉢	E-5	S191	1層	(6.9)	-	10.4	不明瞭, ハケメ	ナデか, シボリ 痕, ケズリ, 不明 瞭	黄橙(7.5YR8/8)	黄橙(7.5YR8/8)	1~4mmの長石・石英; 多.角閃石・赤褐色粒	
第234図 1521	弥生土器 鉢か	F-5	S191	上層	(3.6)	-	(5.0)	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	橙(5YR7/6)	灰黄褐(10YR4/2)	細かい長石; やや多	
第234図 1522	土師器 鉢	E-5	S191	4層	(7.8)	(10.4)	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐(5YR5/8) にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	微細~2mm程の長石・ 石英・赤褐色粒;少	
第234図 1523	土師器 鉢	E-5	S191	1層	9.0	14.5	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ, ナデ	横ナデ, ハケメ, 工具痕, ナデ	橙(5YR6/6) 灰褐(5YR4/2)	橙(5YR6/6)	0.5~3mmの長石・石 英・雲母	外器面に黒斑。
第234図 1524	土師器 鉢	E-5	S191	4層	(8.1)	(14.2)	-	横ナデ, ケズリ後 ハケメ, ケズリ	横ナデ, ハケメ, ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1~4mmの長石・石英 ・角閃石・赤褐色粒	外・内器面に黒斑。
第234図 1525	土師器 鉢	E-5	S191	4層	7.6	12.9	-	横ナデ, ハケメ後 ミガキ, ミガキ	横ナデ, ハケメ後 ミガキ, ミガキ, ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6) 灰褐(7.5YR5/2)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	外器面に黒斑。
第234図 1526	土師器 鉢	E-5	S191	2層	6.4	(12.0)	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~1mm程の長石・ 石英・赤褐色粒;少	外器面に黒斑。
第234図 1527	手捏土器 鉢	F-5	S191	下層	4.5	5.5	3.3	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	細かい長石石英角閃石; やや多	外器面に黒斑。
第234図 1528	手捏土器 鉢	F-5	S191	中~下層	3.1	4.4	-	ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 指頭圧痕	黒褐(10YR3/2)	にぶい黄褐(10YR4/3)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第234図 1529	手捏土器 鉢か	F-5	S191	上層	(2.6)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4) 灰褐(7.5YR4/2)	にぶい橙(10YR6/4) 脚部; 褐灰(10YR4/1)	細かい長石角閃石; 多	
第234図 1530	土製品 剣か	F-5	S191	4層	長さ 3.6	最大径 3.0	-	ナデ	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	細かい長石石英; やや 多	剣の把頭跡か。重さ: .19g。
第237図 1540	土師器 甕	E・F-6	S192	-	21.1	15.0	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ	横ナデ, ハケメ, 指頭圧痕後ヘラ ケズリ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~2mm程の砂粒 ・石英・角閃石	外器面胴部以下に 煤。
第237図 1541	土師器 甕	E・F-6	S192	中・下層	23.4	17.6	-	指頭圧痕後ハケ メ, ナデ	横ナデ, 指頭圧 痕後ヘラケズリ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	微細~3mm程の砂粒 ・石英・角閃石	外器面口縁部, 下 半に煤。
第237図 1542	土師器 甕	E・F-6	S192	-	22.5	14.2	4.5	ハケメ後ナデ, ヘラミガキ	指頭圧痕, ハケ メ後ヘラケズリ, ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~5mm程の小石粒 ・長石・石英	
第237図 1543	土師器 甕	E・F-6	S192	-	16.3	14.6	-	横ナデ, タタキ, ハケメ	横ナデ, ヘラケ ズリ後指頭圧痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~2mm程の砂粒 ・石英・角閃石・長石	外器面に黒斑。
第237図 1544	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(9.9)	(12.8)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ヘラケ ズリ	にぶい褐(7.5YR5/4)	橙(7.5YR6/6)	微細~3mm程の小石 粒・石英・長石・雲母	
第237図 1545	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(6.3)	(12.4)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~2mm程の砂粒 ・長石・石英・角閃石	
第237図 1546	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(10.7)	(18.8)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ヘラケ ズリ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	微細~5mm程の小石 粒・石英	
第237図 1547	土師器 甕	E・F-6	S192	-	25.1	16.9	-	ハケメ後横ナデ	横ナデ, ナデ, ヘ ラケズリ, 指頭 圧痕	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	微細~4mm程の小石 粒・石英・長石	外器面に黒斑, 下 半に煤。
第237図 1548	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(11.0)	(14.8)	-	横ナデ	横ナデ, ヘラケ ズリ後ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	褐(7.5YR4/3)	微細~6mm程の小石粒 ・角閃石・長石・雲母	外器面被熱。内器 面に煤。
第237図 1549	土師器 甕	E・F-6	S192	-	19.0	15.7	-	ハケメ後ナデ, ヘラミガキ	横ナデ, ヘラケ ズリ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~4mm程の小石 粒・石英・長石	内器面口縁部, 外 器面肩部に黒斑。 釜み大。
第237図 1550	土師器 甕	E・F-6	S192	中層	(10.8)	(17.6)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, 指頭圧 痕後ナデ, ヘラ ケズリ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	微細~2mm程の砂粒 ・長石・雲母・石英	
第237図 1551	土師器 甕	E・F-6	S192	中・下層	18.2	15.8	-	ハケメ後横ナデ	ヘラケズリ後指 頭圧痕, ナデ, 横 ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	微細~3mm程の小石 粒・石英・長石・角閃 石・雲母	外器面に黒斑。
第237図 1552	土師器 甕	E・F-6	S192	-	12.3	13.7	-	ハケメ後横ナデ	ヘラケズリ, ハ ケメ後横ナデ	橙(2.5YR6/8)	橙(7.5YR6/6)	微細~5mm程の小石粒 ・長石・角閃石・赤色粒	全体に被熱痕跡。
第237図 1553	土師器 甕	E・F-6	S192	-	22.9	15.6	-	横ナデ, ハケメ か, ヘラケズリ 後ナデ	ハケメ, ヘラケ ズリ後ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	微細~3mm程の小石 粒・石英・角閃石・長 石・茶褐色粒	外器面に黒斑, 腰 部以下煤。
第237図 1554	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(16.7)	12.8	-	ハケメ後横ナデ	ヘラケズリ後横 ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~3mm程の小石 粒・長石・石英	外器面口縁部・肩 部以下に煤, 中位 に被熱による赤変 あり。
第238図 1555	土師器 甕	E・F-6	S192	-	23.8	17.6	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ	横ナデ, 指頭圧 痕後ヘラケズリ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	微細~2mm程の石英; 多.角閃石・長石・砂 粒	外器面に黒斑。外 器面中位に煤か。
第238図 1556	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(21.5)	-	(17.0)	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ヘラケ ズリ後指頭圧痕	明黄褐(10YR7/6)~橙 (5YR6/8)	浅黄橙(10YR8/4)	微細~4mm程の小石 粒・石英・長石	外器面に黒斑
第238図 1557	土師器 甕	E・F-6	S192	中層	(5.2)	(18.0)	-	磨耗のため不明	ヘラケズリか	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~2mm程の砂粒 ・石英・角閃石・雲母	

第2表-34 出土遺物観察表(土器・土製品)

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量(cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケット	遺構	層位	器高	口径	底径	外面面	内面	外面面	内面		
第238図 1558	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(8.6)	(15.2)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ヘラケズリ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~2mm程の砂粒・石英	
第238図 1559	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(6.1)	(17.2)	-	横ナデ, ナデ	ハケメ後ミガキ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	微細~2mm程の砂粒・角閃石・長石	
第238図 1560	土師器 甕	E・F-6	S192	-	(14.5)	(16.7)	-	ハケメ後横ナデ	横ナデ, ヘラケズリ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	微細~4mm程の小石粒・石英・雲母・白色砂粒	
第238図 1561	土師器 甕	E・F-6	S192	-	23.3	15.1	-	ハケメ後横ナデ	横ナデ, ヘラケズリ後指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	橙(7.5YR7/6)	微細~3mm程の小石粒・長石・角閃石・白色粒	外面面に黒斑。
第238図 1562	土師器 甕	E・F-6	S192	-	19.0	15.0	-	ハケメ後横ナデ	ヘラケズリ, 横ナデ後ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	微細~3mm程の小石粒・石英・白色粒・角閃石	外面面に黒斑, 下半に煤。
第238図 1563	土師器 甕	E・F-6	S192	-	25.5	15.9	-	横ナデ, ハケメ後横ナデ, ハケメ後ナデ	横ナデ, ケズリ後横ナデ, ケズリ	浅黄橙 (10YR8/3) 橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石英・微細な雲母	外面面肩~胴部に黒斑, 腰~底部に煤。
第238図 1564	土師器 壺	E・F-6	S192	-	27.2	(13.6)	-	横ナデ, タタキ後ハケメ後工具ナデ	横ナデ, 工具ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~2mm程の砂粒・石英・角閃石・長石	外面面に黒斑。
第238図 1565	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(13.9)	17.6	-	横ナデ, ハケメ	ナデ, ヘラケズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~4mm程の小石粒・石英・長石・雲母	
第238図 1566	土師器 壺	E・F-6	S192	-	32.5	18.9	4.5	横ナデ, ハケメ後ナデ, 竹管文, ナデ	ハケメ後ナデ(不明瞭), ハケメ, ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4) 赤褐色灰(7.5YR5/1)	0.5~3mmの長石・石英・多, 角閃石・雲母・赤褐色粒	外面面胴・底~腰部に黒斑。
第239図 1567	土師器 壺	E・F-6	S192	-	39.6	21.6	-	横ナデ, ハケメ後ナデ	指頭圧痕後ハケメ, 指頭圧痕後ヘラケズリ	橙(7.5YR7/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	微細~2mm程の砂粒・石英	外面面下位に黒斑。
第239図 1568	土師器 壺	E・F-6	S192	中層	(24.4)	20.4	-	横ナデ, 工具ナデ後粗いミガキ(不明瞭)	横ナデ, 工具ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1~2mmの長石・石英・3~5mmの長石・石英・微細~1mmの角閃石・雲母・赤褐色粒; 少	外面面に黒斑。
第239図 1569	土師器 壺	E・F-6	S192	-	36.2	(16.2)	-	タタキ後ハケメ後ナデ	指頭圧痕後ヘラケズリ後ナデ	淡黄(2.5Y8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	微細~3mm程の小石粒・長石	外面面体部に黒斑。
第239図 1570	土師器 壺	E・F-6	S192	-	33.5	17.4	-	ハケメ後横ナデ	ヘラケズリカナデ後ハケメ, ナデ	橙(2.5YR6/8)	にぶい黄橙 (10YR7/4) ~灰(5Y6/1)	微細~6mm程の小石粒・角閃石・長石・赤色粒	外面面底部, 肩部に黒斑。胴~腰部2箇所に焼成後穿孔。
第239図 1571	土師器 壺	E・F-6	S192	中層	(10.6)	(23.8)	-	不明瞭(ハケメ痕)	不明瞭(ハケメ痕)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~1mm程の長石・石英; 少	外面面口縁部, 内面面頸部に黒斑。
第240図 1572	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(36.0)	(24.2)	-	横ナデ, ヘラケズリ, ハケメ, ヘラミガキ	横ナデ, 指頭圧痕後ハケメ後ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)~褐色灰(10YR4/1)	1~5mm程の小石粒・石英・長石	外面面下位に黒斑。
第240図 1573	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(43.0)	22.5	4.8	タタキ後ハケメ, ヘラミガキ後横ナデ, 工具ナデ	横ナデ, ヘラミガキ, ハケメ	橙(2.5YR7/8)	橙(2.5YR7/8)	微細~4mm程の小石粒・石英・長石	被熱痕あり。
第240図 1574	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(8.8)	23.8	-	ハケメ後横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	微細~2mm程の砂粒・白色砂粒・石英	
第240図 1575	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(5.2)	(23.0)	-	横ナデ, ハケメ	ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~4mm程の小石粒・石英・角閃石・赤色粒	
第240図 1576	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(23.7)	-	4.4	ハケメ後ナデ	指頭圧痕後ハケメ	明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	微細~2mm程の砂粒・角閃石・長石	外面面に黒斑。
第240図 1577	土師器 壺	E・F-6	S192	-	18.3	12.7	-	ヘラミガキ, ハケメ	横ナデ, ナデ, ヘラケズリ, 指頭圧痕	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~2mm程の砂粒・石英・角閃石・長石	外面面に黒斑。
第240図 1578	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(9.5)	14.1	-	ハケメ	ナデ, ヘラケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	微細~3mm程の小石粒・石英・長石	
第240図 1579	土師器 壺	E・F-6	S192	中・上層	(9.7)	-	-	タタキ後ハケメ	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	微細~1.5mm程の砂粒・長石	外面面に黒斑。
第240図 1580	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(16.6)	-	-	タタキ後ハケメ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~3mm程の小石粒・長石・角閃石	外面面に黒斑。外面面に赤彩か
第240図 1581	土師器 壺	E-6	S192	-	13.2	10.6	-	横ナデ, ケズリ後ナデ, ケズリ後ミガキ	横ナデ, ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2) にぶい黄橙 (10YR7/4)	黒褐(2.5Y3/1)	0.5~3mmの長石・石英・多, 微細な角閃石・雲母; 少	外面面に頸部以下に黒斑。
第240図 1582	土師器 壺	E・F-6	S192	中層	13.1	10.1	-	ハケメ後ナデ	ナデ, 指ナデ, 工具ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~3mm程の小石粒・長石・石英・角閃石	外面面に黒斑。
第240図 1583	土師器 壺	E・F-6	S192	-	10.1	(13.8)	-	横ナデ, ナデ	ハケメ, ナデ, ヘラケズリ	黄橙(7.5YR7/8)	黄橙(7.5YR7/8)	微細~4mm程の小石粒・石英・角閃石・長石	外面面に黒斑。
第240図 1584	土師器 壺	E・F-6	S192	-	10.4	11.3	-	ハケメ後ナデ, ヘラミガキ	ハケメ後横ナデ, ヘラケズリ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~3mm程の小石粒・石英・長石	外面面に黒斑。被熱痕あり。
第240図 1585	土師器 壺	E・F-6	S192	-	4.6	9.6	-	横ナデ, 指頭圧痕後ナデ	横ナデ, ナデ	赤褐(10R5/4)	にぶい赤橙 (10R6/4)	微細~3mm程の小石粒・石英・長石・角閃石	被熱痕あり。
第240図 1586	土師器 壺	E・F-6	S192	-	8.3	11.2	-	磨耗のため不明	磨耗のため不明	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	微細~2mm程の砂粒・石英	
第240図 1587	土師器 壺	E・F-6	S192	-	6.9	(7.2)	-	ハケメ後横ナデ, ハケメ, ハケメ後ナデ	工具ナデ, ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	微細~2mm程の長石・石英・雲母; 少	外面面に黒斑。
第240図 1588	土師器 壺	E・F-6	S192	-	(10.7)	-	-	ハケメ(不明瞭)	不明瞭, ヘラケズリ後ナデ, ハケメ	黄褐(2.5Y5/4)	黒褐(2.5Y3/1)	微細~1mm程の長石・石英; 少, 微細な雲母; 僅	外面面に煤。
第240図 1589	土師器 壺	E・F-6	S192	中・下層	(4.2)	-	-	工具ナデ後ナデ	ミガキ後ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/8)	微細~1mm程の長石・石英・赤褐色粒; 少	外面面に黒斑。
第241図 1590	土師器 高坏	E・F-6	S192	-	(4.5)	(20.2)	-	ハケメ後横ナデ, ナデ	ハケメ後横ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細~3mm程の小石粒・石英・角閃石	
第241図 1591	土師器 高坏	E・F-6	S192	-	(6.9)	21.0	-	横ナデ, ハケメ, ナデ	ハケメ後ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	微細~2mm程の砂粒・石英・長石・角閃石・雲母	被熱か。
第241図 1592	土師器 高坏	E・F-6	S192	上層	(3.9)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙(5YR6/8)	微細~2mm程の長石・石英; 少	
第241図 1593	土師器 高坏	E・F-6	S192	-	(7.8)	-	(12.1)	工具ナデ, ハケメ, ナデ後横ナデ	磨耗のため不明	にぶい褐 (7.5YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	微細~3mm程の小石粒・石英・角閃石・長石	脚部4箇所に焼成後穿孔。
第241図 1594	土師器 高坏	E・F-6	S192	上層	(6.0)	-	-	ハケメか	ヘラケズリ	明黄褐 (10YR7/6)	黄橙(7.5YR7/8)	微細~3mm程の小石粒・石英・角閃石	脚部に穿孔か。
第241図 1595	土師器 鉢	E・F-6	S192	-	4.1	10.4	-	指頭圧痕, ナデ後工具ナデ	指頭圧痕, ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~2mm程の小石粒・石英・角閃石・長石	
第241図 1596	土師器 鉢	E・F-6	S192	-	4.6	13.0	-	ケズリ後ナデ	指頭圧痕後ハケメ後ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	微細~4mm程の小石粒・石英・角閃石・長石・雲母	外・内面に黒斑。
第241図 1597	土師器 鉢	E・F-6	S192	-	3.6	(12.4)	-	磨耗のため不明	磨耗のため不明	橙(5YR7/8)	橙(5YR7/8)	微細~3mm程の小石粒・長石	

第2表-35 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		グリッド	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第241図1598	土師器鉢	E・F-6	S192	-	10.4	10.6	(13.8)	指頭圧痕, ナデ	ハケメ後, 指頭圧痕, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	微細～4mm程の小石粒・石英・角閃石・長石	外器面に黒斑。
第241図1599	土師器鉢	E・F-6	S192	-	3.7	10.2	-	工具ナデ後ヘラケズリ	ヘラミガキ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・雲母	外器面に黒斑。
第241図1600	土師器鉢	E・F-6	S192	中層	(6.4)	(12.6)	-	横ナデ, 工具ナデ後ナデ	横ナデ, ミガキか	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	微細～4mm程の長石・石英・雲母; 少	
第241図1601	土師器鉢	E・F-6	S192	-	7.6	13.1	-	ナデか	ハケメ, ナデか	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～3mm程の小石粒・石英・角閃石・長石・赤褐色粒	
第241図1602	土師器鉢	E・F-6	S192	-	19.4	32.0	9.4	横ナデ, ハケメ後ナデ	指頭圧痕後ハケメ後ナデ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	微細～3mm程の石英; 多, 角閃石・長石・赤色粒・小石粒	外器面に黒斑。
第241図1603	土師器鉢	E・F-6	S192	-	(7.3)	-	-	ハケメ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	微細～3mm程の小石粒・石英・角閃石・長石	
第241図1604	土師器鉢	E・F-6	S192	-	9.2	13.2	-	横ナデ, ハケメ, ヘラケズリ	横ナデ, ナデ, 赤彩	橙 (2.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～3mm程の小石粒・石英・白色粒・角閃石	外器面, 内器面口縁部一部に赤彩。
第241図1605	土師器鉢	E・F-6	S192	中層	(8.8)	-	-	ハケメ	工具ナデか	灰黄褐 (10YR4/2)	明赤褐 (2.5YR5/6) にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細～2mm程の長石・石英; 多, 微細な雲母; 少	
第241図1606	土師器鉢	E・F-6	S192	中層	(5.6)	-	-	ハケメ	不明瞭	浅黄橙 (7.5YR8/6)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～1mm程の長石・石英; 少	
第241図1607	土師器鉢	E・F-6	S192	中層	6.4	(11.4)	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (5YR5/8)	微細～4mm程の長石・石英; 少	
第241図1608	土師器鉢	E・F-6	S192	-	7.3	10.0	-	横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	微細～3mm程の小石粒・石英・長石	外器面に黒斑。
第241図1609	土師器鉢	E・F-6	s	-	6.8	(13.2)	-	ハケメ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・石英・角閃石・長石	外器面に黒斑。
第241図1610	土師器鉢	E・F-6	S192	-	(5.7)	(10.0)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ 指頭圧痕後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～1mm程の砂粒・角閃石・長石	外器面に黒斑。
第241図1611	土師器鉢	E・F-6	S192	-	11.3	(13.9)	(12.2)	ヘラミガキ, ハケメ後ナデ, 横ナデ	磨耗のため不明	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	微細な砂粒・長石・角閃石	脚部3箇所に穿孔。
第241図1612	土師器鉢	E・F-6	S192	-	10.4	(13.8)	10.6	ヘラミガキ, ハケメ後横ナデ	ヘラミガキ後ナデ	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	微細～2mm程の砂粒・角閃石・長石	脚部外器面に黒斑。脚部3箇所に穿孔。
第241図1613	土師器鉢	E・F-6	S192	-	6.0～7.3	12.2	(8.2)	ヘラケズリ, ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・石英・角閃石	口縁部外器面に黒斑。脚部3方向に穿孔。
第241図1614	土師器鉢	E・F-6	S192	4層	(4.1)	-	-	不明瞭	不明瞭	明赤褐 (5YR5/8)	橙 (7.5YR7/6) 明赤褐 (5YR5/8)	微細～3mm程の長石・石英; 多	
第241図1615	土師器鉢	E・F-6	S192	-	(4.3)	-	9.3	不明	ヘラケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・石英・長石	脚部3箇所に穿孔。
第241図1616	土師器鉢	E・F-6	S192	-	(5.0)	-	(8.3)	ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・石英・角閃石・赤褐色粒	脚部4箇所に穿孔。
第241図1617	土師器鉢	E・F-6	S192	-	(4.6)	-	10.2	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～2mm程の砂粒・石英・長石	
第241図1618	土師器甌	E・F-6	S192	中層	10.5	(15.6)	(1.2)	ナデ	ハケメ, ケズリ後ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	微細～4mm程の小石粒・石英・角閃石・長石・白色砂粒	外器面に黒斑。底部に穿孔。
第241図1619	土師器甌	E・F-6	S192	-	9.1	16.3	1.0	ハケメ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明褐 (7.5YR5/6)	微細～2mm程の砂粒・石英・金雲母・角閃石	外・内器面に黒斑。底部に穿孔。
第241図1620	土師器甌	E・F-6	S192	-	(5.8)	-	1.0	ナデ	指ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細～4mm程の小石粒・石英・角閃石	底部に穿孔。
第241図1621	手捏土器鉢	E・F-6	S192	-	2.3	6.4	-	指頭圧痕, ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	微細～1mm程の砂粒・角閃石・長石	外器面に黒斑。
第241図1622	手捏土器鉢	E・F-6	S192	上層	6.4	6.5	-	指頭圧痕後ナデ	指頭圧痕後ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～3mm程の小石粒・長石・角閃石・雲母	外器面に黒斑。
第241図1623	手捏土器器台	E・F-6	S192	-	(3.7)	5.8	-	指頭圧痕後ナデ	指頭圧痕後ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細～2mm程の砂粒・石英・長石	
第243図1625	土師器甕	F-7	S197	4層	(13.6)	16.0	-	タタキ, ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子1mm以下	外器面に煤。
第243図1626	土師器甕	F-7	S197	下層	18.9	15.4	-	ケズリ, タタキ, ナデ	ケズリ, ハケメ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子4mm以下	外器面に黒斑。
第243図1627	土師器甕	F-7	S197	最下層	(10.1)	(16.4)	-	ナデ, 波状文	ケズリ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤色粒子2mm以下	
第243図1628	土師器甕	F-7	S197	最下層	(7.9)	(16.0)	-	ハケメ, ナデ	ケズリ, ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石・赤色粒子・雲母2mm以下	焼成不良。
第243図1629	土師器甕	F-7	S197	下層	(20.9)	(13.0)	2.0	横ナデ, ハケメ, ナデ	横ナデ, ハケメ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 礫・赤色粒子6mm以下, 角閃石2mm以下	外・内器面に黒斑。
第243図1630	土師器甕	F-7	S197	4層	(13.5)	-	-	ハケメ	ケズリ, ナデ	にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子2mm以下, 礫6mm以下	
第243図1631	土師器壺	F-7	S197	下層	(7.6)	(16.9)	-	横ナデ, ナデ, ハケメ, 貼付突帯	ナデ, ハケメ (横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm以下	
第243図1632	土師器高坏	F-7	S197	下層	12.8	(18.4)	11.8	ナデ	ナデ	橙 5YR6/6)	橙 5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 礫6mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm以下	焼成不良。脚部に穿孔4箇所残存。
第243図1633	弥生土器甕	F-7	S197	上層	(7.4)	-	8.3	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	灰黄褐 (10YR4/2)	石英・長石・黒曜石・赤色粒子3mm以下	
第243図1634	土師器甕	F-7	S197	-	(7.3)	-	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子・角閃石2mm以下	
第243図1635	土師器甕	F-7	S197	上層	(12.3)	(14.8)	-	ハケメ, ナデ	ケズリ, 横ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子4mm以下	
第243図1636	土師器甕	F-7	S197	上層	(12.5)	(16.0)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石・赤色粒子4mm以下, 角閃石2mm以下	焼成不良。
第243図1637	土師器甕	F-7	S197	上層	(14.2)	(12.8)	-	ハケメ, ナデ	指頭圧痕, ケズリ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下, 赤色粒子・角閃石1mm以下	

第2表-36 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第243図 1638	土師器 甕	F-7	S197	上・中層	11.6	9.9	-	ケズリ、ハケメ、 ナデ	ケズリ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 1mm 以下	外器面に黒斑。
第243図 1639	土師器 甕	F-7	S197	上層	11.8	(9.6)	2.0	横ナデ、ナデ、ハ ケメ	横ナデ、ナデ、工 具痕、ヘラケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 5YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、 礫 5mm 以下、赤色粒子・ 雲母・角閃石 1mm 以下	外器面に黒斑。
第243図 1640	弥生土器 壺	F-7	S197	中層	(4.7)	-	4.4	ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子 3mm 以下、 角閃石 1mm 以下	外器面に黒斑。
第243図 1641	土師器 高坏	F-7	S197	上層	(6.9)	(23.6)	-	ハケメ、ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英、長石、赤色粒子・ 角閃石 1mm 以下	
第243図 1642	土師器 高坏	F-7	S197	上・中層	(8.0)	(20.6)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第243図 1643	土師器 鉢	F-7	S197	中層	(7.2)	(153.3)	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、角閃石 2mm 以下	
第243図 1644	土師器 鉢	F-7	S197	中層	5.4	12.3	-	横ナデ、ナデ、ハ ケメ	横ナデ、ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、赤 色粒子・角閃石 2mm 以下	
第243図 1645	手捏土器 鉢	F-7	S197	2層	(3.3)	-	2.2	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい石英・角閃石・ 金雲母；少	
第243図 1646	手捏土器 把手付甕	F-7	S197	2層	2.9	2.6	-	ナデ、指頭圧痕	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	細かい長石・石英；僅	底部に黒斑。
第246図 1670	土師器 甕	H-7・8	S225	3層	(10.4)	(15.8)	-	横ナデ、ナデ、ハ ケメ(縦)	横ナデ、ヘラケ ズリ(斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子 3mm 以下、 角閃石 2mm 以下	
第246図 1671	土師器 甕	H-7・8	S225	2・3層	(21.0)	15.5	-	横ナデ(不明瞭)、 ハケメ後横ナデ、 ハケメ	横ナデ(不明瞭)、 ハケメ、ハケメ 後ケズリ、ケズ リ(不明瞭)	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	3mm程の小石粒 0.5～ 2mmの長石・石英・赤 褐色粒	外器面腰部に煤、 胴部下位に黒斑。 口縁部少し歪む。
第246図 1672	弥生土器 壺	H-7・8	S225- P1	最下層	(9.8)	(11.2)	-	横ナデ/ナデ	横ナデ、指頭圧 痕、ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第246図 1673	弥生土器 壺	H-7・8	S225- P1	-	(15.9)	(14.2)	-	横ナデ	横ナデ、ハケメ (斜/横)、ナデ、 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、礫 7mm 以 下	
第246図 1674	弥生土器 壺	H-7・8	S225	3層	(4.2)	(22.3)	-	横ナデ、ハケメ (横)	横ナデ、ハケメ (斜)	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第246図 1675	弥生土器 壺	H-7・8	S225	中層	(9.2)	18.0	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子・黒色粒子 2mm 以下	焼成不良。
第246図 1676	土師器 壺	H-7・8	S225	床直上	36.8	22.3	-	横ナデか、ハケ メ後ナデ	横ナデ、指頭痕、 ハケメ後ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	3～5mmの小石粒 0.5 ～2mmの長石・石英・ 角閃石	外器面腰部に黒 斑。内器面肩～胴 部煤、胴部下半器 面荒れ。
第246図 1677	土師器 高坏	H-7・8	S225	上・中層	(7.2)	(23.2)	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、雲母 2mm 以下	
第246図 1678	土師器 高坏	H-7・8	S225	3層	(4.5)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm 以 下、赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第246図 1679	土師器 高坏	H-7・8	S225	上・中層	(8.7)	-	-	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ、ハケメ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、礫 5mm 以 下	脚部 4箇所に穿 孔。
第246図 1680	弥生土器 鉢	H-7・8	S225	中・下層	(3.9)	-	16.8	ナデ、ハケメ(斜)	ナデ、ハケメ(斜)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子 2mm 以下、雲 母・角閃石 1mm 以下	脚部に穿孔 3箇 所残存。
第246図 1681	弥生土器 甕	H-7・8	S225	3層	(8.1)	(26.6)	-	横ナデ、ハケメ (縦/横)	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、礫 5mm 以 下	
第246図 1682	弥生土器 鉢か	H-7・8	S225	床直上	(4.7)	(19.8)	-	ナデ、ハケメ(斜)	ハケメ(横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5Y5/3)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	
第246図 1683	弥生土器 鉢	H-7・8	S225	-	(6.9)	-	(15.6)	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ、ハケメ	橙 5YR7(6)/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下、 赤色粒子 2mm 以下、 雲母 1mm 以下	脚部に穿孔 1箇 所残存。
第246図 1684	弥生土器 鉢	H-7・8	S225	3層	(3.8)	-	-	ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	
第246図 1685	土師器 鉢	H-7・8	S225	上・中層	6.5	8.9	-	横ナデ、ナデ、ハ ケメ(斜)	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、赤 色粒子・雲母 2mm 以下	外器面に黒斑。
第246図 1686	弥生土器 鉢	H-7・8	S225	上・中層	3.1	11.2	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒色粒子 2mm 以下	
第246図 1687	弥生土器 鉢	H-7・8	S225	上・中層	(2.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	長石・赤色粒子・角 閃石 2mm 以下、石英 4mm 以下	外器面に黒斑。
第246図 1688	土師器 鉢	H-7・8	S225	-	8.7	(11.4)	-	横ナデ、ハケメ 後ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第246図 1689	手捏土器 鉢	H-8	S225	下層	4.7	5.0	3.6	ナデ、指頭圧痕	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4) 明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐色 (10YR6/6)	細かい長石・石英；非 常に多	
第246図 1690	弥生土器 甕	H-7・8	S225	中・下層	(9.0)	-	-	ナデ、ハケメ(縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石 3mm 以下、赤色粒子 5mm 以下、	
第248図 1702	弥生土器 甕	G-8	S247	上・中層	(3.5)	-	6.3	ハケメ、ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・雲母・赤 色粒子 2mm 以下	
第248図 1703	土師器 甕	G-8	S247	上・中層	(12.8)	(17.8)	-	横ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石 3mm 以 下、赤色粒子・角閃石 2mm 以下	外器面に黒斑。
第248図 1704	土師器 甕	G-8	S247	中・下層	(8.3)	(16.5)	-	タタキ、ハケメ、 ナデ	指頭圧痕、ケズ リ、ハケメ	黄褐 (10YR5/8)	黄褐 (10YR5/8)	石英・長石・赤色粒子 ・角閃石 1mm 以下	
第248図 1705	土師器 甕	G-8	S247	上・中層	(10.4)	14.0	-	横ナデ、ハケメ、 タタキ	横ナデ、ハケメ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 3mm 以下、 赤色粒子 2mm 以下、角 閃石・雲母 1mm 以下	
第248図 1706	弥生土器 甕	G-8	S247	上・中層	(8.8)	-	(11.4)	ナデ	ナデ	橙 (2.5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	石英・長石・角閃石 3mm 以下、赤色粒子 2mm 以下	
第248図 1707	弥生土器 甕	G-8	S247	上・中層	(5.4)	-	(11.6)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下、 赤色粒子 2mm 以下	
第249図 1708	弥生土器 壺	G-8	S247	上・中層	(8.7)	18.4	-	ハケメ、ナデ、貼 付突帯、刺突文	ナデ、ケズリ、ハ ケメ	橙 (10YR6/6)	橙 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下、礫 6mm 以 下	

第2表-37 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第249図 1709	弥生土器 壺	G-8	S247	上・中層	(14.4)	-	-	ハケメ、ナデ、タ タキ、貼付突帯、 刺突文	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、角閃石 1mm以下	
第249図 1710	土師器 壺	G-8	S247	中・下層	(18.5)	(17.4)	-	ハケメ(横、縦)、 ナデ	指頭圧痕、ケズ リ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子4mm以下	
第249図 1711	弥生土器 壺	G-8	S247	上・中層	(6.3)	(9.9)	-	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石3mm以下、 礫6mm以下、赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第249図 1712	土師器 壺	G-8	S247	上層	28.7	16.5	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ケズリ、 ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	焼成不良。
第249図 1713	土師器 壺	G-8	S247	下層	28.3	15.5	-	横ナデ、ハケメ、 ナデ	横ナデ、ハケメ、 ヘラケズリ、ナ デ	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、赤色粒 子・角閃石2mm以下、 雲母1mm以下	
第249図 1714	弥生土器 壺	G-8	S247	上・中層	(5.3)	(15.7)	-	ナデ、キザミ目	ナデ	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第249図 1715	弥生土器 壺	G-8	S247	中層	(8.1)	-	-	ナデ、ハケメ	ナデ、指頭圧痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下、 礫5mm以下、赤色粒 子・角閃石2mm以下、 雲母1mm以下	
第249図 1716	弥生土器 壺	G-8	S247	中層	(7.8)	-	5.2	ナデ	ハケメ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、角閃石 1mm以下	
第249図 1717	土師器 壺	G-8	S247	上・中層	(15.3)	-	-	ハケメ、ナデ	ナデ、ケズリ、指 頭圧痕、ハケメ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	
第249図 1718	土師器 高坏	G-8	S247	中層	(3.0)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石1mm以下	
第249図 1719	土師器 高坏	G-8	S247	中層	(6.8)	-	-	ハケメ	ハケメ、ミガキ、 ナデ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明赤褐 (5YR5/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第249図 1720	土師器 鉢	G-8	S247	中層	4.6	11.5	-	ナデ、ケズリ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石・角閃石 ・赤色粒子・黒曜石 2mm以下	
第249図 1721	弥生土器 鉢	G-8	S247	上・中層	(8.8)	(27.4)	-	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ、 輪積痕	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黒褐 (10YR3/1)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子2mm以下	
第250図 1724	土師器 甗	G-5	S291	1・2層	(7.0)	(13.2)	-	タタキ(斜)、ハ ケメ(縦)、ナデ	指頭圧痕、ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下、 雲母・角閃石1mm以 下	
第250図 1725	土師器 鉢	G-5	S291	-	(10.1)	14.5	-	横ナデ、ナデ、ハ ケメ、ミガキカ	横ナデ、ナデ、ミ ガキカ	黄褐 (10YR5/6)	黄褐 (10YR5/6)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下、角閃石 1mm以下	
第251図 1726	土師器 甗	D-2	S360	2層	(13.7)	(16.2)	-	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ、指頭 圧痕	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子3mm以下、 角閃石2mm以下	焼成不良。外・内 器面に黒斑。
第251図 1727	土師器 甗	D-2	S360	-	(6.2)	(17.6)	-	ナデ、ハケメ後 ナデ	ナデ、ヘラケズ リ	橙 (7.5YR6/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	細かい長石・石英；や や多	
第251図 1728	土師器 甗	D-2	S360	-	(6.6)	(16.0)	-	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ナデ、ハ ケメ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第251図 1729	土師器 壺	D-2	S360	-	(5.1)	(21.2)	-	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子3mm以下	
第251図 1730	土師器 鉢	D-2	S360	-	8.5	13.2	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下、 礫5mm以下	外器面に黒斑。
第251図 1731	弥生土器 鉢	D-2	S360	-	(9.3)	(16.8)	-	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	
第251図 1732	土師器 鉢	D-2	S360	-	(3.6)	(10.0)	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石；多	
第251図 1733	土師器 鉢	D-2	S360	床直上	6.0	12.4	7.0	ナデ、指頭圧痕、 ヘラケズリ	ナデ、指頭圧痕、 ヘラケズリ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子2mm以下、 角閃石1mm以下	外・内器面に黒 斑。
第251図 1734	土師器 鉢	D-2	S360	1層	9.6	11.6	7.7	横ナデ、ハケメ、 ミガキ	横ナデ、工具痕、 ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英・長石2mm以下、 赤色粒子4mm以下、 角閃石1mm以下	外器面に黒斑。
第251図 1735	土師器 鉢	D-2	S360	-	(3.8)	-	-	ケズリか、ヘラ ミガキ	ナデ、工具痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石 3mm以下、礫5mm以 下	脚部に穿孔3箇 所残存。
第252図 1741	土師器 甗	E-5	S178	-	(13.6)	(18.0)	-	横ナデ、ハケメ (不明瞭)	横ナデ、ヘラケ ズリ後ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	3～5mmの小石粒、0.5 ～2mmの長石・石英・ 雲母・赤褐色粒	
第252図 1742	土師器 壺	E-5	S178	-	(6.5)	-	-	ハケメ	ハケメ	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石	
第252図 1743	土師器 高坏	E-5	S178	-	(5.2)	-	-	横ナデ、不明瞭	横ナデ、ナデ	にぶい黄褐 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	0.5～2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	
第252図 1744	土師器 高坏	E-5	S178	-	(5.3)	-	-	横ナデ、ミガキ か	不明瞭	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (5YR7/6)	0.5～5mmの長石・石 英・角閃石	やや 不良
第252図 1745	弥生土器 蓋	E-5	S178	-	(5.9)	-	6.3	ナデ、横ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	5mm程の小石粒、0.5～ 2mmの長石・石英・角 閃石・赤褐色粒	外器面の一部赤色 化。
第253図 1746	弥生土器 甗	E-6	S180	-	(17.5)	(26.6)	-	ハケメ、ナデ、タ タキ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下、 黒曜石6mm以下	
第253図 1747	弥生土器 甗	E-6	S180	-	(3.5)	-	-	横ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子3mm以下、黒色粒 子1mm以下	
第253図 1748	土師器 甗	E-6	S180	-	(7.3)	(12.4)	-	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ、ヘ ラケズリ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石4mm以下、 赤色粒子・角閃石・雲 母2mm以下	
第253図 1749	土師器 壺	E-6	S180	-	(5.0)	(11.6)	-	横ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下、 赤色粒子・角閃石 1mm以下	
第253図 1750	弥生土器 壺	E-6	S180	-	(3.6)	-	-	ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子2mm以下	
第253図 1751	弥生土器 鉢	E-6	S180	-	7.2	19.5	-	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒 子2mm以下	焼成不良。
第253図 1752	弥生土器 鉢	E-6	S180	-	6.3	19.2	-	ハケメ、ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (5YR5/6)	石英・長石・赤色粒 子・角閃石2mm以下	焼成不良。

第2表-38 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
第253図 1753	土師器 鉢	E-6	S180	-	(7.9)	(15.2)	-	横ナデ, ハケメ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下, 黒色粒子 1mm以下	焼成不良。
第253図 1754	土師器 鉢	E-6	S180	-	5.9	13.4	4.6	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第253図 1755	弥生土器 鉢	E-6	S180	-	(6.1)	(11.5)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下	
第253図 1756	土師器 高坏	E-6	S180	-	(10.9)	(13.8)	-	ナデ, ハケメ, 指 頭圧痕	ナデ, ハケメ	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	焼成不良。
第253図 1757	土師器 高坏	E-6	S180	-	(4.4)	-	-	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm以下, 赤色粒子・角閃石・雲 母 1mm以下	
第253図 1758	弥生土器 蓋	E-6	S180	覆土	(2.3)	-	-	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	細かい長石・石英; や や多	
第254図 1759	土師器 甗	E-6	S226	-	(3.7)	-	-	横ナデ, ハケメ 後横ナデ	横ナデ, ナデ	黄褐 (10YR5/4)	黄褐 (10YR5/4)	0.5~2mmの長石・石 英	
第254図 1760	弥生土器 壺	E-6	S226	-	(6.9)	-	-	ハケメ後横ナデ, ハケメ後ナデ	不明瞭, ナデ, 指 頭圧痕, ハケメ	明褐 (7.5YR5/6)	暗褐 (10YR3/3)	3~5mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英	歪み大。
第254図 1761	土師器 高坏	E-6	S226	-	(3.5)	-	-	ミガキ	ミガキ	明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (5YR5/8)	0.5~2mmの長石・石 英	
第254図 1762	土製品 円板	E-6	S226	覆土	幅 4.4	長さ 4.9	厚さ 0.9	ナデ	ナデ	灰褐 (7.5YR6/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	二次加工品。重 さ:16g。
第255図 1763	土師器 甗	E-5・6	S227	-	4.8	(10.0)	-	ハケメ (不明瞭)	工具ナデ	明赤褐 (5YR5/6)	橙 (5YR6/6) 暗褐 (10YR3/2)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石	外面に黒斑。
第255図 1764	土師器 高坏	E-5・6	S227	-	(5.4)	(22.6)	-	不明瞭	ハケメ (不明瞭)	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第255図 1765	土師器 鉢	E-5・6	S227	-	5.7	(17.7)	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ, 指頭 圧痕	横ナデ, ハケメ 後ナデ, 指頭 圧痕	橙 (7.5YR6/6)	明赤褐 (5YR5/6)	3~4mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 角閃石	外面に黒斑。
第255図 1766	土師器 鉢	E-5・6	S227	-	7.9	(11.8)	-	不明瞭, ハケメ, ナデ	不明瞭, 工具痕	明赤褐 (5YR5/6) 橙 (7.5YR6/6)	明褐 (7.5YR5/6)	3~5mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 角閃石	外面に黒斑。
第255図 1767	土師器 鉢	E-5・6	S227	-	7.7	(11.8)	-	ハケメ, ハケメ後 ナデ, 指頭圧痕, 工具ナデ	ハケメ, ナデ, 工 具痕	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	3~4mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 角閃石	外面に黒斑。
第256図 1768	土師器 甗	E-5	S228	-	(2.7)	-	-	ハケメ (不明瞭)	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~4mmの長石・石 英	
第256図 1769	土師器 甗	E-5	S228	-	(2.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄褐 (10YR4/3)	明褐 (7.5YR5/6)	0.5~2mmの長石・石 英	
第256図 1770	土師器 甗	E-5	S228	-	(4.4)	-	-	不明瞭	不明瞭	明褐 (7.5YR5/6)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	0.5~2mmの長石・石 英	
第256図 1771	土師器 鉢	E-5	S228	-	(3.4)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR7/4)	脚: にぶい黄橙 (10YR7/4) 橙 (7.5YR6/6)	0.5~3mm程の小石粒・ 長石・石英・赤褐色粒	
第257図 1772	弥生土器 甗	G-7	S243	-	(3.0)	-	-	摩滅	摩滅	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母; 多	
第257図 1773	弥生土器 甗	G-7	S243	中・下層	(8.2)	-	-	横ナデ, ハケメ か, 沈線	横ナデ, 指頭圧 痕, ナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.5~3mmの長石・石英; 多	
第257図 1774	弥生土器 鉢か	F-6	S243	中~下層	(2.9)	-	(7.4)	ナデか	ナデか	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 多	
第257図 1775	土師器 壺	G-7	S243	中・下層	(30.6)	-	3.4	横ナデ, ハケメ 後ナデ, タタキ, ナデ	ハケメ, ケズリ	黄橙 (7.5YR8/8)	黄橙 (7.5YR8/8)	1~5mmの長石・石英 ・赤褐色粒, 微細な雲 母; 多	外面腰部に黒 斑。
第257図 1776	土師器 壺	G-7	S243	中・下層	(13.7)	(18.0)	-	横ナデ, ハケメ後 ナデ (不明瞭), 赤彩	横ナデ, ハケメ 後ナデか	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.5~3mmの長石・石 英・角閃石	外面体部に黒 斑, 肩部に赤彩。
第258図 1777	土師器 甗	H-8	S248	-	(3.2)	-	-	不明瞭	不明瞭	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色粒	
第259図 1778	土師器 甗	H-7	S253	上・中層	(4.0)	(16.8)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石・赤色粒 子 2mm以下, 角閃石 1mm以下	
第259図 1779	土師器 甗	H-7	S253	上・中層	(15.1)	-	-	ナデ, ハケメ	ヘラケズリ, 指 頭圧痕	にぶい褐 (7.5Y5/3)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石 3mm以下, 赤色粒子 2mm以下	内・外面煤。
第259図 1780	土師器 高坏	H-7	S253	1・2層	(8.2)	(13.8)	-	ナデ, ヘラミガ キ	ナデ	橙 (5YR6/8)	明赤褐 (5YR5/8)	石英・長石・角閃石 2mm以下	脚部に穿孔 3箇 所残存。
第259図 1781	土師器 鉢	H-7	S253	3層	9.3	(15.8)	-	ナデ	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	
第259図 1782	土師器 鉢	H-7	S253	-	(6.0)	(17.6)	-	ハケメ, ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm以下	
第259図 1783	土師器 鉢	H-7	S253	1・2層	4.7	(13.8)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm以下, 礫 5mm 以下, 角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第259図 1784	土師器 鉢	H-7	S253	-	(4.2)	(14.1)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm以下, 雲母 1mm 以下	焼成不良。外面 黒斑。
第259図 1785	土師器 鉢	H-7	S253	-	3.6	10.4	-	ナデ	ケズリ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm以下	
第259図 1786	土師器 鉢	H-7	S253	上・中層	(7.3)	-	(11.4)	ミガキか, ナデ	ハケメ, ナデ, ミ ガキか	赤褐 (2.5YR4/8)	灰褐 (7.5YR4/2)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm以下	
第259図 1787	土師器 鉢	H-7	S253	-	(4.5)	-	-	ナデ, ハケメ	ナデ, 工具痕	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子 2mm以下, 雲母 1mm以下	脚部に穿孔 4箇 所残存。
第259図 1788	手捏土器 壺	H-7	S253	2層	(5.2)	-	-	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	細かい長石・石英; 少	
第260図 1789	土師器 甗	O-18・ 19	S258	-	(2.3)	(15.8)	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR5/3)	石英・長石 3mm以下, 角閃石 2mm以下	
第260図 1790	土師器 甗	O-18・ 19	S258	-	(18.4)	(16.8)	-	横ナデ, ハケメ (縦, 横), ナデ	横ナデ, ナデ, ヘ ラケズリ (斜, 縦)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	灰黄褐 (10YR5/2)	石英・長石 4mm以下, 礫 5mm以下, 赤色粒 子 2mm以下	
第260図 1791	土師器 甗	O-18・ 19	S258	-	(7.0)	-	-	ハケメ (縦)	ヘラケズリ (斜)	褐灰 (10YR4/1)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 3mm以下, 礫 5mm以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm以下	内面に黒斑。
第260図 1792	土師器 器台	O-18・ 19	S258	-	10.5	11.0	8.5	ナデ	ナデ, ハケメ (横)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 4mm以下, 赤色粒子 2mm以下	

第2表-39 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第260図 1793	弥生土器 甕	O-18・ 19	S258	-	(5.4)	-	7.6	ナデ, 工具痕	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 4mm以下, 礫5mm以下, 角閃石2mm以下	焼成不良。
第260図 1794	弥生土器 甕	O-18・ 19	S258	-	(5.0)	-	5.6	ナデ, 工具痕	ナデ, 工具痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 1mm以下	外器面に黒斑。
第261図 1795	土師器 甕	G-4	S264	-	(3.0)	-	-	不明瞭	ハケメ	黒褐 (10YR3/2)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	0.5~2mmの長石・石 英	
第261図 1796	土師器 甕	G-4	S264	-	(2.1)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第262図 1797	土師器 甕	H-8	S352	-	(5.1)	(16.4)	-	不明瞭, ハケメ	不明瞭, ヘラケ ズリ後ナデ	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	0.5~2mmの長石・石 英	
第262図 1798	土師器 高環	H-8	S352	-	(3.2)	(19.6)	-	不明瞭, ハケメ (不明瞭)	不明瞭	黄褐 (2.5Y5/3)	橙 (7.5YR6/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石	外器面に黒斑あり。
第262図 1799	土師器 高環	H-8	S352	-	(4.8)	-	-	ハケメ (不明瞭)	ナデ, ケズリ	褐 (7.5YR4/6)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	0.5~2mmの長石・石 英	
第262図 1800	土師器 高環	H-8	S352	-	(4.4)	-	-	不明瞭	不明瞭	にぶい黄褐 (10YR5/4)	褐 (10YR4/4)	0.5~2mmの長石・石 英・赤褐色粒	穿孔1ヶ所残存。
第262図 1801	手捏土器 鉢	H-8	S352	-	(2.9)	-	3.2	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・角閃石; 多	
第263図 1802	弥生土器 甕	H-7	S355	-	(1.5)	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4) 明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (5YR5/8)	0.5~4mmの長石・石 英・雲母	刻み目あり。
第263図 1803	土師器 甕	H-7	S355	-	(3.6)	(18.6)	-	横ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/4)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第272図 2083	弥生土器 甕	F・G-3	S167	中層	(7.9)	(16.7)	-	横ナデ, タタキ	横ナデ, 工具痕, ハケメ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第272図 2084	弥生土器 甕	F・G-3	S167	中層	(7.5)	(16.6)	-	横ナデ, タタキ	横ナデ, ハケメ (斜)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	外器面に黒斑。
第272図 2085	弥生土器 壺か	F-3 G-3	S167	中層	(6.0)	-	-	ナデ	ナデ, ハケメ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英; 少	
第272図 2086	土師器 壺	G-3	S167	周溝	(6.7)	(19.4)	-	ナデ, 横ナデ, ハ ケメ (縦)	ナデ, ハケメ (横)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	
第272図 2087	土師器 壺	F・G-3	S167	中層	(4.4)	(18.8)	-	ナデ, ハケメ (縦)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm以下	
第272図 2088	弥生土器 高環	F・G-3	S167	中・下層	(4.7)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	外・内器面に黒 斑。
第272図 2089	土師器 鉢	F・G-3	S167	下層	6.7	11.8	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 1mm以下	
第272図 2090	土師器 鉢	G-3	S167	周溝上層	(5.2)	(12.4)	-	横ナデ, ハケメ (斜)	ナデ, 横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 2mm以下	
第272図 2091	土師器 鉢	F・G-3	S167	中層	(4.8)	-	(15.6)	ナデ/ハケメ (斜)	指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石3mm以下, 赤色粒子・角閃石 1mm以下	
第274図 2131	土師器 高環	I-7	S168	周溝	(17.6)	(20.8)	(16.4)	横ナデ, ナデ, ハ ケメ後ナデか	横ナデ (不明瞭), ナデ, 脚内; ケズ リ (不明瞭)	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母・赤 褐色粒	
第274図 2132	土師器 高環	I-7	S168	周溝	18.2	19.6	(16.6)	不明瞭, ハケメ	不明瞭, 脚内; ナ デ, ケズリ, シボリ 痕, ケズリ後ナ デ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・赤褐色 粒	外器面底部附近 に赤色顔料の痕 跡。
第274図 2133	土師器 高環	I-7	S168	周溝	(16.0)	(19.6)	(15.7)	不明瞭	不明瞭, 脚内; ナ デ, ケズリか	橙 (5YR7/8)	黄橙 (7.5YR8/8) 橙 (5YR7/8)	微細~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色 粒	接合不可の環部と脚 部の径より図上復元 を行った為器高不確 実。
第274図 2134	土師器 高環	I-7	S168	周溝上・ 中層	17.0	18.9	16.4	横ナデ, ハケメ 後ナデ (不明瞭)	横ナデ, 不明瞭, 脚内; ナデ, ケズ リ, 赤彩	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	微細~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色 粒	外器面環部、脚 部に黒斑。内器面 一部に赤彩。
第274図 2135	土師器 高環	I-7	S168	周溝	(8.2)	20.4	-	ナデか	ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	微細~2mmの長石・石 英・雲母・赤褐色 粒; 多	
第274図 2136	土師器 壺	I-7	S168	周溝上・ 中層	(36.4)	-	-	ナデ, ハケメ後 ナデ, ハケメ	ナデ, ケズリ, ケ ズリ後ナデ (不 明瞭)	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	4~7mmの小石粒; 少, 0.5~3mmの長石・ 石英・赤褐色粒; 多	外器面腰~脚部に 黒斑。
第274図 2137	土師器 鉢	I-7	S168	周溝	5.6	(8.4)	-	不明瞭	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6) 明赤褐 (5YR5/6)	微細~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	外器面に黒斑。
第274図 2138	手捏土器 鉢	I-8	S168	周溝	4.2	(6.8)	1.6	ナデ, 指頭圧痕	ナデ	黒褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR3/1)	細かい長石石英; 多	
第278図 2143	土師器 甕	G・H-6	S308	周溝	(7.7)	-	-	横ナデ, ハケメ 後ナデ (不明瞭)	横ナデ, ケズリ (不明瞭)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4) 褐灰 (10YR4/1)	0.5~2mmの長石・石 英	
第278図 2144	土師器 甕	G・H-6	S308	周溝	(3.0)	-	-	横ナデ	横ナデ, 不明瞭	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.5~2mmの長石・石 英・角閃石・雲母	
第278図 2145	土師器 壺	G・H-6	S308	周溝・墓 坑	(1.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	主体部墓坑 (石室 外) と周溝出土土 器が接合
第278図 2146	土師器 鉢	G・H-6	S308	周溝	(1.6)	-	-	不明瞭	不明瞭	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	0.5~2mmの長石・石 英・雲母	
第281図 2147	石製品 銅	N-15	S1	上面	8.1	16.2	11.6	ケズリ (横/縦)	ケズリ	-	-	石材; 滑石	外器面下位に煤。
第281図 2148	中世土師 器杯	N-15	S1	上面	3.3	12.8	9.6	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ, ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	細かい長石・石英; 少	
第283図 2149	瓦器 碗	E-4	S175	覆土	(1.4)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (2.5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	黒色粒; 少	
第284図 2150	瓦器 碗	K-11	S276	覆土	(1.8)	-	-	回転ヘラケズリ か	回転ナデ	灰白 (10YR8/1)	灰白 (10YR8/1)	細かい白色・黒色粒; 僅	
第286図 2151	中世土師 器杯	Q-22	S4	②層	3.2	13.2	(10.2)	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ, 不定 方向ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	細かい金雲母・黒色粒; やや多, 石英; 僅	

第2表-40 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第286図 2152	白磁 碗	N-15	S4	覆土上位	(1.9)	-	-	回転ナデ	回転ナデ, 施釉(高 台内無釉), 高台内 回転ヘラケズリ	素地: 灰黄 (2.5Y7/2)	釉: 灰白 (5Y7/2)	磁胎。細かい黒色粒; 少	
第286図 2153	瓦器 碗	N-16	S4	④層	(4.0)	-	-	回転ナデ, ヘラ ナデ	回転ナデ, ナデ	灰白 (2.5Y8/2)	灰白 (2.5Y8/2)	細かい黒色粒; 多, 長石 ・石英; 僅	
第286図 2154	瓦質土器 握ね鉢	O-16	S4	覆土中位	(5.8)	-	-	回転ナデ	回転ナデ, ナデ	黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	細かい長石・石英; 多, 黒色粒; 少	
第286図 2155	須恵器 甗	P-20	S4	②層	(3.1)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	細かい黒色粒; 少	
第286図 2156	須恵器 高坏	P-19	S4	②層	(2.1)	-	(12.2)	回転ナデ	回転ナデ	暗灰黄 (2.5Y5/2)	黄灰 (2.5Y5/1)	細かい黒色粒・褐色粒; 僅	
第286図 2157	古代土師器 坏	N-16	S4	③層	(2.9)	-	-	回転ナデ, 赤彩	回転ナデ	赤彩: 橙 (2.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英; や や多, 角閃石; 僅	
第286図 2158	古代土師器 高台付坏	N-15	S4	1層 ②層	(4.4)	(12.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい褐色粒; やや多	
第286図 2159	弥生土器 甗	Q-22	S4	-	(25.9)	(32.6)	-	横ナデ, ナデ, 貼 付突帯, キザミ 目	ナデ, 指頭圧痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子・黒色粒子 3mm 以下	
第286図 2160	弥生土器 甗か	R-22	S5	1層	(1.8)	-	3.8	ハケメ(縦)後ナ デか	ハケメ後ナデか	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・石英; 少	
第286図 2161	弥生土器 高坏	P-20	S4	④層	(5.8)	-	(19.6)	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英; 少	
第290図 2178	青磁 碗	L-15	S79	覆土中位	(4.6)	(14.2)	-	回転ナデ, 雷文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰白 (10Y7/2)	釉: 灰白 (10Y7/2)	磁胎。細かい黒色粒; 僅	
第290図 2179	青磁 碗	M-14	S79	覆土下位	(4.6)	(13.4)	-	回転ナデ, 片切 り彫りの錦連弁 文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰白 (10Y7/2)	釉: 灰白 (10Y7/2)	磁胎。細かい黒色粒; 僅	
第290図 2180	青磁 碗	M-13	S79	-	(4.0)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 劃花 文, 施釉	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	磁胎	
第290図 2181	青磁 小碗か	L-16	S79	IX・X層	(1.8)	-	-	回転ナデ, 沈線, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	磁胎	
第290図 2182	青磁 碗	M-14	S79	覆土下位	(3.4)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (7.5Y5/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y5/2)	磁胎	釉厚い。
第290図 2183	青磁 碗	L-16	S79	覆土上位	(2.4)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	磁胎	
第290図 2184	青磁 皿	M-16	S79	-	(1.1)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (5Y6/2)	磁胎	
第290図 2185	青磁 碗	M-15	S79	IX・X・ XI層	(4.5)	(16.0)	-	回転ナデ, 劃花 文, 施釉	回転ナデ, 劃花 文, 施釉	釉: 暗オリーブ (5Y4/3)	釉: 暗オリーブ (5Y4/3)	磁胎	
第290図 2186	青磁 碗	L-16	S79	II層	(1.7)	-	-	回転ナデ, 連弁 文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	磁胎	
第290図 2187	青磁 碗	L-16	S79	覆土上位	(2.4)	-	-	回転ナデ, 沈線 文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	磁胎	
第290図 2188	青磁 碗	L-16	S79	II層	(2.4)	(15.8)	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (5Y6/2)	釉: オリーブ黄 (5Y6/2)	磁胎	釉厚い。
第290図 2189	青磁 碗	M-15	S79	覆土下位	(5.3)	(14.0)	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	灰オリーブ (5Y6/2)	灰オリーブ (5Y5/2)	磁胎	
第290図 2190	青磁 碗	L-15	S79	VI層	(4.1)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	磁胎	
第290図 2191	青磁 小碗	L-16	S79	VII・VIII層	(3.9)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	磁胎	
第290図 2192	青磁 碗	M-13	S79	-	(2.5)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	磁胎	
第290図 2193	青磁 碗	L-16	S79	覆土上位	3.5	(12.6)	7.0	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉 高台内: 回転ヘ ラケズリ	釉: 灰白 (7.5Y7/2) 素地: 浅黄 (2.5Y7/3)	釉: 灰白 (7.5Y7/2) 素地: 浅黄 (2.5Y7/3)	磁胎	見込み・高台内無 釉
第290図 2194	青磁 小碗	M-15	S79	覆土下位	(2.6)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	磁胎	
第290図 2195	青磁 小碗	L-14	S79	覆土上位	(3.1)	(12.0)	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ灰 (5CY6/1)	釉: オリーブ灰 (5CY6/1)	磁胎	
第290図 2196	青磁 小碗	M-13	S79	-	(1.8)	(12.0)	-	回転ナデ, 連弁 文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	磁胎	
第290図 2197	青磁 小碗	L-16	S79	VII層	(2.7)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	磁胎	
第290図 2198	青磁 小碗	L-15	S79	覆土下位	(2.2)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰黄 (2.5Y7/2)	釉: 灰黄 (2.5Y7/2)	磁胎	釉の発色不良。
第290図 2199	青磁 碗	L-16	S79	覆土上位	(3.9)	-	(6.8)	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2) 素地: にぶい橙 (5YR7/3)	磁胎	見込み・高台内無 釉
第290図 2200	青磁 碗	M-15	S79	覆土下位	(1.7)	-	(6.2)		回転ナデ, 施釉(畳 付・高台内無釉)	釉: 明緑灰 (10GY7/1)	素地: 灰黄褐 (10YR6/2)	磁胎	畳付・高台内無釉
第290図 2201	青磁 碗	M-14	S79	覆土下位	(1.7)	-	(6.6)	回転ヘラケズリ, 施釉(高台脇より 高台内にかけて 無釉)	回転ナデ, 施釉 (見込み釉剥ぎ)	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	磁胎。細かい黒色粒; 僅	
第290図 2202	青磁 碗	L-16	S79	XII・X III層	(2.8)	-	5.8	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 見込み: スタン プ文	釉: 灰オリーブ (5Y5/3)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	磁胎	
第290図 2203	青磁 碗	L-16	S79	覆土上位	(3.4)	-	5.4	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 回転ヘラケズリ	釉: 灰白 (10Y7/2)	素地: 浅黄橙 (7.5YR8/4)	磁胎。細かい黒色粒; 少	高台内無釉
第290図 2204	青磁 碗	L-16	S79	覆土中位	(1.6)	-	(8.2)	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 高台内: 回転ヘ ラケズリ	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2) 素地: にぶい橙 (5YR6/2)	磁胎	見込み中央部・高 台内無釉
第290図 2205	青磁 碗	M-14	S79	覆土下位	(1.7)	-	(8.0)	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ黄 (7.5Y6/3)	釉: 浅黄橙 (7.5Y6/3) 素地: 浅黄橙 (10YR8/3)	磁胎	高台内無釉
第290図 2206	青磁 碗	M-14	S79	V層	(2.2)	-	(5.0)	回転ナデ, 回転ヘ ラケズリ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 高台内: ケズリ	釉: オリーブ黄 (5Y6/3)	素地: 浅黄橙 (7.5YR8/4)	磁胎	高台内無釉
第290図 2207	青磁 碗	L-16	S79	覆土下位	(3.6)	-	(5.2)	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 高台内: ケズリ	灰オリーブ (7.5Y6/2)	素地: にぶい橙 (5YR6/2)	磁胎	高台内無釉
第290図 2208	青磁 皿	L-14	S79	覆土中位	(1.7)	(9.6)	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	釉: 灰オリーブ (7.5Y6/2)	磁胎	

第2表-41 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

挿図番号	種別器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考	
		ケラット	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面			
第290図2209	青磁小碗	M-13	S79	-	(2.8)	(16.8)	-	回転ナデ, 連弁文, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	磁胎		
第290図2210	青磁盤	L-16	S79	覆土下位	(2.8)	-	-	回転ナデ, 施釉	櫛描文, 施釉	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	釉: オリーブ灰 (10Y6/2)	磁胎		
第290図2211	青磁盤	L-16	S79	覆土中位	(3.5)	-	(7.6)	回転ナデ, 施釉	櫛描文 (5本単位), 施釉, 高台内: 回転ヘラケズリ	釉: 灰オリーブ (7.5Y5/3)	素地: にぶい橙 (5YR7/4)	磁胎。細かい黒色粒; 僅	高台内無釉	
第290図2212	中世土師器甕	M-14	S79	覆土中位	(6.6)	-	-	回転ナデ, 格子タタキ	回転ナデ	灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	細かい白色粒; 少	樺番城窯。	
第290図2213	須恵器環	L-14	S79	覆土上位	(6.0)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	1mm 大の白色・黒色粒; 僅		
第290図2214	須恵器搦鉢	M-14	S79	覆土中位	(1.8)	-	(9.8)	回転ナデ, ヘラケズリ	ケズリ	灰黄 (2.5Y7/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	細かい黒色粒; 僅		
第290図2215	中世土師器甕	M-13	S79		(5.9)	-	(21.2)	格子タタキ	ナデ	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	2~3mm の白色・黒色粒; 僅		
第290図2216	中世土師器杯	M-14	S79	覆土下位	2.5	(10.6)	(7.0)	回転ナデ, 糸切り, 赤彩	回転ナデ	赤彩: 橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい長石・角閃石; 少	外器面赤彩。	
第290図2217	中世土師器杯	M-14	S79	覆土中位	(2.0)	-	(8.6)	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい白色粒; 多		
第290図2218	中世土師器杯	M-14	S79	覆土中位	(1.4)	-	7.8	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	細かい石英・長石; やや多		
第291図2219	中世土師器杯	M-15	S79	覆土下位	(1.9)	-	(7.6)	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ, ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい白色粒・金雲母; 少		
第291図2220	中世土師器杯	L-14	S79	覆土中位	(1.4)	-	(8.0)	回転ナデ, 糸切り, 板状圧痕	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰褐 (7.5YR6/2)	細かい長石・石英・金雲母; やや多		
第291図2221	中世土師器皿	M-15	S79	覆土中〜下位	2.1	(9.6)	(7.8)	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	細かい長石・石英; 多, 角閃石・金雲母; 少		
第291図2222	中世土師器皿	L-16	S79	覆土上位	1.6	(7.2)	(6.0)	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	細かい白色粒; やや多, 金雲母; 僅		
第291図2223	中世土師器灯明皿	L-14	S79	覆土中位	2.0	(6.6)	5.2	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	にぶい橙 (7.5YR4/4)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英・金雲母; やや多		
第291図2224	中世土師器灯明皿	M-14	S79	覆土下位	1.9	7.5	6.0	回転ナデ, 糸切り, 板状圧痕	回転ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	細かい石英・長石; 多	口縁部に煤。	
第291図2225	瓦器碗	L-16	S79	XII・XIII層	(1.9)	-	5.4	回転ナデ, ナデ	回転ナデか	黄灰 (2.5Y5/1)	灰白 (2.5Y8/2)	細かい白色砂粒; 僅		
第291図2226	瓦質土器火鉢か	L-16	S79	覆土上位	(7.0)	-	-	ナデ, スタンプ文2種	ハケメ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい角閃石・金雲母・褐色粒; 少		
第291図2227	瓦質土器鉢	L-16	S79	IX・X層	(5.5)	-	-	スタンプ文2種, 円形貼付文	ハケメ	灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y5/1)	細かい長石・金雲母; 少		
第291図2228	瓦質土器鉢か	L-14	S79	覆土上位	(6.5)	-	-	スタンプ文2種	ハケメ後ナデ	褐灰 (10YR6/1)	黄灰 (7.5Y4/1)	細かい長石・石英・角閃石; 少		
第291図2229	瓦質土器捏ね鉢	L-16	S79	覆土下位	(5.3)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰黄 (2.5Y7/2) 黄灰 (2.5Y5/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	細かい白色粒; やや多		
第291図2230	瓦質土器鉢	M-13	S79	下部	(6.2)	-	-	ナデ	ケズリか	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	細かい長石・褐色粒・黒色粒; 少		
第291図2231	瓦質土器搦鉢	L-15	S79	覆土下位	(7.9)	-	-	ナデ, ハケメ	ハケメ, 搦目 (5本単位)	灰黄 (2.5Y6/1)	褐灰 (10YR6/1)	細かい白色・黒色粒; 少		
第291図2232	瓦質土器搦鉢	L-15・16	S79	VII・VIII層	(11.2)	-	-	回転ナデ	回転ナデ, 搦目 (7本単位)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	1mm 大の白色・黒色粒; 少		
第291図2233	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	-	(12.6)	-	(18.6)	ナデ, 指頭圧痕, ハケメ (斜) 後ナデ	ハケメ後搦目 (5本単位), ケズリ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰オリーブ (5Y5/2)	1mm 大の白色粒; 少	搦目は①下から②③右上がり④左上がりの順に施される。	
第291図2234	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	XII・XIII層	(8.9)	-	-	ナデ	搦目 (6本単位)	褐灰 (10YR5/1)	灰白 (10YR7), 褐灰 (10YR5/1)	細かい白色・黒色粒; やや多		
第291図2235	瓦質土器搦鉢	M-14	S79	覆土中位	(10.0)	-	-	横ナデ, ナデ, 指頭圧痕	ナデ, 搦目 (7本単位)	青灰 (5PB6/1)	灰 (5Y6/1)	1~2mm 大の白色粒; 少		
第291図2236	瓦質土器搦鉢	L-14	S79	覆土	(6.5)	-	-	横ナデ, ナデ (縦)	ナデ (斜), 搦目 (6本単位)	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	細かい~2mm 大の白色粒; やや多		
第291図2237	瓦質土器搦鉢	M-14	S79	覆土中位	(5.6)	-	-	回転ナデ	回転ナデ, 搦目 (7本単位)	灰褐 (5YR5/2)	灰褐 (5YR5/2)	細かい白色砂粒; 少	東播産か。	
第291図2238	瓦質土器搦鉢	M-14	S79	覆土中位	(5.6)	-	-	回転ナデ	回転ナデ, 搦目 (7本単位)	灰褐 (5YR5/2)	灰褐 (5YR5/2)	細かい白色砂粒; 少	東播産か。	
第291図2239	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	XII・XIII層	(6.4)	-	-	ハケメ後ナデ	ハケメ後搦目 (7本単位)	褐灰 (10YR6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	細かい長石; 少, 角閃石・金雲母; 僅		
第291図2240	瓦質土器搦鉢	M-15	S79	覆土下位	(7.6)	-	-	指頭圧痕, タタキ (格子か)	ケズリ, 搦目 (6本単位)	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	細かい白色粒; 少, 2mm 大の石英; 僅		
第291図2241	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	覆土IX・X層	(4.5)	-	-	ナデ, 指頭圧痕	搦目 (6本単位)	灰色 (7.5Y5/1)	灰色 (5Y6/1)	細かい長石; 少		
第291図2242	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	IX・X層	(3.0)	-	-	ナデ	搦目 (6本単位)	灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y5/1)	細かい白色・黒色粒; 僅		
第291図2243	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	覆土下位	(11.2)	(24.0)	-	タタキか, 横ナデ	ハケメ, 搦目 (8本単位)	黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	細かい白色・黒色粒; 少		
第291図2244	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	XII・XIII層	(5.2)	-	-	ナデ	搦目 (8本単位)	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	細かい白色粒; 少		
第291図2245	瓦質土器搦鉢	L-14	S79	覆土上位	(6.5)	-	-	ナデか	搦目 (8本単位)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	灰黄 (2.5Y7/2)	細かい長石・角閃石・褐色粒; 少		
第291図2246	瓦質土器搦鉢	L-16	S79	VII・VIII層	(0.9)	-	-	ナデ	搦目	褐灰 (7.5YR5/1)	褐灰 (7.5YR5/1)	細かい白色粒; 僅		
第291図2247	瓦質土器羽釜	M-15	S79	IX・X層	(10.6)	-	-	ナデ	ナデ, ヘラケズリ後ナデか	灰白 (10YR8/2) 黄灰 (2.5Y4/1)	灰褐 (7.5YR5/2) 黒褐 (10YR2/1)	細かい長石・石; 少	内器面肩部以下に煤。	
第291図2248	瓦質土器羽釜	L-14	S79	覆土上位	(3.0)	-	-	横ナデ	横ナデ	黒褐 (10YR3/1)	黒褐 (10YR3/1)	1mm 大の長石・石英; 少, 角閃石; 僅		
第292図2249	土製品円板	L-16	S79	覆土下位	-	直径7.4	厚さ1.0	回転ナデ	糸切り	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英; やや多, 金雲母・褐色粒; 僅		
第292図2250	青磁円板	L-13	S79	-	-	直径5.3	厚さ1.5	回転ナデ, 施釉	回転ヘラケズリ, 施釉 (見込み一部無釉)	灰白 (2.5Y8/2)	淡黄 (2.5Y8/3)	磁胎	二次加工品。	
第292図2251	陶器円板	M-13	S79	-	-	幅3.5	長さ4.0	厚さ1.5	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	細かい黄褐色粒; 僅	二次加工品。重さ: 21g。
第292図2252	陶器円板	M-13	S79	-	-	直径4.4	厚さ0.8	搦目	回転ナデ	釉: 黒褐色 (7.5YR3/1)	釉: 黒褐色 (7.5YR3/1)	細かい白色粒; 少	二次加工品。	
第293図2256	瓦質土器搦鉢	C-2	S138	覆土最下層	(9.6)	-	-	ハケメ後ナデ	ナデ, 搦目	黒褐 (2.5Y3/2)	浅黄 (2.5Y7/4)	細かい長石・石英; 少		
第293図2257	中世土師器皿	C-2	S138	覆土	1.8	-	-	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	橙 (5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい金雲母; 多, 石英; 僅		

第2表-42 出土遺物観察表(土器・土製品)

挿図 番号	種別 器種	出土地点			法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
		ケラツト	遺構	層位	器高	口径	底径	外器面	内器面	外器面	内器面		
第293図 2258	中世土師器 皿	D-2	S138	覆土	(1.3)	-	-	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ	明褐 (7.5YR5/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい石英・金雲母; やや多	普通
第294図 2259	青磁 碗	F-4	S145	中層	(2.3)	-	6.6	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉, 高台内: 目砂痕	釉: オリ-ブ黄 (7.5YR6/3)	釉: 灰オリ-ブ (7.5YR6/2)	素地; 磁胎。精選される。	良好
第294図 2260	天目輪陶器 碗	F-2・3	S145	-	(1.8)	-	-	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉	釉: 褐色 (7.5YR4/4)	釉: 褐色 (7.5YR4/4)	素地; 陶胎	普通
第294図 2261	中世土師器 杯	D-3・4	S145	覆土	(1.3)	-	-	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ, ナデ か	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	細かい長石・石英; 多, 角閃石; 僅	
第294図 2262	中世土師器 杯	E-3	S145	上・中層	(1.2)	-	-	回転ナデ, 糸切り	回転ナデ, ナデ	橙 (5YR67/6)	橙 (5YR67/6)	細かい長石・石英・角 閃石; やや多	
第294図 2263	瓦質土器 鉢 (捏ね鉢)	D-3	S145	上層	(6.0)	-	-	ナデ	ハケメ	にぶい橙 (7.5YR6/4) 灰褐 (7.5YR4/2)	橙 (5YR6/6)	細かい長石; 僅	
第294図 2264	瓦質土器 挿鉢	E-4	S145	上層	(2.0)	-	(14.0)	ナデ	ナデ, 挿目 (5本 単位)	黄灰 (2.5Y4/1)	灰白 (2.5Y8/2)	細かい長石; やや多	
第294図 2265	弥生土器 甗	F-2	S145	-	(5.0)	-	8.0	ハケメ後ナデ, 底: ナデ	ナデか	にぶい黄橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	細かい長石・石英; 多	
第294図 2266	須恵器 蓋	E-5	S145	上層	(3.0)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	黄灰 (2.5Y4.1)	黄灰 (2/5Y6/1)	細かい長石・石英; 僅	
第296図 2268	弥生土器 甗	F-3	S146	上・中層	(6.0)	(28.0)	-	ナデ, 貼付突帯, 指頭圧痕	ハケメ, ナデ	明黄褐 (10YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm 以下	
第296図 2269	弥生土器 甗	F-3	S146	中層	(2.0)	(29.9)	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	石英・長石 3mm 以下, 黒曜石 7mm 以下, 角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	
第296図 2270	弥生土器 甗	E-4	S146	中層	(8.0)	-	(11.2)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第296図 2271	弥生土器 甗	F-3	S146	上・中層	(7.4)	-	5.8	ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第296図 2272	弥生土器 甗	F-2	S146	中層	(6.9)	-	(5.8)	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 ・黒曜石 3mm 以下, 角 閃石 2mm 以下	
第296図 2273	弥生土器 甗	F-3	S146	-	(5.7)	-	7.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (6/4)	にぶい黄橙 (6/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第296図 2274	弥生土器 甗	F-3	S146	1・2層	(6.0)	-	(13.1)	ハケメ, ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	石英・長石・赤色粒子 3mm 以下	焼成不良。
第296図 2275	弥生土器 甗	F-3	S146	4層	(6.0)	-	6.3	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・黒色粒子 2mm 以下	
第296図 2276	弥生土器 甗	F-3	S146	上層	(2.5)	-	4.5	指頭圧痕, ナデ	ナデ	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	石英・長石・角閃石 3mm 以下	
第296図 2277	弥生土器 壺	E-5	S146	下層	(6.4)	(27.0)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子 2mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第296図 2278	弥生土器 甗	F-3	S146	-	(3.6)	-	7.0	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 2mm 以下	
第296図 2279	弥生土器 壺	F-3	S146	3層	(4.2)	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石・赤色粒子 2mm 以下	外器面に黒斑。
第296図 2280	弥生土器 壺	F-3	S146	1・2層	(6.2)	(22.4)	-	ナデ, 櫛描文	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 1mm 以下	焼成不良。
第296図 2281	弥生土器 壺	F-3	S146	上・中層	(9.7)	(21.8)	-	横ナデ, ナデ, ハ ケメ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石 2mm 以下, 赤色粒子 4mm 以下, 角閃石 1mm 以下	焼成不良。
第296図 2282	弥生土器 壺	F-3	S146	中層	(7.0)	(12.6)	-	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石英・長石 4mm 以下, 礫 5mm 以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm 以下	
第296図 2283	弥生土器 壺	F-3	S146	1・2層	(18.8)	12.4	-	横ナデ, ハケメ, 刺突文	横ナデ, ナデ, ハ ケメ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石英・長石 3mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	
第296図 2284	弥生土器 高坏	F-3	S146	1・2層	(5.2)	(31.0)	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	石英・長石 4mm 以下, 雲母 1mm 以下, 赤色粒 子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第296図 2285	弥生土器 高坏	F-3	S146	1・2層	(11.0)	(21.6)	-	横ナデ, ナデ	横ナデ, ナデ, 指 頭圧痕	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	石英・長石 4mm 以下, 赤色粒子・角閃石 2mm 以下	焼成不良。
第296図 2286	弥生土器 器台	F-3	S146	中層	21.3	(10.9)	(13.3)	ナデ, ハケメ	ナデ, ハケメ, シ ボリ痕	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	石英・長石・角閃石・ 赤色粒子 3mm 以下	
第296図 2287	須恵器 ハソウ	F-3	S146	上層	(3.3)	-	-	回転ナデ, 沈線 文	ナデか	褐灰 (10YR4/1)	灰白 (10YR7/1)	細かい長石・石英; や や多, 黒色粒; 僅	上位に自然釉。
第296図 2288	須恵器 甗	E-5	S146	下層	(5.1)	(22.0)	-	沈線文, 回転ナ デ	回転ナデ, 同心 円当具痕	灰白 (2.5Y7/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	細かい黒色粒; 少	
第296図 2289	古代須恵器 長頸壺	E-4	S146	下層	(12.2)	-	(12.6)	回転ナデ, 回転 ヘラケズリ	同心円当具痕後 回転ナデ, 高台 内: 回転ナデ	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	細かい褐色粒・黒色粒; 僅	荒尾産。
第296図 2290	中世土師器 皿	-	S146	-	1.1	(8.6)	(8.2)	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	細かい長石・石英; 少, 金雲母; 少	
第296図 2291	中世土師器 杯	-	S146	-	(1.2)	-	(9.6)	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ, ナデ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	細かい長石・石英; 少, 金雲母; 少	
第297図 2293	土師器 高坏	E-2	S350	-	(3.8)	-	-	ナデ	ナデ	褐灰 (10YR4/1)	明黄褐 (10YR7/6)	細かい長石・石英・角 閃石; 少	
第297図 2294	土師器 鉢	D-3	S350	-	(3.5)	(13.4)	-	不明瞭	不明瞭	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	3~4mmの小石粒, 0.5 ~2mmの長石・石英・ 赤褐色粒	
第297図 2295	中世土師器 皿	E-2	S350	-	(1.7)	-	-	回転ナデ, 糸切 り	回転ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	細かい長石・石英・金 雲母; 少	
第304図 2296	須恵器 坏	H・I-5	S165	上層	(2.7)	-	-	回転ナデ	回転ナデ	灰褐 (7.5YR5.2)	灰褐 (7.5YR5.2)	細かい白色砂粒・黒色 粒; 僅	
第304図 2297	須恵器 壺か	H・I-5	S165	-	(4.5)	-	-	格子タタキ	無文当て具痕	灰黄 (2.6Y7/2)	灰白 (10YR7/1)	細かい長石; 少	

第3表-1 出土遺物観察表〔石器・石製品〕

挿入番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第10図65	P-20	S111	床面直上	頁岩	円板形石器	5.7	(5.1)	0.5	(27.7)	縁辺部を打ち欠いて円形に加工。
第10図66	P-20	S111	—	花崗岩	磨石か	8.0	6.8	4.4	212.0	三角形で各辺を面取りしたような形。
第10図67	P-20	S111	P83①	花崗岩	磨石	7.1	7.0	5.4	300.0	1面だけ磨り面がある。
第10図68	P-20	S111	覆土	安山岩	磨石転用敲石	13.0	4.8	4.1	340.0	磨石折損後敲石として使用。
第10図69	P-20	S111	P1	安山岩か	敲石か	11.1	8.4	5.7	603.0	磨石からの転用か。
第10図70	P-20	S111	P71	安山岩	敲石	11.5	8.4	3.2	373.0	表裏両面とも中央付近に敲打痕残る。
第10図71	P-20	S111	覆土	安山岩	磨石・敲石	7.4	9.2	6.4	634.0	磨石折損後磨石・敲石として使用。
第10図72	P-20	S111	P22	安山岩	敲石	10.0	5.9	4.3	405.0	
第11図73	P-20	S111	1層	安山岩	台石	27.6	11.1	4.5	3540.0	
第11図74	P-20・21・Q-20	S111	—	黒曜石	石鏃	2.70	1.85	0.35	0.92	
第11図75	P-20	S111	下位	安山岩	石鏃	(2.20)	1.80	0.35	0.81	
第11図76	Q-20	S111	上位	安山岩	石鏃	(2.80)	(1.65)	0.50	1.73	
第11図77	P-20	S111	—	チャート	石鏃	2.9	1.7	0.4	1.4	横断面三角形。
第11図78	P-20・21	S111	—	安山岩	石鏃	2.30	1.70	0.30	0.53	
第11図79	P-20	S111	一層	黒曜石	石鏃	(1.70)	1.75	0.55	0.81	
第11図80	Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	(2.05)	(1.85)	0.35	0.76	
第11図81	P-20	S111	—	黒曜石	石鏃	3.20	1.75	0.50	1.54	
第11図82	P-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	1.65	1.60	0.30	0.53	
第11図83	P-20・21・Q-20	S111	—	黒曜石	石鏃	(1.75)	(1.25)	0.30	0.58	
第11図84	・Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	1.30	1.10	0.30	0.31	
第11図85	P-20	S111	下位	安山岩	石鏃	(1.80)	(1.45)	0.35	0.50	
第11図86	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(1.80)	(1.15)	0.35	0.52	
第11図87	P-20	S111	—	黒曜石	石鏃	(1.75)	(1.25)	0.30	0.44	
第11図88	P-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	(1.75)	(2.15)	0.35	0.93	
第12図89	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(2.15)	(1.45)	0.20	0.45	
第12図90	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(1.90)	1.85	0.45	0.96	
第12図91	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(2.15)	(1.80)	0.30	0.76	
第12図92	P-20	S111	P-50	安山岩	石鏃	(1.65)	1.05	0.35	0.43	
第12図93	Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	2.80	1.35	0.25	0.88	
第12図94	P-20・21・Q-20	S111	—	黒曜石	石鏃か	(2.75)	(1.90)	0.60	1.39	
第12図95	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(2.55)	1.80	0.45	1.41	
第12図96	P-20	S111	上位	安山岩	石鏃未製品	1.65	1.30	0.40	0.75	
第12図97	P-20・21	S111	—	黒曜石	石鏃	(1.40)	(1.00)	0.30	0.37	
第12図98	・Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	(1.00)	(0.85)	0.25	0.21	
第12図99	P-20	S111	—	安山岩	石鏃	(2.35)	(1.65)	0.50	1.51	
第12図100	P-20	S111	—	黒曜石	石鏃未製品	2.20	2.05	0.85	2.43	
第12図101	Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃	1.60	1.40	0.30	0.47	
第12図102	Q-20	S111	上位	安山岩	石鏃未製品	2.45	1.55	0.50	1.86	
第12図103	P-20	S111	上位	黒曜石	石鏃未製品	1.95	1.50	0.35	1.22	
第12図104	P-20	S111	下位	安山岩	石鏃未製品	2.70	1.80	0.70	3.18	
第12図105	P-20	S111	—	黒曜石	石鏃未製品	2.60	1.75	0.90	2.97	
第12図106	P-20	S111	—	黒曜石	石鏃未製品	1.75	1.50	0.25	0.50	
第12図107	Q-20	S111	—	安山岩	石鏃未製品	2.95	2.35	0.70	4.39	
第12図108	P-20	S111	上位	安山岩	石鏃未製品	2.15	2.15	0.35	1.62	

挿入番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第12図109	Q-20	S111	上位	黒曜石	石鏃か	3.35	1.20	0.55	2.31	
第12図110	P-20・21・Q-20	S111	—	安山岩	石鏃か	(2.95)	(1.15)	0.45	1.71	
第15図125	Q-20	S172	1層	頁岩か	磨製石鏃	(2.9)	2.0	0.2	1.8	先端欠損
第15図126		S172	上層	安山岩	石鏃	(2.95)	(1.55)	0.35	1.16	
第15図127	R-20	S172	—	黒曜石	石鏃	(3.00)	(2.00)	0.35	1.22	
第15図128		S172	—	安山岩	石鏃	(2.15)	(1.45)	0.30	0.64	
第15図129	Q-20	S172	上層	安山岩	石鏃	(2.45)	1.50	0.35	1.18	
第15図130		S172	—	黒曜石	石鏃	(2.15)	(1.60)	0.30	0.55	
第15図131	R-20	S172	床直	安山岩	石鏃	(2.35)	(1.70)	0.35	0.67	
第16図132		S172	上層	安山岩	石鏃	2.35	1.55	0.35	0.76	
第16図133		S172	1層	安山岩	石鏃	(1.60)	(1.60)	0.30	0.65	
第16図134		S172	上層	黒曜石	石鏃	1.75	1.40	0.30	0.63	
第16図135		S172	1層	安山岩	石鏃	(1.20)	1.50	0.30	0.55	
第16図136		S172	1層	黒曜石	石鏃	(2.10)	(1.85)	0.30	0.81	
第16図137	R-20	S172	—	黒曜石	石鏃	2.25	1.70	0.50	1.65	
第16図138	Q・R-20	S172	—	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.85)	0.50	1.54	
第16図139	Q-20	S172	中央土坑	黒曜石	石鏃	(1.55)	(1.60)	0.25	0.36	
第16図140		S172	1層	黒曜石	石鏃	1.70	1.50	0.35	0.46	
第16図141		S172	上層	黒曜石	石鏃	(1.55)	(1.35)	0.30	0.34	
第16図142		S172	—	黒曜石	石鏃	1.35	1.40	0.30	0.38	
第16図143	R-20	S172	床直	黒曜石	石鏃	1.65	1.90	0.35	0.58	
第16図144		S172	上層	黒曜石	石鏃	(1.60)	(1.55)	0.35	0.52	
第16図145	R-20	S172	床直	安山岩	石鏃	2.25	1.90	0.30	1.19	
第16図146	R-20	S172	—	安山岩	石鏃	2.05	2.00	0.50	1.35	
第16図147	R-20	S172	—	安山岩	石鏃	(1.90)	(1.85)	0.25	0.84	
第16図148	R-20	S172	—	安山岩	石鏃	1.80	1.55	0.40	0.67	
第16図149		S172	上層	安山岩	石鏃	2.05	1.70	0.30	0.76	
第16図150		S172	—	安山岩	石鏃	(2.00)	(1.15)	0.20	0.44	
第16図151		S172	検出面	安山岩	石鏃	(4.35)	(2.25)	0.40	3.35	
第16図152	Q-20	S172	上層	安山岩	石鏃	4.95	1.00	0.80	3.76	
第16図153	R-20	S172	—	黒曜石	石鏃未製品か	(2.45)	1.15	0.90	2.13	
第16図154	Q・R-20	S172	—	安山岩	石鏃	2.50	1.75	0.40	1.17	
第16図155		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	1.80	1.15	0.20	0.54	
第16図156	Q・R-20	S172	1層	黒曜石	石鏃未製品	2.35	1.45	0.40	1.15	
第17図157	R-20	S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.10	1.90	0.25	1.04	
第17図158	Q-20	S172	上位	黒曜石	石鏃未製品	2.30	1.80	0.55	1.87	
第17図159	Q・R-20	S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.30	2.05	0.65	2.13	
第17図160	R-20	S172	—	安山岩	石鏃未製品	2.25	1.95	0.65	2.68	
第17図161		S172	—	安山岩	石鏃未製品か	2.35	1.85	0.55	1.63	
第17図162		S172	—	黒曜石	石鏃未製品か	2.70	1.35	0.65	2.22	
第17図163		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.20	1.80	0.75	3.11	
第17図164	Q-20	S172	上位	黒曜石	石鏃未製品	1.60	1.95	0.50	1.46	
第17図165	Q・R-20	S172	1層	黒曜石	石鏃未製品	2.05	1.80	0.55	1.96	
第17図166		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.15	1.55	0.55	1.91	
第17図167		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	1.50	2.25	0.45	1.60	
第17図168	Q-20	S172	中央土坑	黒曜石	石鏃未製品	1.30	2.10	0.15	0.86	

第3表-2 出土遺物観察表〔石器・石製品〕

挿図番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	ゲリッド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第17図169		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.55	1.20	0.75	1.53	
第17図170	Q-20	S172	上層	安山岩	石鏃未製品	2.90	1.80	0.55	2.17	
第17図171	Q-20	S172	上層	安山岩	石鏃未製品	4.50	2.65	0.95	10.87	
第17図172		S172	—	黒曜石	石鏃未製品	2.75	1.80	0.65	2.36	
第17図173	Q-20	S172	中央土坑	安山岩	石鏃未製品	3.70	2.40	0.70	5.67	
第17図174	R-20	S172	—	安山岩	磨石	6.8	3.6	2.4	80.5	
第21図196	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(3.10)	(2.00)	0.30	1.23	
第21図197	P-19	S202	1層	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.85)	0.35	1.25	
第21図198	P-19	S202	—	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.55)	0.25	0.59	
第21図199	R-19	S202	3層	黒曜石	石鏃	(1.95)	(1.50)	0.30	0.66	
第21図200	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(2.20)	1.55	0.40	0.63	
第21図201	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(2.30)	1.75	0.40	0.81	
第21図202	Q-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(2.75)	(1.65)	(0.35)	1.34	
第21図203	O-18・19	S202	P14内	黒曜石	石鏃	(2.25)	(1.70)	0.30	1.05	
第21図204	P-18	S202	1層	安山岩	石鏃	(1.95)	1.55	0.35	0.89	
第21図205	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(2.65)	(1.40)	(0.35)	0.92	
第21図206	O-18・19	S202	中央土坑(3層)	安山岩	石鏃	2.95	1.20	0.40	1.39	
第21図207	O-18・19	S202	2層	黒曜石	石鏃	1.35	1.15	0.35	0.46	
第21図208	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(1.40)	(1.10)	0.30	0.36	
第21図209	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	1.80	1.35	0.25	0.51	
第21図210	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(2.10)	(1.20)	0.20	0.62	
第21図211	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	2.40	1.60	0.45	1.54	
第21図212	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(1.40)	(1.35)	(0.20)	0.41	
第21図213	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃	(2.15)	(1.45)	0.50	1.26	
第21図214	Q-19	S202	—	安山岩	石鏃	(1.85)	(1.45)	0.30	0.80	
第21図215	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(1.75)	(1.05)	0.30	0.45	
第21図216	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃か	3.45	1.60	0.40	2.55	
第22図217	Q-19	S202	3層	黒曜石	石鏃未製品	4.15	3.00	1.10	10.80	
第22図218	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃未製品	3.95	3.10	1.10	10.16	
第22図219	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃未製品	3.80	2.80	0.80	6.15	
第22図220	Q-19	S202	3層	安山岩	石鏃未製品か	4.90	2.30	1.05	8.88	
第22図221	P-18	S202	1層	安山岩	石鏃未製品	2.90	2.15	0.50	2.75	
第22図222	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃未製品	2.25	1.65	0.60	1.86	
第22図223	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃未製品	2.25	1.50	0.50	1.62	
第22図224	R-19	S202	3層	黒曜石	石鏃未製品	1.80	2.15	0.50	1.27	
第22図225	O-18・19	S202	—	安山岩	石鏃未製品	1.60	2.10	0.35	1.08	
第23図226	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃未製品か	(5.50)	1.85	1.10	8.08	
第23図227	Q-19	S202	—	安山岩	石鏃	(3.55)	2.45	1.30	8.53	
第23図228	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(2.00)	1.05	0.55	1.16	
第23図229	O-18	S202	—	安山岩	石鏃	(2.55)	(1.05)	0.55	1.43	
第23図230	R-19	S202	3層	安山岩	石鏃	(3.05)	0.80	0.55	1.23	
第23図231	O-18・19	S202	—	泥岩	扁平片刃石斧	(2.0)	(2.4)	(0.6)	(3.5)	キメ細かいシルト質。丁寧な研磨。
第23図232	P-19 Q-19	S202	3層	砂岩	砥石	17.2	9.9	9.0	1091.0	
第24図245	J-13	S245	埋土	安山岩	石鏃	3.65	2.15	0.30	2.01	
第24図246	J-13	S245	埋土	安山岩	石鏃	(2.60)	(1.75)	0.40	1.10	
第26図254	O-22	S17	覆土上位	不明	石包丁か	(1.8)	(4.8)	0.5	(5.7)	石材は安山岩に極細粒砂が混入するよう質。
第26図255	O-21 O-22	S17	覆土1	泥岩	小型片刃石斧か	(2.6)	(0.6)	1.0	(2.6)	刃部先端付近と見られる。両側縁とも砥石。
第26図256	O-21・22	S17	2層	安山岩	石鏃	2.05	2.00	0.40	0.94	
第26図257	O-21・22	S17	2層	安山岩	石鏃	2.90	2.05	0.40	1.78	
第26図258	O-21・22	S17	下位	安山岩	石鏃	3.25	1.35	0.35	1.62	
第27図264	O-22	S104	覆土下位	頁岩	紡錘車	直径(4.6)	—	0.6	(11.1)	孔径4mm。全体に丁寧な研磨。
第27図265	O-22	S104	覆土1	頁岩	磨製石斧	(5.8)	6.6	1.0	(65.8)	
第30図266	N-21	S130	—	黒曜石	石鏃	1.75	1.45	0.30	0.42	
第30図267	N-21・22	S130	P-2	黒曜石	石鏃	2.10	1.15	0.45	1.05	
第30図268	N-21・22	S130	P-2	安山岩	石鏃	(1.95)	(1.80)	0.30	1.05	
第35図283	R-21 S-21	S147	上層	頁岩	石包丁	(4.7)	(6.1)	0.8	(32.3)	滑石のような滑らかさはないが光沢のある石材。
第35図284	R-21	S147	覆土下位	頁岩	紡錘車	直径4.7	—	0.7	21.1	孔径7mm。全体に丁寧な研磨。
第35図285	S-21	S147	4層	砂岩	砥石	20.2	17.4	8.7	3350.0	石材はかなり脆く風化著しい。
第35図286	P・S-21	S147	P-1	黒曜石	石鏃	(2.40)	(1.85)	0.35	1.33	
第35図287	B-21	S147	2層	安山岩	石鏃	2.80	1.55	0.55	1.91	
第35図288	S-21	S147	上位	安山岩	石鏃未製品か	2.40	1.80	0.40	1.13	
第35図289	R-21	S147	—	安山岩	石鏃	(1.60)	(1.35)	0.30	0.48	
第35図290	R-21	S147	上層	安山岩	石鏃か	(1.50)	(0.85)	0.25	0.28	
第35図291	S-21	S147	覆土	黒曜石	石鏃	(2.35)	2.85	0.55	2.38	
第37図296	R-21	S171	上位	黒曜石	石鏃	(2.10)	(1.75)	0.45	1.00	
第37図297	S-21	S171	上位	安山岩	石鏃	3.15	2.45	0.70	4.15	
第37図298	R-21	S171	下位	黒曜石	石鏃	1.70	1.65	0.35	0.68	
第37図299	R-21	S171	—	安山岩	石鏃未製品	5.25	2.70	0.80	10.63	
第37図300	S-21	S171	上層	黒曜石	石鏃未製品	2.00	1.80	0.65	2.05	
第37図301	R-21	S171	上位	黒曜石	石鏃未製品	1.80	1.50	0.35	0.82	
第37図302	R-21	S171	覆土上位	安山岩	石鏃未製品か	4.70	1.20	0.50	2.66	
第38図308	R-22	S82	—	黒曜石	石鏃未製品	3.15	1.95	0.85	4.37	
第39図311	N-22	S87	ビット	黒曜石	石鏃	1.70	1.25	0.45	0.63	
第40図315	Q-22	S103	最下層	黒曜石	石鏃	(2.30)	2.15	0.50	1.48	
第40図316	R-22	S103	覆土上位	安山岩	石鏃	3.55	1.05	0.70	2.21	
第42図319	O-22	S105	No.2	安山岩	磨石か	12.8	12.8	2.9	573.0	平面三角形。両面に磨り面、中央に細かい砥打痕
第42図320	O-22	S105	No.3	安山岩	磨石か	13.7	10.1	2.9	588.0	平坦面に磨り面、中央付近に細かい砥打痕
第42図321	O-22	S105	覆土	泥岩	扁平片刃石斧	4.2	2.5	0.8	14.5	シルト質。基部破損後研磨か
第42図322	O-22	S105	上位	姫島産黒曜石	石鏃	(1.90)	(1.20)	0.30	0.36	
第42図323	O-22	S105	—	黒曜石	石鏃未製品	1.90	1.15	0.20	0.72	
第42図324	O-22	S105	下位	安山岩	石鏃未製品	4.20	2.40	0.70	5.62	
第42図325	O-22	S105	—	黒曜石	石鏃未製品	2.45	2.00	1.15	4.77	
第42図326	O-22	S105	—	黒曜石	石鏃未製品	2.95	2.50	1.20	8.84	
第42図327	O-22	S105	—	安山岩	石鏃未製品	4.30	2.90	1.00	12.01	
第44図332	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	2.25	(1.30)	0.40	0.67	
第44図333	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	(2.05)	(1.15)	0.25	0.51	
第44図334	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	(2.75)	(1.40)	0.35	0.98	
第44図335	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.80)	0.35	1.07	
第44図336	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	(2.55)	(2.35)	0.35	1.10	

第3表-3 出土遺物観察表 (石器・石製品)

挿図番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	グロット	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第44図337	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	2.95	1.90	0.55	2.56	
第44図338	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃	(2.35)	(1.65)	0.35	0.98	
第44図339	Q-21	S152	—	黒曜石	石鏃未製品	1.75	1.80	0.55	1.16	
第44図340	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃未製品	1.60	1.55	0.20	0.56	
第44図341	Q-21	S152	—	安山岩	石鏃未製品	2.65	2.00	0.50	2.39	
第44図342	Q-21	S152	覆土	安山岩	石鏃	(3.20)	0.90	0.50	1.52	
第45図347	Q-21	S153	—	黒曜石	石鏃	(2.60)	(1.85)	0.35	0.87	
第45図348	Q-21	S153	下位	黒曜石	石鏃	2.60	1.95	0.40	1.29	
第45図349	Q-21	S153	—	黒曜石	石鏃	(2.35)	(2.00)	0.50	1.34	
第45図350	Q-21	S153	下位	黒曜石	石鏃	1.55	1.40	0.30	0.56	
第45図351	Q-21	S153	下位	安山岩	石鏃	(2.60)	1.80	0.55	2.41	
第45図352	Q-21	S153	—	黒曜石	石鏃未製品	4.60	2.90	0.80	8.33	
第46図353	R-20	S201	2層	安山岩	磨製石斧	(8.3)	5.8	3.0	(208.0)	刃部は使用により摩耗か
第46図354	R-20	S201	—	黒曜石	石鏃	1.85	(1.25)	(0.35)	0.45	
第46図355	Q・R-20	S201	—	安山岩	石鏃	2.05	1.25	0.30	0.54	
第46図356	Q・R-20	S201	—	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.60)	0.35	0.88	
第47図360	R-20	S368	覆土	安山岩	磨製石剣	(7.2)	4.1	1.1	(40.3)	基部を除き風化により表面剥離。
第47図361	R-20	S368	覆土	安山岩	石鏃	3.90	0.85	0.55	1.81	
第48図363	O-18	S369	4層	安山岩	石鏃	(2.25)	(1.45)	0.30	0.64	
第48図364	O-18	S369	—	安山岩	石鏃未製品	2.90	2.05	0.45	2.16	
第51図378	Q-21	S16	覆土上層	泥岩	扁平片刃石斧	(2.8)	(2.8)	0.6	(7.4)	シルト質。両面わずかに凹凸残る。
第51図379	Q-21	S16	上位	黒曜石	石鏃	1.75	1.60	0.25	0.53	
第51図380	Q-21	S16	上位	安山岩	石鏃	(2.30)	(1.35)	0.25	0.66	
第58図399	O-22	S37	—	黒曜石	石鏃	(1.95)	(1.40)	0.40	0.65	
第59図406	P-22	S38	—	安山岩	石鏃	2.30	1.45	0.30	0.54	
第59図407	P-22	S38	2層	黒曜石	石鏃	(1.65)	(1.35)	0.30	0.64	
第62図442	O-22	S40	覆土下位	砂岩	石包丁	5.7	(7.0)	0.5	(29.6)	ほぼ片面穿孔。
第62図443	O・P-22	S40	下層	安山岩	石鏃	(3.00)	1.35	0.45	1.21	
第62図444	O-22	S40	覆土中位	安山岩	石鏃	3.15	1.40	0.35	0.85	
第66図472	O-19	S47	—	安山岩	石鏃	(1.95)	(1.70)	0.30	0.75	
第66図473	O-19	S47	—	黒曜石	石鏃	(2.05)	(1.75)	0.45	0.96	
第66図474	O-19	S47	2層	黒曜石	石鏃未製品	1.85	1.55	0.35	1.05	
第67図480	O-19	S48	1層	安山岩	石鏃	(2.90)	(1.50)	0.30	1.10	
第67図481	O-19	S48	覆土	黒曜石	石鏃	(2.90)	2.80	0.80	4.03	
第72図502	Q-21	S61	—	安山岩	石鏃	(1.85)	(1.25)	0.25	0.40	
第72図503	Q-21	S61	2層	黒曜石	石鏃	(1.15)	1.10	0.30	0.35	
第72図504	Q-21	S61	—	黒曜石	石鏃	1.25	1.65	0.25	0.46	
第72図505	Q-21	S61	3層	黒曜石	石鏃未製品	2.05	1.55	0.45	1.28	
第72図506	Q-21	S61	1層	黒曜石	石鏃	(4.60)	1.95	1.10	4.52	
第73図517	Q-21	S62	—	安山岩	石鏃	2.65	2.00	0.35	1.01	
第73図518	Q-21	S62	—	黒曜石	石鏃	1.95	1.90	0.40	1.11	
第73図519	Q-21	S62	1層	安山岩	石鏃	(3.05)	(2.15)	0.45	2.76	
第75図528	P-22	S78	覆土2	安山岩	石鏃	4.15	4.00	1.00	13.69	
第76図537	Q-21	S81	—	安山岩	石鏃未製品	2.20	1.75	0.35	1.84	
第76図538	P-21	S81	—	安山岩	石鏃未製品	2.25	2.10	0.55	2.25	
第78図542	O-22	S84	下位	安山岩	石鏃	2.20	1.75	0.45	1.58	

挿図番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	グロット	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第78図543	O-22	S84	上位	安山岩	石鏃	(2.00)	(1.50)	0.25	0.76	
第82図574	O-21	S90	—	安山岩	石鏃	(3.00)	(1.55)	0.25	1.20	
第83図583	Q-20	S91	—	安山岩	石鏃	(1.50)	(1.20)	0.25	0.41	
第83図584	Q-20	S91	—	黒曜石	石鏃未製品	2.50	2.05	0.55	2.19	
第84図586	Q-20	S92	—	黒曜石	石鏃	1.90	(1.70)	0.30	0.72	
第90図621	Q-22	S100	3層	安山岩	石鏃	(1.55)	(1.50)	0.35	0.67	
第90図622	Q-22	S100	上位	黒曜石	石鏃	(1.35)	(1.00)	0.15	0.25	
第90図623	Q-22	S100	2層	安山岩	石鏃未製品	3.45	2.15	0.55	3.13	
第90図624	Q-22	S100	2層	安山岩	石鏃	2.05	1.45	0.40	1.14	
第91図631	P-22	S101	2層	安山岩	石鏃	(2.50)	(1.75)	0.35	1.29	
第92図639	Q-20・21	S106	—	安山岩	石鏃未製品	2.40	1.80	0.65	3.47	
第92図640	Q-20・21	S106	覆土	安山岩	石鏃	(2.40)	1.00	0.55	1.19	
第94図651	O-21	S109	覆土	泥岩	不明磨製石器	(6.0)	(2.1)	(0.7)	(10.1)	シルト質。下部は斜めだが刃部と思われる。
第96図679	O-21	S110	上位	黒曜石	石鏃未製品	2.55	1.80	1.20	6.49	
第99図698	O-21	S115	1層	黒曜石	石鏃未製品	1.65	1.65	0.40	1.13	
第100図703	O-21	S116	—	玄武岩か	石包丁	(6.0)	(9.0)	0.4	(31.1)	石質と磨耗により研磨の方向・傷跡などは不明。
第101図710	Q-19	S117	—	安山岩	石鏃	(2.00)	(1.75)	0.50	1.08	
第102図719	P-21	S118	3層	安山岩	石鏃	(1.95)	1.45	0.30	0.62	
第107図724		S170	No.40	緑色片岩か	磨製石鏃	(2.3)	1.7	0.3	(2.2)	基部と先端を欠く。全体に丁寧な研磨。
第107図725	R・S-21	S170	3層	安山岩	石鏃	3.30	1.75	0.35	1.19	
第107図726	Q・R-21	S170	2層	黒曜石	石鏃	(1.65)	(1.10)	0.30	0.54	
第107図727	Q-21	S170	—	黒曜石	石鏃	2.45	1.30	0.35	0.94	
第108図733	R-21	S179	—	安山岩	石鏃	3.60	2.10	0.70	5.55	
第108図734	R-21	S179	2層	黒曜石	石鏃	2.45	1.75	0.40	1.09	
第109図737	Q-20	S186	—	安山岩	石鏃	(2.20)	(1.75)	0.30	1.06	
第109図738		S186	—	安山岩	石鏃	(2.60)	2.25	0.55	3.00	
第109図739		S186	—	安山岩	石鏃未製品	3.20	1.95	0.75	3.58	
第110図742	Q-19	S195	—	安山岩	石鏃	(1.80)	(1.75)	0.25	0.51	
第112図757	R-21	S204	No.27	安山岩	磨製石剣	(8.6)	(4.9)	1.1	(56.3)	風化著しい。
第112図758	R-21	S204	—	安山岩	石鏃	(2.00)	(1.40)	0.25	0.56	
第122図831	K-14・15	S250	上層	砂岩	石包丁	(5.6)	(5.6)	0.4	(19.4)	かなり風化しやすい石材。
第122図832	K-14・15	S250	上層	黒曜石	スクレイパー	4.15	7.45	1.50	45.44	
第123図838	O-20	S254	—	黒曜石	石鏃	2.00	1.70	0.35	0.77	
第139図890	O-18	S294	—	黒曜石	石鏃	3.00	2.20	0.50	2.45	
第152図950	L-16	S80	上層	安山岩	石鏃未製品	6.20	3.05	1.40	17.75	
第152図951	L-18	S80	上層	黒曜石	石鏃	1.85	1.35	0.30	0.79	
第178図988	O-21	S42	—	安山岩	石鏃	2.10	1.60	0.40	1.09	
第178図989	O-21	S42	—	安山岩	石鏃未製品	3.45	2.65	0.50	4.82	
第178図990	O-21	S42	上位	安山岩	石鏃未製品	1.95	1.55	0.35	1.32	
第178図991	O-21	S42	—	黒曜石	石鏃未製品	1.60	1.45	0.30	0.69	
第179図999	N-19	S46	2層	安山岩	石鏃	(2.05)	(1.50)	0.30	0.98	
第181図1009	O-20	S66		安山岩	石鏃	2.05	1.70	0.50	0.93	
第183図1017	P・Q-20	S107	上位	安山岩	石鏃	2.35	1.30	0.25	0.58	
第183図1018	Q-20	S107	—	安山岩	石鏃	2.40	1.10	0.45	0.89	
第183図1019	P・Q-20	S107	下位	安山岩	石鏃	(1.75)	(1.25)	0.20	0.42	

第3表-4 出土遺物観察表〔石器・石製品〕

挿図番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	グランド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第183図1020	P-20	S107	—	黒曜石	石鏃	(1.15)	1.25	0.25	0.25	
第183図1021	Q-20	S107	—	黒曜石	石鏃	(1.25)	(1.50)	0.35	0.48	
第183図1022	P-20	S107	床面直上	安山岩	石鏃	1.75	1.10	0.30	0.68	
第183図1023	P・Q-20	S107	下位	安山岩	石鏃未製品	1.95	1.55	0.45	0.89	
第183図1024	P-20	S107	—	黒曜石	石鏃未製品	2.75	1.25	0.35	1.15	
第183図1025	P-20	S107	2層	安山岩	石鏃未製品	3.05	2.10	0.40	2.68	
第183図1026	P-20	S107	覆土	安山岩	石鏃未製品	2.85	1.75	0.70	2.83	
第183図1027	P-20	S107	—	黒曜石	石鏃未製品	2.40	1.50	0.45	1.49	
第183図1028	P-20	S107	—	黒曜石	石鏃未製品	2.80	1.45	0.70	2.42	
第183図1029	Q-20	S107	3層	安山岩	石鏃未製品	3.00	2.15	0.75	4.97	
第183図1030	P-20	S107	2層	黒曜石	石鏃未製品	2.00	1.95	0.35	1.55	
第183図1031	Q-20	S107	覆土	黒曜石	石鏃未製品	2.25	1.25	0.50	1.35	
第183図1032	Q-20	S107	—	安山岩	石鏃未製品	4.10	2.50	0.75	8.12	
第183図1033	P-20	S107	—	安山岩	石鏃未製品	3.30	2.00	0.80	5.25	
第186図1062	S-22	S134	覆土中位	砂岩	石包丁	(1.9)	(4.6)	0.6	(8.4)	刃部片。片刃。
第186図1063	O-21 O-22	S134	覆土上位	泥岩	不明磨製石器	(3.4)	(2.1)	(0.8)	(5.4)	シルト質。(柱状)片刃石斧の一部か
第186図1064	S-22	S134	覆土上位	安山岩	磨石	10.0	8.4	7.7	808.0	磨り面わずかに残る。
第186図1065	S-22	S134	No.121	砂岩	磨石	8.9	5.4	3.5	244.0	砥石の可能性もあり。
第186図1066	S-22	S134	No.150	砂岩	磨石・砥石	10.1	5.1	4.4	314.0	上面は敲打痕。下面は敲打痕・磨り面が残る。
第186図1067	S-22	S134	No.122	安山岩	砥石	7.9	6.5	5.1	325.0	上下端面などに敲打痕残る。
第186図1068	S-22	S134	No.42	安山岩	砥石	13.5	8.3	7.0	975.0	上下端面などに敲打痕残る。側面に加工か
第186図1069	S-22	S134	No.38	安山岩	台石	(11.6)	12.0	5.0	863.0	中央部に敲打痕
第189図1095	S-21 S-22	S140	1層	緑色片岩	石鏃	2.45	1.50	0.25	0.91	
第189図1096	S-21	S140	覆土	安山岩	砥石	10.9	10.0	8.5	1144.0	砥石としての使用以外の面も複数の窪みが残る。
第189図1097	S-21	S140	覆土No.132	安山岩	砥石か	11.4	12.6	13.3	1490.0	広い面の中央に小さな窪みあり。
第189図1098	S-21 S-22	S140	上層	安山岩	磨石	6.0	4.1	3.0	72.9	
第189図1099	S-21	S140	覆土	砂岩	台石か	12.3	11.3	7.6	1052.0	非常に脆い。2面に使用痕と見られる窪みあり。
第189図1100	S-21	S140	覆土No.133	花崗岩	台石か	16.0	12.2	7.4	1640.0	平坦面の中央に小さな窪みあり。
第190図1107	P-19	S194	—	黒曜石	石鏃未製品	2.55	2.00	0.70	2.48	
第191図1116	O-19	S221	No.1	砂岩	砥石・砥石	7.5	7.6	3.8	406.0	4面とも砥石として利用。1面に敲打痕あり
第191図1117	O-19	S221	下層	安山岩	石鏃	1.95	1.35	0.25	0.57	
第191図1118	O-19	S221	下層	安山岩	石鏃	(1.75)	(1.65)	0.40	0.82	
第191図1119	O-19	S221	上位	黒曜石	石鏃	(1.60)	(1.70)	0.30	0.68	
第197図1186	C-2	S141	—	黒曜石	石鏃	2.40	1.55	0.30	0.81	
第197図1187	C-2	S141	—	安山岩	石鏃	(2.20)	(1.80)	0.40	1.42	
第207図1238	D-1	S136	上位	安山岩	石鏃	(3.00)	(1.85)	0.40	1.52	
第207図1239	D-2	S136	中位	安山岩	石鏃	(2.55)	1.70	0.40	1.11	
第219図1362	H-6	S174	—	安山岩	石鏃	(2.70)	2.00	0.40	2.93	
第219図1363	H-6	S174	上～中層	黒曜石	石鏃	2.85	2.05	0.55	2.58	
第223図1427	G-6	S176	中～下層	黒曜石	石鏃	(1.95)	1.95	0.35	0.98	
第229図1480	O・E-2	S189	—	安山岩	石鏃未製品	3.70	1.05	0.45	3.98	
第234図1531	F-5	S191	中位	安山岩	石鏃	(2.40)	1.60	0.40	1.21	
第235図1535	F-5	S191	中層	砂岩	砥石	8.0	5.8	3.9	229.0	主に3面を使用。

挿図番号	出土地点			石材	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	グランド	遺構	層位			長さ	幅	厚さ		
第235図1536	F-5	S191	—	砂岩	砥石	13.4	5.4	4.8	472.0	図化した2面を主に使用。
第235図1537	F-5	S191	4層No.52	安山岩	砥石か	9.4	8.9	3.8	477.0	平面の2面はともに中央が窪んでおり、凹み石ともいえるか
第235図1538	F-5	S191	4層No.11	安山岩	台石	27.1	13.1	8.0	3400.0	
第235図1539	F-5	S191	4層No.37	安山岩	台石	36.2	37.5	7.0	1300.0	
第241図1624	E-6	S192	床面直上	安山岩	台石	46.7	31.2	6.8	11150.0	表面に細かい敲打痕・磨り面が残る。
第243図1647	F-7	S197	5層	緑色泥岩	磨製石器	6.7	1.3	0.7	8.2	刃部の折損後再度研磨して使用。ノミ形石斧か
第247図1695	H-8	S225	中層	泥岩	ノミ形石斧	(4.0)	(2.6)	(2.0)	(27.0)	シルト質。丁寧な研磨。
第247図1696	H-8	S225	—	泥岩	磨製石斧か	(3.2)	(3.0)	(0.6)	(5.7)	シルト質。丁寧な研磨。
第247図1697	H-7	S225	中層	砂岩	砥石	16.8	3.3	1.7	74.6	4面に研磨痕有り、うち1面は平坦。
第247図1698	H-8	S225	上位	黒曜石	石鏃	1.25	1.60	0.30	0.37	
第247図1699	H-7・8	S225	2層	安山岩	石鏃	(2.40)	(1.60)	0.40	1.23	
第247図1700	H-8	S225	下位	安山岩	石鏃	(2.40)	1.50	0.35	1.26	
第247図1701	H-7	S225	上中層	安山岩	石鏃未製品	2.55	1.60	0.30	1.10	
第249図1722	G-8	S247	中層	黒曜石	石鏃	(2.60)	(1.80)	0.40	0.68	
第249図1723	G-8	S247	上中層	安山岩	石鏃未製品	3.80	3.45	0.85	8.07	
第251図1736	D-2	S360	最下層	滑石	勾玉	2.2	1.3	0.5	1.8	孔径2.0mm。紐ずれ有り。全体に丁寧な研磨。
第251図1737	D-2	S360	—	黒色滑石	勾玉?	(0.8)	(0.7)	(0.3)	(0.2)	孔径2.0mm。
第251図1739	D-2	S360	東側	安山岩	石鏃	(2.45)	1.90	0.40	1.20	
第251図1740	D-2	S360	東側	黒曜石	石鏃	(1.75)	(1.55)	0.35	0.58	
第274図2139	I-8	S168	周溝上～中層	黒曜石	石鏃	2.25	1.90	0.60	2.65	
第287図2162	P-20	S4	1層	安山岩	石鏃	(1.90)	(1.55)	0.35	0.62	
第287図2163	O-18	S4	2層	安山岩	石鏃	(1.55)	(1.45)	0.30	0.49	
第287図2164	P-21	S4	3層	安山岩	石鏃	(1.35)	(1.85)	0.30	0.62	
第287図2165	O-17	S4	上層	黒曜石	石鏃	(2.50)	1.65	0.30	0.88	
第287図2166	Q-22	S4	3層	黒曜石	石鏃	(2.85)	(1.85)	0.35	1.37	
第287図2167	O-18	S4	2層	安山岩	石鏃未製品	2.15	1.80	0.40	1.82	
第287図2168	P-20	S4	1層	黒曜石	石鏃未製品	1.40	1.55	0.25	0.50	
第287図2169	P-20	S4	2層	黒曜石	石鏃	(1.35)	(1.30)	0.30	0.53	
第287図2170	P-20	S4	2層	安山岩	石鏃未製品	2.90	2.05	0.55	3.53	
第287図2171	P-21	S4	2層	安山岩	石鏃	1.50	1.05	0.35	0.52	
第287図2172	P-20	S4	3層	安山岩	石鏃未製品	1.10	1.50	0.40	0.74	
第287図2173	Q-22	S4	2層	黒曜石	石鏃未製品	3.40	2.85	0.90	9.37	
第287図2174	P-19	S4	2層	黒曜石	石鏃未製品	3.80	2.60	0.65	7.64	
第287図2175	P-20	S4	3層	黒曜石	石鏃未製品	2.10	1.55	0.50	1.54	
第287図2176	P-21	S4	3層	黒曜石	石鏃未製品	3.35	2.25	0.85	4.45	
第287図2177	P-21	S4	覆土1層	黒曜石	石鏃	(2.65)	2.00	0.90	2.69	
第292図2253	L-14	S79	覆土上位	蛇紋岩	磨製石斧	(8.8)	5.4	3.5	(235.0)	刃部・基部破損。刃部は打撃による加工の可能性も
第292図2255	L-16	S79	覆土	安山岩	磨製石斧	(9.5)	(5.8)	(2.0)	(87.5)	使用時に折れた刃部か
第292図2256	L-15	S79	覆土中位	泥岩	扁平片刃石斧	(5.4)	(1.4)	1.2	(14.0)	
第294図2267	E-4	S145	中位	黒曜石	石鏃	(1.50)	1.45	0.30	0.57	
第296図2292	F-3	S146	下層	片岩	磨製石斧	8.5	5.1	1.6	98.4	滑らかさのない滑石に似た石材。

第4表 出土遺物観察表〔鉄器・鉄製品〕

挿図 番号	出土地点			種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位		長さ	幅	厚さ		
第179図 1000	N-19	S46	2層	摘鎌	7.8	2.8	0.4	11.5	
第181図 1008	O-20	S66	覆土 3層	鉄鍔	3.6	2.5	0.2	3.1	
第210図 1240	G-5	S166	中・下 層	鉄鍔	3.9	2.4	0.2	(4.0)	
第223図 1428	G-6	S176	上層	鉄鍔	6.4	2.0	0.3	7.7	
第223図 1429	G-6	S176	-	鉄鍔	3.1	1.5	0.3	2.5	
第223図 1430	G-6	S176	下層	鉄鍔	4.3	1.7	0.3	4.8	
第223図 1431	G-6	S176	上層	不明	7.0	1.2	0.8	12.0	
第223図 1432	G-6	S176	下層	刀子か	3.8	1.1	0.3	2.9	
第226図 1446	G-5	S185	下層	鉄鍔	4.3	2.4	0.3	7.0	
第229図 1481	D・E-2	S189	-	鉄鍔	3.7	2.2	0.2	3.9	
第234図 1532	F-5	S191	4層 No.1	鉄鍔	6.8	2.7	0.4	13.5	
第234図 1533	F-5	S191	4層 No.2	鉄鍔か	4.6	1.3	0.5	5.9	
第234図 1534	F-5	S191	西側 上層	不明	6.4	2.7	0.5	15.0	
第244図 1648	F-7	S197	最下層 No.10	鉄鍔	11.1	3.4	0.4	18.0	
第244図 1649	F-7	S197	最下層	鉄鍔	8.2	3.0	0.3	13.9	
第244図 1650	F-7	S197	最下層 No.4	鉄鍔	4.1	1.5	0.2	3.0	
第244図 1651	F-7	S197	入口土 坑	鉄鍔か	4.2	1.6	0.2	5.1	
第244図 1652	F-7	S197	最下層 No.11	鉄鍔	5.8	1.7	0.3	6.2	
第244図 1653	F-7	S197	入口土 坑	鉄鍔	5.5	1.4	0.3	4.9	
第244図 1654	F-7	S197	最下層 No.5	鉄鍔	2.7	1.5	0.3	3.9	
第244図 1655	F-7	S197	最下層 No.9	鉄鍔	5.8	0.6	0.4	3.1	
第244図 1656	F-7	S197	最下層	鉄鍔か	5.9	1.6	0.2	3.8	
第244図 1657	F-7	S197	最下層 No.7	鉄鍔か	4.9	2.3	0.2	5.3	
第244図 1658	F-7	S197	最下層	鉄鍔か	4.1	2.0	0.2	3.1	
第244図 1659	F-7	S197	最下層 No.2	刀子	9.2	1.5	0.4	9.1	
第244図 1660	F-7	S197	最下層	刀子か	5.3	2.3	0.3	12.2	

挿図 番号	出土地点			種別	法量 (cm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位		長さ	幅	厚さ		
第244図 1661	F-7	S197	炬跡内	刀子か	4.3	1.1	0.4	5.8	
第244図 1662	F-7	S197	最下層 No.12	刀子か	4.6	1.2	0.4	5.6	
第244図 1663	F-7	S197	最下層 No.1	不明	3.3	3.8	0.4	6.8	
第244図 1664	F-7	S197	下層	不明	3.1	7.8	0.3	16.0	
第244図 1665	F-7	S197	最下層	不明	2.6	1.5	0.3	2.8	
第244図 1666	F-7	S197	最下層 No.18	不明	3.2	1.7	0.2	1.9	
第244図 1667	F-7	S197	最下層 No.15	不明	2.8	0.9	0.5	2.5	
第244図 1668	F-7	S197	中層	不明	5.2	2.3	0.4	9.4	
第244図 1669	F-7	S197	-	不明	2.0	1.6	0.2	0.6	
第247図 1691	H-7・8	S225	床直上	鉄鍔	5.2	1.9	0.2	4.5	
第247図 1692	H-8	S225	中層	鉄鍔	5.9	0.6	0.3	3.0	
第247図 1693	H-8	S225	中層	刀子	7.1	1.6	0.3	7.3	
第247図 1694	H-8	S225	下層	摘鎌	7.1	1.7	0.9	8.1	
第264図 1804	J-9	S121- 主体部	④-3 1層	刀子	3.0	1.1	0.3	1.7	
第264図 1805	J-9	S121- 主体部	-	刀子	3.5	1.5	0.3	3.4	
第264図 1806	J-9	S121- 主体部	床面	刀子	3.9	1.4	0.3	3.8	
第264図 1807	J-9	S121- 主体部	最下層	刀子	10.2	1.6	0.5	16.2	
第264図 1808	J-9	S121- 主体部	④ 2層	鉄鍔	3.7	0.8	0.4	1.7	
第272図 2092	F・G-3	S167- 主体部	床面 No. 6・7	鉄鍔	9.7	6.2	0.3	28.1	
第272図 2093	F・G-3	S167- 主体部	6層 No. 1	鉄鍔	5.7	3.7	0.4	12.1	床面直上
第272図 2094	F・G-3	S167- 主体部	6層 No. 3・4	鉄鍔	15.9	0.6	0.5	14.0	床面直上
第272図 2095	F・G-3	S167- 主体部	6層 No. 2	鉄鍔	4.9	0.6	0.4	5.2	床面直上
第272図 2096	F・G-3	S167- 主体部	6層 No. 5	鉄鍔	4.0	0.6	0.4	4.4	床面直上
第274図 2140	I-7	S168	-	摘鎌	13.9	7.5	1.8	95.2	
第274図 2141	I-7	S306	-	鉄鍔か	6.3	1.1	0.2	5.4	破損

第5表-1 出土遺物観察表〔玉類〕

挿図 番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第251図 1738		S360	—	ガラス	玉	2.0	1.2	0.8	0.01	極めて小さい。気泡入る。上下端面に凹凸残る
第266図 1809	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.5	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1810	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.8	0.05	側面稜あり。下面は研磨していない
第266図 1811	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.7	1.5	0.05	厚い。側面稜なし
第266図 1812	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	1.8	1.4	0.04	薄い。側面稜なし
第266図 1813	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.3	0.05	厚い。側面稜なし。下面は研磨も平坦ではない
第266図 1814	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.5	2.3	1.3	0.04	厚い。側面稜なし。片面は斜めに研磨。
第266図 1815	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.2	1.4	0.05	側面稜あり
第266図 1816	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.1	2.2	1.4	0.05	側面稜あり。下面斜めに研磨。
第266図 1817	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	1.7	1.4	0.04	側面稜なし
第266図 1818	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.7	2.8	1.4	0.06	厚い。側面稜あり
第266図 1819	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.1	1.5	0.04	側面稜あり
第266図 1820	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	側面稜あり
第266図 1821	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	0.05	側面稜なし。上面やや粗い研磨

挿図 番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	ゲラド	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第266図 1822	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.9	1.2	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1823	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.6	2.7	1.3	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1824	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.2	2.0	1.6	0.04	側面稜あり。僅かに斜めに加工
第266図 1825	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.2	1.6	0.04	側面稜なし
第266図 1826	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.2	1.4	0.05	側面稜あり
第266図 1827	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	3.1	1.5	0.08	厚い。側面稜なし
第266図 1828	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.4	0.04	側面稜なし。下面は切断時の凸凹が残る程度の粗い研磨
第266図 1829	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.9	1.4	0.05	側面稜あり。下面に二方向からの切断加工残る
第266図 1830	J・K-9	S121 主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.7	1.6	0.03	薄い。側面稜あり
第266図 1831	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1832	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.7	1.5	0.05	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1833	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.5	0.05	側面稜あり
第266図 1834	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第266図 1835	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.5	1.4	0.03	薄い。側面稜なし

第5表-2 出土遺物観察表〔玉類〕

挿図 番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	ケラット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第266図 1836	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.1	1.6	1.4	0.04	薄い。側面稜なし。下面は粗い研磨
第266図 1837	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	3.9	1.5	0.07	厚い。側面稜なし。上面は切断時の段。下面は斜めに研磨
第266図 1838	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.6	1.5	0.06	薄い。側面稜あり
第266図 1839	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.5	0.03	側面稜あり
第266図 1840	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.5	0.05	側面稜あり。下面は一部くぼむ
第266図 1841	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	1.8	1.5	0.04	側面稜なし。3つの破片が接合
第266図 1842	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.8	1.5	0.04	側面稜あり
第266図 1843	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	1.6	1.5	(0.04)	側面稜なし
第266図 1844	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.2	1.4	0.04	側面稜あり。両面共斜めに研磨
第266図 1845	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.2	1.5	0.04	側面稜あり
第266図 1846	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.1	1.6	0.05	側面稜あり。下面は粗い研磨
第266図 1847	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.6	1.5	0.06	厚い。側面稜あり
第266図 1848	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	3.0	1.6	0.07	厚い。側面稜あり
第266図 1849	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.6	0.04	薄い。側面稜なし。極小の破片が接合
第266図 1850	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	(0.03)	厚い。側面稜なし。2つの破片が接合
第266図 1851	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.2	1.5	0.03	薄い。側面稜なし。下面は斜めに研磨成形又は研磨段階で縁が欠けたが利用
第266図 1852	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.6	1.5	0.03	側面稜なし。両面ともやや粗い研磨
第266図 1853	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	3.0	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。上面はくぼんでいる
第266図 1854	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	側面稜あり。上面は切断時の段残る
第266図 1855	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	3.5	1.6	0.06	厚い。側面稜あり。上面は斜めの研磨。下面は粗い研磨
第266図 1856	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.2	1.3	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1857	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.3	1.5	0.04	厚い。側面稜あり
第266図 1858	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.5	0.05	側面稜なし
第266図 1859	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.7	1.3	0.04	側面稜あり
第266図 1860	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	2.1	1.5	0.04	側面稜なし。下面は一部がくぼんでいる
第266図 1861	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	1.7	1.5	0.03	側面稜なし
第266図 1862	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.4	0.06	厚い。側面稜なし
第266図 1863	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	0.03	側面稜なし。下面は斜めに研磨
第266図 1864	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第266図 1865	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	2.0	1.4	0.04	厚い。側面稜なし
第266図 1866	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.8	1.4	0.04	側面稜あり
第266図 1867	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	側面稜なし。上下面とも破損か
第266図 1868	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.5	0.06	厚い。側面稜なし
第266図 1869	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	3.8	1.6	0.07	かなり厚い。側面稜なし。上下面とも斜め研磨
第266図 1870	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	2.5	1.5	0.04	厚い。側面稜あり
第266図 1871	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.4	1.3	0.04	薄い。側面稜あり
第266図 1872	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.7	1.4	0.03	薄い。側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1873	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	0.05	側面稜あり
第266図 1874	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.5	1.4	0.05	厚い。側面稜なし
第266図 1875	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	2.4	1.6	0.05	厚い。側面稜なし
第266図 1876	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.5	0.08	厚い。側面稜なし
第266図 1877	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.8	1.3	0.06	厚い。側面稜あり
第266図 1878	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	0.05	側面稜あり
第266図 1879	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.6	1.3	0.03	薄い。側面稜あり
第266図 1880	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.0	1.5	0.03	側面稜あり。全体に摩耗している
第266図 1881	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	3.7	1.5	0.08	厚い。側面稜あり
第266図 1882	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.4	2.9	1.5	0.04	厚い。側面稜なし。上面は切断時の段。下面は斜めに研磨
第266図 1883	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.3	1.3	0.03	薄い。側面稜なし。下面が粗い研磨に見えるので稜の部分で割れたものか
第266図 1884	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第266図 1885	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.2	1.3	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1886	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.4	1.5	0.06	厚い。側面稜あり
第266図 1887	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.3	1.4	0.04	側面稜なし。破片を接合図化
第266図 1888	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1889	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.5	1.3	0.03	薄い。側面稜なし。下面はやや粗い研磨
第266図 1890	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.4	3.1	1.4	0.06	厚い。側面稜なし。上下面ともやや粗い研磨
第266図 1891	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.3	1.4	0.05	厚い。側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1892	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.2	2.0	1.5	0.03	厚い。側面稜なし
第266図 1893	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	2.0	1.4	0.04	側面稜あり
第266図 1894	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	3.0	1.5	0.06	厚い。側面稜あり。下面は切断時の段残る
第266図 1895	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	3.0	1.3	0.07	厚い。側面稜あり。上下面ともやや粗い研磨
第266図 1896	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.2	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1897	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.4	0.04	厚い。側面稜あり
第266図 1898	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.5	2.5	1.4	0.04	側面稜なし
第266図 1899	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.3	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第266図 1900	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.8	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第266図 1901	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	3.7	1.5	0.07	厚い。側面稜なし。上面は斜めに研磨。下面は切断時の段残る。直径と最大厚が同じ(3.7mm)
第266図 1902	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	(2.8)	1.4	0.07	厚い。側面稜あり。下面は割れたように破損
第266図 1903	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	2.2	1.5	0.04	側面稜あり。下面の一部欠けるが研磨し利用
第266図 1904	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.4	1.5	0.03	薄い。側面稜なし。上下面とも斜めに研磨
第266図 1905	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.5	3.1	1.5	0.05	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第266図 1906	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.6	1.4	0.03	薄い。側面稜あり。下面は切断時の段残る
第266図 1907	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.5	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第266図 1908	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	3.0	1.4	0.05	厚い。側面稜あり。下面は斜めに研磨斜めに研磨したことで薄くなった部分が欠けている
第267図 1909	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.2	1.5	0.04	側面稜あり。上面は切断時の段残る。下面は斜めに研磨
第267図 1910	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	1.2	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1911	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	(1.8)	1.6	-0.03	側面稜なし。下面は破損している

第5表-3 出土遺物観察表〔玉類〕

挿図 番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	グロット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第267図 1912	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.05	側面稜あり。下 面は切断時の段 残る
第267図 1913	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.06	側面稜あり。上 面は切断時の段 わずかに残る
第267図 1914	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.3	1.4	0.03	側面稜なし。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1915	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	1.2	1.4	0.04	薄い。側面稜あり
第267図 1916	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	2.4	1.5	0.04	厚い。側面稜あり
第267図 1917	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.4	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第267図 1918	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	2.0	1.5	0.03	側面稜なし。下 面は斜めに研磨
第267図 1919	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	2.4	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1920	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.6	2.2	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第267図 1921	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.3	0.04	側面稜あり。下 面は切断時の段 残り。上面は紐ず れのように孔が 広がっている
第267図 1922	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.7	3.0	1.5	0.06	厚い。側面稜あり
第267図 1923	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.0	1.3	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1924	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.1	1.3	0.04	側面稜なし。下 面は切断時の段 わずかに残る
第267図 1925	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.4	1.8	1.7	0.03	側面稜なし。直 径が小さく、孔 径は大きい
第267図 1926	J・K-9	S121 主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.6	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1927	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	側面稜あり。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1928	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.7	1.4	(0.04)	側面稜なし。下 面は成形後未研 磨か上面一部破 損
第267図 1929	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.5	1.5	0.04	側面稜なし
第267図 1930	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	1.8	1.4	0.03	側面稜なし
第267図 1931	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.7	1.5	0.04	側面稜あり
第267図 1932	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.7	1.5	0.04	厚い。側面稜あり。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1933	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.0	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1934	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	3.0	1.5	0.07	厚い。側面稜あり。上 下面とも切断時 の段残る
第267図 1935	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜あり
第267図 1936	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.9	2.4	1.5	0.05	厚い。側面稜あり
第267 図 1937	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.4	2.4	1.4	0.03	厚い。側面稜なし
第267図 1938	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.2	1.4	0.04	側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1939	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.2	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1940	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	2.4	1.4	0.05	厚い。側面稜なし。上 下面とも切断時 の段残る
第267図 1941	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.9	3.2	1.5	0.07	厚い。側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1942	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.4	2.3	1.5	0.05	厚い。側面稜なし。上 下面とも切断時 の段残る
第267図 1943	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.0	(1.2)	1.4	(0.01)	側面稜なし。下 面ははがれたよ うに破損
第267図 1944	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.7	2.6	1.3	0.05	厚い。側面稜あり
第267図 1945	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	12.0	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1946	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.1	1.4	0.05	側面稜なし。下 面に切断時の段 残る
第267図 1947	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	1.5	1.5	0.04	側面稜なし。下 面は中央がくぼ み粗い研磨
第267図 1948	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	1.8	1.5	0.05	側面稜あり

挿図 番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	グロット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第267図 1949	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.8	2.5	1.5	0.04	側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1950	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.1	1.4	1.3	0.03	薄い。側面稜なし。下 面は斜めに研磨
第267図 1951	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	3.7	2.0	1.6	0.04	側面稜なし。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1952	J・K-9	S121 主体部	1層	滑石	白玉	4.0	2.2	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第267図 1953	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.4	3.7	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。下 面は粗い研磨管 玉の一部が転用品 の可能性が有る。 直径<最大厚
第267図 1954	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	3.0	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1955	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.5	1.9	1.5	0.03	側面稜なし。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1956	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.3	1.3	1.5	0.02	薄い。側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267 図 1957	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	1.8	1.5	0.04	厚い。側面稜あり
第267図 1958	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.5	2.3	1.4	0.03	側面稜なし
第267図 1959	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	1.0	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1960	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜なし。黒 味が強い石材
第267図 1961	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	1.0	1.4	(0.01)	薄い。側面稜なし。2つ の破片を接合図化
第267図 1962	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.4	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。下 面に切断時 の段残る。斜 めに穿孔
第267図 1963	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.0	1.5	0.05	側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1964	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.9	1.4	0.06	厚い。側面稜あり。上 面は斜めに 研磨
第267図 1965	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	1.7	1.4	0.03	側面稜なし。上 下面とも斜めに 研磨。上面から みると欠けている が近づいている が近頃のものでは ない
第267図 1966	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	3.0	1.6	0.06	厚い。側面稜なし。斜 めに穿孔がある 黒味が強い 石材
第267図 1967	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	2.7	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。上 下面とも 凹凸が残る加工
第267図 1968	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	3.4	1.4	0.07	厚い。側面稜あり。下 面は斜めに 研磨
第267図 1969	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.8	1.5	0.05	側面稜あり。上 面は粗い研磨。 下面は切断時 の段残る
第267図 1970	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.4	1.5	0.05	側面稜あり。上 下面とも切断時 の段残る
第267図 1971	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	2.1	1.5	0.04	側面稜あり。上 面は斜めの研磨。下 面は切断時の段 残る
第267図 1972	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.6	1.8	1.4	0.03	側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267 図 1973	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	1.8	1.4	0.05	側面稜あり
第267図 1974	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.1	1.3	0.04	側面稜あり。下 面が一部破損
第267図 1975	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	4.1	2.4	1.3	0.05	側面稜あり。下 面は斜めに研磨
第267図 1976	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.7	2.1	1.4	0.04	側面稜あり。上 下面とも斜めに 研磨
第267図 1977	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	1.3	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第267図 1978	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.0	1.5	(0.03)	側面稜あり
第267図 1979	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	2.7	1.6	0.05	厚い。側面稜なし
第267図 1980	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	1.6	1.3	0.04	側面稜なし
第267図 1981	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.8	3.3	1.6	0.07	厚い。側面稜なし。下 面は切断時 の段残る
第267図 1982	J・K-9	S121 主体部	2層	滑石	白玉	3.9	2.4	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。下 面は斜めに 研磨

第5表-4 出土遺物観察表〔玉類〕

挿図番号	出土地点			材質	器種	法量(mm)			重量(g)	備考
	グロット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第267図1983	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.9	2.3	1.5	0.05	厚い。側面稜あり
第267図1984	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.8	2.8	1.4	0.05	厚い。側面稜あり
第267図1985	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.7	2.0	1.5	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第267図1986	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.7	3.2	1.5	0.07	厚い。側面稜あり。上面とも切断時の段が残る
第267図1987	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.9	2.4	1.4	0.06	厚い。側面稜あり
第267図1988	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	3.7	2.3	1.5	0.04	側面稜あり
第267図1989	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.1	1.4	0.05	側面稜あり。下面は切断時の段残る
第267図1990	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.4	1.5	0.05	側面稜なし。下面は斜めに研磨。厚さ1.4~2.4mm
第267図1991	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	3.3	1.4	0.06	厚い。側面稜あり。下面はほぼ未加工
第267図1992	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	3.2	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。下面は切断時の段残る
第267図1993	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.5	2.8	1.5	0.04	厚い。側面稜あり。下面は欠けるが、ガシリ等ではないと判断し完形とした
第267図1994	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	3.2	1.5	0.06	厚い。側面稜あり。下面は斜めに切断後未加工か
第267図1995	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.1	1.3	0.04	側面稜なし。下面はやや粗い研磨
第267図1996	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜なし。下面にわずかな凹凸があるが単に割れた際の打瘤の可能性も
第267図1997	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.5	1.8	1.5	0.03	厚い。側面稜なし
第267図1998	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	3.0	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。上面に切断時の段残る
第267図1999	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	2.4	1.4	(0.05)	厚い。側面稜あり。下面の一部割れ
第267図2000	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.8	1.5	0.05	厚い。側面稜あり
第267図2001	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.6	4.0	1.7	(0.06)	厚い。側面稜なし。下面は未研磨か。直径<最大厚
第267図2002	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.4	1.5	0.05	側面稜あり。上面とも切断時の段残る
第267図2003	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	3.0	1.4	0.06	厚い。側面稜あり。下面は斜めに研磨
第267図2004	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.4	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。下面は斜めに研磨
第267図2005	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	側面稜あり
第267図2006	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	4.0	1.6	0.07	かなり厚い。側面稜あり。上面は斜めに研磨。下面は切断時の段残る。直径<最大厚
第267図2007	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.4	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第267図2008	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.0	1.4	0.04	側面稜あり
第268図2009	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.0	1.4	0.03	側面稜なし。下面は斜めに研磨製作途中で割れた面に沿い研磨したためか、直線的ではない
第268図2010	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	1.6	1.5	0.03	側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2011	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.5	1.5	0.03	側面稜なし
第268図2012	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	1.8	1.5	0.04	側面稜あり。上面は切断時の段残る
第268図2013	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.8	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。下面に切断時の段残る
第268図2014	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.1	1.8	1.4	0.04	薄い。側面稜あり。上面は一部斜めに研磨
第268図2015	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	2.2	1.4	0.05	側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2016	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	3.0	1.6	0.06	厚い。側面稜あり
第268図2017	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	1.9	1.5	0.05	側面稜あり。下面に切断時の段わずかに残る
第268図2018	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.9	1.5	0.03	側面稜なし。上面は粗い研磨。側面形状は台形と言えそうな形
第268図2019	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	1.9	1.4	0.04	側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2020	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.3	1.4	0.05	側面稜あり。上面とも斜めに研磨
第268図2021	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.8	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。下面は研磨後に欠けたものか最近欠けたものではなさそう
第268図2022	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	2.8	1.4	0.06	厚い。側面稜あり
第268図2023	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.0	1.5	0.04	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第268図2024	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.2	(3.0)	1.5	(0.06)	厚い。側面稜あり
第268図2025	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	2.0	1.4	0.04	側面稜あり。下面は切断時の段残る
第268図2026	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	1.4	1.4	0.04	薄い。側面稜なし
第268図2027	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	2.4	1.5	0.06	厚い。側面稜あり
第268図2028	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	1.5	1.5	0.04	薄い。側面稜あり。下面はやや粗い研磨
第268図2029	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.3	1.5	0.04	側面稜なし。上面は粗い研磨
第268図2030	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	(4.0)	(1.3)	(1.4)	(0.01)	破片で詳細不明
第268図2031	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	(3.5)	(1.0)	(1.4)	(0.01)	破片で詳細不明
第268図2032	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.6	2.1	1.5	0.03	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第268図2033	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.7	1.5	0.03	側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2034	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	1.7	1.4	0.04	側面稜あり
第268図2035	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.3	1.5	0.05	側面稜なし。下面は切断時の段残る
第268図2036	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.5	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第268図2037	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.3	1.7	1.5	0.03	側面稜なし。直径小さい
第268図2038	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.3	2.5	1.4	0.04	厚い。側面稜なし。上面は切断時の段残る。直径小さい
第268図2039	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.9	2.3	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。上面は切断時の段残る
第268図2040	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.7	1.4	0.06	厚い。側面稜なし
第268図2041	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.6	2.2	1.5	0.04	厚い。側面稜なし。上面に切断時の段わずかに残る
第268図2042	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.8	1.5	0.06	厚い。側面稜あり
第268図2043	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.2	1.4	0.04	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2044	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	3.3	1.4	0.06	側面稜あり。上面とも斜めに研磨。厚さ1.7~3.3mm
第268図2045	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	3.5	1.5	0.07	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2046	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.6	2.4	1.5	0.05	側面稜あり。下面は斜めに研磨
第268図2047	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.1	2.0	1.5	0.05	側面稜あり
第268図2048	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.5	1.3	0.03	薄い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2049	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.6	1.5	0.03	薄い。側面稜あり
第268図2050	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	3.2	1.5	0.07	厚い。側面稜あり
第268図2051	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	3.0	1.4	0.06	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2052	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.1	2.3	1.5	0.05	側面稜あり。下面はわずかに斜めに研磨
第268図2053	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	1.1	1.5	0.03	薄い。側面稜なし

第5表-5 出土遺物観察表〔玉類〕

挿図番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	ゲラット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第268図2054	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	1.3	1.5	0.03	薄い。側面稜なし
第268図2055	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	1.1	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第268図2056	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	4.0	2.4	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。下面は一部が斜めに研磨
第268図2057	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.8	2.6	1.4	(0.03)	厚い。側面稜あり
第268図2058	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.7	2.6	1.5	0.05	厚い。側面稜なし
第268図2059	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.8	3.0	1.4	0.06	厚い。側面稜あり。上下面とも斜めに研磨
第268図2060	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.8	2.0	1.4	0.04	厚い。側面稜なし
第268図2061	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.9	2.2	1.5	0.04	側面稜あり。上面粗い研磨。下面は斜めに研磨
第268図2062	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.6	1.3	0.03	薄い。側面稜なし
第268図2063	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.5	2.0	1.4	0.04	厚い。側面稜なし
第268図2064	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.9	1.6	1.5	0.04	側面稜あり
第268図2065	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.7	3.7	1.6	0.07	かなり厚い。側面稜あり。直径=最大厚=3.7mm
第268図2066	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.4	2.4	1.4	0.04	厚い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2067	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.8	3.0	1.5	0.06	厚い。側面稜なし。上面は斜めに研磨。下面は粗い研磨
第268図2068	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.9	1.3	1.4	0.03	薄い。側面稜なし。下面は斜めに研磨
第268図2069	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	白玉	3.7	2.4	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。上面は切斷時の段あり。下面は斜めに研磨
第268図2070	J・K-9	S121主体部	床面	滑石	白玉	3.8	2.6	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。下面は斜めに研磨
第268図2071	J・K-9	S121主体部	検出面	滑石	白玉	3.8	2.5	1.5	0.05	厚い。側面稜あり。上下面とも斜めに研磨
第268図2072	J・K-9	S121主体部	検出面	滑石	白玉	4.2	1.6	1.5	0.04	薄い。側面稜あり。直径がやや大きい分、薄さが目立つ
第268図2073	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	3.8	1.5	1.5	0.03	側面稜あり
第268図2074	J・K-9	S121主体部	2層	滑石	白玉	4.0	2.6	1.4	0.06	厚い。側面稜あり
第268図2075	J・K-9	S121主体部	検出面	滑石	白玉	3.7	3.0	1.6	0.05	厚い。側面稜あり。上面は中央がくぼみ、下面は凹凸がある
第268図2076	J・K-9	S121主体部	検出面	滑石	白玉	3.6	2.0	1.4	0.03	厚い。側面稜なし。下面は粗い研磨
第268図2077	J・K-9	S121主体部	検出面	滑石	白玉	4.0	2.2	1.5	(0.04)	側面稜あり。下面は斜めに研磨。下面の一部が破損
第268図2078	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.8	1.4	0.03	側面稜なし。上下面とも斜めに研磨
第268図2079	J・K-9	S121主体部	—	滑石	白玉	4.0	1.2	1.4	0.03	薄い。側面稜なし
第268図2080	J・K-9	S121主体部	—	滑石	碧玉	3.7	長さ(3.5)	1.6	(0.07)	
第268図2081	J・K-9	S121主体部	3層	滑石	碧玉	9.9	10.9	2.6	1.31	全体に粗い研磨。側面の面取りが見える程度に残る。わずかに角張る。端面径6~8mm
第268図2082	J・K-9	S121主体部	—	滑石	碧玉	11.2	14.0	2.6	1.88	成形後粗い研磨のみで仕上げている。
第272図2079	F・G-3	S167	—	ガラス	玉	4.4	2.9	1.2	0.08	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2098	F・G-3	S167	主②1層	ガラス	玉	4.1	3.0	1.2	0.06	直径>厚さ。気泡が入る

挿図番号	出土地点			材質	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考
	ゲラット	遺構	層位			直径	厚さ	孔径		
第272図2099	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.8	2.8	1.1	0.06	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2100	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.9	3.2	1.2	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2101	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.0	3.0	1.3	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2102	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.9	1.3	0.07	直径>厚さ。気泡が入る。楕円形(直径4.0~4.4mm)
第272図2103	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	3.0	0.9	0.08	直径>厚さ。気泡が入る孔径が小さい
第272図2104	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.4	2.8	1.5	0.07	直径>厚さ。気泡が入る孔径が大きい
第272図2105	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.6	2.6	1.0	0.07	直径>厚さ。気泡が入る。楕円形(直径4.4~4.8mm)
第272図2106	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	3.3	1.2	0.08	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2107	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.4	3.1	1.2	0.08	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2108	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.4	2.7	1.0	0.07	直径>厚さ。気泡が入る。楕円形(直径3.9~4.4mm)
第272図2109	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.8	1.0	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2110	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.9	2.4	1.1	0.06	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2111	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.7	2.3	1.3	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2112	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.9	2.6	1.1	0.06	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2113	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.6	1.0	0.06	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2114	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.3	2.6	1.0	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2115	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.0	2.4	1.1	0.05	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2116	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.1	2.7	1.2	0.06	直径>厚さ。気泡が入る。楕円形(直径4.0~4.4mm)出頭部?出頭部?
第272図2117	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.4	2.7	1.2	0.07	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2118	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.8	2.4	1.0	0.05	直径>厚さ。気泡が入る。楕円形(直径3.6~4.0mm)
第272図2119	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.3	2.5	1.2	0.06	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2120	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.9	2.4	0.9	0.05	直径>厚さ。気泡が入る
第272図2121	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.2	0.8	0.05	薄い。気泡が入る。楕円形(直径4.0~4.3mm)
第272図2122	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.0	2.0	1.3	0.05	薄い。気泡が入る。楕円形(直径3.8~4.2mm)
第272図2123	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.3	2.1	1.2	0.05	薄い。気泡が入る。楕円形(直径4.1~4.5mm)
第272図2124	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.1	1.2	0.06	薄い。気泡が入る
第272図2125	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.1	2.0	1.0	0.05	薄い。気泡が入る。楕円形(直径3.7~4.4mm)
第272図2126	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.0	2.2	1.1	0.04	薄い。気泡が入る
第272図2127	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.2	2.2	1.3	0.05	薄い。気泡が入る
第272図2128	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	4.0	2.3	1.0	0.05	薄い。気泡が入る
第272図2129	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.6	2.1	1.2	0.03	薄い。気泡が入る
第272図2130	F・G-3	S167	南東石室内	ガラス	玉	3.9	2.0	1.1	0.04	薄い。気泡(列)が入る
第274図2142	I-7	S168	周溝内	ガラス	玉	4.7	4.2	1.0	0.14	厚い。上下面とも研磨。気泡が入る